

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第163集

山賀遺跡

—分析・観察表・写真図版編—

二〇〇七年九月

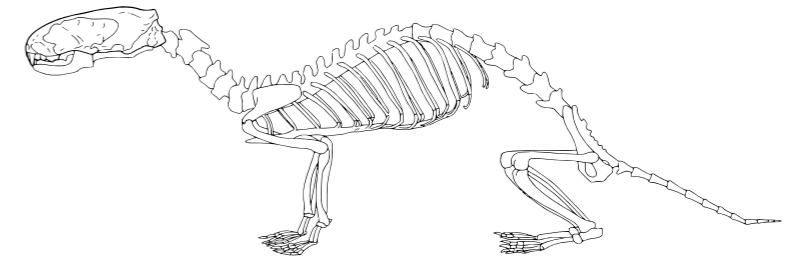
財団法人 大阪府文化財センター

八尾市

山賀遺跡

寝屋川水系改良工事（一級河川寝屋川 新家調節池）に伴う発掘調査報告書

—分析・観察表・写真図版編—



2007年9月

財団法人 大阪府文化財センター

八尾市

山 賀 遺 跡

寝屋川水系改良工事（一級河川寝屋川 新家調節池）に伴う発掘調査報告書

－ 分析・観察表・写真図版編 －



財団法人 大阪府文化財センター

表紙：イタチの全身骨格図（頭骨のみ山賀遺跡出土）

扉　：イタチ

山賀遺跡

寢屋川水系改良工事（一級河川寢屋川 新家調節池）に伴う発掘調査報告書

本文目次

《第1分冊》

巻頭カラー図版

序文	i
例言	iii
凡例	v
本文目次	vii
図目次	xii
表目次	xx
写真目次	xxii
写真図版目次	xxiii

第1章 調査にいたる経緯と経過 (本間) 1

第2章 位置と環境 (本間) 2

第3章 調査・整理の方法 (本間) 5

第4章 03-1-1区の調査成果

第1節 概要 (本間) 11

第2節 層序 (向井) 11

第3節 遺構と遺物 (本間・向井) 15

第5章 03-1-2区の調査成果

第1節 概要 (本間) 61

第2節 層序 (向井) 61

第3節 遺構と遺物 (本間・向井) 70

第6章 03-1-3区の調査成果

第1節 概要 (本間) 414

第2節 層序 (向井) 414

第3節 遺構と遺物 (本間・向井) 417

第7章 05-1-1区の調査成果

第1節 概要	……………(本間)……………	478
第2節 層序	……………(向井)……………	478
第3節 遺構と遺物	……………(本間・向井)……………	480

第8章 05-1-2区の調査成果

第1節 概要	……………(本間)……………	499
第2節 層序	……………(向井)……………	499
第3節 遺構と遺物	……………(本間・向井)……………	499

《第2分冊》

第9章 分析

第1節 山賀遺跡における各種分析の概要	……………(本間)……………	507
山賀遺跡の微化石分析	……………(パリノ・サーヴェイ)……………	509
山賀遺跡における弥生時代堆積物の堆積構造の検討	……………(パリノ・サーヴェイ)……………	541
山賀遺跡サヌカイト付着物赤外分光分析	……………(パリノ・サーヴェイ)……………	554
山賀遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析	……………(遺物材料研究所)……………	557
山賀遺跡252大溝下層・1397溝出土石器について	……………(船築紀子)……………	572
山賀遺跡出土管玉の産地分析	……………(藁科哲男)……………	579
山賀遺跡出土の動物遺体	……………(安部みき子)……………	595
山賀遺跡出土の人骨	……………(安部みき子)……………	618
山賀遺跡出土人骨の保存処理	……………(岩立美香)……………	621
山賀遺跡出土木材の年輪年代	……………(光谷拓実)……………	623
山賀遺跡の植物遺体及び木製遺物について	……………(山口誠治)……………	625
山賀遺跡出土黒色物質付着弥生土器についての科学的調査	……………(山口誠治)……………	640
山賀遺跡出土「垂飾」形木製品の複製品製作	……………(森田拓馬)……………	645

第10章 まとめ

第1節 遺構の変遷	……………(本間)……………	650
第2節 木棺の検出	……………(本間)……………	654
第3節 遺物の検討	……………(向井)……………	657

土器・土製品観察表	……………	669
井戸瓦観察表	……………	737
石器観察表	……………	739
木器観察表	……………	781
写真図版	……………	787
報告書抄録	……………	巻末

第9章 分析

第1節 山賀遺跡における各種分析の概要

山賀遺跡03-1・05-1調査では、各種分析をそれぞれの専門家に依頼した。以下、要旨を掲げる。
辻本裕也・辻康男・斎藤崇人・馬場健司・伊藤良永「山賀遺跡の微化石分析」

山賀遺跡の古環境を、今回の珪藻・花粉・植物珪酸体分析に、既往の分析成果も加えて検討された。縄文時代晩期～弥生時代前期は後背湿地の堆積環境で、弥生時代前期～中期以降になると河川の氾濫堆積が活発になる。水田畦畔が検出された弥生時代後期の第4層からはイネ属の植物珪酸体も産出しており、稲作が行われていた可能性が高い。山賀遺跡の古植生変化は河川攪乱などの影響が大きい。弥生時代前期以降は人為的攪乱が加わるといふ変遷が指摘された。

辻本裕也「山賀遺跡における弥生時代堆積物の堆積構造の検討」

弥生時代に相当する第6層～第13層の堆積物について、X線写真と土壌薄片による観察を行い、その特徴と形成過程について検討された。第10層形成期以降に土地利用が本格化し、他所から盛土された部分や、耕作地とされた部分もある。しかし、第8層形成期には一時的に耕作が放棄された。その後、第7層から第6層にかけては数回の盛土と耕作地の造成が行われていたという。

矢作健二・斉藤紀行「山賀遺跡サヌカイト付着物赤外分光分析」

サヌカイト製石器に付着した黒色物質は、接着剤として使用されたアスファルトにも見えた。赤外分光分析の結果、2点の試料は炭化米と最も類似した赤外線吸収特性を示し、何らかの（元の物質は不明）の炭化物である可能性が示された。

遺物材料研究所「山賀遺跡出土サヌカイト製遺物の原産地分析」

50か所・160個の原石群に及ぶサヌカイトの原産地の豊富なバックデータと厳密な検定をもとに、山賀遺跡出土の多量のサヌカイト製遺物のうち61点について、蛍光X線による産地分析を実施した。

その結果、二上山群が55個（90%）、金山東群が3個（5%）、向出No.49遺物群が2個（3%）、奥山礫層2群が1個（2%）と同定され、香川県金山東麓との交流があったことも推測された。

船築紀子「山賀遺跡252大溝下層・1397溝出土石器について」

表記の溝から、弥生時代前期中様から中期初頭にかけての石器が合計1216点出土した。

石器組成から、石器の集約的な生産を行っていたのではなく、遺跡内での生産と使用が行われ、最終的に溝内に廃棄された可能性が指摘された。また、両極技法による剥片剥離や熱処理を含めた石器製作や、微細剥離痕ある剥片の利器としての利用なども考えられた。

藁科哲男「山賀遺跡出土管玉の産地分析」

今回の調査で出土した唯一の碧玉質の管玉を、蛍光X線分析法とESR分析法を併用して、完全な非破壊で産地分析を行った。両分析の結果から求める総合判定では、管玉の原産地は不明ではあったが、最も管玉の元素組成に近い群として佐賀県多久市牟田辺（凝灰）遺物群が示唆された。

安部みき子「山賀遺跡出土の動物遺体」

山賀遺跡から出土した弥生時代前～中期、古墳時代、現生の動物遺体について、脊椎動物の6綱9目9科8種の同定と、さらに、保存状態の良い骨の計測が行われた。

第9章 分析

孔の開けられたイノシシ下顎骨、イノシシ犬歯の装飾品、イノシシ中手骨の弓弭様骨製品などもある。出土状況からは、溝からイノシシなどの出土が多いこと、イノシシがシカの約3倍あること、溝以外からもスポンやキジなどの食用に適している動物の骨片が見られることなどが指摘された。

安部みき子「山賀遺跡出土の人骨」

今回の調査で出土した計6体の弥生時代前～中期の人骨について、第8面検出323木棺（下肢のみ）、第9面検出424木棺人骨（成人2体：歯のみ、7歳前後：ほぼ全身）、第10面検出431木棺（長骨1点）、第9層検出No.693人骨（3歳前後：頭骨のみ）との鑑定結果を頂いた。

岩立美香「山賀遺跡出土人骨の保存処理」

出土人骨は、全体的に脆弱で保存状態は悪かった。そこで、ほぼ全身が残っていた第9面検出424木棺人骨を例に、水溶性アクリル樹脂（ウォーターゾールS-744）を使用して表面の硬化を行い、徐々に骨を乾燥させ、その後表面の樹脂をアルコールで除去しながら部位ごとに取り上げた過程を解説された。

光谷拓実「山賀遺跡出土木材の年輪年代」

遺存状況が良好なヒノキやコウヤマキの材3点の、年輪年代測定を依頼した。

ヒノキの第6面22溝出土の辺材が残存していた板材は紀元前235年、第9面検出421木棺の底板は紀元前472年以降と年輪年代が確定した。コウヤマキの第8面検出323木棺の側板は、697年間分の標準パターンとの照合の結果、暦年未確定ではあるがかなり古い年代の木棺材であることが推定された。

山口誠治「山賀遺跡の植物遺体及び木製遺物について」

山賀遺跡出土の植物遺体及び木製遺物のうち保存状態の比較的良好だった約330点を30種に同定分類された。さらに、溝に打設されていた杭類がコナラ亜属・アカガシ亜属（カシ類）が大半を占めることから、遺跡周辺には主に落葉及び照葉混合林が分布しており、その植生などから暖帯～温暖帯と変化した温暖な古気候であったと推定された。

山口誠治「山賀遺跡出土黒色物質付着弥生土器についての科学的調査」

今回出土した黒色物質付着の弥生土器のうち2点を取り上げ、観察・分析を行った。

デジタル顕微鏡による観察によって、1点は糊殻の形態を残していたため、炭化したイネ科の黒色物質であると確認できた。もう1点は墨とも推定されたが、目視だけでは判断できなかった。そこで、形態観測に加え、赤外分析やX線回折分析を行った結果、有機物の熱分解過程における炭化と推定された。

森田拓馬「山賀遺跡出土「垂飾」形木製品の複製品製作」

03-1-2区第11-2面1400土坑から、類例のない弥生時代前期の「垂飾」形木製品が出土した。

その複製品製作の過程について、①資料観察・清掃、②箔貼り・分割線設定、③シリコーン作業、④型外し・資料清掃、⑤樹脂製品製作、⑥彩色作業、⑦カットモデル製作の順に写真をまじえてわかりやすい（といっても素人が簡単にまねできるものではないが）解説を得た。

各種分析の成果はこの第9章にまとめたが、各分析の独立性を尊重しあえて節を当てなかった。掲載にあたっては基本的に原文を尊重した。ただし、調査区名、層名、遺構名、時期などは、事実報告（第4～8章）にできる限り合わせ、図・表・写真も報告書内の通し番号とした。

また、本書に実測図などを掲載した遺物は、凡例の8に掲げたように調査区ごとに5桁の数字で表示し、本章でもその掲載番号で表示した。一方、第4～8章に掲載しなかった分析対象遺物は「No.」を付けて現場での遺物登録番号のまま（細分が必要な場合はそれに枝番号を付す）表示している。

山賀遺跡の微化石分析

辻本裕也・辻 康男・斎藤崇人・馬場健司・伊藤良永
(パリノ・サーヴェイ株式会社)

はじめに

今回の分析調査では、弥生時代後期前半の第4層における土地利用状況、および縄文時代晩期～弥生時代前期の古環境に関する情報を得ることを目的として、各時期の堆積物について花粉分析・珪藻分析・植物珪酸体分析を実施する。また、山賀遺跡では、これまでの発掘調査区において多数の自然科学分析調査成果が存在する。今回の報告では、これら既往の調査成果も考慮しながら、山賀遺跡における古環境に関する検討を行う。

1 山賀遺跡とその周囲の遺跡における完新世後半の堆積環境変遷

山賀遺跡は、河内平野中央部の氾濫原に位置する(図349～351)。本遺跡では、縄文海進に伴ってT.P. - 5.0m付近に累重した海成層より上位の堆積層についての記載と古環境変遷が考察されている(大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター,1984)。このような考察は、河内平野中央部に立地する考古遺跡の成り立ちや完新世後半の人間活動と自然環境の関わりやその変遷を考えるうえにおいて、非常に重要な知見である。そこで今回の報告に際しては、大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター(1984)以降に明らかにされた山賀遺跡およびその周辺の古環境変遷の知見を併せ、以下にその結果の概要を簡単に述べてみたい。図352には、近畿自動車道に伴う発掘調査報告書から作成したその3～6調査区の柱状図を示した。

山賀遺跡では、T.P. - 5.0～ - 4.0m付近に累重する堆積層から上位の層準について分析が実施されている。T.P. - 5.0～ - 4.0m付近に累重する堆積層は、含まれる貝化石などから海成層と考えられている。こ

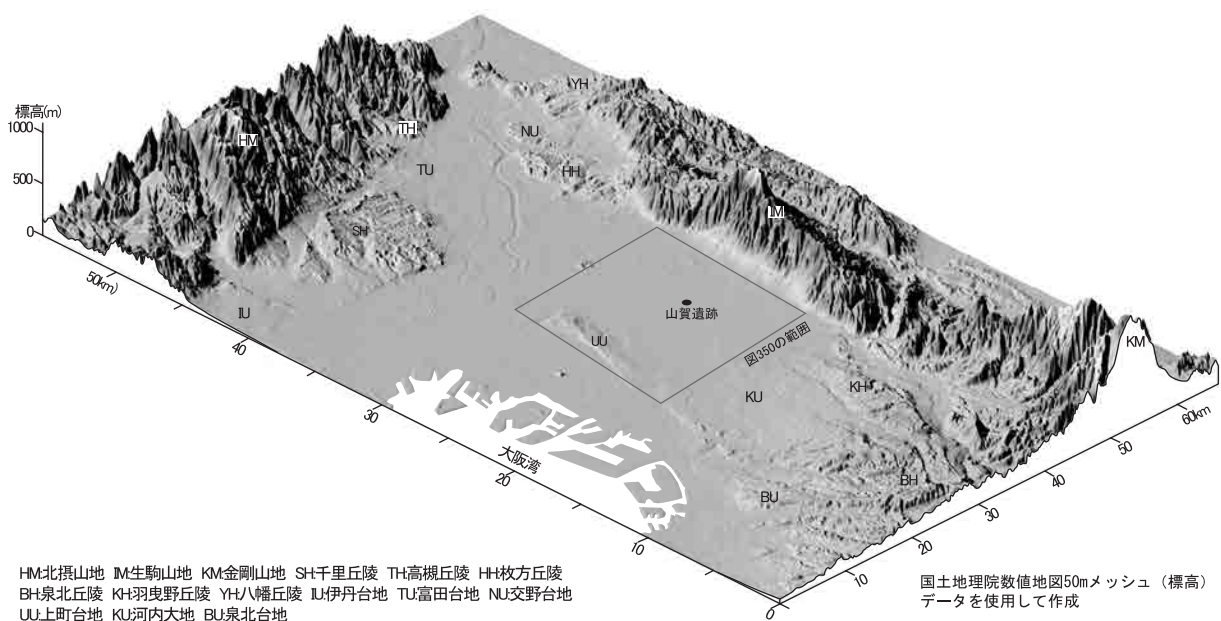


図349 山賀遺跡の位置

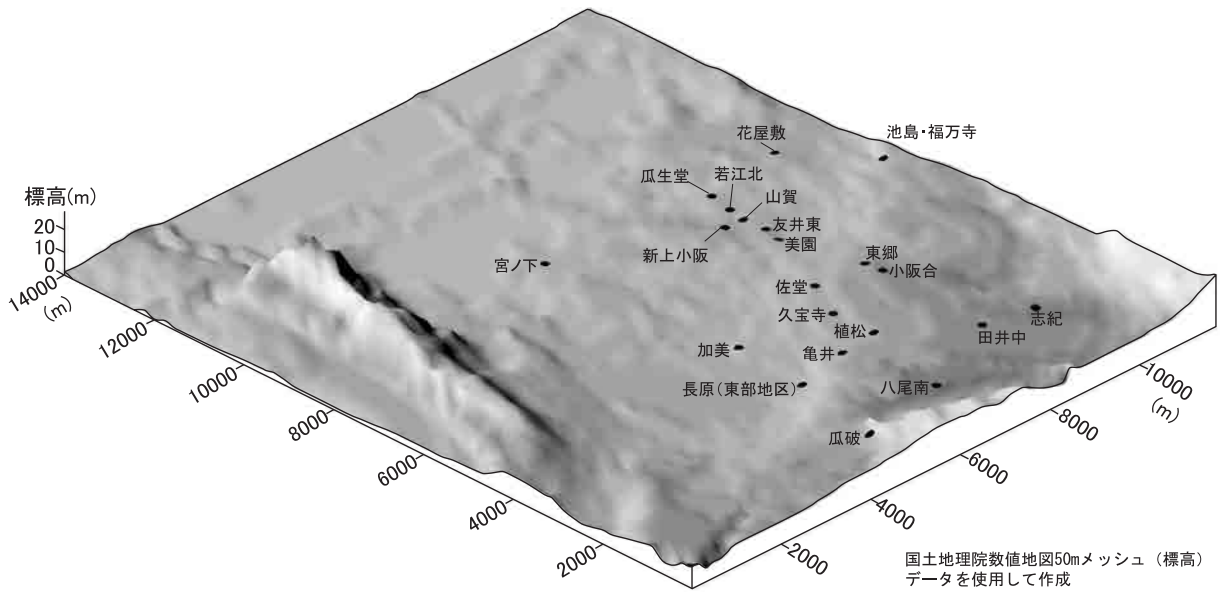
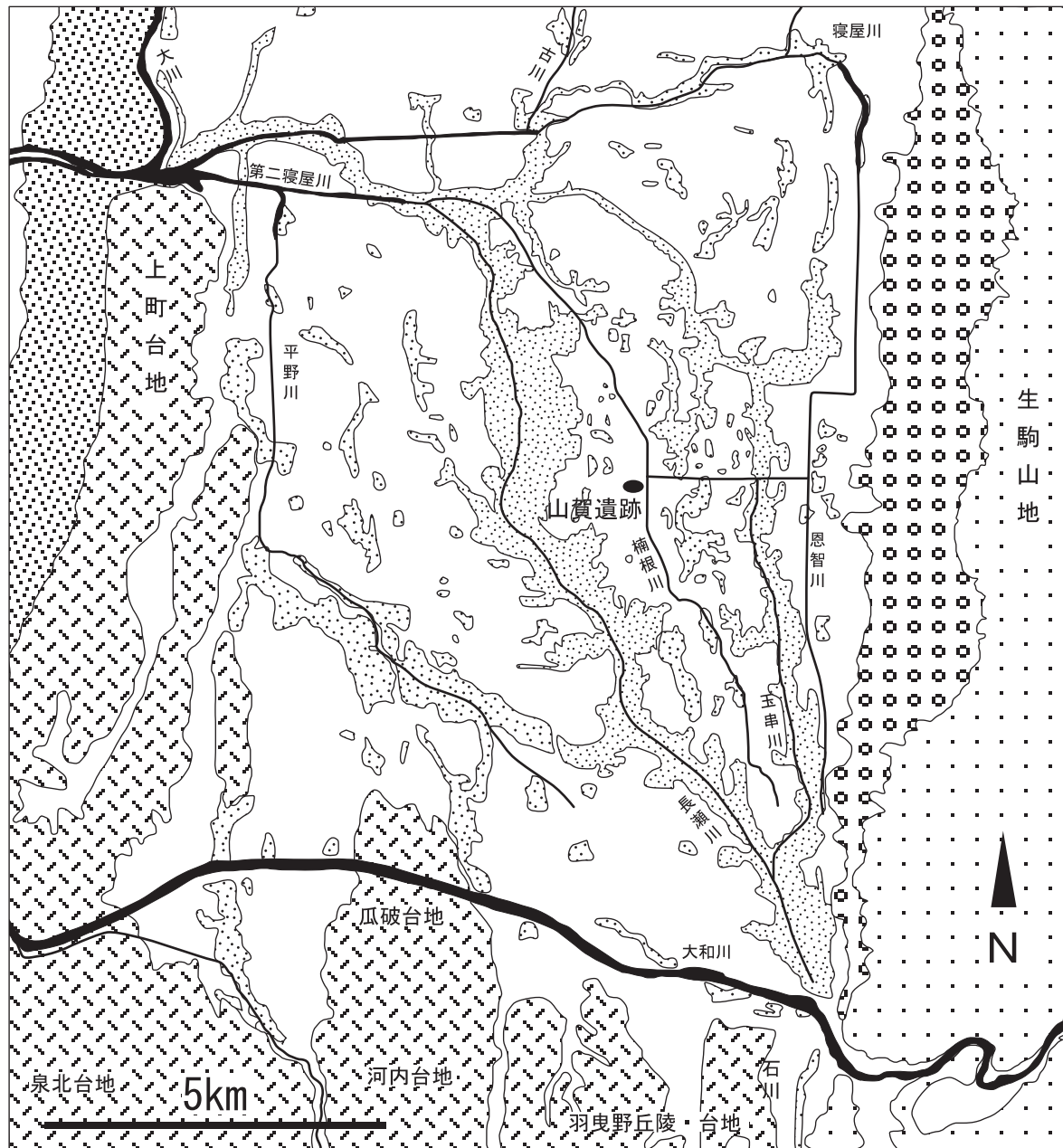


図350 山賀遺跡の周辺の地形起伏と考古遺跡

の海成層に含まれる材および貝化石は、ともに未補正の放射性炭素年代測定結果で約4400年前（山田,1984）を示した。本層準は、貝化石群集から内湾奥部の潮間帯下部～浅海帯上部（潮下帯）に位置する水深5.0m以浅の干潮時にあちこちに干潟（おそらく潮汐平底を指すと考えられる）が現れるようなアマモ帯の泥底であったと判断されている（金子・梶山,1984）。また、この上位の材化石で約4400年前の未補正の放射性炭素年代値（山田,1984）を示すT.P. - 3.0m付近では、潮間帯（上部～中部）の堆積環境が示唆されており、堆積層の上位に向かっての相対的な水深の低下が示唆される。T.P. - 4.0m付近の層準で実施された珪藻分析結果では、陸域に近い浅海底の堆積環境と判断される化石群集（パリノ・サーヴェイ,1984）が得られており、貝化石群集と調和的な傾向とみなされる。

T.P. - 2.0～ - 0.8m付近では、泥混じりの砂礫層が累重する。この泥混じりの砂礫層中に含まれる材化石からは、約3700年前の $\delta 13c$ 未補正の放射性炭素年代値が得られている（山田,1984）。また、本層中からは、縄文時代中期末の土器片の検出が報告されている（大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター,1984）。この泥混じりの砂礫層の上位、T.P. - 0.8～1.0m付近までには、数枚の黒色の腐植層（暗色帯）を挟在する泥層が累重している（西口編,1984）。この泥層内では、上半部の層準においていくつかの流路の形成が認められている。これらT.P. - 0.8～1.0m付近に累重する泥層では、その最上部に位置するT.P.1.0m付近の黒色腐植泥層（第1黒色粘土層）で縄文時代晩期後半～弥生時代前期、その下位のT.P.0.5m付近の黒色腐植泥層（第2黒色粘土層）で縄文時代晩期初頭～中葉に形成されたことが出土遺物から判断されている（大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター,1984）。それより下位の泥層からは、出土遺物が報告されていないが、下位の堆積層の放射性炭素年代測定および遺物の出土状況から、縄文時代後期～晩期にかけて形成されたと考えられる。

上記のような縄文時代後期～晩期にかけて形成された黒色の腐植層（暗色帯）を挟在する泥層の珪藻分析では、下半部で汽水生種の優占から、上半部で汽水生種を伴い淡水生種で湿地および流水域の環境を好む種へと変化する化石群集が得られている（パリノ・サーヴェイ,1984）。また、山賀遺跡に累重する最上位の黒色粘土層では、汽水生種が急減し淡水生種が主体となるとともに、陸生珪藻の*Navicula mutica*が多産する傾向が確認される。



凡例



図351 河内平野とその周辺の地形

山賀遺跡とその周囲の考古遺跡では、上述した堆積物中に含まれる化石群集からの古環境の検討だけでなく、層相に基づく詳細な堆積環境復元も数多く行われてきている。松田（1996）では若江北遺跡、別所（1994）では、若江北遺跡・山賀遺跡においてT.P. - 3.0m付近より上位の堆積層の層相を詳細に記載するとともに、その解釈を示している。松田（1996）と別所（1994）の成果をふまえると、T.P. - 0.8～1.0m付近に累重する泥層と流路堆積物は、縄文海進以降に形成された三角州堆積物と判断される。別所（1994）の記載およびパリノ・サーヴェイ（1984a）の珪藻分析結果から、これらの三角州堆積物は、陸域に累重する陸上デルタ（Subaerial delta）で形成されたものと考えられる。層相および分析結果から、三角州堆積物は、潮汐の影響が及ぶ下部デルタプレーン（Lower delta plain）から潮汐の影響がな

第9章 分析

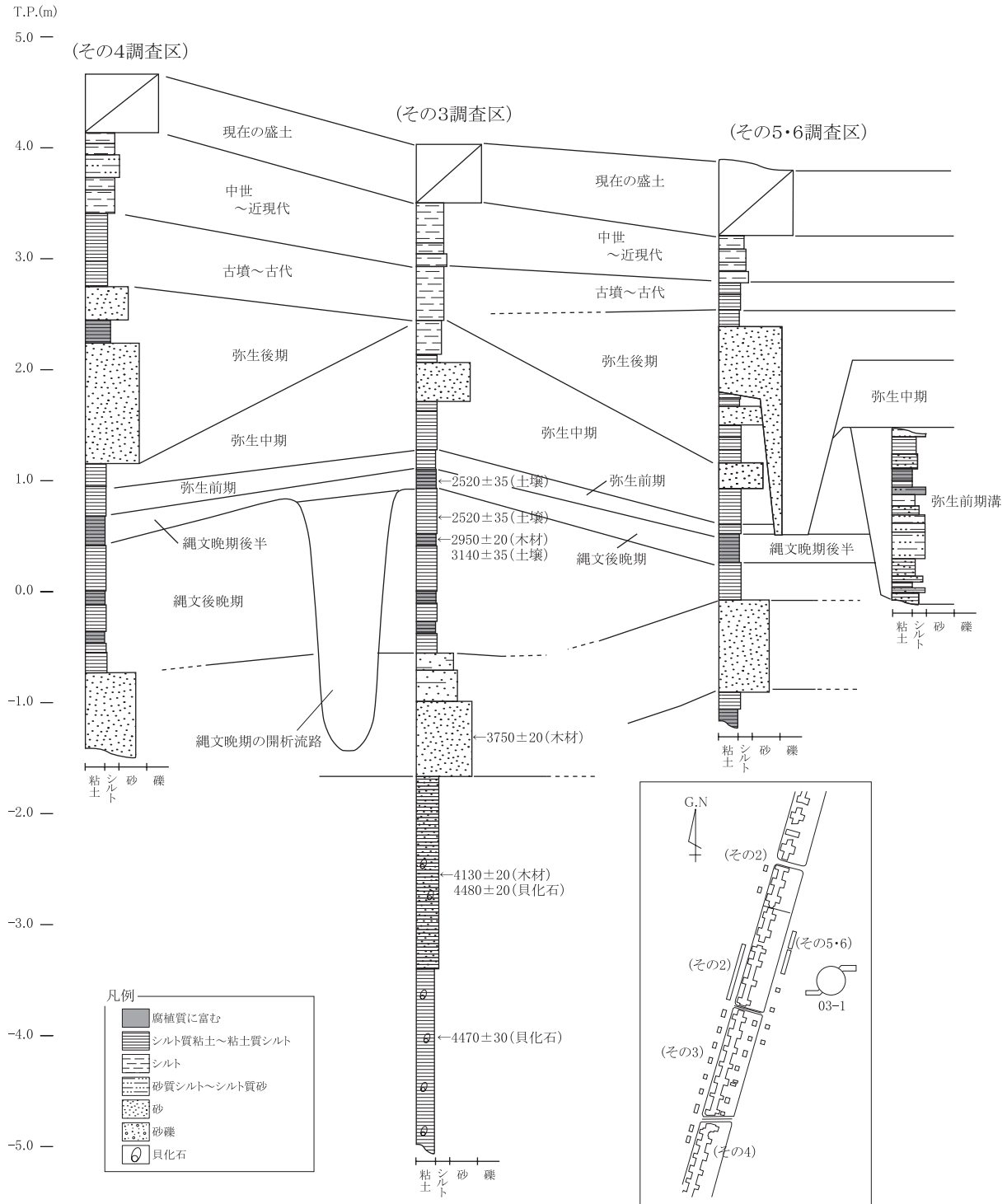


図352 山賀遺跡各調査区の柱状断面図

い上部デルタプレーン (Upper delta plain) へと堆積場が変化したことがうかがえる (三角州の地形区分については堀・斎藤 (2003) による)。このような堆積環境変化の時期は、発掘調査結果から縄文時代晩期中葉以降であったと推定される。

これまでに記載された堆積層の記載などから、山賀遺跡では、下部デルタプレーンの時期に河口付近の流路および干潟潮間帯に位置する潮汐平底や干潟潮上帯の塩性湿地の堆積環境であったと考えられる。上部デルタプレーンの時期には、感潮河川の流路や下部に比べさらに陸域に近い干潟潮上帯の塩性湿地、もしくは潮汐に伴って海水塩分の影響をうけて塩分濃度が変化する潮入川の領域に相当する干

潟後背の湿地や湖沼の環境が推定される。このような堆積環境が推定される泥層には、古土壌と思われる暗色帯をなす数枚の腐植層が挟在しており、離水没を繰り返すような状況下において、汽水域から淡水域への水質変化が生じたと考えられる。なお、別所（1994）では、下部デルタプレインに相当する T.P. - 2.0m の流路堆積物中に挟在する植物遺体で約 3300 年前、上部デルタプレインの古土壌の腐植が T.P. - 1.0m で約 2700 年前、T.P. - 0.5m で約 2200 年前の放射性炭素年代測定値（ $\delta^{13}C$ 未補正值）が得られている。

以上のような、貝化石が含まれる T.P. - 5.0m 付近から古土壌を挟在する T.P. 1.0m 付近の泥層についての層相記載および放射性炭素年代値や化石群集の層位的変化をふまえると、山賀遺跡では、縄文時代中期中頃に形成されていた浅い海域や干潟潮間帯が、縄文時代中期末～後期に陸域の三角州河口付近の堆積場へと変化し、流路堆積物が累重した後、干潟潮間帯の潮汐平底、干潟潮上帯の塩性湿地へと堆積環境が変遷したことが捉えられる。その後、縄文時代晩期には、さらに陸化が進み、潮入川の領域に相当する干潟後背の湿地や湖沼の堆積環境が形成される。そして、縄文時代晩期後半以降には、完全な淡水域となり、河川氾濫原の堆積環境となったと判断される。

河川氾濫原の堆積環境へと変化した縄文時代晩期後半以降の山賀遺跡では、縄文時代晩期～弥生時代前期以降に河川堆積物の顕著な累重が認められるようになる。山賀遺跡やその周辺で認められる弥生時代前期から後期に至る河川堆積物の累重状況の変化は、松田（1994）が示した中河内地域における縄文時代晩期ないしそれ以前に形成された開析流路の弥生時代前期までの充填と、その後の弥生時代中期における曲流を伴う側方堆積作用への活発化、さらに弥生時代後期におけるいくらかの側方移動を伴いながらの流路変更による小規模で継続期間が短い流路の堆積作用という一連の河川堆積システムの変遷によるものと判断される。山賀遺跡では、その 4 やその 5・6 調査区において弥生時代後期に流路および洪水堆積物からなる砂礫質の粗粒物質の厚い累重が認められている（大阪府教育委員会, 1986; 大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター, 1983）。しかしながら、本遺跡では、これまでに河川堆積システムとその変遷の詳細が明らかにされていない。今後、山賀遺跡では、発掘調査で確認された堆積層断面から河川堆積システムおよびそれに応答する人間活動を読み解くことが、遺跡の古環境変遷をさらに解像度の高い領域へと導く課題の一つではないかと認識される。

2 調査地点・試料

分析調査地点の堆積層の累重状況および試料採取層準を図 353 に示す。

弥生時代後期に形成された第 4 層の試料は、03 - 1 - 1 区～3 区の複数地点から採取された。第 4 層は弥生時代中期～後期に形成された氾濫堆積物の直上に累重する、灰色～褐灰色を呈する砂質泥から泥質砂からなる。初成の堆積構造は、下部層準で不明瞭ながら残存するが、上部層準は擾乱の影響により不明瞭となっている。上部層準は腐植が集積し、大きさの揃った集合体ないしブロック土からなる、間隙密度の高い土壌からなる。このような層相から、第 4 層は土壌発達する時期を挟在する氾濫原の堆積環境が推定される。

縄文時代晩期から弥生時代前期の試料は 03 - 1 - 3 区で採取された。試料は、縄文時代晩期～弥生時代前期に形成された第 12 層、03 - 1 - 3 区中央部で検出された南北方向の弥生時代前期の溝（1409 溝）埋土から採取した。第 12 層は暗褐灰色を呈する細粒砂質泥からなる。初成の堆積構造は擾乱されており、土壌構造が発達する。この層相から、土壌発達する時期を挟在する後背湿地の堆積環境で形成されたこ

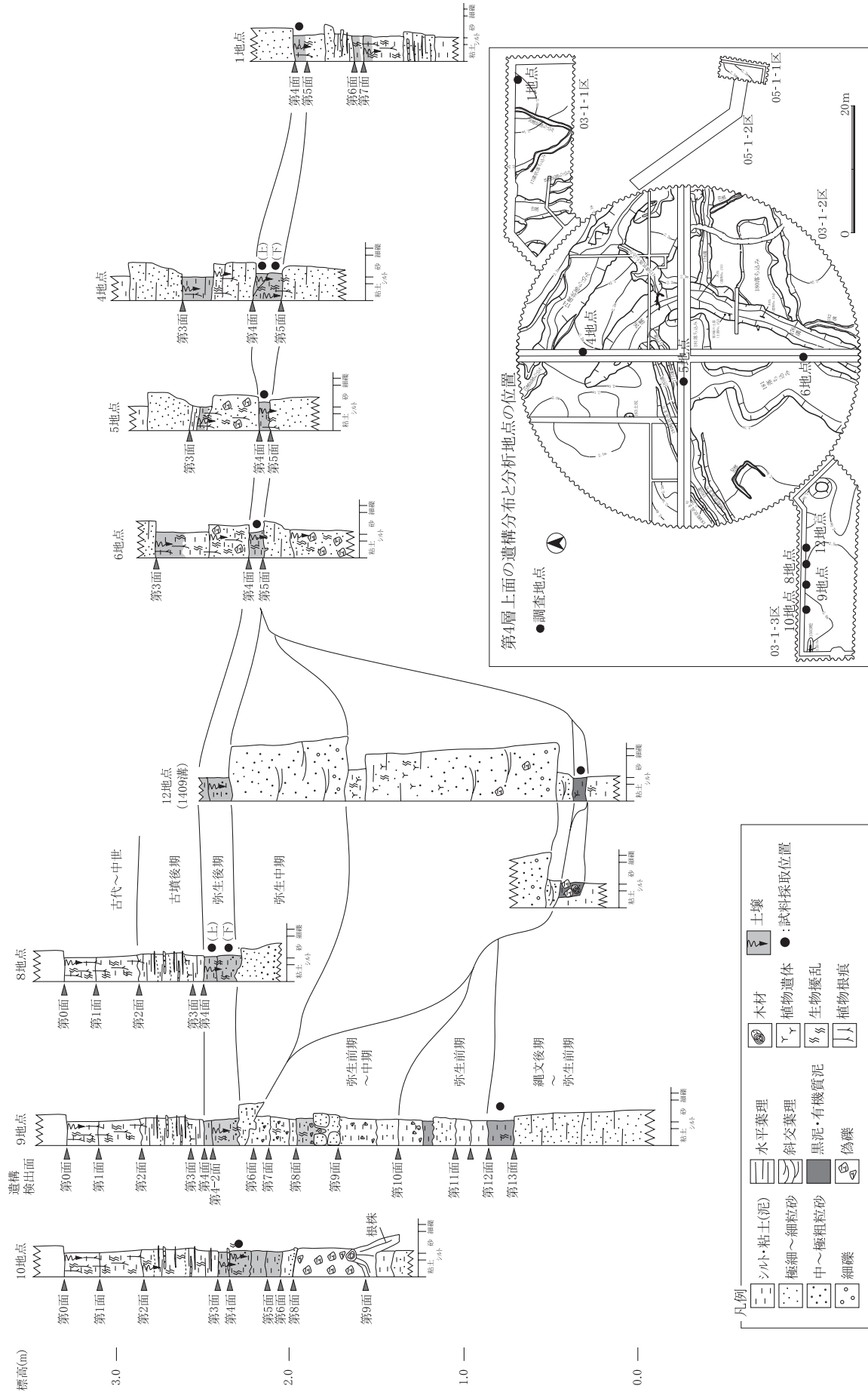


図353 微化石分析調査地点と柱状断面図

とが推定される。第12層の上位には、弥生時代後期の第4層にかけて、上部で土壤構造が発達する泥質砂ないし砂質泥からなる氾濫堆積物が累重している。弥生時代前期の溝（1409溝）は、これら氾濫堆積物のうち第10層形成期に構築されている。溝底は第13層上部に達しており、溝底の堆積物は構築時の人為的擾乱により著しく変形しており、当時の溝内が水位の高い状態にあったことを窺い知ることができる。溝内の凹地部分には植物遺体の葉理を挟在する腐植に富む有機質泥が堆積している。この堆積物は、溝機能期に形成された堆積物と判断され、腐植に富む泥は周囲の土壤に由来するものと判断される。この上位には逆級化成層をなす、溝内に流入した氾濫堆積物により充填されている。

3 分析方法

(1) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer & Lange-Bertalot（1986,1988,1991a,1991b）などを参照し、分類体系はRound et al.（1990）を参考にする。

同定結果は、海～汽水生種、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率3.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、海水～汽水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai & Watanabe（1995）の環境指標種を参考とする。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9、濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で

全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2004）の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、検出された植物珪酸体の種類と個数の一覧表、植物珪酸体含量の一覧表で示す。また、各種類の植物珪酸体含量とその層位的変化から稲作の様態や古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。

4 結果

(1) 珪藻分析

結果を表22、図354に示す。珪藻化石の産出の少ない試料もあったが、プレパラートを複数枚検鏡して100個体以上計数した。何れの試料も完形殻の出現率は、約50%以下と化石の保存状態は悪かった。

第4層試料では、4地点の第4層（上）以外での試料で珪藻化石群集が近似していた。陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好氣的環境に耐性のある陸生珪藻と淡水域に生育する水生珪藻（以下、水生珪藻とする）とが、高い割合で混在する。これに対して4地点の第4層（上）は、陸生珪藻の割合が少なく、水生珪藻が約80%と優占する点で違いが見られた。以下に主要種の産状について述べる。

1地点の第4層、4地点の第4層（下）、5地点の第4層、6地点の第4層、8地点の第4層（上）、10地点の第4層（上）の7試料では、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が20%前後と多産し、これに次いで同じく陸生珪藻A群の未区分陸生珪藻の*Pinnularia schroederii*、陸域にも水域にも生育し、乾湿に対する適応能が高い陸生珪藻B群の*Eunotia praerupta* var. *bidens*等が産出する。このうち*Eunotia praerupta* var. *bidens*は、沼沢湿地付着生種群でもある。水生珪藻の主なものは、流水にも止水にも生育する流水不定性の*Amphora copulata*が全試料から産出する他、川等の流水域に好んで生育する好流水性の*Placoneis elginensis* var. *neglecta*、流水不定性で沼沢湿地付着生種群の*Placoneis elginensis*、流水不定性の*Diploneis ovalis* var. *ovalis*、*Sellaphora laevisissima*、*Synedra ulna*等も検出される。また、化石の保存が悪く種までの同定に至らなかったものとして、*Craticula* spp.、*Eunotia* spp.、*Pinnularia* spp.、*Stauroneis* spp.等が挙げられる。なお、沼沢湿地付着生種群とは、沼よりも浅く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地で優勢な出現の見られることから、その環境を指標することができる種群とされている（安藤,1990）。

4地点の第4層（上）は、淡水生種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴は、貧塩不定性種（少量の塩分には耐えられる種）、真+好アルカリ性種（pH7.0以上のアルカリ性水域に最もよく生育する種）、流水不定性種と真+好流水性種が優占あるいは多産する。主要種は、真+好流水性種で中～下流性河川指標種群の*Cymbella turgidula*、*Navicula viridula*、*Reimeria sinuata*、好流水性の*Cocconeis euglypta*、流水不定性の*Cocconeis placentula* var. *placentula*、*Gyrosigma procerum*、*Synedra ulna*等が多産し、止水域に生育する種は殆んど産出しない。なお、中～下流性河川指標種群とは、河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、その環境を指標することができる種群とされている（安藤,1990）。

表21 珪藻化石の生態性区分および環境指標種群の説明

塩分濃度に対する区分 Lowe(1974)による		
海水生種	強塩性種	塩分濃度40.0%以上の高濃度海水域に生育する種
	真塩性種(海水生種)	塩分濃度40.0~30.0%に生育する種
汽水生種	中塩性種(汽水生種)	塩分濃度30.0~0.5%に生育する種
淡水生種	貧塩性種(淡水生種)	塩分濃度0.5%以下に生育する種
淡水生種の生態性区分		
塩分	貧塩好塩性種	少量の塩分がある方が良く生育する種
	貧塩不定性種	少量の塩分があってもこれに良く耐えることができる種
	貧塩嫌塩性種	少量の塩分にも耐えることができない種
	広域塩性種	淡水~汽水域まで広い範囲の塩分濃度に適応できる種
pH (Hustedt,1937-38による)	真酸性種	pH7.0以下に生育し、特にpH5.5以下の酸性水域で最も良く生育する種
	好酸性種	pH7.0付近に生育し、pH7.0以下の水域で最も良く生育する種
	pH不定性種	pH7.0付近の中性水域で最も良く生育する種
	好アルカリ性種	pH7.0付近に生育し、pH7.0以上の水域で最も良く生育する種
	真アルカリ性種	pH7.0以上に生育し、特にpH8.5以上のアルカリ性水域で最も良く生育する種
流水 (Hustedt,1937-38による)	真止水性種	止水域にのみ生育する種
	好止水性種	止水域に特徴的であるが、流水域にも生育する種
	流水不定性種	止水域にも流水域にも普通に生育する種
	好流水性種	流水域に特徴的であるが、止水域にも生育する種
真流水性種	流水域にのみ生育する種	
環境指標種群		
主に海水域での指標種群(小杉,1988による)		
外洋指標種群(A)	塩分濃度が約35‰の外洋水中で浮遊生活するもの	
内湾指標種群(B)	塩分濃度35~26‰の内湾水中で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群	
海水藻場指標種群(C1)	塩分濃度35~12‰の海域で海藻(草)に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
汽水藻場指標種群(C2)	塩分濃度12~4‰の汽水域で海藻(草)に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
海水砂質干潟指標種群(D1)	塩分濃度35~26‰の砂底の砂に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
汽水砂質干潟指標種群(D2)	塩分濃度26~5‰の砂底の砂に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
海水泥質干潟指標種群(E1)	塩分濃度30~12‰の閉鎖性の高い塩性湿地など泥底の泥に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
汽水泥質干潟指標種群(E2)	塩分濃度12~2‰の汽水化した塩性湿地などの泥に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
淡水底生種群(F)	2‰以下の淡水域の底質の砂、泥、水生植物などに付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
淡水浮遊生種群(G)	塩分濃度2‰以下の湖沼などの淡水域で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群	
河口浮遊生種群(H)	塩分濃度20~2‰の河口域で浮遊生活、あるいは付着生活することからそのような環境を指標することのできる種群	
主に淡水域での指標種群(安藤,1990による)		
上流性河川指標種群(J)	河川上流部の峡谷部に集中して出現することから上流部の環境を指標する可能性の大きい種群	
中~下流性河川指標種群(K)	河川中~下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群	
最下流性河川指標種群(L)	最下流部の三角州の部分に集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群	
湖沼浮遊性種群(M)	水深が約1.5m以上ある湖沼で浮遊生活する種群で湖沼環境を指標する可能性の大きい種群	
湖沼沼沢湿地指標種群(N)	湖沼における浮遊生種としても沼沢湿地の付着生種としても優勢に出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群	
沼沢湿地付着生種群(O)	沼よりも浅く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地で優勢な出現の見られることからそのような環境を指標する可能性の大きい種群	
高層湿原指標種群(P)	ミスゴケを主体とした環境や泥炭が形成される環境に集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群	
陸域指標種群(Q)	水中でなく、多少の湿り気のある土壌表面、岩の表面、コケなど常に大気に曝された好気的環境(陸域)に集中して生育することからそのような環境を指標する可能性の大きい種群	
陸域での指標種群(伊藤・堀内,1991による)		
陸生珪藻A群(RA)	陸生珪藻の中でも、分布がほぼ陸域に限られる耐乾性の高い種群	
陸生珪藻B群(RB)	陸生珪藻A群に伴伴し、陸域にも水中にも生育する種群	
未区分陸生珪藻(RI)	陸生珪藻に相当すると考えられるが、乾湿に対する適応性の不明なもの	

第9章 分析

表22 珪藻分析結果 (1)

種 類	生態性			環境 指標種	地点・層位									
	塩分	pH	流水		9地点	12地点	1地点	4地点		5地点	6地点	8地点		10地点
					12層	1409 溝	4層	4層 上	4層 下	4層	4層	4層 上	4層 下	4層 上
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	l-ph	L,S	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyclotella striata</i> -C. <i>stylorum</i>	Euh-Meh			B	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Tabularia tabulata</i> (Ag.)Snoeijls	Meh				-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Anomoeoneis sphaerophora</i> (Kuetz.)Pfitzer	Ogh-Meh	al-bi	ind		-	-	-	2	2	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema pseudoaugur</i> Lange-Bertalot	Ogh-Meh	al-il	ind	S	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gyrosigma exilis</i> (Grun.)Reimer	Ogh-Meh	al-il	ind		-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
<i>Hippodonta capitata</i> (Ehr.)Lange-B.,Metzeltin et Witkowski	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Luticola goeppertiana</i> (Bleisch)D.G.Mann	Ogh-Meh	al-il	ind	S	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula gregaria</i> Donkin	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	S	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia inconspicua</i> Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind		2	62	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		1	1	6	1	1	3	-	-	-	-
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunow	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
<i>Achnanthes inflata</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Achnanthes subhudsonis</i> Hustedt var. <i>subhudsonis</i>	Ogh-ind	ind	r-ph	T	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora copulata</i> (Kuetz.)Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-il	ind	T	2	3	13	7	4	16	2	6	1	7
<i>Amphora montana</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	2	35	1	1	-	1	2	-	-	-
<i>Amphora normanii</i> Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	-	1	-	2	2	-	3
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.)Grunow var. <i>pediculus</i>	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N,U	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira crenulata</i> (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		2	1	2	-	-	1	2	-	-	1
<i>Aulacoseira granulata</i> (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.)Simonsen var. <i>italica</i>	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Caloneis angustivalva</i> Petit	Ogh-unk	unk	unk	RI	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.)Cleve var. <i>bacillum</i>	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	3	-	-	2	-	-	-	-
<i>Caloneis lauta</i> Carter & Bailey-Watts	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	-	-	4	1	1	3	7	3	3	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.)Cleve var. <i>silicula</i>	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	2	-	-	2	-	1
<i>Cocconeis disculus</i> (Schumann)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis euglypta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis lineata</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> Ehr. var. <i>placentula</i>	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	17	-	-	-	1	-	-
<i>Cocconeis pseudothumensis</i> Reichardt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Craticula cuspidata</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	1	1	-	1	1	-	-	1
<i>Craticula halophila</i> (Gran. ex V.Heurck)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	1	-	-	1	-	1
<i>Craticula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	-	4	3	1
<i>Cymatopleura solea</i> (Breb.)W.Smith	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-	-	2	-	-
<i>Cymbella heteropleura</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella rheophila</i> Ohtsuka	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb.)Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-
<i>Cymbella turgidula</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	13	2	-	-	-	1	-
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	2	1	-
<i>Cymbopleura naviculiformis</i> (Auerswald)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Diademsis brekkaensis</i> (J.B.Petersen)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diademsis confervacea</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Diademsis contenta</i> (Grun.ex Van Heurck)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	2	6	-	-	10	4	-	-	2
<i>Diademsis contenta</i> var. <i>biceps</i> (Arnott ex Grunow)Hamilton	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma mesodon</i> (Ehr.)Kuetzing var. <i>mesodon</i>	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse)Cleve var. <i>ovalis</i>	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	7	-	2	4	5	-	-	-
<i>Diploneis parma</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	5	1	-	-	1
<i>Diploneis yatukaensis</i> Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Diploneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	3	2	3
<i>Encyonema silesiacum</i> (Bleisch)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	5	-	-	2	2	-	-
<i>Eolimna tantula</i> (Hust.)	Ogh-ind	ind	r-ph	RI,U	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.)Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia minor</i> (Kuetz.)Grunow var. <i>minor</i>	Ogh-hob	ind	ind	O,T	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>undulata</i> (Ralfs)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	-	1	-	-	1	1	1	-	1
<i>Eunotia praeurpta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	1	-	2	1	1	-	2	-	-	-
<i>Eunotia praeurpta</i> var. <i>bidens</i> Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O	24	-	7	3	10	4	8	9	8	6
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1	-	2	-	-	5	-	-
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres var. <i>capucina</i>	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.)Petersen var. <i>vaucheriae</i>	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilariforma virescens</i> (Ralfs)Williams & Round	Ogh-ind	ac-il	l-ph	U	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>amphipleuroides</i> (Grun.)De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	P	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.)De Toni var. <i>vulgaris</i>	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	2	-	-	2	-	-	-	-
<i>Gomphoneis tetrastigmata</i> (Horikawa et Okuno)Ohtsuka	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
<i>Gomphonema affine</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	4	2	-	-	1
<i>Gomphonema angustatum</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-il	unk		-	-	1	-	-	4	3	-	-	2
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema helveticum</i> Brun	Ogh-ind	ind	r-ph	T	1	1	-	6	-	-	-	-	-	-

表22 珪藻分析結果 (2)

種 類	生態性			環境 指標種	地点・層位									
	塩分	pH	流水		9地点	12地点	1地点	4地点		5地点	6地点	8地点		10地点
					12層	1409溝	4層	4層上	4層下	4層	4層	4層上	4層下	4層上
Gomphonema lagenula Kuetzing	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema parvulum (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	U	-	2	3	1	-	-	2	2	-	-	-
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema quadripunctatum (Oestrup.)Wislouch	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Gyrosigma procerum Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-
Gyrosigma scalproides (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-
Gyrosigma spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	9	2	-	-	1	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	11	10	18	4	28	40	42	8	36	20
Lemnicola hungarica (Grunow)Round & Basson	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Luticola cohnii (Hilse)D.G.Mann	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	23	2	8	4	7	15	14	7	7	7
Luticola paramutica (Bock)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Luticola plausibilis (Hustedt ex Simonsen)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	-	9	-	-	2	-	-	2	1	-	-
Melosira varians Agardh var. varians	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Navicula angusta Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	T	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula bryophila Boye-Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis var. cuneata H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	4	1	-	-	3	-	-	-	-
Navicula glomus Carter & Bailey-Watts	Ogh-unk	unk	unk	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB,T	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
Navicula kotschyi Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula lapidosa Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula nipponica (Skv.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Navicula pseudolanceolata Lange-Bertalot	Ogh-ind	ac-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula rostellata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula subcostulata var. rostrata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula tokyoensis H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-
Navicula trivialis Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula venerabilis Hohn & Hellerman	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula viridula (Kuetz.)Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	1	2	7	-	-	-	-	-	-
Navicula viridula var. linearis Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	2	-	-	2	-	-	-
Neidium affine (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	-	1	1	-	-	1	2	-	2	2	2
Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Neidium longiceps (W.Greg.)R.Ross	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Neidium septentrionale Cleve-Euler	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-
Nitzschia amphibia Grunow var.amphibia	Ogh-ind	al-bi	ind	S-U	-	1	-	-	1	1	4	-	-	-
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	-	4	-	4	3	2	1	1	2
Nitzschia nana Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB,S	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia palustris Hustedt	Ogh-ind	ind	unk	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
Nitzschia parvuloides Cholnoky	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia tubicola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia umbonata (Ehr.)Lange-B.	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	4	1	1	-	-	3	3	-	7	1
Pinnularia brauniana (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia brevicostata var. sumatrana Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Pinnularia divergens var. elliptica (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Pinnularia episcopalis Cleve	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	2	-	-	-	-	1	-	1	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia hustedtii F.Meister	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia intermedia (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	2	-	-	2	3	-	-	-	-
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	1	34	2	6	24	17	13	10	12
Pinnularia silvatica Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	-	1	2	-	-	6	6	-	1	2
Pinnularia subcapitata var. paucistriata (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	-	1	-	-	2	2	-	-	1	-
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	5	-	2	8	6	3	-
Placoneis clementis (Grun.)E.J.Cox	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
Placoneis elginensis (Greg.)E.J.Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	-	5	-	-	17	13	-	2	2
Placoneis elginensis var. neglecta (Krasske)H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	9	-	-	8	8	-	-	2
Planothidium lanceolatum (Breb.)Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Reimeria sinuata (W.Greg.)Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	1	-	9	-	2	-	-	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (C.Agardh)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-

第9章 分析

表22 珪藻分析結果 (3)

種 類	生態性			環境 指標種	地点・層位									
	塩分	pH	流水		9地点	12地点	1地点	4地点		5地点	6地点	8地点		10地点
					12層	1409 溝	4層	4層 上	4層 下	4層	4層	4層 上	4層 下	4層 上
Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
Sellaphora americana (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Sellaphora laevisima (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind		-	-	9	-	1	1	1	-	-	-
Sellaphora mutata (Krass.)Lange-B.	Ogh-ind	ind	ind	U	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	U	-	12	3	2	-	-	1	ind	-	-
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	1	6	-	1	1	1	1	-	-
Stauroneis borrichii (Pet.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
Stauroneis lauenburgiana Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	1	-	-	-	2	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron fo. hattorii Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	9	-	4
Stausosira construens var. construens Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	2	-	-	-	1	-	-	1
Stausosira construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
Stausosira spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Stephanodiscus hantzschii (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Stephanodiscus pseudosuzukii Tuji et Kociolek	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Suriella angusta Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Suriella minuta Brebisson	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
Synedra lanceolata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
Synedra ulna (Nitzsch)Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1	1	15	3	-	-	2	2	1
Tryblionella debilis Arnott	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
海水生種					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種					3	87	7	10	3	3	0	0	0	0
淡水生種					102	132	195	192	97	197	204	104	101	101
珪藻化石総数					105	219	202	205	100	200	204	104	101	101

凡例

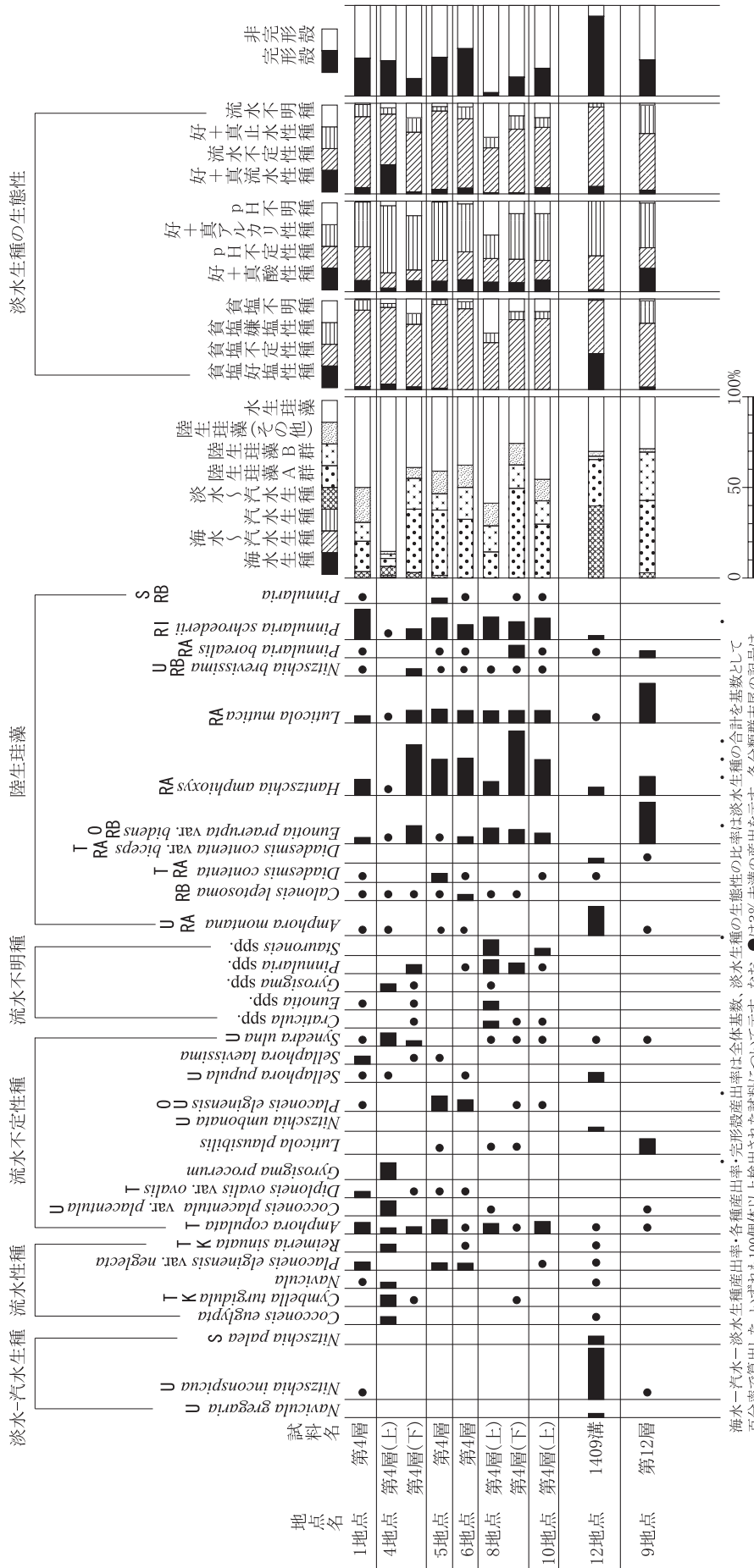
H.R.:塩分濃度に対する適応性 pH:水素イオン濃度に対する適応性 C.R.:流水に対する適応性
 Euh-Meh :海水～汽水生種 al-bi :真アルカリ性種 l-bi :真止水性種
 Meh :汽水生種 al-il :好アルカリ性種 l-ph :好止水性種
 Ogh-Meh :淡水～汽水生種 ind :pH不定性種 ind :流水不定性種
 Ogh-hil :貧塩好塩性種 ac-il :好酸性種 r-ph :好流水性種
 Ogh-ind :貧塩不定性種 ac-bi :真酸性種 r-bi :真流水性種
 Ogh-hob :貧塩嫌塩性種 unk :pH不明種 unk :流水不明種
 Ogh-unk :貧塩不明種

環境指標種群

K:中～下流性河川指標種, L:最下流性河川指標種, M:湖沼浮遊性種, N:湖沼沼沢湿地指標種, O:沼沢湿地付着生種, P:高層湿原指標種(以上は安藤, 1990)
 S:好汚濁性種, U:広域適応性種, T:好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995)
 R:陸生珪藻(RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内, 1991)

縄文時代晩期～弥生時代前期に形成された9地点の第12層の完形殻の出現率は約40%程度と悪かった。群集組成は、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻が約70%産出し、淡水域に生育する水生珪藻（以下、水生珪藻という）が約30%産出する。主な産出種の特徴は、耐乾性の高い陸生珪藻A群の*Luticola mutica*、水域にも陸域にも生育する陸生珪藻B群の*Eunotia praerupta* var. *bidens*が約20%と産出し、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*、水生珪藻で流水不定性の*Luticola plausibilis*を伴う。

弥生時代前期に形成された12地点の1409溝埋土では、完形殻の出現率が約90%と高く、保存状態が良かった。群集組成は、淡水～汽水生種が約40%、水生珪藻が約30%、陸生珪藻が25%を占める。淡水性種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴は、貧塩不定性種と貧塩光塩性種、真+好アルカリ性種、流水不定性種が優占あるいは多産する。主な産出種の特徴は、塩分や塩類の豊富な水域や汚濁に対しては中腐水性の水域に多いが、かなり汚濁した水域にも耐えることのできる淡水～汽水生種の*Nitzschia inconspicua*が約30%と産出し、有機汚濁の進んだ腐水域に生育する好汚濁性種の*Nitzschia palea*、流水不定性で好汚濁性種の*Sellaphora pupula*を伴う。陸生珪藻としては、陸生珪藻A群の*Amphora montana*が約20%と多産する。



海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は3%未満の産出を示す。各分類群末尾の記号は次に示す標記指標種群を示す。
 O:沼沢湿地付着生種(安藤, 1990)、S:好汚濁性種、U:広域適応性種、T:好清水性種(Asai and Watanabe, 1995)
 R:陸生珪藻(RA-A群, RB:B群, R:未区分、伊藤・堀内, 1991)

図354 主要珪藻化石群集

(2) 花粉分析

結果を表23、図355に示す。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、クワ科・バラ科・マメ科には木本・草本の種が含まれるが、ここでは花粉化石の形態から区別できないものについては草本花粉として扱って表示してある。また、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

第4層では、6地点で花粉化石の産出状況が悪く、定量解析を行えるだけの個体数を得ることができなかった。その他の試料では、花粉化石が豊富に産出する。花粉化石群集は概ね類似し、木本花粉ではマツ属、スギ属、モミ属、ツガ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、シイノキ属などが、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが多く認められる。

木本花粉についてみると、多産する種類の違いから1地点、4地点、5,8,10地点の3つに分けられる。1地点の第4層ではモミ属、アカガシ亜属が最も多く産出し、マツ属、スギ属、クマシデ属-アサダ属などを伴う。保存状態は他の地点と比べると、若干悪い。4地点の第4層上・下ではアカガシ亜属が最も多く産出し、マツ属、スギ属、コナラ亜属、シイノキ属などを伴う。その他ではモミ属、ツガ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科なども認められる。5地点の第4層、8地点の第4層上、10地点の第4層上では、マツ属、スギ属が最も多く産出し、モミ属、ツガ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、コナラ亜属、アカガシ亜属、シイノキ属などを伴う。

草本花粉はいずれの地点においても大きな差は認められず、イネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科、ナデシコ科、ヨモギ属などが認められる。5地点の第4層では、ヨモギ属の割合が他の地点よりも高い。その他では、ガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ゴキヅル属、ミズアオイ属、サンショウモなど、水湿地生植物に由来する花粉・胞子が検出される。分析残渣中に微細な炭化植物片が多量に含まれている。

9地点の第12層は、花粉化石の産出状況が悪く、木本花粉ではコナラ属アカガシ亜属が、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、ヨモギ属が、それぞれ1~数個体検出されるのみである。分析残渣中に微細な炭化植物片が多量に含まれている。

12地点の1409溝では、定量解析を実施できる程度の花粉が検出され、群集組成をみると草本花粉の割合が高い。草本花粉ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、ヨモギ属などを伴う。また、水生植物のオモダカ属に由来する花粉も、わずかではあるが検出される。木本花粉ではアカガシ亜属が最も多く産出し、モミ属、ツガ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、シイノキ属、エノキ属-ムクノキ属などを伴う。分析残渣中に微細な炭化植物片が多量に含まれている。

(3) 植物珪酸体分析

結果を表24・図356に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。以下に、各地点での産状を述べる。

・1地点

第4層の植物珪酸体含量は約3.3万個/gであり、6地点に次いで多い。栽培植物であるイネ属は、短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体、穎珪酸体が検出される。その含量は、短細胞珪酸体が約2,900個/g、機動細胞珪酸体が約5,000個/g、穎珪酸体が約500個/gであり、特に機動細胞珪酸体の産出が目立つ。また、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の含量は調査した地点の中で最も多い。

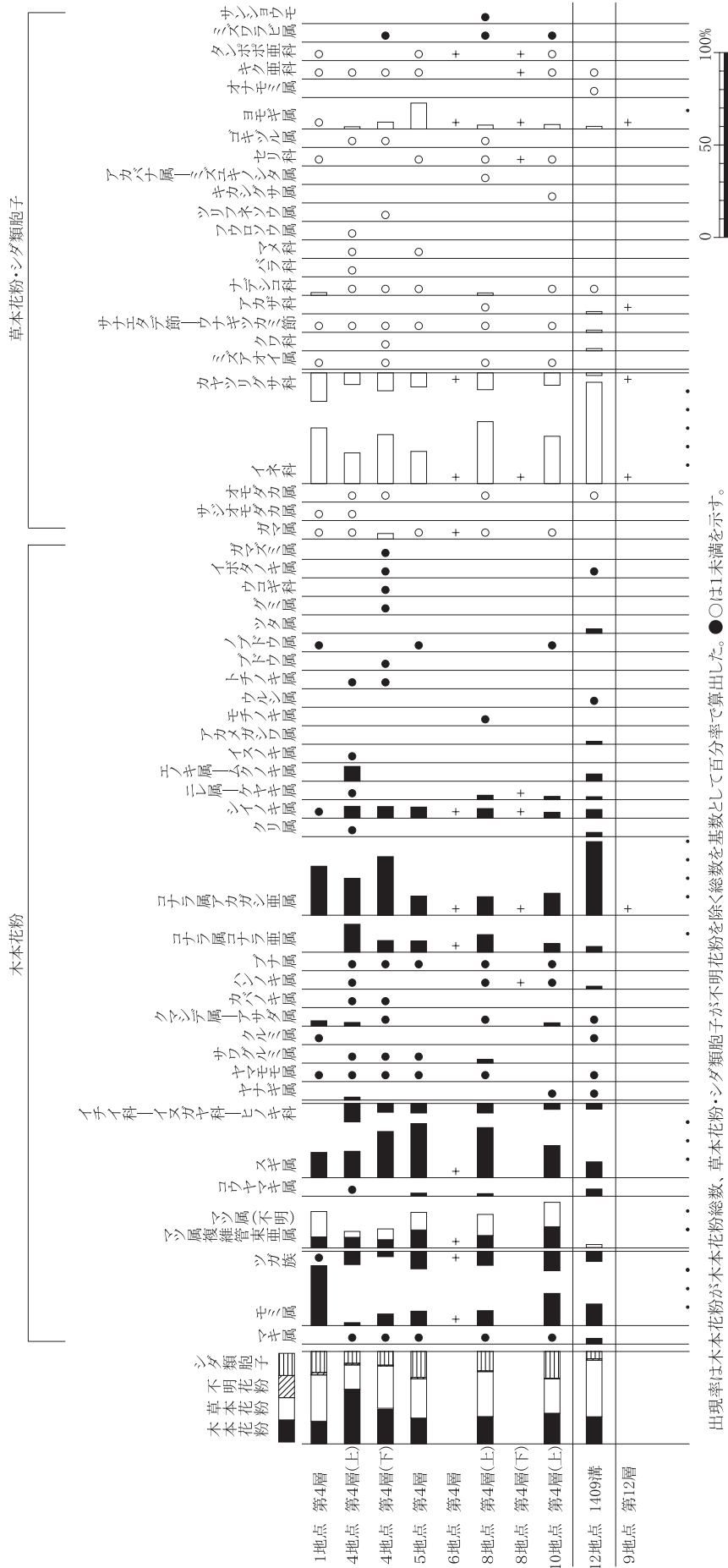


図355 花粉化石群集

この他に検出される種類はネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属とススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、不明であり、その中ではヨシ属や不明キビ型の産出が目立つ。

・ 4 地点

第4層上と第4層下では植物珪酸体含量に違いが見られる。第4層上で約2.1万個/g、第4層下で約1万個/gであり、第4層上で多い。いずれの試料からも、イネ属の短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体、穎珪酸体が検出される。その含量は、第4層上で短細胞珪酸体が約330個/g、機動細胞珪酸体が約1,300個/g、穎珪酸体が約800個/g、第4層下でそれぞれ第4層上の半分程度である。いずれも、機動細胞珪酸体の産出が目立つ。

この他に検出される種類はネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属とススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、不明である。ただし、その産状は第4層上と第4層下で異なる。第4層下はヨシ属や不明キビ型の産出が目立つが、第4層上ではネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。

なお、いずれの試料からも樹木起源珪酸体第IVグループ（近藤・ピアスン,1981）が検出される。第IVグループは網目模様の付いた紡錘形を呈し、大部分の樹木葉部で観察される。

・ 5 地点

第4層での植物珪酸体含量は約5,500個/gであり、10地点に次いで少ない。イネ属の短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体、穎珪酸体が検出される。その含量は短細胞珪酸体が約70個/g、機動細胞珪酸体が約600個/g、穎珪酸体が約110個/gであり、機動細胞珪酸体の産出が目立つ。この他に検出される種類はネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属とススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、不明、樹木起源珪酸体第IVグループであり、その中ではヨシ属の産出が目立つ。

・ 6 地点

第4層での植物珪酸体含量は約6万個/gであり、調査した地点の中で最も多い。イネ属が検出され、その含量は短細胞珪酸体が約360個/g、機動細胞珪酸体が約2,600個/g、穎珪酸体が約900個/gであり、機動細胞珪酸体の産出が目立つ。この他に検出される種類はネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属とススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、不明、樹木起源珪酸体第IVグループであり、その中ではヨシ属や不明キビ型の産出が目立つ。

・ 8 地点

植物珪酸体含量は第4層上で約2.5万個/gである。イネ属が検出され、機動細胞珪酸体の産出が目立つ。この他に検出される種類はネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属とススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、不明、樹木起源珪酸体第IVグループである。このうちヨシ属と共にネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。

・ 10地点

第4層上での植物珪酸体含量は約5,000個/gであり、調査した地点の中で最も少ない。イネ属の含量も最も少なく、短細胞珪酸体が約50個/g、機動細胞珪酸体が約430個/g、穎珪酸体が約50個/gである。

この他に検出される種類はネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属とススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、不明、樹木起源珪酸体第IVグループであり、その中ではヨシ属の産出が目立つ。

表24 植物珪酸体分析結果

種類	和名	学名	上段:地点 下段:層位									
			9地点	12地点	1地点	4地点		5地点	6地点	8地点		10地点
			第12層	1409溝	第4層	第4層(上)	第4層(下)	第4層	第4層	第4層(上)	第4層(下)	第4層(上)
イネ科葉部短細胞珪酸体	Short cell opal phytoliths of Gramineae		0	943	2,864	333	185	68	364	200	162	47
イネ族イネ属	Oryza											
キビ族キビ属	Panicum		0	314	0	0	0	0	0	0	0	0
キビ族チゴザサ属	Isachne		0	39	0	0	0	0	0	0	0	0
タケ亜科ネザサ節	Pleioblastus		0	118	421	1,929	634	45	182	533	270	71
タケ亜科	Bambusoideae		0	79	253	1,397	767	68	273	1,133	54	190
ヨシ属	Phragmites		18	275	5,054	1,596	1,427	611	13,360	3,933	3,678	735
ウシクサ族コブナグサ属	Arthraxon		0	0	2,022	466	185	158	1,545	467	541	332
ウシクサ族ススキ属	Miscanthus		36	275	2,527	998	634	204	3,726	1,933	1,623	332
イチゴツナギ亜科	Pooideae		18	0	168	399	159	0	273	333	216	166
不明キビ型	Panicoid(unknown)		54	1,493	5,138	2,860	1,322	226	11,724	4,133	4,003	758
不明ヒゲシバ型	Chloroid(unknown)		18	118	2,190	1,729	476	158	2,908	867	1,028	284
不明ダンチク型	Arundoid(unknown)		36	511	1,264	1,330	529	45	2,908	1,467	1,406	474
イネ科葉身機動細胞珪酸体	Moter cell opal phytoliths of Gramineae		0	747	4,970	1,264	687	611	2,545	2,933	703	427
イネ族イネ属	Oryza											
キビ族	Panicaceae		0	79	0	0	0	0	0	0	0	0
タケ亜科ネザサ節	Pleioblastus		0	196	337	1,330	423	158	545	533	379	142
タケ亜科	Bambusoideae		90	196	590	1,131	211	113	182	667	108	118
ヨシ属	Phragmites		36	118	1,516	798	714	1,675	12,723	1,733	2,488	308
ウシクサ族	Andropogoneae		0	236	927	1,064	423	769	3,181	1,333	1,514	237
不明	fan-shaped(unknown)		215	472	2,611	1,264	740	453	2,817	2,067	1,028	308
珪化組織片	Silica bodies		0	5,069	505	798	423	113	909	67	0	47
イネ属類珪酸体	Oryza palea											
樹木起源珪酸体	Arboreal		0	0	0	466	211	23	636	933	325	95
第IVグループ	group IV											
合計	total		180	4,165	21,901	13,037	6,318	1,583	37,263	14,999	12,981	3,389
イネ科葉部短細胞珪酸体	Short cell opal phytoliths of Gramineae		180	4,165	21,901	13,037	6,318	1,583	37,263	14,999	12,981	3,389
イネ科葉身機動細胞珪酸体	Moter cell opal phytoliths of Gramineae		341	2,044	10,951	6,851	3,198	3,779	21,993	9,266	6,220	1,540
珪化組織片	Oryza palea		0	5,069	505	798	423	113	909	67	0	47
樹木起源珪酸体	Arboreal		521	11,278	0	466	211	23	636	933	325	95
総計	total numbers		521	11,278	33,357	21,152	10,150	5,498	60,801	25,265	19,526	5,071

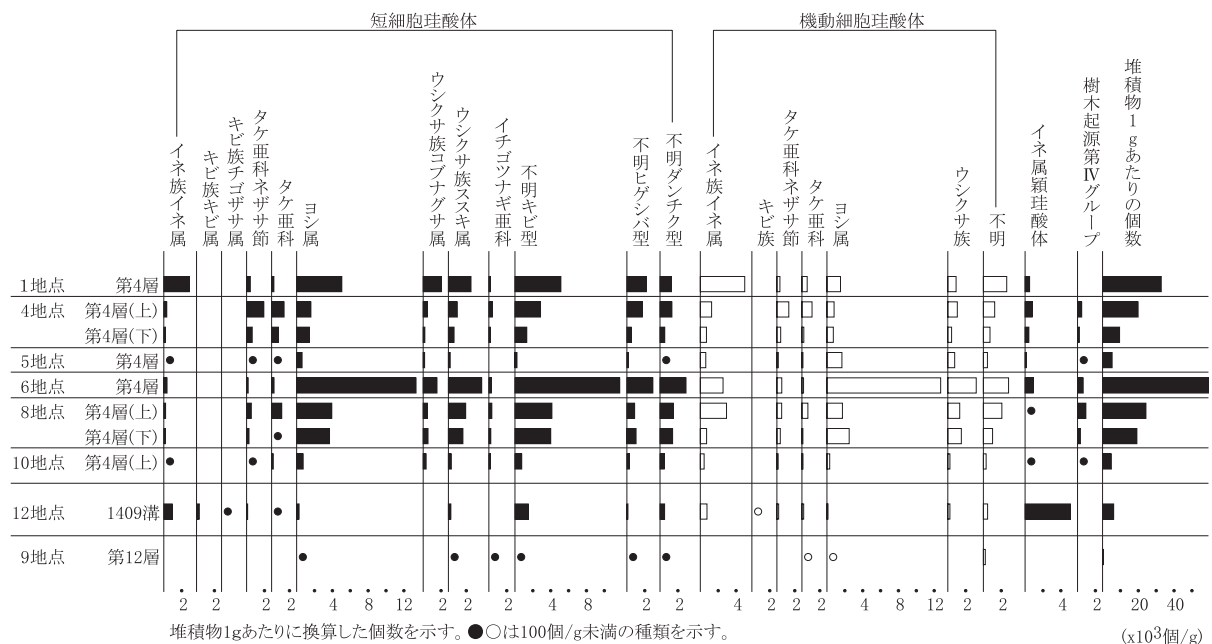


図356 植物珪酸体群集

・ 9 地点

第12層では、植物珪酸体含量が少なく、約520個/gである。タケ亜科やヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科、不明などがわずかに認められるに過ぎない。

・ 12地点

1409溝埋積物では、植物珪酸体含量が約11,000個/gである。この多くが栽培植物であるイネ属の籾殻に形成される穎珪酸体である。イネ属は他にも葉部に形成される短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が検出される。また短細胞珪酸体の中には、植物体内の組織構造を保持した珪化組織片を呈するものも認められる。この他、栽培種を含む分類群であるキビ属の短細胞珪酸体やキビ族の機動細胞珪酸体も検出される。また、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、不明も認められる。

5 考察

5 - 1 縄文時代晩期～弥生時代中期の古環境

分析調査は、縄文時代晩期～弥生時代前期に形成された古土壌である第12層と、弥生時代前期に構築されている弥生時代前期の溝について実施した。

弥生時代前期の第12層の層相は見かけ上塊状をなす、暗灰～黒灰色を呈する腐植に富む泥からなり、著しい生物擾乱により、初生の堆積構造が不明瞭である。本層中の珪藻化石群集は、陸生珪藻B群やA群を含む陸生珪藻が優占する特徴を示した。このうち陸生珪藻A群は耐乾性の高い種群であり、現在では土壌表層などに生息している。これらの層相・珪藻化石群集の特徴から、第12層はしばしば乾燥し、土壌発達する時期を挟在する後背湿地の堆積環境で形成されたことが推定される。

この第12層からは花粉化石および植物珪酸体がほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。産出する化石の保存状態は著しく悪かった。一般に花粉化石は好氣的条件下では風化作用により分解消失することが知られている（徳永・山内,1971など）。花粉・胞子の分解の要因としては、化学的・生物的・物理的な作用が考えられるが、今回の場合は化石の保存状態から、いずれの作用の影響も要因として考えられる。また、花粉・胞子の分解作用に対する抵抗力は、花粉・胞子中の外壁中に含まれているスポロポレニンの量にほぼ一致する（Havinga,1964）。花粉に比較してスポロポレニンの量が多いとされるシダ類胞子は風化作用の影響を受けても化石として残りやすく（Brooks & Shaw,1971）、花粉化石でも外膜が厚いものなどは残りやすいとされる（徳永・山内,1971など）。第12層から産出した花粉化石は、シダ類胞子や針葉樹花粉が多かったのも、これらが風化に強く残りやすい種類であることに起因するものと思われる。一方、植物珪酸体も保存状態が悪かった。植物珪酸体は、土壌が風化する早い段階で粘土化する可能性も指摘されている（近藤,1988）ほか、乾湿を繰り返すような環境下でも、保存が悪くなることが指摘されている（江口,1994,1996）。以上の第12層における花粉化石・植物珪酸体の産状は、上記した層相と珪藻化石群集の特徴から推定される堆積環境と同調的である。したがって、産出した花粉化石や植物珪酸体は堆積時・後に風化作用の影響の受け、偏った組成になっていると判断される。そのため、当時の調査区周辺の植生を推定することができないが、土壌の形成状況を踏まえると調査区内に植生が成立していたことは確実である。保存状態が悪いながらも産出したコナラ属アカガシ亜属などの木本類や、タケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、ヨモギ属などの草本類は周辺の植生を構成する要素であったとみられる。

第10層上部で検出された弥生時代前期の1409溝は、第13層上部まで掘削され、構築されている。構築時に崩落したとみられる垂角状をなす大きさが不揃いの偽礫ブロックが溝斜面に堆積し、溝底部をなす堆積物は人為的擾乱により著しく変形している。当時の溝内が水位の高い状態にあったことを示している。溝内の人為的擾乱により生じた凹地部分には植物遺体の葉理を挟在する腐植に富む泥質堆積物が確認される。これは溝機能期に形成された堆積物と判断される。この機能期の堆積物中の珪藻化石群集は、塩分や塩類の豊富な電気伝導度の高い水域に生育する淡水～汽水生種が多産し、有機汚濁の進んだ腐水域に生育する好汚濁性種を伴う特徴を示した。この特徴から、溝内は有機汚濁がある程度進んだ腐水域であったと考えられ、比較的汚れていた水質であったことになる。この溝埋土からは、栽培種のイネ属の植物珪酸体が産出していることから、溝の集水域では水田稲作が行われていた可能性が考えられる。このような人間活動の影響が溝内の水質汚濁の要因として考えられる。その後、機能期の泥質堆積物の上位を逆級化成層をなす砂質泥～砂礫が覆うことから、氾濫堆積物の流入により埋没したことがうかがえる。

1409溝の機能期堆積物の花粉化石群集は、草本類の割合が高いことが特徴である。このことから溝内およびその近辺は草本植生が卓越する比較的開けた場所であったことが推定される。草本花粉の構成をみると、イネ科の占める割合が高く、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、ヨモギ属などを伴っている。一方、植物珪酸体では、ネザサ節を含むタケ亜科、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科のほか、栽培種のイネ属に由来する珪酸体が検出されている。これらの種群は、開けた明るい場所を好む「人里植物」を多く含む分類群であり、栽培種も認められることから、溝周辺の草地植生が人為的擾乱により形成されたものであることが示唆される。また、僅かではあるが水生植物のオモダカ属の花粉や、湿地などに生育するヨシ属の植物珪酸体も検出されることから、これらの水湿地生植物も溝内およびその集水域の湿地部において分布していたことが推定される。

木本花粉の産状をみると、常緑広葉樹のアカガシ亜属が最も多く産出し、マキ属・モミ属・ツガ属・スギ属といった温帯性針葉樹、コナラ亜属・エノキ属・ムクノキ属などの落葉広葉樹、シイノキ属などの常緑広葉樹などを伴う組成を示した。このうち、アカガシ亜属は、シイノキ属などと共に暖温帯性常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要構成要素となる種を含む種類であり、マキ属やヤマモモ属なども暖温帯に分布の中心がある種類である。一方、モミ属・ツガ属・スギ属・イチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科・コウヤマキ属といった針葉樹の種類は、照葉樹林帯とそれより標高（あるいは緯度）の高い山地にある冷温帯の推移帯に成立する中間温帯林を構成する温帯性針葉樹に由来すると判断される。これらのことから、溝機能期には、調査区の後背地域において、アカガシ亜属を主とする暖温帯性の植生が成立していたことが推定される。温帯性針葉樹の種類は、後背山地などのより標高の高い場所に分布していた可能性があるが、カシ類などの林分に混在していた可能性もある。

大阪平野における完新世の植生変遷をみると、6000年前以降はシイ・カシ類などの常緑広葉樹が主体であり、約3000～2000年前にスギ・ヒノキ・コウヤマキ・モミ・ツガなどの針葉樹が増加することが指摘されている（古谷,1979;前田,1984;那須,1989など）。また、温帯性針葉樹の増加については、気候が悪化したこと、とりわけ多雨化したことが原因として考えられている（那須,1989）。このような傾向は河内平野に位置する八尾市の小阪合遺跡（辻本ほか,2004）や池島福万寺遺跡（辻本・辻,2002）、加美遺跡（辻本ほか,2003）、長原遺跡（辻本・金井,2003 渡辺,2003など）、志紀遺跡（辻本ほか,2001）、など多くの遺跡・地点の花粉分析結果でも確認される。ただし、各地点の温帯性針葉樹の種類構成やその産出率

は地点によってバラツキがあり、層的变化も増減の著しい変遷を示している。温帯性針葉樹の花粉が山地上部に分布していた母植物に由来するものだとすれば、花粉化石の堆積物への取り込まれ方を踏まえると、低地の堆積物では平均化され、地点間差異がむしろ小さくなることが想定される。しかし、実際には、その逆の傾向を示しており、温帯性針葉樹の分布が山地上部だけでなく、山地下部や台地、扇状地にかけての分布も考えておく必要がある。地域は異なるが、福井県見方低地では、ハンノキ亜属・トネリコ属の湿地林要素とスギやクロベの針葉樹の共存が確認されている（辻ほか,1995）。温帯性針葉樹の更新が自然攪乱と関係していることから大阪湾岸地域でも扇状地などを中心にスギなどの温帯性針葉樹の分布を拡げた可能性があり、弥生時代に木製品として利用される樹種でもあることから、その分布拡大様式については、今後も情報蓄積を行い、検討していきたい課題である。

また、1409溝埋土からは、栽培種のイネ属の籾殻に形成されるイネ属珪酸体が多産した。イネ属の葉部に形成される植物珪酸体や珪化組織片も認められたことから、1409溝埋積物には籾殻や籾藁が混入している可能性が高く、弥生時代前期に栽培種のイネ属が調査区内に存在した、あるいは持ち込まれていたことを示す結果として重要である。また、植物珪酸体群集で認められたキビ属を含むキビ族は栽培種を含む種類である。植物珪酸体の形態からは、栽培種か野生種かの判断がつかないため、今後、大型植物化石の産状を調査し、当時の栽培植物の種類について整理・検討することが必要と考える。

5 - 2 第4層形成期（弥生時代後期）の古環境

(1) 第4層の珪藻化石群集の特徴

弥生時代後期に形成された第4層は見かけ上塊状をなす砂質泥からなる。初生の堆積構造は著しく擾乱されており、垂角状から垂円状をなす比較的大きさの揃った、数mm程度の集合体ないしブロック土が確認される。人為的擾乱による耕作土の層相に類似する。第4層の珪藻化石群集は、4地点の第4層（上）試料以外の地点では類似する組成を示し、水域に生育する水生珪藻と、これとは生育環境を異にする陸上の乾いた環境に生育する陸生珪藻とが高い割合で混在する特徴を示した。このような相反する生育環境を示す種群が混在する珪藻化石群集は混合群集と言われており、河川の氾濫によって堆積した一過性の洪水氾濫堆積物や水田耕作土、河川の運搬・堆積作用により堆積した沖積低地などで観察されることが指摘されている（堀内ほか,1996など）。

以上の層相および珪藻化石群集の特徴から、第4層は氾濫堆積物が流入し、土壤発達する時期を挟む後背湿地の堆積環境で形成されたことが推定される。また、第4層からは栽培植物のイネ属植物珪酸体が産出し、土壤の構造を考慮すると、水田耕作などの土地利用が行われていたことが推定される。なお、第4層の珪藻化石は保存状態が非常に悪かったが、これは広範囲な集水域から珪藻化石が運搬される過程で化石そのものが壊された可能性と、土壤発達時の乾湿を繰り返すような環境による可能性の両方が考えられる。また、4地点では、第4層上部で陸生珪藻が減少し、中～下流性河川指標種群を含む流水性種や流水不定性種により特徴づけられる群集へ変化している。同様な傾向は、顕著ではないが、8地点でも確認されることから、上位層準の形成期には河川の氾濫の影響を頻繁に受けるようになったことが推定される。

今回の調査区の西側にあたる山賀遺跡その5・6調査区では、縄文時代晩期から現代までの堆積層と弥生時代前期の溝埋土を対象とした珪藻分析が行われている（バリノ・サーヴェイ,1986）。その結果をみると、その5・6区の弥生時代中期から後期にかけての堆積物でも今回と同様な混合群集の特徴を示

す珪藻群集が確認されている。先述したように調査地域の地形発達、縄文時代晩期ないしそれ以前に形成された開析流路の弥生時代前期までの充填と、その後の弥生時代中期における曲流を伴う側方堆積作用への活発化、さらに弥生時代後期におけるいくらかの側方移動を伴いながらの流路変更による小規模で継続期間が短い流路の堆積作用という一連の河川堆積システムの変遷が推定されている（松田,1994）。この地形発達過程と、山賀遺跡の弥生時代中期から後期の珪藻化石群集が混合群集の特徴を有することとは同調的であり、弥生時代中期以降には氾濫堆積物が累重し、その間隙には土壌が発達する時期を挟在していたことが推定される。

(2) 第4層形成期の古植生

第4層直下には第5層の氾濫堆積物が厚く堆積している。この第5層の堆積は調査区内の植生を多く区変化させたことが推定される。第5層形成期以前の植生については、詳細については後述するが、第5層の堆積は、第6層形成期に存在した植生を著しく攪乱したことが推定される。大規模な洪水では土砂の流失や堆積によって林床が破壊されるため、路傍群落や崩壊地群落、マント群落の構成種が多くなるが、第5層の堆積は林床だけでなく、調査区の広い範囲の植生を一掃した可能性が高い。そのため、第4層の花粉化石群集は、第5層の氾濫堆積後に形成された新しい植生の変遷を反映しているものと思われる。

第4層の花粉化石群集は、いずれの調査地点も同様な種類からなるが、地点によって出現率にバラツキが生じている。種類構成は、マキ属・マツ属・スギ属・モミ属・ツガ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などの針葉樹、コナラ属アカガシ亜属・シイノキ属などの常緑広葉樹、コナラ属コナラ亜属・ニレ属-ケヤキ属・エノキ属-ムクノキ属などの落葉広葉樹からなる。このうち地点によって出現率のバラツキの大きい種類は、針葉樹のモミ属・マツ属・スギ属、常緑広葉樹のアカガシ亜属・シイノキ属、落葉広葉樹のクマシデ属-アサダ属・ニレ属-ケヤキ属・エノキ属-ムクノキ属である。また、調査地点のうち、6地点・8地点では花粉化石の保存状態が著しく悪く、地点毎で花粉化石の風化作用の影響が異なっていたことが窺える。この風化の影響の違いが出現率のバラツキを生じさせた原因である可能性があり、特に針葉樹については先述したように風化に対する耐性が強いことからその可能性が高い。しかしながら、常緑広葉樹や落葉広葉樹の種類については、保存状態の違いに起因する変化として認識するには差異が大きく、これらの花粉を供給した母植物が調査地点近辺の植生を構成する要素であった可能性がある。第4層からはモクレン属やシイノキ属など多くの樹木に形成される樹木起源珪酸体Ⅳ型（近藤・ピアスン, 1981）が検出されている。この樹木起源珪酸体は、氾濫堆積物とともに再堆積したものである可能性もあるが、地点間で多少の含量密度の差異があることから、堆積域近辺に生育していた可能性もある。さらに、第4層上部では発掘調査時に2区の領域においてヤナギ属の立木が1本確認されている。

以上のことから、第4層形成期の周辺植生は、基本的には弥生時代前期と同様に暖温帯性の植生であったことが推定される。また、調査区近辺の沖積リッジなどには、常緑広葉樹のアカガシ亜属・シイノキ属、落葉広葉樹のクマシデ属-アサダ属ニレ属-ケヤキ属・エノキ属-ムクノキ属など分布していた可能性がある。調査区内にはヤナギ属の仲間が生育していたが、林分の成立を示すような状況ではなく、草本植生の卓越する領域であったことが花粉化石・植物珪酸体の産状から類推される。

草本花粉群集では、イネ科が多産し、カヤツリグサ科、ナデシコ科、ヨモギ属などを伴う。このうちヨモギ属は5地点で多産するなど、地点によって産状に多少のバラツキがある。一方、植物珪酸体は、

ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属とススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などからなるが、地点毎で含量密度に明瞭な差異が生じている。これらのうち、ネザサ節やススキ属を含むイネ科、カヤツリグサ科の一部、ナデシコ科、ヨモギ属などには、開けた明るい場所を好む「人里植物」の種類を多く含む分類群である。第4層の堆積環境を踏まえると、土壌形成にはこれらの草本類が生育していたと思われる。また、植物珪酸体分析では湿潤な場所で生育するヨシ属の産出が6地点・8地点では目立ち、やはり湿潤な場所に生育するコブナグサ属も認められている。花粉でもガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ゴキヅル属、ミズワラビ属、サンショウモなどの水湿地生植物に由来する花粉・胞子が検出される。これらのことから、第4層形成時には、堆積域ないしその周辺の湿地部において、これらの適湿地を好む草本類も生育していたことが推定される。

(3) 第4面における栽培植物イネ属植物珪酸体の産状について

第4層の各地点からは栽培植物のイネ属に由来する植物珪酸体が産出している。概ね機動細胞珪酸体の産出が目立ち、その含量は400~5,000個/gの範囲と地点によって大きく異なっている。

近年の大阪平野の水田跡で実施された植物珪酸体分析結果では、池島・福万寺遺跡の弥生時代中期の調査例（辻本ほか,2001;辻本・辻,2002）や勝部遺跡の弥生時代後期の調査例（辻本ほか,2003）でも、イネ属珪酸体の割合が地点によってかなり差異が生じることが報告されている。池島・福万寺遺跡では、水田面のイネ属珪酸体の検出数や量が、耕作地の微地形およびそれを構成する堆積物の粒度組成や一筆単位の水田面積の違いと関連することも確認されている（外山,2002）。さらに、これまでに考古遺跡において実施された分析では、畦畔などが検出されている遺構検出面からほとんどイネ属珪酸体が検出されなかった事例や（パリノ・サーヴェイ,2001・2002）、水田による稲作が行われたと判断される層準を覆う自然堆積層や隣接する遺構埋土からイネ属珪酸体が大量に検出された事例（パリノ・サーヴェイ,1996a;辻ほか,2004）なども存在する。また、水田面だけでなく明らかな畝跡遺構やそれらが存在する層準でも、イネ属珪酸体が高率に検出される場合がある（パリノ・サーヴェイ,1996b;辻ほか,2003）。

上記の事例から、分析から得られるイネ属機動細胞珪酸体の含量密度には、様々な要因が関係していることが予想される。これらの事例は、植物珪酸体化石のタフオノミーに関連する問題であると認識される。植物珪酸体だけでなく、考古遺跡でよく実施される花粉・珪藻化石などの微化石の多くは、生育場所から何らかの営力を受けて別の場所へ運搬され、遺跡を構成する堆積物や土壌中にマトリクスとして堆積したものである。そして堆積後には、様々な続成作用を受ける。そのため、微化石分析の解釈にあたっては、タフオノミーを考慮する必要があるとされている（辻,2000）。

以上のことと上述の堆積環境を踏まえると、弥生時代後期の調査区では稲作が行われていた可能性が指摘できる。花粉分析で認められたサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ミズワラビ属、サンショウモといった水生植物は水田雑草となりうる種類であることから、当時から水田雑草としてこれらが生育していた可能性もある。

5-3 山賀遺跡における弥生時代の植生変遷（既往調査成果の複合的検討）

山賀遺跡の発掘調査では、これまでも古植生や古環境復元を目的とした自然科学分析調査が実施されている。その1調査区では、弥生時代堆積物のプラント・オパール分析（外山,1983）・弥生時代堆積物花粉分析（パリノ・サーヴェイ,1983）・弥生時代後期の堰構築材の樹種同定（嶋倉,1983）が行われている。その3調査区では、出土木製品の樹種同定（嶋倉,1984 松田,1984）と弥生時代堆積物の花粉・

珪藻分析（パリノ・サーヴェイ,1984）、その4調査区では出土木製品の樹種同定（嶋倉,1984 松田,1984）と弥生時代堆積物の花粉・珪藻分析（パリノ・サーヴェイ,1984）、その5・6調査区では縄文時代から弥生時代の堆積物の花粉分析（パリノ・サーヴェイ,1986）などの成果が存在する。ここでは、これら既往の調査成果と、今回の調査結果を踏まえ、本遺跡周辺の考古遺跡の調査成果を考慮しながら、山賀遺跡における弥生時代の古植生について再検討する。

山賀遺跡が位置する中河内地域の地形発達過程は、松田（1984）に詳しい。中河内地域では、縄文時代晩期ないしそれ以前に形成された開析流路の弥生時代前期までの充填と、その後の弥生時代中期における曲流を伴う側方堆積作用への活発化、さらに弥生時代後期におけるいくらかの側方移動を伴いながらの流路変更による小規模で継続期間が短い流路の堆積作用という一連の河川堆積システムの変遷が確認されている。今回の調査区や、既往の調査区で確認されている堆積層の累重状況は、この見解を追従している。今回の調査区の南西側1kmに位置するその3調査区では、縄文時代晩期の開析流路が確認されており、弥生時代前期にかけて充填されている。当時の河岸は氾濫堆積物が厚く累重することはなく、後背湿地の堆積環境が継続している。その後、弥生時代前期には、その3調査区などにおいて、後背湿地に流路が形成される。この流路は側方に移動すると同時に氾濫原を発達させていき、起伏のある地形を形成している。おそらく、今回の調査区の2区南西部で確認された高まりは、この河川の氾濫堆積物の累重により形成された沖積リッジ周縁部に相当する可能性が高い。

氾濫原における植生は、河川の氾濫堆積、流路の側方移動、滞水などの攪乱によって変遷する。このような攪乱を河川攪乱と呼ばれており、攪乱の頻度、再来間隔、強度、面積の違いによって、植生の更新の様相も変わってくる（中静,2004）。山賀遺跡では、この河川攪乱と人為的攪乱の双方の影響受け、氾濫原の植生が変化していったことが、下記する調査区で確認されている埋没樹の樹種構成や花粉分析結果から推定される。

弥生時代の埋没樹は、山賀遺跡の多くの調査区で確認されている。残存している埋没樹が、当時の調査区に分布していた全ての樹種とはかぎらないが、確認されている埋没樹の分布状況は上記の地形発達と同調的な分布をしている。今回の調査区では、第9面、第6面、第4面の遺構検出面において立木が確認されている。第9面の立木は03-1-3区で確認されており、樹種はヤマグワに同定されている。第6面の立木は03-1-2区を中心に確認されており、樹種構成はヤナギ属、ヤマグワ、アカガシ亜属、クヌギ節、コナラ節からなり、ヤマグワが多数を占める。第4面の立木は、03-1-2区でヤナギ属が1個体確認されただけである。このうち、第6面検出の立木については、発掘調査担当者から資料を提供頂き、成長輪（年輪）数を計測した。その結果、木1のヤマグワが28本（樹皮が残存していないため、それ以上の可能性がある）、木7のヤマグワが15本、252大溝の木Aのアカガシ亜属が9本、同じく木Bのクヌギ節が9本、木Cのコナラ節が6本、木Dのヤマグワが6本であった。年輪数にバラツキがあるものの、高齢木が存在しないことが特徴といえる。一方、既往の調査区では、その3調査区において弥生時代前期以降の流路河岸部分において、ヤナギ属の立木が数個体確認されている。今回の調査区は、流路が存在したその3区に比較して、河川攪乱の影響が小さい領域にあり、そのことが検出される埋没樹の樹種構成の違いとなって現れたものとみられる。すなわち、流路沿いの河川攪乱を頻繁に受ける領域にはヤナギ属が帯状に分布し、その帯の外側の攪乱の影響が小さくなる領域にヤマグワなどの広葉樹が分布していたものとみられる。

一方、山賀遺跡その5・6調査区における弥生時代前期の溝堆積物の花粉化石群集は、木本花粉の占

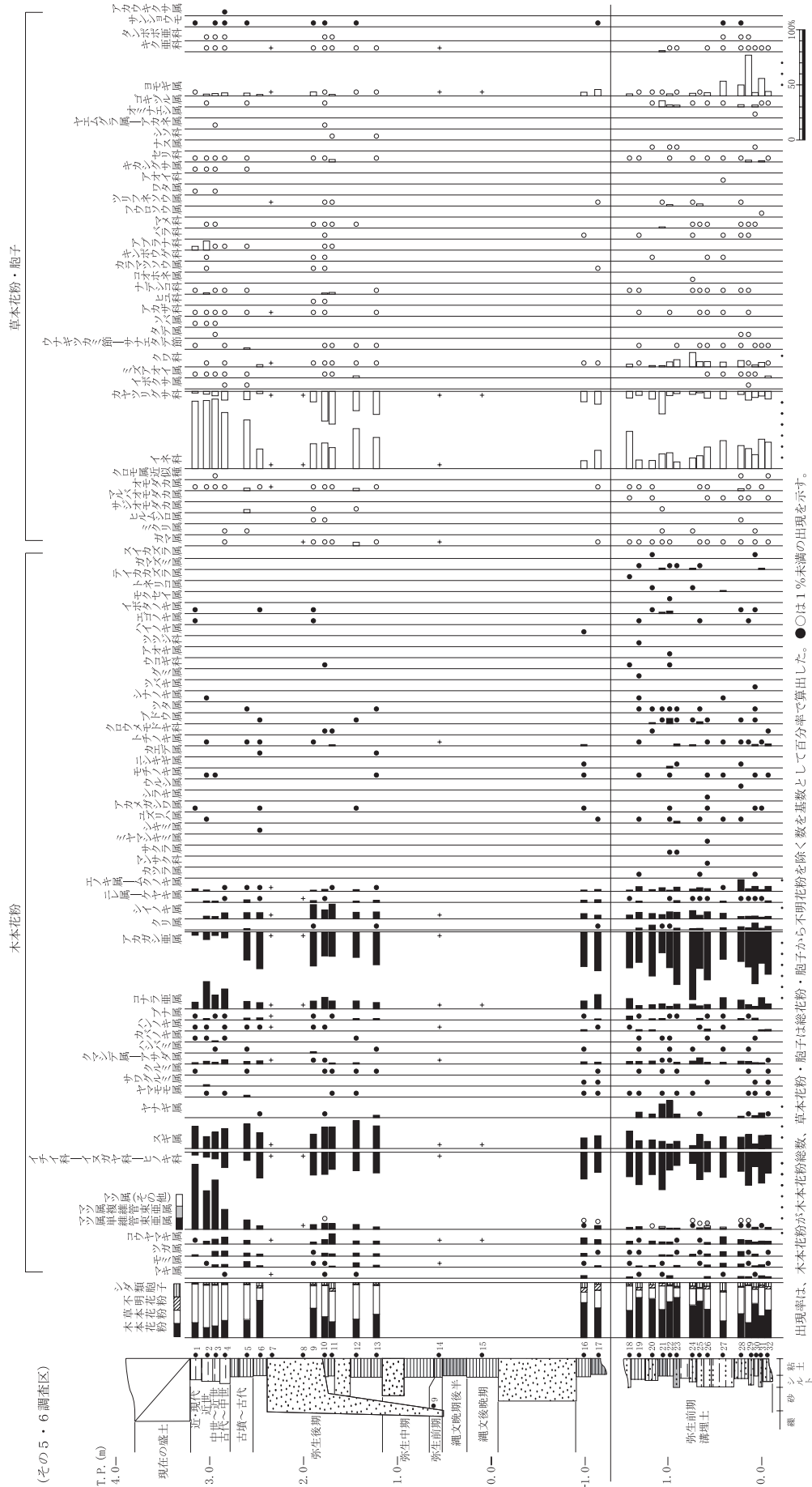


図357 山賀遺跡（その5・6）の花粉化石群集層位分布

める割合が高く、各種類において増減の著しい層位的産状を示している（図357）。多産種はアカガシ亜属と、温帯性針葉樹とみられるイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科である。随伴種は多彩であり、ヤナギ属・サクラ属・アカメガシワ属・ウルシ属・暖温帯から冷温帯の河畔林ないし溪谷林要素であるクルミ属・クマシデ属－アサダ属・トチノキ属・カエデ属・カツラ属、など河畔林の構成要素が多いことが特徴といえる。これら木本の種類は、その3調査区やその4調査区で出土した木製品の樹種構成に対応するものが多い。また、立木として多数確認されているヤマグワを含むクワ科の花粉が比較的多産していることも特徴として認識される（クワ科植物には木本・草本植物が含まれることから、図中では草本花粉・孢子として扱い表示している）。このような産状を示す弥生時代前期の溝埋土の花粉化石群集は、溝の堆積環境を踏まえると、溝近辺ないしその集水域の植生を強く反映しているものと判断される。すなわち当時の調査区後背の低地には上記した樹種からなる平地林が成立していた可能性が高い。また、弥生時代前期から弥生時代後期にかけての層位変化をみると、木本花粉の種類構成が単調になり、草本花粉が増加する傾向が確認される。減少する木本類は氾濫原の植生を構成していたとみられる要素が多く、かつ木製品に利用されている種類である。これらのことから、弥生時代前期以降になると氾濫原の植生が変化し、草地の領域が拡大したことが推定される。

以上の植物化石の産状、調査区の地形変遷、さらに別節で述べている今回の調査区における堆積物の人為的擾乱や攪拌状況を踏まえると、次のような植生変化が推定される。縄文時代晩期から弥生時代前期の開析流路の埋没期には、調査区一帯は後背湿地の堆積環境であった。この時期に調査区内に林分が成立していたことを裏づける埋没林は、今のところ確認されていない。ただし、本遺跡の背後の氾濫原では、平野南部の池島・福万寺遺跡において縄文時代後期の流路充填堆積物からなる沖積リッジ周縁部においてアカガシ亜属の埋没林が成立したことが確認されている（印刷中）。また、八尾南遺跡でもクヌギ節を主とする埋没林が存在し、新上小阪遺跡でも樹種は不明であるが埋没林の存在が確認されている（未公表資料）。このように縄文時代晩期から弥生時代前期の河内平野には、平地林とよべる林分が成立していたことが確認されている。これらのことと、上記した弥生時代前期の溝埋土の花粉化石群集などから、弥生時代前期には山賀遺跡の調査区近辺の氾濫原においても平地林とも呼べる林分が存在したことが推定される。

弥生時代前期～中期以降になると、調査区は河川の氾濫堆積が活発になり、草地の領域が拡大する。その3調査区の流路の河岸部分にはヤナギ属の仲間が分布し、流路から離れた後背湿地にかけての領域ではヤマグワなどの樹木が分布していた。すなわち、弥生時代中期以降の遺跡内は、河川氾濫を頻繁に受けるようになったが、その氾濫と氾濫の間の時期には、氾濫原において、環境勾配に応じた林分が形成される時期が存在したことが推定される。今回の調査区でも、第9層上部、第6層上部、第4層において、樹木の生育が確認された。このうち、第6層形成期にはヤマグワを主とする平地林が成立した時期が存在したことが推定される。第6層の層相は人為的攪拌が及んでいる盛土からなることから、林分の成立時期は人間活動の影響が及ばなくなった時期と考えるのが妥当である。第6層形跡期には、03-1-3区において泥が積層していく状況から、水位は上昇傾向にあったことが推定される。この水文条件の変化が調査区における人間の土地利用を阻害し、林分の成立を促したのではなからうか。この点については発掘調査成果や調査区の堆積層の累重状況を踏まえて慎重に評価する必要がある。また、第6層形成期の林分は、その後の第5層の氾濫堆積物の流入（大規模河川攪乱）によって、姿を消したとみられる。林分として成立していた期間は数10年であったことが年輪から推定される。弥生時代後期の第

4層形成期にはヤナギ属などが分布していたが、耕作地として土地利用されるようになり、草地卓越の植生へ変化したものとみられる。

以上、山賀遺跡における弥生時代の古植生変化は、河川攪乱などの影響と連動して変化してきたことが確認されたが、弥生時代前期から中期にかけての層位変化は河川攪乱などの自然攪乱だけでは説明がつかない変化であり、先述した弥生時代前期の木材利用状況をふまえると、弥生時代前期以降の人為的攪乱の影響も大きく影響しているものと思われる。この点については、周辺の考古遺跡における調査成果の蓄積をもって検討していくようにしたい。

引用文献

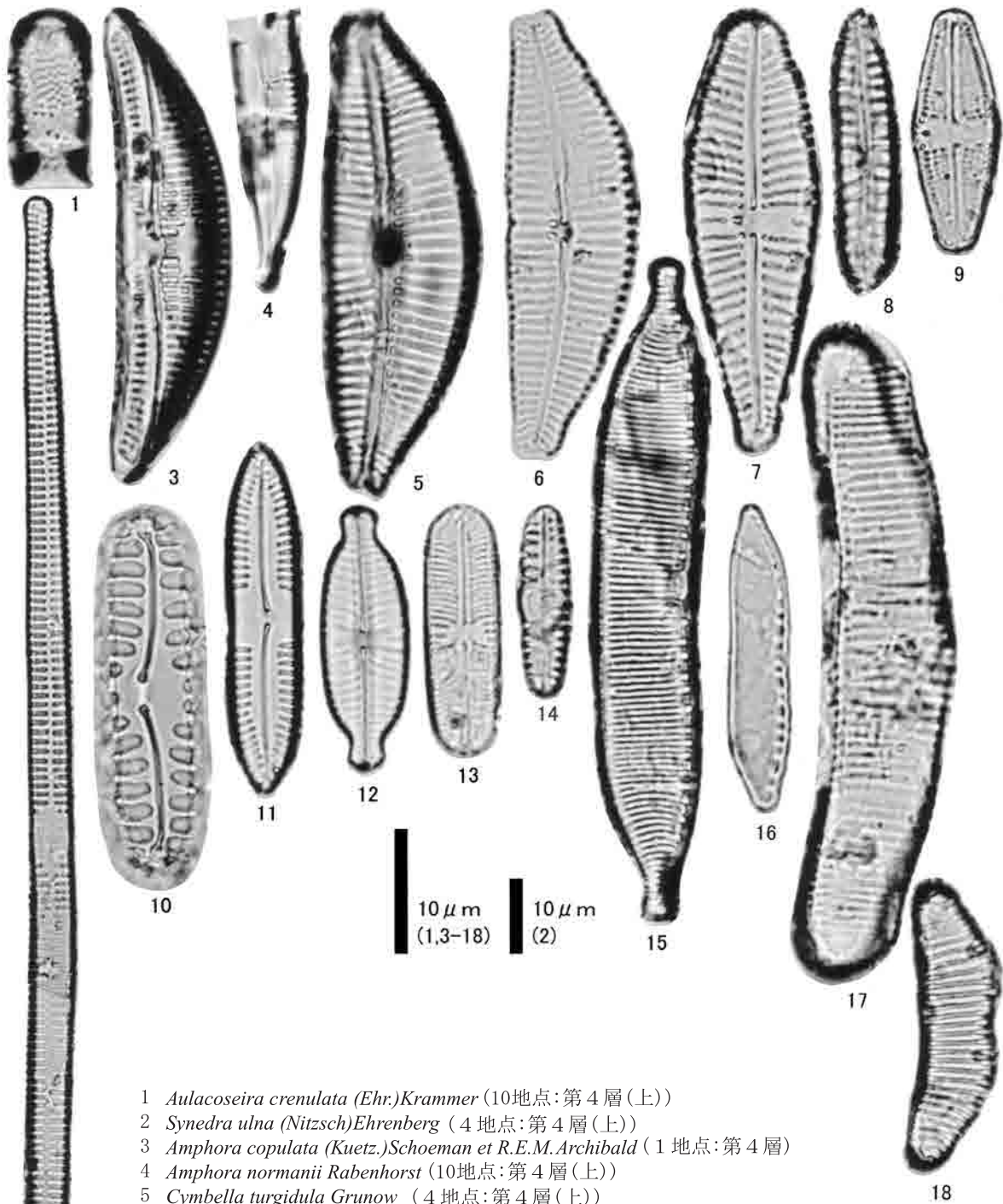
- 安藤 一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用,東北地理,42,73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophylic and saproxenous taxa. Diatom,10, 35-47.
- 別所 秀高,1996,Ⅲ-1.層序および遺跡形成過程.宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書-分冊2,(財)東大阪市文化財協会,7-26.
- 別所 秀高,1999,山賀遺跡第10次・若江北遺跡第7次一附若江北遺跡第8次調査(立会)。「瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘報告書-電気工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の調査報告」,(財)東大阪市文化財協会,67-83.
- 江口 誠一,1994,沿岸域における植物珪酸体の分布 千葉県小櫃川河口域を例にして.植生史研究,2,19-27.
- 江口 誠一,1996,沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物のpH値.ペドロジスト,40,81-84.
- 古谷 正和,1979,大阪周辺地域におけるウルム氷期以降の森林植生変遷. 第四紀研究,18,121-141.
- 原口 和夫・三友 清史・小林 弘,1998,埼玉の藻類 珪藻類.埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.
- 堀 和明・斎藤 文紀,2003,大河川デルタの地形と堆積物.地学雑誌,112(3),337-359.
- 堀内 誠示・高橋 敦・橋本 真紀夫,1996,珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について.-混合群集の認定と堆積環境の解釈-,日本文化財科学会,第13回大会研究発表要旨集,62-63.
- 伊藤 良永・堀内 誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.
- 金子 壽衛男・梶山 彦太郎,1984,山賀遺跡地下の貝化石層.「山賀(その3) 近畿自動車道天理~吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書-本文編-」,大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター,389-402.
- 金原 正子,2002,志紀遺跡3区における古環境復元.志紀遺跡(その2・3・5・6)大阪府営八尾志紀住宅建て替え事業に伴う発掘調査報告書,(財)大阪府文化財調査研究センター,209-232.
- 古環境研究所,1999,プラント・オパール分析から見た静清バイパス関連諸遺跡.静岡・清水平野の埋没古環境情報考古学的調査と自然科学分析資料・建設省地質調査資料から見た古環境の様相 一般国道1号線バイパス埋蔵文化財発掘調査1984~1993-,(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所,83-86.
- 古環境研究所,2000,大阪府小阪合遺跡の植物珪酸体化石分析結果.財団法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書第51集 小阪合遺跡都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う発掘調査報告書1,財団法人大阪府文化財調査研究センター,252-257.
- 近藤 鍊三・ピアスン 友子,1981,樹木葉のケイ酸体に関する研究(第2報)双子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について.帯広畜産大学研究報告,12, 217-229.
- 近藤 鍊三,2004,植物ケイ酸体研究.ペドロジスト,48,46-64.
- 小杉 正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用.第四紀研究,27,1-20.
- Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.

第9章 分析

- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In:
Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae,
Surirellaceae.In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae,
Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritische
Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/4.
Gustav Fischer Verlag,248p.
- 前田 保夫,1984,花粉分析学的研究よりみた近畿地方の洪積(更新)世後期以降の植生変遷,宮脇 昭(編著),
日本植生誌 近畿,至文堂,87-99.
- 松田 順一郎,1996,若江北遺跡第5次調査地でみられたさまざまな古地震跡「巨摩・若江北遺跡発掘調査報告書
-第5次- 都市計画道路大阪中央環状線巨摩橋交差点南行車線跨道橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」,(財)
大阪府文化財調査研究センター,141-159.
- 松田 順一郎,1999,瓜生堂第40次調査地における河川堆積作用の変化.「瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘報告書 -電気工事予定地
内に所在する埋蔵文化財包蔵地の調査報告」,(財)東大阪市文化財協会, 93-105.
- 松田 順一郎,2001,河内平野沖積低地南部における完新世後半の旧大和川分流路発達と人間活動,第50回埋蔵文化財研究集会 環境
と人間社会 -適応, 開発から共生へ- 発表要旨集,39-51.
- 松田 隆嗣,1984,山賀(その3)遺跡より出土した木製遺物の樹種について.「山賀(その3) 近畿自動車道天理~吹田線建設に
伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」,(財)大阪文化財センター,429-436.
- 松田 隆嗣,1983, 山賀遺跡(その4)より出土した木製遺物の樹種について. 「山賀(その4) 近畿自動車道天理~吹田線建
設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」,大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター,137-140.
- 中村 純,1967,花粉分析,古今書院,232p.
- 中静 透,2004,日本の森林/多様性の生物学シリーズ① 森のスケッチ,東海大学出版会,236p.
- 那須 孝悌,1989,活動の舞台:概論,永井 昌文・那須 孝悌・金 関恕・佐原 真(編著),弥生文化の研究1
弥生人とその環境,雄山閣出版,119-130.
- 大阪府教育委員会,1986,「山賀(その5・6) 近畿自動車道天理~吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書-河内平野に
おける初期農耕遺跡の調査」,p224.
- 大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター,1983,「山賀(その4) 近畿自動車道天理~吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
概要報告書」, p189.
- 大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター,1984,「山賀(その3) 近畿自動車道天理~吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調
査概要報告書-本文編-」, 472p.
- バリノ・サーヴェイ株式会社,1983, 山賀遺跡(その4)試料 花粉分析報告. 「山賀(その4) 近畿自動車道天理~吹田線建
設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」,大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター,119-133.
- バリノ・サーヴェイ,1984,山賀遺跡(その3)の珪藻及び花粉分析報告.「山賀(その3) 近畿自動車道天理~吹田線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査概要報告書-本文編-」,大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センター,461-464.
- バリノ・サーヴェイ株式会社,1986,第Ⅶ章 理化学分析の成果.1.花粉・珪藻分析結果と山賀遺跡の自然環境.
山賀(その5・6) 近畿自動車道天理~吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書,143-192.

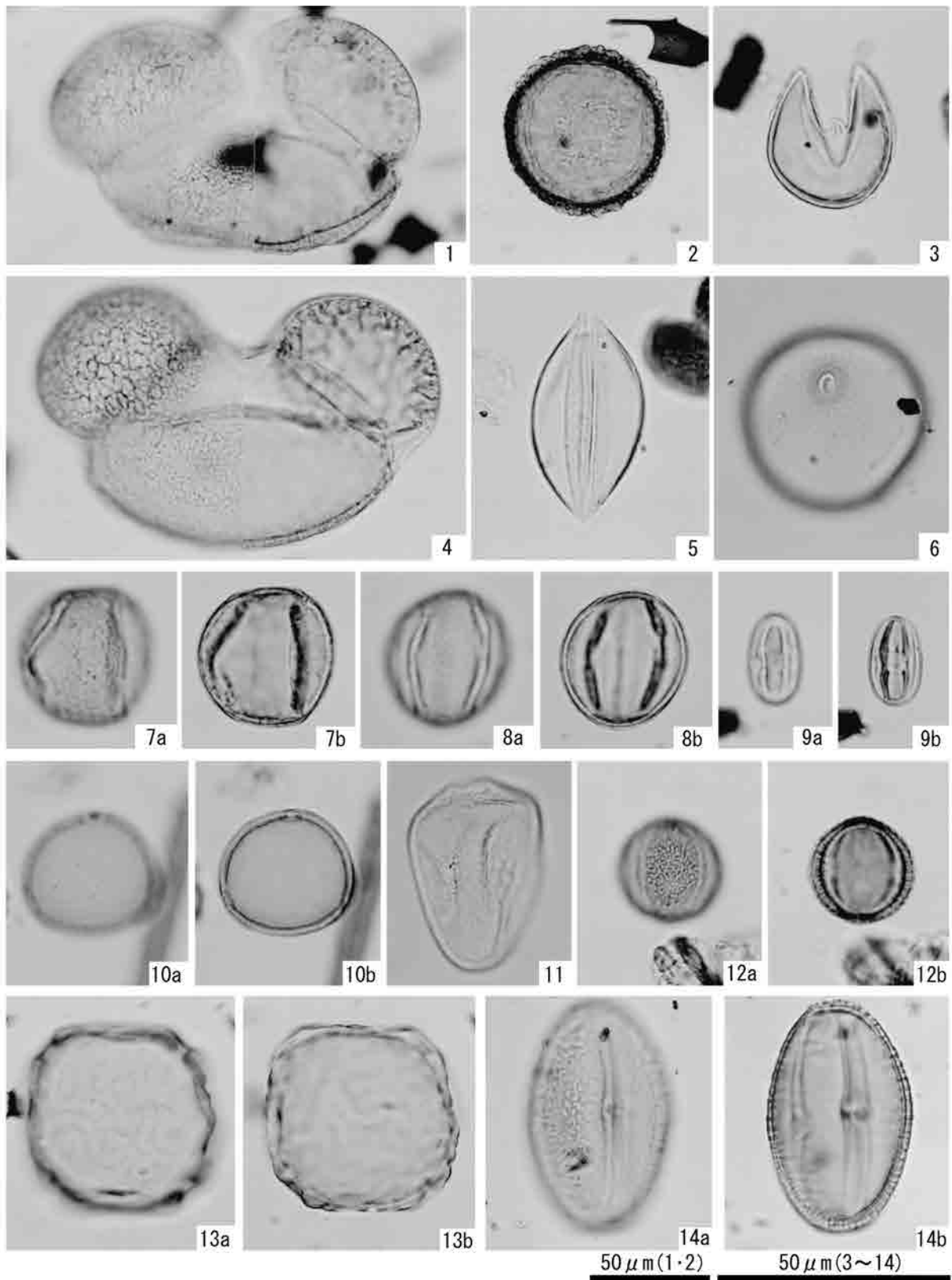
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G.1990,The diatoms. Biology & morphology of the genera. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- 嶋倉 巳三郎,1984,山賀遺跡(その3)の出土木製品の樹種について。「山賀(その3) 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」,大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター,413-428.
- 嶋倉 巳三郎,1983,山賀遺跡その1の堰材。「山賀(その1) 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」,(財)大阪文化財センター,79-83.
- 杉山 真二,2000,植物珪酸体(プラント・オパール).辻 誠一郎編著 考古学と自然科学3 考古学と植物学,同成社,189-213.
- 鈴木 茂,2003,植物珪酸体分析.玉櫛遺跡II-大阪府営茨木住宅(建て替え)新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-,(財)大阪府文化財センター,160-167.
- 徳永 重元・山内 輝子,1971,花粉・孢子.化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.
- 外山 秀一,1983,山賀遺跡におけるプラント・オパール分析。「山賀(その1) 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」,(財)大阪文化財センター,85-89.
- 外山 秀一,2002,池島・福万寺遺跡の立地と環境.池島・福万寺遺跡2(福万寺I期地区)一級河川恩知川治水緑地建設に伴う発掘調査報告書-分析・考察編,(財)大阪府文化財センター,411-429.
- 辻 誠一郎・植田 弥生・木村 勝彦,1995,福井県三方低地南部における完新世湿地林の復元と古生態.植生研究,3,2,61-70.
- 辻本 裕也,2001,自然科学分析の成果.長岡京跡・物集女車塚周辺遺跡,(財)向日市埋蔵文化財センター,202-212.
- 辻本 裕也・田中 義文・辻 康男・伊藤 良永・馬場 健司,2004,第8章 小阪合遺跡(第2次)発掘調査に伴う花粉・珪藻・植物珪酸体分析.(財)大阪府文化財センター調査報告書 第116集,(財)大阪府文化財センター,180-213.
- 辻本 裕也・辻 康男,2002,池島・福万寺遺跡の古環境復元.池島・福万寺遺跡2(福万寺I期地区)一級河川恩知川治水緑地建設に伴う発掘調査報告書-分析・考察編.(財)大阪府文化財センター,361-410.
- 渡辺 仁治,2005,淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数DAI_{po},pH耐性能.内田老鶴圃,666p.
- 山田 治,1984,山賀遺跡の液体シンチレーション¹⁴C年代測定。「山賀(その3) 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書-本文編-」,大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター,457-460.

写真1 珪藻化石



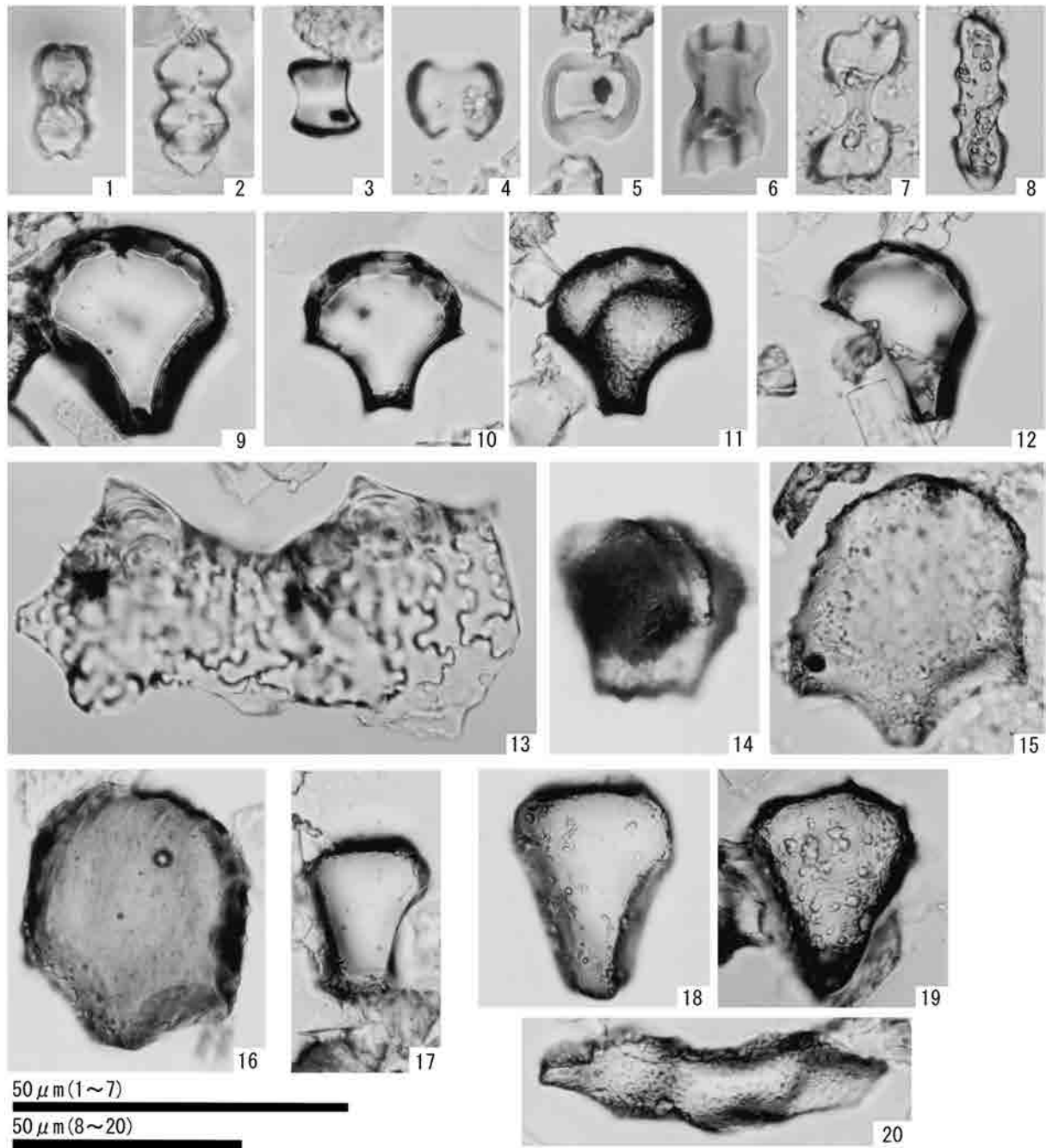
- 1 *Aulacoseira crenulata* (Ehr.)Krammer (10地点:第4層(上))
- 2 *Synedra ulna* (Nitzsch)Ehrenberg (4地点:第4層(上))
- 3 *Amphora copulata* (Kuetz.)Schoeman et R.E.M.Archibald (1地点:第4層)
- 4 *Amphora normanii* Rabenhorst (10地点:第4層(上))
- 5 *Cymbella turgidula* Grunow (4地点:第4層(上))
- 6 *Cymbella rheophila* Ohtsuka (4地点:第4層(上))
- 7 *Gomphonema helveticum* Brun (4地点:第4層(上))
- 8 *Gomphonema angustatum* var. *linearis* Hustedt (10地点:第4層(上))
- 9 *Luticola mutica* (Kuetz.)D.G.Mann (1地点:第4層)
- 10 *Pinnularia borealis* Ehrenberg (8地点:第4層(下))
- 11 *Pinnularia schroederii* (Hust.)Krammer (1地点:第4層)
- 12 *Placoneis elginensis* (Greg.)E.J.Cox (5地点:第4層)
- 13 *Sellaphora laevisissima* (Kuetz.)Mann (1地点:第4層)
- 14 *Reimeria sinuata* (W.Greg.)Kocielek et Stoermer (4地点:第4層(上))
- 15 *Hantzschia amphioxys* (Ehr.)Grunow (6地点:第4層)
- 16 *Nitzschia brevissima* Grunow (10地点:第4層(上))
- 17 *Eunotia pectinalis* var. *undulata* (Ralfs)Rabenhorst (10地点:第4層(上))
- 18 *Eunotia praeupta* var. *bidens* Grunow (1地点:第4層)

写真2 花粉化石



1. モミ属(1地点:第4層) 2. ツガ属(4地点:第4層(上)) 3. スギ属(4地点:第4層(上)) 4. マツ属(4地点:第4層(上)) 5. イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科(4地点:第4層(上)) 6. イネ科(4地点:第4層(上)) 7. コナラ属コナラ亜属(4地点:第4層(上)) 8. コナラ属アカガシ亜属(4地点:第4層(上)) 9. シノキ属(4地点:第4層(上)) 10. エノキ属-ムクノキ属(4地点:第4層(上)) 11. カヤツリグサ科(4地点:第4層(上)) 12. ヨモギ属(4地点:第4層(上)) 13. ニレ属-ケヤキ属(12地点:1409溝) 14. ツタ属(12地点:1409溝)

写真3 植物珪酸体



- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体(4地点:第4層(下)) | 2. イネ属短細胞珪酸体(6地点:第4層) |
| 3. ネザサ節短細胞珪酸体(4地点:第4層(上)) | 4. ヨシ属短細胞珪酸体(1地点:第4層) |
| 5. ヨシ属短細胞珪酸体(5地点:第4層) | 6. コブナグサ属短細胞珪酸体(8地点:第4層(下)) |
| 7. ススキ属短細胞珪酸体(1地点:第4層) | 8. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(1地点:第4層) |
| 9. イネ属機動細胞珪酸体(1地点:第4層) | 10. イネ属機動細胞珪酸体(4地点:第4層(下)) |
| 11. イネ属機動細胞珪酸体(5地点:第4層) | 12. イネ属機動細胞珪酸体(8地点:第4層(上)) |
| 13. イネ属穎珪酸体(4地点:第4層(上)) | 14. ネザサ節機動細胞珪酸体(4地点:第4層(上)) |
| 15. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点:第4層) | 16. ヨシ属機動細胞珪酸体(5地点:第4層) |
| 17. ウシクサ族機動細胞珪酸体(1地点:第4層) | 18. ウシクサ族機動細胞珪酸体(5地点:第4層) |
| 19. ウシクサ族機動細胞珪酸体(10地点:第4層(上)) | 20. 樹木起源第IVグループ(4地点:第4層(下)) |

山賀遺跡における弥生時代堆積物の堆積構造の検討

辻本裕也（パリノ・サーヴェイ株式会社）

はじめに

今回の分析調査では、山賀遺跡03-1-2区と3区の弥生時代の堆積物について、X線写真と土壤薄片による観察記載を行い、その特徴と形成過程について検討する。考古遺跡における堆積物・土壌の形成過程、特に遺構の形成・埋没過程の検討では肉眼観察では確認できない情報も多く、X線写真を用いたメソスケールの堆積物の構造記載や、土壤薄片を用いたマクロスケールでの堆積物の観察記載を行うことの有用性が指摘されている（Baraham,1995 Courty et al,1989）。

1. 試料

分析調査は、調査区内の4箇所地点で遺構検出面の第6面より下位堆積物について実施する。各調査地点の位置および堆積層の累重状況を図358に示す。各地点から連続する不攪乱柱状試料を採取し、分析試料とした。

2. 分析方法

(1) 軟X線写真撮影

採取した不攪乱試料は、厚さ1cmまで板状に成形し、湿潤状態のまま、管電圧50kvp、電流3mA、照射時間270秒のX線強度条件において軟X線写真撮影を実施した。撮影は元興寺文化財研究所の協力を得た。X線写真の記載は、堆積物については宮田ほか（1990）、土壌については佐藤（1990a・b）・森ほか（1992）・成岡（1993）などを参考とする。

(2) 土壤薄片

土壤薄片作成試料は、80℃で1日間乾燥した後、樹脂（ペトロポキシおよびシアノボンド）で固化を行い、片面の研磨を実施した。固化および研磨済み試料は、スーパーセメダインにより研磨面をスライドガラスに接着する。その後、反対側の面について厚さ70μm程度まで研磨を行い、カナダバルサムによりカバーガラスを接着した。土壤薄片の記載は、久馬・八木久訳監修（1998）の「土壤薄片記載ハンドブック」を参考とする。

3. 結果

(1) A地点

本地点の試料採取位置は、03-1-2区北部の229高まり部分に位置する。試料採取層準は、第6層から第9層までで、X線写真の観察の結果、堆積物ブロックや植物片の量、色調などを目安に14層に区分した（図359）。これら各層の層界に6-aから9-gの名称を付してあるが、最初の数字が発掘調査時に設定されている層名に相当し、アルファベットが細分された層順を示す。すなわち、6-a層準は、6層の最上位の層準を示していることになる。X線写真の明るい部分はより高い密度の物質（ここではおもにシルトと砂・礫、酸化鉄や炭酸鉄）からなり、暗い部分は低密度の物質（水分の多い粘土、細粒

第9章 分析

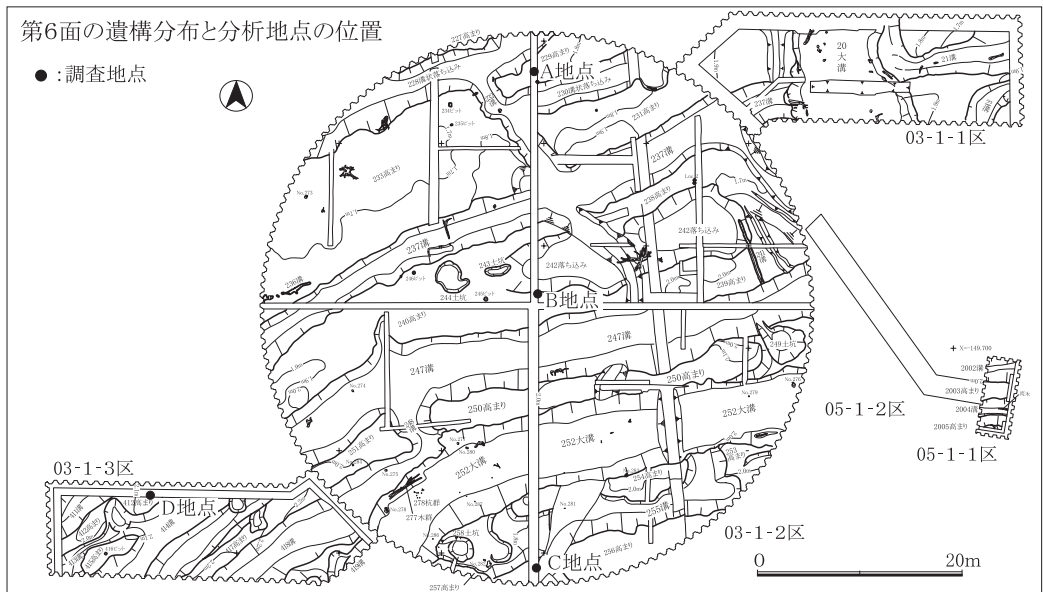
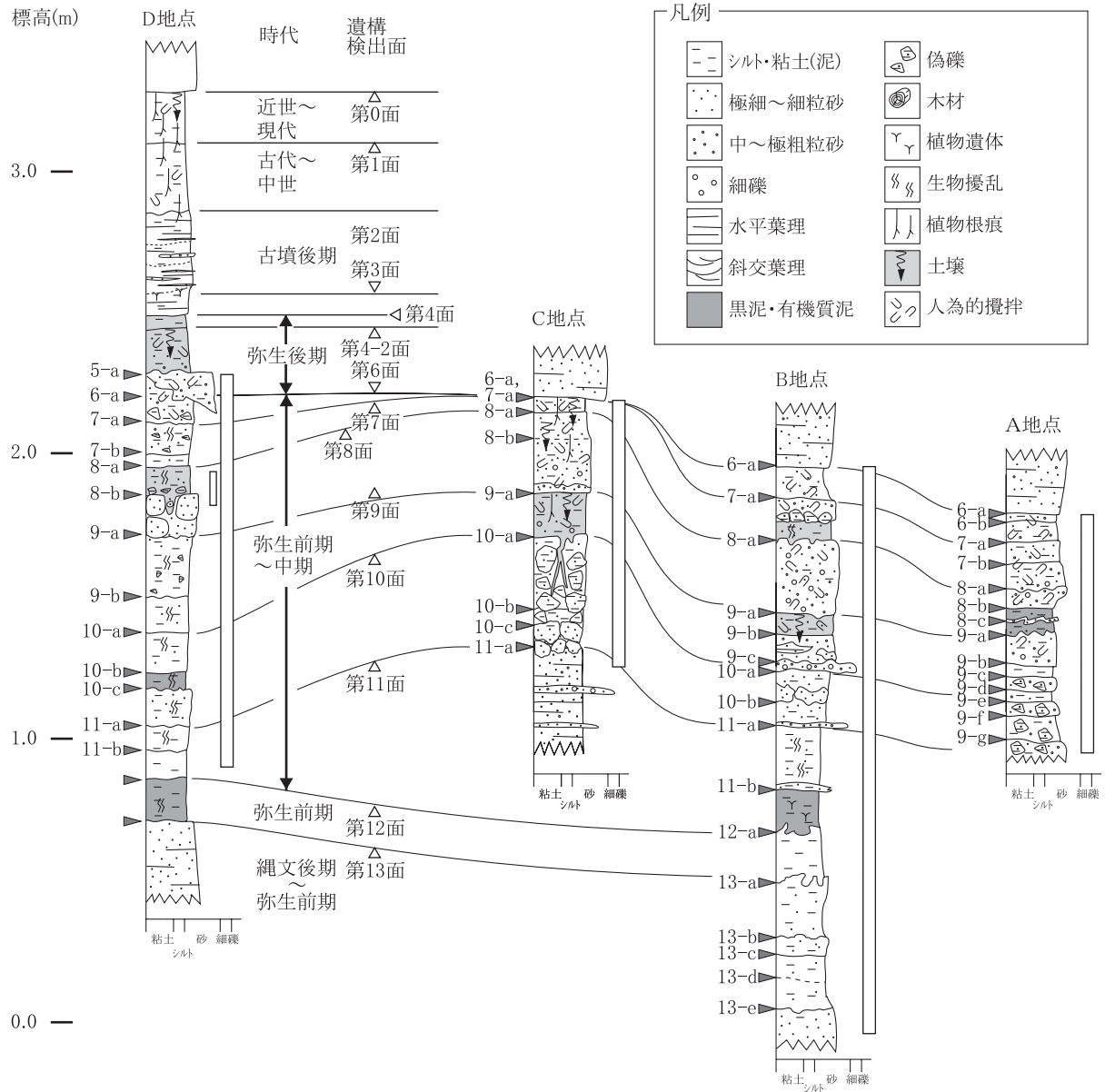


図358 試料採取地点と柱状断面図

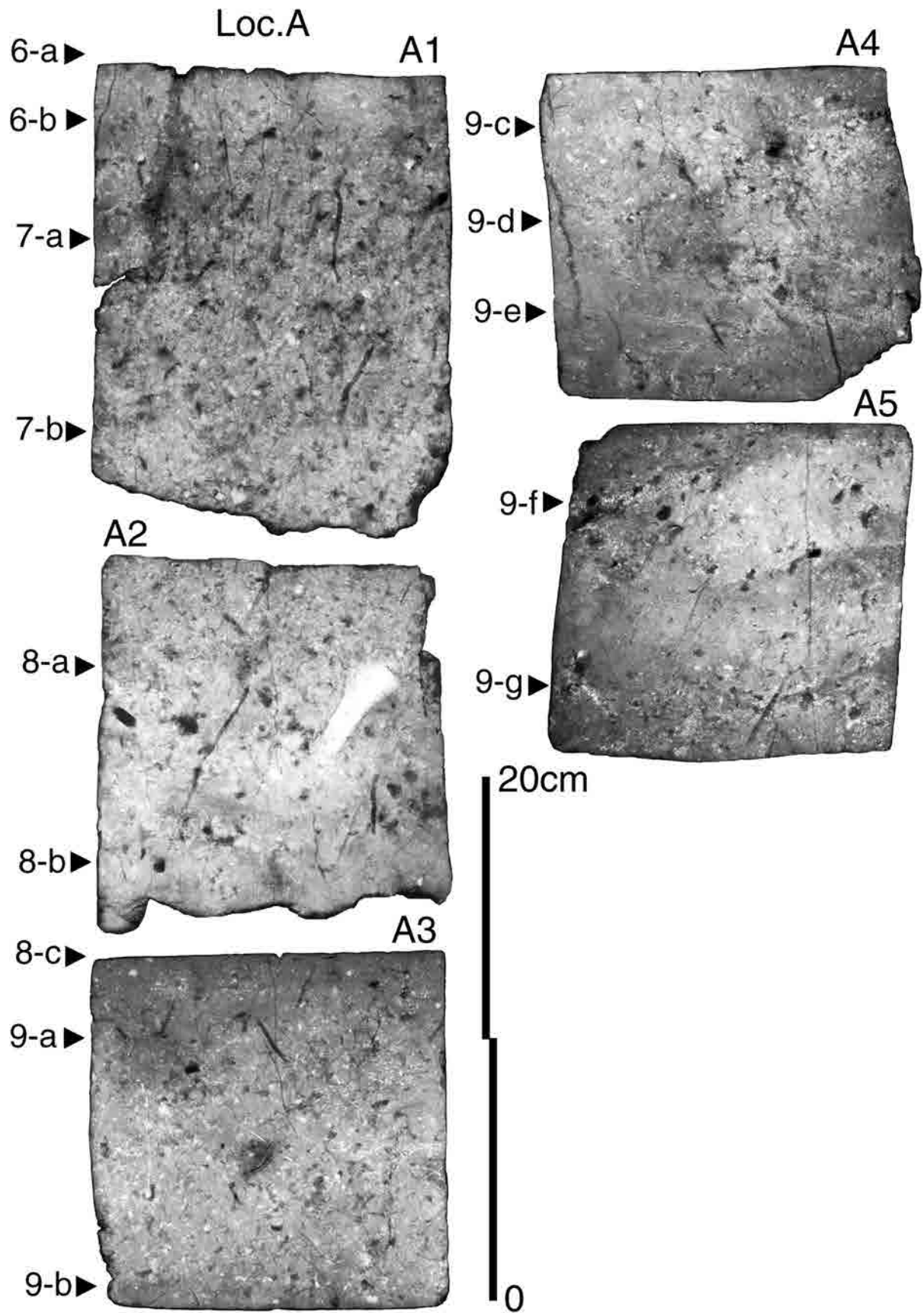


図359 A地点試料のX線写真

のシルト、植物性の炭片、植物遺体、孔隙など）からなる。以下に各層準の特徴について記載する。

6 - a ~ 6 - b 層準は、粘土質砂質シルトからなる不明瞭なブロック土からなる。ブロック土間の空隙は泥で充填されており、水位の高い状況で形成されたことが推定されている。

6 - b ~ 7 - a 層準は砂質シルトのブロック土からなり、ブロック土間の空隙は、泥で充填されるものも存在するが、6 - a ~ 6 - b 層準ほどではない。

7 - a ~ 7 - b 層準は細礫混じりシルト質細粒砂のブロック土からなり、著しく擾乱されている。ブロック土は大きさ5~10mm程度の亜角状~亜円状をなし、空隙は同質の破片からなる。

7 - b ~ 8 - a 層準は細礫混じりシルト質細粒砂のブロック土からなる。ブロック土の形状は下部で亜角状をなすものが多く、上部で亜円状をなすものが多い。大きさは5~10mm程度であり、上位では小さくなり、サイズが揃ってくる。

8 - a ~ 8 - b 層準は、細礫混じりシルト質細粒砂のブロック土からなる。7 - b ~ 8 - a 層準と基本的に同様の構造を示すが、全体に酸化鉄が沈着することから、地下水水位の変動帯にあたり、当時の調査地点が水はけの悪い状態にあったことを示唆する。

以上の6 - a ~ 8 - b 層準に認められた土壤構造の層位変化は、松田（1997,2001 a・2001 b・2004）により記載されている、畑地耕作土の土壤構造の層位変化と類似するものである。

8 - b ~ 9 - a 層準では8 - c 層準に細粒砂の薄層を挟在するが、その上・下位層準は砂質シルトからなる。擾乱されているものの、上位層で認められたブロック土は認められない。一時的にせよ水位が高くなり、滞水したことが推定される。

9 - a ~ 9 - b 層準は、細礫混じり砂質シルトのブロック土からなり、著しく擾乱されている。亜角よりさらに角のとれたブロック土が認められる。大きさは5 mm以下の炭化物微細片が確認される。上記した耕作土の構造に類似する。

9 - b ~ 9 - c 層準は、粘土質極細粒砂質シルトのブロック土からなり、10mm程度の亜角状をなす。9 - c ~ 9 - d 層準は、細礫混じりシルト質砂のブロック土からなり、20~30mm大の亜角状をなす。空隙は同質のブロックの細片からなる。9 - d ~ 9 - e 層準は：砂質シルトとシルト質砂のブロック土からなる。大きさは10mm~30mm程度である。9 - e ~ 9 - f 層準は、細礫混じり砂質シルトのブロック土からなる。大きさ5~20mmと様々であるが、いずれも初生の堆積構造は認められない。9 - f ~ 9 - g 層準は、細礫混じり砂質シルトと細礫混じりシルトのブロック土からなる。いずれも初生の堆積構造は認められない。9 - g 以深は亜角~角状をなし、大きさ15mm前後、空隙は砂からなる細礫混じりシルト砂のブロック土からなる。以上の9 - b ~ 9 g 以深堆積物はいずれも初生の構造は認められないこと、砂と泥がかき回されていることから、人為的な盛土と推定される。

(2) B地点

本地点の試料採取位置は、03 - 1 - 2 区中央の240高まり部分に位置する。試料採取層準は、第6層から第13層までであり、X線写真観察の結果17層準に区分した（図360）。これら各層の層界に6 - a から13 - e の名称を付した。

6 - a ~ 7 - a 層準は、粘土質砂質シルトからなり、見かけ上塊状をなす。初生の堆積構造は認められない。水位の高い状況で形成されたことが推定される。

7 - a ~ 7 - b 層準は、砂質シルトのブロック土からなり、著しく擾乱されている。ブロック土は大きさ5~10mm程度の亜角状~亜円状をなし、空隙は同質の破片からなる。

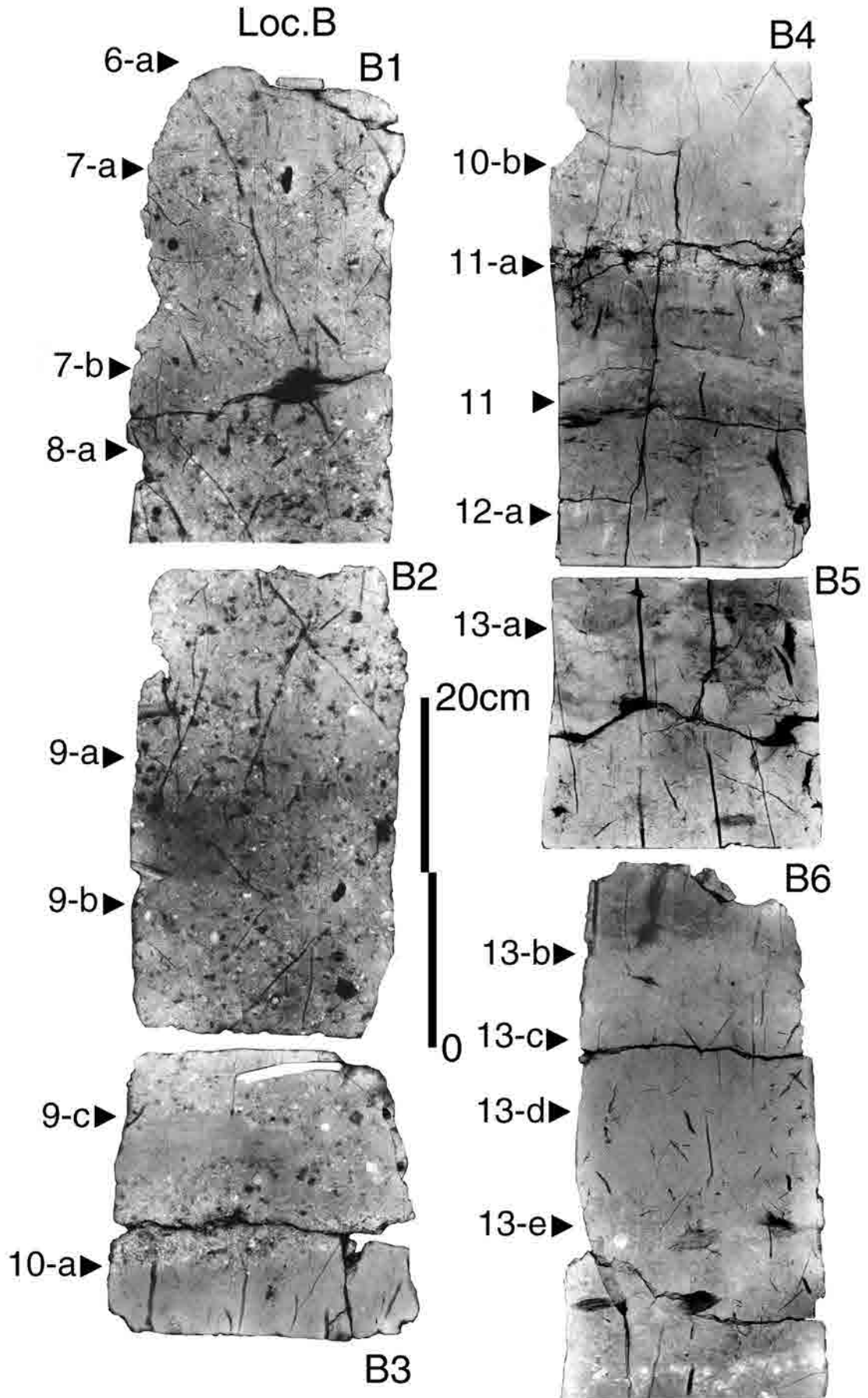


図360 B地点試料のX線写真

第9章 分析

7 - b ~ 8 - a 層準は、細礫混じりシルト質細粒砂のブロック土からなる。ブロック土の形状は下部で亜角状をなすものが多く、上部で亜円状をなすものが多い。大きさは5~10mm程度であり、上位では小さくなり、サイズが揃ってくる。

8 - a ~ 9 - a 層準も同様な構造を示し。細礫質砂質泥のブロック土からなる。大きさは10mm前後と良く揃っており、形状は亜円状をなすものが多く、間隙は一部砂で充填されている。上部では亜角よりさらに角のとれたブロック土の層が認められ、上部では2mm以下の細粒な粒団がほぼ均質に分布する。粒団は円~亜円状で、主に泥からなる。また、5mm以下の亜角状の泥からなるブロック土や炭化物微細片が多数確認される。

以上の7 - b ~ 9 - a 層準の土壤構造の層位変化は、松田(1997,2001a・2001b・2004)により記載されている、畑地耕作土の土壤構造と類似するものである。耕作土と判断される。

9 - a ~ 9 - b 層準は、シルト質砂のブロック土からなる。ブロック土は比較的大きさが揃っており、土壤層序A層に形成される粒団に類似する。腐植に富むことを合わせ考えると、本層形成期には植生に覆われ、土壤が発達したことが推定される。

9 - b ~ 9 - c 層準は細礫混じり砂質シルトのブロック土からなり、著しく擾乱されている。亜角よりさらに角のとれたブロック土が認められる。大きさは5mm以下の炭化物微細片が確認される。上記した耕作土の構造に類似する。9 - c ~ 10 - a 層準は、初生の堆積構造を残すシルト質極細粒砂のブロック土が認められるが、良く攪拌されたシルト質細粒砂のブロック土とが混在することから、盛土と判断される。本層上位の耕作土造成に伴う盛土で、耕起された後にさらに碎土された堆積物が層状に残存した可能性がある。

10 - a ~ 10 - b 層準は最下部に葉理を残す細粒砂~細粒砂質シルトからなる。擾乱されており、初生の堆積構造は不明瞭であるが、最下部で葉理をなす。氾濫堆積物と判断される。10b~11a層準は細粒砂質シルトからなる。上位層から伸びる植物根痕のほか、本層準より発達する1mm以下の微細な植物根痕が認められる。

11 - a ~ 11 - b 層準は細粒砂質泥から細粒砂、11 - b ~ 12 - a 層準は微細な植物遺体を含むシルト質細粒砂、12 - a ~ 13 - a 層準はシルト質粘土、13 - a ~ 13 - b 層準はシルト質粘土~砂質シルト質粘土、13 - b ~ 13 - c 層準は砂質シルト質粘土、13 - c ~ 13 - d 層準はシルト質粘土、13 - d ~ 13 - e 層準は砂質シルト質粘土、13 - e 以深は粘土混じり、シルト質細粒砂からなる。このうち13 - d ~ 13 - e 層準より上位では、上方粗粒化する堆積ユニットが4セット確認され、その層厚は薄くなる。これは、第13層から第10層にかけて、堆積空間が小さくなり、氾濫の影響が小さくなることを示している。第10層形成期の調査区における人間活動の契機となっている可能性がある。

(3) C地点

試料採取位置は、03 - 1 - 2区南部の256高まり部分に位置する。試料採取層準は、第6層から第11層までである。X線写真の観察の結果、8層に区分した(図361)。これら各層の層界に6 - aから11 - aの名称を付した。

6 - a・7 - a ~ 8 - a 層準は細礫混じりシルト質粗~中粒砂からなる。著しく擾乱されており、初生の堆積構造は確認されない。

8 - a ~ 8 - b 層準は、細礫・粗粒砂混じりシルト質細粒砂のブロック土からなる。ブロック土は亜角状をなし、大きさは10mm程度である。間隙は砂からなる。また、炭化物が混じる。耕作土の特徴に

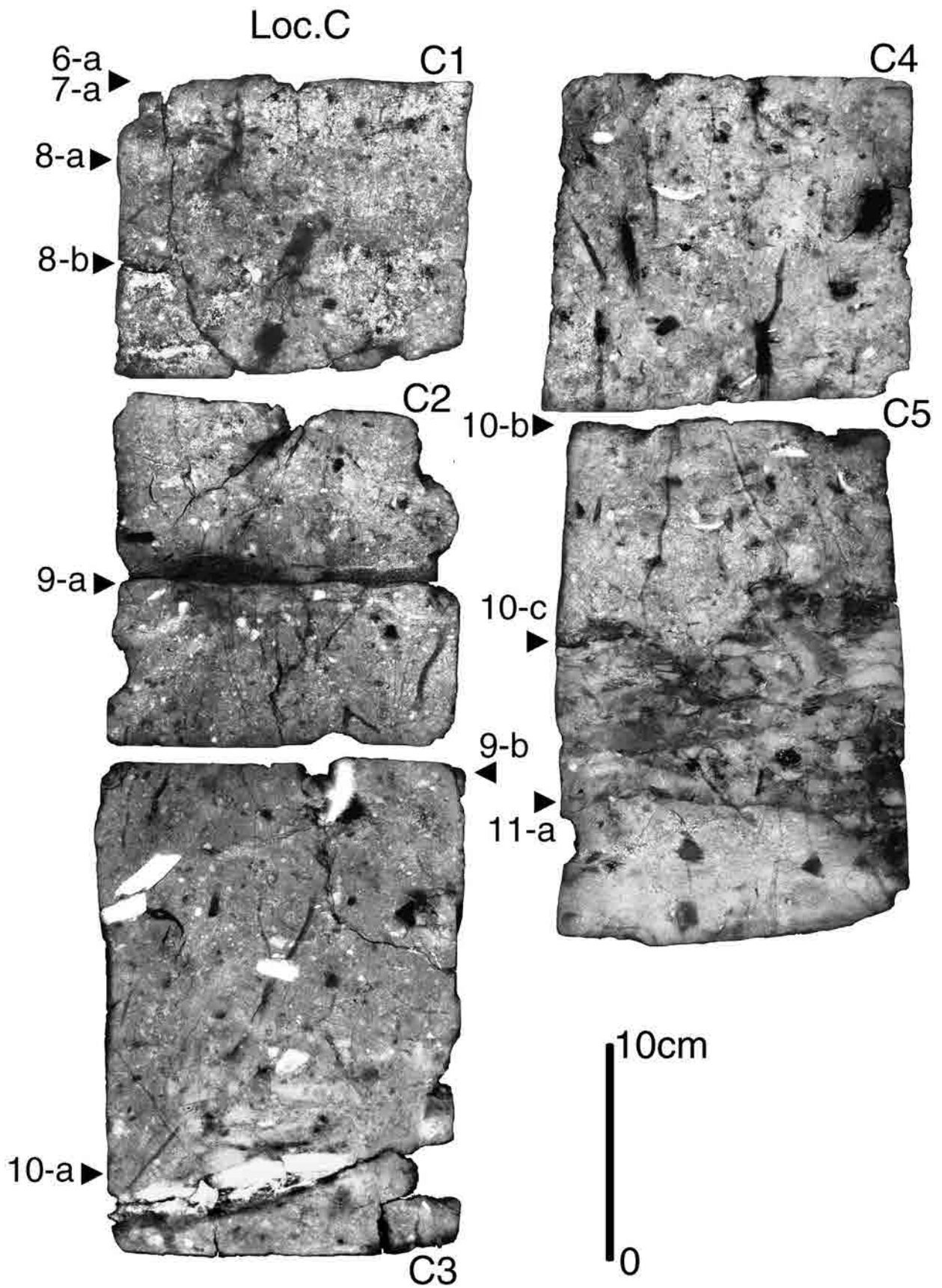


図361 C地点試料のX線写真

類似する。

8 - b ~ 9 - a 層準は、細礫混じりシルト質砂のブロック土からなる。著しく攪拌されている。ブロック土の形状は下部で垂角状をなすものが多く、上部で垂円状をなすものが多い。大きさは5~15mm程度であり、上位で小さくなり、サイズが揃ってくる。耕作土の特徴に類似する。

9 - a ~ 9 - b 層準は、細礫混じりシルト質細粒砂のブロック土からなる。その大きさは5~10mmであり、泥と礫が良く攪拌されている状況が確認される。初生の堆積構造は認められない。耕作土の特徴に類似する。

9 - b ~ 10 - a 層準は、粘土質シルト質砂のブロック土からなる。良く攪拌されている状況が観察される。上部は土壌構造が発達する。

10 - a ~ 10 - b 層準は、細礫混じりシルト質砂のブロック土からなる。ブロック土には初生の堆積構造は認められず。良く攪拌されている状況が確認される。

10 - b ~ 10 - c 層準：写真の中央から左側は遺構埋土になり、上位の堆積物により充填されている。右側の堆積物は炭化物を多く含むシルト質砂のブロック土からなる。本堆積物は、下位の10 - c ~ 11 - a 層準の堆積物が攪拌されたものと判断される。

10 - c ~ 11 - a 層準：大量の炭化物を含む泥ブロック土からなる。ブロックの形状は板状で、幅2~3cm程度である、ブロック土間の間隙はシルトや炭化物により充填されている。調査区内では確認されない堆積物であり。炭化物を多量に含むことから、調査区背後の距離的に離れた場所から持ち込まれた堆積物と判断される。すなわち、人為的な盛土と判断される。

11 - a 以深の層準：シルト質砂からなり、不明瞭ながら葉理構造が確認される。氾濫堆積物と判断される。

(4) D地点

試料採取位置は、03 - 1 - 3 区北部の412高まり部分に位置する。試料採取層準は、第6層から第11層までである。X線写真観察結果から17層に区分した(図362)。これら各層の層界に5 - a から11 - b の名称を付した。

5 - a ~ 6 - a 層準：シルト質粗粒~中粒砂のブロック土からなる。垂角状をなし、大きさは10~15mm前後である。初生の堆積構造が認められないことから、人為的な攪拌が及んだ堆積物と判断される。偽礫の大きさは数mm程度である。

6 - a ~ 7 - a 層準：粗粒砂混じり細粒~極細粒砂質シルトのブロック土からなる。上位層準から落ち込んだシルト質粗粒~中粒砂のブロック土が確認される。本層準も人為的な攪拌が及んだ堆積物と判断される。

7 - a ~ 7 - b 層準：細粒~極細粒砂質シルトからなる。擾乱されている。垂直方向に伸びる大小の植物根痕が分布する。相対的に湿潤で冠水状態が続いたことがおよそ推定される。また、本堆積物中には数mm程度の粘土からなる微小なブロック土が多数確認される。このような微小ブロック土の成因については不明であるが、初生の堆積物中に、近隣あるいはその場の地表堆積物を材料とするブロックが混入した可能性がある。

7 - b ~ 8 - a 層準：塊状をなす細粒砂混じりシルト質粘土からなる。擾乱されており、初生の堆積構造は不明瞭である。上位・下位層準との層界は凹凸が著しく変形しているようにも見えるが、これは植物根の擾乱によるものと判断される。

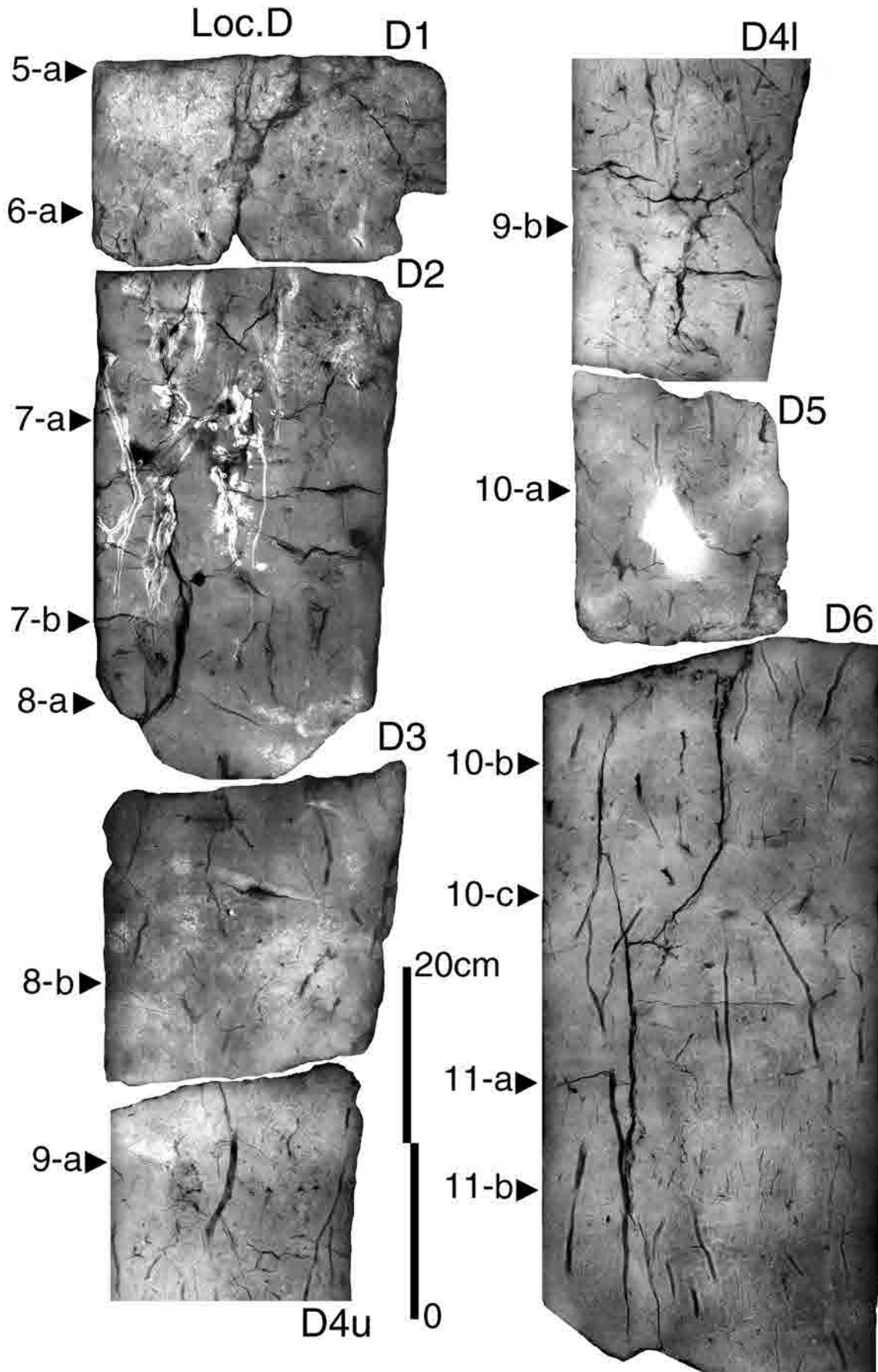


図362 D地点試料のX線写真

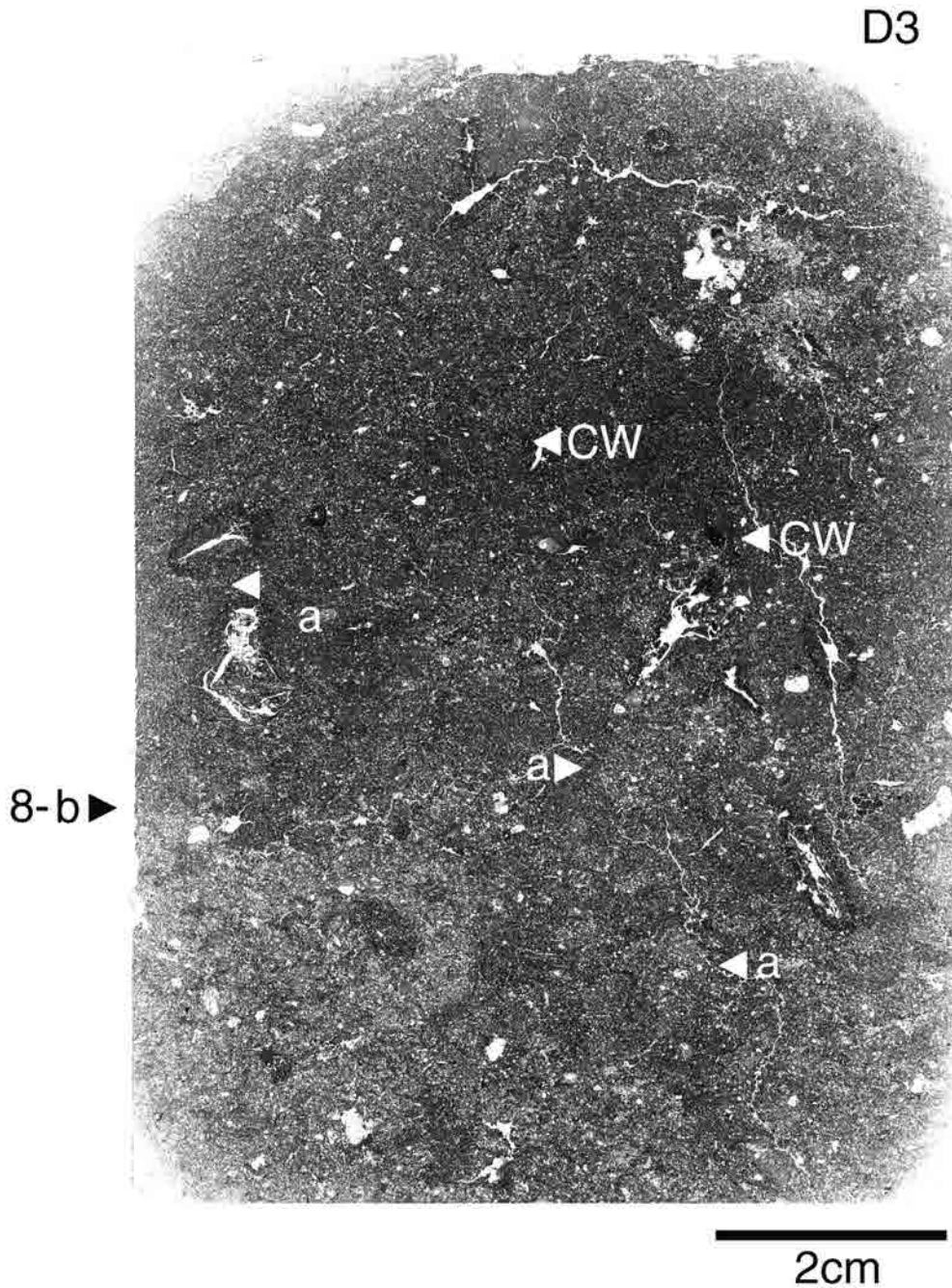


図363 D地点第8層試料の土壤薄片写真

8 - a ~ 8 - b 層準：腐植に富む砂質シルトからなる。10mm程度の亜角状をなすブロック土が散在している。炭化物も比較的多く含む。このような状況は土壤薄片でも観察される（図363）。薄片写真の a がブロック土、CWが炭化物を含む材がチャンネル孔隙をなすと考えられる直線状の孔隙がやや発達する。直線状の孔隙には、下斜め方向にいくつも枝分かれするものも存在する。粒団の発達は、ほとんど認められない。

8 - b ~ 9 - a 層準はシルト質極細粒砂のブロック土からなる。著しく擾乱されており、8 ~ 10cm 程度、亜角状から亜円状の形状を有する大きなブロック土からなる。ブロック土間のマトリクスは砂質シルトからなる。土壤薄片の下半部が相当する。

9 - a ~ 9 - b 層準は、細粒混じりシルト質粘土からなる。生物擾乱により、初生の堆積構造は不明

瞭となっている。微小ブロック土が多数確認される。

9 - b ~ 10 - a 層準は細粒砂混じりシルト質粘土、10 - a ~ 10 - b 層準はシルト質粘土、10 - b ~ 10 - c 層準はシルト質粘土、10 - c ~ 11 - a 層準は極細粒砂混じりシルト質粘土、11 - a ~ 11 - b 層準はシルト質粘土、11 - b 層準以深は腐植に富むシルト質粘土からなる。これらの堆積層では、上位層から連続する根痕のほかに、本層準から発達する微細な植物根痕が確認される。生物擾乱の影響受けるが比較的初生の堆積構造が残存している。また、10 - a 層準は、試料中でも土器を包含し、隣接する場所において1409溝が掘削されるなど人間活動が発掘調査では確認されているが、本地点では他地点のように顕著な人為的な攪拌の痕跡は認められなかった。距離的に近い地点間での土地利用の違いを示す結果といえる。

4. 調査地域における弥生時代前期から中期の堆積物の特徴

ここでは、上述してきた各地点の堆積物の観察結果と発掘調査時の所見を踏まえて、調査区の堆積層の特徴について述べる。

第13層から第10層は、泥質砂から砂質泥が累重しており、おおむね上方細粒化している。植物根痕など生物により擾乱されているものの、初生の堆積構造は比較良く残存している。このような層相から、当時の調査区は、氾濫時の浮流堆積物が沈降堆積する後背湿地の堆積環境にあったことが推定される。特に第12層上部では腐植に富む泥が集積することから、堆積速度が遅く、安定した後背湿地の状況が継続していたことが推定される。

山賀遺跡が位置する中河内地域では、縄文時代晩期ないしそれ以前に形成された開析流路の弥生時代前期までの充填と、その後の弥生時代中期における曲流を伴う側方堆積作用への活発化、さらに弥生時代後期におけるいくらかの側方移動を伴いながらの流路変更による小規模で継続期間が短い流路の堆積作用という一連の河川堆積システムの変遷といった地形発達過程が確認されている（松田,1996）。今回の第13層から第10層形成期は、発掘調査時の出土遺物の時代性を踏まえると、縄文時代晩期に形成された開析流路が弥生時代前期にかけて埋没していく時期に相当することになり、推定される堆積環境は、松田（1996）の見解を追従する結果となっている。

第10層形成期になると、調査区の堆積環境が一変する。発掘調査結果では、この時期に03 - 1 - 3区から03 - 1 - 2区に南西～北東方向の溝が掘削される。03 - 1 - 2区の南東部の沖積リッジ斜面では調査区外より堆積物が持ち込まれ、盛土が行われている。この盛土は炭化物を多量に含み、植生が火入れや火災などによって焼失した場所の堆積物と判断される。由来の詳細は不明であるが、今回の調査区だけでなく、山賀遺跡における弥生時代中期の人間活動を考える上で重要である。一方、A・B地点では10層形成以降に盛土（第9層）が行われているが、D地点では盛土は行われておらず、後背湿地の堆積環境が継続していた。A・B地点の盛土堆積物は、細礫や砂粒を多く含み、初生の堆積構造を残すブロック土も含み、氾濫堆積物を利用していることが推定される。盛土が行われなかったD地点では粗粒な氾濫堆積物の堆積が認められていないことから、盛土には掘削されていた溝内に流入した氾濫堆積物を利用している可能性が高いと考える。なお、弥生時代中期には、上記した松田（1996）で示されているように氾濫堆積が活発化する時期とされることと、今回の調査区で確認されている堆積層の累重状況は良く一致している。

A地点やB地点で確認された高まりをなす、第9層の盛土堆積物の構造は、下部に盛土時の構造を残

す堆積物が認められるが、上部は良く攪拌されており、ブロック土の大きさが小さくなるなどの層位変化が確認された。この変化は、先述したように松田（1997,2001a・2001b・2004）により記載されている、畑地耕作土の土壤構造と類似するものであることから、耕作地として利用されていた可能性が高い。

第10層形成期以降に構築された溝は、松田（1996）による地形発達過程から03-1-2区南東部の沖積リッジ以外の領域は水位の高い状態にあったと推定されることから、排水と耕作地造成といった両方を意識した人間活動であった可能性が考えられる。なお、発掘調査では、第9層形成期には03-1-2区南部を中心に木棺墓が構築されており、畠耕作土と墓が隣接する状況が存在したことが推定される。

また、第9層形成期の03-1-3区のD地点が位置する高まりでは、顕著な人間活動の痕跡が確認されず、それ以前の時期と大差ない後背湿地の堆積環境が継続していた。同一の溝沿いに位置するB地点とD地点では明らかに土地利用の状況が異なっていたことを示しており、本時期に起こっている水位上昇と密接に関わった土地利用のあり方を示す事例として興味深い。

その後、第9層から第8層形成期にかけて、A地点は水位上昇により冠水する。B地点では耕作地が一時的に放置され、植生下での土壤の発達が確認される。これら両者の変化は、別の事象のように思われるが、第8層形成期に調査区内での人間活動が一時的に窮休止した点では共通している事象といえる。

その後、第7層から第6層の形成期には再び盛土が行われ、耕作地としての土地利用が継続して行われたことがA・B地点の堆積物の観察結果から推定される。ただし、この時期もD地点が位置する03-1-3区は耕作地として利用されておらず、滞水する堆積環境が継続しており、その原因については不明である。また、第6層形成期の後半には、堆積物が泥がちになることから、調査区では水位が上昇傾向にあったことが推定される。このような水位の上昇が、第6層上面で検出されているヤマグワを主とする埋没林の成立と衰退に大きく関係していることを別節の微化石分析の項で詳述した。このことは弥生時代以降の平野部の植生変遷が河川の氾濫などと密接に関係していたことを示す事例として重要である。その後、第5層の堆積により第6層は完全に埋没するが、その後も微化石分析結果などから、耕作地として土地利用が行われていたことが推定されている。

5. まとめ

山賀遺跡03-1-2区・3区における第6層～第13層までの堆積物の特徴と形成過程について検討することを目的として、X線写真と土壤薄片による、主にメソスケールの観察記載を行った。その結果、以下の点が明らかとなった。

- 1) 03-1-2区の堆積層は、弥生時代中期の第10層形成期以降に土地利用が本格化する。
- 2) 03-1-2区南東部では別の場所に由来する堆積物が持ち込まれ、盛土される。一方、その北側の領域では溝内に堆積した氾濫堆積物などを利用して盛土が行われ、耕作地としての土地利用が行われた可能性が推定された。
- 3) しかし、第8層形成期には一時的にせよ耕作地としての土地利用が行われなくなり、放置された。
- 4) 第7層から第6層にかけては数回の盛土と耕作地の造成が行われていた可能性が指摘された。

謝辞

今回の分析調査では、史跡鴻池新田会所管理事務所の松田順一郎氏より03-1-2区の分析試料・X線写真資料の提供を頂き、堆積層の累重状況について多くの助言を頂いた。心から御礼申し上げます。

引用文献

- Barham,A.J.,1995,Methodological approaches to archaeological context recording.Archaeological Sediments and Soils:Analysis,Interpretation and Management.
- Courty,M.A.,Goldberg,P. and Macphail,R.I.,1989,Soils and Micromorphology in archaeology.Cambridge: Cambridge University Press,344p.
- 平山良治,2002,現在土壌肥料科学の断面〔13〕 - 土壌微細形態学の最前線 - .農業および園芸,77,55-64.
- 平山良治・坂上寛一,1995,南関東の累積性火山灰土の土壌微細形態学的解析 (I) - 大型薄片によるメソ形態学的観察 - .筑波実験植物園研究報告,14,47-54.
- 平山良治・坂上寛一,1996,水湿環境による土壌微細形態の変化.筑波実験植物園研究報告,15,45-50.
- 久馬一剛・八木久義訳監修,1989,土壌薄片記載ハンドブック.博友社,176p.
- 松田順一郎,1996,若江北遺跡第5次調査地でみられたさまざまな古地震跡「巨摩・若江北遺跡発掘調査報告書 - 第5次 - 都市計画道路大阪中央環状線巨摩橋交差点南行車線跨道橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」, (財)大阪府文化財調査研究センター,141-159.
- 松田順一郎・別所秀高,1997,大阪府北島遺跡における畑地形成と地形発達.日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集」,70-71.
- 松田順一郎,1999,瓜生堂遺跡第45-2次発掘調査でみられた古地震痕跡,都市計画道路大阪瓢箪山線建設に伴う瓜生堂遺跡第45次発掘調査概要報告, (財)東大阪市文化財協会,233-242.
- 松田順一郎,2001a,楽音寺遺跡北東部における弥生時代後期以後の遺構・遺物帯と堆積・土壌層序.「楽音寺遺跡第1・2次発掘調査報告書」, (財)東大阪市文化財協会,19-46.
- 松田順一郎,2001b,大阪府布市遺跡の中世畑地耕作土にみられた微細堆積相.日本文化財科学会第18回大会研究発表要旨,日本文化財科学会,56-57.
- 松田順一郎,2004,古墳時代と江戸時代の畑地堆積物堆積構造の比較 - 大阪府久宝寺遺跡、京都府山崎津跡の事例 - .「日本文化財科学会第21回大会 研究発表要旨集」,日本文化財科学会,62-63
- 松田順一郎,2004a,古墳時代と江戸時代の畑地堆積物体積構造の比較 - 大阪府久宝寺遺跡、京都府山崎遺跡の事例 - ,日本文化財科学会第21回大会 研究発表要旨,日本文化財科学会,62-63.成岡市,1993,土壌粗間隙の形態とその測定法 土壌の不均一性と物質移動の研究前線.日本土壌肥料科学雑誌,64,1,90-97.
- 宮田雄一郎・山村恒夫・鍋谷 淳・岩田尊夫・八幡雅之・結城智也・徳橋秀一,1990,淡水生デルタの形成過程 - 琵琶湖愛知川河口部を例として - 2.地質構成と堆積相.地質学雑誌,96,839-858.
- 森 也寸志・滋賀撰子・岩間憲治・渡辺紹裕・丸山利輔,1992,土地利用による土壌間隙構造の差異 - 軟X線による観察を中心として - .土壌の物理性,No. 66,19-27.
- 佐藤幸一,1990a,八郎潟干拓地重粘土水田土の粗間隙の発達とその意義.農業土木学会誌,60,25-30.
- 佐藤幸一,1990b,八郎潟干拓地における畑地と草地土壌の粗間隙の発達とその意義.農業土木学会誌,60,287-292.

山賀遺跡サヌカイト付着物赤外分光分析

矢作健二・斉藤紀行（パリノ・サーヴェイ株式会社）

はじめに

八尾市に所在する山賀遺跡では、平成15～17年度における発掘調査により、弥生時代とされる多数の遺構および多量の遺物が検出されている。本報告では、弥生時代の遺物とされるサヌカイト製の石器に認められた黒色を呈する付着物を対象として、有機化合物としての特性を簡易的に調査する方法である赤外分光分析を行い、その物質の特定を試みる。

1. 試料

試料は、サヌカイト製打製石剣に認められた黒色付着物とサヌカイト剥片に認められた黒色付着物の2点である。

サヌカイト製打製石剣の付着物については、発掘調査所見により、付着の状況から、接着剤として使用されたアスファルトの可能性があるとされている。分析では、特にアスファルトか否かという視点から解析を行う。なお、サヌカイト製打製石剣の掲載番号は図83 - 20204であり、第6面の252大溝より出土している。また、その時期については、Ⅰ様式後半～Ⅲ様式前半とされている。

サヌカイト剥片の付着物については、付着部位からは接着剤とは考えられず、切削時に付着したような状況であるとの発掘調査所見が示されている。なお、剥片の登録番号はNo.339-3であり、第6～8層より出土している。また、その時期については基本的にⅡ様式とされている。

2. 分析方法

1) 赤外線分光分析の原理

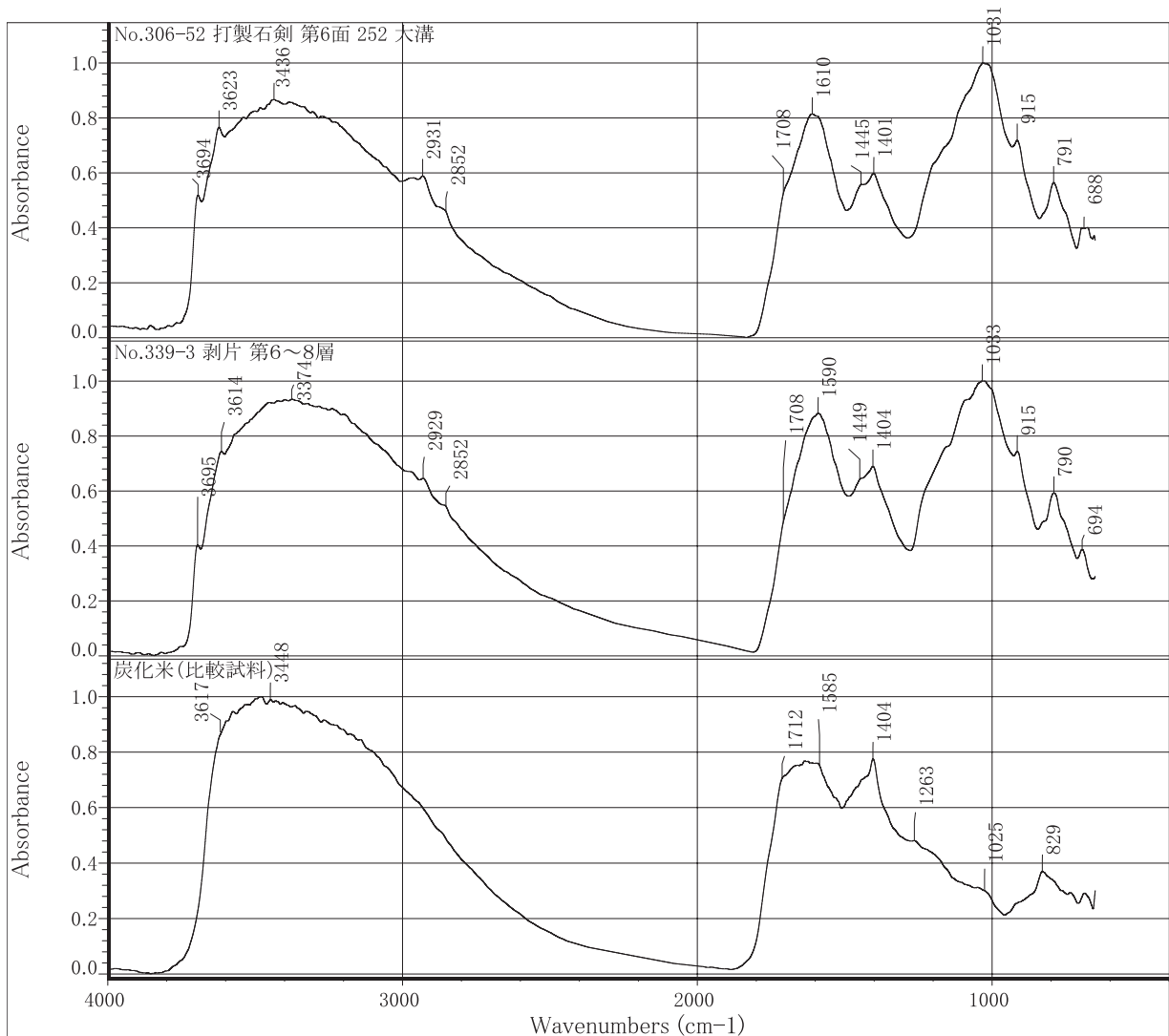
有機物を構成している分子は、炭素や酸素、水素などの原子が様々な形で結合している。この結合した原子間は絶えず振動しているが、電磁波のようなエネルギーを受けることにより、その振動の振幅は増大する。この振幅の増大は、その結合の種類によって、ある特定の波長の電磁波を受けたときに突然大きくなる性質がある。この時に、電磁波のエネルギーは結合の振動に使われて（すなわち吸収されて）、その物質を透過した後の電磁波の強度は弱くなる。

有機物を構成している分子における結合の場合は、電磁波の中でも赤外線の領域に入る波長を吸収する性質を有するものが多い。そこで、赤外線の波長領域において波長を連続的に変えながら物質を透過させた場合、さまざまな結合を有する分子では、様々な波長において、赤外線の吸収が発生し、いわゆる赤外線吸収スペクトルを得ることができる。通常、このスペクトルは、横軸に波数（波長の逆数 cm^{-1} で示す）、縦軸に吸光度（ABS）を取った曲線で表されることが多い。したがって、既知の物質において、どの波長でどの程度の吸収が起こるかを調べ、その赤外線吸収スペクトルのパターンを定性的に標本化し、これと未知物質の赤外線吸収スペクトルのパターンとを定性的に比較することにより、未知物質の同定をすることもできる（山田,1986）。

2) 赤外線吸収スペクトルの測定

石器表面に付着した黒色付着物を採取し、顕微FT-IR装置（サーモエレクトロン（株）製Nicolet Avatar 370,Nicolet Centaurus）を利用し、測定を実施する。なお、赤外線吸収スペクトルの測定は、試料を鏡下で観察しながら測定位置を絞り込み、反射測定で行う。また、得られたスペクトルは各種の補正を施した後、吸光度（ABS）として表示する。

測定条件及び各種補正処理の詳細については、FT-IRスペクトルと共に図364中に併記しているので、そちらを参照されたい。



測定情報

サンプルスキャン回数: 40
 バックグラウンドスキャン回数: 40
 分解能: 4.000
 サンプル ゲイン: 8.0
 ミラー速度: 1.8988
 アパーチャ: 可変

光学系の構成

検出器: MCT/A
 ビームスプリッタ: KBr
 光源: IR

備考

顕微反射法
 CO₂除去 (直線化)
 スムージング処理
 Y軸正規化

図364 黒色付着物のFT-IRスペクトル

3. 結果

測定結果を図364に示す。なお、図中には比較試料として炭化米の実測スペクトルを併記した。

両試料から採取した黒色付着物の赤外線吸収特性は類似し、同様の材質から成ることが確認される。主な吸収帯は、3400、1600、1400、1030cm⁻¹付近の幅広く強い吸収帯のほか、2930、2850、915、790cm⁻¹付近の吸収帯である。なお、3400cm⁻¹付近の吸収帯はO-H伸縮振動、2930、2850cm⁻¹付近の吸収帯はメチレン基のC-H伸縮振動、1600cm⁻¹付近の吸収帯はC=OあるいはC=C伸縮振動、1400cm⁻¹付近の吸収帯はCH₂基の変角振動やカルボン酸のC-O伸縮振動あるいはO-H変角振動と予想される。なお、1030cm⁻¹の吸収帯はSi (Al) -O基による振動吸収と判断される。

4. 考察

当社では試料の出所が既知の物質について、同一測定条件で赤外線吸収スペクトルを測定した例がいくつかあるが（未公表）、遺跡で検出される黒色物質の代表として漆、天然アスファルト、松脂、動植物油、炭化物などが調査例としてあげられる。これらは、いずれも固有の吸収帯があり、漆では3480、2930、2860、1710、1620、1450cm⁻¹、天然アスファルトでは2900、1600、1460、1380cm⁻¹と脂肪族飽和炭化水素に帰属する吸収帯に特徴がある。また、松脂は1700cm⁻¹、動植物油は1740cm⁻¹、炭化物は1140～1160cm⁻¹に特徴ある吸収帯がある。

今回分析を行った2点の黒色付着物の赤外線吸収スペクトルでは、1030cm⁻¹付近に岩石を構成している鉱物に由来する珪酸塩の吸収が混在しているものの、アスファルトに特徴的に認められる2900cm⁻¹付近の炭化水素に基づく吸収が弱いことが指摘される。したがって、2点の黒色付着物の性状は、いずれもアスファルトとは異なるものと考えられる。

なお、これら黒色付着物では3400cm⁻¹、1600cm⁻¹、1400cm⁻¹付近に見られる極大吸収のほかに特徴的な吸収帯が認められていないことから、赤外線吸収特性からこれら付着物質の材質を判断することは難しい。ただし、当社で実測した各種有機化合物の中では、比較試料として掲げた炭化米と最も類似した赤外線吸収特性を示している。このことから、2点の黒色付着物は、何らか（元の物質は不明）の炭化物である可能性が示唆される。

引用文献

山田富貴子,1986,赤外線吸収スペクトル法,機器分析のてびき第1集,化学同人,1-18.

山賀遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析

有限会社 遺物材料研究所

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1, 2, 3)}。

最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルは一般的で、6千キロメートルを推測する学者も出てきている。正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成のサヌカイトが異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。

『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されていると言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。』

産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来、一つの産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測される方法として、理論的に証明されている方法で、マハラノビスの距離を求めて行う、ホテリングのT²乗検定がある。ホテリングのT²乗検定法の同定とクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）を比較する。

クラスター判定法はクラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動する。例えば、A原石製の遺物とA、B、C産地の原石でクラスターを作ったとき遺物はA原石とクラスターを作る。しかし、A産地の原石を抜いて、D、E産地の原石を加え、B、C、D、E産地の原石でクラスターを作ると、遺物がE産地とクラスターを作る。このように、A産地が調査されていないと、遺物はE原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。また、A原石製遺物と分かっていたら、意図的にE原石とクラスターを作らないようにもできる。このように、クラスター分析を行う遺物の原石産地を予め推測し、クラスターを組み立てる必要がある、得られた結果は主観的なものに左右される恐れがある。

元素散布図法は肉眼で原石群元素散布の中に遺物の結果が入るか図示した方法である。原石の含有元素の違いを絶対定量値を求めて地球科学的に議論するには、地質学において最も適した方法であるが、産地分析の観点から見ると、クラスター法よりさらに後退した方法である。まず、何個の原石を分析すればその産地を正確に表現されているのか不明であり、分析する原石数の少ないときには、A産地とB産地が区別できていたのに、原石数を増やすと、A産地、B産地の区別ができなくなる可能性があり

(クラスター法でも同じ危険性がある) 判定結果に疑問が残る。

以上をふまえて産地分析を正しくおこなうには、地質学の常識的な知識(高校生)さえあればよく、火山学、堆積学など専門知識は必要なく、実際の分析においては非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら同定を行うことが必要であり、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って客観的な判定を行うかにかかっている。

これらクラスター法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出された方法が、理論的に証明された判定法であるホテリングのT²乗検定法である。それにはある産地の原石の元素組成と遺物の元素組成が一致すれば、その産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。

考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなど主観的要素が入った事象を十分条件の代用にすると産地分析は中途半端なものとなり、結果として遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、偶然(産地分析法が不完全なために)に一致した可能性も大きくB、C、D・・・の産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。

そこで、考えられるのは、可能なかぎり地球上の全ての原産地(A、B、C、D・・・)の原石群と遺物を比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを証明すればそれが十分条件となり、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは各々の観察者で分類基準が異なるため混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なり、実際におこなってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかに左右され、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分の元素組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分の元素組成には違いがあると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点が異なる可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT²乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ元素組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万个中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は大阪府八尾市新家町5丁目に位置する山賀遺跡出土のサヌカイト製遺物61個で産地分析の結果が得られたので報告する。

サヌカイト、ガラス質安山岩原石の分析

サヌカイトでは、K/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Srの値を指標として用いる。

サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題にのぼる産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて50ヶ所の調査を終えている。図365にサヌカイトの原産地の地点を示す。これらの原石を良質の原石を産出する産地および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると160個の原石群に分類でき、その結果を表25に示した。

安山岩の原石産地の一部を簡単に記すると、香川県の坂出市、高松市に位置する金山・五色台地域では、多数の地点から良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる。近年、丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材であり善通寺市の大麻山南からも産出している。香川県内の石器原材の産地である金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の6つの群に分かれ、これらの地域外の産地では城山群および双子山群に分かれた。また、ガラス質安山岩は金山奥池、雄山、神谷町南山地区で採取され、さらに大麻山南産は大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類されて区別が可能なことを明らかにした。これらガラス質安山岩は成分的に黒曜石に近く、また肉眼観察では下呂石に酷似するもの、西北九州産の中町、淀姫産黒曜石、大串、亀岳原石と酷似するものもみられ、風化した遺物ではこれら似た原材と肉眼で区別するのは困難と思われ、正確に原材産地の判定をおこなうには分析が必要である。また、金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。さらに大阪府和泉・岸和田産地の礫層、和歌山県梅原産地礫層からも、金山・五色台地域の諸群の一部に一致するものがみられ(表26)、長い年月の間にこれらが金山・五色台地域から流れ着いたのではないと思われる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からもサヌカイト原石が採取される。奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山の原石で二上山群を作った。二上山群に一致する原石は柏原市奥山遺跡の地山転礫で見られ、地山転礫産出地を奥山礫層と名付ける。奥山礫層からは板状に剥離する原石が産出し、剥離面には酸化鉄層が薄くあり、分析は、主に酸化層面に直角な面を分析し、奥山礫層2群を作った。奥山礫層中の奥山礫層2群と二上山群の出現比は約1:55であった。また、二上山群と元素組成の類似する原石は和泉・岸和田の礫層産地から6%の割合で採取される(表27)。中国山地のサヌカイト産地として代表的な産地は山口、島根、広島県の県境に位置する冠山地域で、冠山、鬼ヶ城の山腹には安山岩の露頭があり、また山麓からは崖錐角礫として転石として見られる。伴蔵地区の冠高原スキー場一帯(冠高原地点と呼ぶ)から良質の原石が採取でき、冠高原群および伴蔵C、A群を作った。冠高原スキー場から南方の飯山地区の針山地点(飯山地点と呼ぶ)の原石で飯山群を作った。また、頓原地区産出の原石で冠山東群を作った。また、考古学者の間で石器原材として使用されたのではないかと話題にのぼる産地の一つである山口県熊毛郡平生町産の安山岩原石を分析し平生群を作り、この原石を使用した石器か否かの判定ができるようにした。九州地

域産地では佐賀県多久、老松山と隣の岡本、西有田、また嬉野町では松尾、椎葉川などで良質の原石が採取できる。長崎県では大串、亀岳産地、川棚、福井洞窟遺跡地域で産出する福井産原石、松浦半島産の牟田産原石、また、山下実氏発見の雲仙駒崎鼻産サヌカイトと福岡県昭和池採取原石の群が整備された。

結果と考察

遺跡から出土したサヌカイト製石器、石片は、風化のため表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製遺物は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析において水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、実際には影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比の値を除いて産地分析を行なった場合と除かずに産地分析を行った場合で同定される原産地に差はない。他の元素比の値についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確かさを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した山賀遺跡から出土したサヌカイト製遺物の分析結果を表28に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Srの一変量だけを考えると、分析番号98450番の遺物はRb/Srの値が0.203で、二上山群の〔平均値〕±〔標準偏差値〕は、 0.202 ± 0.012 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値 (σ) を基準にして考えると遺物は原石群から 0.08σ 離れている。ところで二上山群の産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.08\sigma$ のずれより大きいものが93ヶある。すなわち、この遺物が、二上山群の原石から作られていたと仮定しても、 0.08σ 以上離れる確率は93%であると言える。だから、二上山群の平均値から 0.08σ しか離れていないときには、この遺物が二上山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を城山群に比較すると、城山群の〔平均値〕±〔標準偏差値〕は、 0.289 ± 0.014 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値 (σ) を基準にして考えると遺物は原石群から 6.14σ 離れている。これを確率の言葉で表現すると、城山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 6.14σ 以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、城山群の原石から作られたものではないと断定できる。

これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は二上山群に93%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから二上山の原石が使用されていると同定され、さらに城山群に対しては一千万の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから城山産原石でないと同定される」。遺物が二上山群と一致したからと言っても、遺物が二上山産地から採取された証拠はなく、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない。また、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（二上山群）に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表25の160個すべての原石群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて二上山産地の石材のみ

が使用されていると判定される。

実際はRb/Srといった唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群では、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、仮にA群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しづれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する^{4, 5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、サヌカイト製のものは160個の推定確率結果が得られている。

今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上『記入』を省略しているだけであり、実際には160個の群全てについて計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重要な意味を含んでいる。すなわち、二上山産原石と判定された遺物について、金山東群産原石とか佐賀県多久産、香川县城山、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表29に記入した。原石群を作った原石試料は直径2、以上で精度良く分析される。

遺物は、大きさ、形がさまざま、これらの影響により分析値が少しは変化していることを推測し、判定の信頼限界を0.1%に設定した。判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するとき、低確率の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

今回分析した山賀遺跡のサヌカイト製遺物61個のホテリングのT2乗検定法で表25の原石群・遺物群と比較した結果、二上山群が55個(90%)、金山東群が3個(5%)、向出No.49遺物群が2個(3%)、奥山礫層2群が1個(2%)が同定された。信頼限界の0.1%を越えて同定され必要条件を満たし、また、遺跡から近い岩屋諸群産原石群とか、他の原石・遺物群には非常に低い確率で同定され、これらの群の原石でないと言う十分条件を満たしたことから、二上山産原石、金山東産原石、奥山礫層産原石、向出No.49遺物群の石材が使用されていると判定した。

この中で二上山群と一致する原石は大阪府和泉・岸和田の原産地から6%の割合で採取されることから、表27のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたか、否か判断しなければならない。大阪府和泉・岸和田の原産地から他の元素組成の原石を採取せず、二上山群と一致する石材のみを55個採取する確率は0.06の累乗55で求められのほとんど0%の確率になりこの産地から採取された可能性が極めて低くなり、この結果から遺物の交流を考察すると、奈良県二上山地域との交流があったことが推測される。また、奥山礫層から採取される原石の大部分は二上山群の原石に一致し、山賀遺跡のサヌカイト遺物が柏原市奥山礫層から採取された可能性が推測される。また、奥山礫層2群のサヌカイトは板状に剥離する性質があり、板状に剥離する性質を利用して石器を作った可能性も推測される。

それから金山東群と一致する原石は兵庫県岩屋と大阪府和泉・岸和田の原産地からそれぞれ5%、1%の割合で採取されることから、表26、表27のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、岩屋、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたか、否か判断しなければならない。岩屋産地から他の元素組成

第9章 分析

の原石を採取せず、金山東群と一致する石材のみを3個採取する確率は0.05の累乗3で求められ、0.000125になり8千回に一回起きる確率になり、また、和泉・岸和田産地から金山東群と一致する石材のみを3個採取する確率は0.011の累乗3で求められ、0.000001とさらに低い百万回に一回の確率になるため、両産地から採取された可能性が極めて低くなり、これらの結果から遺物の交流を考察すると、坂出市金山東麓との交流があったことが推測される。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信 (1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (II)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌 (1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (III)。(IV)。考古学
と自然科学, 10,11:53-81:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信 (1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信 (1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信 (1980), 考古学と物理化学。学生社

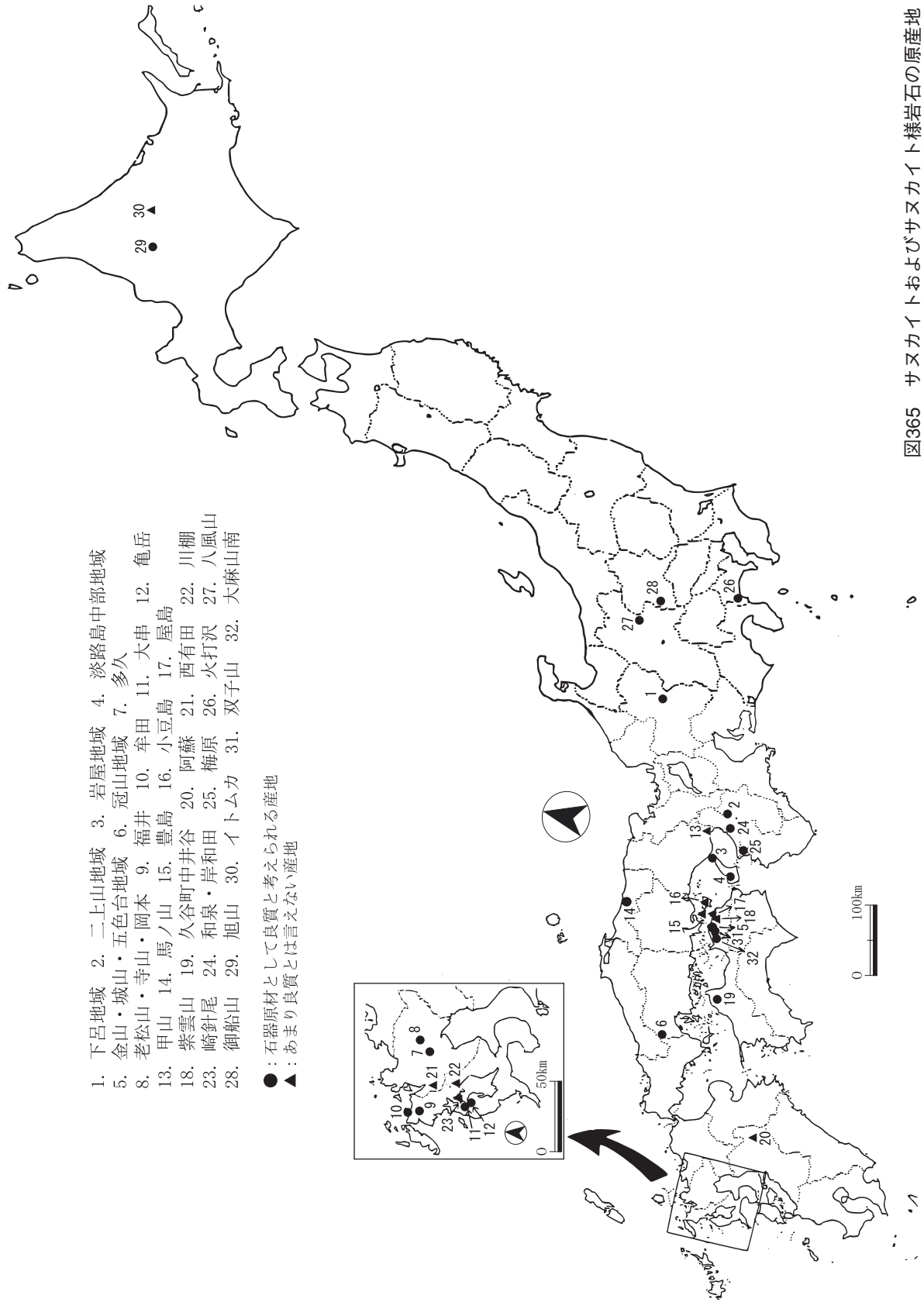


図365 サヌカイトおよびサヌカイト様岩石の原産地

表 25 - 1 各サヌカイト (安山岩) の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値 (1)

原産地名原石群名	分析 個数	元素比										
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
北海道	イトムカ	0.359±0.020	0.430±0.014	0.081±0.006	5.884±0.223	0.166±0.011	0.120±0.013	0.883±0.030	0.015±0.013	0.013±0.001	0.137±0.007	
	旭山	0.351±0.011	0.288±0.010	0.089±0.005	5.064±0.140	0.174±0.011	0.096±0.009	0.903±0.029	0.015±0.012	0.015±0.001	0.141±0.005	
	台場A	0.278±0.010	0.323±0.009	0.086±0.009	4.941±0.223	0.143±0.008	0.095±0.010	0.768±0.032	0.012±0.006	0.018±0.002	0.149±0.005	
	台場B	0.341±0.014	0.295±0.017	0.085±0.011	4.787±0.310	0.177±0.014	0.102±0.015	0.929±0.041	0.021±0.010	0.021±0.002	0.169±0.008	
	台場C	0.238±0.016	0.303±0.008	0.116±0.012	7.800±0.313	0.160±0.016	0.135±0.015	0.858±0.056	0.018±0.012	0.018±0.002	0.150±0.009	
群馬県	台場D	0.319±0.008	0.466±0.011	0.119±0.012	6.886±0.217	0.131±0.012	0.140±0.012	0.894±0.042	0.012±0.007	0.019±0.002	0.160±0.007	
	荒船山	0.194±0.070	0.360±0.028	0.129±0.014	9.205±1.153	0.080±0.034	0.085±0.014	0.458±0.022	0.009±0.010	0.013±0.021	0.123±0.032	
	火打沢	0.092±0.005	0.285±0.009	0.166±0.009	12.406±0.332	0.023±0.006	0.111±0.008	0.483±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.112±0.001	
	真猿八川	0.139±0.003	0.424±0.005	0.065±0.002	5.040±0.127	0.099±0.004	0.044±0.003	0.575±0.008	0.015±0.006	0.016±0.000	0.110±0.001	
	樺野	0.231±0.008	0.349±0.028	0.141±0.015	10.218±0.328	0.141±0.012	0.159±0.011	0.819±0.042	0.019±0.012	0.012±0.001	0.124±0.005	
新潟県	滝波川	0.327±0.010	0.333±0.008	0.056±0.005	3.145±0.088	0.084±0.005	0.510±0.006	0.606±0.028	0.022±0.006	0.020±0.002	0.150±0.005	
	法恩寺山	0.478±0.029	0.349±0.020	0.033±0.003	2.137±0.099	0.148±0.007	0.038±0.008	0.667±0.028	0.024±0.006	0.024±0.002	0.192±0.012	
	樺川	0.183±0.007	0.340±0.017	0.153±0.017	11.018±0.398	0.118±0.011	0.157±0.013	0.721±0.030	0.019±0.009	0.012±0.001	0.113±0.005	
	八風山	0.274±0.028	0.324±0.010	0.090±0.008	4.905±0.505	0.104±0.009	0.100±0.009	0.581±0.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.168±0.014	
	下呂	1.576±0.055	0.227±0.011	0.038±0.004	7.766±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.660±0.025	
岐阜県	豊川	0.299±0.007	0.568±0.020	0.052±0.009	4.672±0.338	0.115±0.008	0.083±0.019	0.848±0.028	0.031±0.009	0.020±0.002	0.151±0.005	
	茶臼山	0.293±0.005	0.324±0.007	0.093±0.009	6.643±0.256	0.141±0.009	0.107±0.011	1.086±0.037	0.038±0.009	0.021±0.002	0.157±0.006	
	二上山	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	4.629±0.270	0.202±0.012	0.066±0.010	0.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.144±0.005	
	和泉	0.494±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.060±0.148	0.296±0.021	0.065±0.010	0.706±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001	0.194±0.009	
	栢原・奥山礫層2	0.295±0.003	0.230±0.004	0.045±0.002	4.036±0.084	0.202±0.008	0.078±0.006	0.623±0.009	0.016±0.001	0.016±0.001	0.128±0.002	
兵庫県	岩屋第一群	0.616±0.021	0.254±0.012	0.057±0.005	3.610±0.189	0.365±0.019	0.056±0.012	0.846±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.186±0.007	
	岩屋第二群	0.535±0.020	0.263±0.005	0.053±0.005	3.438±0.103	0.340±0.015	0.042±0.012	1.069±0.030	0.026±0.014	0.017±0.001	0.173±0.007	
	淡路第三群	0.732±0.032	0.257±0.011	0.065±0.003	4.086±0.103	0.386±0.015	0.088±0.017	1.175±0.055	0.030±0.018	0.039±0.001	0.284±0.011	
	甲山	0.300±0.017	0.154±0.005	0.056±0.007	3.350±0.261	0.130±0.012	0.061±0.033	0.574±0.021	0.012±0.007	0.018±0.001	0.159±0.008	
	国分寺	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.005	
香川県	蓮光寺	0.459±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.518±0.129	0.308±0.015	0.043±0.015	0.972±0.037	0.034±0.009	0.016±0.001	0.150±0.004	
	白峰	0.534±0.015	0.262±0.005	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.040±0.016	1.071±0.051	0.032±0.011	0.017±0.001	0.173±0.007	
	法印谷	0.377±0.009	0.239±0.004	0.069±0.005	4.611±0.127	0.277±0.012	0.059±0.011	1.145±0.029	0.031±0.013	0.015±0.001	0.130±0.004	
	金山裏	0.478±0.014	0.227±0.006	0.076±0.009	4.511±0.119	0.293±0.022	0.083±0.014	1.183±0.046	0.020±0.010	0.025±0.003	0.188±0.005	
	金山西	0.414±0.011	0.217±0.006	0.078±0.007	4.574±0.132	0.283±0.014	0.073±0.015	1.100±0.040	0.032±0.013	0.023±0.002	0.188±0.006	
愛媛県	城山	0.402±0.011	0.216±0.006	0.079±0.006	4.741±0.138	0.289±0.014	0.068±0.016	1.093±0.026	0.021±0.014	0.013±0.001	0.116±0.003	
	双子山	0.350±0.007	0.233±0.005	0.074±0.006	4.898±0.169	0.261±0.012	0.061±0.014	1.092±0.035	0.023±0.016	0.011±0.002	0.105±0.004	
	* 奥池第一群	0.842±0.046	0.127±0.006	0.024±0.006	2.087±0.088	0.492±0.030	0.018±0.018	0.722±0.047	0.045±0.013	0.035±0.003	0.434±0.024	
	* 奥池第二群	0.641±0.052	0.133±0.007	0.033±0.007	2.471±0.135	0.391±0.028	0.021±0.017	0.934±0.067	0.038±0.011	0.029±0.003	0.331±0.027	
	* 雄山	0.827±0.052	0.128±0.006	0.026±0.008	2.119±0.091	0.485±0.032	0.016±0.018	0.731±0.050	0.043±0.014	0.035±0.003	0.421±0.027	
鳥取県	* 神谷・南山	0.852±0.040	0.131±0.007	0.027±0.008	2.083±0.088	0.495±0.026	0.020±0.016	0.703±0.045	0.050±0.014	0.035±0.004	0.433±0.023	
	* 大麻山南第一群	0.693±0.072	0.149±0.007	0.041±0.010	2.792±0.180	0.473±0.043	0.034±0.021	0.965±0.061	0.044±0.012	0.029±0.003	0.344±0.038	
	* 大麻山南第二群	0.992±0.041	0.124±0.009	0.034±0.011	2.370±0.138	0.691±0.024	0.021±0.022	0.774±0.032	0.054±0.015	0.039±0.004	0.480±0.018	
	中井谷	0.458±0.041	0.374±0.007	0.073±0.009	5.160±0.157	0.393±0.022	0.108±0.017	1.473±0.051	0.037±0.021	0.020±0.008	0.219±0.009	
	馬ノ山	0.188±0.007	0.178±0.006	0.111±0.001	0.916±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005	
広島県	下砂原	0.168±0.003	0.162±0.004	0.021±0.003	1.447±0.038	0.028±0.004	0.011±0.003	0.262±0.026	0.007±0.003	0.016±0.001	0.119±0.005	
	麻畑	0.442±0.012	0.444±0.044	0.061±0.006	3.570±0.097	0.109±0.008	0.080±0.009	0.988±0.032	0.078±0.009	0.027±0.003	0.206±0.006	
	冠高原	0.651±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.462±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.241±0.008	
	伴蔵C	0.277±0.010	0.345±0.008	0.019±0.002	1.604±0.057	0.039±0.015	0.008±0.006	0.368±0.012	0.026±0.006	0.019±0.001	0.171±0.006	
	伴蔵A	0.340±0.008	0.319±0.008	0.020±0.003	1.347±0.025	0.047±0.011	0.011±0.005	0.381±0.021	0.044±0.056	0.019±0.002	0.190±0.009	
山口県	冠山	0.323±0.019	0.363±0.031	0.019±0.001	1.607±0.060	0.059±0.009	0.003±0.005	0.399±0.043	0.025±0.009	0.021±0.001	0.171±0.006	
	飯山	1.116±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.228±0.080	0.245±0.011	0.023±0.009	0.524±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021	
	平生	0.184±0.009	0.190±0.006	0.112±0.031	7.290±0.346	0.176±0.015	0.077±0.011	0.691±0.040	0.026±0.010	0.011±0.001	0.097±0.004	
	尾島・蒲井	0.136±0.023	0.198±0.014	0.123±0.008	9.329±0.502	0.146±0.020	0.108±0.011	0.642±0.019	0.023±0.015	0.010±0.001	0.079±0.006	
	八島	0.234±0.010	0.227±0.004	0.078±0.004	6.121±0.201	0.198±0.008	0.043±0.004	0.784±0.014	0.017±0.007	0.024±0.001	0.129±0.003	

表25 - 1 各サヌカイト(安山岩)の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

原産地名原石群名		元素比										
分析個数		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
福岡県	八女市	50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.053±0.007	2.125±0.063	0.453±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.044±0.022	0.050±0.003	0.500±0.012
	昭和地第一群	50	1.592±0.066	0.609±0.020	0.061±0.005	3.075±0.123	0.534±0.039	0.111±0.020	1.671±0.134	0.049±0.012	0.042±0.003	0.419±0.014
	昭和地第二群	50	3.144±0.089	0.724±0.036	0.073±0.009	2.919±0.099	0.925±0.048	0.181±0.026	2.820±0.114	0.072±0.020	0.074±0.026	0.817±0.040
	昭和地第三群	50	1.922±0.108	0.681±0.050	0.064±0.005	3.023±0.103	0.925±0.048	0.122±0.017	1.887±0.098	0.050±0.015	0.050±0.004	0.489±0.018
	昭和地第四群	40	0.820±0.053	0.405±0.013	0.056±0.009	4.680±0.233	0.494±0.033	0.049±0.029	0.917±0.045	0.199±0.030	0.031±0.003	0.284±0.017
	多久第一群	42	0.844±0.061	0.395±0.019	0.061±0.010	5.106±0.397	0.539±0.053	0.069±0.030	0.911±0.050	0.197±0.028	0.032±0.004	0.293±0.026
	多久第二群	42	1.287±0.051	0.340±0.013	0.058±0.010	3.643±0.225	0.784±0.030	0.081±0.022	0.824±0.033	0.265±0.032	0.038±0.009	0.458±0.050
	梅野(多久第3群)	62	0.704±0.029	0.314±0.009	0.073±0.015	5.266±0.176	0.533±0.035	0.077±0.027	0.720±0.053	0.191±0.035	0.026±0.028	0.249±0.010
	老松山	50	0.629±0.043	0.310±0.088	0.070±0.012	5.553±0.236	0.492±0.021	0.083±0.021	0.700±0.032	0.180±0.027	0.024±0.002	0.227±0.014
	寺山・岡本	42	0.461±0.023	0.332±0.008	0.098±0.003	7.468±0.217	0.309±0.013	0.081±0.005	0.569±0.011	0.109±0.010	0.019±0.001	0.174±0.006
佐賀県	西有田	47	0.717±0.036	0.410±0.012	0.081±0.006	5.312±0.241	0.383±0.024	0.094±0.013	0.810±0.039	0.095±0.023	0.028±0.027	0.291±0.014
	松屋第一群	40	0.970±0.032	0.330±0.009	0.066±0.007	3.683±0.122	0.431±0.021	0.077±0.016	0.554±0.023	0.110±0.021	0.034±0.003	0.377±0.012
	松屋第二群	42	0.822±0.027	0.369±0.010	0.065±0.007	3.888±0.236	0.392±0.021	0.076±0.018	0.540±0.049	0.089±0.020	0.027±0.009	0.330±0.013
	松屋第三群	41	0.675±0.016	0.390±0.010	0.073±0.007	4.666±0.218	0.346±0.021	0.078±0.012	0.582±0.065	0.087±0.013	0.024±0.007	0.280±0.011
	松屋第四群	12	0.538±0.011	0.401±0.007	0.076±0.010	5.271±0.189	0.296±0.019	0.075±0.015	0.587±0.024	0.075±0.009	0.022±0.002	0.227±0.009
	梅葉第一群	37	0.744±0.014	0.409±0.010	0.080±0.010	5.176±0.202	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.027	0.096±0.023	0.029±0.003	0.302±0.010
	梅葉第二群	28	1.111±0.118	0.140±0.009	0.055±0.020	1.650±0.236	0.236±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.082±0.022	0.050±0.006	0.607±0.059
	大串	19	1.072±0.042	0.144±0.008	0.041±0.006	1.776±0.152	0.233±0.014	0.015±0.013	0.497±0.018	0.065±0.015	0.049±0.003	0.587±0.018
	龜岳	51	0.788±0.084	0.341±0.023	0.067±0.009	4.581±0.198	0.884±0.119	0.224±0.055	0.753±0.082	0.259±0.053	0.029±0.004	0.273±0.028
	牟田第一群	40	0.588±0.042	0.330±0.018	0.088±0.014	7.611±0.399	1.058±0.119	0.348±0.069	1.033±0.102	0.402±0.064	0.023±0.003	0.203±0.014
長崎県	川棚第一群	59	0.498±0.030	0.302±0.011	0.067±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.076±0.010	0.814±0.048	0.035±0.012	0.012±0.002	0.133±0.008
	川棚第二群	42	0.357±0.031	0.238±0.008	0.073±0.002	5.078±0.182	0.198±0.025	0.043±0.005	0.751±0.059	0.018±0.013	0.023±0.001	0.153±0.011
	福井第一群	46	0.634±0.019	0.330±0.007	0.087±0.016	7.827±0.226	1.174±0.030	0.381±0.042	1.096±0.047	0.480±0.070	0.023±0.002	0.217±0.007
	福井第二群	47	0.509±0.016	0.315±0.007	0.078±0.010	7.118±0.234	0.909±0.042	0.299±0.046	0.947±0.054	0.361±0.055	0.020±0.002	0.177±0.007
	崎針尾第一群	67	0.382±0.026	0.252±0.023	0.052±0.006	4.106±0.227	0.160±0.018	0.057±0.009	0.434±0.039	0.056±0.011	0.010±0.001	0.107±0.007
	崎針尾第二群	56	0.590±0.072	0.393±0.020	0.077±0.009	5.396±0.448	0.330±0.028	0.078±0.015	0.675±0.059	0.096±0.017	0.024±0.006	0.219±0.041
	駒崎島	42	0.635±0.072	0.309±0.009	0.071±0.012	5.519±0.425	0.500±0.050	0.076±0.025	0.690±0.055	0.183±0.030	0.025±0.003	0.231±0.025
	阿蘇第一群	39	1.999±0.212	0.664±0.061	0.067±0.011	1.862±0.368	0.476±0.060	0.126±0.023	1.647±0.181	0.067±0.014	0.067±0.010	0.602±0.086
	阿蘇第二群	44	1.045±0.171	0.547±0.064	0.056±0.008	2.822±0.410	0.312±0.048	0.088±0.015	1.108±0.160	0.046±0.013	0.036±0.006	0.302±0.038
	菊池	42	0.678±0.057	0.458±0.020	0.062±0.005	3.457±0.206	0.194±0.018	0.072±0.009	0.728±0.054	0.025±0.010	0.019±0.002	0.185±0.015
鹿児島県	上牛鼻	50	0.612±0.015	0.486±0.009	0.042±0.005	2.625±0.103	0.164±0.007	0.073±0.013	0.977±0.021	0.018±0.008	0.029±0.003	0.271±0.007
	JG-1 ^{a)}	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.762±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011

麻畑原産地は岡山理科大学白石純氏発見の原産地(近日正式発表予定)
 平均値±標準偏差値、* : 黒曜石隕ガラス質安山岩 a) : Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E.(1974), 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples
 JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8 175-192.

表25-2 原石産地不明の組成の似たサヌカイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値(1)

遺跡名	遺物群名	分析 個数	元素比												
			K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca			
北海道	頭無川遺物群	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.156±0.090			
	納内No.17遺物群	48	0.284±0.006	0.316±0.008	0.113±0.016	9.214±0.461	0.158±0.013	0.160±0.013	1.067±0.046	0.022±0.012	0.020±0.002	0.164±0.004			
	吹上1遺物群	48	0.268±0.014	0.288±0.005	0.135±0.003	8.756±0.209	0.126±0.007	0.117±0.011	0.515±0.014	0.012±0.009	0.014±0.001	0.116±0.002			
	吹上2遺物群	50	0.427±0.021	0.338±0.009	0.126±0.003	6.023±0.150	0.237±0.012	0.140±0.013	1.098±0.036	0.051±0.021	0.029±0.001	0.378±0.022			
新潟県	吹上3遺物群	45	0.454±0.012	0.438±0.006	0.141±0.006	9.807±0.329	0.500±0.027	0.089±0.007	1.470±0.049	0.121±0.040	0.023±0.001	0.359±0.006			
	吹上4遺物群	45	0.152±0.006	0.241±0.012	0.153±0.002	9.752±0.143	0.103±0.008	0.147±0.012	0.748±0.020	0.011±0.013	0.011±0.001	0.101±0.001			
	吹上5遺物群	48	0.710±0.005	0.577±0.005	0.100±0.002	5.327±0.060	0.122±0.005	0.142±0.008	1.100±0.015	0.040±0.015	0.024±0.001	0.223±0.002			
	吹上6遺物群	45	1.617±0.050	2.629±0.072	0.061±0.006	14.039±0.664	0.403±0.026	0.096±0.013	1.202±0.050	0.087±0.045	0.124±0.001	2.923±0.104			
	吹上7遺物群	45	1.886±0.025	1.121±0.032	0.046±0.002	4.911±0.100	0.496±0.012	0.061±0.005	1.170±0.022	0.065±0.021	0.064±0.002	0.794±0.022			
	千葉1群	32	0.089±0.002	0.307±0.005	0.177±0.013	13.143±0.459	0.066±0.006	0.116±0.012	0.557±0.030	0.016±0.008	0.012±0.002	0.102±0.004			
	千葉2群	36	0.292±0.012	0.352±0.007	0.109±0.010	7.204±0.254	0.184±0.011	0.135±0.013	0.906±0.035	0.024±0.013	0.019±0.002	0.161±0.008			
千葉県	千葉3群	48	0.098±0.002	0.306±0.004	0.141±0.012	8.952±0.285	0.032±0.008	0.096±0.008	0.419±0.019	0.011±0.006	0.014±0.001	0.120±0.003			
	千葉4群	48	0.134±0.002	0.243±0.004	0.128±0.012	9.617±0.196	0.092±0.009	0.097±0.009	0.612±0.023	0.015±0.001	0.093±0.002				
	有吉No.13群	48	0.143±0.002	0.259±0.004	0.114±0.010	7.889±0.163	0.091±0.009	0.088±0.009	0.566±0.029	0.016±0.009	0.012±0.001	0.117±0.002			
	有吉No.14群	48	0.204±0.002	0.310±0.004	0.116±0.009	8.780±0.158	0.146±0.009	0.108±0.010	0.854±0.026	0.015±0.002	0.015±0.002	0.130±0.003			
石川県	酒島遺物群	42	0.447±0.064	0.608±0.017	0.089±0.012	5.098±0.781	0.153±0.019	0.116±0.014	1.258±0.118	0.016±0.012	0.024±0.004	0.208±0.027			
	地方15865群	48	0.366±0.011	0.341±0.013	0.077±0.008	4.116±0.119	0.115±0.012	0.087±0.010	0.586±0.059	0.012±0.008	0.022±0.002	0.204±0.007			
	野笹No.261他群	56	0.632±0.032	0.393±0.013	0.045±0.005	2.234±0.070	0.170±0.009	0.046±0.012	1.030±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.213±0.010			
	野笹No.271他群	35	0.407±0.010	0.304±0.005	0.040±0.005	1.882±0.041	0.089±0.005	0.033±0.005	0.671±0.030	0.023±0.005	0.018±0.002	0.177±0.006			
岐阜県	野笹No.282他群	33	0.799±0.009	0.512±0.010	0.050±0.005	2.540±0.096	0.221±0.014	0.077±0.011	1.213±0.039	0.034±0.007	0.026±0.002	0.240±0.009			
	野笹No.289他群	32	3.515±0.134	1.068±0.047	0.149±0.023	6.620±0.453	0.617±0.041	0.210±0.032	1.330±0.067	0.158±0.027	0.167±0.015	2.525±0.081			
	野笹No.262群	40	0.384±0.004	0.318±0.006	0.057±0.005	2.356±0.068	0.102±0.007	0.051±0.007	0.651±0.022	0.022±0.005	0.017±0.002	0.161±0.004			
	野笹No.295群	32	3.584±0.178	1.077±0.058	0.075±0.016	3.775±0.153	0.441±0.024	0.197±0.019	1.118±0.053	0.150±0.028	0.183±0.019	2.989±0.159			
静岡県	川津No.1群	48	0.101±0.002	0.297±0.003	0.067±0.009	3.895±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.009	0.017±0.002	0.147±0.010			
	朝日No.7群	35	0.334±0.004	0.362±0.005	0.075±0.012	13.011±0.347	0.056±0.009	0.112±0.009	0.589±0.028	0.011±0.009	0.011±0.001	0.088±0.002			
	朝日No.15群	35	1.016±0.022	0.582±0.012	0.043±0.005	4.187±0.141	0.477±0.019	0.089±0.020	1.722±0.058	0.058±0.026	0.032±0.009	0.557±0.021			
	赤ヶ平No.13群	48	0.458±0.012	0.199±0.003	0.053±0.007	3.752±0.073	0.217±0.017	0.060±0.011	0.635±0.047	0.013±0.006	0.019±0.002	0.145±0.004			
京都府	向出No.6群	48	0.236±0.003	0.189±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.010	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002			
	向出No.49群	48	0.310±0.003	0.203±0.003	0.052±0.004	3.734±0.074	0.228±0.016	0.059±0.010	0.610±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.147±0.002			
	中社No.82群	48	0.340±0.003	0.226±0.003	0.065±0.005	4.305±0.085	0.208±0.010	0.069±0.009	0.628±0.015	0.010±0.010	0.016±0.001	0.136±0.002			
	中社No.86群	48	2.638±0.057	0.949±0.026	0.025±0.008	4.536±0.105	0.624±0.019	0.139±0.027	1.425±0.050	0.059±0.019	0.097±0.033	1.903±0.055			
大阪府	中社No.89群	48	0.600±0.005	0.287±0.004	0.046±0.004	3.077±0.060	0.363±0.014	0.048±0.012	1.088±0.022	0.022±0.016	0.028±0.002	0.256±0.004			
	中社No.104群	48	0.133±0.002	0.117±0.002	0.095±0.006	6.365±0.098	0.112±0.007	0.044±0.010	0.328±0.020	0.009±0.009	0.011±0.001	0.102±0.002			
	鬼虎No.16群	33	0.361±0.004	0.253±0.004	0.053±0.007	3.105±0.070	0.238±0.106	0.063±0.014	0.684±0.025	0.027±0.008	0.018±0.001	0.170±0.004			
	鬼虎No.17群	33	0.372±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.241±0.010	0.056±0.009	0.675±0.024	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.005			
兵庫県	粟生間谷No.98群	48	0.421±0.009	0.227±0.005	0.066±0.009	4.359±0.132	0.217±0.015	0.067±0.009	0.651±0.025	0.026±0.009	0.015±0.002	0.129±0.006			
	粟生間谷No.15群	48	0.240±0.002	0.268±0.005	0.058±0.005	4.106±0.087	0.160±0.010	0.059±0.010	0.582±0.027	0.022±0.008	0.018±0.002	0.123±0.004			
	寺田No.117群	48	0.378±0.005	0.226±0.004	0.071±0.007	4.592±0.093	0.216±0.009	0.063±0.009	0.611±0.024	0.022±0.008	0.019±0.002	0.134±0.004			
	熊内No.7群	55	0.290±0.004	0.180±0.003	0.078±0.007	4.603±0.180	0.243±0.015	0.055±0.012	0.351±0.057	0.015±0.007	0.017±0.002	0.141±0.004			
和歌山県	熊内No.13群	55	0.307±0.003	0.185±0.002	0.081±0.009	4.895±0.103	0.323±0.016	0.055±0.019	0.417±0.059	0.014±0.007	0.016±0.001	0.127±0.003			
	熊内No.17群	48	0.271±0.013	0.196±0.003	0.074±0.009	4.661±0.148	0.183±0.018	0.056±0.013	0.808±0.027	0.017±0.007	0.019±0.002	0.145±0.005			
	熊内No.33群	48	0.699±0.008	0.150±0.004	0.080±0.008	2.790±0.054	0.584±0.018	0.045±0.030	0.417±0.030	0.017±0.010	0.029±0.003	0.283±0.007			
	堅田No.8遺物群	48	11.976±0.595	1.248±0.069	0.035±0.011	3.745±0.214	1.647±0.054	0.215±0.053	1.272±0.054	0.120±0.023	0.276±0.032	4.203±0.241			
鳥取県	堅田No.24遺物群	48	23.782±1.975	3.082±0.279	0.045±0.014	6.290±0.406	2.437±0.192	0.444±0.070	2.258±0.134	0.178±0.026	0.500±0.066	5.731±0.519			
	堅田No.28遺物群	48	1.934±0.083	1.349±0.064	0.026±0.010	8.161±0.354	0.625±0.025	0.128±0.027	1.414±0.061	0.072±0.027	0.092±0.010	1.051±0.059			
鳥取県	笹畷2No.2群	48	0.491±0.008	0.524±0.009	0.040±0.005	2.278±0.047	0.098±0.006	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006			
	笹畷2No.3群	48	0.324±0.007	0.508±0.007	0.048±0.005	2.859±0.079	0.088±0.056	0.051±0.006	0.622±0.025	0.048±0.008	0.021±0.002	0.152±0.006			

表25-2 原石産地不明の組成の似たサヌカイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

遺跡名	分析 個数	元素比												
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca			
平田遺物群	70	0.211±0.006	0.296±0.007	0.092±0.014	7.108±0.245	0.098±0.011	0.071±0.012	0.952±0.038	0.021±0.008	0.013±0.001	0.118±0.005			
喜時雨遺物群	44	3.461±0.177	2.341±0.134	0.158±0.041	17.661±1.079	1.099±0.048	0.268±0.036	2.124±0.106	0.157±0.035	0.116±0.012	1.201±0.085			
下山遺物群	60	0.190±0.003	0.286±0.005	0.090±0.010	6.872±0.311	0.088±0.008	0.064±0.008	0.928±0.021	0.017±0.008	0.014±0.001	0.102±0.005			
下山No.5遺物群	48	0.178±0.002	0.284±0.003	0.086±0.007	7.148±0.141	0.082±0.007	0.060±0.009	0.501±0.023	0.013±0.005	0.012±0.001	0.092±0.003			
下山No.11遺物群	48	0.161±0.004	0.272±0.004	0.090±0.008	7.586±0.287	0.076±0.009	0.060±0.008	0.468±0.009	0.014±0.006	0.012±0.001	0.087±0.003			
東船1遺物群	48	4.547±0.269	0.836±0.030	0.168±0.048	10.523±1.762	2.447±0.594	0.375±0.120	14.278±3.081	1.094±0.249	0.114±0.008	1.029±0.047			
川平No.2遺物群	48	0.745±0.012	0.216±0.006	0.017±0.002	0.685±0.015	0.104±0.005	0.005±0.005	0.276±0.025	0.019±0.004	0.032±0.004	0.311±0.011			
榑ヶ峠石斧群	48	8.728±1.974	2.927±0.557	0.242±0.037	25.324±3.676	2.332±0.065	0.115±0.045	1.833±0.105	0.040±0.012	0.142±0.030	0.952±0.188			
榑ヶ峠石棒群	48	0.020±0.003	0.170±0.011	0.319±0.027	33.311±1.570	0.053±0.016	0.151±0.022	0.577±0.051	0.022±0.012	0.007±0.001	0.051±0.002			
家の後No.14群	48	1.518±0.195	0.929±0.084	0.108±0.014	7.721±0.024	0.462±0.036	0.101±0.022	1.134±0.046	0.026±0.011	0.049±0.007	0.384±0.041			
平田磨製石斧群	48	0.365±0.025	0.281±0.018	0.252±0.010	3.352±0.083	0.241±0.013	0.016±0.008	0.189±0.024	0.005±0.002	0.023±0.003	0.165±0.006			
金クノ谷3遺物群	45	3.474±0.162	3.909±0.510	0.137±0.010	21.097±1.158	0.644±0.050	0.109±0.015	1.380±0.090	0.092±0.059	0.218±0.028	5.114±0.651			
金クノ谷34遺物群	45	1.639±0.031	1.096±0.025	0.097±0.004	3.948±0.124	0.342±0.015	0.093±0.005	0.949±0.034	0.058±0.031	0.117±0.002	3.552±0.056			
金クノ谷33遺物群	45	1.158±0.016	1.068±0.013	0.065±0.002	9.235±0.166	0.671±0.012	0.092±0.005	1.466±0.025	0.135±0.021	0.048±0.000	0.453±0.003			
中嶺32遺物群	44	0.357±0.015	0.603±0.021	0.061±0.001	3.683±0.029	0.104±0.004	0.028±0.001	0.826±0.007	0.087±0.005	0.018±0.000	0.174±0.005			
上大田6遺物群	45	0.261±0.005	0.202±0.004	0.077±0.002	5.481±0.073	0.276±0.011	0.076±0.013	0.861±0.020	0.016±0.013	0.020±0.001	0.127±0.001			
山口県	50	3.129±0.089	1.851±0.049	0.185±0.028	17.480±0.603	1.168±0.046	0.235±0.052	2.177±0.082	0.115±0.038	0.144±0.012	1.445±0.053			
徳島県	30	0.307±0.004	0.258±0.005	0.067±0.005	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.023	0.030±0.013	0.016±0.005	0.133±0.004			
香川県	60	0.684±0.012	0.248±0.006	0.066±0.012	4.139±0.128	0.429±0.019	0.077±0.022	1.178±0.040	0.058±0.013	0.025±0.002	0.262±0.007			
庵の谷遺物群	37	0.610±0.017	0.223±0.004	0.079±0.005	4.528±0.120	0.325±0.016	0.063±0.017	1.151±0.028	0.019±0.014	0.024±0.002	0.193±0.006			
高知県	48	0.293±0.007	0.237±0.003	0.050±0.002	3.976±0.127	0.164±0.010	0.061±0.010	0.658±0.026	0.024±0.008	0.017±0.002	0.127±0.007			
永迫No.18遺物群	48	0.440±0.085	2.190±0.242	0.026±0.006	0.671±0.068	0.012±0.002	0.057±0.005	0.913±0.047	0.050±0.008	0.339±0.037	4.867±0.543			
永迫No.19遺物群	48	0.239±0.006	0.195±0.003	0.065±0.002	5.106±0.092	0.174±0.010	0.063±0.007	0.628±0.014	0.013±0.010	0.010±0.001	0.097±0.001			
永迫329-316遺物群	50	1.017±0.015	0.270±0.006	0.057±0.002	3.168±0.082	0.538±0.016	0.114±0.007	1.194±0.030	0.021±0.013	0.037±0.001	0.386±0.015			
久木野10遺物群	34	0.397±0.006	0.297±0.007	0.071±0.009	3.723±0.129	0.181±0.011	0.048±0.012	0.397±0.029	0.071±0.010	0.021±0.002	0.189±0.014			
久木野12遺物群	48	0.687±0.010	0.369±0.008	0.046±0.005	2.596±0.074	0.132±0.008	0.033±0.010	0.995±0.027	0.066±0.011	0.033±0.003	0.284±0.014			
久木野17遺物群	45	37.546±7.947	6.872±1.512	0.055±0.024	12.163±1.242	1.718±0.118	0.319±0.060	1.898±0.167	0.211±0.052	1.490±0.316	16.795±3.403			
久木野26遺物群	48	20.336±1.582	7.598±0.614	0.046±0.015	7.914±0.477	1.359±0.073	0.396±0.064	3.562±0.227	0.050±0.029	0.803±0.098	8.469±0.649			
久木野44遺物群	45	0.766±0.067	0.513±0.029	0.049±0.019	2.430±0.163	0.334±0.034	0.418±0.052	0.739±0.083	0.069±0.036	0.080±0.016	4.625±0.293			
久木野45遺物群	48	1.207±0.070	1.243±0.056	0.022±0.009	1.545±0.063	0.152±0.015	0.080±0.015	0.493±0.039	0.030±0.012	0.160±0.020	7.566±0.327			
小田元1遺物群	48	3.016±0.070	0.776±0.023	0.072±0.015	5.825±0.210	1.422±0.045	0.327±0.070	2.927±0.123	0.128±0.032	0.095±0.010	1.075±0.035			
小田元2遺物群	48	6.803±0.509	6.922±0.400	0.039±0.011	7.900±0.181	0.941±0.035	0.152±0.048	2.189±0.088	0.103±0.027	0.505±0.068	10.179±0.870			
小田元16遺物群	48	10.792±0.566	6.222±0.400	0.087±0.020	16.004±0.737	1.026±0.046	0.209±0.053	2.286±0.179	0.114±0.041	0.449±0.040	3.550±0.188			
小田元17遺物群	48	7.394±0.483	5.276±0.388	0.066±0.029	1.396±0.168	0.779±0.069	0.908±0.074	2.009±0.190	0.139±0.063	0.359±0.039	3.562±0.299			
小田元18遺物群	48	1.235±0.051	1.195±0.063	0.066±0.029	1.396±0.168	0.779±0.069	0.908±0.074	2.009±0.190	0.139±0.063	0.100±0.013	5.405±0.216			
小田元20遺物群	48	4.151±0.104	0.877±0.032	0.069±0.018	5.517±0.182	1.853±0.058	0.515±0.061	3.206±0.112	0.197±0.011	0.129±0.011	1.394±0.045			
小田元21遺物群	48	0.152±0.015	0.188±0.022	0.023±0.010	2.606±0.215	1.123±0.023	0.227±0.026	0.621±0.086	0.033±0.019	0.026±0.005	1.251±0.131			
小田元22遺物群	48	2.988±0.185	1.712±0.113	0.083±0.018	12.064±0.318	0.995±0.031	0.214±0.069	2.217±0.088	0.114±0.033	0.039±0.009	0.901±0.048			
小田元23遺物群	48	1.071±0.027	0.751±0.028	0.075±0.012	10.726±0.392	0.708±0.030	0.147±0.040	1.690±0.066	0.093±0.025	0.043±0.004	0.377±0.010			
大原野24遺物群	48	0.783±0.013	0.525±0.008	0.041±0.006	2.415±0.071	1.202±0.010	0.091±0.016	1.131±0.034	0.025±0.011	0.033±0.003	0.324±0.006			
大原野27遺物群	48	7.505±0.286	3.161±0.125	0.065±0.019	16.100±1.244	1.072±0.042	0.154±0.049	1.722±0.067	0.102±0.032	0.190±0.021	1.418±0.080			
大原野28遺物群	48	7.403±0.961	2.017±0.279	0.096±0.039	0.621±0.075	1.250±0.098	0.800±0.099	1.995±0.192	0.118±0.062	0.326±0.065	16.352±0.210			
大原野34遺物群	48	0.694±0.010	0.337±0.005	0.079±0.011	6.278±0.206	0.592±0.023	0.081±0.031	0.872±0.034	0.190±0.002	0.043±0.004	0.258±0.008			
道下段76遺物群	50	0.354±0.006	0.302±0.004	0.072±0.001	4.520±0.051	0.174±0.009	0.073±0.011	0.677±0.019	0.020±0.013	0.023±0.001	0.155±0.001			

注：向出遺跡、下山No.5, No.11群、中ノ社遺跡、朝日遺跡、松ノ木遺跡、六ツ目遺跡、松ノ木遺跡、野笹No.262, 295群、粟生間谷遺跡、永迫2遺跡、笹畝2遺跡、川平遺跡、家の後遺跡、榑ヶ峠遺跡、川津町、有吉遺跡、堅田遺跡No.8, 24, 28遺物群、地方遺跡、大原野遺跡、道下段遺跡の分析個数は1個の遺物の分析場所を変えて分析した回数であらわす。下山遺跡(No.4, No.14, No.15)、平田遺跡(No.12, No.13)、庵の谷遺跡、野笹遺跡、喜時雨遺跡、東船遺跡、千葉2, 3, 4遺物群、城ノ内遺物群(No.13, No.22)の分析個数はそれぞれ2個以上の遺物の分析場所を変えて分析した回数であらわす。

表26 岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果

原石群名	個数	百分率(%)	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	20	30	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第二群	22	33	白峰群に一致
	6	9	法印谷群に一致
	5	8	国分寺群に一致
	4	6	蓮光寺群に一致
	3	5	金山東群に一致
	2	3	和泉群に一致
	4	6	不明(どこの原石群にも属さない)

表27 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果

原石群名	個数	百分率(%)	他原産地および他原石群との関係
和泉群	12	17	淡路島、岸和田、和歌山に出現、岩屋第一群に一致
	9	13	淡路島、岸和田、和歌山に出現
	6	8	白峰群、岩屋第二群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	39	54	不明(どこの原石群にも属さない)

表28 山賀遺跡出土サヌカイト製剥片の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
98450	0.265	0.218	0.071	4.591	0.203	0.071	0.619	0.013	0.015	0.120
98451	0.276	0.219	0.068	4.331	0.201	0.067	0.615	0.002	0.016	0.122
98452	0.280	0.218	0.068	4.402	0.198	0.069	0.650	0.014	0.016	0.127
98453	0.261	0.209	0.068	4.520	0.211	0.066	0.620	0.018	0.015	0.113
98454	0.279	0.210	0.065	4.213	0.199	0.075	0.626	0.018	0.016	0.122
98455	0.273	0.209	0.066	4.260	0.210	0.076	0.635	0.018	0.015	0.122
98456	0.289	0.226	0.069	4.341	0.206	0.073	0.623	0.010	0.016	0.129
98457	0.288	0.219	0.066	4.324	0.199	0.068	0.626	0.022	0.016	0.126
98458	0.275	0.214	0.066	4.273	0.199	0.064	0.634	0.011	0.016	0.124
98459	0.283	0.213	0.061	4.174	0.203	0.071	0.631	0.016	0.016	0.126
98460	0.303	0.199	0.052	3.726	0.222	0.068	0.606	0.017	0.017	0.142
98461	0.278	0.216	0.064	4.321	0.206	0.076	0.616	0.009	0.016	0.124
98462	0.260	0.201	0.068	4.366	0.197	0.064	0.601	0.001	0.015	0.117
98463	0.286	0.217	0.062	4.199	0.205	0.064	0.621	0.012	0.016	0.126
98464	0.281	0.215	0.062	4.237	0.208	0.075	0.633	0.006	0.016	0.123
98465	0.279	0.217	0.066	4.257	0.209	0.070	0.634	0.013	0.016	0.124
98466	0.277	0.215	0.070	4.405	0.209	0.069	0.633	0.017	0.016	0.123
98467	0.443	0.207	0.076	4.460	0.284	0.084	1.185	0.029	0.025	0.180
98468	0.276	0.215	0.067	4.315	0.203	0.067	0.625	0.009	0.016	0.123
98469	0.280	0.216	0.067	4.238	0.197	0.065	0.637	0.017	0.016	0.123
98470	0.285	0.217	0.065	4.266	0.199	0.069	0.633	0.005	0.015	0.121
98471	0.282	0.223	0.064	4.255	0.214	0.068	0.609	0.017	0.016	0.123
98472	0.302	0.217	0.068	4.286	0.206	0.077	0.633	0.009	0.016	0.124
98473	0.291	0.212	0.066	4.229	0.213	0.069	0.635	0.025	0.016	0.125
98474	0.278	0.210	0.065	4.234	0.209	0.074	0.623	0.003	0.016	0.122
98475	0.281	0.214	0.066	4.291	0.203	0.073	0.641	0.021	0.016	0.124
98476	0.288	0.222	0.066	4.316	0.200	0.079	0.634	0.016	0.016	0.128
98477	0.278	0.217	0.067	4.316	0.196	0.071	0.635	0.022	0.015	0.123
98478	0.279	0.216	0.067	4.328	0.207	0.074	0.630	0.011	0.016	0.125
98479	0.280	0.214	0.065	4.275	0.212	0.071	0.620	0.016	0.016	0.122
98480	0.295	0.220	0.065	4.290	0.206	0.075	0.631	0.022	0.015	0.123
98481	0.288	0.216	0.064	4.211	0.209	0.069	0.609	0.024	0.016	0.128
98482	0.280	0.215	0.065	4.281	0.210	0.069	0.635	0.007	0.016	0.125
98483	0.288	0.213	0.066	4.303	0.210	0.077	0.619	0.006	0.016	0.123
98484	0.305	0.202	0.053	3.800	0.231	0.054	0.612	0.006	0.017	0.147
98485	0.274	0.213	0.065	4.247	0.216	0.072	0.622	0.000	0.016	0.121
98486	0.283	0.221	0.063	4.290	0.209	0.070	0.598	0.000	0.015	0.122
98487	0.269	0.209	0.067	4.248	0.203	0.080	0.629	0.013	0.016	0.122
98488	0.281	0.217	0.066	4.288	0.200	0.068	0.617	0.009	0.015	0.122
98489	0.278	0.217	0.066	4.224	0.202	0.070	0.621	0.013	0.015	0.121
98490	0.281	0.216	0.066	4.275	0.201	0.072	0.633	0.022	0.016	0.126
98491	0.280	0.212	0.062	4.161	0.203	0.070	0.623	0.023	0.015	0.120
98492	0.277	0.214	0.064	4.122	0.210	0.075	0.628	0.022	0.016	0.123
98493	0.296	0.222	0.066	4.342	0.216	0.068	0.628	0.013	0.016	0.126
98494	0.465	0.214	0.074	4.411	0.285	0.086	1.196	0.029	0.026	0.189
98495	0.279	0.210	0.065	4.252	0.205	0.076	0.632	0.016	0.015	0.122
98496	0.441	0.222	0.086	4.609	0.293	0.068	1.164	0.006	0.024	0.176
98497	0.283	0.214	0.064	4.230	0.204	0.068	0.629	0.022	0.016	0.124
98498	0.271	0.210	0.066	4.181	0.201	0.074	0.625	0.014	0.016	0.120
98499	0.277	0.224	0.067	4.384	0.208	0.074	0.630	0.005	0.015	0.121
98500	0.293	0.227	0.047	4.079	0.213	0.080	0.609	0.013	0.015	0.123
98501	0.288	0.219	0.066	4.320	0.218	0.064	0.634	0.025	0.016	0.127
98502	0.286	0.219	0.066	4.188	0.206	0.072	0.616	0.009	0.016	0.124
98503	0.295	0.215	0.061	4.056	0.207	0.073	0.629	0.015	0.016	0.130
98504	0.270	0.197	0.067	4.300	0.199	0.071	0.628	0.014	0.015	0.115
98505	0.285	0.211	0.066	4.381	0.196	0.063	0.604	0.008	0.015	0.120
98506	0.293	0.230	0.066	4.324	0.209	0.071	0.627	0.022	0.015	0.136
98507	0.294	0.214	0.062	4.090	0.208	0.073	0.624	0.025	0.016	0.127
98508	0.289	0.225	0.065	4.305	0.211	0.074	0.627	0.016	0.016	0.128
98509	0.299	0.223	0.065	4.205	0.206	0.074	0.619	0.002	0.016	0.126
98510	0.287	0.219	0.066	4.284	0.200	0.066	0.632	0.022	0.016	0.128
JG-1	1.265	0.284	0.052	2.736	0.737	0.171	0.854	0.045	0.036	0.410

JG-1 : 標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

表29 山賀遺跡出土安山岩製剥片の検定結果(1)

分析番号	No.	登録番号	時期	遺構名	機種・分類	ホテリングのTz乗検定結果(%)	判定結果	備考
98450	1	304-(12)		252大溝	剥片	二上山(90%)	二上山	
98451	2	304-(13)		252大溝	剥片	二上山(70%)	二上山	
98452	3	304-(17)		252大溝	剥片	二上山(34%)	二上山	
98453	4	304-(22)		252大溝	剥片	二上山(28%)	二上山	
98454	5	304-(26)		252大溝	剥片	二上山(8%)	二上山	
98455	6	304-(27)		252大溝	剥片	二上山(14%)	二上山	
98456	7	304-(28)		252大溝	剥片	二上山(66%)	二上山	
98457	8	304-(29)		252大溝	剥片	二上山(54%)川棚第2群(0.2%)	二上山	
98458	9	304-(32)		252大溝	剥片	二上山(14%)	二上山	
98459	10	304-(37)		252大溝	剥片	二上山(2%)	二上山	
98460	11	304-(42)		252大溝	剥片	向出No.49遺物群(44%)	向出No.49遺物群	エアブラシ処理
98461	12	304-(45)		252大溝	剥片	二上山(61%)	二上山	
98462	13	304-(48)		252大溝	剥片	二上山(1%)	二上山	
98463	14	304-(52)		252大溝	剥片	二上山(13%)	二上山	
98464	15	304-(53)		252大溝	剥片	二上山(9%)	二上山	
98465	16	304-(55)		252大溝	剥片	二上山(45%)	二上山	
98466	17	304-(56)		252大溝	剥片	二上山(66%)	二上山	
98467	18	304-(59)		252大溝	剥片	金山東(3%)城山(1%)	金山東	
98468	19	304-(60)		252大溝	剥片	二上山(53%)	二上山	
98469	20	304-(63)		252大溝	剥片	二上山(13%)	二上山	
98470	21	304-(68)		252大溝	剥片	二上山(22%)	二上山	
98471	22	304-(71)		252大溝	剥片	二上山(74%)	二上山	
98472	23	304-(73)		252大溝	剥片	二上山(2%)	二上山	
98473	24	304-(76)		252大溝	剥片	二上山(9%)	二上山	
98474	25	304-(77)		252大溝	剥片	二上山(11%)	二上山	
98475	26	304-(234)		252大溝	剥片	二上山(22%)	二上山	
98476	27	304-(246)		252大溝	剥片	二上山(44%)	二上山	
98477	28	304-(270)		252大溝	剥片	二上山(34%)	二上山	
98478	29	306-(15)		252大溝	剥片	二上山(64%)	二上山	
98479	30	306-(18)		252大溝	剥片	二上山(50%)	二上山	
98480	31	306-(20)		252大溝	剥片	二上山(35%)	二上山	
98481	32	306-(21)		252大溝	剥片	二上山(31%)	二上山	
98482	33	306-(25)		252大溝	剥片	二上山(28%)	二上山	
98483	34	306-(26)		252大溝	剥片	二上山(26%)	二上山	
98484	35	306-(110)		252大溝	剥片	向出No.49遺物群(89%)	向出No.49遺物群	エアブラシ処理
98485	36	306-(111)		252大溝	剥片	二上山(15%)	二上山	
98486	37	312-(1)		252大溝	剥片	二上山(57%)	二上山	
98487	38	312-(7)		252大溝	剥片	二上山(11%)	二上山	
98488	39	312-(9)		252大溝	剥片	二上山(63%)	二上山	
98489	40	312-(12)		252大溝	剥片	二上山(52%)	二上山	
98490	41	312-(39)		252大溝	剥片	二上山(31%)	二上山	
98491	42	312-(40)		252大溝	剥片	二上山(4%)	二上山	
98492	43	312-(41)		252大溝	剥片	二上山(8%)	二上山	

表29 山賀遺跡出土安山岩製剥片の検定結果（2）

分析番号	No.	登録番号	時期	遺構名	機種・分類	ホテリングのT2乗検定結果(%)	判定結果	備考
98493	44	312-(51)		252大溝	剥片	二上山(76%)	二上山	
98494	45	312-(54)		252大溝	剥片	金山東(19%),城山(0.4%)	金山東	
98495	46	314-(83)		252大溝	剥片	二上山(10%)	二上山	
98496	47	314-(84)		252大溝	剥片	金山東(22%),城山(0.6%),金山西(0.4%)	金山東	エアブラシ処理
98497	48	314-(85)		252大溝	剥片	二上山(14%)	二上山	
98498	49	314-(86)		252大溝	剥片	二上山(10%)	二上山	
98499	50	73-2		20大溝	大型尖頭器未成品	二上山(95%)	二上山	
98500	51	138	II～III様式前半		打製石剣	奥山礫層2群(66%)	奥山礫層	エアブラシ処理
98501	52	312-1	I様式後半～II様式	252大溝下層	打製石剣	二上山(39%)	二上山	
98502	53	312-2	I様式後半～II様式	252大溝下層	打製石剣	二上山(44%)	二上山	
98503	54	400-1	(I様式後半～)II様式	253高まり内	打製石剣	二上山(1%)	二上山	
98504	55	585-4	I様式後半～II様式	298高まり内	打製石剣	二上山(0.3%)	二上山	
98505	56	632	I様式後半～II様式	361落ち込み	打製石剣	二上山(13%),川棚第2群(0.1%)	二上山	
98506	57	840-1	I様式後半～II様式	543溝	打製石剣	二上山(88%),川棚第2群(0.1%)	二上山	
98507	58	64	IV様式	408土坑	打製石剣	二上山(2%)	二上山	
98508	59	204	I様式後半(～II様式)	東側溝	打製石剣	二上山(85%)	二上山	
98509	60	16	I～II様式	2007高まり内	打製石剣	二上山(27%)	二上山	
98510	61	22	I～II様式	2011高まり内	楔	二上山(35%)	二上山	

※分析番号 98460, 98484, 98496, 98500番はエアブラシ処理面測定、他の遺物は非破壊（超音波洗浄のみ）で測定。

※注意：近年産地分析を行う所が多くなり、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告されることがあります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究方法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察する必要があります。

※編集注：登録番号の（ ）内の枝番は船橋氏の分析時の番号である。

山賀遺跡252大溝下層・1397溝出土石器について

1. はじめに

山賀遺跡03-1-2区の第6面252大溝下層および252大溝の前段階の溝と考えられる第9面1397溝からは弥生時代前期中様から中期初頭にかけての石器が多数出土している。本論では252大溝下層と1397溝出土資料のみの検討ではあるが、石器組成について概観したのち剥片の属性分析とMFと被熱した石器について検討を行い、山賀遺跡のサヌカイト製打製石器の生産について明らかにしていきたい。

2. 石器組成

252大溝下層から1167点、1397溝から49点、合計1216点出土している（表30）。このうち、ツール類は全体の45.3%と非常に高率である。これは微細剥離痕のある剥片（以下MF）が172点（14.1%）、二次加工のある剥片（以下RF）が99点（8.1%）、を占めることに起因する。

ツール類ではMF、RFに続いて削器、打製石鏃の順に出土量が多く、少数ながら大型蛤刃石斧や柱状片刃石斧などの伐採・加工斧が出土している。

石器製作具類では、素材となるサヌカイト礫のほかに、石核や剥片、叩き石などが一通りそろっており、サヌカイト礫から剥片生産、二次加工、製品生産を行っていたと考えられる。また石器組成において特定器種への偏りが窺えないことから、252大溝下層・1397溝出土資料からは石器の集約的な生産を行っていた可能性は考えにくく、遺跡内での使用を目的とした石器生産と使用が行われ、最終的に溝内に廃棄されたと想定できる。

3. 剥片の属性

ここでサヌカイト製剥片類の属性分析を行う。サヌカイト製の剥片類は252大溝下層から531点、1397溝から20点出土している。剥片の属性については、図366の剥片属性表の分類基準を用いた。

(1) 法量（図367）

剥片の最大長と最大幅の法量比を図367に示した。法量はほぼ最大長・最大幅とも2cm以上4cm以下にまとまりが認められる。平均値は最大長2.8cm、最大幅3.1cmと小型の剥片が中心であり、石核14点の平均値である最大長5.2cm、最大幅7.2cm、重量93.8gから剥離された剥片として整合的である。剥片の中には調整剥片と考えられる剥片や微細剥片（註1）が含まれており、石器製作を裏付ける資料であるといえる。

石核は252大溝下層から13点、1397溝から1点出土している。1点は扁平礫の素材で、円礫素材と考えられる2点を除いて、11点が剥片素材である（註2）が、剥片の法量から考えて大型のサヌカイト礫を素材に剥片剥離を行ったとは考えにくく、それほど大型でない原石から剥片を剥離したのち、剥片を素材にさらに剥片剥離を行ったと考えられる。

表30 252大溝下層・1397溝石器組成表

		252溝 下層	1397溝	合計	石器組成中に 占める割合
狩猟・武器類	打製石鏃	87	0	87	15.8
	(打製石鏃未製品)	24	1	25	4.5
	磨製石鏃	1	0	1	0.2
	打製石剣	9	0	9	1.6
	(打製石剣未製品)	1	0	1	0.2
	磨製石剣	2	0	2	0.4
	尖頭器	1	0	1	0.2
農具	打製石斧	3	1	4	0.7
	磨製石包丁	37	0	37	6.7
工具	石錐	32	0	32	5.8
	(石錐未製品)	2	0	2	0.4
	削器	50	9	59	10.7
	ノッチ	1	0	1	0.2
	石小刀	3	0	3	0.5
	RF	94	5	99	17.8
	MF	168	4	172	31.2
	大型蛤刃石斧	2	0	2	0.4
	扁平片刃石斧	1	0	1	0.2
砥石	7	0	7	1.3	
調理具	磨石	4	0	4	0.7
その他	不明磨製石器	3	0	3	0.5
小計		532	20	552	

		252溝 下層	1397溝	合計	石器製作具類に 占める割合
石器製作具類	石核	13	1	14	2.1
	楔形石器石核	2	0	2	0.3
	楔形石器	68	3	71	10.7
	剥片類	532	20	552	83.1
	熱破碎剥片	13	2	15	2.3
	熱破碎礫	4	1	5	0.8
	サヌカイト礫	2	0	2	0.3
	敲き石	1	2	3	0.4
小計		635	29	664	

総合計		1167	49	1216	
-----	--	------	----	------	--

(2) 打面

打面の形状の割合を図371に示す。252大溝では自然面打面、線打面、砕け、折れが各々20%前後を占める。

自然面打面次いで平坦打面は48点・9.0%、複剥離打面は5点・0.9%、1397溝では自然面打面が9点・45.0%である。打面の形状が確認できない折れと欠損を除いた割合は、252大溝では自然面打面が28.7%、平坦打面が11.7%、複剥離打面が1.2%、点打面が5.1%、線打面が25.3%、砕けが27.3%となる。1397溝では、自然面打面が50.0%、平坦打面が5.6%、点打面が5.6%、線打面が16.7%、砕けが16.7%である。

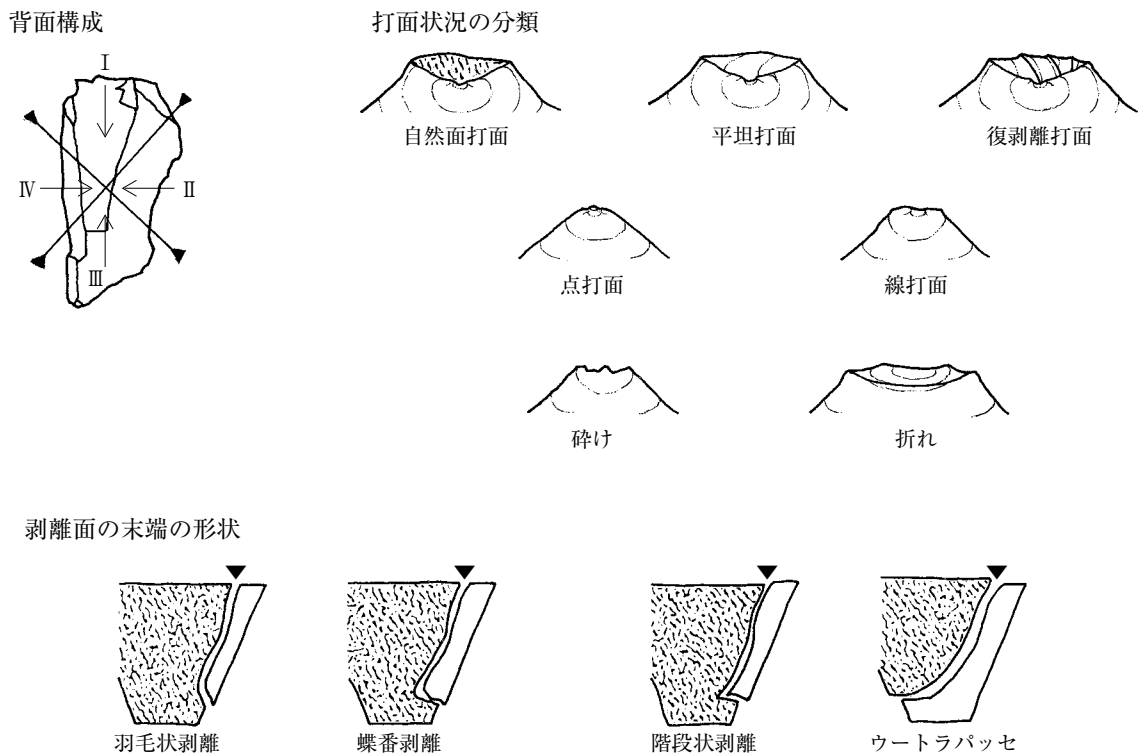


図366 剥片の属性

打面の形状から、剥片剥離の際に丁寧な打面調整や打面縁調整を行って剥片を剥離したとは考えにくく、打面調整や打面縁調整を行わない代わりに、自然面打面や平坦打面の平坦な面を選択して剥片を剥離していたものと考えられる。

また砕けた打面を有する剥片がかなりの割合で存在しており、楔形石器石核と楔形石器が合計73点、11.0%の割合で出土していることから、剥片剥離の際に両極技法が用いられた可能性が考えられる。

(3) 背面構成 (図372)

背面に残る剥離方向を I ~ IV、自然面に別けてその組み合わせをみていく。主剥離面と同一方向の剥離痕を I とし、以下時計回りに II ~ IV とする。I と対向するのが III で、II と IV とは互いに逆方向となる。

252大溝では I のみが183点で34.5%、I + 自然面が62点で11.7%、両方を合わせると、245点46.1%と約半分を占める。次いで I + III、I + III + 自然面で構成される剥片が60点11.3%という順である。

1397溝では I が6点・30%、I + 自然面が2点・10%と252大溝と同様の傾向が読み取れる。次いで多いのが I + IV・I + IV + 自然面で4点・20%を占める。I + IV・I + IV + 自然面で背面を構成される剥片は252大溝では49点・8.9%を占め、I + III・I + III + 自然面に次いで多い。また252大溝においては、I + II・I + II + 自然面も35点6.6%を占める。

以上のことから、剥片剥離技術の検討を行いたい。同一打面から連続して剥片が剥離されている状況が読み取れるが、IIIのみ、あるいはIII + 自然面という剥片は12点・2.3%と低率で、打面を180度転回して剥片剥離を行った可能性は低いといえる。このほか I + IIあるいは I + IVを基本とする背面構成をもつ資料からは最初に I の方向に剥片を剥離したのち、打面を左右どちらかに90度振って剥片を剥離した

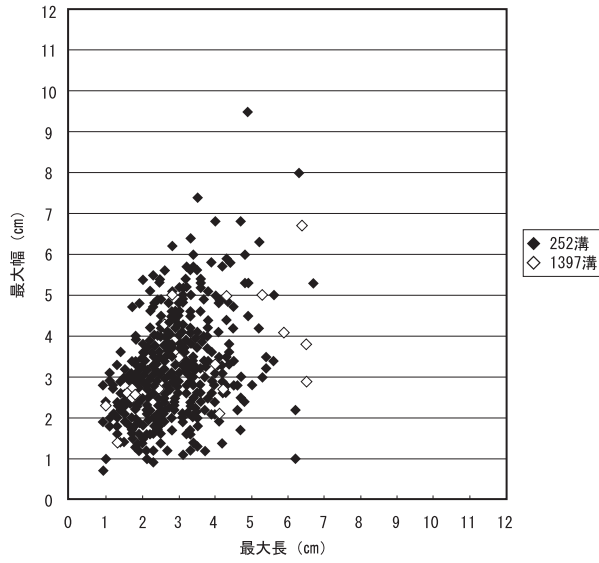


図367 剥片法量分布

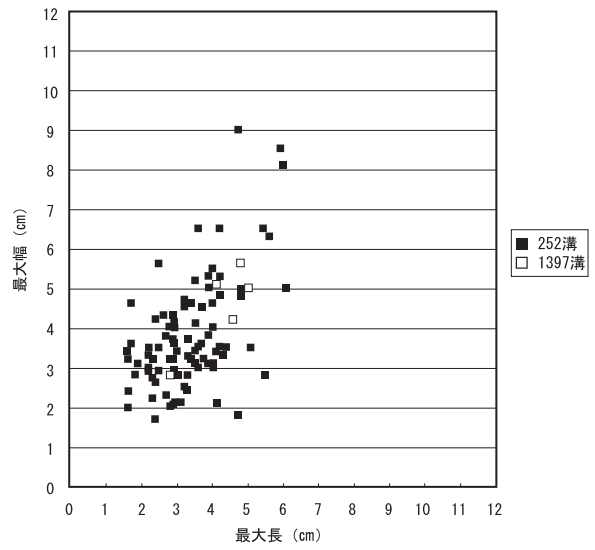


図368 R F 法量分布

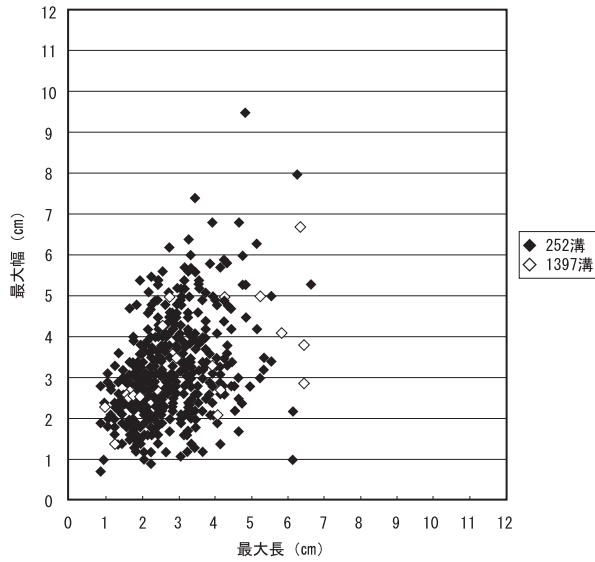


図369 MF 法量分布

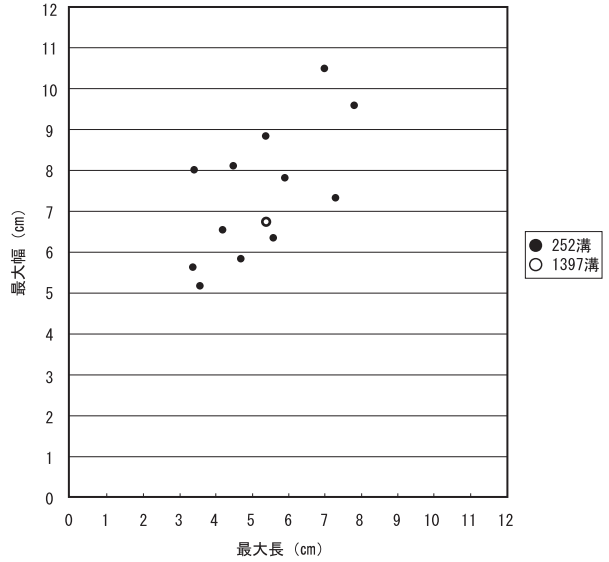


図370 石核法量分布

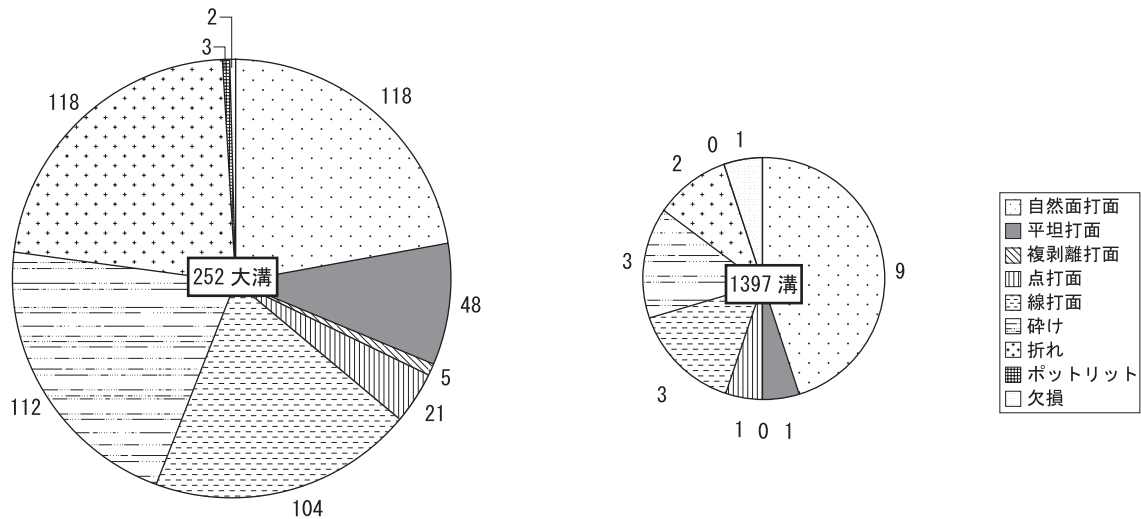


図371 打面の形状

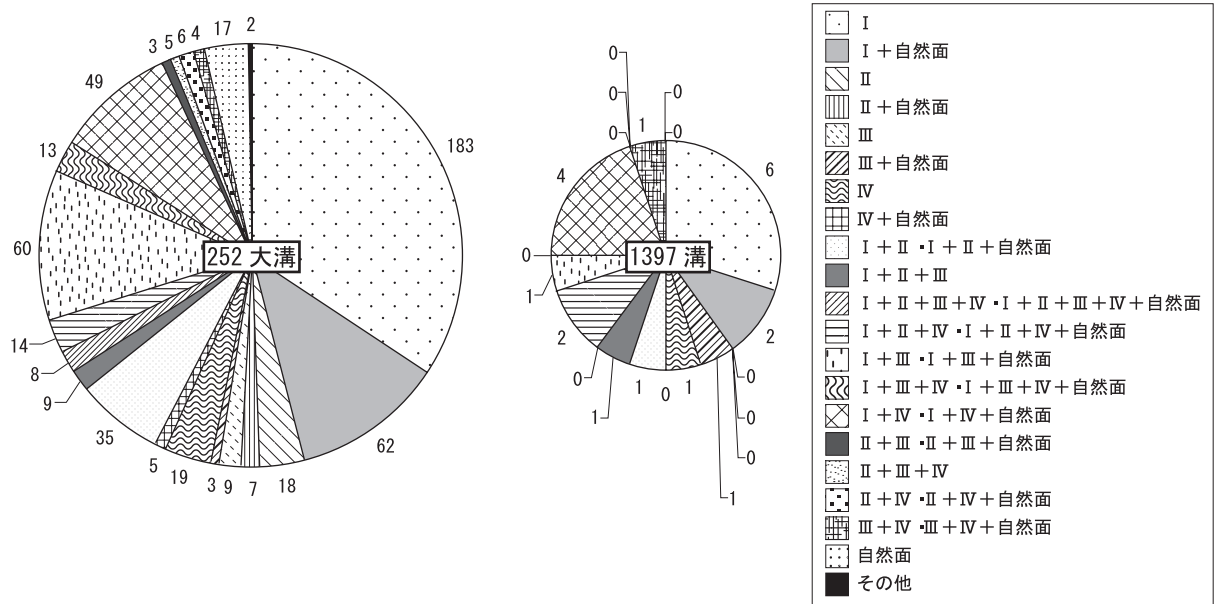


図372 背面構成

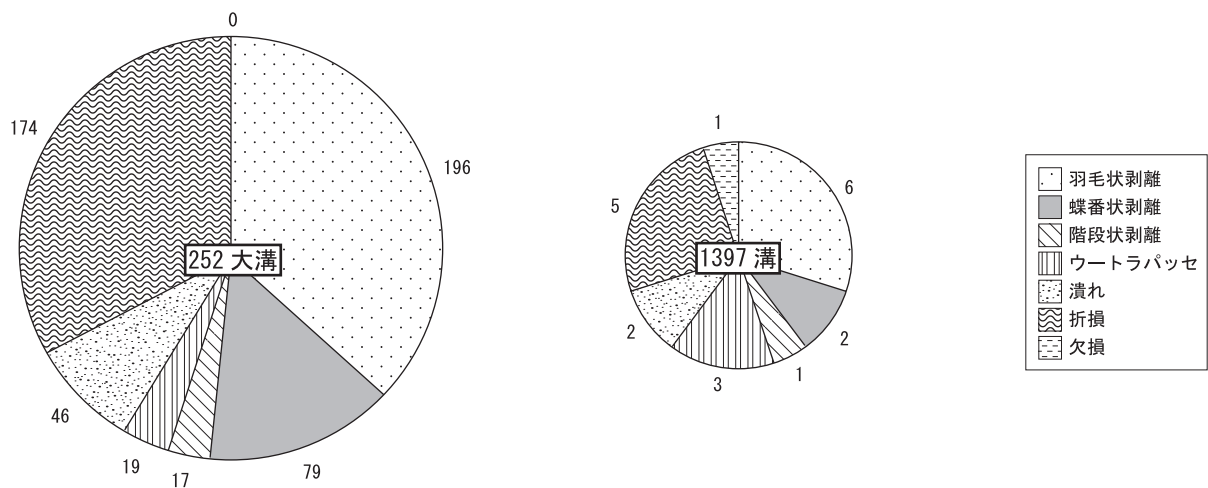


図373 末端の形状

表31 末端の形状と微細剥離痕の位置

末端の形状 微細剥離痕の位置	羽毛状	蝶番状	階段状	ウートラ パッセ	潰れ	折損	欠損
打面		1					
打面+左側辺	1			1		1	
打面+右側辺						1	
折損打面						1	
左側辺	6	2	1	3	1	10	1
左側辺+右側辺	3				2	1	
左側辺+右側辺+末端	5	1					
左側辺+末端	7		1			2	
右側辺	6	3	1	2		12	1
右側辺+末端	6(1)	1					
末端	73(3)	7	2	1		2	

()は1397溝出土資料

と考えられ、このほかに多様な背面構成を示す資料が多くあることから、ランダムな剥片剥離も行っていたと考えられる。

また直接打撃による剥片剥離のほか、I + III、I + III + 自然面で構成される剥片がやはり一定量存在しており、打面の検討の際にも触れたが、両極技法による剥片剥離が想定できる。

4. 微細剥離痕のある剥片（図369・表31）

252大溝および1397溝からMFが172点出土している。通常の遺跡でこれだけ多くのMFが出土することは珍しく、剥片が利器として相当量用いられていたことを示しているといえる。以下、MFの法量と微細剥離痕の位置について検討を行う。

MFの法量の平均は最大長3.7cm、最大幅4.1cmとやや大型の剥片を利用していたことが窺える（図369）。剥片の分布をみると平均値付近でややまとまりをみせるが、全体的に散漫な分布となっていることから、剥片の中で、比較的利用しやすい大きさのものを選り利器として利用していたと考えられる。

剥片の末端の形状と微細剥離痕の位置の相関関係を示したのが表31である。末端が羽毛状剥離である剥片の末端を利用している資料が252大溝、1397溝を合わせて76点・44.2%と高率で占め、末端のほかに側辺を利用した例も合わせると95点・55.2%と過半数を超える。ほとんどの資料で鋭利な末端や側辺を利用しており、定型的な石器を製作して利器として使用することよりも、石器製作の際に生じた鋭利な末端や側辺を有する剥片を利用していたか、あるいは、はじめから利器としての剥片を目的に剥片を剥離した可能性が考えられる。出土している剥片や石核を観察すると、二次加工を施して削器などの製品として利用できる剥片が少ないことから、山賀遺跡の剥片製作がMFとしての利用を目的としたものであった可能性も考えられる。

5. 被熱した石器

252大溝から層位は不明であるが、破砕面の中央部から割れが始まる壺蓋状破砕面（以下ポットリッド）で接合する接合資料が出土している（図374）。法量は図374 - No.311 - 3が最大長2.6cm、最大幅2.7cm、最大厚1.3cm、重量6.1g、図374 - No.311 - 4が最大長3.1cm、最大幅3.0cm、最大厚2.1cm、重量19.9gを測る。ポットリッドが腹面と側面に確認でき、側面側はボジ面で丸みをおび、ここから破砕したであろうネガ面の資料の存在が想定できる。

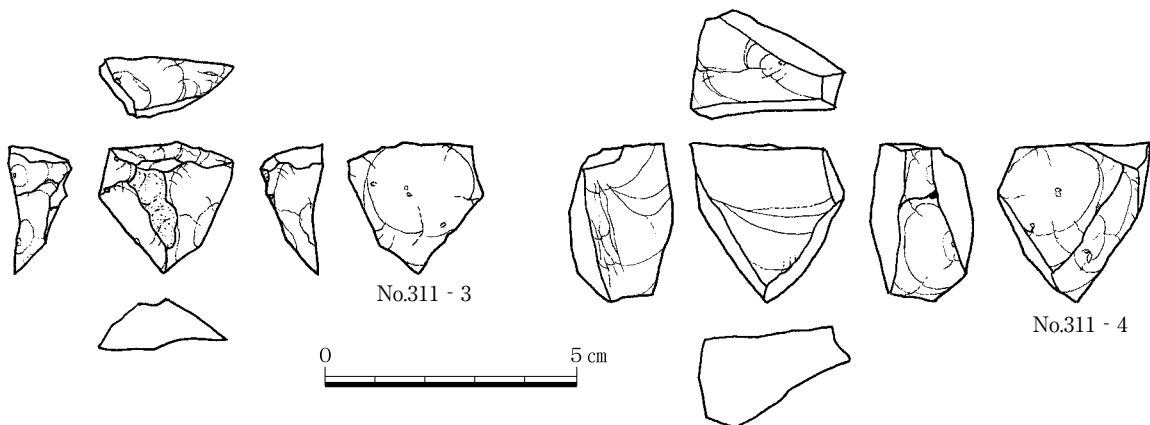


図374 接合資料

第9章 分析

この資料のほかに、252大溝下層および1397溝からは100点の被熱痕跡のある礫や被熱の可能性のあるポットリッドの剥離面を持つもの、リング、フィッシャーとも認められず、光沢のある剥離面や破断面が認められる資料が出土している。これらは剥片や石核のほかに、RFやMF、削器などにみられる。

サヌカイトの被熱資料については、かつてからその存在が明らかにされており（松藤1979）、その後の発掘調査においても資料は増加している（松藤・佐藤1984、岡田・山内2003）。サヌカイト以外の石材を用いた例については、玉髓や珪質頁岩、チャートを用いて加熱実験が行われており、加熱処理後の剥離面には強い光沢を帯たり、急激な温度の上昇によって引き起こされるポットリッド状の剥落が認められることが明らかになっており、その技術は縄文時代後期前葉から弥生時代中期後半まで利用された（御堂島 1993）と考えられている。山賀遺跡においても、サヌカイト製石器の製作段階において熱処理が行われていた可能性が考えられる。

本論では接合資料の報告に終わったが、今後別項を用意して改めて被熱資料の検討を行いたい。

6. まとめ

以上、山賀遺跡252大溝下層と1397溝の資料についてみてきた。資料数が1216点と膨大であることから、石器個別の検討は行えず、一括して概略的な報告と検討となった。また、山賀遺跡の一遺構のみを取り上げての報告となったため、遺跡の場の問題や時期別の検討を行えていない。今後個別の石器についての検討や山賀遺跡や近隣の遺跡群と比較を行い、弥生時代における石器生産について明らかにしていきたい。

（船築紀子）

註

（註1）本論では便宜的に1cm以下の剥片を微細剥片として分類する。

（註2）本来、剥片剥離技術の検討には素材である石核の検討が重要であるが、石核の検討は追って行いたい。

参考文献

- 大倉利予 2002 「鶴峯荘第3地点遺跡における瀬戸内技法の分布」『二上山・関屋盆地における石器製作遺跡の調査』香芝市教育委員会
- 岡田憲一・山内基樹 2003 「石製品」『西坊城遺跡Ⅱ』奈良県立橿原考古学研究所
- 手島美香・秋山浩三 2004 「弥生時代における打製石器製作技術の変容－瓜生堂遺跡の弥生前・中期剥片剥離の比較検討をケース・スタディとして」『瓜生堂遺跡1』（財）大阪府文化財センター
- 藤山龍造 2004 「石器研究の視覚－利器としての剥片－」『時空をこえた対話－三田の考古学－』六一書房
- 松藤和人 1979 「再び“瀬戸内技法について”－瀬戸内技法第1行程を中心に－」『二上山・桜ヶ丘遺跡－第1地点の発掘調査報告』奈良県立橿原考古学研究所・奈良県教育委員会
- 松藤和人・佐藤良二 1984 「香芝町桜ヶ丘第1地点遺跡第4次発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報1983年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 御堂島正 1993 「加熱処理による石器製作－日本国内の事例と実験的研究－」『考古学雑誌』79-1

山賀遺跡出土管玉の産地分析

藁科哲男（有限会社 遺物材料研究所）

はじめに

今回分析を行った玉類は管玉で、玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、メノウなどが推測される。一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。

これら玉材については岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどくらいであり、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。また原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこの産地の原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となるのである。

遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何ヶ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）や碧玉の原産地のうち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説であったが、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法¹⁾ および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光X線分析で行う元素比法^{2)・3)} が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究としては蛍光X線分析法と電子スピン共鳴法を併用することで産地分析をより正確に行った例⁴⁾ が報告されている。

石鏃などの石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1) 石器の原材産地推定で明らかになる遺跡から石材原産地までの移動距離、活動範囲は、石器が生活必需品であるので、生活上必要な生活圏と考えられる。(2) 玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではなく、勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリとして精神的な面に重要な作用を与えられられる。

従って、玉類の産地分析で、明らかになる玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれないし、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏ではないかと考えられる。このように玉類の産地分析では、石器の原材産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行った遺物は、大阪府八尾市新家町5丁目に位置する山賀遺跡の弥生時代第Ⅱ～Ⅲ様式前半の管玉1個の産地分析結果が得られたので報告する。

非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。その区別するための指紋は鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。

成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。一致する産地が見付かることは必要な条件であるが、一致する産地は一カ所とは限定できず、全ての産地について、その産地のものであるか、否か検定を行う必要があり、ホテリングのT2乗検定をこない、判定は一致する産地を満たす『必要条件』と同時に一致しない産地『充分条件』を求めて産地を推定する。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。よって石器の原材産地分析で成功している⁴⁾非破壊で分析を行なう蛍光X線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。

遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比を測り、この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。碧玉製玉類はESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した⁵⁾。

碧玉原石の蛍光X線分析

碧玉の蛍光X線スペクトルの例として鳥根県、花仙山産原石を図375に示す。

猿八産、玉谷産の原石から検出される蛍光X線ピークも異同はあるものの図375で示されるピークは観測される。土岐、興部の産地の碧玉は鉄の含有量が他の産地のものに比べて大きいのが特徴である。

産地分析に用いる元素比組成は、Al/Si、K/Si、Ca/K、Ti/K、K/Fe、Rb/Fe、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrである。Mn/Fe、Ti/Fe、Nb/Zrの元素比は非常に小さく、小さい試料の場合測定誤差が大きくなるので定量的な判定の指標とはせず、判定のときに、Ba、La、Ceのピーク高さとともに、定性的に原材産地を判定する指標として用いている。

碧玉の原産地と原石の分析結果

分析した碧玉の原石の原産地を図376に示す。

佐渡猿八原産地は、①新潟県佐渡郡畑野町猿八地区で、産出する原石は地元で青玉と呼ばれている緑色系の石で、良質なものは割れ面がガラス光沢を示し、質の良くないものは光沢の少ないグリーンタフ的なものである。産出量は豊富であつたらしく採石跡が何ヶ所も見られるが、今回分析した原石は猿八の各地点から表採したもの、および地元で提供された原石などであり、また提供されたものの中には露頭から得られたものがあり、それはグリーンタフ層の間に約7cm幅の良質の碧玉層が挟まれた原石であった。分析した原石の比重と個数は、比重が2.6~2.5の間のは31個、2.5~2.4の間は5個の合計36個で、この中には、茶色の碧玉も2個含まれている。原石の比重が2.6~2.3の範囲で違っても、碧玉の色が茶色、緑色、また、茶系色と緑系色の縞があるなど、多少色の違いがあっても分析した組成上には大きな差はみられなかった。

出雲の花仙山は近世まで採掘が行われた原産地で、所在地は②鳥根県八束郡玉湯町玉造温泉地域である。産出する原石は、濃緑色から緑色の緻密で剥離面が光沢をもつ良質の碧玉から淡緑色から淡白色などいろいろで、他に硬度が低そうなグリーンタフの様な原石も見られる。良質な原石の比重は2.5以上

あり、質が悪くなるにしたがって比重は連続的に2.2まで低くなる。分析した原石は、比重が2.619～2.600のもの10個、2.599～2.500は18個、2.499～2.400は7個、2.399～2.300は11個、2.299～2.200は11個、2.199～2.104は3個の合計60個である。比重から考えると碧玉からグリーンタフまでの領域のものが分析されているのがわかる。花仙山産原石は色の違い、比重の違いによる分析組成の差はみられなかった。

玉谷原産地は、③兵庫県豊岡市辻、八代谷、日高町玉谷地域で産出する碧玉の色、石質などは肉眼では花仙山産の原石と全く区別がつかない。また、原石の中には緑系色に茶系色が混じるものもみられ、これは佐渡猿八産原石の同質のものに非常によく似ている。比重も2.6以上あり、質は花仙山産、佐渡猿八産原石より緻密で優れた感じのものもみられる。このような良質の碧玉の採取は、産出量も少ないことから長時間をかけて注意深く行う必要がある。分析した玉谷産原石は、比重が2.644～2.600は23個、2.599～2.589は4個の合計27個で、玉谷産原石は色の違いによる分析組成の差はみられなかった。また、玉谷原石と一致する組成の原石は日高町八代谷、石井、アンラクなどで採取できる。

二俣原産地は、④石川県金沢市二俣町地域で、原石は二俣川の河原で採取できる。二俣川の源流は医王山であることから、露頭は医王山に存在する可能性がある。ここの河原で見られる碧玉原石は、大部分がグリーンタフ中に層状、レンズ状に非常に緻密な部分として見られる。分析した4個の原石の中で、3個は同一塊から3分割したもので、1個は別の塊からのもので、前者の3個の比重は2.42で後者は2.34である。また元素組成は他の産地の組成と異なっており区別できる。しかし、この4個が二俣原産地から産出する碧玉原石の特徴を代表しているかどうか検証するために、さらに分析数を増やす必要がある。細入村の産地は、⑤富山県婦負郡細入村割山定座岩地区にあり、そのグリーンタフの岩脈に団塊として緻密な濃緑の碧玉質の部分が見られる。それは肉眼では、他の産地の碧玉と区別できず、また、出土する碧玉製の玉類とも非常に似た石質である。しかし、比重が分析した8個は2.25～2.12と非常に軽く、この比重の値で他の原産地と区別できる場合が多い。

土岐原産地は、⑥愛知県土岐市地域であり、そこでは赤色、黄色、緑色などが混じり合った原石が産出している。このうち緻密な光沢のよい濃緑で比重が2.62～2.60の原石を碧玉として11個分析を行った。ここの原石は鉄の含有量が非常に大きく、カリウム含有量が小さいという特徴を持ち、この元素比の値で他の原産地と区別できる。

興部産地は、⑦北海道紋別郡西興部村にあり、その碧玉原石は鉄の含有量が非常に高く、他の原産地と区別する指標になっている。また、比重が2.6以下のものはなく遺物の産地を特定する指標として重要である。

石戸の産地は、⑧兵庫県氷上郡山南町地区にあり、その安山岩に脈岩として採取されるが産出量は非常に少ない。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。

⑨北海道富良野市の空知川流域から採取される碧玉は濃い緑色で比重が2.6以上が4個、2.625が5個、2.524が5個である。その碧玉の露頭は不明で河原の礫から採取するため、短時間で良質のもの碧玉を多数収集することは困難である。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。

⑩北海道上磯郡上磯町の茂辺地川の川原で採取される碧玉は不均一な色の物が多く、管玉に使用できる色の均一な部分を大きく取り出せる原石は少ない。

これら原石を原産地ごとに統計処理を行い、元素比の平均値と標準偏差値をもとめて母集団を作り表32-1に示す。各母集団に原産地名を付けて、その産地の原石群、例えば花仙山群と呼ぶ。花仙山群は

比重によって2個の群に分けて表に示したが比重は異なっても組成に大きな違いはみられない。したがって、統計処理は一緒に行い、花仙山群として取り扱った。

原石群とは異なるが、例えば、豊岡市女代南遺跡で主体的に使用されている原石産地不明の碧玉製の玉の原材料で、玉作り行程途中の遺物が多数出土している。当初、原石産地を探索するという目的で、これら玉、玉材遺物で作った女代南B（女代B）群であるが、同質の材料で作られた可能性がある玉類は最近の分析結果で日本全土に分布していることが明らかになってきた。

宇木汲田遺跡の管玉に産地未発見の原石を使用した同質の材料で作られた管玉で作った未定C（未定（C））群をそれぞれ原石群と同じように使用する。

また、岐阜県可児市の長塚古墳出土の管玉で作った長塚（1）、（2）の遺物群、多摩ニュータウン遺跡、梅田古墳群、上ノ段遺跡、梅田東古墳群、新方遺跡などから出土した玉類および玉材剥片でそれぞれ遺物群を作り他の遺跡、墳墓から出土する玉類に組成が一致するか定量的に判定できるようにし、原石・遺物群を表32-2に示した。

この他、鳥取県の福部村多鯰池、鳥取市防己尾岬などの自然露頭からの原石を4個分析した。比重は2.6以上あり元素比組成は、興部、玉谷、土岐石に似るが、他の原産地の原石とは組成で区別される。

また、緑系の原石ではない。最近、兵庫県香住町の海岸から採取された親指大1個の碧玉様の玉材は貝殻状剥離がみられる緻密な石質で少し青っぽい緑の石材で玉の原材料になると思われる。この玉材の蛍光X線分析の結果では、興部産碧玉に似ているが、ESR信号および比重（2.35）が異なっているため、興部産碧玉と区別ができる。

山賀遺跡出土の管玉と国内産碧玉原材との比較

遺跡から出土した玉材は表面の泥を超音波洗浄器で水洗するだけの完全な非破壊分析で行っている。

遺物の原材産地の同定をするために、（1）蛍光X線法で求めた原石群と碧玉製遺物の分析結果を数理統計の手法を用いて比較をする定量的な判定法で行なう。（2）また、ESR分析法により各産地の原石の信号と遺物のそれを比較して、似た信号の原石の産地の原材であると推測する方法も応用した。

蛍光X線法による産地分析

管玉の比重および蛍光X線分析による元素組成比を求めて結果を表33に示す。碧玉と分類した遺物は、緻密で、蛍光X線分析でRb,Sr,Y,Zrの各元素が容易に観測できるなどを条件に分類した。また、緑色凝灰岩（グリーンタフ）製は比重が2.4に達しない玉材が多い。

分析した管玉は緻密で、吸水の性質も見られず、比重は2.413で碧玉製に近い原材と推測される。管玉の元素組成比の結果を原石・遺物群（表32）について、数理統計のマハラノビスの距離を求めて行うホテリングT²乗検定⁶⁾により同定を行ったところ、何処の原石群、遺物群とも信頼限界の0.1%に達しないことが明らかになったが紙面の都合上、表34には原石・遺物群（表32）の中から高確率で同定された原石・遺物群を抜粋して記した。最も組成の近かった原石・遺物群は牟田辺（凝灰）遺物群に0.03%で同定された。

例えば、原材組成の似た原石同士は距離的に近い位置に存在するとの仮説で推測すると、管玉の原材産地と牟田辺（凝灰）遺物群の原材産地が比較的近い距離に存在する可能性が推測される。しかし、今回分析した管玉の分析場所を変えて統計処理が可能な45回分析し、山賀-283遺物群を作り、この管玉と

同じ岩塊で作られた兄弟玉類が他の遺跡で使用されているときに判定できるように、新しく原石・遺物群（表32）に登録した。より正確に産地を特定するためにE S R分析を併用して総合的に産地分析を行った。

E S R法による産地分析

E S R分析は碧玉原石に含有されているイオンとか、碧玉が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。

E S Rの測定は、完全な非破壊分析で、直径が11mm以下の管玉なら分析は可能で、小さい物は胡麻粒大で分析ができる場合がある。図378-（1）のE S Rのスペクトルは、幅広く磁場掃引したときに得られた信号スペクトルで、g値が4.3の小さな信号（Ⅰ）は鉄イオンによる信号で、g値が2付近の幅の広い信号（Ⅱ）と何本かの幅の狭いピーク群からなる信号（Ⅲ）で構成されている。図378-（1）では、信号（Ⅱ）より信号（Ⅲ）の信号の高さが高く、図378-（2）、-（3）の二俣、細入原石ではこの高さが逆になっているため、原石産地の判定の指標に利用できる。各原産地の原石の信号（Ⅲ）の信号の形は産地ごとに異同があり産地分析の指標となる。

図379-（1）に花仙山、猿八、玉谷、土岐を図379-（2）に興部、石戸、八代谷-4、女代B遺物群、八代谷および図379-（3）に富良野市空知川の空知（A）、（B）、北海道今金町花石および茂辺地川の各原石の代表的な信号（Ⅲ）のスペクトルを示す。図379-（4）には宇木汲田遺跡の管玉で作った未定C形と未定D形およびグリーンタフ製管玉によく見られる不明E形を示した。E S R分析では管玉のE S R信号の形が、それぞれ似た信号を示す原石、産地不明遺物群のE S R信号形と一致した場合、その産地の可能性が大きいことを示唆している。

今回分析した山賀遺跡の管玉のESR信号の結果を図380に示す。図380-（1）の幅広く磁場掃引したとき大きな信号Ⅱに、信号Ⅲが重なっている。（2）のESR信号（Ⅲ）は調査した碧玉、緑色凝灰岩の中で不明（E）形に一致し、また蛍光X線分析法で求めた元素組成が似ているとした、牟田辺（凝灰）遺物群の原材のE S R信号（Ⅲ）も不明（E）形で一致する。より正確な原石産地を推測するために蛍光X線分析の結果と組み合わせ総合判定として、両方法でともに同じ原産地に特定された場合は、蛍光X線の元素分析のみで判定した原石・遺物群産地よりも正確に、その原石・遺物群と同じものが使用されているとして総合判定原石産地の欄に結果（表34）を記した。

結論

分析した管玉は、比重が2.413で、緻密であることから、碧玉に近いと推測される。蛍光X線分析の結果では、調査した原石・遺物群の中では、信頼限界の0.1%に達しなかったが、最も管玉の元素組成に近い群として、牟田辺（凝灰）遺物群に0.03%で同定された。また、牟田辺（凝灰）遺物群の原材のE S R信号（Ⅲ）も管玉と同じ不明（E）形で一致する。蛍光X線分析法とE S R分析結果から求める総合判定では、管玉の原材産地は不明とした。

例えば、原材組成の似た原石同士は距離的に近い位置に存在するとの仮説で推測すると、管玉の原材産地と牟田辺（凝灰）遺物群の原材産地が比較的近い距離に存在する可能性が推測される。また、この管玉を作った、原材から複数の管玉が作られ、山賀遺跡以外の遺跡に供給された可能性を想像して、山賀-283遺物群を作り、この管玉と同じ岩塊で作られた兄弟玉類が他の遺跡で使用されているときに判定

できるように、新しく原石・遺物群（表32）に登録した。

弥生時代に使用された、原石・遺物群の使用圏をみると、女代南B遺物群は弥生時代を中心に多用された原石で、豊岡市の女代南遺跡の中期の玉作り過程の石片、滋賀県の筑摩佃、立花遺跡出土の管玉、神戸市の玉津田中遺跡の中期の石片、管玉には玉谷産と共に使用されていた。

玉谷産碧玉は、京都府の余部遺跡で剥片が出土している。関東地方では埼玉県蓮田市宿下遺跡、東海地方では、清洲町朝日遺跡、新城市大宮の大ノ木遺跡の弥生時代の管玉に、畿内地域では東大阪市の、鬼虎川、巨摩、亀井、久宝寺北、久宝寺南遺跡で、また中国地方では、作用町の長尾・沖田遺跡の中期末の管玉、総社市の南溝手遺跡出土の弥生前期末～中期初頭の玉材、岡山市の百間川原尾島遺跡出土の管玉、岡山県川上村下郷原和田遺跡の管玉、鳥取県羽合町の長瀬高浜遺跡の中期中葉の管玉、米子市の御建山遺跡尾高19号墳第2主体部出土の管玉、東広島市の西本6号遺跡の管玉に使用されている。四国地方では徳島県板野町の蓮華谷古墳群Ⅱ、2号墳、3世紀末の管玉、香川県善通寺市の彼ノ宗遺跡の末期の管玉に使用され、九州地方では、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、また宇木汲田遺跡の管玉に使用されていた。また、統縄文時代には北海道の上磯町茂別遺跡、余市大川遺跡、千歳市キウス遺跡にまで伝播し、女代南B群の原石は糸魚川産ヒスイに匹敵する広い分布圏を示している。

一方、未だ畿内では使用が確認されていない管玉として、南溝手遺跡の中期前葉の管玉片には、唐津市の宇木汲田遺跡の管玉で作った原石群の未定C群の原石が使用され、この未定C群は坂出市の龍川・五条遺跡の管玉、今治市の持田町3丁目遺跡の前期の管玉、大和町の尼寺一本松遺跡の管玉、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、吉野ヶ里遺跡の南西サブトレ出土の管玉に使用されている。

また、猿八産原石が弥生時代に使用されている遺跡は、北海道余市町の大川遺跡および茂別遺跡の統縄文時代では女代南B群原石の管玉と共に使用され、江別市の大麻22遺跡出土の統縄文（後北C1式）の管玉に、七飯町の大中山13遺跡（統縄文）出土の管玉に使用され、佐渡島以北で主に使用されていることが明らかになっている。西日本では、鳥取県の高瀬長浜遺跡では女代南B群と同時に猿八産碧玉が使用されているにすぎない。

これら佐渡産碧玉、女代南B群の剥片出土遺跡は、豊岡市、米原町、福井県など日本海側で、これら玉類が日本海の玉材原産地地方で作られ、これら玉類の使用圏からみて、日本海を交易ルートとし遠距離に伝播したと推測され、伝播には遺跡をリレー式に伝わる場合、また、産地から遠距離の遺跡に直接到達する場合などが考えられる。未定C群は、朝日遺跡で使用されている可能性が推測されたことから、推測は空論になるが、未定C群の管玉が韓国で作られ、西北九州地方および瀬戸内海ルートを通して伊予、備前、讃岐へ流入し現在の東進の限界になっている。朝日遺跡での使用は、播磨、摂津、大和、近江を飛び越え、尾張の朝日遺跡に伝播したことが明らかになり東進の限界が一気に300Km延びる可能性がでてくる（図376）。笠見第3遺跡で使用されている最古（弥生時代後期）の花仙山産原石の管玉未製品は、花仙山産原石地が笠見第3遺跡から近いにもかかわらず、圧倒的に、北陸産と推測している女代南B遺物群が搬入されている。これは遺跡から近い産地が多用されるとは限らないことを示し、先史の交易を推測する貴重な例と思われる。

玉類の産地分析を行うときの困難さは原石の入手で、産地同定を定量的に行う場合、統計処理の母集団（原石群）を作り、原石群の組成の変動を評価するため多数の原石が必要で、今後、佐渡島猿八産原石が佐渡島以南に本当に伝播していないかを調査し、女代南B群、未定C群、不明の管玉などの原石産地を明らかにし、これら不明の原石群を作ること、また、玉類に使用されている産地の原石が多い方が、

その産地地方との文化交流が強いと推測できることから、日本各地の遺跡から出土する貴重な管玉を数多く分析することが重要で、是非とも各地の遺跡の詳細な碧玉製遺物の科学的調査が必要であるが現在調査が殆ど進んでいないのが現状で、国庫補助での発掘調査には必ず科学的調査も加えるべきだと思う。今回行った産地分析は完全な非破壊で、玉類、碧玉産地に関する小さな情報であっても御提供頂ければ研究はさらに前進すると思われます。

参考文献

- 1) 茅原一也 (1964)、長者が原遺跡産のヒスイ (翡翠) について (概報)。長者ヶ原、新潟県糸魚川市教育委員会:63-73
- 2) 藁科哲男・東村武信 (1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6:1-18
- 3) 藁科哲男・東村武信 (1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。
橿原考古学研究所紀要『考古学論攷』,14:95-109
- 4) 藁科哲男・東村武信 (1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学,16:59-89
- 5) Tetsuo Warashina (1992)、Alloction of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF.
Journal of Archaeological Science 19:357-373
- 6) 東村武信 (1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学,9:77-90

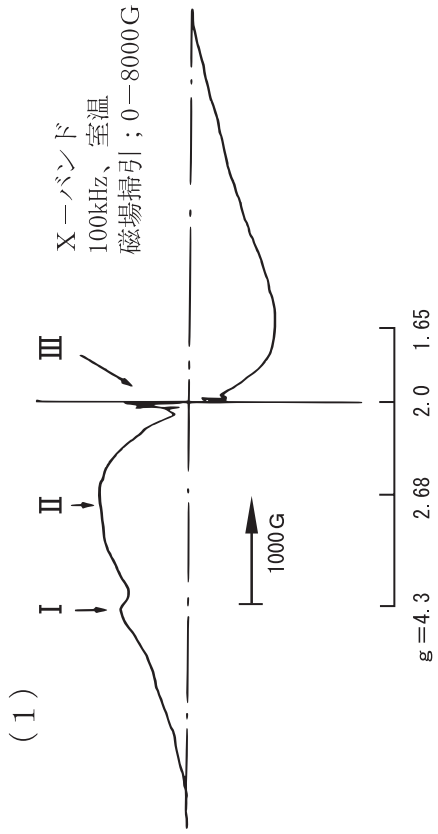


図375 花仙山産碧玉原石の蛍光X線スペクトル

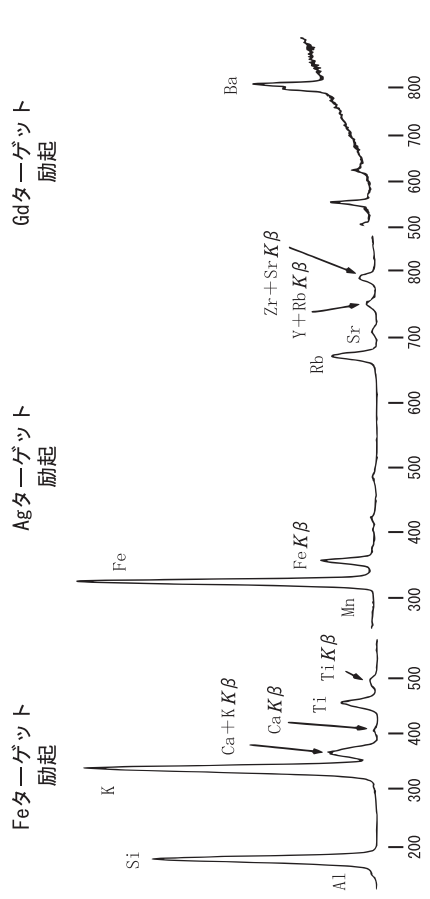


図376 花仙山産碧玉原石の蛍光X線スペクトル

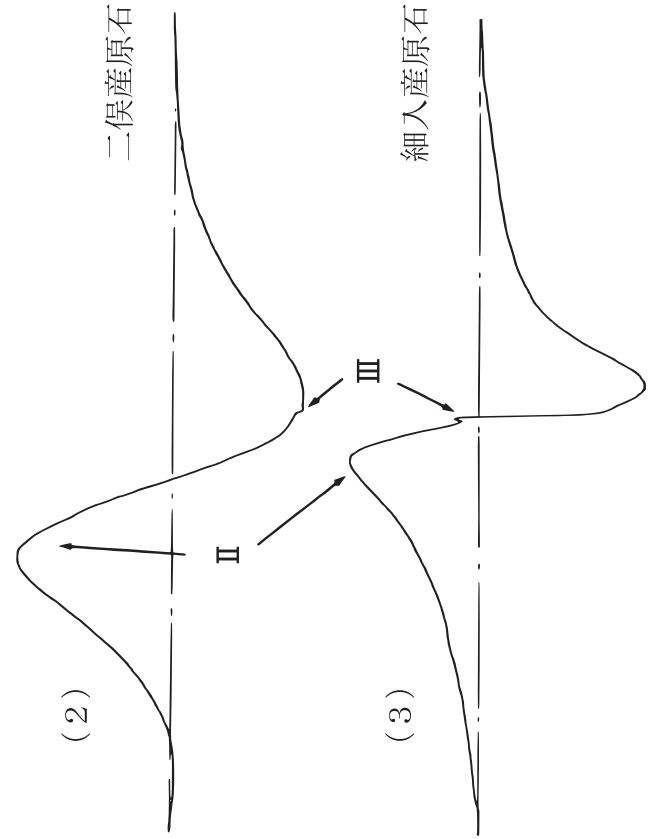


図377 山賀遺跡出土管玉 (98449) の蛍光X線スペクトル

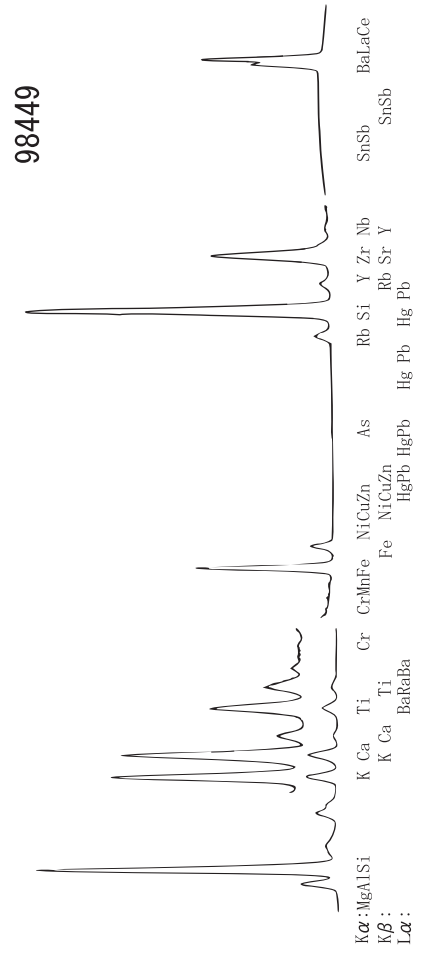
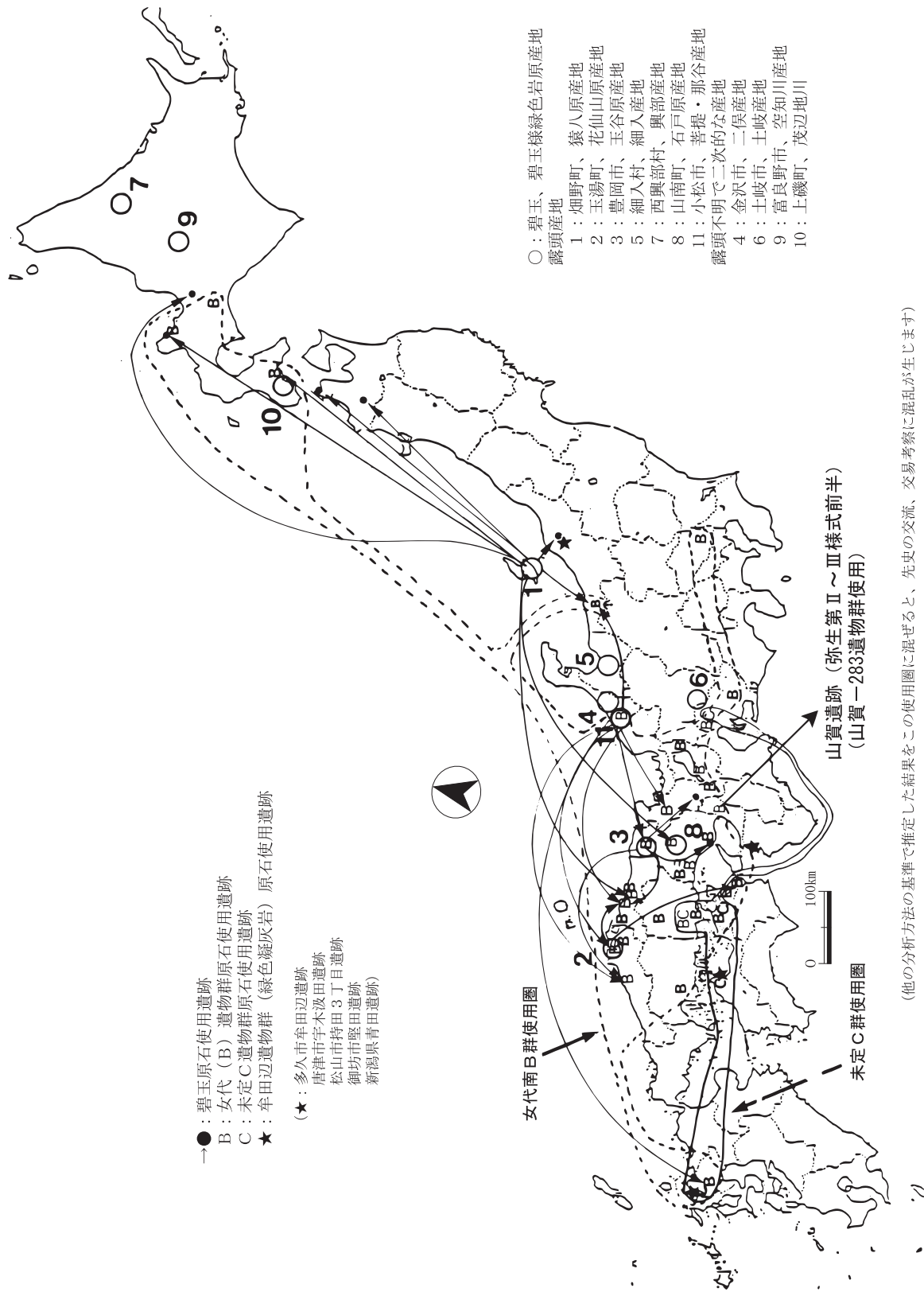


図378 碧玉原石のESRスペクトル (花仙山、玉谷、猿八、土岐)



(他の分析方法の基準で推定した結果をこの使用圏に混ぜると、先史の交流、交易考察に混乱が生じます)

図376 弥生（続縄文）時代の碧玉製、綠色凝灰岩製玉類の原材使用分布圏および碧玉・碧玉様色凝灰岩の原産地

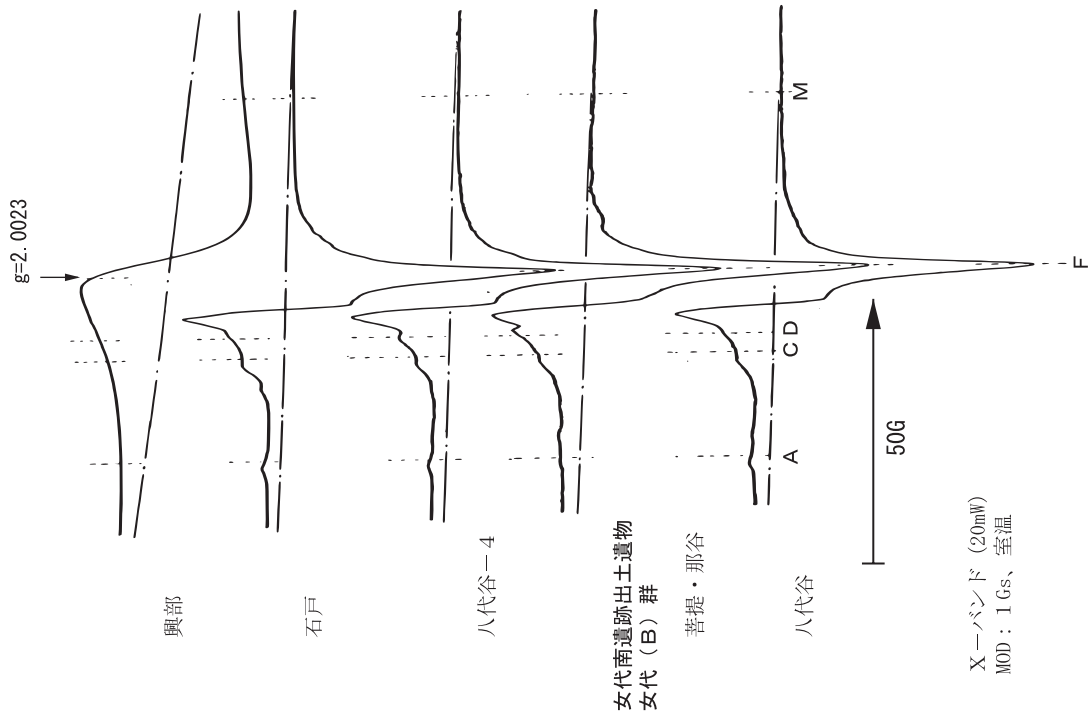


図379 - (2) 碧玉原石の信号 (Ⅲ) の ESR スペクトル

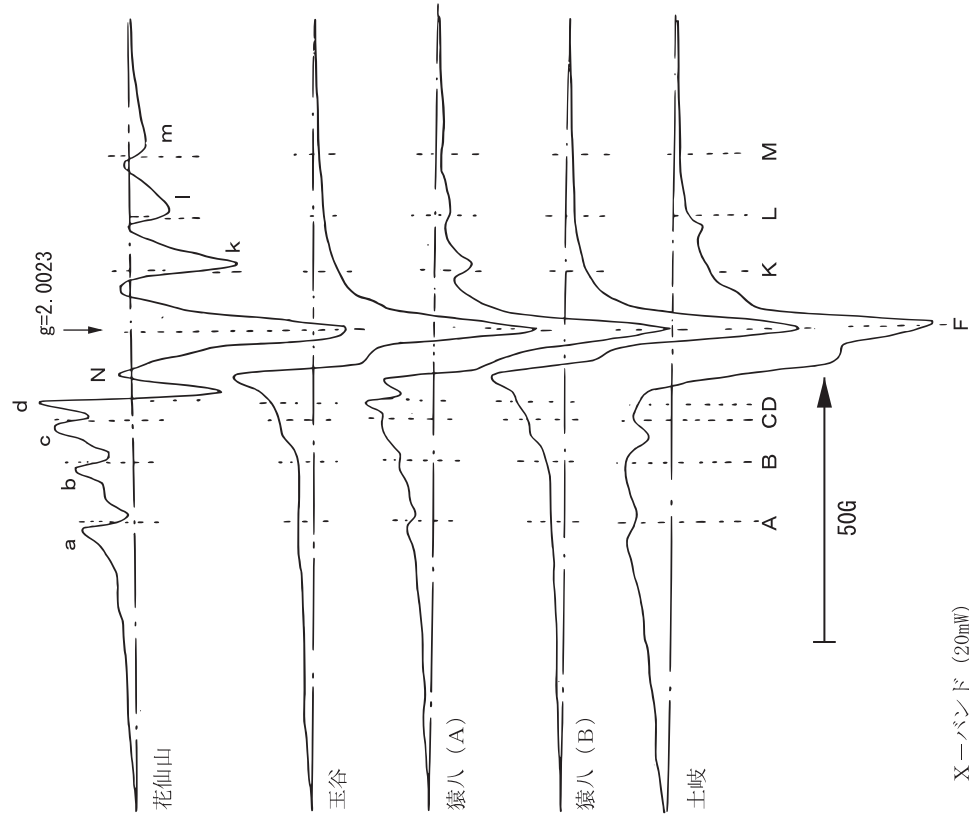


図379 - (1) 碧玉原石の信号 (Ⅲ) の ESR スペクトル

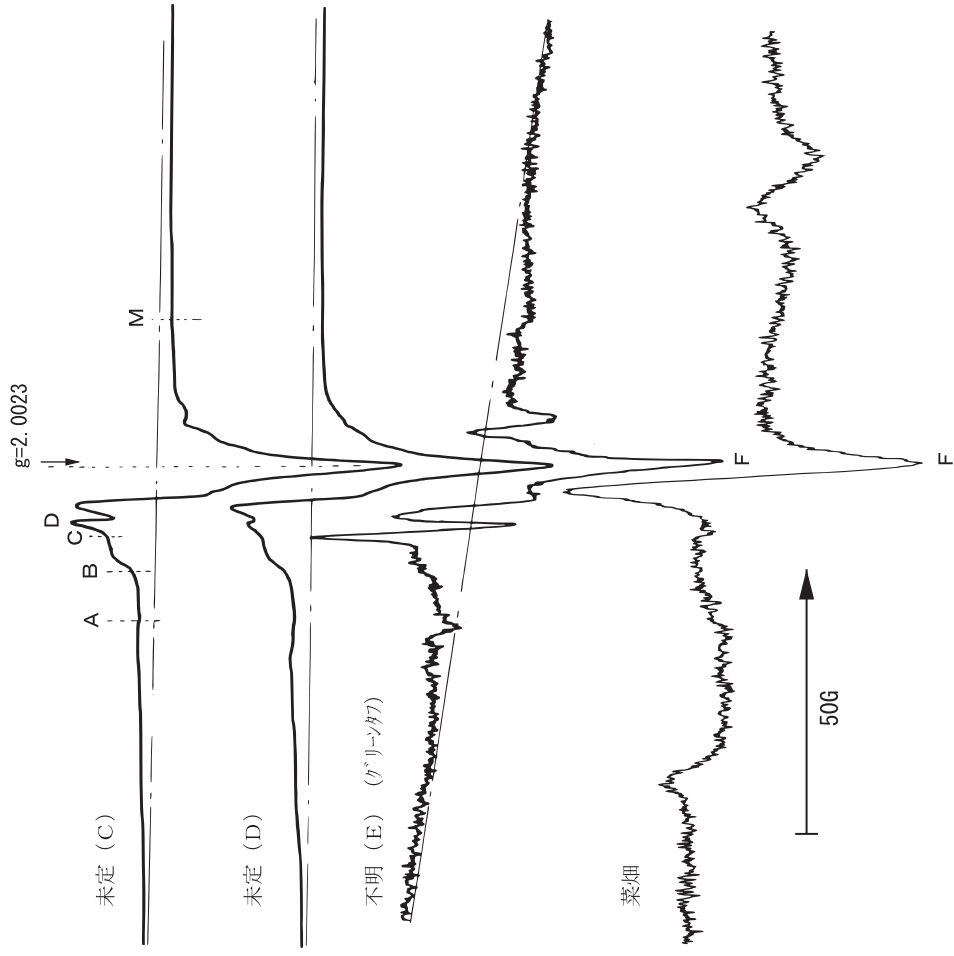


図379 - (4) 碧玉原石の信号 (Ⅲ) の ESR スペクトル

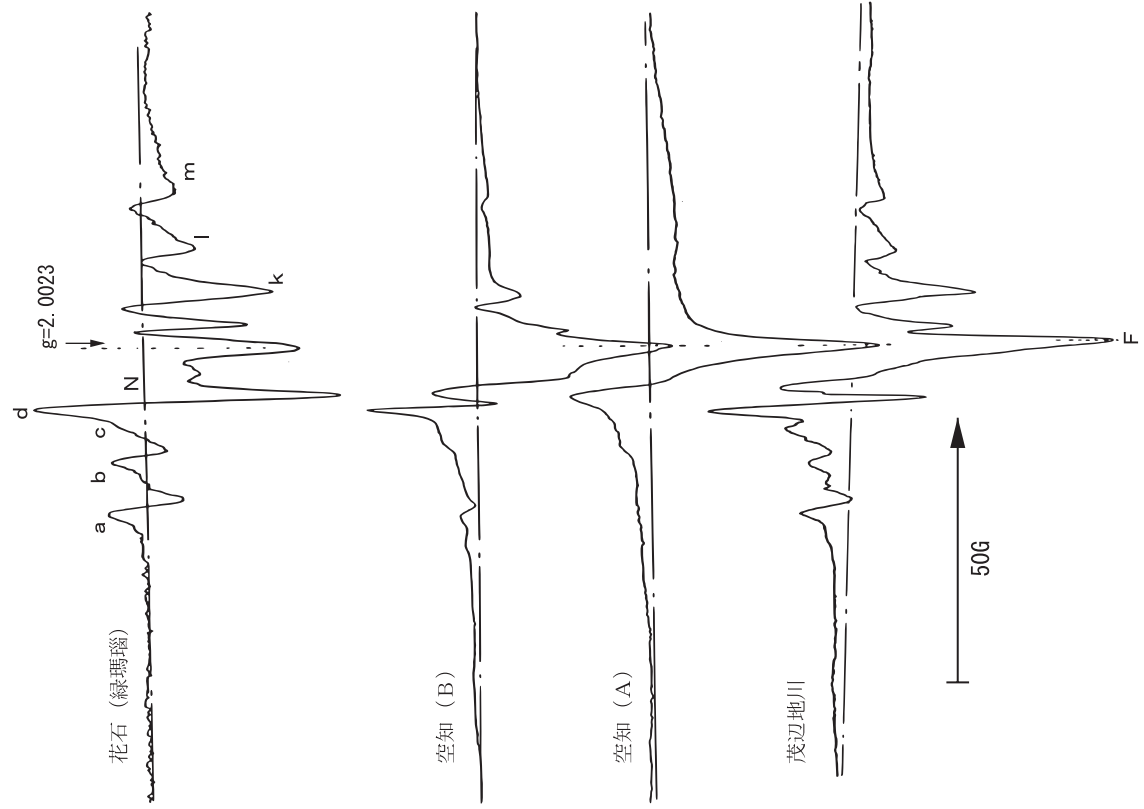


図379 - (3) 碧玉原石の信号 (Ⅲ) の ESR スペクトル

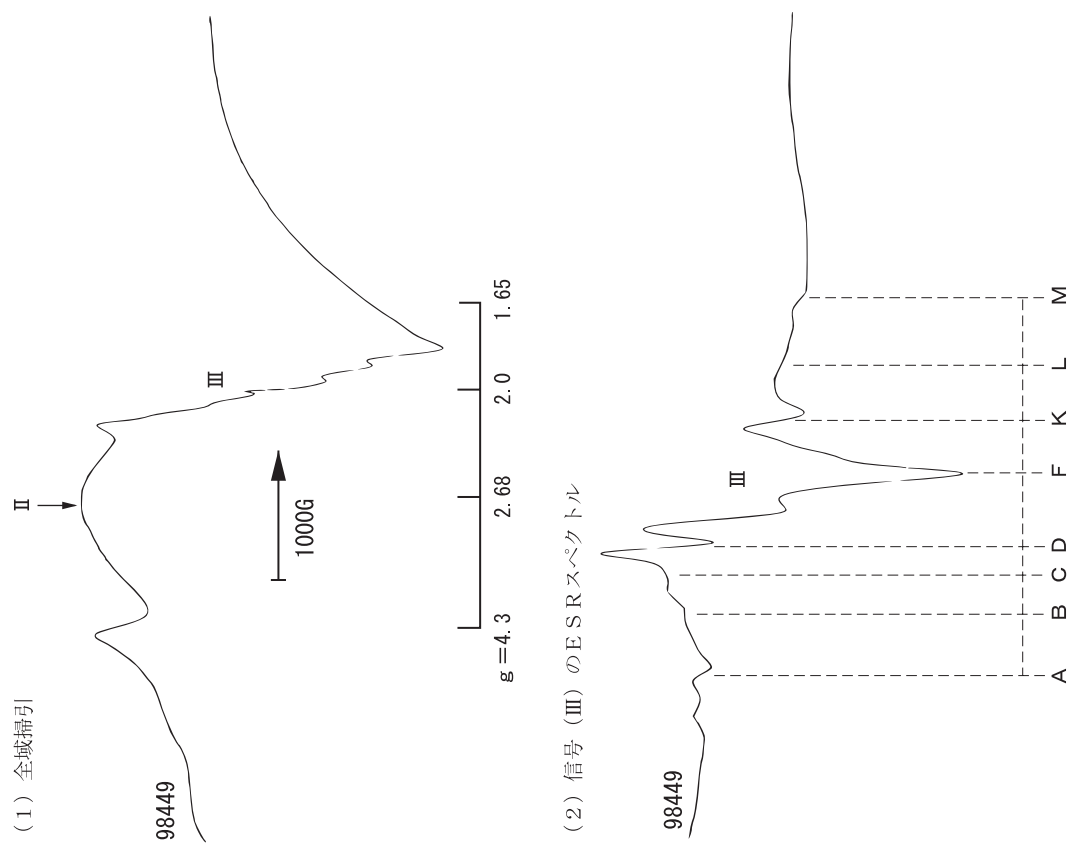


図380 山賀遺跡出土管玉の信号 (II)、(III) の ESR スペクトル

表 32-1 各碧玉の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原石群名	分析 備数	Al/Si		K/Si		Ca/K		Ti/K		K/Fe		Rb/Fe		Fe/Zr		Rb/Zr		Sr/Zr		Y/Zr		Mn/Fe		Ti/Fe		Nb/Zr		比重
		X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	
花仙山1+2	63	0.021±0.003	1.529±0.359	0.032±0.039	0.189±0.059	0.083±0.016	0.231±0.032	10.681±3.131	2.388±0.192	0.123±0.052	0.005±0.004	0.010±0.004	0.003±0.012	2.308±2.614														
花仙山1	33	0.023±0.002	1.593±0.172	0.038±0.020	0.155±0.031	0.071±0.015	0.241±0.019	10.900±1.887	2.599±0.452	0.466±0.196	0.120±0.036	0.002±0.001	0.004±0.016	2.570±0.044														
花仙山2	30	0.019±0.003	1.038±0.277	0.066±0.049	0.227±0.058	0.053±0.011	0.219±0.038	10.440±4.070	2.157±0.625	0.446±0.185	0.127±0.064	0.008±0.008	0.002±0.006	2.308±0.079														
興部	31	0.011±0.003	0.580±0.320	0.123±0.137	0.061±0.049	0.022±0.009	0.070±0.021	174.08±124.9	16.990±13.444	0.668±0.435	1.801±1.434	0.004±0.001	0.455±0.855	2.626±0.032														
神奈川・玉川グリーンタフ	48	0.048±0.006	0.656±0.208	0.350±0.233	1.434±0.273	1.434±0.273	0.025±0.010	2.743±0.075	0.061±0.019	1.187±0.474	0.304±0.039	0.008±0.004	0.038±0.012	0.004±0.006	2.1〜吸水濃シ													
石川・日川グリーンタフ	26	0.048±0.004	2.010±0.132	1.192±0.051	0.190±0.026	0.092±0.008	0.220±0.017	2.125±0.148	0.467±0.040	1.652±0.586	0.092±0.030	0.008±0.001	0.017±0.001	0.010±0.011	2.1〜吸水濃シ													
空知A1	42	0.039±0.006	1.026±0.281	2.728±0.907	0.547±0.119	0.042±0.011	0.124±0.058	3.309±1.295	0.353±0.101	12.485±3.306	0.032±0.045	0.028±0.009	0.020±0.005	0.007±0.010	2.495±0.039													
空知A2	46	0.021±0.008	0.866±0.447	0.797±0.393	0.225±0.050	0.032±0.006	0.039±0.007	25.866±11.501	1.023±0.499	7.433±4.531	0.009±0.003	0.006±0.002	0.118±0.167	2.632±0.012														
空知B	47	0.064±0.004	3.600±0.328	0.088±0.008	0.101±0.009	0.242±0.037	0.460±0.055	2.137±0.274	0.974±0.110	0.190±0.082	0.137±0.022	0.015±0.002	0.022±0.004	0.134±0.024	2.607±0.001													
猿 八1	46	0.042±0.005	3.779±0.549	0.049±0.052	0.074±0.013	0.202±0.070	0.285±0.085	2.520±0.874	0.654±0.131	0.177±0.154	0.128±0.051	0.003±0.002	0.013±0.003	0.011±0.007	2.395±2.597													
猿 八2	49	0.036±0.002	3.304±0.217	0.003±0.003	0.062±0.006	0.977±0.141	0.854±0.110	0.400±0.067	0.333±0.019	0.066±0.009	0.280±0.149	0.033±0.017	0.055±0.009	0.014±0.007	2.526±2.557													
猿 八3	52	0.036±0.002	3.304±0.217	0.003±0.003	0.062±0.006	0.977±0.141	0.854±0.110	0.400±0.067	0.333±0.019	0.066±0.009	0.280±0.149	0.033±0.017	0.055±0.009	0.014±0.007	2.526±2.557													
土 岐	51	0.006±0.004	0.361±0.131	0.072±0.063	0.098±0.063	0.023±0.005	0.096±0.025	43.067±23.28	4.086±2.545	0.271±0.308	0.159±0.180	0.001±0.001	0.001±0.001	0.072±0.160	2.607±0.009													
玉 谷	28	0.025±0.009	0.625±0.297	0.110±0.052	0.476±0.104	0.045±0.014	0.151±0.020	6.190±1.059	0.940±0.205	1.879±0.650	0.026±0.032	0.003±0.002	0.008±0.002	0.021±0.004	2.619±0.014													
細 入	45	0.040±0.003	0.534±0.284	0.991±0.386	0.372±0.125	0.031±0.008	0.073±0.020	2.884±3.752	0.882±0.201	1.879±0.650	0.026±0.032	0.003±0.002	0.008±0.002	0.021±0.004	2.619±0.014													
緑 川	48	0.040±0.003	0.495±0.014	0.798±0.030	0.985±0.032	0.026±0.001	0.044±0.004	3.764±0.428	0.166±0.024	0.830±0.073	0.155±0.022	0.019±0.001	0.024±0.001	0.020±0.011	2.669													
二 俣	45	0.040±0.003	2.520±0.140	0.384±0.015	0.174±0.004	0.301±0.036	0.377±0.040	1.068±0.103	0.399±0.018	0.699±0.059	0.086±0.016	0.008±0.001	0.046±0.005	0.020±0.007	2.440±0.091													
石 戸	4	0.019±0.004	0.601±0.196	0.075±0.022	0.086±0.038	0.154±0.072	0.170±0.079	7.242±1.597	1.142±0.315	0.649±0.158	0.247±0.092	0.007±0.001	0.009±0.002	0.227±0.089	2.598±0.008													
茂辺地川	4	0.031±0.002	1.847±0.246	0.077±0.024	0.222±0.052	0.092±0.021	0.190±0.052	5.566±1.549	0.980±0.044	0.300±0.032	0.171±0.051	0.003±0.008	0.016±0.001	0.132±0.069	2.536±0.033													
ケツワ7-1	44	0.026±0.004	0.975±0.276	0.027±0.018	0.261±0.072	0.036±0.008	0.096±0.007	5.720±0.608	0.543±0.034	0.489±0.184	0.146±0.027	0.003±0.001	0.009±0.001	0.035±0.018	2.287±0.013													
小松・菩提一那谷	44	0.037±0.002	3.475±0.265	0.008±0.012	0.093±0.015	0.412±0.093	0.347±0.037	1.409±0.256	0.479±0.056	0.107±0.119	0.115±0.044	0.017±0.012	0.033±0.004	0.011±0.009	2.323±2.584													
花仙山(白北風化)	62	0.039±0.003	3.150±0.298	0.035±0.029	0.129±0.022	0.323±0.147	0.327±0.091	1.781±0.686	0.523±0.091	0.239±0.147	0.135±0.047	0.013±0.011	0.036±0.013	0.010±0.009	2.536±0.021													
花仙山(横屋敷-1)	43	0.026±0.004	0.975±0.276	0.027±0.018	0.261±0.072	0.036±0.008	0.155±0.033	15.738±2.527	2.441±0.669	0.351±0.126	0.184±0.050	0.009±0.005	0.008±0.001	0.001±0.001	2.294±0.151													
花仙山(淡緑色)	40	0.019±0.006	1.080±0.161	0.017±0.009	0.138±0.042	0.095±0.017	0.197±0.013	8.187±0.859	1.590±0.111	0.339±0.041	0.079±0.022	0.021±0.006	0.011±0.001	0.003±0.006	2.428±2.507													
花仙山<くらさこ	40	0.027±0.006	1.449±0.075	0.037±0.007	0.161±0.018	0.075±0.012	0.246±0.018	12.479±1.513	3.022±0.233	0.921±0.066	0.182±0.022	0.007±0.005	0.011±0.001	0.003±0.008	2.531±2.570													
花仙山面白谷	48	0.023±0.001	1.537±0.129	0.011±0.011	0.118±0.028	0.167±0.030	0.288±0.044	16.638±0.764	1.468±0.110	0.324±0.084	0.092±0.019	0.022±0.005	0.017±0.003	0.003±0.008	2.588±0.036													
花仙山めのお公園前-凝灰岩	46	0.047±0.004	2.285±0.142	0.055±0.012	0.370±0.023	0.046±0.007	0.111±0.011	12.125±2.515	1.313±0.177	0.497±0.157	0.126±0.015	0.005±0.003	0.015±0.003	0.002±0.004	2.419吸水													
奈津坂下原石	42	0.039±0.004	1.500±0.155	1.162±0.104	0.280±0.058	0.154±0.027	0.168±0.027	1.630±0.188	0.268±0.032	1.162±0.171	0.108±0.017	0.032±0.007	0.038±0.004	0.009±0.008	2.1〜吸水濃シ													

X_{av}: 平均値、σ: 標準偏差

表32-2 各原石産地不明碧玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値(1)

遺物群名	分析回数	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe	Nb/Zr	比重
女性南B	68	0.045±0.016	3.115±0.645	0.042±0.024	0.107±0.036	0.283±0.099	0.267±0.063	2.374±0.676	0.595±0.085	0.214±0.097	0.171±0.047	0.111±0.047	0.011±0.004	0.026±0.009	0.034±0.016	2.554±0.019
米定C	58	0.030±0.028	4.416±0.618	0.019±0.013	0.207±0.034	0.589±0.130	0.650±0.113	0.583±0.110	0.369±0.035	0.090±0.030	0.070±0.026	0.002±0.001	0.101±0.019	0.019±0.016	0.033±0.013	2.646±0.023
車塚1	33	0.030±0.015	3.774±0.404	0.015±0.005	0.278±0.043	0.469±0.030	0.334±0.031	0.782±0.071	0.365±0.016	0.071±0.021	0.090±0.060	0.007±0.001	0.081±0.013	0.033±0.013	2.619±0.019	
車塚2	45	0.035±0.015	4.066±0.618	0.012±0.004	0.232±0.025	0.544±0.118	0.672±0.092	0.540±0.122	0.350±0.036	0.070±0.020	0.057±0.019	0.050±0.023	0.109±0.023	0.028±0.013	2.616±0.019	
赤田辺	58	0.082±0.042	3.327±0.450	0.853±0.213	0.913±0.178	0.091±0.019	0.161±0.018	1.342±0.160	0.214±0.026	2.140±0.026	2.140±0.026	0.064±0.024	0.006±0.003	0.067±0.008	0.018±0.010	2.1~吸水
赤田山4号墳1主体-No.1	38	0.018±0.004	1.341±0.031	0.079±0.013	0.277±0.013	0.295±0.011	0.389±0.036	0.814±0.051	0.316±0.032	0.168±0.027	0.074±0.021	0.006±0.001	0.069±0.003	0.055±0.027	2.437	
赤田山4号墳1主体-No.2	40	0.027±0.000	2.602±0.025	0.021±0.002	0.234±0.006	0.184±0.001	0.228±0.005	2.645±0.044	0.599±0.032	0.135±0.009	0.066±0.007	0.013±0.007	0.039±0.001	0.018±0.011	2.548	
赤田山4号墳2主体-No.5	42	0.034±0.000	3.572±0.129	0.002±0.002	0.252±0.009	0.777±0.030	1.035±0.040	0.517±0.019	0.295±0.005	0.072±0.004	0.041±0.004	0.025±0.015	0.176±0.005	0.025±0.004	2.466	
赤田山4号墳2主体-No.7	42	0.028±0.000	2.650±0.020	0.003±0.003	0.073±0.010	0.073±0.010	0.672±0.019	0.287±0.014	0.345±0.017	0.074±0.006	0.037±0.015	0.032±0.003	0.012±0.007	0.012±0.004	2.555	
長塚(1)	47	0.036±0.004	3.525±0.347	0.033±0.005	0.439±0.050	0.204±0.037	0.361±0.040	2.756±0.473	0.980±0.110	0.472±0.083	0.379±0.143	0.005±0.001	0.094±0.013	0.022±0.016	2.533±0.016	
長塚(2)	45	0.028±0.007	2.659±0.122	0.010±0.004	0.084±0.003	0.719±0.065	0.822±0.054	4.412±0.038	0.341±0.023	0.036±0.010	0.386±0.242	0.004±0.001	0.047±0.004	0.024±0.013	2.569±0.003	
No.200-1	32	0.042±0.004	0.808±0.025	3.568±0.074	0.639±0.016	0.051±0.002	0.042±0.006	1.751±0.149	0.073±0.016	4.665±0.374	2.399±0.266	0.003±0.001	0.033±0.001	0.006±0.009	2.308	
No.200-2	28	0.037±0.003	0.990±0.021	2.384±0.067	0.605±0.029	0.064±0.003	0.072±0.011	1.422±0.075	1.109±0.015	6.680±0.322	1.770±0.017	0.008±0.001	0.038±0.002	0.006±0.010	2.277	
No.200-3	28	0.039±0.003	0.926±0.020	2.527±0.114	1.085±0.059	0.053±0.002	0.053±0.002	1.668±0.093	0.088±0.015	4.455±0.327	0.343±0.031	0.014±0.003	0.058±0.003	0.007±0.005	2.270	
No.200-4	32	0.047±0.007	0.855±0.025	3.771±0.079	1.228±0.035	0.057±0.003	0.118±0.023	1.110±0.129	0.130±0.030	9.626±1.090	0.117±0.025	0.005±0.001	0.068±0.002	0.006±0.008	2.542	
No.200-6	32	0.040±0.006	4.185±0.162	0.031±0.006	0.103±0.003	0.821±0.019	0.692±0.040	0.646±0.037	0.447±0.025	0.207±0.020	2.966±0.026	0.011±0.002	0.082±0.003	0.038±0.026	2.546	
本郷-No.23	30	0.049±0.003	0.922±0.036	4.701±0.161	1.027±0.112	0.042±0.002	0.193±0.062	1.390±0.134	0.271±0.096	8.507±0.791	0.118±0.036	0.008±0.002	0.043±0.004	0.005±0.005	2.201吸水	
本郷-No.17	34	0.049±0.003	1.094±0.030	3.635±0.074	0.823±0.021	0.058±0.002	0.166±0.012	1.282±0.088	0.213±0.021	9.273±0.591	0.137±0.019	0.006±0.001	0.047±0.001	0.004±0.004	2.204吸水	
本郷-No.16	27	0.053±0.004	1.254±0.037	3.706±0.076	0.970±0.092	0.029±0.004	0.085±0.018	2.626±0.429	0.215±0.025	8.981±0.646	0.170±0.028	0.013±0.001	0.027±0.002	0.004±0.004	2.254吸水	
本郷-No.22	32	0.051±0.004	1.274±0.088	3.133±0.146	0.699±0.046	0.048±0.003	0.175±0.022	---	0.329±0.047	6.754±0.505	0.168±0.033	0.007±0.001	0.033±0.001	0.005±0.006	2.219吸水	
本郷-No.11	30	0.051±0.004	1.082±0.028	4.221±0.039	0.877±0.015	0.041±0.001	0.145±0.011	1.580±0.109	0.230±0.023	3.062±0.598	0.160±0.018	0.009±0.001	0.034±0.001	0.001±0.003	2.227吸水	
本郷-No.8	32	0.034±0.003	0.749±0.043	3.138±0.098	1.446±0.088	0.119±0.001	0.045±0.001	0.145±0.001	0.179±0.001	15.991±0.477	0.094±0.015	0.324±0.299	0.027±0.001	0.010±0.012	2.684	
札幌市-K135	58	0.040±0.006	4.017±0.246	1.509±0.022	0.209±0.016	0.202±0.012	0.315±0.022	1.739±0.136	0.540±0.028	4.454±0.026	0.136±0.030	0.007±0.001	0.035±0.001	0.036±0.016	2.436	
山崎4	38	0.012±0.001	0.286±0.021	2.09±0.008	0.231±0.019	0.065±0.005	0.090±0.002	15.728±1.722	1.418±0.177	4.628±0.094	0.716±0.081	0.002±0.000	0.039±0.002	0.127±0.059	2.588	
梅田1	44	0.021±0.003	1.204±0.094	0.066±0.017	0.143±0.008	0.065±0.005	0.220±0.029	12.333±0.603	2.710±0.421	0.273±0.374	0.741±0.134	0.001±0.000	0.009±0.001	0.014±0.019	2.579±0.013	
梅田2	40	0.027±0.003	1.911±0.062	0.020±0.007	0.518±0.010	0.261±0.012	0.430±0.017	3.262±0.229	3.316±0.048	0.316±0.023	2.833±0.066	0.005±0.001	0.080±0.011	0.035±0.015	2.531±0.007	
梅田3	38	0.081±0.008	1.749±0.288	0.023±0.003	0.082±0.002	0.588±0.020	0.473±0.026	1.003±0.046	0.473±0.018	0.222±0.032	1.100±0.013	0.006±0.001	0.019±0.002	0.039±0.010	2.446	
上ノ段1	42	0.014±0.002	4.143±0.046	0.054±0.026	0.395±0.046	0.053±0.005	0.223±0.020	3.772±0.448	0.833±0.068	0.777±0.037	2.996±0.053	0.006±0.001	0.039±0.002	0.014±0.018	2.636±0.001	
梅田東1	51	0.030±0.007	1.974±0.317	0.028±0.011	0.529±0.061	0.192±0.011	0.219±0.011	2.366±0.474	0.519±0.069	0.072±0.024	0.101±0.042	0.008±0.001	0.095±0.014	0.027±0.018	2.641±0.016	
梅田西1	67	0.062±0.005	1.868±0.115	1.640±0.137	0.733±0.069	0.078±0.012	0.111±0.025	1.610±0.264	0.175±0.018	8.268±0.619	0.078±0.019	0.050±0.020	0.046±0.006	0.027±0.009	2.290±0.018	
新方1	30	0.066±0.005	4.152±0.162	0.228±0.181	0.313±0.010	0.212±0.019	0.291±0.018	3.847±0.314	1.137±0.057	0.649±0.095	0.139±0.053	0.172±0.022	0.061±0.004	0.032±0.017	2.546±0.011	
新方2	39	0.044±0.008	0.912±0.178	2.416±0.174	0.786±0.267	0.080±0.011	0.085±0.018	1.685±0.413	1.444±0.050	7.449±1.605	0.182±0.056	0.068±0.027	0.007±0.013	0.007±0.007	2.257±0.024	
新方3	51	0.046±0.004	3.875±0.879	0.316±0.009	0.234±0.004	0.146±0.018	0.255±0.021	1.874±0.168	0.476±0.020	1.994±0.080	0.717±0.062	0.084±0.001	0.035±0.001	0.021±0.011	2.482	
山ノ奥1	42	0.013±0.002	0.608±0.049	0.080±0.015	0.355±0.018	0.136±0.011	0.278±0.025	1.052±0.082	0.291±0.015	0.083±0.010	0.142±0.015	0.010±0.001	0.045±0.002	0.027±0.016	2.461	
大藤山3号墳-No.10	48	0.048±0.006	3.589±0.151	0.096±0.013	0.346±0.012	0.151±0.005	0.220±0.009	2.478±0.104	0.545±0.021	0.462±0.059	0.655±0.016	0.004±0.000	0.046±0.002	0.033±0.014	2.2~吸水	
大藤山3号墳-No.2	48	0.062±0.007	0.280±0.045	26.464±5.315	1.390±0.161	0.072±0.001	0.020±0.001	17.099±9.460	0.152±0.049	0.284±0.019	0.120±0.060	0.014±0.001	0.003±0.000	0.087±0.040	2.849?	
大藤山3号墳-No.3	42	0.037±0.004	1.817±0.072	0.111±0.008	0.289±0.008	0.052±0.002	0.105±0.004	4.471±1.140	0.470±0.017	0.428±0.017	0.265±0.028	0.012±0.001	0.012±0.000	0.002±0.005	2.3~吸水	
真船2	40	0.118±0.010	0.466±0.010	0.376±0.010	0.108±0.004	0.020±0.001	0.087±0.004	6.946±6.946	4.250±0.538	0.756±0.136	0.556±0.074	0.001±0.000	0.002±0.000	0.115±0.058	2.19~吸水	
後川3	41	0.112±0.010	3.879±0.431	0.129±0.022	0.668±0.030	0.034±0.004	0.073±0.011	9.768±0.951	0.706±0.062	0.117±0.011	0.126±0.022	0.005±0.001	0.022±0.002	0.094±0.020	2.530±0.054	
屋敷3	48	0.028±0.005	2.022±0.046	0.020±0.010	0.442±0.015	0.169±0.009	0.290±0.014	9.67±0.040	0.280±0.010	0.062±0.007	0.062±0.010	0.002±0.001	0.070±0.002	0.035±0.010	2.501	
大藤山3号墳-No.4	48	0.077±0.006	6.185±0.139	0.059±0.006	0.104±0.003	0.287±0.011	0.266±0.016	1.216±0.076	0.346±0.011	0.166±0.014	0.113±0.014	0.008±0.001	0.025±0.001	0.014±0.007	2.2~吸水	
屋敷4	48	0.030±0.005	2.078±0.122	0.040±0.018	0.132±0.032	0.132±0.008	0.263±0.009	3.774±0.170	0.991±0.049	0.227±0.035	0.145±0.048	0.005±0.001	0.083±0.002	0.035±0.015	2.579	
有国1	45	0.046±0.003	0.454±0.091	4.885±0.933	1.484±0.257	0.038±0.008	0.058±0.007	2.395±0.279	1.339±0.025	1.639±0.375	0.424±0.041	0.006±0.001	0.050±0.005	0.004±0.006	2.200	
彼ノ宗6	44	0.033±0.007	3.017±0.430	0.154±0.042	0.107±0.012	0.045±0.002	0.20±0.004	12.584±0.730	1.508±0.072	0.367±0.018	0.069±0.027	0.007±0.001	0.005±0.000	0.014±0.011	2.475	
彼ノ宗3	35	0.072±0.008	2.647±0.079	1.234±0.015	0.915±0.018	0.085±0.003	0.167±0.029	1.471±0.166	0.245±0.038	5.611±0.363	0.067±0.019	0.006±0.001	0.089±0.001	0.026±0.009	2.2~吸水	
彼ノ宗4	40	0.067±0.010	4.156±0.155	0.343±0.009	0.488±0.009	0.134±0.005										

表32-2 各原石産地不明碧玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

Table with columns for analysis items (AI/Si, K/Si, Ca/K, Ti/K, K/Fe, Rb/Fe, Fe/Zr, Rb/Zr, Sr/Zr, Y/Zr, Mn/Fe, Ti/Fe, Nb/Zr, 比重) and rows for various artifact groups (e.g., 大代8, 大代9, 大代10, etc.). Each cell contains a mean value and a standard deviation value.

表32-2 各原石産地不明碧玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値(3)

遺物群名	分析回数	Al/Si		K/Si		Ca/K		Ti/K		K/Fe		Rb/Fe		Fe/Zr		Rb/Zr		Sr/Zr		Y/Zr		Mn/Zr		Ti/Fe		Nb/Zr		比重			
		X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	X _{av} ±σ	
吹上2-19遺物群	42	0.045±0.000	3.935±0.035	0.015±0.002	0.073±0.002	0.282±0.008	0.252±0.010	1.265±0.064	0.316±0.009	0.076±0.004	0.107±0.003	0.001±0.001	0.018±0.001	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	0.021±0.004	2.287
吹上2-21遺物群	42	0.023±0.001	2.811±0.188	0.118±0.008	0.109±0.022	0.024±0.000	0.036±0.001	163.273±3.305	2.279±0.134	0.488±0.038	0.087±0.032	0.001±0.002	0.002±0.000	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	0.020±0.027	2.377
吹上2-22遺物群	42	0.041±0.001	3.333±0.064	0.016±0.016	0.039±0.012	0.422±0.040	0.588±0.059	1.844±0.093	0.488±0.018	0.122±0.012	0.101±0.011	0.001±0.004	0.015±0.005	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	0.007±0.009	2.470	
吹上2-25遺物群	36	0.044±0.001	2.120±0.041	0.038±0.452	0.430±0.017	0.118±0.005	0.138±0.007	1.113±0.007	0.152±0.007	0.197±0.009	0.095±0.006	0.006±0.007	0.046±0.002	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	0.033±0.010	1.793
吹上2-28遺物群	42	0.044±0.008	5.737±0.786	0.090±0.026	0.085±0.007	0.022±0.002	0.022±0.002	1.02.36±16.05	2.257±0.492	0.400±0.084	0.109±0.025	0.004±0.001	0.002±0.000	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	0.002±0.006	2.623
吹上2-30遺物群	42	0.045±0.001	3.469±0.090	0.040±0.004	0.077±0.003	0.222±0.015	0.336±0.019	1.596±0.113	0.531±0.014	0.191±0.010	0.523±0.125	0.005±0.004	0.015±0.002	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	2.374
吹上2-32遺物群	42	0.024±0.000	5.911±0.064	0.047±0.003	0.073±0.003	0.026±0.000	0.025±0.001	1.92.86±22.28	4.874±0.576	0.461±0.073	0.240±0.061	0.009±0.005	0.002±0.000	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	0.020±0.029	2.569
吹上2-33遺物群	42	0.044±0.000	3.719±0.031	0.011±0.003	0.047±0.003	0.436±0.011	0.508±0.012	0.959±0.024	0.483±0.009	0.118±0.008	0.086±0.006	0.009±0.005	0.018±0.002	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	0.017±0.007	2.532
吹上2-34遺物群	42	0.070±0.001	5.860±0.071	0.067±0.003	0.143±0.003	0.175±0.007	0.144±0.010	3.440±0.248	0.491±0.016	0.674±0.036	0.125±0.008	0.010±0.002	0.023±0.001	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	0.020±0.008	2.314
吹上2-35遺物群	42	0.077±0.001	7.353±0.250	0.032±0.003	0.122±0.003	0.147±0.021	0.126±0.015	3.621±0.358	0.448±0.016	0.193±0.026	0.110±0.007	0.004±0.003	0.009±0.001	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	0.024±0.007	2.061
吹上2-36遺物群	42	0.047±0.000	3.322±0.021	0.041±0.003	0.081±0.005	0.120±0.001	0.259±0.006	2.823±0.089	0.724±0.015	0.116±0.007	0.112±0.007	0.004±0.003	0.009±0.001	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	0.007±0.005	2.491
妙皇山遺物群	47	0.038±0.006	2.909±0.157	0.033±0.016	0.514±0.021	0.214±0.019	0.341±0.016	2.426±0.177	0.190±0.018	0.120±0.012	0.008±0.007	0.009±0.009	0.020±0.015	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)
山賀-283遺物群	45	0.081±0.001	2.535±0.043	1.152±0.021	1.177±0.019	0.062±0.001	0.136±0.006	1.539±0.035	0.208±0.008	4.074±0.054	0.057±0.004	0.066±0.001	0.016±0.005	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)	2.431(吸水)

X_{av}: 平均値、σ: 標準偏差値 比重2.29以下は緑色凝灰岩女代南B: 女代南遺跡(豊岡市)、未定C: 宇木汲田遺跡(唐津市)、車塚1.2: 車塚古墳(交野市)、牟田辺: 牟田辺遺跡(多々市)、長塚(1),(2): 長塚古墳(可児市)、No.200-1~6: 多摩ニュータウン遺跡(東京都)、梅田1~4: 梅田古墳(兵庫県和山町)、梅田東1: 梅田古墳(兵庫県和山町)、上ノ段1: 上ノ段遺跡(兵庫県和山町)、新井1~3: 新井三丁目遺跡(東京都中野区)、龍川3: 龍川遺跡(廣南市自來田)、真船1: 真船遺跡(鳥取県今津町)、山ノ奥1: 山ノ奥遺跡(岡山県)、尾坂3.4: 尾坂大塚古墳(大垣市)、齊当坊6: 市田齊当坊(京都府久御山町)、笠原3~13: 笠原第3遺跡(鳥取県真伯町)矢野4: 矢野遺跡(徳島市)、青田77、78: 青田遺跡(新潟県加治川村)、荻畑(唐津市)、石田2、3: 石田古墳(松江市)、会津坂下N、G: 経路遺跡(会津坂下)、善保1: 中野善保遺跡(出雲市)、大代8~5: 大代古墳(鳴門市)溝原1.2: 溝原遺跡(鳥取県赤碓町)阿尾島田1、2: 阿尾島田1号墳(水尾市)、中野清水1、3、4、5群、矢野No.1、2、3群: 中野清水・矢野遺跡(出雲市)、地方: 八日市地方遺跡(小松市)、吹上: 吹上遺跡(上越市)、妙皇山: 妙皇山古墳(今治市)、山賀No.283群: 山賀遺跡(八尾市)で使用されている原石産地不明の玉類で作った群。

表33 山賀遺跡出土管玉の元素比分析結果

分析番号	元素比													重量(g)	比重
	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe	Nb/Zr		
98449	0.082	2.455	1.152	1.184	0.062	0.129	1.506	0.193	4.093	0.059	0.000	0.065	0.020	0.37158	2.413
JG-1 ^{a)}	0.081	3.205	0.736	0.198	0.111	2.770	3.479	0.956	1.261	0.187	0.017	0.020	0.086		

a): 標準試料 - Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the 6xS geochemical referencesamples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol. 8 175-192.

表34 山賀遺跡管玉の原材産地分析結果

分析番号	登録No.	面・層位	時期	機種	ホテリングI2乗検定結果(雑率)		ESR信号形	総合判定	色調
98449	283	第5層	II ~ III様式前半	管玉	山賀-283遺物群(25%)、牟田辺(凝灰)遺物群(0.03%)		不明E形	不明	藍色

山賀遺跡出土の動物遺体

安部みき子（大阪市立大学大学院医学研究科）

山賀遺跡から出土した動物遺体は弥生時代前期から中期、古墳時代と現生のものであり、脊椎動物の6綱9目9科8種が同定できた(表35)。また、保存状態の良いものについては、骨計測を行った(表36-42)。

1. 動物遺体の出土状況

魚類 軟骨魚類であるサメの椎骨(写真6・12 No.825-3)が1点と硬骨魚類の骨片が1点出土している。サメの椎骨は、第9-2層から出土している。硬骨魚類は種の同定ができなかった。

両生類 第9面421木棺内から種不明の肩甲骨が1点出土しているが、出土数が少ないことより、混入したと考えられる。

鳥類 サギ科は大型と小型のものがみられ、大型のものはアオサギと思われる上腕骨で、小型の手根中手骨は種の同定ができなかった。アオサギは第10面の比較的遺物の多い溝から出土し、小型のサギは第9層で見られた。

キジ科は鳥口骨と尺骨が遺存しているが、これらの骨がキジかニワトリかの判定は出来なかった。

小型の鳥類の骨片も数点出土しているが種の同定はできなかった。

哺乳類 本遺跡の動物遺体の中で最も出土数が多いのはイノシシで、次いでシカであり、大半の遺構や層・面から出土している。種と部位の同定できた骨片より最小個体数を算出した(表43)。

イノシシ(写真7・8・9)は総数が183点であり、最小個体数は6であった。イノシシは全身の部位が出土しているが、なかでも下顎骨の遺存状態が最も良かった。第9面1397溝から出土した下顎骨は犬歯歯槽の形態からメスと判定され、第10面542溝に見られた下顎骨はオスであった。これらは下顎骨が現生のニホンイノシシより高く、全体に頑丈であった。オスの犬歯歯槽の形態は現生のものより大きく、位置もやや外側にねじれている。これらの特徴は在来のイノシシとは異なる点であり、移入されたイノシシの家畜種と考えられる。さらに、本遺跡出土のオスの下顎骨の下顎枝に横径約3cmの穿孔があるもの(写真7)は、弥生時代中期の岡山市南方遺跡で下顎枝の穿孔に棒を通した状態で出土していたオスに酷似している¹⁾。したがって、本遺跡のものも儀礼に使用されたものと考えられる。また、骨製品の素材として、オスの犬歯(写真5)や中手骨が用いられている。

第10面542溝から出土したイノシシの環椎の後弓の正中部に病変がみられた。この病変が何に起因しているかは不明である。

シカ(写真10)は総数が56点、最小個体数は2であり、出土量はイノシシの1/3である。出土部位は椎骨と肋骨を除くほぼ全身の骨格が見られる。鹿角は破片が多く、落角も含まれていた。

イヌは3点出土しているが1点は土坑から、ほかの2点は溝と側溝でみられた。

ニホンイタチのオスの頭骨(写真11)がほぼ完全な状態で遺存している。従来、イタチはネズミなどの捕食者であり、今回出土したイタチもそれらを追って集落に侵入したものと考えられる。

クジラと思われる骨が出土しているが、海綿質のみ遺存しているため詳細な同定はできなかった。近世の層からはウマの臼歯が出土しているが保存状態は悪い。

2. 加工骨製品

弓弭状骨角器様の骨製品（写真4） 中期初頭の第10層から、イノシシの第4中手骨を用いた弓弭状骨角製品様の骨製品が出土している。この骨製品は約5cmのもので、中手骨の近位端が円柱状に研磨され、遠位端は切断されている。さらに円柱の側面2箇所には穿孔が縦1列に3個みられ、対面する穴は水平位置にある。また骨髓腔も研磨されているが、遠位部に見られる線は完全な環状ではなく、二重になっているところや線が途切れている箇所もみられる。縄文時代では弓弭状骨角器はすべて鹿角をもち、穿孔に糸巻きがついた状態で出土しているものもある²⁾。弥生時代中期の岡山県南方遺跡からも同様のものが見られるが、弥生時代のまとまった文献がないことから検討はできなかった。いずれにしても、他遺跡から出土した弓弭状骨製品は鹿角を用いているが、本製品はイノシシの中手骨を使用している点で非常に特徴的である。

3. 層位・面および遺構の特徴

層位・面および遺構ごとに動物遺体の出現数を示した（図381）。

動物遺体の最も多かった遺構は第9面1397溝で、イノシシ、シカともに最大の出土量である。この溝からニホンイタチのオスの頭骨が出土した。次いで多いのは第10面の溝で、穿孔のある家畜イノシシが出土した542溝を含んでいる。調査区南部の第9 - 2層ではイノシシとシカ以外にサメやスッポン、キジなどがみられる。第10層・面も遺存率が高く、この層から弓弭状の骨製品が出土した。掘込が第10面に達している第6面252大溝は比較的出土数が少なかった。そのほかの遺構や層位では特徴はみられなかった。

出土数が多い溝と層位・面を比較すると、動物遺体は溝から出土する割合が層・面よりも高く、いずれもイノシシのほうがシカより多かった。溝からは家畜イノシシや加工されたイノシシの犬歯、イタチの頭骨、アオサギや硬骨魚類が遺存しており、層・面ではサメの椎骨や弓弭などの加工品とともにサギやキジ、スッポンなど食用となるものがみられた。

まとめ

- 1 イノシシの出土率はシカの約3倍であった。
- 2 弥生時代の前期後半から家畜イノシシの下顎骨がみられ、下顎枝に孔をあけていることから、儀礼に使用されたと推測される。
- 3 ニホンイタチのオスの頭骨が出土しており、ネズミなどの捕食のために侵入したとも推測される。
- 4 サメの椎骨やイノシシの犬歯による装飾品とともに、イノシシの中手骨で作られた弓弭様骨製品が遺存している。本来、弓弭は鹿角をもちいる側が多く、イノシシの中手骨で作成されたものは稀少である。
- 5 層位・面と溝を比較すると、いずれもイノシシのほうがシカより多く、溝から家畜イノシシが出土している。層位・面では、スッポンやキジなどの食用に適している骨片が見られる。

参考文献

1. 扇崎由, 安川満 1995 岡山市南方(済生会)遺跡のイノシシ類下顎骨配列 動物考古学 5:69-73
2. 金子浩昌・忍沢成規 1986 骨角器の研究 縄文編 I・II 慶友社 東京

表35 出土動物遺体の学名の一覧表

哺乳類 CLASS MAMMALIA

鯨目 Order Catacea

科、属、種不明 Family, Gen. et sp. indet.

食肉目 Order Carnivora

イヌ科 Family Canidae

イヌ *Canis familiaris*

イタチ科 Family Mustelidae

ニホンイタチ *Mustela itatsi*

奇蹄目 Order Perissodactyla

ウマ科 Family Equidae

ウマ *Equus caballus*

偶蹄目 Order Artiodactyla

イノシシ科 Family Suidae

イノシシ *Sus scrofa*

シカ科 Family Ceruidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

鳥類 CLASS AVES

コウサギ目 Order Gressores

サギ科 Family Ardeidae

アオサギ *Ardea cinerea*

属、種不明 Gen. et sp. indet.

ジュンケイ目 Order Galli

キジ科 Family Phasianidae

キジまたはヤマドリ *Phasianus colchicus* or *Phasianus soemmerringii*

爬虫類 CLASS REPTILIA

カメ目 Order Testudinata

スッポン科 Family Trionychidae

スッポン *Trionyx sinensis*

両生類 CLASS Amphibia

ヒキガエル亜目 Order Arcifera

ヒキガエル科 Family Bufonidae

ヒキガエル *Bufo bufo japonicus*

軟骨魚類 CLASS CHONDRICHTHYES

ネズミザメ目 Order Lamnida

属、種不明 Gen. et sp. indet.

硬骨魚類 CLASS OSTEICHTHYES

目、科、属、種不明 Order, family gen. et sp. indet.

表36 イタチおよびイノシシの頭骨の計測値

種名 資料番号	イタチ		イノシシ	
	542		152-1	547-1
左右	左	右	左	左
頭蓋骨最大長 A-P	55.19		—	—
吻長 P-Ent	13.60	14.04	—	—
最小前頭幅	10.99		—	—
最大頭蓋幅 Eur-E	23.71		—	—
両眼高間最小距離	12.00		—	—
前頭骨の頬骨突起間距離	16.36		—	—
Ent-Ent	16.64		—	—
眼窩内最大高	8.33	8.30	—	—
基底頭蓋長	56.50		—	—
基底長 B-P	52.41		—	—
後頭孔額間切痕より硬口蓋まで B-st	26.89		—	—
硬口蓋最大長 St-P	25.51		—	—
上顎幅(1) Pm4-M1の最大幅	17.65		—	—
上顎幅(2) C歯槽の前方の最小幅	5.32		—	—
歯槽最大長 P-歯槽後縁	18.88	18.78	—	—
切歯長	—	—	—	45.95
類臼歯列長 Pm2-歯槽後縁	12.10	11.95	—	—
小臼歯列長 Pm2-Pm4	11.77	11.25	—	45.66
大臼歯列長 M1-歯槽後縁	—	—	66.16	—
後頭骨鱗状部最大幅	17.59		—	—
鼓泡最大長	—	17.66	—	—
鼓泡最大幅	—	9.34	—	—
後頭三角幅 o-t-o-t	26.00		—	—
後頭三角高 B-A	14.70		—	—
後頭額間最大幅	14.45		—	—
大後頭孔高	7.42		—	—
大後頭孔幅	8.11		—	—
犬歯歯槽最大長	4.56	4.11	—	15.63
犬歯歯槽最大幅	3.74	3.62	—	15.08
第1小臼歯	近遠心径	—	—	7.46
	頬舌径	—	—	3.76
第3小臼歯	近遠心径	—	—	12.05
	頬舌径	—	—	10.35
第4小臼歯(裂肉歯)	近遠心径	5.63	5.74	13.91
第4小臼歯(裂肉歯)	頬舌径	2.97	3.13	13.54
第4小臼歯(裂肉歯)	歯冠高	3.06	3.05	—
第1大臼歯	近遠心径	—	17.09	15.76
	頬舌径	—	—	14.19
第2大臼歯	近遠心径	—	22.28	20.87
	頬舌径	—	18.70	18.45
第3大臼歯	近遠心径	—	29.07	—
	頬舌径	—	15.85	—

計測単位はmm

表37 イヌ、イノシシおよびシカの下顎骨の計測値

種	イヌ		イノシシ				シカ
	417-1	474-6		815-1		838-11	1167-1
資料番号	不明	不明		オス		不明	不明
性別	不明	不明		オス		不明	不明
左右	右	左	右	左	右	左	左
下顎骨全長(1) id-goc	—	142.62	147.89	271.86	—	—	—
下顎骨全長(2) id-Cm	—	160.26	159.09	305.78	—	—	—
下顎枝長 M後縁より goc	30.66	44.52	47.32	82.29	—	—	—
gocより Pm2 前縁まで	81.58	109.60	110.15	198.14	—	—	—
歯槽最大長 id-M後縁	—	105.33	105.27	199.86	—	—	—
類臼歯長(1) Pm1-M後縁	—	77.25	75.92	139.25	—	—	—
類臼歯長(2) Pm2-M後縁	53.67	66.13	65.57	120.49	—	—	99.62
小臼歯長(1) Pm1-Pm4	—	48.12	49.78	58.79	—	—	—
小臼歯長(2) Pm2-Pm4	—	37.68	39.32	42.18	—	—	38.54
大臼歯長 M1-M後縁	—	28.67	27.58	80.25	—	—	63.25
C後縁よりPm2前縁まで	30.79	14.74	14.80	25.44	25.71	—	—
顎高 gov-4	40.70+	67.20	67.47	124.00	—	—	—
下顎枝中間高 gov-5	19.81	60.18	—	112.32	—	—	—
下顎枝高 gov-Cr	19.60	68.02	—	—	—	—	—
下顎体高(1) M後縁	20.50	32.85	31.20	62.69	—	—	—
下顎体高(2) M1-Pm4	16.47	23.41	25.20	52.99	—	17.70	23.37
下顎体高(3) Pm2の前	13.71	24.94	24.09	52.13	—	14.52	18.76
下顎体厚 M1-M2	8.09	18.54	16.12	33.37	—	—	—
第1大臼歯最大長	18.35	—	—	—	—	—	—
第1大臼歯最大幅	7.34	—	—	—	—	—	—
第3大臼歯最大長	—	—	—	38.05	—	—	—
第3大臼歯最大幅	—	—	—	18.75	—	—	—
犬歯歯槽最大長	—	—	—	—	34.32	—	—
犬歯歯槽最大幅	—	—	—	20.05	19.68	—	—
犬歯歯槽近位端間距離	—	—	—	29.58	—	—	—
下顎体中心長	—	36.13	—	91.46	—	—	—
下顎体中心高	—	—	—	33.26	—	—	—
下顎幅(1) C後縁よりPm2前縁間最小幅	—	72.36	—	42.73	—	—	—
下顎幅(2) 犬歯歯槽間最大幅	—	31.45	—	65.91	—	—	—
下顎幅(3) 下顎頭間最大幅	—	82.58	—	—	—	—	—
下顎幅(6) 下顎角間最大幅	—	88.50	—	148.60	—	—	—
下顎幅(7) M3後縁の外側最大幅	—	—	—	—	—	—	—
下顎幅(8) 歯槽後縁間	—	46.25	—	—	—	—	—
下顎幅(9) 下顎下縁で体と枝の境界点	—	—	—	110.87	—	—	—
idから下顎幅(1)の矢状距離	—	—	—	68.12	—	—	—
i歯槽間から下顎幅(1)の矢状距離	—	—	—	61.21	—	—	—
idから下顎幅(2)の矢状距離	—	—	—	41.84	—	—	—
i歯槽間から下顎幅(1)の矢状距離	—	—	—	34.93	—	—	—
下顎枝にかけられた穴の横径	—	—	—	27.39	—	—	—

計測単位はmm、数字の後の+は先端が破損しているため計測値がもう少し大きくなる

表38 イノシシの環椎の計測値

標本番号	547-2
前弓長	15.15
後弓長	24.67
前関節間幅	59.09
後関節間幅	57.23
椎孔高	24.71
椎孔幅	22.91
計測単位はmm	

表39 イノシシの軸椎の計測値

標本番号	532-1
椎高	57.68
椎弓長	41.54
前関節面幅	48.21
後関節面幅	27.88
計測単位はmm	

表40 シカおよびイノシシの肩甲骨の計測値

標本番号	179-1	525-5	824-1	839-1
左右	左	左	右	右
関節高最大長	43.95	—	40.4	—
関節高長	33.3	25.99	29.43	17.16
関節高横径	32.63	22.55	27.32	11.56
頸部前後径	24.77	17.94	—	10.36
頸部厚径	16.3	9.95	—	6.14
内側縁長	97.79	—	—	—
前縁長(鳥口突起なし)	154.26	—	—	—
後縁長	141.96	—	—	69.16
計測単位はmm				

表41 イヌの上腕骨の計測値

標本番号	185-1
左右	左
最大長	126.57
生理長	123.73
近位端	前後径 32.77 横径 21.48
遠位端	前後径 21.16 横径 25.38
骨幹中央	前後径 13.05 横径 10.30
計測単位はmm	

表42 イノシシの距骨の計測値

標本番号	525-2	834-1
左右	右	右
最大長	45.33	40.06
外側長		40.02
内側長	39.07	36.61
外側深	23.43	20.55
内側深	25.73	20.33
近位幅		17.71
遠位幅	28.15	23.29
計測単位はmm		

表43 動物遺体の各部位の出現頻度

	イノシシ	シカ	イヌ
前頭骨	左右 1	1	
頭頂骨	左右 1		
側頭骨	左右 2	1	
後頭骨	—		
頬骨	右 1		
上顎骨	左 3		
上顎第1大臼歯	左 1		
上顎第2大臼歯	左 2		
上顎第3大臼歯	左右 2		
	右 1		
下顎骨	左右 6*	2*	1
下顎第1切歯	左右 1		
下顎犬歯	左右 4		
下顎第2小臼歯	左 1		
下顎第4小臼歯	左右 2		
下顎第3大臼歯	左右 2	1	
環椎	—	4	1
軸椎	—	2	
第4頸椎	—	1	
第5頸椎	—	1	
第7頸椎	—	1	
頸椎	—	1	
第1胸椎	—	2	
第2胸椎	—	2	
胸椎	—	6	
第4腰椎	—		
第5腰椎	—		
第6腰椎	—		
第1肋骨	左右 1		
第2肋骨	右 2		
肩甲骨	左右 1	1	
上腕骨	左右 3	1	1
	右 3	2*	
尺骨	左右 2	1	
橈骨	左右 1		
三角骨	左 1		
尺側手根骨	左 1		
小菱形骨+有頭骨	左 1	1	
第3・第4中手骨	左右 1		
第2中手骨	右 1		
第3中手骨	左 1		
第4中手骨	左右 1		
第4中手骨	右 1		
寛骨	左右 4		
	左 4	1	
大腿骨	左右 4	2*	1
	右 2		
膝蓋骨	左右 1		
脛骨	左 2	1	
腓骨	右 2	1	
距骨	左 2		
	右 2	1	
踵骨	左 1	1	
	右 2	1	
舟状立方骨	左右 1		
第3・第4中足骨	右 1	1	
第3中足骨	右 1		
第4中足骨	右 1		
基節骨	不明 3		
中節骨	不明 1		
最小個体数	6	2	1
総数	183	56	3

第9章 分析

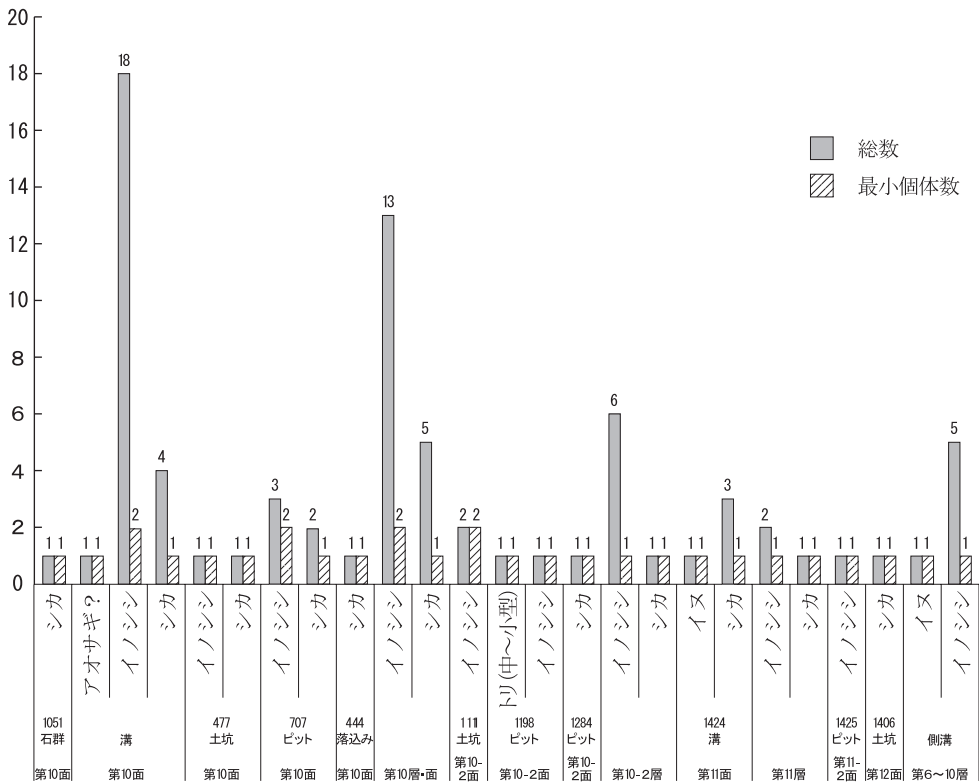
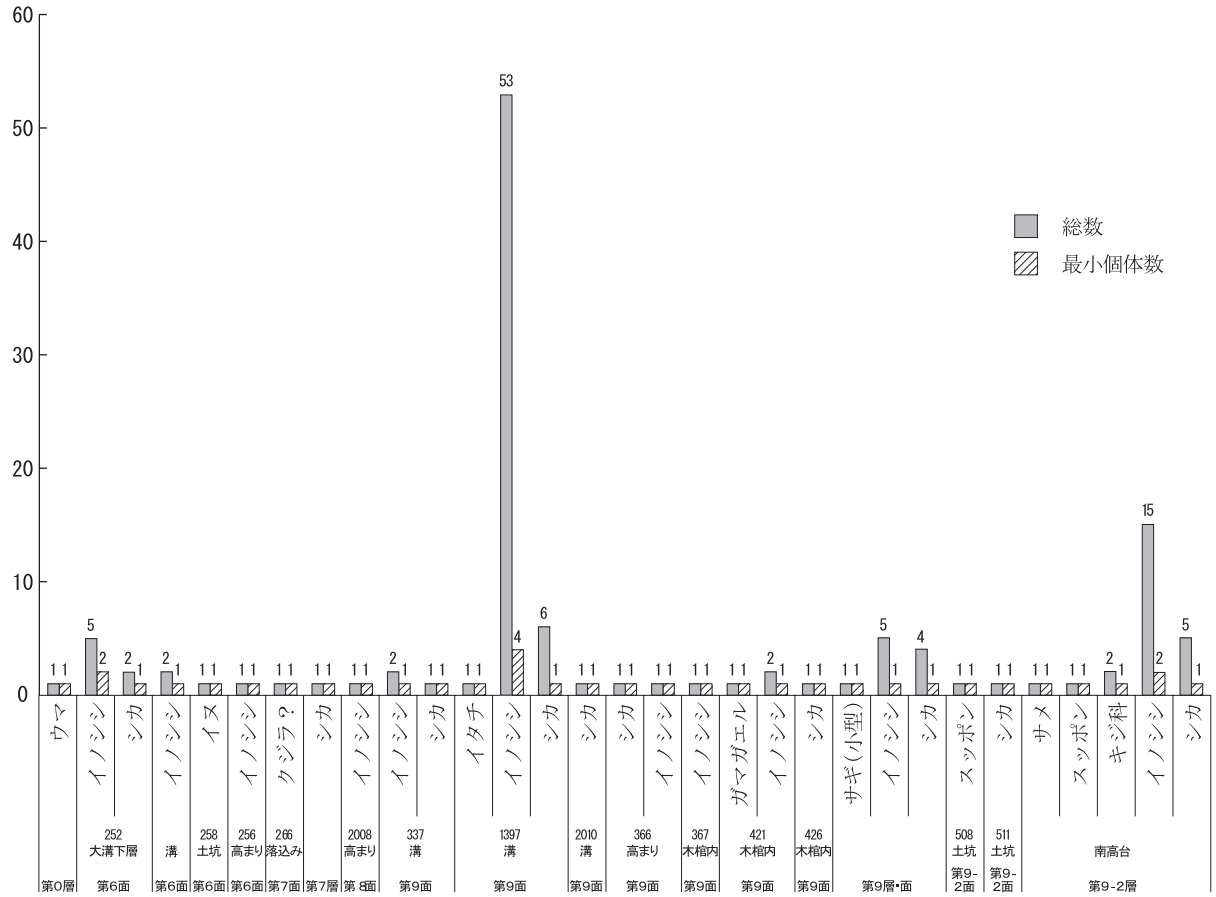


図381 層・面および遺構ごとの総数と出現頻度

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(1)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			左右	部位 詳細			
52-1	第0層	ウマ	不明	上顎臼歯	半分破損	写真11	現代
84-1	第2面101土坑	大型哺乳類		長骨片	3		古墳時代後期
304-1	第6面252大溝下層	イノシシ	左	脛骨	遠位1/3のみ遺存	遠位前後径 28.40 横径 30.67	前期後半～中期前葉
304-2	第6面252大溝下層	イノシシ	左	上顎第3大臼歯	第2列咬頭まで磨耗	頬舌径 19.48 近遠心径 34.29	前期後半～中期前葉
304-3	第6面252大溝下層	イノシシ	不明	臼歯片	未萌出の歯冠の一部が遺存		前期後半～中期前葉
304-4	第6面252大溝下層	シカ	右	下顎第3大臼歯		頬舌径 9.73 近遠心径 23.88	前期後半～中期前葉
304-5	第6面252大溝下層	哺乳類	一	頭骨片	1		前期後半～中期前葉
304-6	第6面252大溝下層	シカ	左	中手骨	近位部約3cm遺存	近位前後径 19.70 横径 28.38	前期後半～中期前葉
307-1	第6面252大溝下層	イノシシ	左	上顎第1切歯	歯冠の先端と歯根が破損		前期後半～中期前葉
312-1	第6面252大溝下層	イノシシ	左	下顎第3大臼歯	未萌出の歯冠のみ遺存	頬舌径 14.28 近遠心径 32.61	前期後半～中期前葉
312-2	第6面252大溝下層	イノシシ	左	上顎第3大臼歯	未萌出の歯冠のみ遺存	頬舌径 16.74 近遠心径 28.61	前期後半～中期前葉
312-3	第6面252大溝下層	シカorイノシシ	不明	上腕骨	遠位端の滑車の一部遺存		前期後半～中期前葉
312-4	第6面252大溝下層	ウカサ					前期後半～中期前葉
488-1	第6面252大溝北法面	シカorイノシシ	一	胸椎	椎体のみ遺存		前期後半～中期前葉
610-1	第6面252大溝南法面	イノシシ	不明	第3大臼歯	上下不明、第2列咬頭まで遺存、咬耗なし		前期後半～中期前葉
607-1	第6面255溝(下層)	シカorイノシシ		骨片	約5cm遺存		前期後半～中期前葉
71-1	第6面418溝	哺乳類		骨片	多数	03-1-3区出土	前期後半～中期前葉
10-1	第6面2002溝	イノシシ	一	頭骨	後頭骨鱗部の上部のみ遺存		前期後半～中期前葉
11-1	第6面2004溝	大型哺乳類		骨片	1	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
21-1	第6面2004溝(下層)	イノシシ	一	頭骨	左上顎骨M1～M3前部の歯槽まで遺存、歯根部のみ釘植	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
21-2	第6面2004溝(下層)	イノシシ	不明	大臼歯	未萌出の歯冠のみ遺存	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
21-3	第6面2004溝(下層)	哺乳類		骨片	1	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
301-1	第6面258土坑	哺乳類		骨片	1	焼骨	前期後半～中期前葉
417-1	第6面258土坑	イヌ	右	下顎骨	犬歯歯槽以後すべて遺存、P1とP4はすでに脱落して歯槽閉鎖。	写真11	前期後半～中期前半
1480-1	第6面256高まり	イノシシ		環椎		後結節と両側横突起外側部破損	前期後半～中期前半
1480-2	第6面256高まり	イノシシ		基節骨		最大長 41.88	前期後半～中期前半
401-1	第7面266落ち込み	ウジラ?		骨片	1	写真11	前期後半～中期前半
1190-1	第7層	シカ	左	上腕骨	上腕骨顆のみ遺存		前期後半～中期前葉
627-1	第8面298高まり	シカorイノシシ		長骨片	約5cm遺存		前期後半～中期前葉
637-1	第8面299高まり	シカorイノシシ	不明	下顎骨	体の外側部、約2cm遺存		前期後半～中期前葉
641-1	第8面299高まり	大型哺乳類		長骨片	骨幹約2cm遺存		前期後半～中期前葉
17-1	第8面2008高まり	イノシシ	左	下顎第4小臼歯	萌出直後、磨耗わずかにあり	頬舌径 10.26 近遠心径 60.05	前期後半～中期前葉
17-2	第8面2008高まり	大型哺乳類		骨片	1	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
645-1	第9面337溝	イノシシ	左	上腕骨	遠位部のみ遺存	遠位前後径 40.99 横径39.02	前期後半～中期前葉
648-1	第9面337溝	シカ	右	脛骨	近位部のみ遺存	近位前後径 45.89 横径 50.36	前期後半～中期前葉
649-1	第9面337溝	イノシシ	左	下顎第4小臼歯		頬舌径 9.38 近遠心径 16.26	前期後半～中期前葉

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(2)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			部位	詳細			
472-1	第9面1397溝上半	哺乳類?	長骨片	約3cm遺存			前期後半～中期前葉
474-1	第9面1397溝上半	イノシシ	右 大腿骨	近位～骨幹中央まで遺存、近位端未癒合			前期後半～中期前葉
474-2	第9面1397溝上半	イノシシ	右 肋骨(中位)	骨頭未癒合	最大長 184.09		前期後半～中期前葉
474-3	第9面1397溝上半	イノシシ	左 肋骨(中位)	骨頭未癒合	最大長 159.59		前期後半～中期前葉
474-4	第9面1397溝上半	イノシシ	左 肋骨(中位)	骨頭未癒合	最大長 173.18		前期後半～中期前葉
474-5	第9面1397溝上半	イノシシ	左 肋骨(中位)	骨幹のみ約12cm遺存			前期後半～中期前葉
474-6	第9面1397溝上半	イノシシ	右・左 下顎骨	左il・2,p2～4,MIと右il,p2～4,MIは釘植、左右I3は萌出中、Cは不明、pl1は歯槽あり	表37	下顎頭に解体写真8	前期後半～中期前葉
474-7	第9面1397溝上半	イノシシ	右 肋骨(中位)	骨頭未癒合	最大長 173.73		前期後半～中期前葉
474-8	第9面1397溝上半	貝		アサリorシジミ?			前期後半～中期前葉
474-9	第9面1397溝上半	イノシシ	一 頭骨	左側頭骨の隅前窩周辺遺存、ラムダ縫合未癒合			前期後半～中期前葉
474-10	第9面1397溝上半	イノシシ	右 上腕骨	近位部破損、遠位は未癒合、骨幹約10cm遺存。			前期後半～中期前葉
476-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 頭骨	左側頭骨と側頭骨が遺存、縫合は未癒合			前期後半～中期前葉
476-2	第9面1397溝上半	イノシシ(家畜?)	左右 下顎骨	左切歯歯槽部と右M3の歯槽部まで遺存		I～P2の間が短く、下顎体高が高いので家畜イノシシ? Cの歯槽の発達が悪いことよりメス。	前期後半～中期前葉
476-3	第9面1397溝上半	イノシシ	右 下顎第3大臼歯	磨耗ややあり	類舌径 15.52 近遠心径 31.72		前期後半～中期前葉
476-4	第9面1397溝上半	イノシシ	不明 第3大臼歯	上下不明、第2列咬頭まで遺存、			前期後半～中期前葉
476-5	第9面1397溝上半	イノシシ	右 臼歯片	9			前期後半～中期前葉
476-6	第9面1397溝上半	イノシシ	肋骨(上位)	2			前期後半～中期前葉
476-7	第9面1397溝上半	シカorイノシシ	下顎片	1			前期後半～中期前葉
476-8	第9面1397溝上半	シカorイノシシ	骨片	2			前期後半～中期前葉
476-9	第9面1397溝上半	シカorイノシシ	一 胸椎	棘突起のみ遺存			前期後半～中期前葉
478-1	第9面1397溝上半	貝					前期後半～中期前葉
480-1	第9面1397溝上半	シカorイノシシ	不明 下顎骨	下顎体の歯槽部約1cm遺存			前期後半～中期前葉
480-2	第9面1397溝上半	大型哺乳類	長骨片	骨幹約6cm遺存			前期後半～中期前葉
526-1	第9面1397溝上半	イノシシ	左 肋骨(上位)				前期後半～中期前葉
527-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 胸椎(中位)	椎弓のみ遺存、椎体と未癒合			前期後半～中期前葉
528-1	第9面1397溝上半	イノシシ	不明 中手骨or中足骨	遊離遠位端、第3or第4の中手骨or中足骨			前期後半～中期前葉
529-1	第9面1397溝上半	イノシシ	左 下顎第1切歯	矢状方向に割れ			前期後半～中期前葉
530-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 胸椎	椎体のみ遺存、椎弓と未癒合			前期後半～中期前葉
531,541-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 頭骨	左右前頭骨、涙骨、左頬骨遺存。縫合未癒合		2才の標本と同じ大きさ	前期後半～中期前葉
532-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 軸椎	後椎体枝遊離、椎体と椎弓部の骨端線あり	表39		前期後半～中期前葉
533-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 第4頸椎	両端の椎体板未癒合		538と同一個体	前期後半～中期前葉
534-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 胸椎(中位)	棘突起のみ遺存			前期後半～中期前葉
535-1	第9面1397溝上半	イノシシ	不明 肋骨片	体のみ約10cm遺存			前期後半～中期前葉
536-1	第9面1397溝上半	イノシシ	左 第4中手骨	遠位端未癒合	近位+骨幹長 61.60		前期後半～中期前葉

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(3)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			部位	詳細			
537-1	第9面1397溝上半	イノシシ	右 第2肋骨	体の先端破損			前期後半～中期前葉
538-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 第5頸椎	両端の椎体板未癒合		533と同一個体	前期後半～中期前葉
539-1	第9面1397溝上半	イノシシ	不明 中手骨or中足骨	遠位端未癒合、第2or第5の中手骨or中足骨			前期後半～中期前葉
540-1	第9面1397溝上半	イノシシ	右 上腕骨	両骨端未癒合	骨幹最大長 132.76		前期後半～中期前葉
541-2	第9面1397溝上半	イノシシ?	一 頭骨片	2			前期後半～中期前葉
542-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 頭骨	左右ともP3,4とM1は釘植	表36	大きさからオス	前期後半～中期前葉
543-1	第9面1397溝上半	イノシシ	一 胸椎(中位)	椎弓のみ遺存、椎体と未癒合			前期後半～中期前葉
544-1	第9面1397溝上半	イノシシ	右 肋骨(中位)	肋骨頭破損			前期後半～中期前葉
525-1	第9面1397溝単点	イノシシ	- 下顎骨	下顎結合部の下面のみ遺存		大きさから幼体	前期後半～中期前葉
525-2	第9面1397溝単点	イノシシ	右 距骨		表42	写真9	前期後半～中期前葉
525-3	第9面1397溝単点	イノシシ	左 第3中手骨	遠位端未癒合	近位+骨幹長 61.22 近位前後径 16.86 横径 14.79	写真9	前期後半～中期前葉
525-4	第9面1397溝単点	イノシシ	右 第4中足骨	遠位端未癒合	近位+骨幹長 89.53 近位前後径 25.20 横径 19.75		前期後半～中期前葉
525-5	第9面1397溝単点	イノシシ	左 肩甲骨	鳥口突起の一部癒合、その他の部位は未癒合または骨端線遺存	表40	写真8	前期後半～中期前葉
525-6	第9面1397溝単点	イノシシ	左 上腕骨	近位～骨幹約10cm遺存、近位端未癒合、骨頭遺存			前期後半～中期前葉
525-7	第9面1397溝単点	イノシシ	左 尺骨	両骨端未癒合	肘頭+骨幹長 151.30 骨幹長 146.04	写真9	前期後半～中期前葉
525-8	第9面1397溝単点	イノシシ	右 踵骨	踵骨隆起未癒合	歳代長(隆起を除く)5.03 前後径 14.82 高径 21.51	幼体 写真9	前期後半～中期前葉
525-9	第9面1397溝単点	イノシシ	左 橈骨	両骨端未癒合	骨幹長 102.56		前期後半～中期前葉
525-10	第9面1397溝単点	イノシシ	右 大腿骨	骨幹のみ遺存		1才よりやや小さい	前期後半～中期前葉
525-11	第9面1397溝単点	イノシシ	右 下顎骨	第2乳臼歯歯槽後半～下顎枝まで遺存、第3乳臼歯～第1大臼歯まで釘植、第1大臼歯は萌出中	下顎枝長 48.84 下顎枝高(頭まて) 70.22	筋突起の一部切断、1歳未満 写真8	前期後半～中期前葉
525-12	第9面1397溝単点	イノシシ	一 頭骨	後頭骨の左外側部のみ遺存、縫合は未癒合			前期後半～中期前葉
525-13	第9面1397溝単点	イノシシ	左 三角骨		高径 18.45		前期後半～中期前葉
525-14	第9面1397溝単点	イノシシ	右 第1肋骨		最大長 94.97	幼体 写真8	前期後半～中期前葉
525-15	第9面1397溝単点	イノシシ	右 第1肋骨	肋軟骨接合部破損		幼体、525-14よりやや大	前期後半～中期前葉
525-16	第9面1397溝単点	イノシシ	右 肋骨片(中位)	2		幼体	前期後半～中期前葉
525-17	第9面1397溝単点	イノシシ	右 肋骨片(中位)	1		成体	前期後半～中期前葉
525-18	第9面1397溝単点	イノシシ	左 第1肋骨	肋骨中央部で破損		525-15と同大	前期後半～中期前葉
525-19	第9面1397溝単点	イノシシ	左 肋骨(中位)	2		幼体	前期後半～中期前葉
525-20	第9面1397溝単点	イノシシ	不明 肋骨片	5			前期後半～中期前葉
525-21	第9面1397溝単点	イノシシ	一 第1胸椎	椎弓のみ遺存、椎体と未癒合	棘突起高 93.62	幼体	前期後半～中期前葉
525-22	第9面1397溝単点	イノシシ	一 第2胸椎	椎弓のみ遺存、椎体と未癒合	棘突起高 100.37	幼体	前期後半～中期前葉
525-23	第9面1397溝単点	イノシシ	一 第3胸椎	右横突起破損、椎体と未癒合、椎体も遺存	最大高 98.85 棘突起高 99.65	幼体	前期後半～中期前葉
525-24	第9面1397溝単点	イノシシ	一 第4胸椎	椎弓のみ遺存、椎体と未癒合	棘突起高 95.31	幼体	前期後半～中期前葉

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(4)

登録番号	出土遺構・層名	種名	部位		出土部位		計測値	備考	時期
			左右	部位	詳細				
525-25	第9面1397溝単点	イノシシ	一	第5胸椎	椎弓のみ遺存、椎体と未癒合		棘突起高 80.35	幼体	前期後半～中期前葉
525-26	第9面1397溝単点	イノシシ	一	第7頸椎	椎体と椎弓および両椎体板未癒合			幼体	前期後半～中期前葉
525-27	第9面1397溝単点	イノシシ	一	一類椎	同側の椎弓と椎体未癒合、椎弓のみ遺存			幼体	前期後半～中期前葉
525-28	第9面1397溝単点	不明		骨片					前期後半～中期前葉
547-1	第9面1397溝単点	イノシシ	一	頭骨	左前上顎骨と上顎骨のI2とP2, M3が遺失、その他は釘植。P1,3,4とM2は先端のみ咬耗あり、M3の齒槽は未完成のためM3は未萌出と推測		表36	2才、Cの形態よりオス 写真8	前期後半～中期前葉
547-2	第9面1397溝単点	イノシシ	一	環椎	横突起外側端破損		表38	写真8	前期後半～中期前葉
547-3	第9面1397溝単点	大型哺乳類	不明	肋骨片	1			解体痕あり	前期後半～中期前葉
547-4	第9面1397溝単点	大型哺乳類		長骨片	1				前期後半～中期前葉
473-1	第9面1397溝下半	イノシシ?		長骨片					前期後半～中期前葉
475-1	第9面1397溝下半	イノシシ	一	頭骨	後頭骨鱗部と左右の頭頂骨遺存、ラムダ縫合は閉鎖		鱗部最大幅 55.65 側頭線最小幅 19.70	写真8	前期後半～中期前葉
475-2	第9面1397溝下半	イノシシ	右	寛骨	寛骨臼周辺のみ遺存		寛骨臼最大長 34.06	写真9	前期後半～中期前葉
477-1	第9面1397溝下半	シカ	右	脛骨	遠位1/3のみ遺存		遠位端前後径 28.75 横径 36.72		前期後半～中期前葉
477-2	第9面1397溝下半	イノシシ	左	寛骨	腸骨と坐骨が遺存、Y軟骨未癒合		腸骨最小幅 8.87 高 16.10	写真9	前期後半～中期前葉
477-3	第9面1397溝下半	シカ		角	約4cm遺存			焼骨	前期後半～中期前葉
477-4	第9面1397溝下半	イノシシ	左	橈骨	向骨端未癒合		骨幹最大長 99.25	写真9	前期後半～中期前葉
479-1	第9面1397溝下半	シカ	右	距骨	近位部破損			写真10	前期後半～中期前葉
479-2	第9面1397溝下半	シカ		角	分枝部の内側or外側のみ約1cm遺存			焼骨	前期後半～中期前葉
479-3	第9面1397溝下半	イノシシ	左	下顎犬歯	約10cm遺存			オス	前期後半～中期前葉
479-4	第9面1397溝下半	イノシシ	一	頭骨	右側頭骨の関節窩周辺のみ遺存、ラムダ縫合未癒合		関節面長 34.71		前期後半～中期前葉
479-5	第9面1397溝下半	イノシシ	右	下顎犬歯	外側面のみ遺存			オス,加工痕あり 写真5	前期後半～中期前葉
481-1	第9面1397溝下半	イノシシ	右	下顎骨	P3～M3の第1列咬頭部の齒槽まで遺存。M3は齒槽の状態より、萌出中				前期後半～中期前葉
548-1	第9面1397溝下半	イノシシ	一	頭骨	左前頭骨、頬骨の頬骨突起と上顎第3大臼齒齒槽後半が破損。涙骨、蝶形骨と冠状縫合が未癒合、M3は未萌出				前期後半～中期前葉
152-1	第9面1397溝	イノシシ	一	頭骨	左上顎骨のM1～M3釘植、M3は第2列咬頭まで磨耗		表36	03-1-3区出土	前期後半～中期前半
152-2	第9面1397溝	イノシシ	一	頭骨	右側頭骨は頬骨突起周辺、後頭骨は外側部が遺存、縫合は未癒合			03-1-3区出土	前期後半～中期前半
152-3	第9面1397溝	イノシシ	右	脛骨	骨幹約8cm遺存、近位端破損。			幼体 03-1-3区出	前期後半～中期前半
153-1	第9面1397溝	イノシシ	一	頭骨	左頭頂骨と後頭骨のラムダ縫合の側頭輪周辺が遺存			切断? 03-1-3区出土	前期後半～中期前半
153-2	第9面1397溝	シカ	一	頭骨	後頭骨のラムダ縫合を含む後頭輪から右後頭輪周辺が遺存			骨が厚い 03-1-3区出土	前期後半～中期前半
153-3	第9面1397溝	大型哺乳類	一	頭骨片	2			03-1-3区出土	前期後半～中期前半
186-1	第9面1397溝	イノシシ	右	脛骨	近位から約10cm遺存、近位端未癒合で遊離、			脛骨粗面に切断痕 同上出土	前期後半
186-2	第9面1397溝	シカ	右	中足骨	近位部約3cm遺存、			外側部切断 03-1-3区出土 写真10	前期後半

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(5)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			左右	部位			
186-3	第9面1397溝	不明		骨片		03-1-1-3区出土	前期後半
20-1	第9面2010溝	シカ	一	環椎	前弓と左横突起中央まで破損	後関節窩周辺に切断痕あり 写真10	前期後半～中期前葉
20-2	第9面2010溝	哺乳類		骨片	1	05-1-1-1区出土(20-1も)	前期後半～中期前葉
1335-1	第9面366高まり(第9面424木棺周辺)	シカ	右	膝蓋骨	尖破損	写真10	前期後半～中期前葉
1335-2	第9面366高まり(第9面424木棺周辺)	イノシシ	不明	白歯片	1		前期後半～中期前葉
1302-1	第9面367木棺(棺内)	イノシシ	左	上顎第2大臼歯	歯片のため計測不可		中期前葉
1313-1	第9面421木棺(棺内北)	ガマガエル	不明	肩甲骨	関節窩破損	写真12	中期前葉
1318-1	第9面421木棺(棺内東)	イノシシ		歯片	1		中期前葉
1317-1	第9面421木棺(棺内)	イノシシ		歯片	1		弥生時代中期前葉
1341-1	第9面426木棺(棺内)	シカ	不明	角	先端のみ遺存		中期前葉
1339-1	第9面426木棺(棺内北東)	シカorイノシシ	不明	頭骨	側頭骨?内耳骨? 未癒合。	幼体	中期前葉
611-1	第9面368落ち込み	大型哺乳類		肋骨片	約1cm遺存		前期後半～中期前葉
676-1	第9面338高まり	シカ		落角片	3		前期後半～中期前葉
681-1	第9面338高まり	大型哺乳類		骨片	多数		前期後半～中期前葉
775-1	第9面338高まり	シカ	左	大腿骨	遠位部のみ遺存、外側顆破損	写真10	前期後半～中期前葉
776-1	第9面338高まり	哺乳類		骨片	3		前期後半～中期前葉
694-1	第9面366高まり	哺乳類		骨片	1		前期後半～中期前葉
1338-1	第9面366高まり(第9面425木棺周辺)	哺乳類		長骨片	1		前期後半～中期前葉
22-1	第9面2011高まり	イノシシ	右	上顎骨	M1とその周辺の歯槽骨遺存、M1釘植	頬舌径 14.99 近遠心径 17.41	前期後半～中期前葉
22-2	第9面2011高まり	哺乳類	不明	肋骨片	約3cm遺存	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
22-3	第9面2011高まり	哺乳類		骨片	4	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
697-1	第9層南高台	イノシシ	左	下顎犬歯		全長 39.66	前期後半～中期前葉
697-2	第9層南高台	イノシシ		白歯片	2 未萌出		前期後半～中期前葉
697-3	第9層南高台	イノシシ	左	第2乳切歯			前期後半～中期前葉
698-1	第9層南高台	シカ	左	小菱形骨+有頭骨		前後径 19.62 横径 18.27 高径 12.86	前期後半～中期前葉
699-1	第9層南高台	シカ	左	脛骨	近位部のみ遺存	近位前後径 56.54 横径 63.51	前期後半～中期前葉
699-2	第9層南高台	イノシシ		白歯片	1		前期後半～中期前葉
726-1	第9層南高台単点	サザ(小型)	左	手根中手骨	近位部のみ遺存	近位横径 9.86	前期後半～中期前葉
143-1	第9層	シカ	左	大腿骨	近位～小転子下部まで遺存、大転子破損		前期後半～中期前半

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(6)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			部位	詳細			
143-2	第9層	イノシシ	左	大腿骨			前期後半～中期前半
143-3	第9層	哺乳類	左	骨片	4	幼体	前期後半～中期前半
158-1	第9層	イノシシ	左	上腕骨	骨幹遠位部のみ遺存、遠位端未癒合	03-1-3区出土	前期後半～中期前半
159-1	第9層	大型哺乳類	不明	長骨片	1	遠位前後径 36.41、横径 35.95	前期後半～中期前半
702-1	第9-2面508土坑	スッポン	不明	肋骨板	約2cm遺存	03-1-3区出土	前期後半～中期前半
705-1	第9-2面511土坑	シカ	左	下顎骨	M1～M3の前半分まで遺存、M1～M3は釘植、磨耗は軽度	下顎体高(M1の後縁) 26.17	前期後半～中期前半
831-1	第9-2層	シカ	一	腰椎(中位)	正中より左側のみ遺存		前期後半～中期前半
831-2	第9-2層	キジ科	左	尺骨		全長 58.97	前期後半～中期前半
831-3	第9-2層	キジ科	左	鳥口骨		全長 45.51 胸骨短幅 10.38+	前期後半～中期前半
831-4	第9-2層	哺乳類	不明	骨片	1	写真12	前期後半～中期前半
833-1	第9-2層	哺乳類	不明	肋骨片	1	写真12	前期後半～中期前半
823-1	第9-2層(南高台)	シカ	一	角	分枝部約5cm遺存		前期後半～中期前半
823-2	第9-2層(南高台)	イノシシ	右	下顎第4小白歯	わずかに歯槽骨付着	類舌径 8.27 近遠心径 14.86	前期後半～中期前半
823-3	第9-2層(南高台)	イノシシ	左	下顎犬歯	歯根未形成、先端破損		前期後半～中期前半
823-4	第9-2層(南高台)	イノシシ	左	肩甲骨	肩甲棘から後方が遺存	Cの形態よりミス	前期後半～中期前半
823-5	第9-2層(南高台)	イノシシ?	左	上顎第1切歯	歯根部わずかには開放、歯冠破損		前期後半～中期前半
823-6	第9-2層(南高台)	イノシシ	右	肩甲骨	棘と棘下窩周辺遺存、その他骨片多数		前期後半～中期前半
823-7	第9-2層(南高台)	イノシシ	一	頭骨	右頬骨のみ遺存	高径 24.63	前期後半～中期前半
823-8	第9-2層(南高台)	哺乳類	不明	長骨片	骨幹のみ遺存		前期後半～中期前半
824-1	第9-2層(南高台)	シカ	右	肩甲骨	肩甲窩から約9cm遺存	表40	前期後半～中期前半
824-2	第9-2層(南高台)	イノシシ	右	脛骨	骨幹近位部のみ遺存、近位端未癒合		前期後半～中期前半
824-3	第9-2層(南高台)	イノシシ	右	下顎骨	P1～P4の歯槽部が遺存、P4は釘植、磨耗は軽度	P4 類舌径 7.24 近遠心径 13.66	前期後半～中期前半
824-4	第9-2層(南高台)	イノシシ	左	上腕骨	骨幹近位部のみ遺存、近位端未癒合		前期後半～中期前半
824-5	第9-2層(南高台)	イノシシ	右	下顎骨	P2～P4の歯槽部まで遺存		前期後半～中期前半
824-6	第9-2層(南高台)	シカorイノシシ	不明	肩甲骨	後縁の一部約5cm遺存		前期後半～中期前半
824-7	第9-2層(南高台)	イノシシ	左	下顎第2小白歯	未萌出	類舌径 5.09 近遠心径 9.87	前期後半～中期前半
824-8	第9-2層(南高台)	哺乳類		骨片	多数		前期後半～中期前半
824-9	第9-2層(南高台)	イノシシ		小白歯片	2		前期後半～中期前半
825-1	第9-2層(南高台)	スッポン		肋骨板片	多数	焼骨 写真12	前期後半～中期前半
825-2	第9-2層(南高台)	シカ	不明	中足骨	前面のみ約4cm遺存	加工痕あり、骨角器未製品 写真10	前期後半～中期前半
825-3	第9-2層(南高台)	サメ	一	椎骨		直径 28.34 高径 12.53	前期後半～中期前半
827-1	第9-2層(南高台)	イノシシ	不明	下顎犬歯	歯冠の一部遺存		前期後半～中期前半
828-1	第9-2層(南高台)	シカ	不	落角	角座～第1分枝まで約5cm遺存、角座の後部破損	角座横径 43.09	前期後半～中期前半
828-2	第9-2層(南高台)	イノシシ	左右	下顎骨	下顎結合部の下端のみ遺存	写真10	前期後半～中期前半

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(7)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			左右	部位			
828-3	第9-2層(南高台)	哺乳類		肋骨片	1		前期後半～中期前葉
828-4	第9-2層(南高台)	哺乳類?	右	下顎骨	約3cm遺存	幼体?	前期後半～中期前葉
829-1	第9-2層(南高台)	イノシシ	左右	下顎骨	下顎結合部の下端のみ遺存		前期後半～中期前葉
829-2	第9-2層(南高台)	イノシシ	右	下顎第3大白歯	第2列咬頭より後部が釘植、最終列の咬頭は未萌出	3才程度、焼骨	前期後半～中期前葉
829-3	第9-2層(南高台)	哺乳類		長骨片	1		前期後半～中期前葉
829-4	第9-2層(南高台)	哺乳類		骨片	1		前期後半～中期前葉
830-1	第9-2層(南高台)	シカorイノシシ	右	上腕骨	骨幹遠位部のみ遺存、遠位端破損		前期後半～中期前葉
830-2	第9-2層(南高台)	シカ	左	大腿骨	骨頭のみ遺存	骨頭前後径 23.79	前期後半～中期前葉
830-3	第9-2層(南高台)	哺乳類		肋骨片	1		前期後半～中期前葉
830-4	第9-2層(南高台)	哺乳類		長骨片	1		前期後半～中期前葉
832-1	第9-2層(南高台)	イノシシ	一	頭骨	右側頭骨の外耳道と頬骨突起部が遺存		前期後半～中期前葉
834-1	第9-2層(南高台)	イノシシ	右	距骨		表42	前期後半～中期前葉
836-1	第9-2層(南高台)	シカ	左	頭骨	前頭骨眼窩部のみ遺存	写真10	前期後半～中期前葉
836-2	第9-2層(南高台)	シカ		角	約12cm遺存	切斷痕あり、研磨あり	前期後半～中期前葉
1073-1	第10面1051石群	シカ	左	踵骨	載距突起の後方約6cm遺存		前期後半～中期前葉
751-1	第10面441溝	骨?			1		前期後半～中期前葉
1243-1	第10面445溝(下層)	イノシシ	一	頭骨	右前頭骨と頭頂骨が遺存、頭頂骨は後部破損、縫合未癒合	前頭骨長 74.12	前期後半～中期前葉
1243-2	第10面445溝(下層)	シカ	右	落角	第1分枝まで遺存	分枝部まで 58.04	前期後半～中期前葉
1252-1	第10面445溝(下層)	イノシシ	右	側頭骨	ラムダ縫合は未癒合		前期後半～中期前葉
1248-1	第10面445溝(上～中層)	大型哺乳類		骨片	8 板状骨の表層のみ遺存		前期後半～中期前葉
815-1	第10面542溝	イノシシ(家畜)	左右	下顎骨	左側はほぼ完形で遺存、第2大白歯と第3大白歯第2列咬頭ま釘植、右側の保存状態は悪い	表37	前期後半～中期前葉
838-1	第10面542溝	イノシシ	一	環椎	両側の横突起と左後関節面破損	前関節窩間幅 54.94	前期後半～中期前葉
838-2	第10面542溝	イノシシ	右	踵骨	踵骨隆起未癒合、載距突起破損		前期後半～中期前葉
838-3	第10面542溝	イノシシ	左	距骨	保存状態悪い	計測不可	前期後半～中期前葉
838-4	第10面542溝	シカ	一	腰椎(中位)	椎弓の保存状態悪い	椎体長 40.84	前期後半～中期前葉
838-5	第10面542溝	イノシシ	左	大腿骨	遠位部のみ遺存、骨端線あり	遠位前後径 66.50 横径 52.07	前期後半～中期前葉
838-6	第10面542溝	シカ	不明	基節骨	骨端線あり	全長 46.76	前期後半～中期前葉
838-7	第10面542溝	シカorイノシシ	不明	肋骨片	約3cm遺存		前期後半～中期前葉
838-8	第10面542溝	大型哺乳類		長骨片	3		前期後半～中期前葉
838-9	第10面542溝	哺乳類		骨片	3		前期後半～中期前葉
838-10	第10面542溝	シカ	角	角座	角座～約5cm遺存		前期後半～中期前葉
838-11	第10面542溝	イノシシ	右	下顎骨	第2乳臼歯～第4乳臼歯の歯槽遺存	表37	前期後半～中期前葉
838-12	第10面542溝	シカorイノシシ	不明	基節骨	近位端未癒合	骨幹・遠位長 16.24	前期後半～中期前葉
1204-1	第10面542溝	シカ	右	上腕骨	上腕骨小頭のみ遺存		前期後半～中期前葉

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(8)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			部位	詳細			
839-1	第10面543溝	アオサギ?	左	上腕骨	全長 180.55	写真12	前期後半~中期前葉
839-2	第10面543溝	イノシシ	右	肩甲骨	鳥口突起未形成	幼体 写真8	前期後半~中期前葉
839-3	第10面543溝	イノシシ	左	寛骨	腸骨の翼のみ遺存、稜中央から後部破損		前期後半~中期前葉
839-4	第10面543溝	大型哺乳類		骨片	1		前期後半~中期前葉
840-1	第10面543溝	イノシシ	右	下顎第4小白歯	内側の後半破損、磨耗軽度	近遠心径 15.38	前期後半~中期前葉
840-2	第10面543溝	哺乳類		長骨片	1		前期後半~中期前葉
844-1	第10面543溝	シカorイノシシ	不明	脛骨?	遠位部のみ遺存、保存状態悪		前期後半~中期前葉
844-2	第10面543溝	イノシシ	右	下顎骨	下顎角のみ遺存		前期後半~中期前葉
844-3	第10面543溝	シカ	左	尺骨	滑車周辺遺存	滑車切痕幅 19.93 関節面長 22.69	前期後半~中期前葉
844-4	第10面543溝	シカorイノシシ		胸椎	棘突起のみ遺存		前期後半~中期前葉
844-5	第10面543溝	大型哺乳類		長骨片	6		前期後半~中期前葉
845-1	第10面543溝	イノシシ	左	踵骨	載距突起より後部遺存、踵骨隆起未癒合		前期後半~中期前葉
841-1	第10面543溝(下層)	シカ	左	脛骨	遠位部のみ遺存	遠位前後径 31.70 横径 39.30	前期後半~中期前葉
841-2	第10面543溝(下層)	イノシシ	左右	下顎骨	下顎結合部の外側のみ遺存		前期後半~中期前葉
841-3	第10面543溝(下層)	大型哺乳類		長骨片	1		前期後半~中期前葉
843-1	第10面543溝(下層)	イノシシ	一	第2胸椎	同椎体板未癒合、椎体後部と棘突起先端破損	横突起間幅 53.79 前関節突起間幅 32.52 後肋骨窩間幅 34.50	前期後半~中期前葉
843-2	第10面543溝(下層)	イノシシ	不明	下顎犬歯片			前期後半~中期前葉
843-3	第10面543溝(下層)	シカorイノシシ	一	頭骨片	7		前期後半~中期前葉
843-4	第10面543溝(下層)	哺乳類	不明	下顎片	1		前期後半~中期前葉
843-5	第10面543溝(下層)	哺乳類		長骨片	骨幹約3cm遺存		前期後半~中期前葉
810-1	第10面582溝	イノシシ	左	大腿骨	近位部のみ遺存、大転子先端破損	近位前後径 42.75 横径 71.51	前期後半~中期前葉
861-1	第10面585土坑	シカ	不明	基節骨		全長 38.77	前期後半~中期前葉
117-1	第10面1414溝	イノシシ	右	寛骨	腸骨体の周辺遺存	腸骨最小高 24.32、幅 11.45	前期後半~中期前葉
117-2	第10面1414溝	イノシシ	右	上顎第3大臼歯		類舌径 19.42 近遠心径 31.13	前期後半~中期前葉
117-3	第10面1414溝	哺乳類		骨片	2		前期後半~中期前葉
169-1	第10面1419溝	シカ	右	橈骨	近位端のみ遺存	近位前後径 22.41、横径 39.29	前期後半~中期前葉
689-1	第10面477土坑	イノシシ	不明	下顎骨	小白歯歯槽周辺遺存、小白歯は萌出中	保存状態が悪いため計測不可	前期後半~中期前葉
690-1	第10面477土坑	イノシシ	左	下顎骨	M3と歯槽周辺が遺存、M3は釘植、萌出直後		前期後半~中期前葉
794-1	第10面477土坑	シカ		落角	基部~第1枝分枝まで遺存		前期後半~中期前葉
801-1	第10面477土坑	イノシシ		臼歯片	2		前期後半~中期前葉
801-2	第10面477土坑	哺乳類		骨片	3		前期後半~中期前葉
892-1	第10面657土坑	シカorイノシシ	一	胸椎	棘突起のみ遺存		前期後半~中期前葉
912-1	第10面762土坑	イノシシ?	不明	下顎骨	下顎角周辺 約3cm遺存		前期後半~中期前葉
912-2	第10面762土坑	大型哺乳類		長骨片	1		前期後半~中期前葉

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(9)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			部位	詳細			
954-1	第10面951土坑	シカ	不明	中節骨	全長 36.21	写真10	前期後半～中期前葉
805-1	第10面486ピット	哺乳類	6	骨片			前期後半～中期前葉
846-1	第10面546ピット	イノシシ	不明	基節骨	全長 36.03		前期後半～中期前葉
901-1	第10面707ピット	イノシシ	左	下顎骨	下顎角周辺 約110cm遺存		前期後半～中期前葉
901-2	第10面707ピット	イノシシ	左右	下顎骨	下顎結合部の外側部のみ遺存		前期後半～中期前葉
941-1	第10面879ピット	シカ	不明	中手骨or中足骨	遊離遠位端		前期後半～中期前葉
944-1	第10面885ピット	シカ	一	胸椎(上位)	椎体のみ遺存	椎体長 34.94	前期後半～中期前葉
944-2	第10面885ピット	イノシシ	左	尺骨	肘頭未癒合、肘頭の骨端軟骨部より約10cm遺存	滑車切痕上部での深 37.89、肘頭最小深 28.80	前期後半～中期前葉
30-1	第10面2027ピット	大型哺乳類		歯片	1	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
35-1	第10面2033ピット	哺乳類		骨片	2	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
56-1	第10面2074ピット	シカorイノシシ	不明	大腿骨	遊離大腿骨頭	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
769-1	第10面444落ち込み	シカ	右	上腕骨	骨幹中央～遠位までの外側部のみ遺存	保存状態悪いため計測不可	前期後半～中期前葉
1022-1	第10面442高まり	大型哺乳類		骨片	2		前期後半～中期前葉
178-1	第10面1410高まり	イノシシ	左	寛骨	寛骨臼の腸骨部と坐骨体が遺存	03-1-3区出土 写真9	前期後半～中期前葉
179-1	第10面1410高まり	シカ	左	肩甲骨		03-1-3区出土	前期後半～中期前葉
179-2	第10面1410高まり	イノシシ	一	胸椎(中位)	前方約半分遺存	椎体中央～椎弓後部にかけて切断 03-1-3区出土	前期後半～中期前葉
179-3	第10面1410高まり	大型哺乳類		骨片	1	03-1-3区出土	前期後半～中期前葉
181-1	第10面1418高まり	イノシシ	左	上腕骨	遠位部のみ遺存	遠位前後径 41.03、横径 41.39	前期後半～中期前葉
182-1	第10面1418高まり	イノシシ	一	頭骨	右頬骨の側頭突起のみ遺存	03-1-3区出土	前期後半～中期前葉
182-2	第10面1418高まり	イノシシ	一	頭骨	右側頭骨の下顎窩のみ遺存	03-1-3区出土	前期後半～中期前葉
182-3	第10面1418高まり	シカorイノシシ	不明	寛骨	坐骨体の一部が遺存	03-1-3区出土	前期後半～中期前葉
42-1	第10面2014高まり	イノシシ	一	軸椎	後椎体板未癒合	棘突起切断 05-1-1区出土 写真8	前期後半～中期前葉
42-2	第10面2014高まり	シカ	一	腰椎	両側の椎体板未癒合	椎弓の後方に切断痕あり 同上	前期後半～中期前葉
42-3	第10面2014高まり	シカ	一	頭骨	後頭骨の左後頭顆のみ遺存	切断痕あり 05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
42-4	第10面2014高まり	イノシシ	一	頭骨	後頭骨の左類静脈突起のみ遺存	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
42-5	第10面2014高まり	イノシシ	不明	基節骨		最大長 39.46	前期後半～中期前葉
42-6	第10面2014高まり	哺乳類	右	肋骨片		05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
42-7	第10面2014高まり	哺乳類		骨片	4	05-1-1区出土	前期後半～中期前葉
1083-1	第10層南高台	イノシシ	左	寛骨	寛骨臼周辺のみ遺存	破損が大きいため計測不可	前期後半～中期前葉
1084-1	第10層南高台	イノシシ	不明	下顎大歯	大歯破損		前期後半～中期前葉
1084-2	第10層南高台	イノシシ	左	下顎骨	M1とM2の歯槽部が遺存、M2は釘植、磨耗は非常に軽度	類舌径 15.48 近遠心径 23.19	前期後半～中期前葉
1086-1	第10層南高台	イノシシ	右	第4中手骨	近位と骨幹の5.2cm遺存		前期後半～中期前葉

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表(10)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			部位	詳細			
1087-1	第10層南高台	イノシシ	右	下顎骨	gov~関節頭 123.99		前期後半~中期前葉
1087-2	第10層南高台	イノシシ	左	踵骨			前期後半~中期前葉
1087-3	第10層南高台	シカ	右	寛骨		焼骨	前期後半~中期前葉
1087-4	第10層南高台	イノシシ	不明	中節骨	全長 24.88	写真9	前期後半~中期前葉
1087-5	第10層南高台	哺乳類		骨片			前期後半~中期前葉
1167-1	第10層南高台	シカ	左	下顎骨		表37	前期後半~中期前葉
1167-2	第10層南高台	大型哺乳類	一	椎骨			前期後半~中期前葉
1168-1	第10層南高台	イノシシ	一	胸椎(中位)			前期後半~中期前葉
1168-2	第10層南高台	イノシシ	一	第1胸椎			前期後半~中期前葉
1169-1	第10層南高台	イノシシ	左	上顎第1切歯			前期後半~中期前葉
44-1	第10層	シカ	左	大腿骨		05-1-1区出土	前期後半~中期前葉
1118-1	第10-2面1111土坑	イノシシ	右	脛骨			前期後半~中期前葉
1177-1	第10-2面1274土坑	大型哺乳類		肋骨片			前期後半~中期前葉
1075-1	第10-2面1282土坑	イノシシ	右	上顎第1大白歯	頬舌径 21.15 近遠心径 13.49		前期後半~中期前葉
1075-2	第10-2面1282土坑	大型哺乳類		骨片			前期後半~中期前葉
1127-1	第10-2面1128ビット	大型哺乳類		骨片			前期後半~中期前葉
1130-1	第10-2面1133ビット	シカorイノシシ	不明	肋骨片			前期後半~中期前葉
1149-1	第10-2面1198ビット	イノシシ	不明	切歯			前期後半~中期前葉
1149-2	第10-2面1198ビット	トリ(中~小型)	右	第2中手骨			前期後半~中期前葉
1076-1	第10-2面1284ビット	シカ	左	下顎骨			前期後半~中期前葉
1161-1	第10-2面1305ビット	シカorイノシシ	不明	肩甲骨		小さい幼体? 05-1-1区出土	前期後半~中期前葉
1255-1	第10-2層(中央高台)	イノシシ	左	上顎第2大白歯	頬舌径 14.94 近遠心径 21.89		前期後半(~中期)
1255-2	第10-2層(中央高台)	イノシシ	右	第3中足骨	前後径 17.70 横径17.25		前期後半(~中期)
1255-3	第10-2層(中央高台)	大型哺乳類	一	頭骨片			前期後半(~中期)
1255-4	第10-2層(中央高台)	哺乳類	一	長骨片			前期後半(~中期)
1260-1	第10-2層(中央高台)	イノシシ	一	環椎			前期後半(~中期)
1262-1	第10-2層(中央高台)	イノシシ	左	下顎骨		右外側塊から下面にかけて切断	前期後半(~中期)
1265-1	第10-2層(中央高台)	イノシシ	右	上腕骨			前期後半(~中期)
1216-1	第10-2層(南高台)	シカ	不明	角			前期後半(~中期)
1217-1	第10-2層(南高台)	シカorイノシシ	一	胸椎			前期後半(~中期)
1217-2	第10-2層(南高台)	イノシシ	左	大腿骨			前期後半(~中期)
1219-1	第10-2層(南高台)	イノシシ	一	頭骨片			前期後半(~中期)
185-1	第11面1424溝	イヌ	左	上腕骨	表41	03-1-3区出土 写真11	前期後半
185-2	第11面1424溝	イノシシ	右	下顎骨		M2が萌出していることより約2才 03-1-3区出土	前期後半

表44 山賀遺跡の動物遺体出土表 (11)

登録番号	出土遺構・層名	種名	出土部位		計測値	備考	時期
			部位	詳細			
185-3	第11面1424溝	シカ	一 頭骨	右前頭骨の角座のみ遺存		03-1-3区出土	前期後半
185-4	第11面1424溝	シカ	一 頭骨	左前頭骨の角座のみ遺存		03-1-3区出土	前期後半
185-5	第11面1424溝	イノシシ	左 橈骨	近位端～約8cm遺存	近位前後径 19.73、横径 28.85	03-1-3区出土	前期後半
185-6	第11面1424溝	シカ	右 踵骨	踵骨隆起破損	骨表面剥離で計測不可	03-1-3区出土	前期後半
185-7	第11面1424溝	イノシシ	右 寛骨	腸骨稜破損、寛骨臼前縁まで遺存	腸骨最小高 20.18、幅 10.12	03-1-3区出土	前期後半
1373-1	第11層(中央高台)	木片					前期後半
1445-1	第11層(南高台)	哺乳類	長骨片	2			前期後半
1450-1	第11層(南高台)	イノシシ	左 脛骨	近位端破損。遠位端未癒合。骨幹約12cm遺存		幼体	前期後半
194-1	第11層	シカ	左 大腿骨	近位端約5cm遺存、大転子未癒合	近位 横径 54.58	03-1-3区出土	前期後半
194-2	第11層	シカ	不明	約6cm遺存		03-1-3区出土	前期後半
194-3	第11層	大型哺乳類	骨片			03-1-3区出土	前期後半
195-1	第11層	イノシシ	一 頭骨	右側頭骨と後頭骨の右ラムダ縫合周辺とその他5片遺存		大きいので成体	03-1-3区 前期後半
1462-1	第11-2面1399土坑	イノシシ	右 橈骨	遠位部のみ遺存、保存状態悪			前期後半
199-1	第11-2面1425ピット	イノシシ	一 頭骨	左右頭頂骨の矢状縫合周辺約7×4cm遺存		03-1-3区出土	前期後半か
1367-1	第12面1406土坑	シカ	左 角座と角	角座～第1分枝まで約6cm遺存	角座前後径 36.71 横径 35.35		前期中葉～後半
1473-1	第13層	シカorイノシシ	左 上腕骨	骨幹中央～鈎突蓋上部まで遺存。			前期
327-1	第6層以下南側溝	イノシシ	右 寛骨	腸骨と坐骨が遺存 Y軟骨未癒合	腸骨最小高 16.82 厚 8.60	写真9	前期～中期
328-1	第6層以下南側溝	シカorイノシシ	右 肋骨	体のみ遺存			前期～中期
1202-1	第6～9層南側溝	大型哺乳類	骨片	1			前期～中期
83-1	第6～10層	イノシシ	左 上腕骨	遠位部のみ遺存	遠位前後径 42.89、横径 40.21	03-1-3区出土	前期～中期
12-1	第6～10層側溝	イヌ	左 大腿骨	近位部のみ遺存。	近位横径 38.54 骨頭前後径 18.36	05-1-1区出土 写真11	前期～中期
12-2	第6～10層側溝	イノシシ	左 大腿骨	逆離遠位端		内側面に切痕痕 同上出土	前期～中期
12-3	第6～10層側溝	イノシシ	左 踵骨	載距突起と隆起破損	高径 33.79	05-1-1区出土	前期～中期
12-4	第6～10層側溝	大型哺乳類	骨片	2		05-1-1区出土	前期～中期
58-1	第6～11層側溝	大型哺乳類	長骨片	1		05-1-1区出土	前期～中期
183-1	第10層以下側溝	イノシシ	右 上腕骨	逆離上腕骨頭		03-1-3区出土	前期～中期

※ 同一登録番号に骨・歯が1点のみの場合にも枝番を付けている。



写真4 弓弭状骨格器様のイノシシ中手骨



写真5 加工痕のあるイノシシ犬歯



写真6 サメ椎骨



写真7 穿孔のあるイノシシ下顎骨

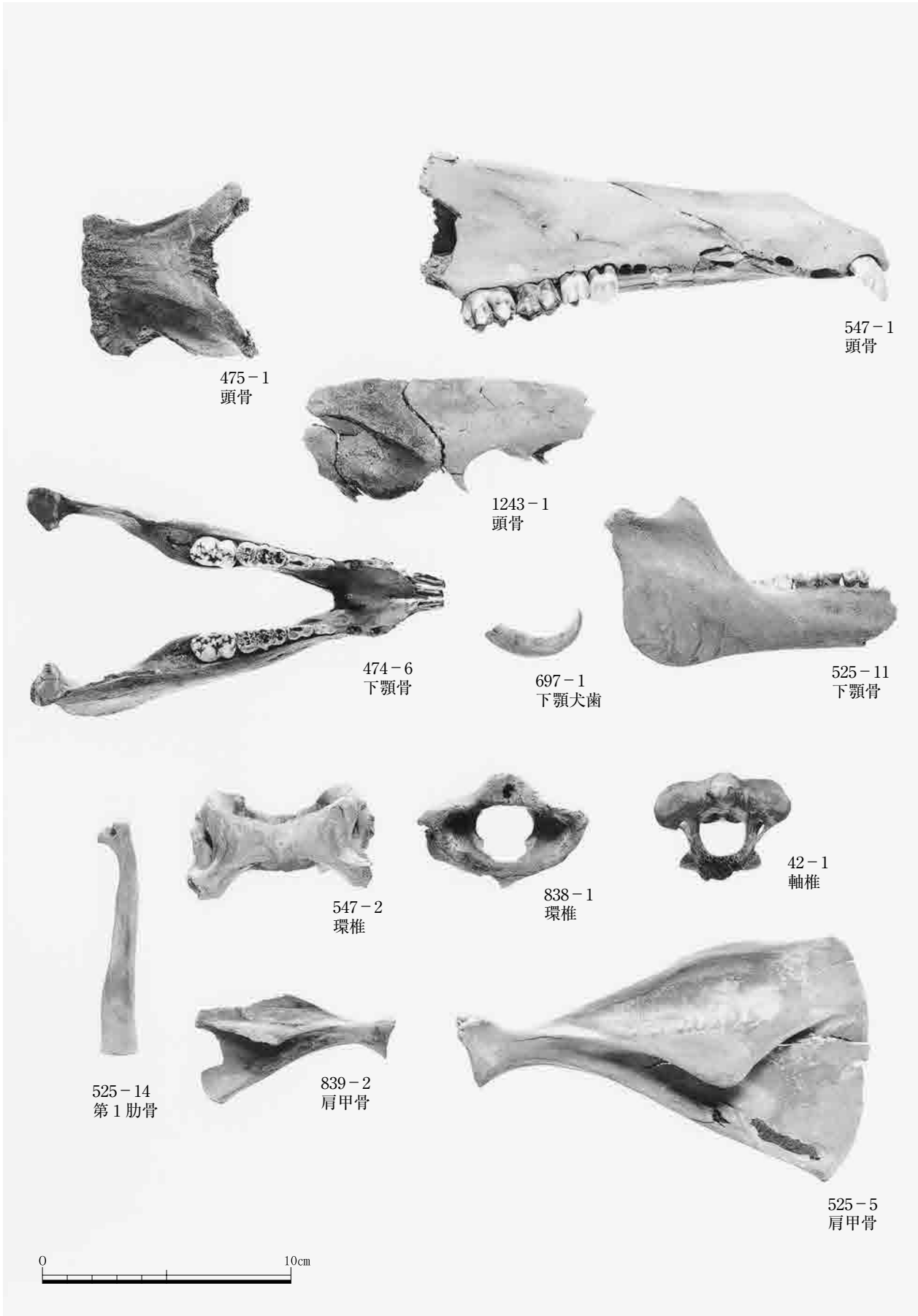


写真8 イノシシ骨(1)

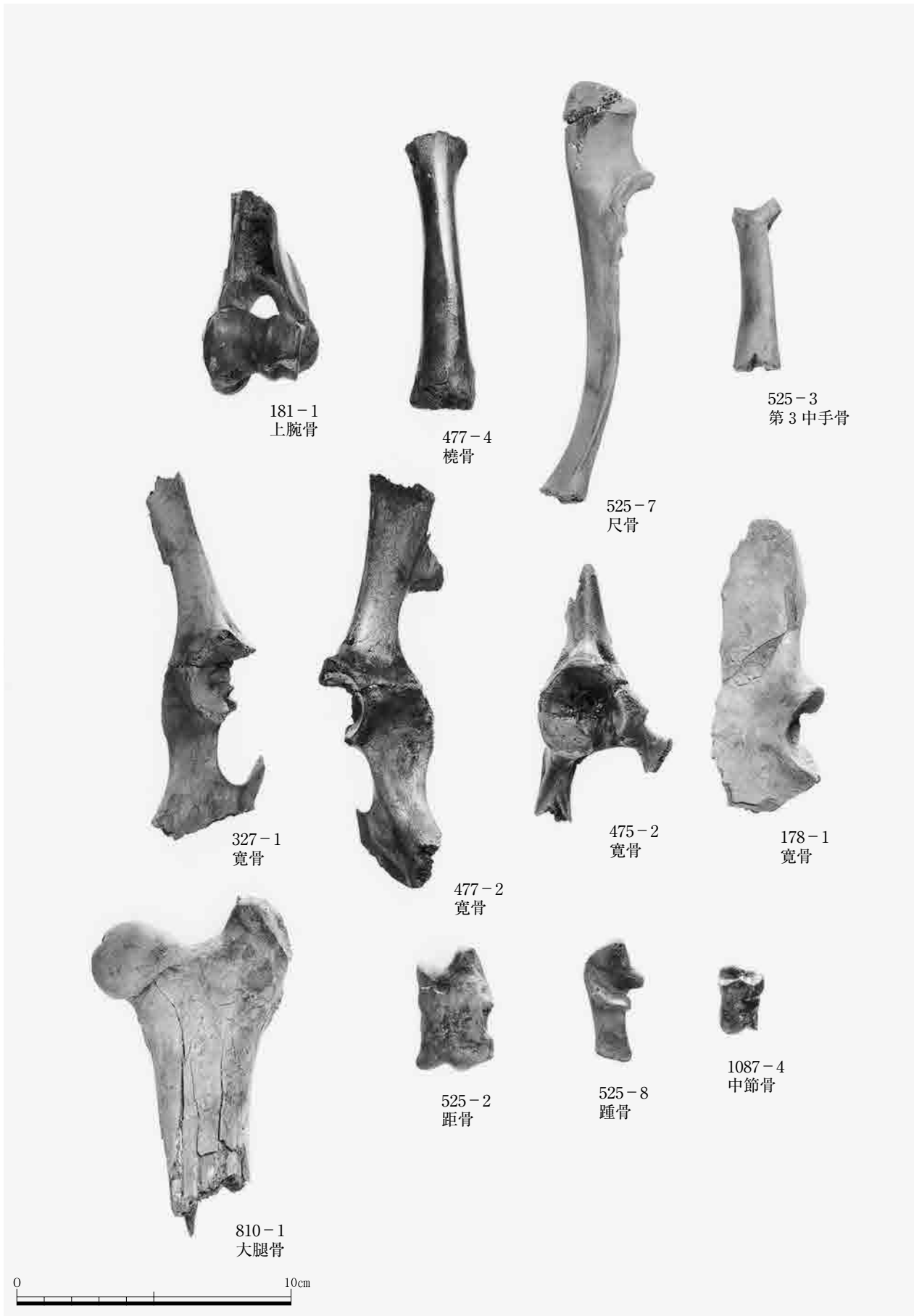


写真9 イノシシ骨(2)

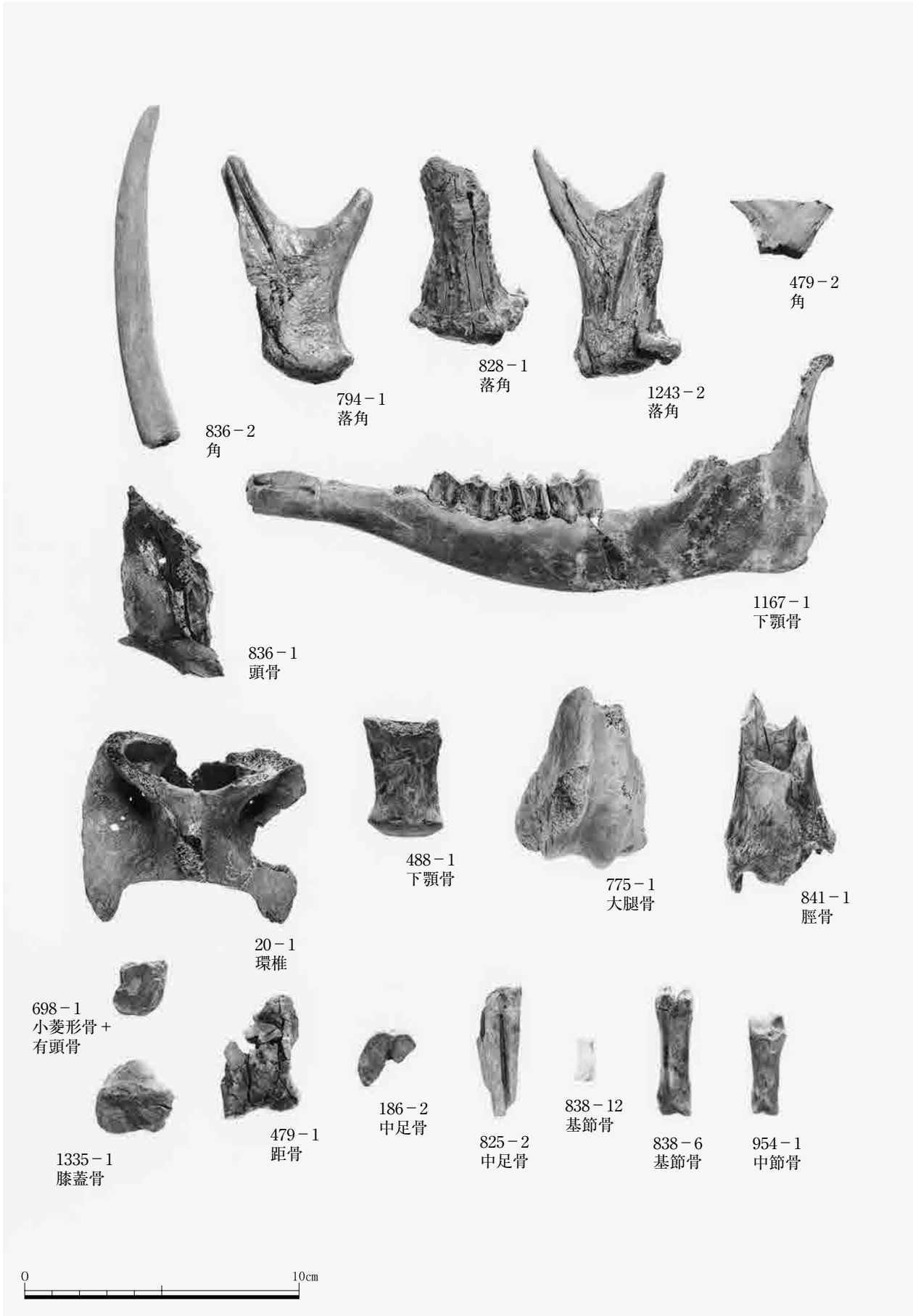


写真10 シカ骨

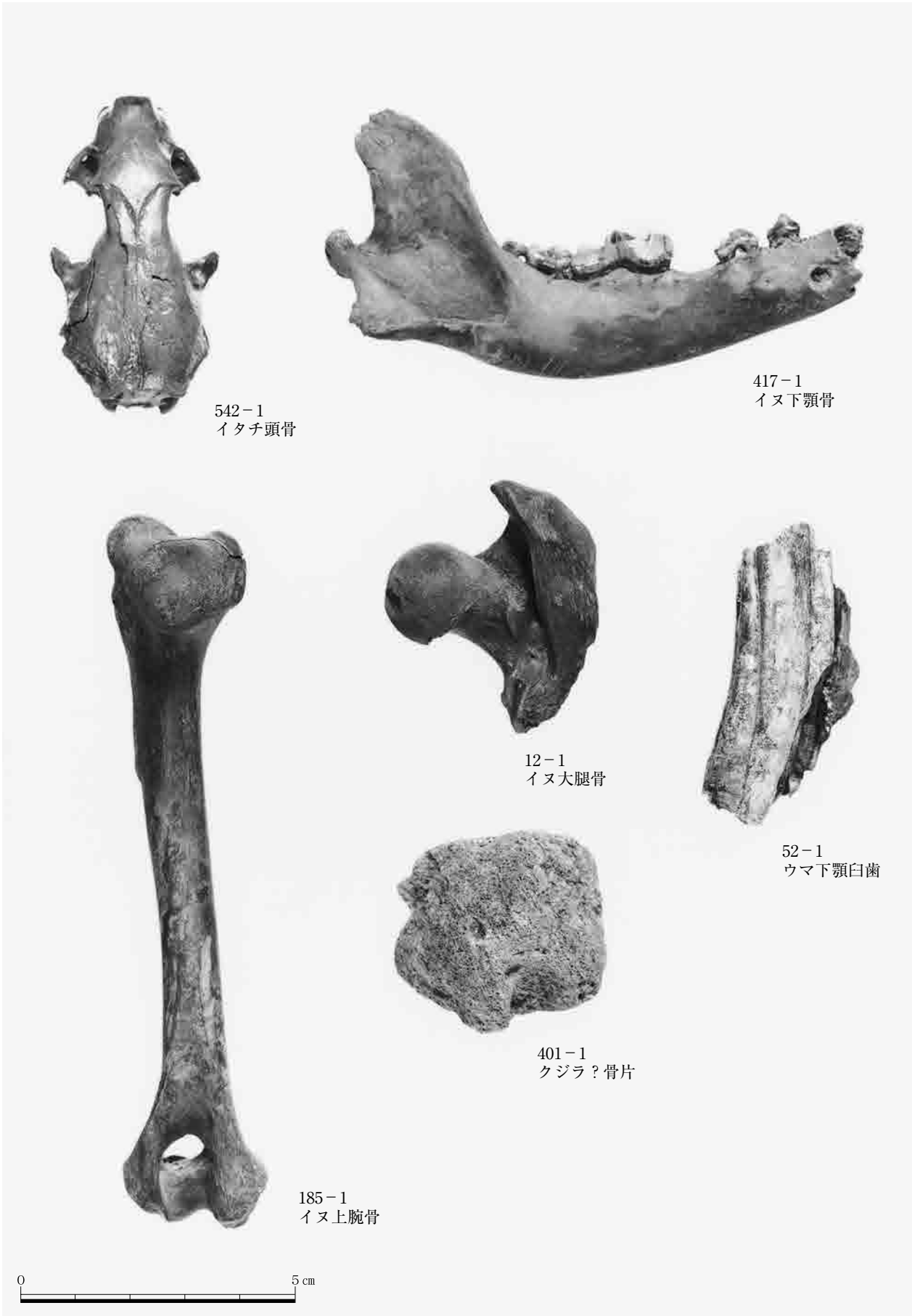


写真11 哺乳類骨

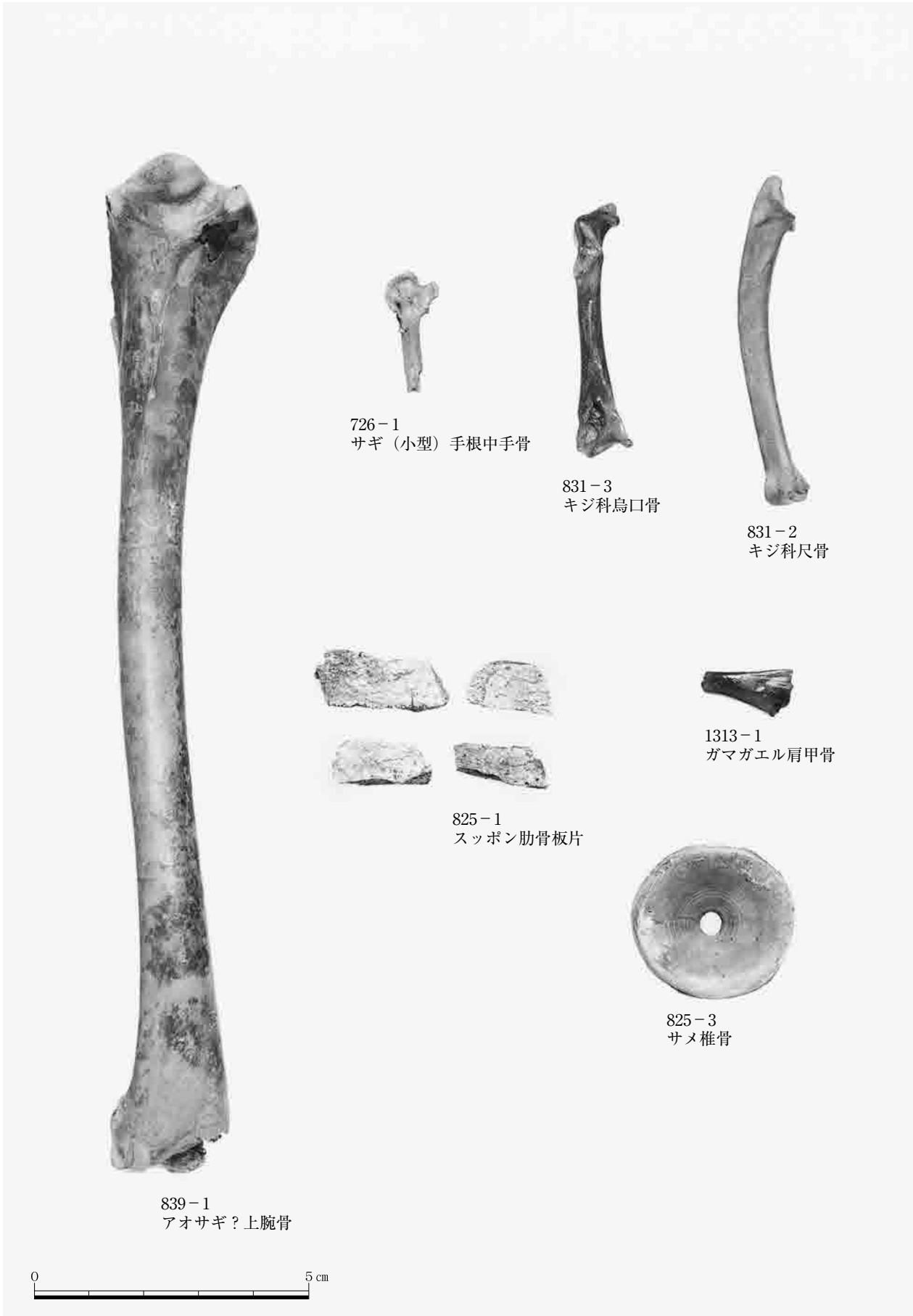


写真12 鳥類、ハ虫類、両生類、魚類骨

山賀遺跡出土の人骨

安部みき子（大阪市立大学大学院医学研究科）

大阪府東大阪市と八尾市に広がる山賀遺跡の弥生時代前期から中期の層から出土した人骨は、発掘された木棺18基のなかから出土した5体と、頭骨のみのものが1体であった。これらの人骨はいずれも保存状態が非常に悪く、年齢の判定ができたものは2体であった。

第8面検出323木棺人骨 骨格の保存状態は非常に悪く、クリーニングができなかったので実測図から埋葬姿勢を判断すると、遺存しているのは下肢のみで、膝関節をゆるく屈曲させている。性と年齢の推定はできなかった。

第9面検出424木棺人骨（写真13～15） 出土した人骨は最小個体数で3体であり、成人2体と幼児である。このうちほぼ全身の骨格が遺存しているものは幼児である。この骨は出土状態が悪く頭骨の輪郭が認められたが頭骨のクリーニングは困難で、歯のみ観察ができた。体幹と四肢骨の保存状態も非常に悪い。埋葬姿勢は、肋骨と胸椎から仙骨にかけてまっすぐに出土しており、胸郭の上に上肢の長骨と思われる骨が左上方から斜め下方に見られる。また右側の下肢は膝関節を強度に屈曲させ、左側もやや屈曲している。

この人骨の乳歯は咬耗が大きく、永久歯は歯冠が遺存している。年齢の推定は第1大臼歯が萌出直後であることより7才前後である

	左										右							
	M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3		
永久歯			●	●	●					●	●	●	●	●			上顎	
乳歯					○					○								
乳歯							○										下顎	
永久歯				●							●	●						

●は咬耗なし、○は咬耗あり

また、この木棺内からは成人のものと思われる左上顎第1切歯が2本と左上顎犬歯、左右の下顎第1切歯が出土している。これらの歯の由来は不明である。

第10面検出431木棺人骨 骨格の保存状態は非常に悪く実測図から判断すると、長骨が1点遺存している以外は全ての骨格は失われている。性や年齢に推定はできなかった。

第9層検出No.693人骨（写真16～18） 頭骨のみの出土で、脳頭蓋の輪郭と歯が遺存している。頭骨は脳頭蓋を上にし、上下の顎骨の歯は咬合している。クリーニングができたのは上顎乳臼歯2本、と下顎乳切歯2本のみである。その他の歯は、取り上げ時に樹脂で固められているため、歯の種類の同定はできなかった。その形状からほとんどの歯が乳歯であり、第1大臼歯の歯冠と思われるものも歯冠の形成が始まったばかりの形状を示していた。

また、観察できた乳歯の歯冠に咬耗は見られず、推定年齢は3才とされる。

その他の木棺墓の人骨は保存状態が悪いため、判定ができなかった。



写真13 424木棺人骨

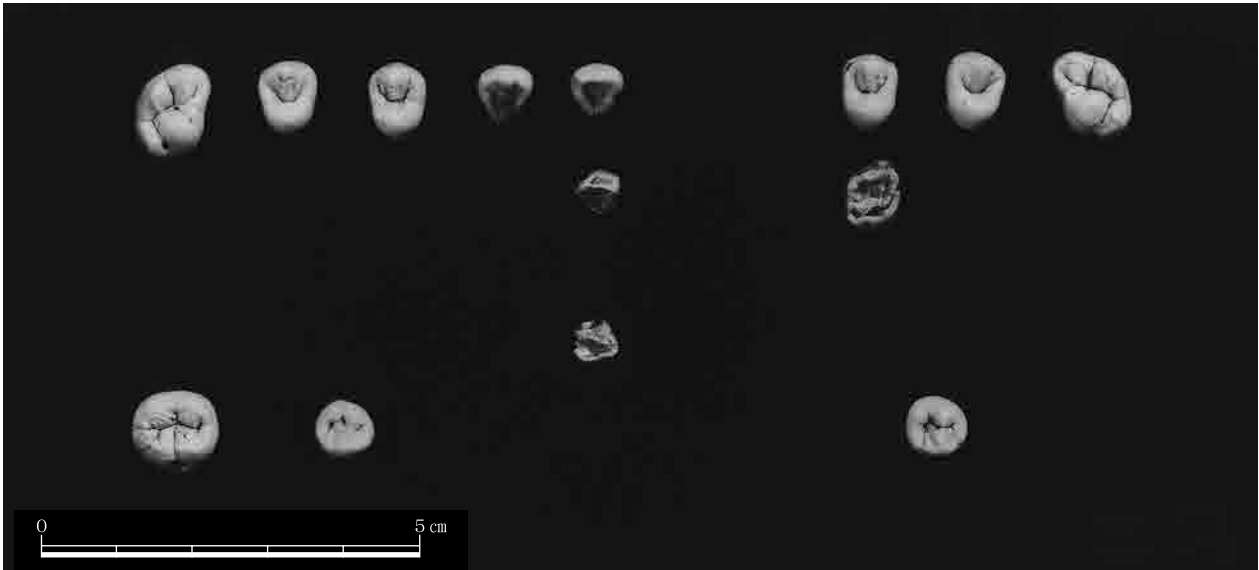


写真14 424木棺の歯



写真15 424木棺に混入した歯



写真16 No.693人骨

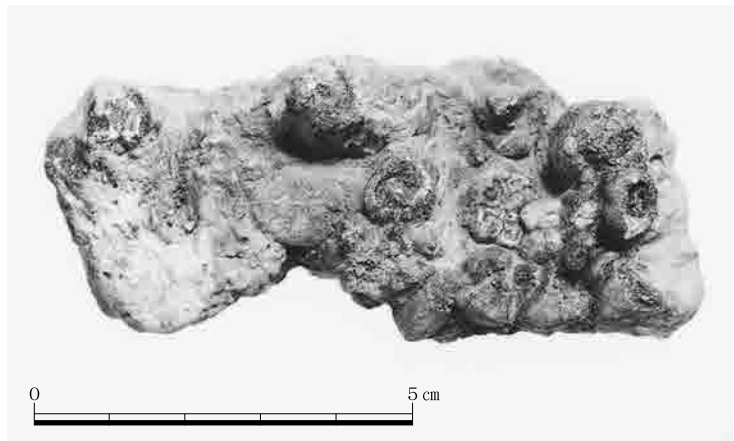


写真17 No.693人骨の歯 (1)

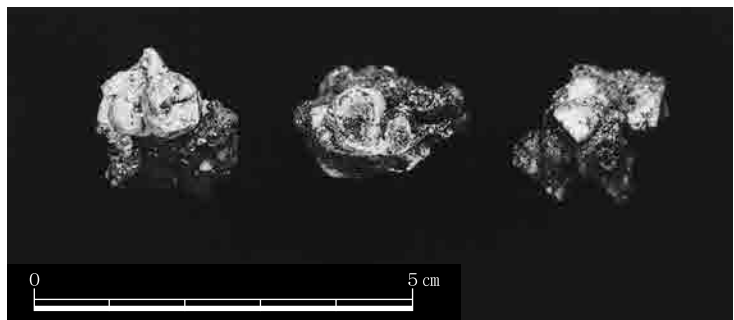


写真18 No.693人骨の歯 (2)

山賀遺跡出土人骨の保存処理

岩立美香

1. はじめに

今回の山賀遺跡の調査では多数の木棺が検出され、そのうち5基からは人骨が出土している。全体的に脆弱で保存状態が良好とはいえない。第9面検出の424木棺から出土した人骨は、形は保っているが取り上げが困難な状況であった。そこで合成樹脂で骨を強化後、土壌ごとに取り上げることを試みた。ここではその過程について報告する。

2. 骨の構造と劣化要因

脊椎動物の骨格は軟骨と硬骨からなり、骨の成分は生体において無機質のリン酸カルシウムと炭酸カルシウム、有機質の蛋白質やコラーゲンで構成されている。

遺跡から出土する骨は、ほとんどの場合、関節軟骨・骨膜・骨髄といった有機質部が微生物により分解され消失している。したがって、硬骨には無機質であるカルシウムが残存することになり、中性～弱アルカリ性の環境下において良好に遺存する。しかし、酸性の環境下ではカルシウムが溶出してしまい、長い年月の間に脆くなり崩壊する。そのため酸性土壌が多い日本では埋蔵中に有機質の分解・カルシウムの溶出を受けて骨が残りやすく、残存しても脆弱化した状態で出土することが多い^{1) 2)}。

硬骨は頭蓋骨のような扁平骨や上腕骨・大腿骨のような長骨、脊椎等の不規則骨などさまざまな形態をしており、強固な骨質である緻密質と梁状の海綿質で構成されている。人骨で遺存率の高い部位は脳頭蓋、下顎骨、四肢骨長骨の骨幹部であり、これらは厚い緻密質を持つ。長骨の代表として上腕骨

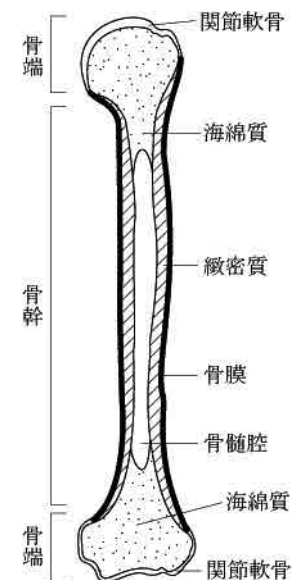


図382 骨の構造（長骨）

の模式図（図382）で示すと、両骨端の関節部は梁状の海綿質が関節の形を作っており、表面を覆っている緻密質は薄い³⁾。それに比べ骨幹部は緻密質が肥厚し、頑丈である。そのため長骨の中でも骨端は遺存しにくく、骨幹部は遺存しやすい。一方、椎骨や肋骨などは全体が薄い緻密質で覆われた海綿質できているため遺存率が低い。

出土後は外気との接触により骨表面に藍鉄鉱（ビビアナイトと呼ばれ、リン・鉄・酸素が化合した灰青色を呈する結晶鉱物）が生成されることがあり、概観が損なわれたり接合に支障をきたす場合にはメス等で除去する場合もあるが、骨が破損する恐れが大きいため慎重に行う必要がある⁴⁾。また、乾燥時に急激に乾燥させると骨の変形や破損を引き起こすので、徐々に乾燥させるように注意する。

3. 424木棺出土人骨概要

424木棺の人骨は今回の調査では唯一全身が確認できる状態で出土した。しかし骨は柔らかく、かろうじて形状を保っている状態であった。出土部位は頭骨・体幹（肋骨・胸椎下部～腰椎・仙骨）・四肢

骨の全身であり、そのうち頭部は先に取り上げられていたので、残りの体幹・四肢骨の取り上げにおいて樹脂強化を行うこととなった（詳しい出土部位は安部みき子氏の「山賀遺跡出土の人骨」を参照のこと）。

4. 保存処理

424木棺出土人骨の現場における合成樹脂強化を行うにあたって使用樹脂を検討した。

文化財全般に広く使用されているアクリル樹脂（パラロイドB72）は非水系であり水分が存在すると白濁するため、水溶性アクリル樹脂（ウォーターゾールS-744）を使用することにした。強化は低濃度から高濃度（5%～20%まで）へ徐々に上げながら塗布・含浸させていき、表面の硬化後取り上げを行った。

水分を含んでいる間は柔らかい骨も乾燥すると硬くなるため、取り上げ後は徐々に骨を乾燥させた。その後、表面の樹脂をアルコールで除去しながら部位ごとに取り上げたが、樹脂を厚く塗布した部分は除去が困難な箇所があった。

このような場合には十分に乾燥させた後、取り上げ試料を反転させて裏面から人骨を取り出す方法が有効であり、骨が丈夫な場合には刷毛や竹串等で少しずつ土を払いながら骨を取り出し、骨が脆い場合や土が硬い場合にはアルコールで土を柔らかくしながら取り上げるとよい。

現場での合成樹脂塗布は骨が脆弱な場合には応急処置として行うことも必要であるが、その後の分析や鑑定に影響することがあるので慎重に行うことが求められる。

5. おわりに

脆弱な出土人骨の保存処理は容易ではなく、まだまだ報告例が少ない。そのため各現場で様々な処置が執られているが確固たる方法が無いのが現状である。今回の処置も応急処置的な面が強く、最良な方法とは言い難いが、今後の検討資料の一つとして報告しておきたい。

本稿の執筆にあたっては大阪市立大学 安部みき子先生より多大なる御教示を賜りました。末筆ながら厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 馬場悠男 編 1998『考古学と自然科学① 考古学と人類学』同成社
- 2) 谷畑美帆・鈴木隆雄 2004『考古学のための古人骨調査マニュアル』学生社
- 3) 木村邦彦 1969『現代保健体育体系18 人体解剖学』大修館書店
- 4) 撫養健至 1996「骨の保存処理の現状と問題点 ―玉櫛遺跡第3次調査出土木棺墓内人骨を例にとって―」『大阪文化財研究』第11号 (財)大阪府文化財調査研究センター
- 5) 加藤嘉太郎 1970『家畜比較解剖図説 上巻』養賢堂
- 6) 山口誠治 1987「考古学への保存科学的アプローチ」『河内平野遺跡群の動態Ⅰ』(財)大阪府文化財調査研究センターほか
- 7) 山中幸子 1991「大阪城跡出土人骨の保存処理について」『大阪文化財研究』第2号 (財)大阪文化財センター
- 8) 西本豊弘・松井章 編 1999『考古学と自然科学② 考古学と動物学』同成社
- 9) 大阪府教育委員会 2006『葦屋北遺跡発掘調査概要Ⅳ ―自然科学編―』

山賀遺跡出土木材の年輪年代

光谷拓実（奈良文化財研究所）

平成16・17年度に実施された山賀遺跡の発掘調査では、弥生時代の木棺が18基出土した。このなかから、年輪年代法が適用可能と思われる木棺材2点、用途不明の板材1点を選定し、年輪年代による年代測定をおこなった。以下にその概略を報告する。

【試料と方法】

年代測定用に選んだ木棺材は、第8面から検出した323木棺の蓋板（コウヤマキ）と第9面から出土した421木棺の底板（ヒノキ）、さらに第6面22溝から出土した不明板材（ヒノキ）の総数3点である。これらは当研究室に搬入、計測のため一部切断し、木口面から年輪読取器を使って年輪幅の計測をおこなった。

年代を割り出す際に基準となるヒノキの暦年標準パターンは、紀元前912年～紀元前94年の818年間分を使用することとした。コウヤマキの基準パターンには、おもに弥生時代の木棺材で作成した697年間分の標準パターン（これには暦年はない）を使用した。3点の出土木材と上記2種類の標準パターンとの照合は、時系列解析に用いられる相関分析手法によった¹⁾。

【結果】

計測年輪数と年代測定の結果は表45に示したとおりである。まず最初に、第6面から出土した不明板材の残存最外年輪の年代は紀元前235年と確定した。これには2.4cmの幅で辺材が残存していたので、この年輪年代は伐採年代に近い年代である。ついで、第9面から出土した421木棺の底板の年輪年代は紀元前472年と確定したが、この材には辺材が残っていなかったため、伐採年代はこの年輪年代を上限とし、これ以降のものであるとしか言えない。

一方、第8面から出土した323木棺の蓋板は、697年間分の年代未確定の標準パターンとの照合の結果、蓋板の年輪パターンの最終年輪が標準パターンの最終年輪から281年遡った年代位置で合致することが判明した。この場合、この使用した標準パターンには暦年が未だ確定していないので、暦年のうえの何年にあたるのかは不明である。しかし、将来、この標準パターンに暦年が確定すれば、この蓋板の年輪年代が明らかになるであろう。いずれにしても、かなり古い年代の木棺材であることが推定される。

表45 山賀遺跡出土木材の年代測定結果

	調査区	検出面	遺構	資料	樹種	年輪数	年代	t値	辺材
1	03-1-1区	第6面	22溝	板	ヒノキ	287	紀元前235年	8.0	2.4cm
2	03-1-2区	第9面	421木棺	底板	ヒノキ	192	紀元前472年	6.7	－
3	03-1-2区	第8面	323木棺	蓋板	コウヤマキ	350	－	5.8	－

参考文献

- 1) 田中琢、光谷拓実、佐藤忠信『年輪に歴史を読む－日本における古年輪学の成立－』、奈良国立文化財研究所学報 第48、同朋舎出版、1990



03-1-1区
第6面22溝の板

(図21-10080)



03-1-2区
第9面検出421木棺底板

(図154-20683)



03-1-2区 第8面検出323木棺蓋板

(図119-20511)
縮尺約1/10

写真19 年輪年代測定試料

山賀遺跡の植物遺体及び木製遺物について

山賀遺跡出土の植物遺体及び木製遺物について報告する。同定分類した植物遺体・木製遺物は、以下の通りである。出土遺体の詳細については、樹種鑑定一覧（表46）で示した。

[裸子植物]

- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| 1.イチイ科 Taxaceae | カヤ <i>Torreya nucifera</i> |
| 2.マツ科 Pinaceae | モミ属 <i>Abies sp.</i> |
| 3.コウヤマキ科 Sciadopityaceae | コウヤマキ <i>Sciadopitys verticillata</i> |
| 4.スギ科 Taxodiaceae | スギ <i>Cryptomeria japonica</i> |
| 5.ヒノキ科 Cupressaceae | ヒノキ <i>Chamaecyparis obtuse</i> |

[被子植物]

- | | |
|----------------------------|--|
| 1.イネ科 Gramineae | マダケ <i>Phyllostachys bambusoides</i>
イネ（炭化米） <i>Oryza sativa</i> |
| 2.ヤナギ科 Salicaceae | ヤナギ属 <i>Salix sp.</i> |
| 3.クルミ科 Juglandaceae | クルミ属 <i>Juglans sp.</i>
ノグルミ <i>Platycarya strobilacea</i> |
| 4.ブナ科 Fagaceae | コナラ亜属 <i>Quercus (Lepidobalanus) sp.</i>
アカガシ亜属 <i>Quercus (Cyclobalanopsis) sp.</i>
クヌギ <i>Quercus acutissima</i>
クリ <i>Castanea crenata</i> |
| 5.ニレ科 Ulmaceae | ニレ属 <i>Ulmus sp.</i> |
| ケヤキ <i>Zelkova serrata</i> | ムクノキ <i>Aphananthe aspera</i> |
| 6.クワ科 Moraceae | ヤマグワ <i>Morus australis</i> |
| 7.タデ科 Polygonaceae | タデ属 <i>Polygonum sp.</i> |
| 8.モクレン科 Magnoliaceae | ホオノキ <i>Magnolia obovata</i> |
| 9.バラ科 Rosaceae | サクラ属 <i>Prunus sp.</i>
ヤマザクラ <i>Prunus jamasakura</i>
モモ <i>Prunus persica</i> |
| 10.トチノキ科 Hippocastanaceae | トチノキ <i>Aesculus turbinata</i> |
| 11.ツバキ科 Theaceae | ヤブツバキ <i>Camellia japonica</i>
サカキ <i>Cleyera japonic</i> |
| 12.ウリ科 Cucurbitaceae | マクワウリの仲間 <i>Cucumis melo.</i> |

ヒョウタンの仲間 *Lagenaria* sp.

13. キク科 Compositae

オナモミ *Xanthium strumarium*

同定結果について

1. カヤ *Torreya nucifera*

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹で、年輪界の早材から晩材にかけての移行が緩やか明瞭で樹脂細胞は確認できず、仮道管内壁に螺旋肥厚が2～3本づつまとまって斜めに存在する。放射組織は単列の放射柔細胞からなり、分野壁孔は小型のヒノキ型で一分野2～6個あり劣化しているものも存在した。以上の形質からイチイ科のカヤと同定した。この材は、宮城県以南・四国・九州の暖温帯に分布する。

2. マツ科 *Pinus* sp.

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹で、傷害樹脂道も出ている。年輪界の早材から晩材にかけてのゆるやかな移行であり、放射組織は放射柔細胞と放射仮道管で構成されている。分野壁孔は窓型で1分野にひとつ見られた。以上の形質からマツ科と同定している。保存状態が悪く種を特定できてない。

3. モミ属 *Abies* sp.

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹で、傷害樹脂道が出ている。年輪界の早材から晩材にかけてのゆるやかな移行で年輪界がはっきりしている。放射組織は単列同性の放射柔細胞で構成されている。分野壁孔はスギ型で、一分野に2～6個含むことを確認した。

以上の形質よりモミ属と同定した。日本に生育しているモミ属は、ウラジロモミ、トドマツ、モミ、シラビソ、アオモリトドマツの5種に分類されているが、どの種もよく似ているので同定には至ってなく、モミのみが本州の冷温帯下部から暖温帯と広く分布している。

4. コウヤマキ *Sciadopitys verticillata*

一科一属一種の日本特産の常緑針葉高木であり、高さ30mになる樹種で、和歌山県の高野山に多く存在することから、この名が付いたと言われている。材には甘い芳香があり、耐朽性と耐水性に優れているため、家の土台や風呂桶などに現在用いられている。

また、年輪界の早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅が狭い。この材の識別ポイントになる分野壁孔の窓状を確認した。放射組織は単列同性の放射柔細胞で構成され、5～6細胞高以下の高さであった。

5. スギ *Cryptomeria japonica*

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹で、年輪界の早材から晩材にかけてのゆるやかなものから急なものの移行の変異があり、樹脂細胞は晩材部付近に多く存在する。分野壁孔がスギ型である。この形質からスギの材と同定した。スギは、本州、四国、九州の冷温帯から暖温帯に分布し、加工が容易で割裂性が高いために多くの木製品に利用されている。

6. ヒノキ *Chamaecyparis obtuse*

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹で、晩材部は少なく年輪界が明瞭で、樹脂細胞が晩材部付近にある。分野壁孔がヒノキ型で1分野に2個存在することからヒノキの材と同定した。

ヒノキは福島以南の本州、四国、九州の冷温帯に分布し、緻密で耐朽性が強く加工が容易である。

特に曲物、建築材等に好んで利用される。

7. イネ (炭化米) *Oryza sativa*

13個体分を検出し、全て炭化している。卵形でやや扁平、長さ4mm、幅2mm短粒型のイネである。

8. ヤナギ属 *Salix* sp.

放射方向に2~3個複合した小型の道管が密に散在する散孔材で、管孔の直径が年輪界に向け減少している。道管の穿孔は単独で道管相互の壁孔は、比較的大きな多角形で、交互状で密に分布し、放射組織が単独異性であることを確認した。この形質からヤナギ属と同定した。ヤナギ属は、日本に2亜属34種があり分類はできていない。

9. マダケ *Phyllostachys bambusoides*

単子葉樹材の組織を示し、維管束が基本組織の中に不規則に散在する不斉中心柱を形成していることを確認し竹材と同定した。木口面を観察すると維管束や維管束鞘と呼ばれる多量の厚壁繊維の組織で保護され、基本組織の細胞を含めてすべての要素が稈軸方向に配列している。竹は本州以南の各地で栽培されており、古く中国より伝えられたと言われているが中新統以後に本州や朝鮮にも化石が報告されている。すなわち、日本に野生があったことも充分考えられる。

10. クルミ属 *Juglans* sp.

中型の丸い道管が、単独あるいは放射方向に2~3個複合し放射方向にまとまって散在する散孔材を確認した。道管の穿孔は単一で木部柔組織は接線状で著しく、放射組織は2列同性の形質により、クルミ属と同定した。この材は、北海道・本州・四国・九州の冷温帯山地の川沿いに植生している。

11. ノグルミ *Platycarya strobilacea*

中型の丸い道管が、単独で1~4列に並び年輪界に大きさが減じる環孔材複合し放射方向にまとまって散在する散孔材を確認した。道管の穿孔は単一で木部柔組織は接線状で著しく、放射組織は平伏細胞と方形細胞の2種類からなり異性で、この形質よりノグルミと同定した。

クルミ科にはオニグルミ属、サワグルミ属およびノグルミ属があるが、オニグルミ属やサワグルミ属が散孔材であるのに対してノグルミ属だけが環孔材である。

12. コナラ亜属 *Quercus (Lepidobalanus)* sp.

年輪界に沿って大型で丸い管孔が1~2層ほど並び、晩材部で小型の管孔が火炎状に配列する環孔材を確認した。道管の穿孔は単一でチロースが見られ、木部組織は接線状で放射組織は単列同性のものと同定した。この材は、カシワ、コナラ、ナラガシワなど多くの種が存在するので属の段階までの同定である。

13. アカガシ亜属 *Quercus (Cyclobalanopsis)* sp.

道管が年輪界に関係なく、放射方向に分布する放射孔材を確認した。道管の穿孔は単一で、木部組織は接線状で放射組織は単列同性のものと同定した。この材は、シラカシ、イチイガシ、カシ類など多くの樹種が考えられるので属の段階までの同定である。

14. クヌギ *Quercus acutissima*

大型で丸い管孔が、年輪界に沿って1~2層ほど並び晩材部で中~小型の丸い管孔が放射状に分布した環孔材で、道管の穿孔は単一でチロースも見られ、木部柔組織は1~3細胞幅の接線状~短

接線状である。放射組織は単列同性のものと同定した。この材の形質は、クヌギとアベマキが存在するが区別しきれていない。クヌギは本州の暖温帯に広く分布し、アベマキは本州中部以西の暖温帯に分布する。

15. クリ *Castanea crenata*

大型の丸い道管が、年輪界に沿って1～2層ならび小型の道管が火炎状に分布する環孔材で、道管の穿孔は単一で時にチロースが見られ、木部柔組織は晩材部で単接線状であり、放射組織は単列同性が存在することから、クリと同定した。クリは北海道・本州・四国・九州の冷温帯から暖温帯にかけて広く分布する。特に平野丘陵部の2次林に多く、実を食用とし薪炭材などに使われている。

16. ニレ属 *Ulmus* sp.

大型の管孔が年輪界に1～2層ならび、そこから小型の小道管が帯状で斜め接線方向に配列する環孔材であり、道管の穿孔が単一、小道管の内壁に螺旋肥厚が見られる。放射組織は、1～5細胞高・同性で、木部柔細胞に大型珠状結晶細胞を確認した。

以上の形質によりニレ属の材と同定した。ニレ属には、ハルニレ、オヒヨウ、アキニレの3種があり、区別するのが困難なため属段階の同定である。

17. ケヤキ *Zelkova serrata*

大型で丸い管孔が年輪界に沿って並び、小道管が多数集まって帯状から斜め接線方向に連なる環孔材で、道管の穿孔は単一であり、小道管の内には螺旋肥厚が存在する。放射組織は1～8細胞幅程の紡錘形異性で、放射組織の上下端や多列部端に大型の結晶細胞を確認しケヤキと同定した。ケヤキは本州・四国・九州の冷温帯から暖温帯に広く分布し、屋敷林や社寺林によく植えられている。

18. ムクノキ *Aphananthe aspera*

中型の厚壁で丸い管孔が単独あるいは放射方向に2～3個複合して散在する散孔材で、道管の穿孔は単一、木部柔組織は連合翼状から数細胞幅の帯状であり、放射組織は1～4細胞幅の紡錘形をした異性が存在することから、ムクノキと同定した。この材は、関東以南・四国・九州・琉球の暖温帯に分布し、強靱な材で葉は研磨用に利用される。

19. ヤマグワ *Morus australis*

大型で丸い管孔が単独あるいは2～3個接線放射方向に数個複合し年輪界に沿って並び、晩材部かでは小さい管孔が集まって斜め方向に複合する環孔材で、道管の穿孔は単一であり、小道管の内壁に螺旋肥厚が存在する。木部柔組織は周囲状で、放射組織は1～7細胞幅異性であることからヤマグワと同定した。この材は、北海道・本州・四国・九州・琉球の亜寒帯～暖温帯の林内及び川沿いの湿潤地に植生する。

20. タデ属 *Polygonum* sp.

畑地や道ばたなどに生える1年草の黒色で強い光沢の種子を検出している。

21. ホオノキ *Magnolia obovata*

小型で薄壁の管孔が単独あるいは数個放射方向に複合して密に分布する散孔材で、管孔の直径が年輪界に向けて減少し道管の穿孔が単一であり、道管相互の壁孔が階段状で放射組織が1～3細胞高・異性であった。以上の形質はモクレン属であるが、モクレン属にはホオノキ、オオヤマレンゲ、シデコブシ、コブシ、タマシバであるが、本遺跡出土材はホオノキの可能性が高いのでホオノキとした。

22. サクラ属 *Prunus* sp.

道管、仮道管、真正木繊維、柔組織と放射組織からなり、木口面での観察では道管がおおむね一様に分布し、単独や数個が放射方向または斜方向に接続する散孔材であることを確認した。道管の穿孔は単一で内壁に細かい螺旋肥厚があり、放射組織は接線方向に単列から5細胞幅まであり、平伏細胞と直立細胞とからなる異性であるがヤマザクラとする根拠に乏しく属の段階までの同定とした。この材の野生種は、主にミネザクラ、ミヤマザクラ、マメザクラ、チョウジザクラなどが知られている。

23. ヤマザクラ *Prunus jamasakura*

丸形単独あるいは数個複合した中～小型の道管が、密に分布する散孔材で、道管内にはゴム状物質が充填され、道管穿孔は単一で内壁に螺旋肥厚を持っており、木部柔組織は散在状で目立たなく、放射組織は同性に近い異性で2～5細胞幅であることからヤマザクラと同定した。この材は宮城・新潟以西・四国・九州の冷温帯～暖温帯に分布する。

24. モモ *Prunus persica*

モモの果実中にある堅い核（かく）と呼ばれる部分を検出した。モモは弥生時代以降おびただしい出土例があり、長崎県の大村湾に面する伊木力遺跡からは、縄文時代前期の小柄なモモが発見されている。今のところこのモモが、日本では最古とされている。また、古墳時代からモモの核は木簡や人形とともに祭祀が行われた場所からよく出土することが知られている。

なお、モモは世界の暖温帯で広く栽培されている果樹であるが、ローマの大プリニウス（AD23～79）により著された『博物誌』にペルシカ・アルボル（ペルシャの木）と記されている。その後、分類学の父ともいわれるリンネは1753年、この木にアミグダルス・ペルシカ（*Amygdalus persica*：ペルシャのアーモンドの意）という学名を与えている。すなわち、ヨーロッパの人々はペルシャ（現在のイラン）をモモの原産地だと考えていた。しかし、1915年にアメリカ農務省のF. N. メーヤーが西安の北方の陝西省と甘粛省にまたがる標高600～2000メートルの山岳地帯に野生種が群生することを報告し、中国が原産の地であることが明らかになったが学名にはペルシャの名が残っている。

25. トチノキ *Aesculus turbinata*

小型楕円の管孔が放射方向に2～4個複合して密に散在する散孔材で、道管の穿孔は単一で道管内壁に螺旋肥厚が存在し、放射組織は単列同性で階段状に配列することからトチノキと同定した。

トチノキは北海道・本州・四国・九州の冷温帯で深山の溪流沿いの肥沃地に植生する。

26. ヤブツバキ *Camellia japonica*

道管は単独ときに各方向に2～4個接続したものが一様に分布する散孔材で、早材から晩材に向かって導管が小さくなり、年輪界に沿って大きい管孔が並ぶ傾向を確認した。道管穿孔は階段穿孔であり内壁に螺旋肥厚があり、柔組織では放射方向に1細胞層の短接線柔組織がおもに晩材部に存在するが、その連結は不規則となっている。ときに結晶を含む細胞がみられるなどヤブツバキと同定した。この材は、切削加工はやや困難であるが施作には適している。

27. サカキ *Cleyera japonic*

道管は単独、接線方向または斜方向に2個、まれに3個接続し多角形をした散孔材で、繊維状仮道管が年輪末端に現れ内壁に螺旋肥厚を伴う、柔組織は柔細胞の形で基礎組織中に散在し、放射組

織は接線方向に1細胞幅で軸方向に1～45細胞高を確認した。異性で両縁1～4層は直立細胞または方形細胞層が混じっていることから、サカキと同定した。この材は建築材、器具材、舟材などがあるが、枝葉は玉串として神事に最も普通に用いられる。

28. マクワウリの仲間 *Cucumis melo*.

本遺跡からマクワウリの灰褐色の扁平な種子を検出している。長さ7mm、幅2mmである。

29. ヒョウタンの仲間 *Lagenaria sp.*

本遺跡からヒョウタンの茶褐色の扁平な種子を検出している。長さ10mm、幅5mmである。

30. オナモミ *Xanthium strumarium*

道ばたや荒地に生える大型の1年草の種子を検出している。オナモミ種子の特徴である刺が残存している。この種子は史前帰化植物で、アジア大陸が原産である。

樹種鑑定・植物遺体から推定される植生と古環境

溝遺構に設置されていた杭類の樹種鑑定からわかってきた古環境について述べる。

コナラ亜属・アカガシ亜属（カシ類）の木が大半を占めることから、遺跡周辺に落葉及び照葉混合林が分布し、そのほかスギ、カヤ、ヒノキなどの林も部分的に分布していたと考えられる。

コナラ亜属の樹木が優先することからナラ林を推定している。なおナラ林にはクリ、カバノキ類やヤマザクラ類などが混じることが知られており、鑑定結果もヤマザクラ、カバノキ科のハンノキを同定していることから肯定できる。

なお、八尾市中央部の玉串川と長瀬川に挟まれた平野部にある山賀遺跡は、二つの河川が近いために度重なる洪水の被害を受けた地域でもあるが、肥沃な土地だったのか水田や集落を幾度となく再生させている地域でもあることが発掘調査で明らかである。

しかし、人里に近いところに森林が存在していたのか河川の治水工事に、ナラ林を大いに利用することにより森林改変も起こったとも考えられる。

また、過去の花粉分析等の結果から、アカガシ亜属を主体とする照葉樹林が形成され、スギ属、コウヤマキ属、マツ属等の針葉樹類が侵入したことも指摘されている。さらには、寒冷要素を示すモミ属花粉は後背地の山地から飛来侵入したと考えられている。

過去の古環境情報では、ヨモギ属が優先する地区もあり、草地が存在したことやサンショウモなども検出されているところから沼沢地の環境も推定された。古気候としては、照葉樹林の周辺植生などから暖帯～温暖帯と変化した温暖な気候であったと推定している。 (山口誠治)

参考文献

1. 大井次三郎、北川政夫、1983. 新日本植物誌 顕花編. 至文堂、東京.
2. 島地謙・伊東隆夫著、1988. 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版

表46 樹種鑑定一覧(1)

図	掲載 番号	面・層	遺構名	品名	種 名	登録 番号	鑑定 No.
03-1-1区							
9	10009	第3層		板	スギ	41	B3
9	10010	第3層		板	スギ	41	B1
9	10011	第3層		田下駄	スギ	41	B2
12	10015	第5層		加工木	コウヤマキ	50	B4
		第6面	20大溝	木A	ケヤキ		A1
		第6面	20大溝	木B	ヤナギ属		A2
20	10075	第6面	20大溝下層	曲柄平鋤or櫛	アカガシ亜属	71	B9
20	10076	第6面	20大溝下層	鋤	アカガシ亜属	71	B6
20	10077	第6面	20大溝下層	礎板	ブナ科	77	B10
20	10078	第6面	20大溝下層	板	ヒノキ	71	B8
20	10079	第6面	20大溝下層	棒	ヒノキ	71	B7
21	10080	第6面	22溝	板	ヒノキ	64	B5
26	10085	第8面	62溝	杭	ニレ属	80	B11
27	10089	第8層		板	コウヤマキ	94	B12
32	10094	第10面	127土坑	浮き	ヒノキ	120	B15
		第10面	127土坑	北東の杭3	アカガシ亜属	134	A158
		第10面	128遺構	東側板	コウヤマキ		A4
		第10層		北坑	コナラ亜属		A3
41	10107	第12層		経巻具?	ヒノキ	104	B13
41	10108	第12層		杭	ヒノキ	105	B14
03-1-2区							
55	20020	第3層		機織?	コウヤマキ	145	B17
		第4面	176溝		ヤナギ属		A5
		第4面	176溝		コウヤマキ	153	A187
		第4面	176溝		スギ	154	A163
		第5面	203溝状落込み		コナラ亜属	205	A159
		第6面		木1	ヤマグワ		A12
		第6面		木2	ヤマグワ		A13
		第6面		木3	ヤマグワ		A14
		第6面		木4	ヤマグワ		A15
		第6面		木5	ヤマグワ		A16
		第6面		木6	ヤマグワ		A17
		第6面		木7	ヤマグワ		A18
		第6面		木8	ヤマグワ		A19
		第6面		木9	スギ		A20
		第6面		木10	ヤマグワ		A21
		第6面		木11	ヤマグワ		A22
		第6面		木12	ヤナギ属		A23
		第6面		木13	ヤマグワ		A24
		第6面		木14	ヤマグワ		A25
		第6面		木15	ヤナギ属		A26
		第6面		木16	ヤマグワ		A27
		第6面	237溝	木杭	スギ	293	A184
		第6面	247溝	木杭	ヒノキ	298	A182
73	20096	第6面	252大溝	杭	ヒノキ	313	B24
73	20097	第6面	252大溝	建築部材	ヒノキ	303	B23
		第6面	252大溝	容器	ヤマグワ		A29
		第6面	277木群	木B	コナラ亜属		A7

表46 樹種鑑定一覧(2)

図	掲載 番号	面・層	遺構名	品名	種 名	登録 番号	鑑定 No.
03-1-2区							
		第6面	277木群	木C	コナラ亜属		A8
		第6面	277木群	木D	ヤマグワ		A9
98	20386	第6面	277木群	剣形or鋏先?	アカガシ亜属	323	B25
98	20389	第6面	278杭群	杭	サカキ	523	B42
98	20390	第6面	278杭群	天秤棒?弓?	サカキ	524	B43
98	20391	第6面	1504杭列	杭A	ムクノキ	287	B22
		第6面	1504杭列	杭C	コナラ亜属		A11
98	20392	第6面	1505杭列	杭D	ヤマグワ	286	B21
		第6面	1505杭列	杭E	ヤナギ属		A10
103	20424	第6面	255溝(下層)	部材(角材)	ケヤキ	456	B33
		第6面	231高まり内	木	ヤマグワ		A32
93	20368	第8層	サブトレ	容器(槽・盤)	ヤマグワ	243	B19
93	20369	第8層	サブトレ	機織? チキリ	コウヤマキ	243	B18
111	20463	第7面	264溝	杓子or皿?	ヤマグワ	370	B31
111	20464	第7面	264溝	板	スギ	370	B29
111	20465	第7面	264溝	板	ヒノキ	370	B30
119	20511	第8面	323木棺	蓋1	コウヤマキ		
119	20512	第8面	323木棺	蓋2	コウヤマキ		
		第8面	323木棺	底板(東)	スギ		A33
		第8面	323木棺	底板(東から2枚目)	スギ		A34
		第8面	323木棺	底板(西から2枚目)	スギ		A38
		第8面	323木棺	底板(西)	スギ		A35
		第8面	323木棺	東木口板	スギ		A36
		第8面	323木棺	西木口板	スギ		A37
122	20524	第8面	302土坑	容器?	ヤマグワ	1205	B72
122	20523	第8面	302土坑	鋤柄	アカガシ亜属	1205	B73
126	20536	第8面	281高まり内	部材	コウヤマキ	567	B44
128	20558	第8面	299高まり内	ヤス1	モミ属	638	B46
128	20559	第8面	299高まり内	ヤス2	モミ属	638	B47
128	20560	第8面	299高まり内	ヤス3	モミ属	638	B48
128	20561	第8面	299高まり内	ヤス4	モミ属	638	B49
128	20562	第8面	299高まり内	ヤス5	モミ属	638	B50
128	20563	第8面	299高まり内	ヤス6	モミ属	638	B51
128	20564	第8面	299高まり内	ヤス7	モミ属	638	B52
128	20565	第8面	299高まり内	ヤス8	モミ属	638	B53
		第8面	299高まり内	ヤス未成品	モミ属	638	B54
		第8面	299高まり内	ヤス未成品	モミ属	638	B55
		第8面	299高まり内	ヤス未成品	モミ属	638	B56
		第8面	299高まり内	ヤス未成品	モミ属	638	B57
		第8面	299高まり内	ヤス未成品	モミ属	638	B58
		第8面	299高まり内	ヤス未成品	モミ属	638	B59
131	20572	第9面	330溝	短脚高杯	ヤマグワ	620	B45
135	20602	第9面	337溝	把手?杓子未成品	ヤマグワ	652	B62
135	20603	第9面	337溝	ヤス	モミ属	649	B60
135	20604	第9面	337溝	弓?	ヒノキ	649	B61
		第9面	337溝		ヒノキ	650	A193
142	20640	第9面	1397溝(上)	高杯	ヤマグワ	285	A28
142	20640	第9面	1397溝(上)	高杯脚部	ヤマグワ	285	B20

表46 樹種鑑定一覧(3)

図	掲載 番号	面・層	遺構名	品名	種 名	登録 番号	鑑定 No.
03-1-2区							
142	20641	第9面	1397溝(上)	高杯脚部	ヤマグワ	472	B36
143	20642	第9面	1397溝(上)	容器	ヤマグワ	521	B39
143	20643	第9面	1397溝(上)	板	スギ	521	B40
		第9面	1397溝(上)	高杯杯部	ヤマグワ	522	B41
		第9面	1397溝(上)	柄? 杭?	ヒノキ	480	B37
147	20675	第9面	1397溝(下)	杭?	ヒノキ	481	B38
		第9面	1397溝(下)		ヒノキ	479	A191
		第9面	1397溝(下)	板	ヒノキ	474	A192
159	20703	第9面	324木棺	北東小口板	コウヤマキ		
159	20704	第9面	324木棺	南西小口板	コウヤマキ		
159	20705	第9面	324木棺	蓋	コウヤマキ		
159	20706	第9面	324木棺	底板1	コウヤマキ		
159	20706	第9面	324木棺	底板2	コウヤマキ		
159	20707	第9面	324木棺	北西側板	コウヤマキ		
159	20708	第9面	324木棺	南東側板	コウヤマキ		
		第9面	325木棺	底板	不明		A49
		第9面	325木棺	南側板	不明		A51
		第9面	367木棺	北の板材	コウヤマキ		A46
161	20709	第9面	367木棺	蓋の上の板	コウヤマキ		
161	20710	第9面	367木棺	蓋	コウヤマキ		
161	20711	第9面	367木棺	北西小口板	コウヤマキ		
161	20712	第9面	367木棺	底板	コウヤマキ		
161	20713	第9面	367木棺	北東側板	コウヤマキ		
161	20714	第9面	367木棺	南西側板	コウヤマキ		
		第9層	420木棺	蓋板	スギ		A59
		第9層	420木棺	底板	スギ		A98
		第9層	420木棺	北東側板	スギ		A97
		第9層	420木棺	南西側板	スギ		A99
		第9層	420木棺	北西小口板	スギ		A100
		第9層	420木棺	南東小口板	スギ		A96
		第9面	421木棺	蓋板	不明		A70
		第9面	421木棺	蓋板	不明		A94
154	20681	第9面	421木棺	北東小口板	ヒノキ		
154	20682	第9面	421木棺	南西小口板	ヒノキ		
154	20683	第9面	421木棺	底板	ヒノキ		
154	20684	第9面	421木棺	北西側板	コウヤマキ		
		第9面	421木棺	南東側板	ヒノキ		A141
		第9面	422木棺	底板	不明		A50
		第9面	422木棺	西側板	不明		A48
		第9層	423木棺	底板	不明		A87
		第9層	423木棺	底板	不明		A95
		第9面	424木棺	底板	不明		A71
		第9層	425木棺	底板	スギ		A47
		第9層	426木棺	蓋板	不明		A45
		第9層	426木棺	底板	ヒノキ		A147
		第9層	426木棺	北西側板	不明		A44
		第9層	426木棺	南東側板	ヒノキ		A43
		第9層	426木棺	北東小口板	ヒノキ		A149

表46 樹種鑑定一覧(4)

図	掲載番号	面・層	遺構名	品名	種名	登録番号	鑑定No.
03-1-2区							
		第9層	427木棺	底板	不明		A40
		第9層	428木棺	南西小口板	スギ		A42
149	20677	第9層	429木棺	北西小口板	ヒノキ		
149	20678	第9層	429木棺	南東小口板	ヒノキ		
149	20679	第9層	429木棺	底板	コウヤマキ		
		第9層	429木棺	北東側板	ヒノキ		A151
149	20680	第9層	429木棺	南西側板	ヒノキ		
		第9層	430木棺	底板	不明		A41
		第9層	430木棺	北西側板	ニレ属		A138
		第9層	430木棺	南東側板	ヒノキ		A136
		第9層	430木棺	南東側版	ヒノキ		A137
		第9層	430木棺	南東側板	ヒノキ		A139
		第9層	430木棺	北東小口板	ニレ属		A145
		第9層	430木棺	南西小口板	スギ		A146
169	20735	第9面	368落ち込み	板	スギ	1206	B74
171	20749	第9面	331高まり内	ヤス	モミ属	754	B65
171	20750	第9面	331高まり内	ヤス	モミ属	760	B66
174	20774	第9層		直柄平鋏(狭鋏?)	アカガシ亜属	818	B68
174	20775	第9層		柱	スギ	673	B63
		第9層		杭12	スギ		A65
		第9層		杭17	コナラ亜属		A55
		第9層		杭20	スギ		A56
		第9層		杭21	サカキ		A57
		第9層		杭23	ヤナギ属		A58
		第9層		炭化材	サカキ		A81
		第9層			トチノキ		A76
		第10面	434溝	板	ヒノキ	732	A195
		第10面	441溝	木A	ヤナギ属		A30
		第10面	441溝	木B	ヤナギ属		A31
		第10面	441溝		ヤマグワ	749	A183
		第10面	441溝	ヤス	モミ属	747	B64
		第10面	441溝(下層)	ヤス	モミ属	1415	B88
		第10面	445溝		ブナ科	1249	A194
		第10面	445溝		ブナ科	1251	A162
185	20826	第10面	445溝(下層)	鋏(隆起部)	アカガシ亜属	1251	B77
185	20827	第10面	445溝(下層)	鋏曲柄(鋏台部)	アカガシ亜属	1251	B76
192	20872	第10面	1014溝	鋏未成品	アカガシ亜属	1275	B79
		第10面	1430溝	杭1	ヤマグワ		A172
		第10面	1430溝	杭2	ヤナギ属		A60
		第10面	1430溝	杭3	ケヤキ		A61
		第10面	1430溝	杭4	アカガシ亜属		A169
		第10面	1430溝	杭5	ヤマグワ		A168
		第10面	1430溝	杭6	ヤナギ属		A171
		第10面	1430溝	杭7	コナラ亜属		A62
		第10面	1430溝	杭8	ヤナギ属		A170
		第10面	1430溝	杭9	ヤナギ属		A63
		第10面	1430溝	杭10	サカキ		A64
		第10面	1430溝	杭11	ヤナギ属		A173

表46 樹種鑑定一覧(5)

図	掲載 番号	面・層	遺構名	品名	種 名	登録 番号	鑑定 No.
03-1-2区							
		第10面	1430溝	サンプル1	サカキ		A80
		第10面	1430溝	サンプル2	カヤ		A77
		第10面	1430溝	サンプル3	コナラ亜属		A79
		第10面	1430溝	サンプル4	ヤナギ属		A91
		第10面	1430溝	サンプル5	アカガシ亜属		A93
		第10面	1430溝	サンプル6	ヤマグワ		A92
		第10面	1430溝	サンプル7	ノグルミ		A78
		第10面	1430溝	サンプル8	ヤマグワ		A89
		第10面	1430溝	サンプル9	ヤマグワ		A90
		第10面	431木棺	底板	スギ		A39
		第10面	431木棺	西側板	ヒノキ		A135
		第10面	431木棺	東側板	ヒノキ		A140
		第10面	804土坑		ヤナギ属	814	A181
		第10面	951土坑	1	ヤナギ属		A104
		第10面	951土坑	2	ヤナギ属		A106
		第10面	951土坑	3	ヤマグワ		A103
		第10面	951土坑	4	ヤナギ属		A101
		第10面	951土坑	5	ヤナギ属		A110
		第10面	951土坑	6	ヤマグワ		A109
		第10面	951土坑	7	ヤマザクラ		A108
		第10面	951土坑	8	ヤナギ属		A107
		第10面	951土坑	9	ヤナギ属		A105
		第10面	951土坑	10	ヤナギ属		A102
		第10面	951土坑	11	ヤマグワ		A52
		第10面	951土坑	12	ヤマグワ		A53
		第10面	951土坑	13	ヤマグワ		A54
		第10面	951土坑	浮子	ヒノキ	954	B69
		第10面	709ピット		スギ	812	A186
204	20900	第10面	444落ち込み	部材(箱?)	ヒノキ	769	B67
205	20909	第10面	442高まり内	ヤス	モミ属	1027	B70
209	20940	第10層		直柄平鋏未成品	アカガシ亜属	1186	B71
		第10層		板	不明		A72
		第10層			ヒノキ	1087	A190
		第10面(下)		板	カヤ		A111
		第10-2面	1016木棺	底板	ヒノキ		A148
		第10-2面	1016木棺	北西側板	ヒノキ		A143
		第10-2面	1016木棺	南東側板	ヒノキ		A144
		第10-2面	1016木棺	北東小口板	ヒノキ		A150
		第10-2面	1016木棺	南西小口板	ヒノキ		A142
		第10-2面	1037溝	西の木	ヒノキ		A66
		第10-2面	1037溝	東の木	スギ		A69
		第10-2面	1197土坑		スギ		A116
		第10-2面	1032ピット		スギ		A84
		第10-2面	1110ピット		スギ	1117	A185
		第10-2面	1163ピット		サカキ	1141	A112
		第10-2面	1165ピット		アカガシ亜属		A83
		第10-2面	1230ピット		コナラ亜属		A82
		第10-2面	1264ピット		ホオノキ		A85

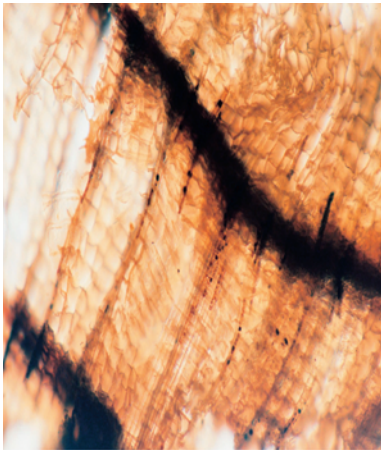
表46 樹種鑑定一覧(6)

図	掲載 番号	面・層	遺構名	品名	種 名	登録 番号	鑑定 No.
03-1-2区							
		第10-2面	1276ピット		ヤブツバキ		A86
220	20964	第10-2面	1304ピット	大柱痕	スギ	1207	B75
		第11面		サンプルーシ	ヒノキ		A67
		第11面		サンプルーす	サカキ		A68
		第11面	1018木棺	北東小口板	ヒノキ		A88
		第11面	1018木棺	北東小口板	スギ		A113
230	20992	第11面	1017土坑	材3	ヒノキ		
230	20993	第11面	1017土坑	材4	ヒノキ		
230	20994	第11面	1017土坑	材6	ヒノキ		
230	20995	第11面	1017土坑	材5	ヒノキ		
230	20996	第11面	1017土坑	材1	ヒノキ		
230	20997	第11面	1017土坑	材2	サカキ		
233	21001	第11面	1324土坑	狭鋏	アカガシ亜属	1271	B78
		第11面	1324土坑		ブナ科		A160
		第11面	1352ピット		ニレ属 2片	1236	A157
243	21029	第11層		板状	アカガシ亜属	1370	B83
243	21030	第11層		高杯脚部	ヤマグワ	1366	B80
243	21031	第11面	1040溝状落ち込み	杭?	スギ	1391	B86
243	21032	第11面	1040溝状落ち込み		スギ	1391	B85
		第11面	1375落ち込み		アカガシ亜属		A114
		第11面	1358ピット	板	アカガシ亜属		A115
252	21071	第11-2面	1400土坑	「垂飾」形木製品	広葉樹	1463	
253	21078	第11-2面	1400土坑	杭	コナラ亜属	1463	B103
		第11-2面	1402土坑		アカガシ亜属	1464	A127
		第11-2面	1404土坑		ヤマグワ	1375	A124
249	21068	第11-2面	1398土坑	斧柄未成品	サカキ	1461	B91
249	21070	第11-2面	1398土坑	板	アカガシ亜属	1461	B92
249	21069	第11-2面	1398土坑	容器(椀?)	ケヤキ	1461	B93
256	21085	第11-2面	1404土坑	高杯未成品	ヤマグワ	1375	B84
258	21092	第11-2層		匙	ヤマグワ	1431	B89
258	21093	第11-2層		杓子未成品	ヤマグワ	1431	B90
		第11-2層			コナラ亜属		A152
		第11-2層			カヤ	1405	A161
260	21095	第11-3層		有孔板材	ヒノキ	1400	B87
		第11-3層			マツ科		A126
263	21100	第12面	1406土坑	鋏未成品(隆起部)	アカガシ亜属	1367	B82
264	21101	第12面	1406土坑	高杯・臼未成品	ケヤキ	1367	B81
		第12面	171溝状落ち込み	容器片?	不明	143	B16
267	21104	第13層		杭	カヤ	1473	B94
		不明		柱	クスノキ	はなまる	B95
270	21124	第5層以下	サブトレンチ	鋏未成品	アカガシ亜属	469	B35
270	21125	第5層以下	サブトレンチ	鋏の肩部	アカガシ亜属	469	B34
270	21126	第6~8層		把手	ヒノキ	332	B28
270	21128	第6層以下	南側溝	ヤス	モミ属	327	B27
270	21129	第6層以下	西側溝	コマ状	カヤ	325	B26
03-1-3区							
		第5面	399杭		クリ		A75
		第5面	400杭		クリ		A73

表46 樹種鑑定一覧(7)

図	掲載 番号	面・層	遺構名	品名	種 名	登録 番号	鑑定 No.
03-1-3区							
		第5面	401杭		サカキ		A74
		第8面	1316溝		スギ	86	A164
		第9面	1383杭	杭	コナラ亜属	143	A180
		第9面	1384杭	杭	コナラ亜属	144	A174
		第9面	1385杭	杭	ヤナギ属	145	A178
		第9面	1386杭	杭	トチノキ		A121
		第9面	1387杭	杭	サカキ		A120
		第9面	1388杭	杭	クリ		A119
		第9面	1389杭	杭	コナラ亜属		A118
		第9面	1392杭	杭	不明	140	A175
		第9面	1393杭	杭	ヒノキ	141	A122
		第9面	1395杭	杭	トチノキ		A117
		第9面	1395杭	杭	トチノキ		A179
		第9面	1396杭	杭	ヤナギ属	142	A177
		第10面	1415杭	杭	クリ		A125
		第10面	1416杭	杭	ヤマグワ		A128
		第10面	1417杭	杭	クリ		A129
298	30086	第10面	1407溝	加工木	スギ	160	B96
298	30087	第10面	1407溝	加工木	スギ	160	B97
299	30090	第10面	1409溝砂層	脚付容器	ヤマグワ	163	B100
299	30091	第10面	1409溝砂層	高杯杯部片	ヤマグワ	163	B98
299	30092	第10面	1409溝砂層	高杯脚部片	ヤマグワ	163	B99
		第10面	1409溝砂層		スギ	162	A166
		第11面	1421矢板列	サンプルA	クリ		A130
		第11面	1421矢板列	サンプルB	クリ		A131
		第11面	1421矢板列	サンプルC	ヤマグワ		A132
		第11面	1421矢板列	サンプルD	クリ		A133
		第11面	1421矢板列	木B	カヤ		A134
		第11面	1424溝状落ち込み	棒(大)	ヒノキ		A154
		第11面	1425溝状落ち込み	棒(小)	ヒノキ		A155
		第11面	1426溝状落ち込み	丸棒	カヤ		A153
		第11層			ケヤキ	1436	A156
		第11層			スギ	196	A165
		第11層			不明	194	A167
			北側溝(西部)		ヤマグワ		A123
05-1-1区							
		第6層		炭化材	アカガシ亜属	49	
		第6面	2004溝	炭化材	コナラ亜属	11	
		第6面	2004溝	炭化材	アカガシ亜属	21	
		第10面	2034ピット		不明		A189
339	40037	第10面	2073ピット		スギ	64	A188
		第10面	2074ピット	炭化材	アカガシ亜属	56	
		第10面	2014高まり内	炭化材	サカキ	42	
340	40046	第11面		?	ヤマグワ	48	B101
		第11層		炭化材	不明	61	

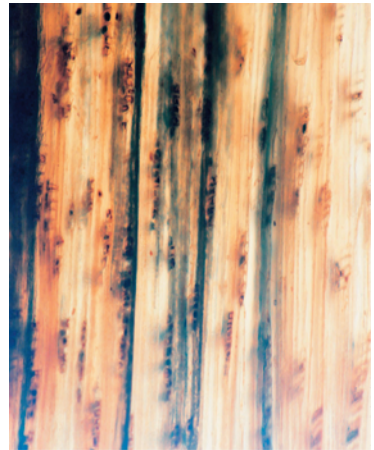
写真20 山賀遺跡出土木製品の顕微鏡写真



スギ 木口面



スギ 柁目面



スギ 板目面



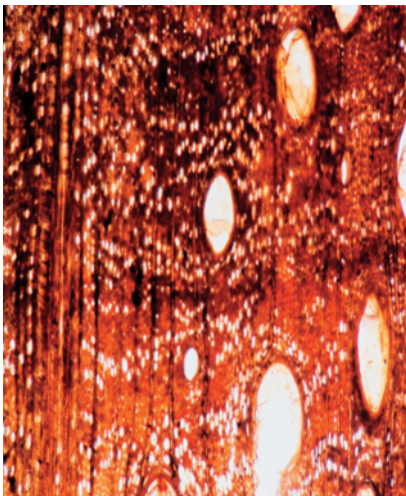
ヒノキ 木口面



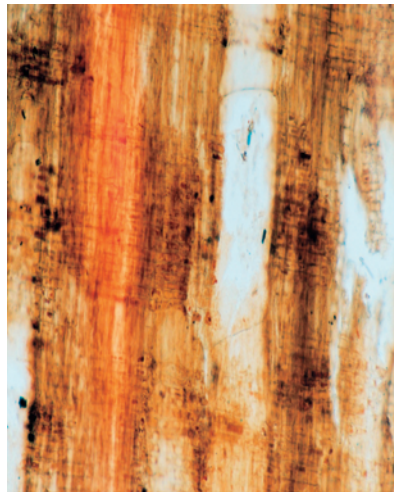
ヒノキ 柁目面



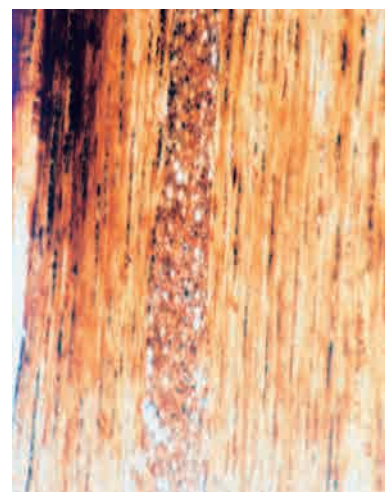
ヒノキ 板目面



アカガシ亜属 木口面



アカガシ亜属 柁目面



アカガシ亜属 板目面

ここに上げた写真は、すべて40倍で撮影した。

写真21 山賀遺跡出土木製品の顕微鏡写真



マクワウリの仲間 種子



オナモミ 種子



炭化米

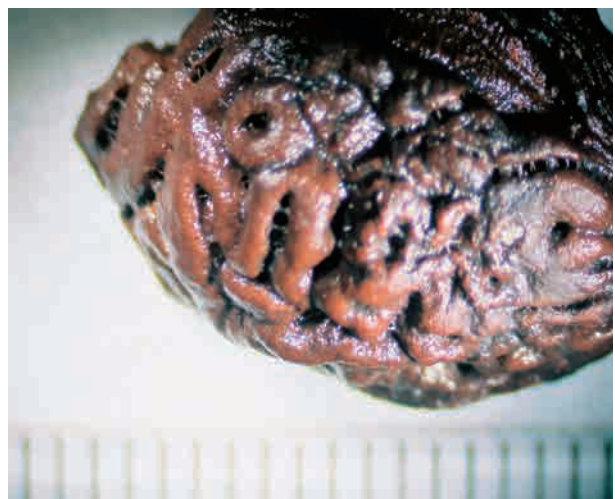


籾付き炭化米



クルミ属の核表面

クルミ属の同定で変形している核も観察している。



モモ核表面

モモは、弥生時代に属するモモとしては小型である。

炭化米も籾が付着した状態で発見されることは少なく、めずらしいのでここに報告した。

山賀遺跡出土黒色物質付着弥生土器についての科学的調査

はじめに

山賀遺跡の整理作業中に抽出された数点の出土土器の中に、弥生時代のものと選定された黒色物質の付着したものがあり、その炭化した物質について科学的調査を実施したので報告する。

さて、遺跡から出土する炭化または黒色化については、科学的に検討されたことが少なく不明な点が多い。炭化物質によっては植物遺体の場合があり、遺跡地の古環境と深く結びつく場合や食物の起源と食糧貯蔵・保存の状況などに大いに影響してくる。なお弥生時代の袋状堅穴土坑の食糧貯蔵で出土する黒色化した米については、中国の元代にかかれた「農書」の記述から解釈されたりもしている。さらに、「炭化」の考えは大きくは燃焼以外には起こらないということと、植物遺体などの出土状況からの自然炭化もありうるとする考えに分かれる。

今回山賀遺跡から出土した黒色物質付着土器の科学的調査方法として、デジタル顕微鏡、赤外分析法、X線回折装置などにより観察・分析して「炭化」とか「黒色物質」について現状の解析を行った。

1. デジタル顕微鏡による黒色物質部分の観察

[デジタル顕微鏡による観察]

出土土器黒色物質部分の拡大写真（25～200倍）

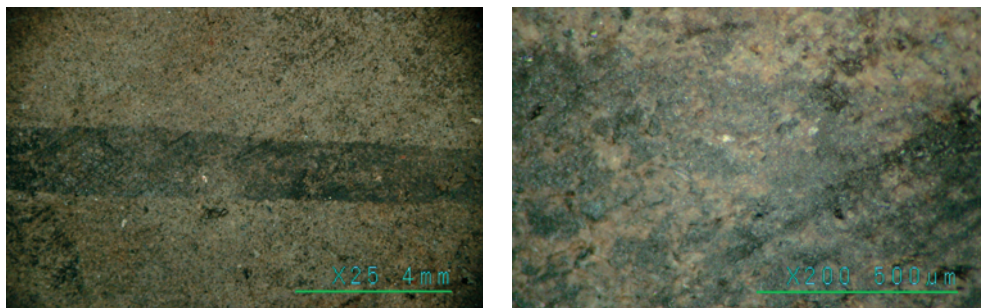


写真22 山賀遺跡03-1-2区第9面1397溝の土器（図145-20655）

粒子の状況などから、墨であれば煤と溶解した膠に若干の香料を練り込んで作られるものであり、松材を燃焼して得られた松煙煤を用いた松煙墨や植物性油・動物性油・鉱物性油を燃やして得られた油煙

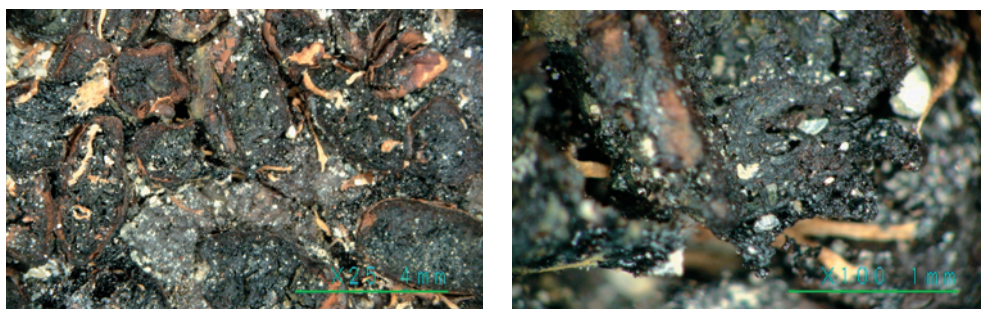


写真23 山賀遺跡03-1-2区第6面252大溝の土器（図70-20072）

煤を使用した油煙墨とに大別できるが、その物証を得ることは顕微鏡観察では困難であった。

20072の土器に関しては、炭化した籾殻の状況が確認できた。

2. 科学的調査

①赤外分析装置による調査

赤外分析法には拡散反射法や全反射吸収法など種々の測定法があり、試料の形態によって測定法を選択する必要がある。今回の場合は、付着している黒色物質の一部を採取し測定するよりも、土器本体を直接測定する全反射測定法（ATR法）を用いた。ATR法は高屈折率のプリズムに試料を密着させ、赤外光をプリズム内で全反射させることによって赤外スペクトルを得る方法である。

今回のように無機物のような屈折率の高い試料の場合には屈折率の異常分散現象によって吸収ピークが一次微分的に歪んだり、吸収ピーク強度に波数依存性が存在することも見受けられたが、無機物質のピーク [$1,500\text{cm}^{-1}$ $2,300\text{cm}^{-1}$ の付近と $3,600\text{cm}^{-1}$ 付近 (Si-OH 伸縮振動)] を得た。

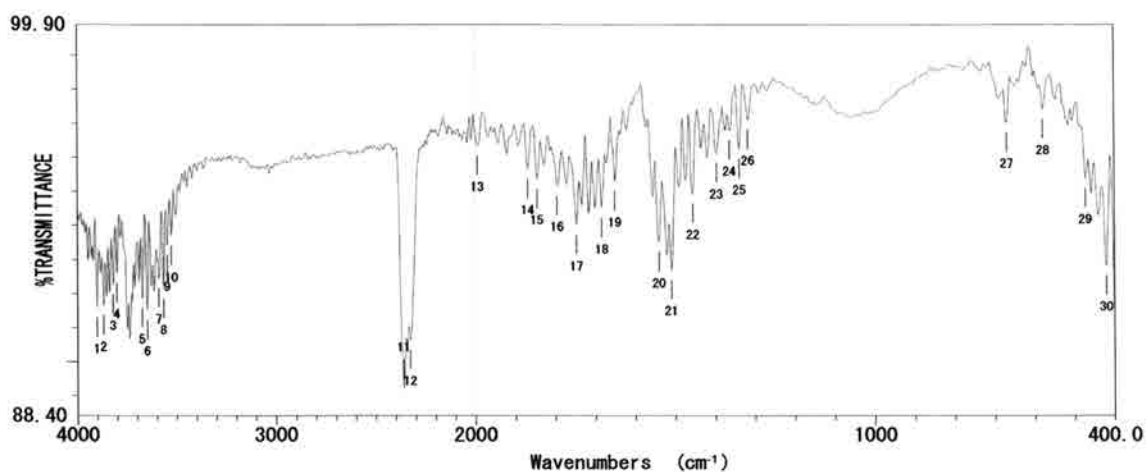


図383 土器（図145 - 20655）黒色物質部分の赤外分析結果

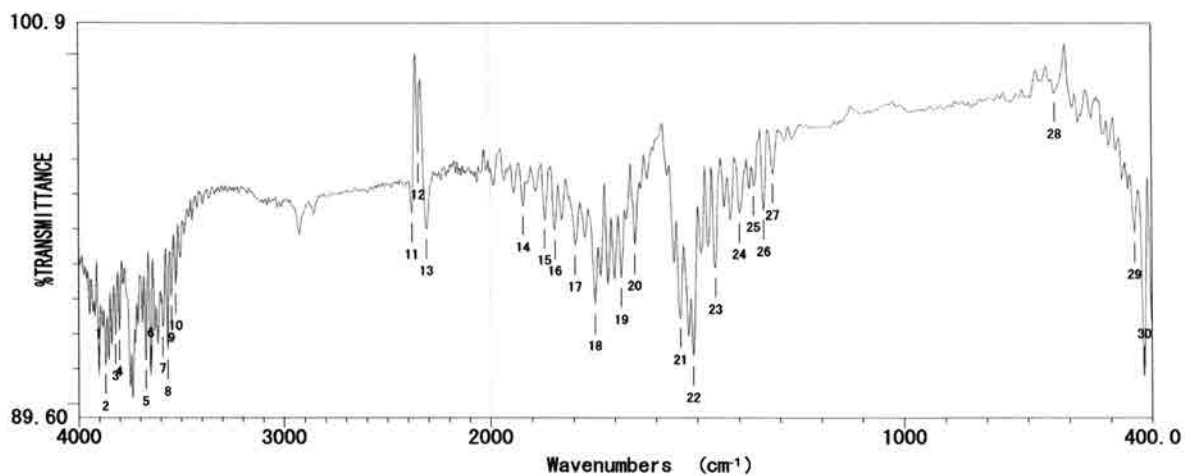


図384 土器（図70 - 20072）黒色物質部分の赤外分析結果

② X線回折装置による調査

X線は波長が極めて短い（振動数が高い）光で、これが物質に入射すると物質中の電子はそれと同じ振動数で強制的に振動させられ、同じ波長の光の発生源となり、X線が入ってきた方向から順番に電子がはじき出される。このとき原子の配置が規則的であると、散乱X線に強め合う方向と弱めあう方向ができ、まるで光の進行方向が折れ曲がったような現象が起こる。

どの方向にどの程度強め合うかという情報（回折データ）から結晶構造を明らかにするための装置がX線回折装置である。

この時の回折データは装置が全自動で測定し、どのような位置に回折が現れるかを調べて単位格子を決定し、うまくいけば空間群（結晶の対称性）も決める。良い単結晶であれば、数百から数千個の回折データがとれ、直接法と呼ばれる方法で統計的に処理して物質の結晶構造を解明する。

土器の表面に付着黒色物質について、表面に特有な黒色物質の構造が形成されていると考えて、その物質構造の原子配列を明らかにするため、X線回折法を用いてデータを得た。

以下測定した回折データを示した。

[X線回折図]

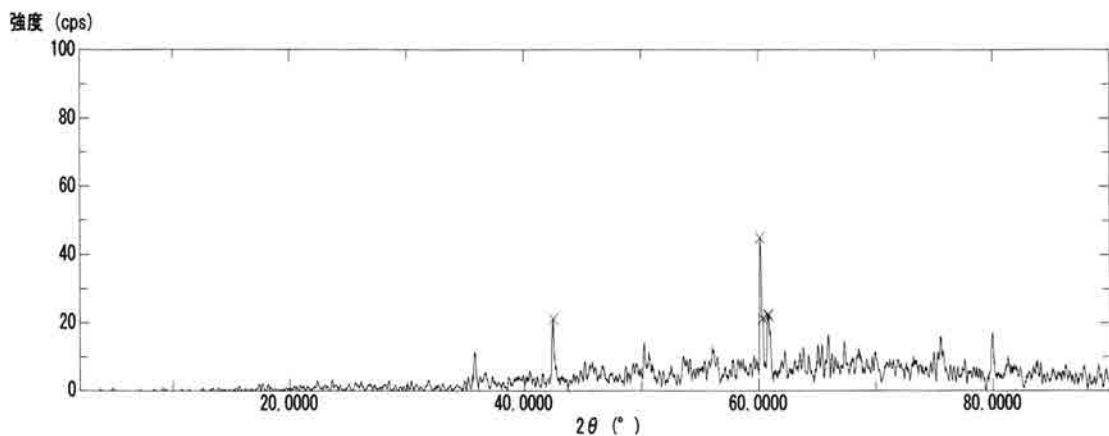


図385 土器（図145 - 20655）黒色物質部分のX線回折結果

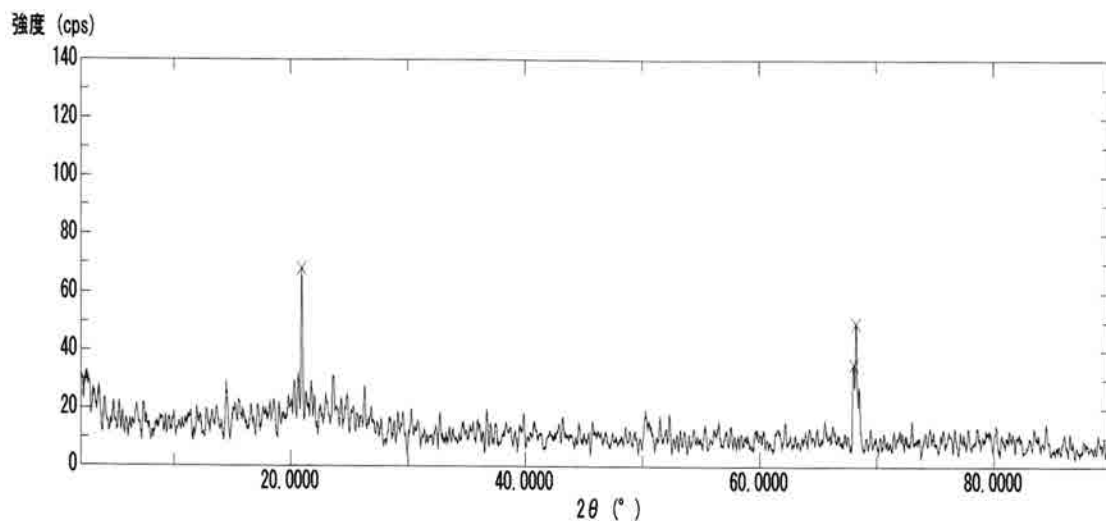


図386 土器（図70 - 20072）黒色物質部分のX線回折結果

表47 X線回折ピークの解析表

ピーク	2θ	ピークサーチ設定幅	d 値	強度	相対強度
20655 - 1	42.460	0.094	2.1272	21	48
20655 - 2	60.140	0.235	1.5373	45	100
20655 - 3	60.360	0.094	1.5322	21	48
20655 - 4	60.800	0.071	1.5222	23	51
20655 - 5	60.860	0.047	1.5208	22	49
20072 - 1	20.940	0.167	4.2388	68	100
20072 - 2	68.060	0.118	1.3764	35	52
20072 - 3	68.260	0.141	1.3729	49	73

この回折データから黒色物質の結晶構造を明らかにするために、数値解析を行った。その結果、黒色物質と考えられる炭素のX線回折によって、ダイヤモンド構造からグラファイト構造である六方晶などの構造を明らかにできる。しかし、今回行った回折結果からは炭素の完璧な結晶構造を明らかにできなかった。赤外分析や形態観測などの結果も含めて総合的に検討すると、有機物の炭化であると判断した。なお、有機物を不活性雰囲気下1000℃程度まで加熱すると、炭素以外の原子の多くは一般に消失する。

1000℃までの加熱は考えづらいので、この土器付着黒色物質を観察するに限り、有機物質の熱分解過程における炭化と結論付けることとした。

まとめ

黒色土が付着した土器など、表土等の黒土に由来するのではないかと考えられ、調査後も数回にわたる超音波洗浄器による水洗が行われ、付着量が微量で何に由来するものか判明しない場合など「黒色物質」と曖昧な呼称となる場合が多い。

今回の場合には、出土時点から黒色化した植物遺体が観測されており、植物遺体の同定をすべきであると考えられていた。幸いにして、穀類の炭化状況が観察できたのと、籾殻の形態を残して炭化していたため、イネ科の黒色物質であると確認した。穀類以外にも堅果類やその他の木本類・草本類などもあり多岐にわたる。そのため、植物性黒色物質は種・属・科など不明植物遺体と同定される場合も多い。

さらに、墨書土器のように見た目でも墨が付着している時には墨と確認できるが、目視だけでは判断できない場合もある。今回の土器（図145 - 20665）がその例であった。

この土器をデジタル顕微鏡で拡大観察することにより、墨書土器の場合には膠などの樹脂光沢を確認できたが、20665の土器は樹脂光沢を確認できなかった。これを持って墨付着ではないと言えないので、X線回折分析を行った。X線回折の結果を元にして、有機物質の熱分解過程における炭化と推定した。

なお、遺跡地内では植物遺体や微生物遺体が土壌中で微生物による分解を受け、その分解産物から科学的・生物的に合成された暗色の高分子有機酸の混合物（黒色物質）になり、分子量・酸性官能基のpKa値（酸性度）ともきわめて多様性が高くなる。

この現象は多くの生体高分子と異なり、合目的性をもって合成された物質群ではない腐植物となる。すなわち、微生物の利用残渣となる。腐植の効用は古くから知られているが、腐植の科学的実体はまだ

第9章 分析

よくわかっておらず、微生物作用及び純科学的作用で重縮合がくり返され、複雑な構造をもった物質に変化する。そのような、腐植も考えられたが、有機物の燃焼による熱分解過程における物証を科学的調査で明らかにした。

さて、陸上生物圏の大部分の炭素は、光合成により森林などの植物の体として固定されているが、枯れたりして腐食土壌の中で還元性の微生物によって分解されている有機物になる。陸上生物圏には、動植物の成長や捕食、枯死、分解によって循環している分としての炭素は、およそ610億トンあると推定される。

土壌中には、容易には循環しない有機物の形（完全に分解されると二酸化炭素になってしまうので、分解されずに還元状態として、植物なら泥炭のような状態）で1兆6千億トンにもものぼる大量の炭素が蓄えられていると見られる。凍結した土壌や泥炭（PEAT）の形で貯蔵されている炭素は、乾燥（降水量の減少、蒸発量の増加）が進むことや気温の上昇により、大気中に二酸化炭素を放出する可能性もある。

このような地球環境システムなどを考慮する時などの一助となる黒色物質は、今後大切な試料となるであろう。単に土器に付着した物質が、過去の歴史を物語ると思うと、土器洗浄や整理段階での土器観察は、一番大事な基礎作業として重要である。

謝辞

本調査は奈良大学文化財学科の分析装置を借用させて頂いた事、同時に御指導・助言を頂いた西山要一教授、奈良大大学院辛長河氏、山賀遺跡担当本間元樹技師、向井妙専門調査員の方々の協力で纏め上げたものであり、ここに記して深く感謝の意を表わす次第である。 (山口誠治)

参考文献

1. 石崎信男 1993 「炭素は七変化」 株式会社研成社
2. 蔭山誠一 1999 「炭化米は本当に炭化したのか」 大阪大学考古学研究室10周年記念論集 p127-147
3. 白石稔、大谷朝男、京谷隆、山田能生 2002 「Cの科学と技術-炭素材料の不思議-」 株式会社コロナ社

山賀遺跡出土「垂飾」形木製品の複製品製作

森田拓馬

山賀遺跡出土「垂飾」形木製品の型取りを行い、3点の複製品を製作した。
製作に関する作業手順は大きく以下の通りである。

- ①資料観察・清掃
- ②箔貼り・分割線設定
- ③シリコーン作業
- ④型外し・資料清掃
- ⑤樹脂製品製作
- ⑥彩色作業
- ⑦カットモデル製作

上記の各項目について、写真をまじえて簡単に説明したい。

①資料観察・清掃

型取りを行う木製品の状態を実際に確認する。型取り作業は資料の汚染や破壊に繋がる危険を持っているので、事前に資料を扱う上での注意点や危険な個所を確認しておく。資料の材質・構造・強度はもとより、加工痕のような製作方法を探る上での情報も認識しておかなければならない。資料に力がかからないよう型取りを行うためには、型を複数に分割できるように製作しなければならない。型の分割線（パーテーションライン）をどこに配置するのが、最も安全で資料情報を損なわないか考えながら資料観察を行う。

今回の木製品は保存処理前の状態で、乾燥するとひび割れが発生し破損の恐れがあったため、資料観察も水に浸けながら行った。また、一部清掃が不完全な状態だったため、観察と同時に資料清掃もさせていただいた。それにより開口部の中側が当初の認識よりも強度を持っている事や、左右側面の窪みと考えていた箇所に通した穴が開いていることが新たに判明した。これらは当初想定していなかったが、新しく発見された情報も可能な限り複製品に反映させる方針の下、慎重に作業を進めた。

②箔貼り・分割線設定

清掃作業完了後、資料表面に4ミクロン厚の錫箔を貼った。シリコーンゴムの油脂分が資料を汚染するため、このような錫箔で表面を覆ってやり保護膜を形成する。(写真24)

資料観察中に位置を決めた分割線（パーテーションライン）に沿って、油粘土に資料を埋め込む。
今回は「表面」「裏面」「開口部」の3パーツに分割して型取りを行うこととした。(写真25)

③シリコーン作業

資料にシリコーンをかけて型取りを行う。今回は「積層法」と呼ばれる方法を採用した。

積層法とはシリコンゴムを薄く塗りつけ、その裏側に石膏やFRP（ガラス強化樹脂）などで補強する方法である。もう一方の「注型法」という方法と比べ、型完成後に型を外す圧力が資料にかかりにくい方法なので、作業工程は複雑になるが積層法を採用している。

シリコンゴムを薄く2層塗った後、ガーゼのような繊維質の布を含浸してシリコンゴムの強度を出し、さらに石膏で補強を行った。(写真26、27)

1面のシリコン型が完成したら分割線の油粘土を取り除き、残った部分の型取り作業に移る。今回は型が3パーツで構成されるため、再度油粘土で分割線を設定し、シリコン作業を行う。

④型外し・資料清掃

シリコン型を補強する石膏が完全に硬化したら、型を外して資料を取り出す。型を外す作業が最も資料を破損させやすい工程なので、特に慎重に行う。まず石膏製の補強材を全て外し、その後シリコン型を少しずつ剥くように資料からはがしていく。(写真28)

資料保護のために貼った錫箔は多くの場合シリコン型にくっついて剥がれてくるが、一部で資料に付着したままになることがある。資料を傷つけないように竹串やピンセットで取り除く。木製品は乾燥させるとヒビが入り割れる危険もあったが、錫箔で密閉され、更にシリコンゴムで密閉された状態だったため、水分を保った状態で型から外すことが出来た。

以上の作業でシリコン型が完成する。(写真29)

⑤樹脂製品製作

完成したシリコン型から樹脂製品を製作する。あらかじめ製品用の樹脂は顔料を使い、資料に近い色に調色しておく。今回は黒色の樹脂を用意した。シリコン型3パーツにエポキシ樹脂を塗り、ガラス繊維で強化した。最後に3パーツのつなぎ目部分に粘度の高いエポキシ樹脂（ガラス繊維入り）を接着剤代わりに塗りつけて型を組み合わせる。複製品3点のうち2点には、X線撮影した画像を参考にして側面の貫通穴を模式的に表現してから型を組み合わせた。(写真30、31、32)

組み合わせた型の中で樹脂が完全硬化した後、型を外して樹脂製品を取り出す。(写真33)

取りだした樹脂製品のつなぎ目部分にある「バリ」を削るなど整形作業を行う。バリが大きかったり厚みがある樹脂製品は、資料の形状を正確に反映していないので処分した。樹脂製品はシリコン型からは6点以上作りだし、その中なら状態の良いものを3点選び出して彩色作業に取りかかる。

⑥彩色作業

エポキシ樹脂は表面に油脂分が付いていることが多く、そのまま彩色作業で色を塗っても色落ちしやすいため、全体をアセトンやプレソルベントなどの有機溶剤で洗浄する。

その後ラッカー塗料用の下地剤を塗布して色の定着性を高めてから、ラッカー塗料で全体の大まかな彩色を施す。仕上げは実物資料を側に置き、また既に撮影されていた遺物写真も参考にしながら、アクリル水彩絵具を使用して彩色を施した。(写真34) 以上の段階を経て、複製品が完成する。(写真35)

⑦カットモデル製作

資料はX線写真によって側面の貫通穴や開口部の穿孔痕が確認されたが、表面からでは観察しにくい。

そこで今回の複製品製作用のシリコン型を有効活用し、内部の状況を表現した樹脂製品の製作を試みた。

側面の貫通穴や開口部の10か所の穴はX線写真などを元にした想定復元だが、資料の分割状態を表現した「垂飾」形木製品カットモデルの製作に至った。復元表現をした部分には、茶色のアクリル水彩絵具で着色している。これら着色部分を除く表側や裏側、開口部の形状は複製品と同程度の精度を持っている。(写真36)

想定復元を施した部分がある以上、このカットモデルは完全な複製品とは言えない。だがシリコン型で作られた樹脂製品であれば、実物資料では出来ない内部の表現も可能としてくれる。出土遺物の公開や活用が求められる現在において、教育普及教材の製作にも型取り技術が有効活用されることを期待したい。

最後になりましたが、複製品製作に有効な資料や情報、安全な作業環境を提供して下さった大阪府文化財センター中部調査事務所の皆様に感謝いたします。



写真24 箔貼り完了

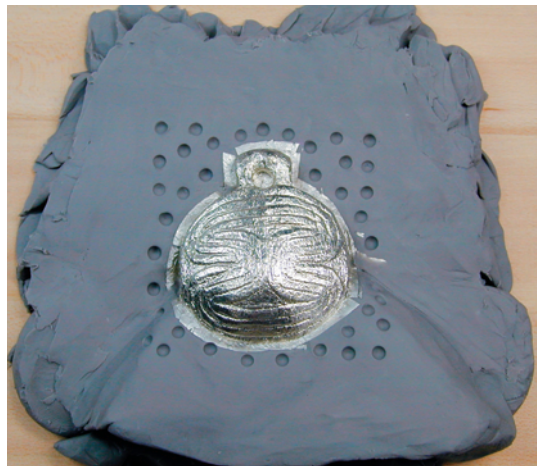


写真25 粘土で分割



写真26 シリコン作業

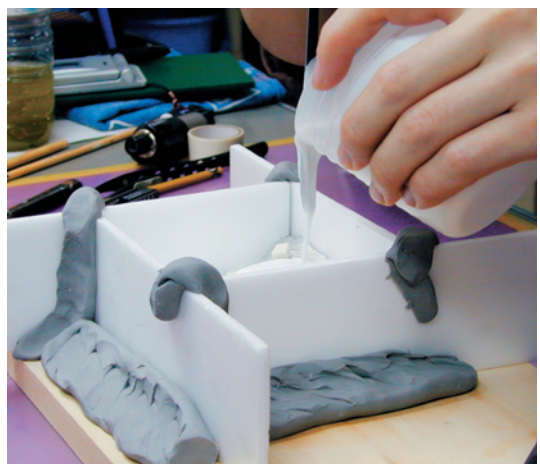


写真27 シリコンの補強



写真28 資料取り出し



写真29 シリコン型完成



写真30 樹脂の塗布

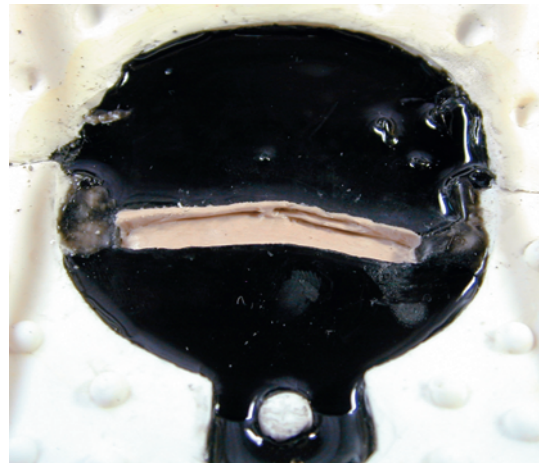


写真31 貫通穴の復元

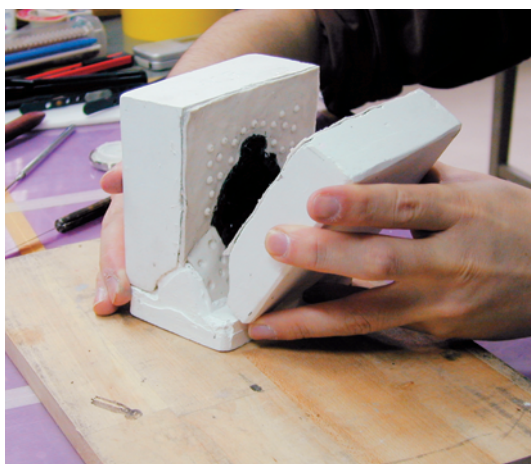


写真32 型合わせ



写真33 製品取り出し



写真34 彩色作業



写真35 複製品完成



写真36 カットモデル

第10章 まとめ

第1節 遺構の変遷

今回の調査は八尾市新家町5丁目における調節池建設に伴うもので、調査対象の2921㎡を、03-1-1区(排気塔部 307㎡)、03-1-2区(本体部 2272㎡)、03-1-3区(給気塔部 267㎡)、05-1-1区(発進立坑部 24.3㎡)、05-1-2区(圧送管部 50.5㎡)の5調査区に分割して発掘したものである。

各調査区で、古代(第1面)、古墳時代後期(第2面)、古墳時代後期～弥生時代後期(第3面)、弥生時代後期(第4・5面)、弥生時代中期前半(第6～10面)、弥生時代前期(第11～13面)、さらに下層の縄文時代後期の遺物包含層まで13～18面を調査した。

溝、木棺、土坑などの遺構総数は1520以上。出土遺物は約700コンテナ、おおよその点数で示すと、土器類126500片、金属製品6点、石製品・石3000点、木・木製品350点、種子・実70点以上、焼土塊8点、計130000点以上と骨・歯数百点に及ぶ。

なかでも大きな調査成果は、弥生時代前期後半～中期前半溝群の検出である。これらの溝は、西南西～東北東を主軸とし、数条が平行して延びている。さらに、溝間には盛土による堤が築かれており、同時期の木棺、土坑、ピットなども検出した。

以下、遺構の変遷を時期順にたどる。

縄文時代後期(第13層)

03-1-3区で北辺側溝を掘削した際、第13層から、縄文時代後期末の宮滝式土器が21個体分以上折り重なるように出土した。遺構に伴うものではないが、今回の調査では最も時期の遡る土器である。

弥生時代前期中頃～後半(第13面～第11面)

第13面は、第12層の黒色土壌化層を除去した青灰色シルト～粗砂層の上面である。03-1-1区東部、03-1-2区中央部、03-1-3区東部でのみ検出できた。他の部分では、調査限界のT.P.+0.0mよりも下にもぐる。検出できた範囲での面の高さはT.P.+0.0～0.9m。遺構としては、03-1-3区で土坑2基を検出したのみである。

第12面は、黒～オリーブ黒色のシルトを主体とする土壌化層の上面である。検出範囲は第13面とほぼ同じ。検出できた面の高さはT.P.+0.0～1.1m。溝や土坑を少数検出した。

第11-3面は、03-1-2区北部から03-1-1区西部に分布する粗砂層の上面である。面の高さはT.P.+0.2～0.8mで、ゆるやかに起伏している。自然地形であり、検出遺構はない。

以上の各面は、未だ人間が積極的に開発をしていない面である。

第11-2面は、第11層中に薄く堆積した植物遺体層の上面である。面の高さはT.P.+0.4～0.9mで、南側が高い傾向にある。溝や土坑に加え、ヒトや蹄類の足跡も調査した。

03-1-2区の南東部に位置する1400土坑からは、前期後半の弥生土器などとともに、類例のない「垂飾」形木製品を検出した。

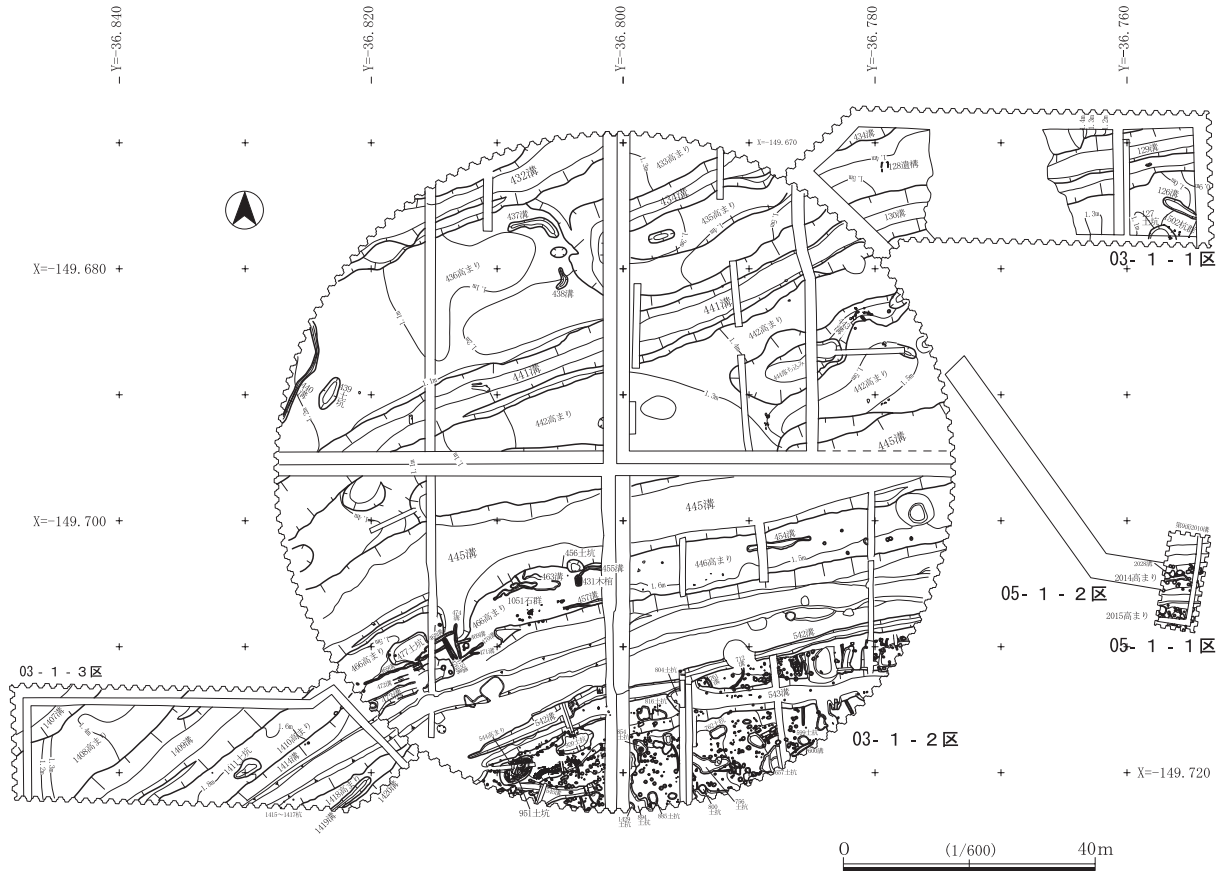


図387 第10面全体図

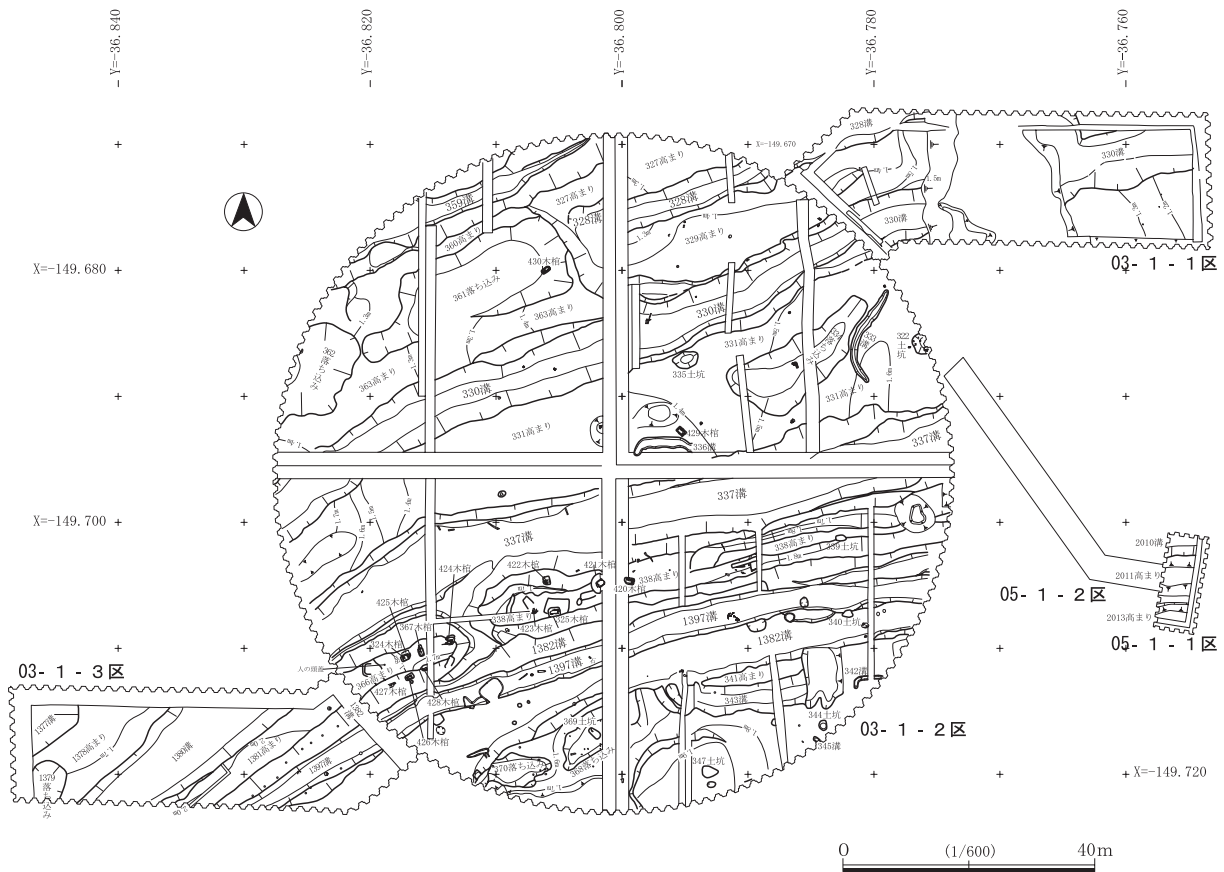


図388 第9面全体図

第11面は、オリブ黒色ないし灰色のシルトを主体とする自然堆積層の上面であり、第10層の砂層を除去した面でもある。面の高さはT.P.+0.5～1.5mで、南東部が高い傾向にある。溝、石列、矢板列、土坑、ピットなどの遺構を検出したが、自然地形の凹凸も多く残る。

弥生時代中期初頭（第10 - 2面～第8面）

第10 - 2面は、盛土層の上面である第10面から掘り込まれた遺構を再確認する目的で03 - 1 - 2区の南部を中心に調査した面である。調査した範囲での高さは、T.P.+0.9～1.4m程度で、南側が高い。溝や木棺も検出したが、多くは土坑とピットであった。

第10面は、黒褐色ないし灰オリブ色を呈する盛土層の上面である。面の高さはT.P.+0.9～1.5mで、南側あるいは南東側が高い傾向にある。溝、木棺、石群、土坑、ピット、杭群などを調査した。西南西から東北東にかけて、複数の比較的規模の大きな溝が掘削されたことが、第10面の大きな特色である。また、調査範囲南部の第10 - 2面を調査した部分には、第10面でも特に遺構が密集している。人間が大地に様々な働きかけを行った状況が見出せる。

第9 - 2面も第10 - 2面と同様に、03 - 1 - 2区の南部において、第9面の10～20cm下で再度遺構検出を試みた結果、ピットなどを検出した面である。検出した面の高さはT.P.+1.5～1.8mで、溝、土坑、ピットを検出した。

第9面は、第8層の粗砂混じり黒色土を除去した面であるが、第9面も黒色の盛土層を基盤とする。面の高さは、調査区東部でT.P.+1.1～2.0mで、南東側が高い傾向にある。第10面と同様に、複数の比較的規模の大きな溝が西南西から東北東にはしり、きわめて起伏に富んだ景観を呈する。そのほか、溝、木棺、土坑、ピットなどを調査した。

木棺を、第9面で6基、さらに第9層中で8基検出した。木棺については、第2節で述べる。

第8面は、黒色を呈する盛土層の上面である。面の高さはT.P.+1.3～2.1mで、南東側が高い傾向にある。第10面・第9面と同じく、複数の比較的規模の大きな溝が西南西から東北東にはしり、きわめて起伏に富んだ景観を呈する。溝、木棺、土坑、ピットなどを調査した。

弥生時代中期前半（第7面・第6面）

第7面は、基本的に第6層の黒色土壌化層を除去した面である。したがって、上面の第6面と大きくは変わらない。面の高さはT.P.+1.6～2.0mで、南側が高い。溝やピットなどを調査した。

第6面は、黒色土壌化層の上面である。弥生時代中期前半～中頃の溝群が展開する。面の高さは、大部分でT.P.+1.7～2.2mで南側が高い傾向にあるが、複数の比較的規模の大きな溝が西南西から東北東にはしるために、きわめて起伏に富んだ景観を呈する。それらの溝のほかにも、溝、土坑、ピット、立ち木を調査した。

なかでも03 - 1 - 2区252大溝とそれに続く03 - 1 - 1区20大溝は、最大規模の溝で、出土遺物も抜群に多く、さらに埋没も他の溝以後である。252大溝の底からは、木群や杭群も検出した。

弥生時代後期（第5面～第4面）

第5面は、第4層の黒色土壌化層を除去した面で、第5層の砂層上面である。面の高さはT.P.+2.0～2.4mで、南東側が高い傾向にある。溝、土坑、ピットなどを調査し、杭も検出した。

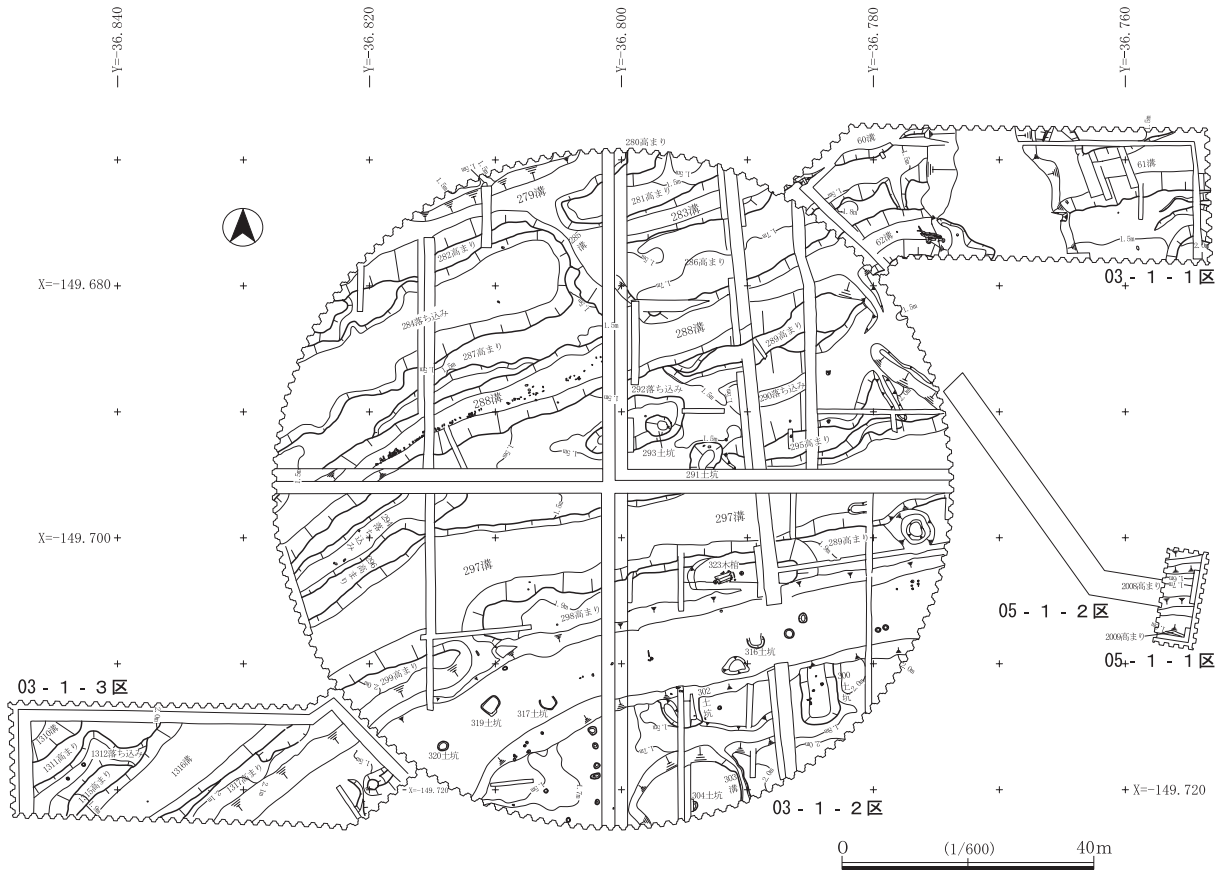


図389 第8面全体図

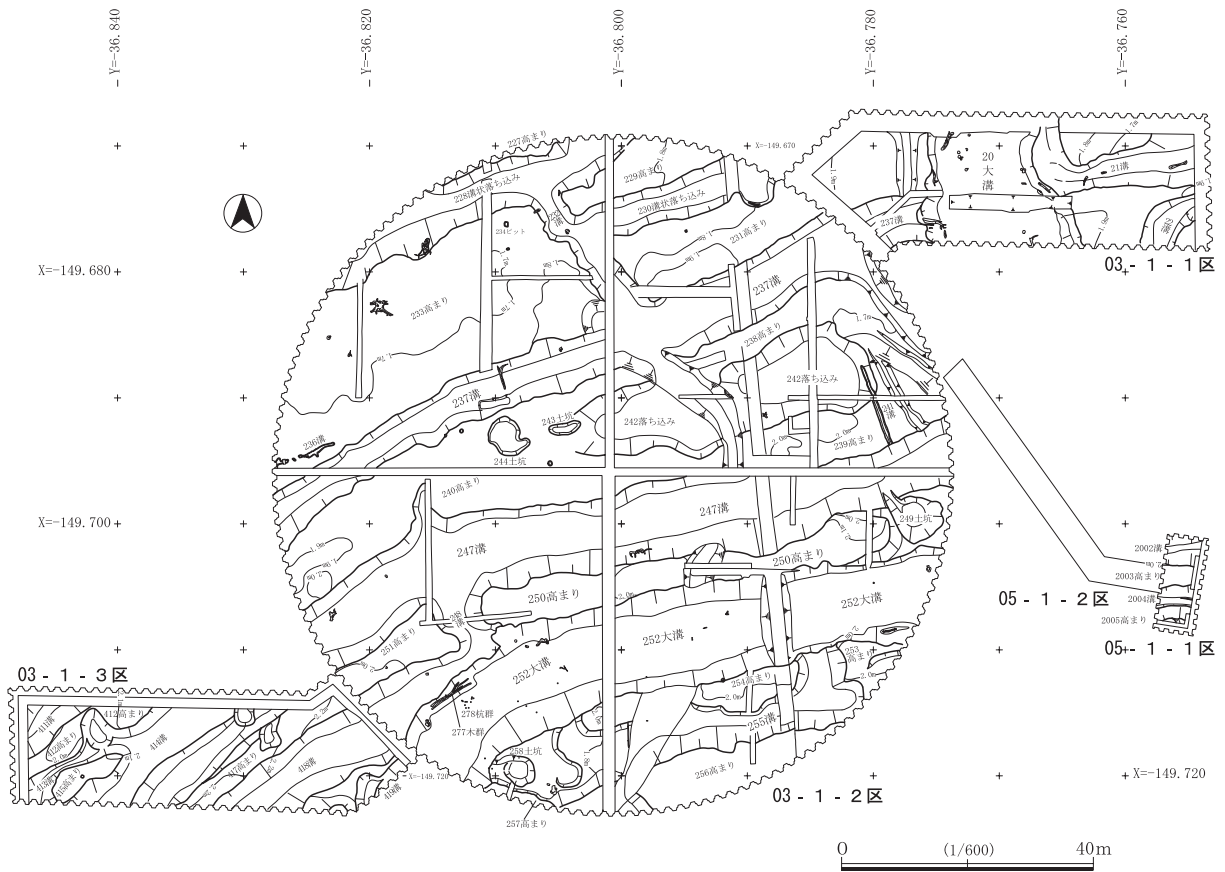


図390 第6面全体図

第4 - 2面は、砂混じり黒色土壌化層の上面である。調査範囲南西の03 - 1 - 3区で第4層の黒色土壌化層が他の調査区に比べて厚かったため、そこを精査し2層に分離した。その結果、部分的ではあったが水田畦畔を検出できた。面の高さは、03 - 1 - 3区の西部でおよそT.P.+2.35m、中部以東でT.P.+2.45m。畦の高さはほとんど検出できなかった。畦の平面形状から復元される水田は、いわゆる不定形小区画水田である。

第4面は、水田土壌と考えられる黒色土壌化層の上面である。面の高さはT.P.+2.0~2.5mで、南東側が高い傾向にある。溝、畦状高まり、土坑などに加えて、調査範囲南西部の03 - 1 - 3区の西端で、東西方向にのびる、高さ10~20cmの1503畦を検出した。層相とこの畦の中からV様式の弥生土器が出土したことから、第4面を弥生時代後期の水田面とすることができた。

弥生時代後期～古墳時代後期（第3面）

第3面は、第2層の洪水砂層の下面にあたる自然堆積のシルト層上面である。面の高さはT.P.+2.3~2.8mで、南東側が高い傾向にある。溝や畦などに似た起伏がみられるが、基本的に自然地形の凹凸と考えられる。03 - 1 - 1区中央部では、動物の足跡を検出できた。

古墳時代後期（第2面）

第2面は、砂層の上面である。面の高さはT.P.+2.8~3.3mで、ゆるやかに起伏する。溝、土坑、ピットなどを調査した。

古代（第1面）

第1面は、オレンジ色を呈するシルト層の上面である。面の高さはおよそ、東部でT.P.+3.3~3.5m、中～西部でT.P.+3.1mで、東側が高い傾向にある。代表的な遺構として、幅20~50cm程度の比較的細く、深さ10cm程度までの浅い溝が、03 - 1 - 2区を中心に多くみられる。出土土器の組成と近畿自動車道の調査成果から、古代の遺構面と考えられる。

05 - 1 - 2区で検出した2078井戸は、さらに上層から掘り込まれたものである。井桁部分は失われていたが、瓦積みの井戸側（井筒）部分を3段確認でき、その構造から近世以降の井戸と判明した。

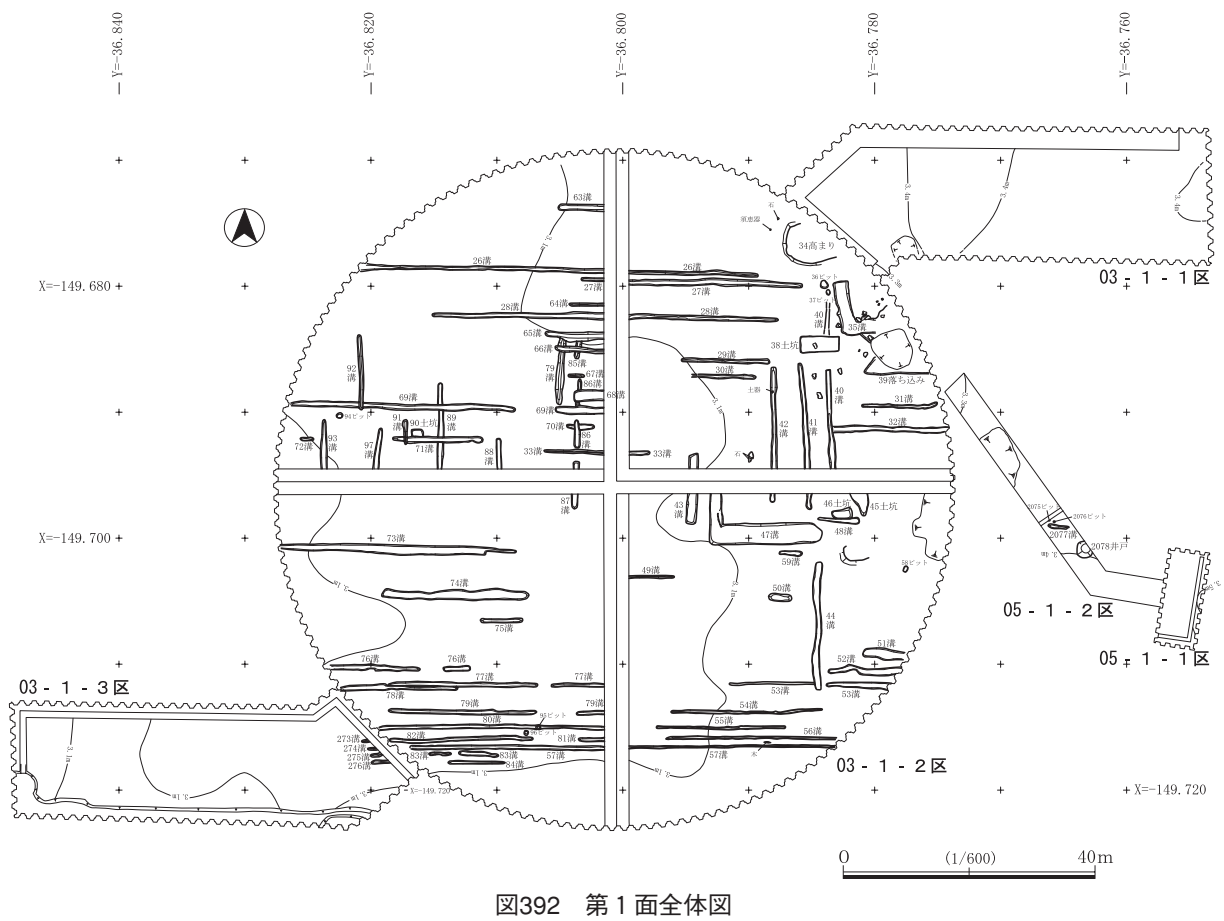
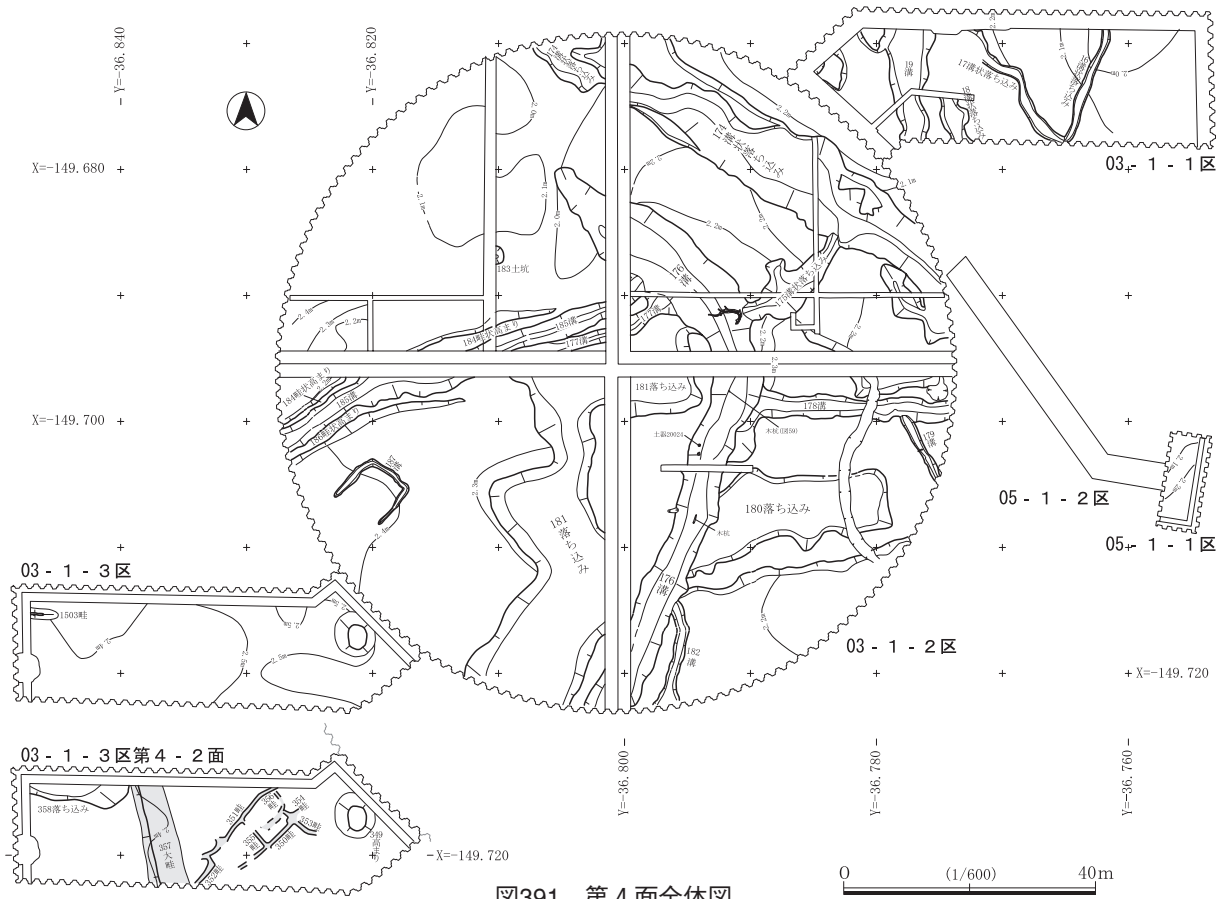
第2節 木棺の検出

溝とともに遺構の重要な成果は、計19基の木棺の検出である。

時期 第9面・第9層中検出のものはおおむねⅡ様式を中心とし、第8面323木棺はⅡ～Ⅲ様式、第10面～第11面検出のものはⅡ様式と考えられるが、Ⅰ様式の後半に遡る可能性もあろう。

平面分布 木棺の平面分布を検出層位にかかわらずみると、調査区北東部の03 - 1 - 1区に木棺と確定しがたい128遺構が1基、03 - 1 - 2区の北半に4基、南半に14基となる。03 - 1 - 2区南半の14基は、溝と溝との間の盛土部分に位置する。

検出層位 検出した層位別には、第8面で1基、第9面で6基、第9層中で8基、第10面で2基、第10 - 2面で1基、第11面で1基となる。掘りこみ面から検出できたのは第10面の431木棺だけで、第8



面から第9層中検出の木棺では、掘りかたが見つからない。棺材を検出して、木棺に気がつく。
調査の具体例 一例として、第8面検出323木棺の調査手順を具体的に述べる。

第4面176溝調査時、その東法面に板（323木棺の蓋板）の西端が現れた（写真図版31上段）。それ以降、各面検出時および精査時に木棺とした場合の掘りかたの平面ラインを探した。

その結果、第6面で板の北西側において、板の長軸に平行するようなラインを延長約20cm、板の北東側で東西方向のラインを約10cm追うことができた。しかし、木棺墓の掘りかたとして認識できる程の平面形や延長にはならなかった。

第6面航空測量後、第6層を掘り下げる前にさらに平面精査を行い、板の周辺（東のサブトレンチから第4面176溝まで）を先端を良く研磨したスコップで、数mmないし1cm程度に薄く削り平面的に観察し、さらにジョレンやガリで複数の方向に精査。この作業を2回繰り返した。しかし、掘りかたは見出せなかった。

平面精査では手掛りが得られなかったので、板の長軸に沿って1本、短軸方向に2本、計3本のセクションベルトを残し、まずは板の上面まで、板のない部分はさらに2～3cm、平面精査を繰り返しつつ慎重に掘り下げた（写真図版31中段）。それらのセクションベルトの両面も観察した。それでも掘りかたのラインは見つからなかった。次に、第6面から残したセクションベルトに沿って、北・東・南方向にサブトレンチを掘り、第6層以下の断面を観察（写真図版31下段）。さらに、掘りかたが大きい場合も想定し、東のサブトレンチを板の東端から約2m東北東方向に延長したが、やはり第6面以上からの掘りかたは確認できなかった。

板より上層のセクションベルトの写真撮影・実測後、セクションベルトを除去し蓋板を露出させた（写真図版32上段）。結果的に、蓋板と第8面のレベルはおおよそT.P.+2.0mと等しかった。

次いで、蓋板除去、棺内断ち割り、底板検出、底板上の人骨記録、小口と思しき材記録、底板下断ち割りを行った。

また、遺物については、人骨や土器片など棺内の現位置をとどめる遺物は極力そのままの位置で記録した。棺内の埋土は基本的に4分割して取り上げ、全て現場詰所にて水洗し遺物の検出に努めた。

平面形 掘りかたの平面形は長方形、隅丸長方形、長楕円形など。

主軸方位 調査区南部の溝と溝との間の盛土部では、その高まりの長軸と同方向の東北東 - 西南西を主軸とする5基（323木棺・324木棺・421木棺・426木棺・427木棺）が主体で、東西方向を主軸とする4基（325木棺・420木棺・424木棺・428木棺）もほぼそれに近い。

それらにほぼ直交する北北西 - 南南東方向の2基（367木棺・425木棺？）や南北方向の3基（422木棺・423木棺・431木棺）もある。

棺の内法 遺体を収容する棺の内法は、数値の判明するものの平均では、長さ32～60cm（平均46.3cm）、幅18～47cm（平均25.4cm）と非常に小さい。いわゆる小児棺のサイズといえる。ただし、第8面323木棺は、具体的な数値は判明しないが、長さ1m以上・幅数10cm以上と比較的大きい。

棺材 コウヤマキ、ヒノキ、スギ。単一の材で全棺材を作るもの（324木棺・367木棺：コウヤマキ、420木棺：スギ）や、複数の材を用いるもの（323木棺、421木棺、429木棺、430木棺、431木棺）がある。

木棺の分類 小口板や側板が底板に載るか、棺材の組合せ方法はどうか、など様々な視点から分類できる。取りあえずは、小口板が底板よりも深い小口穴に立てられるもの11基324木棺、367木棺、420木棺、421木棺、426木棺、427木棺？、429木棺、430木棺、431木棺、1016木棺、1018木棺）、小口板が底板上

に載るもの3基（325木棺、424木棺、425木棺）、その他（4枚の板を短軸方向に並べた底板）1基（323木棺）、不詳4基（128遺構、422木棺、423木棺、428木棺）としておく。

年輪年代 第8面323木棺のコウヤマキの蓋板からは、697年間分の空白部分を埋めうるデータが採取された。第9面421木棺の底板からは紀元前472年以降の伐採という結果を得た（分析編 光谷拓実「山賀遺跡出土木材の年輪年代」参照）。

出土人骨 第8面323木棺からヒトの下肢骨、第9面424木棺から膝関節を屈曲させた小児（7才前後）のほぼ全身骨格と2体分の成人の歯、第10面431木棺から長骨をそれぞれ検出した（分析編 安部みき子「山賀遺跡出土の人骨」参照）。

出土遺物 棺内からの出土遺物は、副葬品といえる検出例はなく、あっても棺外から流入したと思われる弥生土器の細片が大半である。

以上、現状ではメモ的な羅列にとどまる。後考を期したい。

第3節 遺物の検討

1. 土器

縄文土器

03-1-3区の第13層から宮滝式土器が出土した（図318～321）。完形に復原できる資料は存在しないものの、深鉢21個体以上を数える一括性の高い資料として評価できる。

ただし、資料は残存率がよいものでも器体の3～6分の1周しか残っておらず、不思議なことに底部片は含まれていない。さらに器面のみならず、破損部の断面が磨耗するものがほとんどである。自然堆積のシルト～粗砂層内、植物遺体が薄く堆積した部分から重なり合って出土したことを考えると、遺構の存在や、自然に土器が運ばれてきた結果とは考え難く、深鉢ばかりという組成とともに出土状況の解釈に課題を提示するものである。

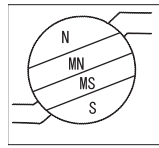
弥生土器

前期中段階の資料 最も古く位置づけられるのはI-1～2様式の壺である。第6面252大溝下層や第10面の高まりで破片資料が、第11層や第11-2層では完形品や残存率のよい資料（21021～21025など）が出土している。しかし、近辺で最古段階の土器をもつ若江北遺跡（財団法人大阪府文化財センター1996）まで遡る資料は見出しておらず、これまでの報告での評価を変えるものではない。

各遺構面での様相 報告では個別の特徴について述べたにとどまった。ここで全体の様相を提示しておきたい。また第6面以下では、溝や包含層でI～II様式の特徴をもつ土器が混在した複雑な状況にあったため、その03-1-2区での比率を示した。図393-1は第6面から第11-2面の高まり・包含層から出土した土器を、I様式～III様式に区分し、高まりごとの比率を示したものである。図393-2は同様に溝・落ち込みごとの比率を示している¹⁾。

図393では、上層へII様式が漸次的に比率を高める傾向にある。I様式の変化はさらに緩慢で、下層へ増加するわずかな傾向が見られる。やや乱暴にまとめると、第9層まではI様式が、第8層から上層はII様式が多数を占める。溝・落ち込みでは、若干ではあるが、包含層よりII様式の比率が多い。

第10章 まとめ



※縦軸の数字は遺構面、アルファベットに位置を示す

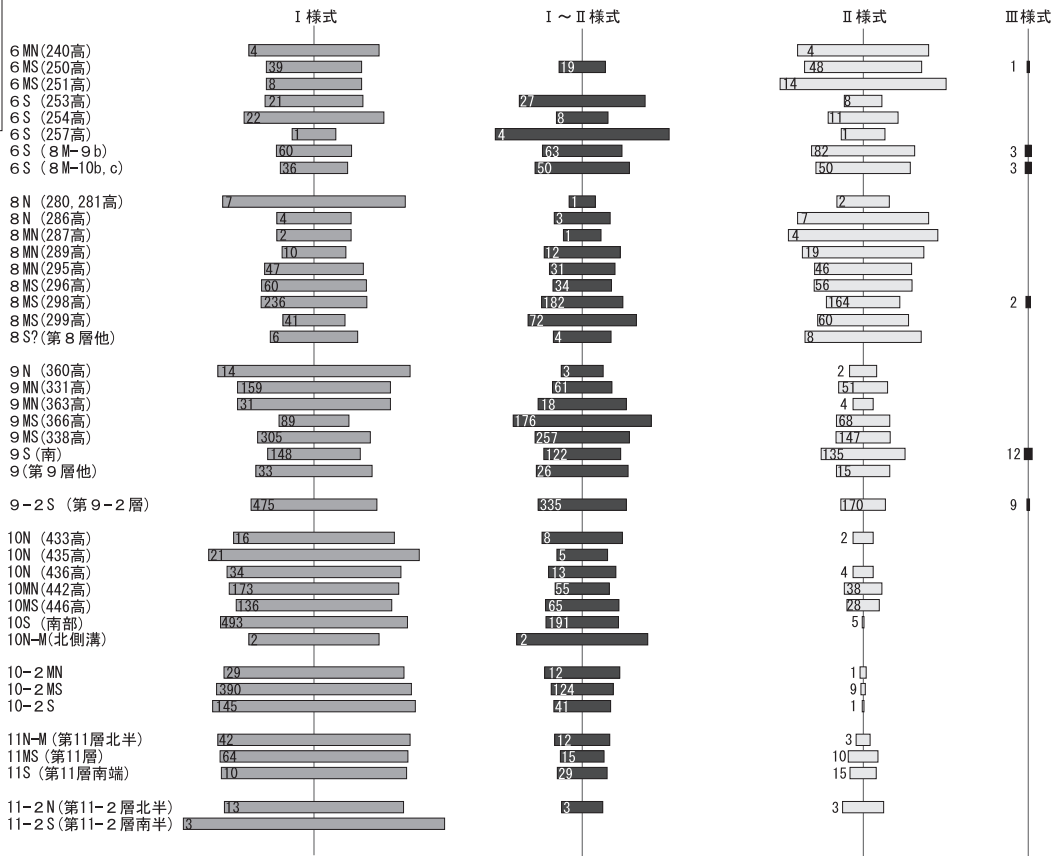


図393-1 03-1-2区 高まり別出土土器の比率

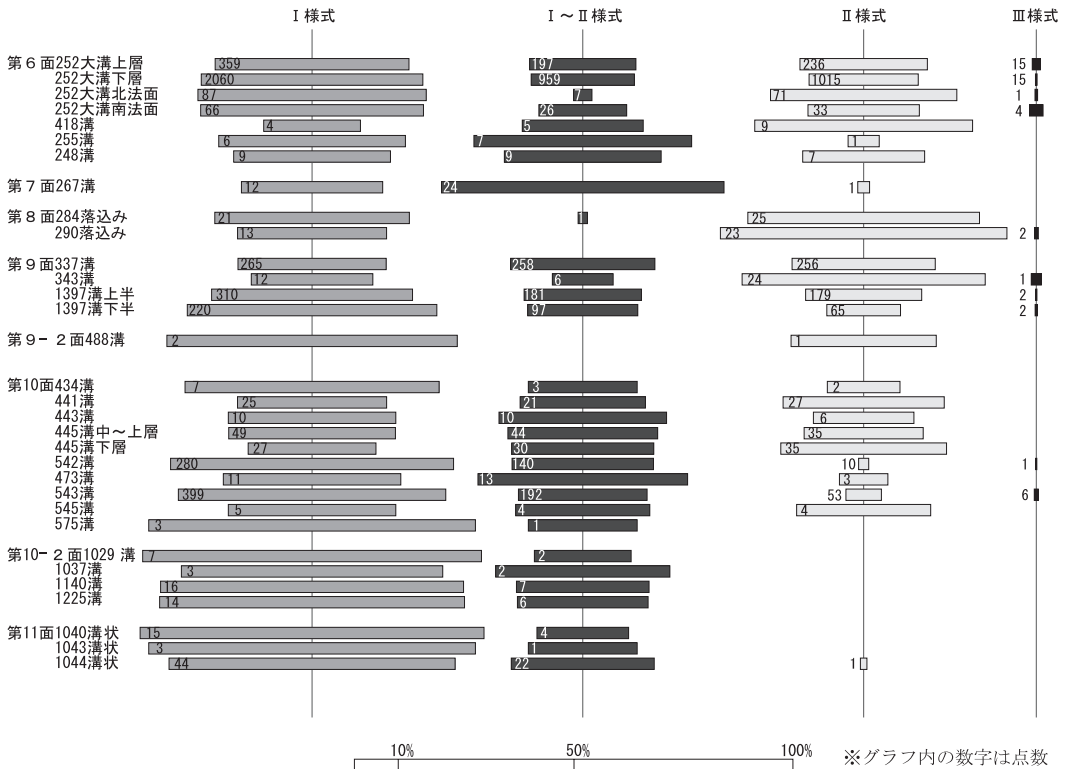


図393-2 03-1-2区 溝・落ち込み別出土土器の比率

ただし新しい資料に着目すれば、第10層以下（の高まり・包含層）でもⅡ様式、第9 - 2層でもⅢ様式が出土している。以下、個別の資料を鑑みながら検出面ごとに概観する。

第12面以下では、Ⅰ様式を主体とする。クシ描き文をもつ資料も含むものの、ほとんどが小片である。遺構としては1406土坑が所属し、Ⅰ - 2～3様式の土器を出土している。

第11面～第11 - 3面は前期の半ばから後半に位置づけられる。包含層中には上述したように、Ⅰ - 1～2様式の完形品が検出され、数基ある土坑からは、Ⅰ様式後半の土器が出土する。なお、1324土坑でのみⅡ様式（20998～21000）が認められ、所属面や堆積状況に検討を要しよう。

第10面ではⅠ様式末～Ⅱ様式を主体とする。542溝・543溝と高まり南端部でⅢ様式を含むが、その他の遺構、高まり・包含層では第10 - 2層でⅠ様式末、第10層でⅡ様式のうちにおさまる。

第9面はⅡ様式を主体とする。高まり・包含層はⅠ様式末～Ⅱ様式で、やはり高まり南端部ではⅢ様式を含む。溝ではⅡ様式末からⅢ様式初頭の土器を含み、第9面上ではⅠ～Ⅱ様式の土器が出土する。特に1397溝には、20608・20609のように器形や調整方法に古い特徴を、文様構成に新しい様相をもつ資料があり、Ⅲ様式への移行段階を示しているものと思われる。

第8面もⅡ様式が主体だが、土坑や溝では20513や20516～20517、20529、20532、20533などⅢ様式初頭に位置づけられ、残存率の良い土器が認められる。

第7面も第8面と同様である。Ⅱ様式を主体とし、新しい要素をもつものに完形に近い土器が多い。20471～20472、20504・20505など、甕が多い印象を受ける。

第6面は相対的にⅢ様式の土器が増える。高まり・包含層出土土器の主体はⅡ様式だが、調査区全体でⅢ様式を認める。特に252大溝では、上層でⅢ様式中頃～後半、下層でⅢ様式前半～中頃の土器がほぼ完形で出土している（20072、20073、20078、20117など）。

一部20066～20070のようにⅣ様式まで下り得る資料も認められる。247溝もⅢ様式の資料と、20404や20406のようなⅡ様式の完形品が混在する。

第5層はⅢ様式後半～Ⅳ様式前半、第3・4層の弥生土器ではⅤ様式前半～半ばが主体となる。なお、須恵器や土師器は第3層以上で出土数が増える。わずかに第6面の溝にも認められるが、これは混入品としておきたい。

Ⅲ様式の偏在と接合関係 Ⅲ様式に位置づけられる資料は、第7層以下では南端部でのみ出土する。溝でも第10面542溝・543溝、第9面1397溝・343溝、第6面252大溝と、調査区南部での出土に限られている。

一方で接合関係は、特に第6面と第10面に多く認められた。252大溝は第6～10層まで接合資料があり、第9～10層に多い。また第10面ではその前後層に多く、第10 - 2層まで接合関係が及ぶ²⁾。

調査区南部での盛土の存在を考えると、Ⅲ様式の層位的・地区的偏在、そして第6層～第10層まで接合関係が多い一つの解釈として、人為的な移動、すなわち溝の掘削や盛土の形成に伴う土器の移動を挙げることができる。ただし、図393には時期的な傾向が表れていることから、下層を掘削して高まり全体の組成を崩すような土地の改変が行われたのではなく、順次高まりを形成していった過程を示すものかと考えられる³⁾。

Ⅲ様式の資料がごくわずかであることや、土器の出土自体が南半部に集中することなどによってバイアスが生じている可能性があるものの、一つの可能性として提示しておきたい⁴⁾。

弥生土器の特徴

彩文土器の不在 従前の調査で彩文土器が目立っていたのに比べ、今回の調査で登場することはなかった。沈線による重弧文や木葉文は散見され、赤色顔料が小形壺・高杯の内面に付着する資料（20587、40040）も確認できているにも関わらずである。時期的な要因、あるいは集落内の場所によるものか。

土器の再加工 壺の胴部を利用して無頸壺あるいは鉢としたもの（20127、20528、20532、20567、20626、20805）、壺の口縁を打ち欠いて水差し形に加工したもの（20403、20528、20532）、頸部に補修孔と思われる穿孔をもつもの（20405、20477）がある。ほかに器台として利用した可能性のある⁵⁾、頸部のみのも（30062、30111、40003）も確認している。壺以外にも、高杯の脚部を蓋として転用した例（20644、40025）が出土しており、後述する石器とともに転用品の出土が目立った。

穿孔土器 体部に穿孔をもつ壺は、Ⅰ様式（20924、21012、20138）とⅢ様式（20117）にあり、資料数の多いⅡ様式では認められなかった。これを木棺墓に伴う供献土器と評価することもできるが、完形の資料はⅠ様式に多く、Ⅱ様式に底部まで復元できた資料が少なかったことに注意が必要である。

胎土と「地域」色 観察表では、特に雲母・角閃石が目立つ茶褐色の胎土を生駒山西麓産としている。生駒山西麓産の土器は完形品が多く、全体の6～7割を占めるのではないかという印象をもっている。周辺地域との比較のためには、掲載できなかった資料を含めてさらに検討が必要とされる。

一見して胎土の異なる白色系統の土器や、文様や調整など「地域」色が顕著な資料も出土している。淀川水系の土器かと思われるもの（20075、20124、20125、20834、21112）には大形の壺・甕があり、和泉地域の壺・甕（20405、30074）、大和、瀬戸内系の甕の破片も多い。紀伊系の甕（20663、30046）も出土している。出土量は在地の資料が大半を占めるものの、広範な交流があったことを示唆している。なお、口縁直下に縦方向に耳状の突起と紐孔がつく20815は、瀬戸内系の土器と思われるが、同方向の突起が付く木製容器が出土している（30090）。興味深い点である。

その他 胎土は生駒山西麓産だが、瀬戸内系の形態をもつ甕が多い。また撚糸文の施された細頸壺（20762）、胴部の沈線間に突帯をもつ鉢・甕（20145、20745、20932、30127）など位置づけに検討が必要な土器がある。この突帯と沈線の施された土器は、胴部に貼り付け突帯をもつ甕（10058、20975、40032）や突帯文系の甕（30141）が示唆的である。

2. 石器

出土量と出土状況

石器も3000点以上⁶⁾と出土数が多かった。土器の時期がほぼ限定されているため、ここでは所属面などを取って無視して一括して取り扱い、本遺跡での弥生時代前期から中期全体の傾向を示すものとして捉えてみたい。

資料は、溝や包含層から出土したものが大半を占める。住居址等が未検出で、水洗による抽出は行っておらず、石器製作に伴うような微細な剥片類はほとんど検出されていない。

出土状況として特筆されるのは、第6面252大溝の下層で、粗砂や土器とともに打製石器が大量に「堆積」していた⁷⁾。出土資料のうちでは、比較的一括性が高いと考えられ、船築氏によって特定器種への偏りが否定されている（第9章「山賀遺跡252大溝下層・1397溝出土石器について」）。

252大溝は上層とあわせて今回調査資料の3分の1以上の石器出土量を誇り、全体の組成にも大溝資

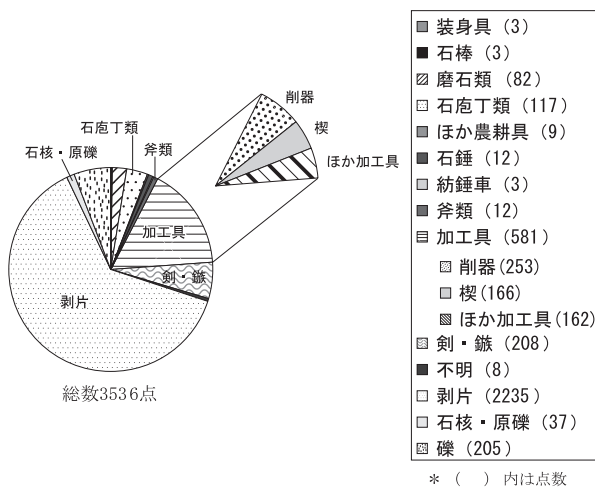


図394 石器組成比

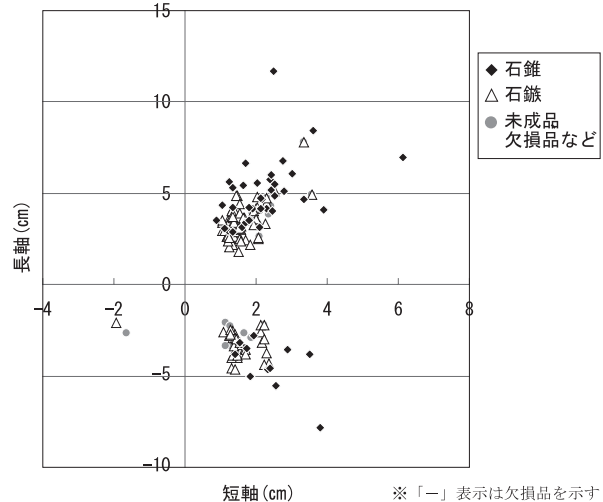


図395 石錘・石鋸サイズ

料の傾向が大きく反映されることに注意が必要である。特に打製石鋸は他の器種に比べ、出土数の約8割が大溝下層資料と突出している。

こうした出土状況を形成した原因も追究すべきではあるが、ここでは十分に検討できなかった。ただし土器・石器表面の残存状況が、いずれも極めて良好であったことが指摘できる⁸⁾。そのため、遺物は長距離を移動してきたものとは考え難く、近辺に広がる集落内で使用されたものと想定される。以下に示す通り、石器は欠損品が多く、使用痕の明瞭なものも多く認められた。溝への廃棄の結果としての堆積が考えられよう。また、石鋸の溝下層での集中堆積には、法量の均一性が関わっていた可能性を挙げておこう。

器種組成

器種組成は分類によって大きく変わってくるが、図394では観察表に示した同定に準拠した上で、管玉・三日月形の石製品を「装身具」、磨石・叩き石・石皿を「磨石類」、大型石庖丁・石鋸・打製石斧を「ほか農耕具」、その他の石斧を「斧類」、石剣・石鋸・石矛?・尖頭器を「剣・鋸類⁹⁾」、石錘・石鋸・石小刀・砥石・削器・楔を「加工具」、石核・原礫・剥片を「素材・剥片」、異型石器・不明石器を「不明」、その他の器種については個別の分類名で示し、その比率を表した。

「素材・剥片」が64.3%を占め、それに次いで「加工具」16.4%、「剣・鋸類」5.9%、「礫」5.8%となる。剥片は、二次加工や使用痕のある資料を細別できていないため、「加工具」の割合はさらに高まるものと予測される。

すなわち本調査区の石器組成の特徴として、「素材・剥片」を除けば「加工具」が高比率を占め、「狩猟具・武器」の少ないことが挙げられる。ただし、これは比率の問題であって、点数としては石剣58点、石鋸147点を数える。また加工具のうち、周辺の瓜生堂・若江北・美園遺跡などではほとんど出土しない石小刀(森本1985)が、今回の調査だけで6点(20323~20326、20460、20600)出土していることも特徴的である。機能や時期、地理的な検討の基礎資料となろう。

出土石器の特徴

石庖丁の形態 磨製石庖丁は素材・未成品を合わせて計113点が出土した(252大溝での出土数は、上層

3点、下層36点、法面3点)。大半が欠損・再加工品で、完形となるのは数点に過ぎない。平面形の推測が可能なもののうち、直線刃半月形が23点、長方形が3点、刃部と背部が弧状となる杏仁形3点が認められた。穿孔時に敲打を施すものはなく、すべて錐による回転穿孔である。また穂摘み具ではないが、大型石庖丁と推測されるものも4点出土している。

石材は、肉眼観察によると¹⁰⁾ 緑色・緑泥片岩86点、泥岩16点、流紋岩4点、結晶片岩2点、緑色片岩1点、緑色凝灰岩1点、片岩系1点である。緑色・緑泥片岩が4分の3以上を占める。

形態と石材には一定の傾向が認められた。直線刃半月形では、片刃で緑泥片岩製のものが大半を占め(23点中20点)、両刃の資料(10点)では使用石材が一定しない¹¹⁾。石材の特徴に合わせて、両刃・片刃の作り分けや使い分けが行われていた可能性もあろう。

石庖丁未成品 未成品と考えられるものは14点で、石斧として掲載した20938を含めると15点となる。粗割・剥離整形段階のものが7点、研磨を加えているものが8点(うち穿孔途中が3点)である。いずれにせよ未成品の出土率は13%と、周辺の遺跡と比較して特に高いあるいは低いものではない(秋山2004)。

なお、流紋岩製の石庖丁は可能性のあるものを含めて6点出土しており、剥離整形段階の20991、研磨段階の20938¹²⁾、穿孔途中の20937、製品である20177・20757、転用品かと思われる20060と、生産から消費までを追うことのできる資料となっている。

打製石庖丁 打製石庖丁と考えられるのは、サヌカイト製の20601である。光沢面は刃部の左上方に集中しており、穂摘み具としての使用痕に矛盾しない(斎野2002)。ほかの石器に比べ、磨耗が著しく稜も滑らかで、使用頻度の高さあるいは移動距離の長さが窺われる。産地分析は行っていないものの、肉眼では他のサヌカイト資料と相違は認められない。

使用・再加工・転用 上述したように石庖丁は欠損品がほとんどで、鉋孔の位置が下がるもの(20899)や、刃部が内湾するもの(20160、20171、20450、20605、20820)など、使用に伴うと考えられる形状変化が認められる。また、刃部への加工や複数の鉋孔から判断される明確な再加工品は13点、石斧や紡錘車・石錘・装飾品などへ転用されたと考えられるものも8点確認される。こうした使用頻度の高さや再加工などを考慮すると、石器組成の比率に、石庖丁の増加を考えるべきであろう。

石錐には、錐部に顕著な回転痕がつく資料(10016、20301、20322)を確認しており、同様に頻繁な利用が想定される。なお、中央に窪みをもつ板材(20464)があり、穿孔時の下敷きである可能性を指摘しておきたい。

石鏃と石錐 石錐の形態も多様である。うち、体部側縁まで調整を加えるなど、平面形では石鏃と見分けのつかない資料や、石鏃としたなかにも側縁の調整の粗い資料が存在する。図395では形態分類をしていないものの、石錐・石鏃の法量は近似値を示す。相互に利用可能な剥片を共通素材としていた可能性を示唆する。

擦り切り技法・局部磨製・不定形・鋸歯縁 磨製石器のうちで、擦り切り技法を用いた例が散見された。柱状片刃石斧20008の抉り部分、石庖丁の再加工品かと思われる20671、20795の加工部分である。施工具として可能性のある、紅簾片岩製の砥石(40019)も出土しており、遺跡内で加工が行われていたと捉えられる。

サヌカイト製石器には一部を研磨するもの(20207、20260、20397、30075)、失敗品かと思われるような不定形な石剣(20539、20571、40034)がある一方で、側縁を鋸歯状に加工した石剣・石鏃

(20204、20217、20224、20225、20231、20260、20262、20274、20549、20550、20731、20759)のように細部調整に凝ったものも認められた。製作技術を示すものとして注目される。

火を利用した加工 サヌカイトには、黒色物質が付着するものがあった(20204、339-3)。接着剤としてのアスファルトかと考えたが、分析の結果、炭化物の可能性が指摘された(第9章「山賀遺跡サヌカイト付着物赤外分光分析」)。船築氏の指摘(第9章 前掲)を考慮すると、被熱資料の一例として扱うべきかもしれない。なお、木器にも一部が炭化した材(30086)があり、全般的な道具加工における火の利用が想定できる。

3. 木器

木器は木棺材を除いて107点を確認した。ヤマグワ製の容器が9点(同一個体の可能性のあるもの個別に数えると13点、以下括弧内の数値は同様)と多く、高杯は未成品をあわせて4(6)点出土している。ほか、高台付きの鉢や合子形、皿や槽などさまざまな形態の容器を出土している。漆や文様を加える容器はないが、匙も1点出土している。

農具は16点で、田下駄とした10011以外は6面以下の出土である。柄を含めて鋤2点、鍬6点、ほか未成品など7点で鍬が多い。明確に農具とわかる資料にはアカガシ亜属が用いられていた。

未成品としては斧柄、高杯、鍬・鋤など18点。バラエティに富んだ構成で、利用時(農具の柄や、石斧の装着時)に必要な加工を残す資料が数点単位で出土する。板材の出土も多い¹³⁾。

ヤスを除けば、未成品の出土が弥生時代前期の土坑(1398土坑、1406土坑)に集中する傾向があり、保存用の土坑として評価できるかもしれない。ただし、こうした遺構は中期の段階には認められなかった。

微化石分析の結果、遺跡近辺には数10年続いた平地林の存在が想定されており、検出された樹種は木器とよく対応している(第9章「山賀遺跡の微化石分析」・「山賀遺跡の植物遺体および木製遺物について」)。すべての器種で原材の現地調達を行っていたかは不明だが、敢えて流通という形をとらずとも、独自に木材を入手できる環境にあったと言えよう。また、伐採・加工具である石斧は12点と少ないが、大型蛤刃、柱状片刃、扁平片刃などすべての形態が出土している。未成品の形態を考慮しても、集落内での自家消費的な木器生産が想定されよう。

一方で、スギやヒノキなど、高地での生育が想定される¹⁴⁾針葉樹には材として出土しているものが多く、木棺材や10080のような長大な板材も出土している。弥生時代中期中葉を中心とした瓜生堂遺跡では、周辺の植生に応じて、製作途中品の流通が行われていたと分析されている(仲原・秋山2004)。直接か間接かという入手方法は別として、前期末から中期前半の段階でも、材として運ばれることがあったものとする。

4. 骨・骨製品

遺存状況に左右されるものの、相対的な数量から言えば動物骨の利用は極めて低調である。骨角器は製品としては3点を数えるにすぎないが、装飾品や弓弭状骨製品など非常に特徴的な遺物が出土している。動物骨でも、穿孔をもつイノシシ(ブタ)下顎骨が注目される。

5. 遺物から垣間見る日常生活

土器に残る植物の痕跡と稲作 土器の底部や蓋に、イネ科と推定される圧痕を確認したものが3例ある。脚台部、壺蓋、壺底部（20587、20784、21082）でいずれもⅠ様式の土器である。内部に炭化物が付着していた土器片も多く、特に第6面252大溝から出土したⅢ様式の壺（20072）は、内面に炭化米がびっしりと付着したままの状態出土した¹⁵⁾。

土壌の微化石分析からは、03-1-3区第10面1409溝埋土からイネ属穎珪酸体が多産し、「稲籾殻や稲藁が混入している可能性が高い」ことが指摘された（第9章「山賀遺跡の微化石分析」参照）。植物珪酸体の産出に関しては、コンタミネーションの問題もあり慎重な態度が要求されるが、こうした籾圧痕から、相互にイネの存在を肯定するものとなった。

また20072の壺の存在は、Ⅲ様式の段階においても遺跡近辺においてイネ栽培が続いていたことを示唆している。100点以上の石庖丁の出土と合わせて、山賀遺跡における稲作の活発さを示すものであろう。また、サヌカイト製の打製石庖丁（20601）や打製石斧（30128）など、瀬戸内沿岸に分布の主体をもつ道具が出土しているのも、特徴的である。

なお、弥生時代後期（第4面時）のイネ栽培については、遺物の出土量が少なく、むしろ遺構（畦畔）の検出によって評価できよう。

漁撈活動 漁撈具としてヤス、錘、タコ壺が確認できた。骨製の漁撈具は見当たらない。

木製ヤスは、未成品と推定される資料を合わせて22点出土している。うち15点が第8面299高まり内の包含層遺物で、ほかは第9面以下の遺構、包含層から1～2点ずつの出土である。なお、木材はすべてモミ属を用いる。近畿道調査時の出土資料にも1点を除きモミ属を用いており、強い選択性を示す。ただし、材の性質からヤスとしての用途に疑問が呈されており（松田1983）、包含層出土という点も合わせて、漁撈具として扱うかどうか検討を要する。

土錘は棒状（20725）と管状（30144）の両者が出土している。棒状土錘は、弥生時代後期以降に類例が多いものの、山賀遺跡その（2）調査区に前期の出土例がある。本調査でも後期の遺物がごく少数しか出土しておらず、層位から弥生時代中期前葉、新しく捉えても中葉以前におさまるものと考えられる。

石錘は可能性のあるものを含めて12点あり、石庖丁から転用したと考えられる資料も確認された（40004）。また、弥生時代中期に類例の多い丸底・ナデ調整のタコ壺が出土している（20871）。海浜部からの搬入品だろうか。

ほかに、浮子（10面951土坑 非掲載）の可能性をもつ有孔の木片も挙げられる。また、用途不明の加工材にはヒノキが多く、両端に加工のあるものは奈良時代の木製浮子に類似する（真鍋1996）。個別の分析が必要とされるが、浮子として用いられた可能性を指摘しておこう。

全体に漁撈具の出土量は少なく、稲作と比して低調であったと言わざるを得ない。ただし、252大溝の杭群を漁場として積極的に解釈するのであれば、弥生時代前期から中期まで遺物を捉えることができ、以前の調査成果と合わせて、内水面での漁撈活動も生業活動のなかに組み込まれていたと評価できる。

今回出土した土器の主体は、これまでの山賀遺跡での調査よりやや新しく、前期末から中期初頭にある。図393やそこで利用した「Ⅰ～Ⅱ様式」というカテゴリの存在が示唆するように、出土量も土器の型式自体も、極めて連続的な変化を遂げている。Ⅲ様式期の初め、第5層の洪水によって遺構数・遺物量ともに激減するまで、山賀遺跡は盛んな人間活動の場であり続けたことを示唆しよう¹⁶⁾。

刃痕や炭化米、石庖丁に稲作の存在が示されるとともに、石器組成における加工具の多さ、石庖丁や石錐の顕著な使用痕、石庖丁や土器の再加工品など、何度も何度も道具を使った様相が、遺物に顕著に表れている。加えて石器・木器未成品は、その量や出土状況から、集落内での加工と消費に付随するものとして評価できる。土器の胎土と同様、石材の大半を占めるサヌカイトもその大半を二上山という近場に求め得ることが示唆されており（第9章「山賀遺跡出土サヌカイト製遺物の原産地分析」）、地域に根付いた生活の様相が示される。

その一方で、他地域の特徴をもつ土器や石器など交流を示す遺物、「垂飾」形木製品や穿孔のあるイノシシ下顎骨など「まつり」的な遺物も出土しており、本地域における日常生活の一端を示す資料となる。

以上、概括的な報告にとどまったが、上述してきた遺物は、溝や包含層での出土が大半であるとは言え、前期から中期の変遷を追う重要な資料となろう。今後の研究の基礎資料となれば幸いである。

¹⁾ 一部、資料数の関係から除外した高まりや溝もある。各様式の区分はⅠ様式で沈線文、Ⅱ様式でクシ描き文、Ⅲ様式で簾状文や口縁部の肥大化といった大雑把な特徴によっており、時期不明な破片は数に含めていない。なお、Ⅰ～Ⅱ様式としたのは、口縁端部に面をもつ壺、甕や鉢の口縁部、無文の破片、底部片など明確に分けがたい資料である。破片数を基準にしていること、高まりや溝によって資料数に偏りがあること、より詳細に接合や分析を行えば変動する数値であるなど課題は多いものの、大勢を示すデータとしておきたい。

²⁾ 第11層以下では11層と11-2層間で2例あるのみで、上層とは接合関係がない。

³⁾ これは土層の堆積状況にも表れており、03-1-2区の122・123層ではブロック土が斜めに堆積することから、溝側から無作為に土を盛っていった状況が復原できる。但し、調査区南部の第10層の有機質や炭化物を多量に含む黒色土は、調査区外から運び込まれたものとの指摘がある（第9章「山賀遺跡における弥生時代堆積物の堆積構造の検討」）。遺物の面からは量的な偏在を指摘できるだけだが、そうだとすれば、溝の形成に伴う以上に大規模な土地形成が行われた可能性があり、当時の社会的状況にも波紋を投げかけるものとなる。

⁴⁾ もちろん所屬面の検討をさらに行う必要もある。

⁵⁾ 三好孝一氏教示。

⁶⁾ サヌカイト製の打製石器が約7割を占める。

⁷⁾ 粗砂中に石鏃等が多く目視されたため、掘削と同時に篩（ふるい）にかけて抽出を行った。

⁸⁾ 例えば藁科氏によれば、産地分析に際して4点以外はエアブラシ処理を必要としない資料であった。

⁹⁾ 磨製石剣、磨製石矛などは「祭祀具」として、カテゴリズすべきかもしれない。ただし、組成に関してのみ言えば、母数の大きさから1%に満たない組成となる。資料の同定に関しては個別に議論が必要である。

¹⁰⁾ 影山美智代氏、山口誠治氏による教示。

¹¹⁾ あえて傾向を述べれば、緑泥片岩（5点）や泥岩（3点）など緻密なものが多い傾向がある。

¹²⁾ 20938は石斧としている。石庖丁を意図したには剥離調整が不十分であることから、磨り痕のある凸面を転石利用と捉えたためである。しかし、研ぎ分けのある研磨痕と評価して、石庖丁の未成品の可能性も十分にある。上田健太郎氏、寺前直人氏教示。

¹³⁾ ただし、板材の樹種はコウヤマキ・ヒノキなどが多く、サイズからも農具の素材としては不適である。

¹⁴⁾ スギやヒノキは花粉が検出されており、近辺に生育していた可能性もある。

¹⁵⁾ なお、土器の外表面は炭化せず、煤も付着していなかった。なぜ内面にのみ炭化米が付着していたのだろうか。

¹⁶⁾ Ⅲ様式期では、瓜生堂や亀井といった近辺の集落へ中心を移したと思われる。

本書の作成には以下の方々にもご尽力・ご教示を頂いた。末筆ながら謝意を示したい。

藤井文子・竹田博美・奥村弥恵・白井美紀子・釜田有理絵・今田明子・津田春子・青山由美子・岩崎美紀子・藤澤剛・平田麻希・緑川明良・池田美香・栗牧奈緒子・高田泰子・山本香織・樋口玲子・松岡聖美・亀川祥子・川崎理恵・平田淑子・米子千智・水取康人（敬称略・順不同）

第10章 まとめ

【主要参考・引用文献】

- 秋山浩三2004「弥生中期大型集落・瓜生堂遺跡の一構成単位」『瓜生堂遺跡1』近畿日本鉄道奈良線連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 pp.483-498 財団法人大阪府文化財センター
- 瓜生堂遺跡調査会1981『瓜生堂遺跡Ⅲ』
- 梶山彦太郎・市原 実1986『大阪平野のおいたち』青木書店
- 大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター
- 1991『河内平野遺跡群の動態Ⅱ』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 1993『河内平野遺跡群の動態Ⅵ』近畿自動車道天理吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 1996『河内平野遺跡群の動態Ⅲ』近畿自動車道天理吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 斎野裕彦2002「農具—石庖丁・大型直縁刃石器・石鎌」『考古資料大観』第9巻 pp.184-189 小学館
- 財団法人大阪府文化財センター
- 2004『瓜生堂遺跡1』近畿日本鉄道奈良線連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 財団法人大阪文化財センター
- 1983『山賀（その1）』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
- 1983『山賀（その2）』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
- 1983『山賀（その4）』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
- 1984『山賀（その3）』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
- 1986『山賀（その5・6）』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
- 財団法人大阪府文化財調査研究センター1996『巨摩・若江北遺跡発掘調査』第五次
- 田辺昭三1966『須恵邑古窯址群』平安学園高校
- 田辺昭三1981『須恵器大成』角川書店
- 仲原 計・秋山浩三2004「樹種からみた集落環境と弥生木器生産」『瓜生堂遺跡1』pp.609-632 財団法人大阪府文化財センター
- 中村 浩1981『和泉須恵邑窯の研究』柏書房
- 寺沢 薫・森井貞雄1989「各地域の様式編年 河内地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅰ 木耳社
- 濱田延充1993「生駒西麓第Ⅲ - Ⅳ様式の様式と編年」『弥生文化博物館研究報告』第2集 pp.111-126 弥生文化博物館
- 平井 勝1991『弥生時代の石器』考古学ライブラリー64 ニューサイエンス社
- 松田隆嗣1983「山賀遺跡（その4）より出土した木製遺物の樹種について」『山賀遺跡（その4）』pp.137-140
- 真鍋篤行1996「瀬戸内地方の漁業技術史の諸問題」『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要』第9号 pp.55-163 瀬戸内海歴史民俗資料館
- 三好孝一1993 a 「土器」『河内平野遺跡群の動態』Ⅵ 近畿自動車道天理吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 pp.23-460
- 大阪府教育委員会
- 1993 b 「河内における弥生中期土器様相」『第11回近畿地方埋蔵文化財研究会資料』pp.31-44
- 森本 晋1985「石小刀」『弥生文化の研究』第5巻道具と技術Ⅰ pp.59-62

遺物観察表

土器・土製品

- 表48 03 - 1 - 1 区 土器・土製品観察表 (1) ～ (6)
表49 03 - 1 - 2 区 土器・土製品観察表 (1) ～ (49)
表50 03 - 1 - 3 区 土器・土製品観察表 (1) ～ (10)
表51 05 - 1 - 1 区 土器・土製品観察表 (1) ～ (3)

井戸瓦

- 表52 05 - 1 - 2 区 井戸瓦観察表 (1) ・ (2)

石器

- 表53 03 - 1 - 1 区 石器観察表 (1) ・ (2)
表54 03 - 1 - 2 区 石器観察表 (1) ～ (34)
表55 03 - 1 - 3 区 石器観察表 (1) ～ (5)
表56 05 - 1 - 1 区 石器観察表
表57 05 - 1 - 2 区 石器観察表

木器

- 表58 03 - 1 - 1 区 木器観察表
表59 03 - 1 - 2 区 木器観察表 (1) ～ (4)
表60 03 - 1 - 3 区 木器観察表
表61 05 - 1 - 1 区 木器観察表

《凡例》

※石器・木器観察表は非掲載遺物も含む。

※石器は掲載遺物のみ計測値を記載する。

※石器の長軸・短軸は㈱ミットヨ製ノギス、厚みは㈱新潟精機製キャリパー、

重さは㈱エー・アンド・デイ製パーソナル電子天秤 (EK-2000i) を用い計測した。

※石錐は大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター1996での分類を記載する。

※〔 〕は復元値、() は残存値を示す。

表48 03-1-1 区 土器・土製品観察表 (1)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考	
5	10001	8		第1層	須恵器 杯身	TK43	口径:〔13.7〕 最大径:16.7 器高:5.0	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ	外)灰白N7/ 断)灰白10Y7/1 内)灰白N7/ 密	密	ヘラ記号	
	10003			第2層	須恵器 杯蓋	TK209	口径:11.5 器高:3.4	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)灰白2.5Y7/1 断)灰白2.5Y7/1 内)灰白2.5Y7/1 密	密		
	10004	8		第2層	須恵器 甗	6C前半	最大径:9.3 底径:4.2 器高:(6.8)	外)回転ヘラケ ズリ、ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ、ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ	外)灰白N7/ 断)灰N4/ 内)灰白N7/ 密	密		
	10005			第2層	須恵器 甗	6C前半	最大径:9.5 底径:2.3 器高:(6.9)	外)回転ヘラケ ズリ、ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ、ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ	外)灰白N7/ 断)灰N7/ 内)灰白N6/ 密	密		
	10006	8		第2層	須恵器 小壺	6C前半	口径:(8.7) 最大径:10.3 器高:7.2	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ、ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ	外)灰N6/ 断)灰N6/ 内)灰N6/ 密	密	ヘラ記号	
	10007			第2層	土師器 小形鉢	庄内式期	口径:〔11.6〕 器高:7.4	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)タタキ後ハケ 内)ケズリ後ナ デ	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)褐灰10YR4/1、 内)黄7.5YR6/4 断)暗黄2.5Y5/2 内)黄7.5YR5/3、 明赤褐2.5YR5/6 密	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母 付着	外)煤付着 内)赤色顔料 付着
12	10008			第2層	弥生土器 小形鉢	V	口径:〔13.9〕 底径:1.5 器高:8.2	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ	外)黄5YR6/6 断)黄5YR6/6 内)黄5YR6/8、灰白10YR8/2 密	石英・チャート・雲母		
	10012	8L-9h		第5面 25溝	弥生土器 甗	IV	口径:〔12.4〕 器高:(6.6)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)灰白10YR8/2 断)灰白2.5Y8/2 内)灰黄2.5Y7/2 密	石英・長石・チャート		
	10013	8L-8g/ 8h		第5層	弥生土器 壺	IV	器高:(5.0)	外)ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ナデ 内)ハケ後ナデ	外)灰白2.5Y8/2 断)浅黄2.5Y7/3 内)浅黄2.5Y7/3 密	長石・石英		
14	10014	8	8L-6h	第5層	弥生土器 壺	III-1	最大径:23.7 底径:5.6 器高:(27.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ後ミガ キ 内)ハケ	外)ミガキ 内)ハケ	外)黄褐10YR5/3 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄2.5Y6/2 密	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	10017	9		第6面 20大溝	弥生土器 壺	III-1	口径:(43.8) 器高:(17.5)	外)ナデ 内)ナデ、ケズ リ、ハケ後ミガキ	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ハケ	外)黄2.5Y6/4 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黄2.5Y6/4 密	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	10018	8L-8g/ 8h		第6面 20大溝	弥生土器 壺	III-1	口径:〔13.5〕 器高:(7.1)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)黄7.5Y6/4 断)褐灰10YR4/1 内)黄7.5Y6/4 密	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
10019	8L-8g/ 8h		第6面 20大溝	弥生土器 高杯	III-1	口径:〔13.0〕 器高:(8.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ	外)黒褐10YR3/2、 暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)黄褐2.5Y5/3、 オリーブ褐2.5Y4/3 密	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			

表48 03-1-1 区土器・土製品観察表(2)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考
14	10020	9	8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 鉢あるい は高杯	Ⅲ-1	器高:(3.6)	外)ナデ 内)ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)にぶい黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10021		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅲ?	口径:(17.9) 器高:(3.0)	外)ハケ 内)ハケ後ナデ			外)橙7.5YR6/6 断)橙2.5YR6/6 内)橙5YR6/6	長石・チャート	内)赤変 外)赤変
	10022		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ後半	口径:(20.0) 器高:(5.5)	外)ハケ後ナデ 内)ミガキ後ナデ			外)灰白2.5Y7/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10023		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:(22.9) 器高:(2.9)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい黄褐10YR5/4 断)にぶい黄褐10YR5/3	長石・赤色粒	
	10024	9		第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ末~Ⅲ	最大径:23.2 底径:6.0 器高:(21.5)	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ハケ	外)ミガキ 内)ハケ		外)灰黄褐10YR5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10025	9	8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅲ	最大径:19.8 底径:5.0 器高:(22.6)	外)ミガキ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)明黄褐10YR7/6 断)明黄褐10YR7/6 内)明黄褐10YR6/6	長石・石英	
	10026	9		第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ末~Ⅲ	口径:12.5 最大径:17.1 底径:5.6 器高:21.5	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ハケ後ナデ		外)にぶい黄橙10YR7/3 断)黄灰2.5Y6/1 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英	
15	10027		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:(20.6) 器高:(7.7)	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ			外)褐灰10YR4/1 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	雲母・長石・石英	
	10028		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ前半?	最大径:12.6 器高:(13.8)	外)ナデ 内)ナデ			外)黄褐2.5Y5/3 断)にぶい黄橙10YR6/4 内)にぶい黄橙10YR6/4	長石・石英・雲母	
	10029	9		第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ	最大径:17.6 器高:(19.8) 底径:6.6	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰白2.5Y7/2 断)灰白2.5Y8/2、 浅黄2.5Y7/3 内)灰黄2.5Y6/2	雲母・長石・石英	内)煤付着 外)煤付着
	10030			第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(30.6)	外)ハケ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)褐7.5YR4/4 断)にぶい黄褐10YR5/4 内)にぶい黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)炭化物付 着
	10031	10		第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ前半	最大径:23.6 底径:7.4 器高:(39.2)	外)ハケ後ミガキ			外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい褐7.5YR5/4 内)にぶい黄橙10YR5/4	長石・石英・チャート	外)黒斑 瀬戸内系か
	10032		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(3.6)	外)ハケ 内)ハケ			外)灰黄褐2.5Y6/2 断)黄灰2.5Y4/1 内)灰黄褐10YR6/2	長石・石英・チャート・雲母	近江系か

表48 03-1-1 区 土器・土製品観察表 (3)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
15	10033		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺あるい は鉢	Ⅱ～Ⅲ	器高:(4.0)	外)ナデ 内)ナデ			外)黒褐2.5Y3/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)黒2.5Y2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10034		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(5.3)		外)ナデ 内)ミガキ		外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y5/1	雲母・長石・石英・チャート	瀬戸内系か
	10035		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(5.0)		外)ナデ 内)ハケ		外)灰N4/ 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10036		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(6.2)		外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい黄橙10YR6/3	雲母・長石・石英・チャート	
	10037			第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅱ-2～ 3?	器高:(7.2)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)黒褐2.5Y3/2 断)明灰黄2.5YR5/2 内)明灰黄2.5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10038		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺あるい は甕	Ⅱ-3	底径:5.2 器高:(1.9)		外)ナデ		外)オリーブ黒5Y3/1 断)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・雲母	
	10039	10	8L-7h	第6面 20大溝	弥生土器 甕	Ⅱ後半	口径:14.5 最大径:16.6 底径:5.5 器高:25.4	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	外)ナデ	外)浅黄橙10YR8/4 断)黒10YR2/1 内)にぶい黄橙10YR7/3	長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
16	10040		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅰ末～Ⅱ 初頭	器高:(3.3)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR4/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10041		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅰ末～Ⅱ 初頭	器高:(4.6)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR4/2 断)にぶい黄橙10YR6/4 内)にぶい黄橙10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10042		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅰ末～Ⅱ 初頭	口径:[37.1] 器高:(3.3)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄橙10YR7/3 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい黄橙10YR6/4	長石・石英・雲母	
	10043		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅰ末～Ⅱ 初頭	口径:[35.0] 器高:(5.1)	外)ハケ後ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄褐10YR5/3 断)にぶい黄褐10YR5/4 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10044		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅰ末～Ⅱ 初頭	口径:[33.1] 器高:(20.3)	外)ハケ 内)ハケ後ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)暗黄灰2.5Y5/2 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10045		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅰ末～Ⅱ 初頭	口径:[15.2] 器高:(11.3)	外)板ナデ 内)板ナデ			外)明黄褐10YR7/6 断)浅黄2.5Y7/3 内)明黄褐10YR7/6	石英・長石・チャート・赤色 粒	
	10046			第6面 20大溝	弥生土器 壺	Ⅰ末～Ⅱ 初頭	口径:[16.0] 器高:(14.4)	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ		外)黄灰2.5Y6/2 断)黄灰2.5Y6/2 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	

表48 03-1-1 区土器・土製品観察表(4)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
16	10047		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	I 末	器高:(10.0)	外)ナデ 内)ハケ後ナデ			外)灰褐7.5YR4/2 断)灰褐7.5YR5/2 内)灰褐5YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)赤変 外)赤変	
	10048		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	I 末	器高:(7.7)		外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ		外)灰黄褐10YR5/2 断)褐灰10YR5/1 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	10049		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	I 末	器高:(4.6)		外)ナデ後ミガキ 内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)にぶい黄褐10YR5/4 内)にぶい黄褐10YR5/4	雲母・長石・石英		
	10050		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	I 末	器高:(4.7)	外)ナデ 内)ナデ			外)橙7.5YR6/6 断)にぶい黄褐10YR7/4 内)明黄褐10YR6/6	石英・長石・チャート		
	10051		8L-8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	I 末	器高:(9.2)		外)ハケ後ナデ 内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR4/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	10052		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 壺	I 後半	器高:(4.3)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい赤褐5YR4/3 断)にぶい赤褐5YR5/3 内)にぶい赤褐5YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)赤変 外)赤変	
	10053			第6面 20大溝	弥生土器 壺	I ~ II	底径:9.6 器高:(6.7)		外)ミガキ 内)ナデ	外)ミガキ後ナ デ 内)ナデ		外)褐7.5YR4/4 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10054		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 甗	I 後半~ II 前半	口径:[36.3] 器高:(9.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	10055		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 甗	I 後半?	口径:[21.2] 器高:(9.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)黒褐2.5Y3/1 断)にぶい黄灰2.5Y6/3 内)黒褐10YR3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	10056		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 甗	I 後半~ II 前半	器高:(10.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)残黄10YR6/4 内)にぶい褐7.5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
10057		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 甗	I 後半	器高:(7.5)	外)ナデ 内)ハケ	外)ハケ 内)ハケ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			
10058		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 鉢	I	器高:(9.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・雲母			
10059	10		第6面 20大溝	弥生土器 鉢	I-3~II -1	器高:(8.6)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい黄橙10YR6/4 内)にぶい黄橙10YR6/4	長石・石英・雲母・チャ ート・赤色粒			
10060		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 鉢	I-3~II -1	器高:(7.9)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒褐2.5Y3/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			

表48 03-1-1 区土器・土製品観察表(5)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
17	10061		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 鉢	I-3~II -1	器高:(4.6)		外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR4/2 断)黒2.5Y2/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10062		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 甕		底径:(6.3) 器高:(5.2)		外)ナデ 内)ナデ			外)褐10YR4/6 断)明褐7.5YR5/6 内)明褐7.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	焼成後穿孔
	10063		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 甕		底径:(6.0) 器高:(4.1)		外)ハケ後ナデ 内)ナデ			外)灰黄灰10YR5/2、 黒褐2.5Y3/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)黒5Y2/1、灰黄2.5Y6/2	長石・石英・雲母	焼成後穿孔
	10064		8L-8g/ 8h	第6面 20大溝	弥生土器 転用土製 凹板		径:6.1~6.5 厚:0.7		外)ミガキ 内)ミガキ			外)褐灰10YR4/1 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10065		8L-7g/ 7h	第6面 20大溝	弥生土器 転用土製 凹板		径:4.4 厚:0.7		外)ハケ 内)ナデ			外)にぶい褐7.5YR5/4 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
22	10081	11	8L-7g	第6層	弥生土器 鉢	III?	口径:15.9 最大径:16.5 底径:6.1 器高:9.9	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ	外)ケズリ 内)ミガキ		外)灰5Y5/1 断)灰5Y5/1 内)黄灰2.5Y5/1	長石・雲母	外)煤付着
26	10083	4 12	8L-6h	第8面	弥生土器 壺	II前半	口径:15.7 最大径:15.9 底径:6.1 器高:30.8	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	10084	4 12		第8面 61溝	弥生土器 壺	II前半	口径:16.4 器高:(24.0)	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ 内)ナデ 圧痕			外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)灰5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
27	10086		8L-7h	第8層	弥生土器 壺	I後半~ II前半	底径:11.0 器高:(22.3)		外)ナデ 内)ナデ	外)ケズリ 内)ナデ 圧痕		外)褐灰10YR5/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10087	13	8L-6h	第8層	弥生土器 壺	I後半	口径:(6.8) 最大径:17.9 底径:(7.1) 器高:14.9		外)ミガキ?			外)にぶい黄橙10YR6/3 断)褐灰10YR4/1 内)にぶい黄橙10YR7/2	石英・長石・チャート	再利用 瀬戸内系か
	10088		8L-6h	第8層	弥生土器 甕	I後半~ II前半	口径:24.0 器高:(13.3)	外)ハケ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ			外)浅黄2.5Y7/3 断)浅黄2.5Y7/4 内)淡黄2.5Y8/3	長石・石英・チャート	外)煤付着 内)炭化物付 着
29	10090		8L-6h	第9層	弥生土器 甕	I後半	口径:(25.0) 器高:(6.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ			外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰白10YR7/1 内)にぶい黄橙10YR7/3	石英・長石	瀬戸内系
	10091		8L-8g/ 8h	第9層	弥生土器 甕	I後半	器高:(4.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ			外)灰白2.5Y8/1 断)灰白10YR8/1 内)灰白10YR8/1	石英・チャート・雲母	

表48 03-1-1 区土器・土製品観察表(6)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
32	10093			第10面 127土坑	弥生土器 壺	I-4~II -1	口径:(29.7) 器高:(17.0)	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10095		8L-6g/ 6h	第10面 129溝	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(6.5)		外)ナデ 内)ナデ		外)暗灰黄2.5Y4/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10096			第10面 130溝	弥生土器 壺	I-2~4	器高:(5.0)		外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰白10YR7/2 内)灰白10YR7/2	長石・石英・チャート	
34	10097		8L-7h	第10層	弥生土器 壺	I-3~4	口径:(32.0) 器高:(11.0)	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR6/2 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい黄橙10YR7/3	雲母・長石・石英	
	10098		8L-8h	第10層	弥生土器 壺	I-3~4	口径:(21.4) 器高:(10.9)	外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ			外)灰黄褐10YR4/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10100	13		第11面 160落ち 込み	弥生土器 壺	I-2~3	口径:(15.4) 最大径:25.5 底径:7.4 器高:24.9	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
38	10101	13		第11面 165溝状 落ち込み	弥生土器 壺	I-1~2	口径:12.8 最大径:18.3 底径:7.5 器高:21.7	外)ハケ後ナデ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)黒褐10YR2/2 内)黒褐10YR2/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10102	6 13	8L-9h	第11層	弥生土器 壺	I-1~2	最大径:13.8 底径:4.8 器高:(12.8)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)浅黄橙10YR8/3 断)浅黄橙10YR8/3 内)浅黄橙10YR8/3	チャート・石英・長石 外)黒斑	
	10103	6 13	8L-8h	第11-2面 171溝状 落ち込み	弥生土器 壺	I-1~2	口径:14.0 最大径:34.0 器高:(19.7)	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ		外)褐7.5YR4/4 断)灰白10YR7/1 内)黒褐7.5YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母 外)黒斑	
	10104			第12面 170溝状 落ち込み	弥生土器 壺	I-2~ 3?	最大径:17.7 器高:(9.1)		外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)褐灰10YR4/1 断)灰黄褐10YR4/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10105			第12面 170溝状 落ち込み	弥生土器 甗	I後半~ II前半	口径:(18.7) 器高:(8.3)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	10106			第12面 170溝状 落ち込み	弥生土器 壺あるいは甗	I?	器高:(3.8)	外)ミガキ	内)ナデ後ミガキ		外)浅黄橙7.5YR8/3 断)浅黄橙7.5YR8/3 内)浅黄橙7.5YR8/3	石英・長石・チャート	

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(1)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
45	20001	72	8L-9j	第0層	土人形 (型抜き) (地藏菩薩 座像)		器高:(5.1)					外)灰白10YR8/2 断)こぶい、黄橙10YR6/4	密	表面に離れ砂 雲母付着
	20003	72	9M-3a	第0層	瓦 軒丸瓦	18世紀	瓦当径:(14.0) 長:(9.3) 厚:1.7		凸)ナデ 凹)ナデ			凸)灰N5/ 凹)灰5Y6/1 凹)灰白N5/ 凹)灰N6/ 外)暗赤灰5R4/1 内)青灰5PB5/1	長石・雲母	
	20004	72	8L-9h	第0層	須恵器 杯蓋	TK23~ 47	口径:(12.3) 最大径:(12.5) 器高:5.1	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ナデ、 回転ヘラケズリ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ		外)灰7.5Y4/1、灰白N7/ 断)灰白N7/ 内)灰白N7/	密	外)別個体の 破片付着、 一部自然釉
	20005	72	8L-9h	第0層	須恵器 杯蓋	TK23	口径:(12.1) 最大径:(12.3) 器高:4.3	外)回転ヘラケ ズリ後ナデ 内)回転ヘラケ ズリ後ナデ	外)回転ヘラケ ズリ後ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ		外)灰N4/、灰白N7/ 断)灰N5/、灰N6/ 内)灰白N7/	密	
	20006			第0層	須恵器 杯身	TK23	口径:(10.8) 底径:(6.0) 最大径:(13.1) 器高:(5.0)	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ後ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ		外)灰N6/ 断)灰白N8/ 内)灰白N7/	密	
48	20009	72	8M-8a	第1層	須恵器 甌	TK47~ 10	最大径:9.6 器高:(11.1)	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ、回転ヘラ ケズリ後ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ 内)回転ナデ		外)灰N6/、灰白N8/ 断)灰白N8/ 内)灰N5/	密	
	20010	72	8M-8a	第1層	須恵器 甌	TK10新	最大径:10.2 器高:(7.7)	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ後ナデ 内)回転ナデ	外)回転ヘラケ ズリ後ナデ 内)回転ナデ		外)こぶい、橙7.5Y6/4 断)こぶい、橙7.5Y7/4 内)橙7.5Y7/6	密	山陰系
	20011	72	8M-8a	第1層	土製支脚	庄内~布 留式期	器高:(9.4)		外)タタキ、指頭 圧痕 内)シボリメ			外)こぶい、橙7.5Y6/4 断)こぶい、橙7.5Y7/4 内)橙7.5Y7/6	長石・石英	
55	20012	73	8L-10j	第3層	弥生土器 壺	V	最大径:(12.9) 器高:(10.8)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ			外)浅黄2.5Y7/3 断)浅黄2.5Y7/3 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英・雲母	内)漆付着
	20013	73	9L-1h	第3層	弥生土器 小形壺	V	口径:(7.9) 底径:3.3 最大径:8.5 器高:10.5	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・雲母	
	20014		8L-10h	第3層	弥生土器 高杯	V前半?	口径:(11.8) 器高:(10.0)			外)ナデ 内)ナデ		外)灰白10YR8/2 断)灰白10YR8/1 内)こぶい、橙7.5YR6/4	長石・石英	外)黒斑
20015		8L-10i	第3層	弥生土器 鉢	IV-1~3	器高:(4.3)	外)ナデ 内)ハケ	外)ハケ 内)ハケ			断)灰黄褐10YR6/2 内)褐灰10YR4/1	長石・石英		

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(2)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
55	20016		8L-9j	第3層	弥生土器 壺	Ⅲ-2	器高:(1.9)	外)ナデ 内)ナデ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)褐灰10YR4/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20018		8L-10j	第3層	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(5.1)	外)ナデ		外)灰白10YR8/2 断)灰白10YR8/1 内)灰白10YR8/1	長石・石英		
													20019
60	20024	73	8L-10i/ 他	第4面 176溝	弥生土器 甕	V-3	口径:13.55 底径:[4.2] 最大径:14.8 器高:18.4 器高:(3.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)タタキ後ハケ 内)ハケ	外)ナデ 内)ナデ	外)灰黄2.5Y6/2 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)灰黄2.5Y7/2	長石・雲母	
													20025
	20026		8L-10i/ 他	第4面 176溝	弥生土器 壺	Ⅲ-1	器高:(9.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
													20027
61	20029		8L-10i/ 他	第4面 176溝	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(4.1)	内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰白10YR7/1 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
													20030
	20031	73	8L-10i/ 他	第4面 185溝	弥生土器 台付鉢	Ⅳ-3	器高:(6.4)	内)ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
													20032

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(3)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
61	20033	73	9M-2c	第4層	弥生土器 水差	IV	器高:(7.1)		外)ハケ、ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)にぶい橙7.5YR7/4 断)浅黄橙7.5YR8/3 内)浅黄橙7.5YR8/3	長石・チャート?	把手
	20034		9M-2a	第4層	弥生土器 高杯	IV前半	口径:16.1 器高:(3.8)		外)ナデ、ミガキ 内)ヘラケズリ		外)橙2.5YR6/6 断)にぶい橙5YR6/4 内)にぶい橙5YR6/4	長石・石英	外)赤変 内)赤変
64	20035	73	8M-10c	第4層	弥生土器 小形壺		口径:4.5 最大径:5.8 器高:(7.0)	外)ミガキ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰白10YR8/2 内)灰黄褐10YR6/2	長石・石英	外)煤付着
	20037	74	8L-8/ 他	第5面 207溝上 面	弥生土器 小形鉢	I	口径:[11.0] 底径:6.2 最大径:11.6 器高:10.8	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 第4面178溝 周辺
65	20038		9M-2b	第5面 220土坑	弥生土器 高杯	III-2~IV -1	器高:(7.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)褐7.5YR4/6 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)褐7.5YR4/6	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20039		9M-2b	第5面 226土坑	弥生土器 甕	IV前半	口径:[12.6] 最大径:[16.4] 器高:(10.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ、ハケ 後ナデ		外)にぶい橙7.5YR7/3 断)明褐灰7.5YR7/2 内)にぶい褐7.5YR5/3	長石・石英	外)赤変 内)赤変
65	20040		9M-2b	第5面 226土坑	弥生土器 台付壺	III-2~IV -1	最大径:16.6 器高:(10.1)	外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕			外)黒褐7.5YR3/1 断)にぶい黄橙19YR6/3 内)にぶい赤褐5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20041		9M-2b	第5面 226土坑	弥生土器 壺	II~III	器高:(5.8)	外)ハケ、ミガキ 内)ミガキ			外)灰褐7.5YR4/2 断)浅黄橙7.5YR8/3 内)灰白2.5Y7/1	長石・石英	外)赤変 内)赤変
65	20042		9M-2b	第5面 226土坑	弥生土器 壺	II~III	器高:(7.0)	外)ハケ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR4/2 断)にぶい橙7.5YR7/3 内)にぶい赤褐5YR5/4	長石・石英	外)赤変 内)赤変
	20043		9M-2b	第5面 226土坑	弥生土器 甕	IV-1~2	底径:7.8 器高:(4.3)	外)ミガキ 内)ナデ	内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR7/2 断)明褐灰7.5YR7/2 内)明褐灰7.5YR7/2	長石・石英	外)赤変 内)赤変
65	20044		9M-2b	第5面 226土坑	弥生土器 壺	II~III	底径:8.3 最大径:[30.0] 器高:(21.2)	外)ハケ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ	内)ナデ		外)にぶい褐7.5YR5/3 断)灰白10YR7/2 内)灰白10YR7/2	長石・石英	外)赤変、煤 付着 内)赤変
	20045		9M-2b	第5面 226土坑	弥生土器 壺	II	器高:(22.9)	内)ナデ			外)にぶい赤褐5YR5/4 断)にぶい橙5YR7/4 内)明赤褐2.5YR5/6	長石・石英	外)赤変 内)赤変
65	20046	74	8M-9b	第5層	弥生土器 鉢	IV-2~3	口径:[36.9] 最大径:38.0 器高:(7.2)	外)ナデ 内)ナデ	内)ハケ		外)にぶい橙7.5YR7/4 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)にぶい橙7.5YR7/3	長石・石英・雲母・チャート	外)赤変 内)赤変

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(4)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
65	20047	74	9M-2b	第5層	弥生土器 鉢あるいは 水差し	IV-2~3	器高:(7.6)		内)ナデ		外)灰白10YR8/1 断)灰白10YR8/1 内)灰白10YR8/1	長石・石英・雲母		
	20048		9L-1j	第5層	弥生土器 壺	IV-1~2	口径:[8.9] 器高:(15.4)	内)ナデ	内)ナデ、ハケ、 指頭圧痕		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰5Y5/1 内)灰5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20049	74	9M-1a	第5層	弥生土器 鉢	IV-1~2	口径:[27.4] 最大径:[28.2] 器高:(7.8)	外)ナデ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)黄灰2.5Y6/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y6/1	長石・石英	外)赤変 内)赤変	
	20050		8L-9j	第5層	弥生土器 鉢	IV-1~2	器高:(2.5)	外)ナデ 内)ナデ	内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20051		8L-9j	第5層	弥生土器 壺	II末~III 初頭	口径:[19.2] 器高:(6.3)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ		外)黒褐7.5YR1/3 断)灰褐5YR2/5 内)黒褐5YR1/3	長石・石英・チャート	外)煤付着	
	20052		8M-9a	第5層	弥生土器 壺	II末~III 初頭	口径:[23.2] 器高:(4.3)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ナデ、ハケ 内)ナデ		外)灰白2.5Y7/1 断)灰白2.5Y7/1 内)灰白2.5Y7/1	長石・石英		
	20053		8L-9j	第5層	弥生土器 壺	II末~III 初頭	口径:[24.5] 器高:(4.3)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ナデ、ハケ 内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR7/2 断)灰白10YR7/1 内)灰白10YR7/1	長石・石英		
	20054	74	8M-9a	第5層	弥生土器 壺	II末~III 初頭	器高:(2.6)	外)ナデ 内)ナデ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20055	74	9L-1j	第5層	弥生土器 壺あるいは 器台	IIかV	器高:(2.35)	外)ナデ 内)ハケ			外)黒褐10YR3/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰褐7.5YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変	
	20056	74	9L-1i	第5層	弥生土器 壺	II	器高:(6.9)			摩滅	外)褐灰10YR4/1 断)褐7.5YR4/3 内)褐7.5YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20057	74	8L-9j	第5層	弥生土器 蓋		口径:8.9 頂径:2.4 器高:3.9	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ハケ	外)ナデ	外)にぶい褐7.5YR5/3 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20058	27	75	9M-2b	第5層	弥生土器 甕	II	口径:15.1 底径:5.5 最大径:16.2 器高:24.4	外)ナデ	外)ハケ	外)ナデ、ケズ)	外)灰黄褐10YR6/2 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)全体煤付 着 内)煤付着
		内)ナデ							内)ナデ	内)ナデ				
	67	20063		9L-3i	第6面	弥生土器 壺	II末~III 初頭	底径:6.7 最大径:23.8 器高:(39.3)	外)ハケ 内)ハケ	外)ハケ 内)ハケ	内)ハケ	外)にぶい橙7.5YR6/4 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい橙7.5YR6/4	長石・雲母・赤色粒	外)黒斑

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(5)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
67	20064		9M-1c	第6面 壺	弥生土器	II	底径:9.8 最大径:39.5 器高:(46.3)		外)ハケ、ナデ 後ミガキ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR6/2 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい黄橙10YR7/3	雲母・長石・石英・赤色粒	
	20066		8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	IV-2~3	口径:[14.9] 器高:(4.8)	外)ハケ 内)ナデ			外)灰褐7.5YR4/2 断)褐灰10YR6/1 内)にぶい黄橙10YR7/3	長石・石英	外)煤付着
70	20067		8M-8a	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	III	器高:(4.8)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄2.5Y7/2 断)灰黄2.5Y5/1 内)明赤褐2.5YR5/6	長石・雲母	内)赤変
	20068		8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	IV-1	器高:(4.1)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
20069			8M-9a	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	IV-1	口径:[20.0] 器高:(6.1)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ミガキ			外)黒2.5Y2/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 20443と同一
	20070		9M-1a/1b	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	IV-1	口径:[25.8] 器高:(6.9)	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)黒5Y2/1 内)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
20071			8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層 鉢	弥生土器	III後半~ IV-1	器高:(7.3)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ調整 内)ナデ		外)にぶい褐7.5YR5/3 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)明褐7.5YR5/6	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20072	27 77	9M-2b	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	IV-1	口径:21.8 底径:6.6 最大径:35.4 器高:49.6	外)ナデ 内)ナデ、ハケ	外)ミガキ 内)ハケ		外)にぶい黄橙10YR6/4 断)黄褐2.5Y5/4 内)にぶい黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変、炭 化米・煤付着
71	20073	27 77	8M-8a	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	III-2~IV -1	口径:18.5 底径:9.7 最大径:33.9 器高:50.0	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ	外)ナデ、ミガキ 内)ハケ	内)ナデ	外)にぶい赤褐5YR4/3 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)褐7.5YR4/4	長石・石英	外)赤変 内)赤変
	20074		8M-9a	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	II末~III 初頭	口径:[30.8] 器高:(6.4)	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ、ハケ			外)にぶい橙7.5YR6/4 断)にぶい橙7.5YR6/4 内)にぶい橙7.5YR6/4	石英・長石	外)赤変 内)赤変
20075			9M-2b	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	II	口径:[19.4] 器高:(2.4)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ			外)にぶい黄橙10YR7/2 断)灰白10YR8/2 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英・雲母	淀川水系
	20076		8M-9a	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	II-3	口径:[22.2] 器高:(14.3)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕			外)灰黄2.5Y7/2 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英	
20077			8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層 壺	弥生土器	II~III初 頭	口径:[11.1] 最大径:[13.8] 器高:(11.6)	外)ナデ、ハケ	外)ハケ後ミガキ 内)ミガキ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄褐10YR4/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表(6)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考																																																																													
71	20078	76	8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層	弥生土器 甕	Ⅲ～Ⅳ前 半	口径:[14.6] 底径:5.4 最大径:16.1 器高:22.8	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ、ナ デ、指頭圧痕 内)指頭圧痕	内)指頭圧痕	外)黒10YR1.7/1 断)黒10YR2/1 内)黒10YR2/1	石英・長石	外)煤付着 内)煤付着																																																																													
														20079	8M-8a	第6面 252大溝 上層	弥生土器 高杯	Ⅲ-1～2	口径:[8.9] 器高:(9.8)	内)ナデ	内)ナデ	外)灰黄2.5Y7/2 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英																																																																			
																								20080	8M-9a	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:[7.2]	外)ハケ後ナ デ、ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR7/2 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)にぶい黄橙10YR7/2	長石・石英																																																										
																																	20081	9M-1a	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅰ-4	口径:16.5 底径:6.6 最大径:17.8 器高:28.6	外)ハケ後ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)灰黄2.5Y7/2 断)灰白2.5Y7/1 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・雲母・チャート 外)黒斑																																																
																																											20082	8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅰ-3～4	口径:[15.2] 器高:(5.9)	外)ナデ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ、ハケ スリ	外)灰黄褐10YR4/1 断)灰褐7.5YR4/2 内)にぶい赤褐5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変																																						
																																																					20083	8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅰ-3～4	器高:(2.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)褐灰10YR4/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒変																												
																																																															20084	8M-9a	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅰ-3～4	口径:[13.4] 器高:(7.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)浅黄2.5Y7/3 断)灰黄2.5Y7/2 内)浅黄2.5Y7/3	長石・石英・チャート?	外)黒斑																		
																																																																									20085	8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅰ-4	器高:(4.3)	内)ミガキ	外)灰黄褐10YR6/2 断)灰黄褐10YR6/3 内)にぶい黄橙10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母									
																																																																																		20086	8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅰ後半	器高:(6.9)	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/3 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母
20088	8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅰ-4	最大径:18.1 器高:9.8	外)ミガキ 内)ナデ	外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母																																																																																		
									20089	8M-10a/10b	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺	Ⅰ-1～2	器高:(6.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)黒褐10YR3/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母																																																																									
																		20090	8M-9a	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺蓋		口径:[9.5] 器高:(2.2)	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ、指頭 圧痕	外)にぶい黄橙10YR7/2 断)灰白10YR7/1 内)にぶい黄橙10YR7/2	石英・長石・チャート?																																																																

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(7)

図番号	遺物番号	写真図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考
72	20091		8M-9a	第6面 252大溝 上層	弥生土器 壺蓋		口径:[9.2] 器高:(0.9)		外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR6/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)黒褐10YR3/1	石英・長石	内)全体黒変
	20093	8M-9a	第6面 252大溝 上層	弥生土器 鉢	I-4~II -1?	口径:[5.1] 器高:(6.8)	外)ミガキ 内)ミガキ	内)ミガキ	外)浅黄2.5Y7/3 断)浅黄2.5Y7/3 内)褐灰7.5YR4/1	長石・石英・雲母			
													20094
	75	20111	8M-10a/10b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	IV前半	口径:[16.7] 器高:(4.6)	外)ナデ 内)ナデ		外)橙5YR6/6 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	長石	外)赤変 内)赤変	
													20112
	20113	8M-10a/10b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	III-2	口径:[14.6] 器高:(5.1)	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい、橙5YR6/4 断)にぶい、橙5YR6/4 内)にぶい、橙5YR6/4	長石・石英	外)赤変 内)赤変		
												20114	8M-10a/10b
	20115	8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	III-1	口径:[15.7] 器高:(3.8)	外)ナデ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR5/2 断)灰白10YR7/2 内)にぶい、黄橙10YR7/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変			
											20116	9M-1a/1b	第6面 252大溝 下層
20117	76 78	9M-1a/1b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	III-2	口径:[25.8] 最大径:[26.4] 器高:(35.8)	外)ナデ、ナデ 後ミガキ、指頭 圧痕 内)ナデ、ミガキ	外)ハケ、ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)黒褐10YR3/2 断)褐灰10YR5/1 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			
											20118	8M-9a	第6面 252大溝 下層
20119	78	8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	III-2	口径:(4.2)	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ		外)にぶい、橙7.5YR6/4 断)灰7.5Y5/1 内)にぶい、橙7.5YR6/4	長石・石英・雲母			

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表(8)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考										
75	20120		8M-10a/10b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 鉢	Ⅲ	口径:[21.6] 器高:(6.0)	外)ナデ 内)ナデ	内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR6/4 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母											
														20121		8M-10a/10b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 鉢	Ⅲ	口径:[21.7] 器高:(4.0)	外)ハケ、ハケ 後ナデ 内)ナデ		外)灰白10YR8/2 断)褐灰10YR5/1 内)灰白10YR8/2
	20122		8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 高杯	Ⅲ	口径:[18.0] 器高:(3.8)	内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変												
												20123											
	76	20124	78	8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	Ⅲ初頭	器高:(5.0)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)浅黄橙10YR8/3 断)浅黄橙10YR8/3 内)浅黄橙10YR8/3	長石・石英・雲母・チャート 淀川水系												
20125												78	8M-10a/10b		第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:[22.7] 器高:(3.5)	外)ハケ 内)ハケ	外)にぶい黄橙10YR7/3 断)にぶい橙7.5YR6/4 内)にぶい黄橙10YR7/3	長石・石英・雲母・チャート 淀川水系		
	20126		9M-1a/1b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	Ⅱ後半	最大径:[48.6] 器高:(40.6)	内)ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR7/3 断)灰白10YR8/2 内)にぶい黄橙10YR7/2	石英・長石・雲母 淀川水系												
20127												76 78	9M-1b		第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:[14.3] 最大径:[51.0] 器高:(28.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ、ハケ	外)灰黄褐10YR6/2 断)灰白10YR8/2 内)にぶい黄橙10YR7/3	長石・石英・チャート 淀川水系	
	77	20128	9M-1a/1b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	Ⅱ-1	口径:[15.8] 最大径:[16.1] 器高:(24.8)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ハケ、 ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)黒褐2.5Y3/1 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母 外)黒変 内)黒変												
20129													8M-10a/10b		第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(4.5)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ		外)黒褐7.5YR3/1 断)灰褐7.5YR4/2 内)灰褐7.5YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母 外)黒変 内)黒変	
	20130		9M-2b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(7.2)	内)ナデ		外)灰黄褐10YR4/2 断)褐灰10YR6/1 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母 外)黒変 内)黒変												
20131													8M-10a/10b		第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺		器高:(10.0)			外)褐灰10YR4/1 断)褐灰10YR5/1 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母 外)黒変 内)黒変	
	20132		8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:4.2 器高:(7.2)	外)ナデ 内)ミガキ	外)ナデ 内)ミガキ	外)黒褐2.5Y3/1 断)黒褐2.5Y3/1 内)黒褐2.5Y3/1	長石・石英 外)黒変 内)黒変												

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(9)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
77	20133	8M-9a	8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I～II?	底径:6.9 最大径:[16.8] 器高:(9.2)		外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR6/2 断)黄灰2.5Y5/1 内)黒N2/ 外)灰白10YR8/2 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)灰黄褐10YR5/2	長石・石英・雲母・チャート 長石・石英	内)黒変
	20134	8M-10a/10b	8M-10a/10b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	II後半?	口径:[23.4] 器高:(6.5)	外)ナデ 内)ナデ			外)黄灰2.5Y4/1～ 黄灰2.5Y6/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黄灰2.5Y6/1 外)黒褐2.5Y3/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)黒褐2.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20135	9M-2b	9M-2b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I-4	口径:[18.4] 器高:(9.5)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2～ 褐灰10YR4/1 内)灰黄褐10YR5/2～ 褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	近江～淀川 水系
	20136	8M-9a/10a/他	8M-9a/10a/他	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I末～II 初頭	口径:[25.2] 器高:(14.9)	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ、ミガ キ、ハケ後ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2～ 褐灰10YR4/1 内)灰黄褐10YR5/2～ 褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒斑
	20137	8M-10a/10b	8M-10a/10b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I-4	器高:(14.1)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2 褐灰10YR4/1 内)灰黄褐10YR5/2～ 褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	20138	8M-10a	8M-10a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I-3～4	底径:7.5 最大径:18.6 器高:(23.8)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ハケ、ケズリ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰褐7.5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	20139	8M-9a	8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I-3～4	器高:(3.2)		内)ナデ		外)灰黄褐10YR5/2 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	突帯に異種粘 土
	20140	8M-9a	8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I-2	器高:(3.5)		外)ナデ 内)ナデ		外)灰5Y5/1 断)灰5Y5/1 内)灰5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20141	9M-2b	9M-2b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I-1～2	器高:(2.3)		内)ナデ		外)灰黄褐10YR4/2 断)褐灰10YR4/1 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20142	8M-9a	8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I-1～2	器高:(2.6)		内)ナデ		外)黄灰2.5Y4/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐2.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20143	8M-9a	8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I?	器高:(3.3)		内)ナデ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
78	20144	8M-8a	8M-8a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 甕	I	器高:(10.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ、ハケ 後ナデ	外)灰7.5Y5/1 断)灰7.5Y5/1 内)灰黄褐10YR5/2	長石・石英・赤色粒	外)煤付着	
	20145	8M-9a/10a/他	8M-9a/10a/他	第6面 252大溝 下層	弥生土器 甕	I-3～4	口径[34.8] 器高:(7.1)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	外)にぶい橙7.5YR6/4 断)にぶい灰黄褐10YR6/2 内)にぶい橙7.5YR6/4	長石・石英・雲母	外)赤変、煤 付着 内)赤変	

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (10)

図番号	遺物番号	写真図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
78	20146		8M-10a/10b/他	第6面 252大溝 下層	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[34.6] 最大径:[36.8] 器高:[26.4]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい、褐7.5YR5/4 断)灰N5/ 内)灰褐7.5YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20147		9M-1a/1b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 甕	I-3~4	器高:[6.3]	内)ナデ	内)ナデ		外)にぶい、褐7.5YR6/3 断)灰褐7.5YR6/2 内)にぶい、褐7.5YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20148		8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 甕	I-3~4	器高:[3.4]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ		外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)にぶい、黄褐10YR5/3 内)にぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	瀬戸内系
	20149		9M-1a/1b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 甕	I-3~4	器高:[4.8]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)にぶい、黄橙10YR6/3 内)にぶい、黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 瀬戸内系
	20150		8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 (底部)	I?	口径:[11.8] 器高:[6.5]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	内)ナデ	外)暗灰黄2.5Y4/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	20151	78	8M-9a/10a/9b/他	第6面 252大溝 下層	弥生土器 鉢?		口径:[13.7] 器高:[3.8]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)ケズリ 内)ケズリ	外)黄褐2.5Y5/3 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	20152		9M-1a/1b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺蓋	I	口径:[10.5] 器高:[1.1]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)灰5Y4/1 内)にぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20153		9M-2b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 壺	I-3~4	口径:4.8 器高:[4.2]	内)ナデ	内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい、褐7.5YR5/4 断)にぶい、黄橙10YR6/3 内)褐7.5YR4/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20154	78	8M-8a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 鉢あらい、 は小形甕		口径:[8.3] 口径:5.85 最大径:9.4 器高:11.75	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)ナデ、指頭 圧痕	外)灰黄2.5Y6/2~ 暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄褐10YR4/2	長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	20155		9M-2b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 転用紡錘 車	I-1~2	径:4.5~4.7 厚:0.9 第孔径:0.5	外)ナデ	外)ナデ		外)灰黄褐10YR4/2 断)にぶい、黄褐10YR5/3 内)にぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20156		8M-9a	第6面 252大溝 下層	弥生土器 転用土製 円板		径:4.9~5.2 厚:0.7	外)ハケ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	上面)煤付着
	20157		9M-2b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 転用土製 円板		径:3.8 厚:0.8	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)にぶい、黄褐10YR5/3 内)にぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20158		9M-2b	第6面 252大溝 下層	弥生土器 転用土製 円板		径:3.7~3.9 厚:1.1	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい、黄橙10YR7/2 断)にぶい、黄橙10YR7/2 内)にぶい、黄橙10YR7/2	長石・石英	

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(11)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
94	20370	27	8M-10a	第6面 252大溝 北法面	弥生土器 壺	Ⅲ初頭	口径:13.0 底径:6.2 最大径:18.7 器高:25.2	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ハケ、ミガキ 内)ナデ、ハケ	外)ナデ 内)ハケ	外)にぶい黄橙10YR7/2 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)灰黄褐10YR6/2	雲母・長石・石英・黒色粒 (チャート?)	外)煤付着 摂津系か
		76	9M-1a/1b	第6面 252大溝 北法面	弥生土器 壺	Ⅱ後半	口径:[27.4] 器高:(9.2)	外)ナデ、ハケ 内)ハケ、ミガキ		外)ハケ後ナデ、 ミガキ 内)ミガキ	外)灰黄2.5Y7/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英・チャート・赤色 粒	摂津系
		83	9M-2b	第6面 252大溝 北法面	弥生土器 高杯	Ⅱ	口径:9.4 器高:(6.9)			外)ハケ後ナデ、 ミガキ 内)ミガキ	外)灰褐7.5YR4/2 内)灰黄褐10YR5/2 内)灰褐7.5YR4/2	雲母・長石・石英	外)内)赤変、 黒変
	20373		9M-2b	第6面 252大溝 北法面	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(5.4)		内)ナデ後ミガキ		外)暗オリーブ灰2.5GY3/2 断)灰オリーブ7.5Y4/2 内)暗灰N3/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
100	20374	76	9M-1a	第6面 252大溝 北法面	弥生土器 壺	I-3	口径:17.6 底径:6.5 最大径:19.3 器高:25.8	外)ハケ、ミガキ 内)ミガキ	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)ナデ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR6/2 断)灰白10YR8/2 内)灰白10YR8/2	長石・石英・雲母・赤色粒	外)黒斑
		83	8M-9a	第6面 252大溝 北法面	弥生土器 壺	I-2	口径:13.9 底径:7.4 最大径:23.6 器高:24.05	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 讃岐の影響か
			8L-9h/10h/ 他	第6面 237溝	弥生土器 壺	Ⅲ前半	口径:[5.3] 器高:(9.2)	内)ナデ			外)にぶい褐7.5YR6/3 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい、黄橙10YR7/3	長石・雲母	
	20394		8L-9h/10h/ 他	第6面 237溝	弥生土器 壺	Ⅱ?	器高:(4.9)	内)ナデ			外)明赤褐5YR5/6 断)褐灰10YR5/1 内)灰黄褐10YR5/2	長石・石英	
101	20395		8L-9h/10h/ 他	第6面 237溝	弥生土器 鉢	Ⅱ	器高:(6.6)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ			外)灰白10YR7/1 断)灰白10YR7/1 内)灰白10YR7/1	長石・チャート	
		84	8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 壺	Ⅲ後半~ Ⅳ-1	口径:15.0 器高:(17.25)	外)ナデ 内)ハケ、ハケ 後ナデ	外)ミガキ 内)ハケ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
			8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 甕	Ⅲ	口径:20.0 最大径:22.2 器高:(14.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ、ミガキ 内)ハケ		外)黒N2/ 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)全体煤付 着
	20400		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 壺	Ⅲ-1~2	口径:[29.6] 器高:(11.0)	外)ハケ、ナデ 後ハケ			外)灰黄褐10YR6/2 断)灰白10YR8/2 内)にぶい黄橙10YR7/2	長石・石英	石川流域
20401		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 壺	Ⅲ-1	口径:[11.7] 器高:(6.8)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR6/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい黄褐10YR5/3	長石・石英・雲母		

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(12)

図番号	遺物番号	写真図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考		
101	20402		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 壺	Ⅲ	最大径:[21.75] 器高:[12.5]		外)ミガキ 内)ナデ、ハケ、 指頭圧痕		外)褐7.5YR4/3 断)にぶい、褐7.5YR5/3 内)にぶい、黄橙10YR7/3	雲母・長石・石英	外)黒斑		
	20403	84	8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 水差	Ⅱ末~Ⅲ 初頭	口径:[9.4] 底径:[5.8] 最大径:[18.0] 器高:[24.0]	外)ハケ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ、ハケ、 指頭圧痕		外)黒N2/ 断)黒10YR2/1 内)黒10YR2/1	長石・石英	外)煤付着 摂津系		
	20404	84	8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 壺	Ⅱ-3	口径:[24.2] 底径:[7.0] 最大径:[25.2] 器高:[41.5] 器高:[22.0]	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ハケ、ミガキ 内)ハケ	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)灰黄2.5Y7/2 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄褐10YR6/2	長石	外)黒斑	
	20405	84	8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:[8.2] 底径:[4.55] 最大径:[14.6] 器高:[21.8]	外)ミガキ 内)ハケ				外)にぶい、橙7.5YR7/4 断)灰白10YR7/1 内)にぶい、橙7.5YR7/4	雲母・長石・石英・赤色粒	外)内)赤変 焼成後穿孔 和泉	
	20406	27 84	8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:[8.2] 底径:[4.55] 最大径:[14.6] 器高:[21.8]	外)ナデ 内)ナデ	外)ケズリ後ミガ キ 内)ナデ			外)にぶい、黄橙10YR7/2 内)にぶい、橙7.5YR7/4	長石・雲母・赤色粒	外)煤付着	
102	20407		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 甕	Ⅱ末~Ⅲ 初頭	口径:[24.8] 器高:[7.3]	外)ナデ、ハケ 後ナデ 内)ハケ	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ			外)灰白2.5Y7/1 断)灰白2.5Y7/1 内)暗灰2.5Y5/2	長石・石英・雲母・角閃石	外)煤付着	
	20408		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 甕	Ⅱ	口径:[18.7] 器高:[8.0]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ			外)にぶい、橙7.5YR6/4 断)にぶい、黄褐10YR6/3 内)灰褐7.5YR4/2~ 黒褐10YR3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母 赤色粒	外)赤変、煤 付着	
	20409		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 甕	Ⅰ~Ⅱ初 頭	器高:[8.7]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ			外)暗灰N3/ 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着	
	20410		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 壺	Ⅰ-3~4	口径:[21.6] 器高:[5.9]	外)ハケ後ナデ 内)ナデ、ハケ、 ミガキ				外)明赤褐5YR5/6 断)にぶい、橙7.5YR6/4 内)明赤褐5YR5/6	長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変	
	20411		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 甕	Ⅰ後半	器高:[6.9]	内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ			外)にぶい、黄褐10YR4/3 断)褐灰10YR6/1 内)にぶい、黄褐10YR4/3	石英・長石・雲母・チャート		
	20412		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 甕蓋	Ⅱ?	頂径:[4.35] 器高:[5.7]		内)ナデ、ハケ			外)黒N1.5/ 断)灰白7.5Y7/1 内)黒N1.5/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
	20413		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 (底部)	Ⅱ	底径:[7.1] 器高:[6.2]	外)ハケ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	長石・石英	焼成後穿孔
	20414		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 (底部)		底径:[8.0] 器高:[5.0]	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)指頭圧痕 内)ナデ			外)黒褐2.5Y3/1 断)灰褐7.5YR6/2 内)灰褐7.5YR6/2	長石・石英・雲母・赤色粒	

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(13)

図番号	遺物番号	写真図版	グッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
102	20415		8L-8/ 他	第6面 247溝	弥生土器 転用土製 円板		径:4.7 厚:0.7		外)ハケ 内)ナデ		外)褐灰10YR4/1 断)黒褐10YR3/1 内)褐灰10YR4/1	長石・石英・赤色粒	
103	20420		8M- 9b/10b/ 他	第6面 255溝	弥生土器 壺	III-1	口径:[32.0] 器高:(5.3)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄橙10YR7/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20421		8M- 9b/10b/ 他	第6面 255溝	弥生土器 壺	II末	器高:(6.0)	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ			外)黄灰2.5Y4/1 断)灰5Y5/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20422		8M-10b	第6面 255溝	弥生土器 甕	II	器高:(8.0)	外)ハケ 内)ハケ	外)ハケ 内)ハケ		外)黒10YR2/1 断)褐灰10YR5/1 内)褐灰10YR5/1	長石・石英・雲母	20834と同一 淀川水系
104	20425		9M- 1b/1c	第6面 258土坑	弥生土器 壺	III-2	口径:[15.2] 器高:(6.5)	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒変
	20426		9M- 1b/1c	第6面 258土坑	弥生土器 甕	III-2	口径:17.4 最大径:[19.6] 器高:(12.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ハケ、ミガ キ、指頭圧痕		外)暗灰N3/ 断)黄褐2.5Y4/1 内)黄灰2.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
105	20428		8L-9/ 10i/9j/ 10j	第6面 242落ち 込み	弥生土器 壺	III-1	口径:[12.0] 器高:(4.4)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄2.5Y6/2 断)にぶい黄2.5Y6/3 内)にぶい黄2.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
106	20430		9L-1i	第6面 233高まり 内	弥生土器 鉢	IV-1~2	口径:[26.6] 最大径:[28.0] 器高:(5.3)	外)ナデ 内)ナデ	内)ナデ、ハケ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい橙7.5YR6/4	雲母・長石・石英	20779と同一
	20432		9L-1j	第6面 240高まり 内	弥生土器 壺	II	器高:(1.7)	外)ナデ 内)ナデ			外)褐灰10YR4/1 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)褐灰10YR5/1	雲母・長石・石英	
	20433		9L-1j	第6面 240高まり 内	弥生土器 甕	II	口径:[20.0] 器高:(11.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)黒褐2.5Y3/2 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	20435	84	8L-9j	第6面 250高まり 内	弥生土器 高杯	II末~III -1	口径:18.6 器高:(7.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ハケ後ナデ		外)橙5YR6/6 断)にぶい橙7.5YR6/4 内)橙5YR6/6	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20436		8L-9j	第6面 250高まり 内	弥生土器 甕	II	器高:(4.4)	外)ハケ 内)ハケ			外)にぶい黄褐10YR5/4 断)青灰5B5/1 内)にぶい黄褐10YR7/4	長石・石英・雲母	外)煤付着 大和型(淀川 水系か)
	20437		8L-9j	第6面 250高まり 内	弥生土器 甕	II	底径:5.4 器高:(12.0)		外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR7/3 断)灰白10YR8/2 内)浅黄橙10YR8/3	長石・石英・チャート?	外)黒斑

表49 03-1-2 区 土器・土製品観察表 (14)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
106	20438	84	8L-9j	第6面 250高まり 内	弥生土器 鉢	II	口径:[21.4] 最大径:[21.8] 器高:(6.6)	外)ナデ 内)ハケ後ナデ	内)ハケ後ナデ		外)黒褐2.5Y3/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい黄橙10YR6/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20697と同一
	20442		9M-2b	第6面 251高まり 内	弥生土器 壺蓋	II~III初 頭	口径:[13.3] 頂径:1.1 器高:(2.85)	外)ハケ 内)ハケ	外)ハケ 内)ハケ	内)ハケ	外)黄灰2.5Y6/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y6/1	長石・石英	紐孔
107	20443		8M-9b	第6面 253高まり 内	弥生土器 壺	IV-1	口径:[19.6] 器高:(7.5)	外)ナデ、ハケ、 ミガキ	外)ナデ、ハケ、 ミガキ		外)褐灰10YR4/1 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20069と同一
	20444		8M-9b	第6面 253高まり 内	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[24.6] 器高:(11.9)	外)ミガキ 内)ミガキ、指頭 圧痕	外)ミガキ 内)ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)褐灰10YR6/1 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
108	20445		8M-9b	第6面 253高まり 内	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(5.9)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ		外)黒2.5Y2/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黒褐2.5Y3/1	石英・長石・雲母	外)黒変 内)黒変
	20449		9M- 1b/1c	第6面 256高まり 内	弥生土器 壺	III-1~2	口径:[18.0] 器高:(10.7)	外)ハケ、ハケ 後ナデ 内)ナデ	外)ハケ、ハケ 後ナデ 内)ナデ		外)にぶい黄褐2.5Y6/3 断)にぶい黄褐10YR5/3、 灰N4/ 内)にぶい黄褐10YR5/3	長石・石英・雲母	外)黒斑 石川流域
109	20452		8M-9b	第6面 254・256 高まり内	弥生土器 壺	III-1~2	器高:(2.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄橙10YR6/3	長石・石英・雲母	
	20453		8M-9b	第6面 254・256 高まり内	弥生土器 鉢	III-1	器高:(4.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)褐灰10YR4/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)褐灰10YR6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
111	20454		8M-9b	第6面 254・256 高まり内	弥生土器 甕	II~III初 頭	口径:[12.8] 器高:(6.1)	外)ナデ 内)ハケ	外)ハケ 内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR6/3 断)褐灰10YR5/1 内)にぶい黄褐10YR6/3	長石・雲母	大和型
	20455		8M-9b	第6面 254・256 高まり内	弥生土器 甕	II	口径:[19.6] 器高:(4.0)	外)ナデ、ハケ 内)ハケ	外)ハケ 内)ナデ		外)灰白10YR8/1 断)灰黄2.5YR7/2 内)灰白10YR8/1	長石・石英	大和型の変容 形(淀川水系 か)
112	20462	86	8L-9h	第7面 261溝	弥生土器 壺	II	口径:[16.3] 底径:5.3 最大径:[19.6] 器高:26.65	外)ナデ、ナデ 後ミガキ 内)ナデ、ナデ 後ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ後ミガキ	内)ナデ	外)黒褐10YR3/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	20466		8L-8/ 9/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	IV-1~3	器高:(6.2)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ナデ、ハケ 内)ナデ		外)灰白10YR8/2 断)灰白2.5Y8/2 内)灰白10YR8/2	長石・石英・雲母、赤色粒	外)煤付着
20467			8L-8/ 9/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	III-1	器高:(4.2)	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ		外)灰白5Y7/1 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄2.5Y6/2	雲母・長石・石英	外)赤変 内)赤変

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(15)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリップ	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
112	20468	8L-8/ 9j/他	弥生土器 壺	第7面 267溝	弥生土器 壺	III-1	器高:(3.1)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄褐10YR5/3 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	雲母・長石・石英		
	20469	8L-8/ 9j/他	弥生土器 壺	第7面 267溝	弥生土器 壺	III-1	口径:[22.2] 器高:(13.0)	外)ナデ、ミガキ 内)ハケ、指頭 圧痕			外)灰黄褐10YR6/2 断)灰白2.5Y7/1 内)灰黄褐10YR5/2、黒5Y2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変	
	20470	8L-8/ 9j/他	弥生土器 壺	第7面 267溝	弥生土器 壺	II末~III 初頭	器高:(3.0)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)にぶい黄橙10YR7/2 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)褐灰7.5YR4/1	長石・角閃石		
	20471	86	9M-2a	第7面 267溝	弥生土器 壺	II後半~ III初頭	口径:13.5 底径:5.9 最大径:17.9 器高:23.25	外)ナデ、ミガキ 内)ハケ、ミガキ 後ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ、ハケ 後ミガキ	内)ハケ後ミガキ	外)にぶい黄褐10YR5/4 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
	20472	86	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 甕	III	口径:[14.8] 底径:[5.4] 最大径:[15.7] 器高:22.5	外)ナデ 内)ハケ	外)ハケ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)にぶい黄2.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
	20473	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 甕	III	口径:[14.7] 最大径:[16.2] 器高:(7.9)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ後ハケ			外)オリーブ黒5Y3/1 断)灰白10YR8/1 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着	
	20474	86	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 甕	III	口径:[19.9] 底径:6.7 最大径:22.6 器高:31.95	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、ハケ、 ミガキ 内)ミガキ、ナデ 後ミガキ	内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)にぶい黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変、煤 付着 内)煤付着	
	20475	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 鉢	III初頭	口径:[17.4] 最大径:[18.0] 器高:(5.0)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ				外)浅黄褐7.5YR8/4 断)黄灰2.5Y6/1 内)にぶい橙7.5Y7/4	長石・石英・雲母・赤色粒	外)赤変 内)赤変	
	20476	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 転用土製 円板	II	径:4.6 厚:1.0	外)ハケ 内)ナデ				外)にぶい黄橙10YR7/3 断)灰白10YR8/1 内)灰黄褐10YR6/2	長石・石英・雲母・チャート		
	113	20477	8L- 8j/9j/他	弥生土器 壺	第7面 267溝	弥生土器 壺	II	口径:[26.4] 器高:(8.5)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ			外)にぶい赤褐5YR5/4 断)褐灰10YR5/1 内)にぶい褐7.5YR5/4	長石・雲母	外)赤変 内)赤変 口縁)穿孔
	20478	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	II-2~3	弥生土器 壺	口径:[23.6] 器高:(6.5)	外)ナデ、ハケ、 指頭圧痕 内)ミガキ、指頭 圧痕			外)灰褐5YR4/2 断)灰7.5Y6/1 内)黄灰2.5Y4/1	長石・石英・雲母	外)赤変 内)黒変	
20479	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	II	弥生土器 壺	器高:(2.3)	外)ハケ 内)ハケ			外)灰黄2.5Y6/2 断)灰白5Y7/1 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			
20480	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	II	弥生土器 壺	口径:[12.2] 器高:(4.5)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい橙7.5YR7/4 断)浅黄橙7.5YR8/6 内)にぶい橙5YR7/4	長石・赤色粒	外)赤変 内)赤変		

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(16)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
113	20481		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	II	口径:[14.6] 器高:(6.1)	外)ナデ 内)ナデ			外)黒褐10YR3/2 断)灰黄10YR5/2 内)にぶい、黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20482	86	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	II	器高:(11.2)		外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20483		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	II	器高:(8.5)		内)ナデ		外)にぶい、黄橙10YR7/2 断)にぶい、黄橙10YR7/2 内)黄灰2.5Y4/1	長石・石英・チャート	
	20484	86	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	II	器高:(8.6)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄2.5Y7/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	石英・長石・雲母	
	20485		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 甕	II?	器高:(6.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)黒褐10YR3/1 断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	20486		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 鉢	II	口径:[22.3] 最大径:[23.0] 器高:(7.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20487	86	8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 把手付鉢	II	口径:[8.7] 器高:(4.5)		外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい、黄褐10YR4/3 断)にぶい、黄褐10YR4/3 内)黒10YR2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒変 板状把手
	20488		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 壺	I-3~4	最大径:[26.0] 器高:(8.7)		外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)にぶい、黄橙10YR6/3 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20489		9L-1j	第7面 267溝	弥生土器 壺	II	底径:[5.8] 最大径:[20.0] 器高:(16.9)		外)ミガキ 内)ミガキ、指頭 圧痕	内)ミガキ、指頭 圧痕	外)黒N1.5/ 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英	外)全体煤付 着
	20490		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(5.2)	内)ナデ	外)ナデ 内)ミガキ		外)灰黄褐10YR6/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20491		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(4.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰褐7.2YR4/2 断)灰褐7.2YR4/2 内)灰褐7.2YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20492		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(3.3)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒10Y2/1 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
	20493		8L-8/ 9j/他	第7面 267溝	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[24.6] 器高:(5.2)	内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)にぶい、赤褐5YR5/3 断)にぶい、赤褐5YR5/4 内)にぶい、橙7.5YR6/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変 瀬戸内系

表49 03-1-2 区 土器・土製品観察表 (17)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
116	20500	87	9L-2j	第7面 270落ち 込み	弥生土器 甕	II	口径:17.0 底径:[5.2] 最大径:17.6 器高:24.0	外)ナデ、ハケ 内)ハケ 圧痕	外)ハケ 内)ナデ、指頭 圧痕	内)ナデ、指頭 圧痕	外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 大和型
	20501	87	9L-2j	第7面 270落ち 込み	弥生土器 甕	II	口径:16.4 最大径:17.5 器高:(22.0)	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ後ミガキ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR4/2	長石・チャート	外)煤付着 内)煤付着
	20502	87	9L-2j	第7面 270落ち 込み	弥生土器 甕	II	口径:[26.6] 底径:[8.5] 最大径:31.2 器高:41.4	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)ナデ 内)指頭圧痕	外)灰黄2.5Y7/2 断)灰白2.5Y8/1 内)灰白5Y8/2	長石・チャート	外)黒斑、煤 付着 内)煤付着
	20504	87	9L-1j	第7面 271高まり 内	弥生土器 甕	III	口径:[16.0] 底径:5.4 最大径:15.8 器高:21.7	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ	外)灰黄褐10YR4/2 断)にぶい、褐7.5YR7/3 内)にぶい、褐7.5YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	20505	87	9L-1j	第7面 271高まり 内	弥生土器 甕	II後半	口径:[18.2] 最大径:17.4 器高:(22.1)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ハケ、ミガキ		外)明赤褐5YR5/6 断)にぶい、褐7.5YR5/4 内)褐7.5YR4/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変、煤 付着
	20506		9L-1j	第7面 271高まり 内	弥生土器 壺	II	口径:[20.0] 器高:(6.1)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ		外)黒褐10YR3/1 断)にぶい、赤褐5YR5/3 内)赤褐5YR4/6	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)赤変	
	20507		9L-1j	第7面 271高まり 内	弥生土器 壺	II	器高:(6.5)		外)ハケ 内)ナデ		外)にぶい、黄褐10YR5/2 断)にぶい、黄褐10YR4/3 内)にぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20508		西断面	第7層	弥生土器 壺	II後半	最大径:[21.1] 器高:(17.1)	内)ナデ、指頭 圧痕	内)ナデ、指頭 圧痕		外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)にぶい、黄褐10YR5/3 内)にぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20509	89	9L-1i	第8面 288溝	弥生土器 把手付鉢	I後半	口径:9.8 底径:4.9 最大径:10.1 器高:9.9	外)ナデ 内)ナデ	内)ナデ、ハケ 後ミガキ	内)ナデ後ミガキ	外)にぶい、黄橙10YR6/3 断)褐灰10YR4/1 内)にぶい、黄橙10YR6/3	長石・雲母・角閃石・ チャート	口縁)煤付着 外)赤変 内)赤変
	20510		8M- 8j/9j	第8面 297溝	弥生土器 壺	II	底径:[6.7] 器高:(7.0)		外)ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)ナデ 内)ナデ	外)黄灰2.5Y4/1 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・角閃石・雲母	
120	20513	89	8L-10j	第8面 291土坑	弥生土器 壺	II	口径:14.65 底径:5.15 最大径:17.4 器高:20.05	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ、ナデ 後ミガキ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)にぶい、黄2.5Y6/3 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)にぶい、黄褐10YR5/3	長石・雲母・角閃石	外)煤付着 内)黒斑、煤 付着
	20514		8L-10j	第8面 291土坑	弥生土器 壺	I	口径:11.0 器高:(8.75)		外)ミガキ 内)ナデ、ミガキ 後ナデ	内)ナデ	外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)にぶい、黄橙10YR6/3 内)にぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)煤付着

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (18)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
120	20515		8M-9b	第8面 300土坑	弥生土器 壺	Ⅱ末～Ⅲ	口径:[21.8] 器高:(18.2)	外)ナデ、ハケ	外)ハケ		外)灰白2.5Y7/1 断)褐灰10YR6/1 内)浅黄2.5Y7/3	長石・チャート		
								内)ナデ、ハケ 圧痕	内)ナデ、指頭					
								外)ナデ、ハケ	外)ナデ、ハケ、 指頭圧痕	外)ナデ	外)灰黄2.5Y6/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)浅黄2.5Y7/3	長石・雲母		
20516	89	8M-9b	第8面 300土坑	弥生土器 鉢	Ⅱ末～Ⅲ	口径:[10.8] 底径:[6.3] 最大径:[20.8] 器高:(18.65)	外)ナデ、ハケ	外)ミガキ		外)ハケ後ミガキ	外)にぶい黄2.5Y6/3 断)黄灰2.5Y5/1 内)にぶい黄2.5Y6/3	雲母・長石・石英		
							内)ナデ	内)ハケ後ミガキ	内)ナデ					
							外)ナデ、ハケ	外)ミガキ	外)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰白2.5Y7/1 内)にぶい黄2.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			
20517	89	8M-9b	第8面 300土坑	弥生土器 鉢	Ⅱ～Ⅲ	口径:[21.4] 底径:7.3 最大径:[22.0] 器高:17.2	外)ナデ、ミガキ	外)ミガキ		外)ハケ後ミガキ	外)にぶい黄2.5Y6/3 断)黄灰2.5Y5/1 内)にぶい黄2.5Y6/3	雲母・長石・石英		
							内)ナデ	内)ハケ後ミガキ	内)ナデ					
							外)ナデ、ハケ	外)ミガキ	外)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰白2.5Y7/1 内)にぶい黄2.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			
20518	20518	8M-9b	第8面 300土坑	弥生土器 壺	Ⅰ-3～4	口径:14.6 器高:(10.6)	外)ナデ、ハケ	外)ハケ後ミガキ		外)ハケ後ミガキ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰白2.5Y7/1 内)にぶい黄2.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
							後ミガキ	内)ナデ後ミガキ	内)ナデ					
							内)ナデ後ミガキ	外)ハケ後ナデ	外)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/4 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄褐10YR5/4	長石・雲母			
20519	20519	8M-9b	第8面 300土坑	弥生土器 甕	Ⅰ-3～4	器高:(6.3)	外)ナデ	外)ハケ後ナデ		外)ハケ後ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/4 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄褐10YR5/4	長石・雲母		
							内)ナデ	内)ナデ	内)ナデ					
							外)ナデ	外)ナデ、ミガキ	外)ナデ	外)にぶい黄褐10YR6/3 断)褐灰10YR4/1 内)灰黄褐10YR6/2	長石・石英	内)煤付着		
122	20520	89	南側溝	第8面 302土坑	弥生土器 壺	Ⅱ末～Ⅲ 初頭	口径:10.3 器高:(11.4)	外)ナデ	外)ナデ、ミガキ		外)にぶい黄褐10YR6/3 断)褐灰10YR4/1 内)灰黄褐10YR6/2	長石・石英		
								内)ナデ、ハケ	内)ナデ	内)ナデ				
								外)ナデ	外)ミガキ	外)ナデ	外)黒褐2.5Y3/1 断)灰5Y4/1 内)黒N1.5/、にぶい黄2.5Y6/3	長石・石英	外)煤付着 内)煤付着 蓋へ転用か	
20521	20521	89	8M-10b	第8面 302土坑	弥生土器 高杯	Ⅲ初頭	器高:(8.8)	外)ナデ	外)ミガキ		外)黒褐2.5Y3/1 断)灰5Y4/1 内)黒N1.5/、にぶい黄2.5Y6/3	長石・石英		
								内)ナデ	内)ナデ	内)ナデ				
								外)ナデ	外)ハケナデ	外)ナデ	外)黒褐2.5Y3/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	長石・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
20522	20522	89	8M-10b	第8面 302土坑	弥生土器 鉢	Ⅰ後半	口径:[9.0] 底径:3.95 最大径:9.4 器高:9.3	外)ナデ	外)ハケナデ		外)黒褐2.5Y3/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	長石・雲母		
								内)ナデ	内)ナデ	内)ナデ				
								外)ナデ	外)ミガキ	外)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑	
124	20526		9M-1b	第8面 317土坑	弥生土器 高杯	Ⅳ-1～3	口径:[25.8] 最大径:[26.4] 器高:(7.5)	外)ナデ	外)ミガキ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
								内)ナデ	内)ハケ、ミガキ	内)ナデ				
								外)ナデ	外)ミガキ	外)ナデ	外)黒褐2.5Y3/1 断)黒褐2.5Y3/2 内)黒褐2.5Y3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)炭化物付 着	
125	20528	90	9L-1h	第8面 284落ち 込み	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:5.1 最大径:14.5 器高:(22.35)	外)ミガキ	外)ナデ後ミガキ		外)にぶい褐7.5YR5/3 断)にぶい赤褐2.5YR5/4 内)灰黄褐10YR5/2	角閃石・雲母・長石・石 英・チャート	外)赤変、煤 付着 内)赤変 口縁)打欠き	
								内)ナデ後ミガ キ、指頭圧痕	内)ナデ後ミガ キ、指頭圧痕	内)ナデ				
								外)ナデ	外)ミガキ	外)ナデ	外)暗褐10YR3/3 断)にぶい黄橙10YR4/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
20529	90	8L-9i	第8面 290落ち 込み	弥生土器 甕	Ⅲ	口径:22.3 底径:7.2 最大径:24.3 器高:32.8	外)ナデ	外)ミガキ		外)ナデ	外)暗褐10YR3/3 断)にぶい黄橙10YR4/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
							内)ナデ、ミガキ	内)ナデ、ミガキ	内)ナデ					
							外)ナデ	外)ミガキ	外)ナデ					

表49 03-1-2 区 土器・土製品観察表 (19)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考
125	20530		8L-9j	第8面 290落ち 込み	弥生土器 甕	II末~III	口径:[19.3] 最大径:[20.8] 器高:[16.7]	外)ハケ 内)ナデ	外)ケズリ後ハケ 内)ナデ		外)黒N2/ 断)赤褐5YR5/3 内)灰黄褐10YR6/2	雲母・長石・石英・チャート	外)全体煤付 着
	20531		8L-10j	第8面 290落ち 込み	弥生土器 壺	II?	口径:6.5 最大径:[19.6] 器高:[13.95]		外)ナデ、ミガ キ、ケズリ後ミガ キ 内)ナデ	外)ケズリ 内)ナデ	外)にぶい褐7.5YR5/3 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)にぶい黄2.5Y6/3	長石・雲母・チャート	外)赤変、煤 付着 内)赤変、煤 付着
	20532	90	9M-3a	第8面 294落ち 込み	弥生土器 壺	III-1~2	口径:8.9 底径:5.5 最大径:16.8 器高:[23.45]	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ	外)ミガキ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ	外)灰黄2.5Y7/2 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄2.5Y7/2	長石・雲母・チャート	口縁)打欠き 撰津系か
	20533	90	9L-2j/ 3j/他	第8面 294落ち 込み	弥生土器 甕	III-1~2	口径:[12.3] 底径:4.4 最大径:[12.6] 器高:17.7	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR5/2 断)黄灰2.5Y5/1 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変、赤変 内)黒変、赤変
	20534		9L-2j/ 3j/他	第8面 294落ち 込み	弥生土器 壺	II?	口径:6.2 最大径:14.4 器高:[11.0]		外)ミガキ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)灰黄7.5Y7/2 断)灰白7.5Y8/2 内)灰白7.5Y8/2	長石・石英・雲母・チャート	外)煤付着
126	20535	90	9M-3a	第8面 294落ち 込み	弥生土器 壺	II後半	口径:4.5 最大径:14.6 器高:[27.65]	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ、ハケ 後ミガキ、指頭 圧痕	外)ミガキ 内)ナデ	外)灰黄2.5Y6/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20537		8L-9h	第8面 286高まり 内	弥生土器 甕	III初頭	口径:[15.1] 器高:[14.15]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)明赤褐5YR5/6 内)にぶい橙7.5YR6/4	長石・雲母・角閃石	外)黒斑、赤変 内)黒斑、赤 変、煤付着
	20538	90	8L-9h	第8面 286高まり 内	弥生土器 鉢	II	口径:[24.3] 最大径:[25.2] 器高:[15.25]	内)ナデ	外)ミガキ 内)ハケ		外)にぶい黄橙10YR6/4 断)にぶい褐7.5YR5/3 内)にぶい黄橙10YR6/3	長石・雲母	外)黒斑、赤変 内)黒斑、赤変
	20540		8L-9j	第8面 295高まり 内	弥生土器 壺	II	口径:[16.2] 器高:[21.2]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	20542		8M-10a	第8面 298高まり 内	弥生土器 (底部)	I~II?	口径:[11.5] 器高:[7.2]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/3 断)褐灰10YR4/1 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
127	20543	91	8M-10a	第8面 298高まり 内	弥生土器 鉢	II?	口径:[5.4] 底径:3.6 器高:[2.9]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい褐7.5YR5/3 断)灰黄2.5Y6/2 内)にぶい橙7.5YR6/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)内)赤変 小形土器へ 転用か?
	20545	91	8M-9a	第8面 298高まり 内	弥生土器 甕	II後半	口径:[2.8] 器高:[2.8]	外)ナデ、ハケ 内)ハケ			外)褐灰10YR4/1、 灰黄2.5Y7/2 断)灰N5/ 内)灰黄2.5Y7/2	雲母・長石・石英	外)黒変 近江~山城 系

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(20)

図番号	遺物番号	写真図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
128	20551	91	9M-2a/2b	第8面 299高まり 内	弥生土器 壺	II-3	口径:[31.4] 器高:[16.6]				外) 黄橙10YR5/3 断) 黄橙10YR5/3 内) 黄橙10YR5/3	雲母・長石・石英・角閃石	外) 赤変 内) 赤変	
									内)ミガキ	外) 褐灰10YR4/1 断) 褐灰10YR4/1 内) 褐灰10YR4/1	長石・石英・赤色粒	外) 赤変		
	20552	91	9M-2a	第8面 299高まり 内	弥生土器 壺	II末	口径:[10.0] 最大径:[35.2] 器高:[31.9]		外)ミガキ 内)ミガキ、ハケ 後ミガキ	内)ナデ	外) 黒5Y2/1 断) 黄褐10YR5/4 内) 黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 黒変	
									外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変	
	20553	92	9M-2a/3a	第8面 299高まり 内	弥生土器 蓋	I	口径:[8.2] 器高:[2.1]		外)ナデ	外)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変
									外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ、指頭 圧痕 圧痕	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変	
	20554	92	9M-2a/3a	第8面 299高まり 内	弥生土器 蓋	I	口径:[9.6] 最大径:[10.0] 器高:[3.25]		外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変
									外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ、指頭 圧痕 圧痕	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変	
	20555	92	9M-2a/3a	第8面 299高まり 内	弥生土器 鉢	I-4	口径:[11.9] 口径:[4.9] 最大径:[12.3] 器高:[6.5]		外)ナデ 内)ナデ後ミガキ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変
									外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ、指頭 圧痕 圧痕	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変	
	20556	92	9M-2a/2b	第8面 299高まり 内	弥生土器 鉢	I-4	口径:[14.2] 口径:[4.6] 最大径:[14.6] 器高:[11.8]		外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変 内) 赤変 焼成前穿孔 2ヶ所
									外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ、指頭 頭圧痕	外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰白2.5Y7/1~黄灰 2.5Y6/1 内) 明赤褐2.5YR5/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変 内) 赤変 焼成前穿孔 2ヶ所	
20567	36 93	8L-10h	第9面 329高まり 上面	弥生土器 壺		口径:[8.2] 口径:[5.2] 器高:[17.8] 最大径:[18.3]		外)ナデ 内)板ナデ、指 頭圧痕	外)ナデ 内)板ナデ、指 頭圧痕	外)ケズリ後ナ デ、ミガキ 内)ミガキ	外) 黄褐2.5Y5/3 断) 黄褐2.5Y5/3 内) 黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 黒斑、一 部赤変	
								外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ	外) 黄褐2.5Y5/3 断) 黄褐2.5Y5/3 内) 黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 黒斑、一 部赤変		
20568	36 93	8L-9i	第9面 331高まり 上面	弥生土器 壺あるい は鉢	II	口径:[10.7] 口径:[3.9] 器高:[11.7]		外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外) 灰黄褐10YR6/2 断) 灰黄褐10YR6/2 内) 灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変 内) 赤変	
								外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外) 灰黄褐10YR6/2 断) 灰黄褐10YR6/2 内) 灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変 内) 赤変		
20569	36 93	8L-10h	第9面 329高まり 上面	弥生土器 鉢	II	口径:[23.8] 口径:[6.8] 器高:[19.2]		外)ナデ 内)ナデ、ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外) 黄褐7.5YR7/3 断) 灰白7.5YR8/2 内) 黄褐7.5YR7/4	長石・石英・赤色粒	内) 黒変	
								外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外) 黄褐7.5YR7/3 断) 灰白7.5YR8/2 内) 黄褐7.5YR7/4	長石・石英・赤色粒	内) 黒変		
20570		8L-10j	第9面 331高まり 上面	弥生土器 壺	I-3	口径:[25.6] 口径:[13.0]		外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外) 浅黄橙10YR8/3 断) 黄橙10YR7/2 内) 黄橙10YR7/3	長石・石英・チャート	内) 黒変	
								外)ナデ、指頭 内)ナデ	外)ナデ、指頭 内)ナデ	外) 浅黄橙10YR8/3 断) 黄橙10YR7/2 内) 黄橙10YR7/3	長石・石英・チャート	内) 黒変		
132	20573	8L-10j/8M-10a	第9面 337溝 上面	弥生土器 壺	II末?	口径:[3.8] 器高:[3.8]		外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ		外)ナデ 内)ナデ	外) 暗灰黄2.5Y4/2 断) 灰N4/ 内) 黄褐7.5YR5/4	長石・雲母	上面) 赤変、 煤付着 頸部) 焼成前穿孔	
								外)ナデ、指頭 内)ナデ、指頭 布目圧痕 内)ナデ、ハケ	外)ナデ、指頭 内)ナデ、指頭 布目圧痕 内)ナデ、ハケ	外) 暗灰黄2.5Y4/2 断) 灰N4/ 内) 黄褐7.5YR5/4	長石・雲母	上面) 赤変、 煤付着 頸部) 焼成前穿孔		
20574		8M-2a	第9面 337溝	弥生土器 壺	II-2~3	口径:[7.1] 器高:[7.1]		外)ナデ、指頭 内)ナデ、指頭 布目圧痕 内)ナデ、ハケ		外)ナデ 内)ナデ	外) 浅黄2.5Y7/3 断) 浅黄2.5Y7/3 内) 黄2.5YR6/3	雲母・長石・石英		
								外)ナデ、指頭 内)ナデ、指頭 布目圧痕 内)ナデ、ハケ	外) 浅黄2.5Y7/3 断) 浅黄2.5Y7/3 内) 黄2.5YR6/3	雲母・長石・石英				

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(21)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
132	20575		8L-10j/ 8M-10a	第9面 337溝	弥生土器 壺	II-2	口径:[22.1] 器高:(5.2)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ			外)黒褐10YR3/1 断)にぶい黄橙10YR6/4 内)灰黄褐10Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
	20576		9M-3a	第9面 337溝	弥生土器 壺	II-2~3	口径:[12.6] 器高:(8.7)	外)ミガキ、ハケ 内)ナデ、ミガキ			外)灰白2.5Y7/1 断)灰黄2.5YR6/2	長石・石英	外)煤付着
	20577		8L-10j/ 8M-10a	第9面 337溝	弥生土器 壺	II	器高:(8.2)		外)板ナデ 内)板ナデ		外)にぶい黄褐10YR4/3 断)黄灰2.5Y6/1 内)にぶい黄2.5YR6/3	雲母・長石・石英	
	20578	93	8L-10j/ 8M-10a	第9面 337溝	弥生土器 壺	II	器高:(5.5)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)にぶい黄褐10YR5/4 断)にぶい黄褐10YR5/4 内)にぶい黄褐10YR5/4	長石・石英	
	20579		8L-10j/ 8M-10a	第9面 337溝	弥生土器 甕	II~III	口径:[27.0] 器高:(6.9)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ、 ミガキ			外)黒2.5Y2/1 断)灰7.5Y6/1、灰黄2.5Y7/2 内)灰N4/	長石・雲母	外)赤変、煤 付着 内)赤変
	20580		8M-2a	第9面 337溝	弥生土器 甕あるい は鉢	II	口径:[35.2] 器高:(8.7)	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)灰黄褐10YR6/2 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)灰黄褐10YR6/2	長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20581		8L-10j/ 8M-10a	第9面 337溝	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[22.0] 器高:(9.8)	外)板ナデ後ミ ガキ 内)板ナデ後ミ ガキ			外)黒褐2.5Y3/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	口縁)黒変
	20582		9L-1j/ 8M-1a	第9面 337溝	弥生土器 壺	I-2~3	口径:[14.6] 器高:(4.3)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ			外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)にぶい黄橙10YR6/3	長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20583		8L- 10j/8M- 10a	第9面 337溝	弥生土器 壺	I-4	器高:(7.2)	外)ミガキ 内)板ナデ、ミガ キ	外)ミガキ 内)板ナデ、ミガ キ		外)暗灰黄2.5Y4/2 断)にぶい黄2.5Y6/2 内)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20584	93	9L-1j/ 8M-1a	第9面 337溝	弥生土器 壺	I-1~2	器高:(3.3)		内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20585		8L-10j/ 8M-10a	第9面 337溝	弥生土器 把手付 鉢?	I-3~4	器高:(9.3)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、板ナ デ、ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	長石・石英・角閃石・雲母	
	20586	93	8L-9j	第9面 337溝	弥生土器 甕		口径:[7.6] 器高:(5.5)			外)ハケ 内)ナデ	外)褐7.5YR4/4 断)黒10YR1.7/1 内)褐7.5YR4/4~ 黒10YR1.7/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)炭化物付 着
	20587	93	9L-1j/ 8M-1a	第9面 337溝	弥生土器 (脚部)	I	口径:[7.0] 器高:(7.5)			外)ミガキ	外)暗灰黄2.5Y4/2 断)灰オリーブ5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)モミ漬か 内)赤色顔料 付着

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (22)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
136	20606		8M-9b/10b	第9面 343溝	弥生土器 壺	Ⅱ末～Ⅲ -1	口径:7.7 器高:(8.4)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ			外)灰黄2.5Y6/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)にぶい、黄橙10YR6/3	長石・雲母・角閃石	外)黒斑
	20607		8M-9b/10b	第9面 343溝	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:(19.4) 器高:(4.0)	外)ナデ、ミガキ 内)板ナデ後ミ ガキ			外)縹5YR6/6 断)灰黄2.5Y7/2 内)にぶい、縹7.5YR5/4	長石・雲母	外)赤変 内)赤変
139	20608		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	Ⅲ～Ⅳ-1	口径:(34.0) 器高:(3.8)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ハケ 後ミガキ			外)黒縹2.5Y3/1 断)黄縹2.5Y5/3 内)暗灰黄2.5Y5/2	長石・石英・雲母・角閃石	
	20609	95	8M-9a	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	Ⅱ～Ⅲ-1	口径:(27.0) 器高:(8.7)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)にぶい、黄縹10YR4/3 断)灰5Y4/1 内)暗縹10YR3/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
20610	20610		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	Ⅱ-3	口径:(29.0) 器高:(10.0)	外)ナデ、ハケ 後ミガキ 内)ミガキ			外)にぶい、黄縹10YR5/3 断)縹灰10YR4/1 内)にぶい、黄縹10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20611		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:(29.2) 器高:(8.7)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガ キ、指頭圧痕			外)黒縹7.5YR3/1 断)青黒5B2/1 内)にぶい、縹7.5YR6/4	雲母・長石・石英・角閃石	外)赤変
20612	20612		8M-9a/9b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	Ⅱ-2～3	口径:(26.3) 器高:(12.5)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ			外)黒2.5Y2/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y4/1	長石・石英・雲母・角閃石	20613と同一 内)煤付着、 器面剥離
	20613		8M-10a	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(25.6)	外)ミガキ 内)ハケ、板ナデ			外)黒縹10YR3/1 断)灰黄縹10YR4/2 内)灰黄縹10YR4/2	長石・石英・雲母・角閃石	20612と同一 内)煤付着、 器面剥離
20614	20614	95	8M-10a/10b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺		口径:(20.2) 器高:(10.0)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ			外)黒縹2.5Y3/1 断)灰5Y6/1 内)黄縹2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	20615		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺		器高:(6.7)		外)ミガキ 内)ミガキ、ナデ		外)黒N2/ 断)灰黄縹10YR6/2、灰5Y6/1 内)灰黄縹10YR6/2	雲母・長石・石英・角閃石	外)黒変
20616	20616	95	9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺		底径:4.85 器高:(28.85)	外)板ナデ後ミ ガキ 内)ナデ後ミガキ		外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄縹10YR5/2 内)灰黄縹10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	20617	95	9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺		器高:(7.3)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)暗灰N3/ 断)灰N5/ 内)暗灰N3/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
20618	20618		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺		器高:(6.3)		外)ナデ 内)ナデ		外)暗灰N3/ 断)暗灰N3、灰5Y6/1 内)灰5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
	20619		9M-1a/1b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺		器高:(5.3)		外)ナデ、ミガキ 内)ナデ		外)黄灰2.5Y5/1 断)灰白5Y/1 内)灰5Y6/1	長石・石英・チャート	

表49 03-1-2 区 土器・土製品観察表 (23)

図番号	遺物番号	写真図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
140	20620		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 蓋	II ?	直径:8.0 器高:(9.0)		外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ナデ	外)ナデ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)黄灰2.5Y4/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・赤色 粒	外)黒変 内)黒変	
	20621		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 甕	II	器高:(1.8)	外)ハケ 内)ハケ			外)黒5Y2/1 断)灰5Y5/1 内)黒5Y2/1	長石・石英	大和型	
	20622		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 甕		器高:(4.4)	外)ハケ 内)ハケ、ナデ			外)灰N4/ 断)灰N6/ 内)灰N5/	雲母・長石・石英	外)煤付着 大和型	
	20623	95	9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	I-4~II -1	器高:(3.2)	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ			外)にぶい 赭7.5YR5/4 断)にぶい 赭7.5YR5/3 内)にぶい 赤褐5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変	
	20624	95	9M-1a/1b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	I-4	口径:33.0 器高:(12.9)	外)板ナデ 内)ナデ、ハケ 後ミガキ			外)褐灰10YR5/1 断)褐灰10YR5/1 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	口縁)発泡 内)赤変	
	20625		9M-1a/1b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	I	器高:(3.8)	外)ナデ 内)ナデ			外)黄灰2.5Y5/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	発泡 外)赤変 内)赤変	
	20626	95	9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	I-3~4	最大径:(18.0) 器高:(11.9)	外)ミガキ、板ナ デ 内)ナデ			外)暗灰N3/ 断)灰白2.5Y7/1 内)黄灰2.5Y4/1	長石・チャート・黒色粒	外)煤付着 内)煤付着	
	20627		8M-10a/10b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	I-3~4	直径:(7.0) 器高:(14.9)	外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)ナデ 内)板ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 内)赤変	
	20628		9M-1a/1b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	I	器高:(7.7)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)褐灰10YR4/1 断)灰5Y6/1 内)灰5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・雲母・長石・石英		
	20629		8M-10a/10b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	I	器高:(8.4)	外)板ナデ、ミガ キ 内)板ナデ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y6/1	長石・石英・チャート	外)煤付着 内)赤色顔料 付着	
	20630		8M-9a/9b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 壺	I-4	器高:(5.8)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰白5Y7/1 断)灰白2.5Y8/2 内)灰N5/~灰白5Y7/0	長石・石英・チャート		
	20631		8M-10a/10b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 甕あるい は鉢	II	器高:(71.0)	外)ナデ、ハケ 内)ハケ後ナデ			外)褐灰10YR6/1 断)褐灰10YR5/1 内)灰黄褐10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変	
	20632		9M-2b	第9面 1397溝 上半	弥生土器 鉢	I ?	口径:(12.2) 底径:4.5 器高:8.7	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ後ナデ 内)ナデ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変	

表49 03-1-2 区 土器・土製品観察表 (24)

図番号	遺物番号	写真 図版	グッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
144	20644	96	8M-9a/9b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 高杯	III-1	口径:[15.8] 器高:(11.4)			外)ミガキ 内)ナデ、ハケ、 ミガキ	外)にぶい褐7.5YR7/3 断)黒褐10YR3/1 内)浅黄橙10YR8/4	雲母・長石・石英	外)煤付着 裾部内)煤付 着蓋へ転用か 外)煤付着
	20645		8M-9a/9b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 甕	II~III-1	口径:[14.6] 器高:(9.6)	外)ナデ 内)ハケ後ナデ、 指頭圧痕	外)ミガキ 内)ハケ後ナデ		外)黒10YR2/1 断)褐灰10YR4/1 内)黒褐10YR3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 内)黒斑
	20646		9M-1a/1b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 壺	II	口径:[31.1] 器高:(4.5)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰5YR4/0 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・角閃石・雲母	外)黒斑 内)黒斑
	20647		9M-2b	第9面 1398溝 下半	弥生土器 壺	II	器高:(3.1)	外)ナデ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ、ミガキ			外)黄灰2.5Y4/1 断)灰白2.5Y7/1 内)黄灰2.5Y4/1	長石・石英・赤色粒	
	20648	96	9M-1a/1b	第9面 1398溝 下半	弥生土器 壺	II	口径:4.9 器高:(22.6)		外)ミガキ 内)ミガキ、ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ、ナデ	外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑、煤 付着 内)煤付着
	20649		8M-9a/9b	第9面 1399溝 下半	弥生土器 壺	II	器高:(9.8)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)暗灰N3/0 断)灰黄褐10YR5/2 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤色顔料 残存
	20650		8M-9a/9b	第9面 1399溝 下半	弥生土器 壺	II	器高:(5.3)		外)ミガキ 内)ナデ後ミガ キ、指頭圧痕		外)黒褐7.5YR3/1 断)にぶい褐7.5YR6/3~ 褐灰7.5YR5/1 内)褐灰7.5YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20651		9M-1a/1b	第9面 1400溝 下半	弥生土器 甕蓋	I~II	口径:6.5 器高:(8.1)		外)板ナデ 内)板ナデ	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)黄灰2.5Y4/1 断)暗灰黄2.5Y4/2 内)黒褐2.5Y3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	20652	97	8M-9a/9b	第9面 1400溝 下半	弥生土器 甕	II	口径:[20.5] 口径:7.0 器高:21.5	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、ケズリ 後ナデ	外)ミガキ 内)指頭圧痕	外)赤黒2.5YR2/1 断)灰褐7.5YR5/2 内)黒褐7.5YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	20653	97	8M-8a/8b	第9面 1401溝 下半	弥生土器 鉢の把手	II	器高:(9.8)		外)ミガキ 内)板ナデ、指 頭圧痕		外)にぶい褐7.5YR6/3、 暗灰N3/ 断)にぶい褐7.5YR6/3、 黄灰2.5Y6/1 内)にぶい褐7.5YR6/3、 暗灰N3/~灰褐7.5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	板状把手
	20654	97	9M-2b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 鉢	I後半~ II?	口径:[13.2] 口径:5.8 器高:8.9	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ、指頭 圧痕	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄2.5YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 内)黒斑、赤 変

表49 03-1-2 区 土器・土製品観察表 (25)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
145	20655	97	8M- 10a/10b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[20.0] 器高:[23.8]	外)ナデ、ハケ、 ミガキ 内)ハケ、ナデ、 指頭圧痕	外)ハケ、ミガキ 内)ハケ、ナデ、 指頭圧痕		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)褐灰10YR6/1 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒色物質 付着 内)黒変
	20656		8M- 8a/8b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 壺	I-4	口径:[20.4] 器高:[14.6]	外)ミガキ 内)ミガキ			外)黒N2/ 断)灰5Y4/1 内)暗灰N3/～灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	20657		8M- 10a/10b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 壺	I-2~3	口径:[19.6] 器高:[5.5]	外)ミガキ 内)ミガキ			外)黒7.5YR2/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐10YR3/1	長石・石英・角閃石	外)黒変 内)黒変
	20658		9M- 1a/1b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 鉢	I-3~4	口径:[43.2] 器高:[20.5]	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変
	20659		8M- 10a/10b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 鉢	I-3~4	口径:[6.5]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20660		8M- 9a/9b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 把手付鉢	I-3~4	口径:[7.3]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰褐7.5YR5/2～暗灰N3/ 断)にぶい褐7.5YR5/3 内)灰褐7.5YR5/2～暗灰N3/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20661		8M- 9a/9b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 把手付鉢	I-3~4	口径:[8.5]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい黄橙5YR6/4 断)褐灰10YR5/1 内)にぶい赤褐2.5YR5/3	長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20662		8M- 9a/9b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 把手付鉢	I-3~4	口径:[6.2]	外)ハケ後ナデ、 ミガキ 内)ナデ、ミガキ			外)黄灰2.5Y6/1 断)灰黄2.5Y6/2 内)黄灰2.5Y6/1	長石・角閃石	
	20663	97	9M- 1a/1b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[22.0] 器高:[7.9]	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ	外)ナデ、ケズ り、指頭圧痕 内)ハケ		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)黄灰2.5Y5/1	長石・石英・雲母・赤色粒	紀伊系
	20664		9M- 1a/1b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 鉢	I-3~4	口径:[15.4] 器高:[7.3]	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄橙10YR5/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20665		9M- 1a/1b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 小形蓋	I-3~4	口径:[8.3] 器高:[3.0]	外)ナデ、ナデ 後ミガキ 内)ケズリ	外)ナデ後ミガキ 内)ハラケズリ、 ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)にぶい黄2.5Y6/3	雲母・長石・石英・チャート	外)黒変 穿孔
	20666	97	9M- 1a/1b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 小形鉢	I	口径:[7.5] 底径:4.8 器高:7.5	外)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ		長石・石英	
	20667		8M- 10a/10b	第9面 1397溝 下半	弥生土器 転用紡錘 車		径:4.7~5.0 厚:0.5~0.7 穿孔径:0.5	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR5/2 断)褐7.5YR4/3 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(26)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
157	20685		9M-1a	第9面 338高まり 内	弥生土器 壺	I-4	器高:(13.7)	外)ミガキ 内)ハケ後ミガ キ、ナデ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐2.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20686		9M-1a	第9面 338高まり 内	弥生土器 壺	I-4	器高:(9.4)		外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい赤褐5YR5/4 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい褐7.5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変	
	20687		9M-1a	第9面 338高まり 内	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(3.8)		外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR4/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	突帯に異種粘 土	
	20688		9M-1a	第9面 338高まり 内	弥生土器 壺	I~II	底径:(6.4) 器高:(7.5)			外)ハケ、ナデ 内)ナデ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20694	102	南御溝	第9面 338高まり 内	弥生土器 甕	II	口径:17.4 底径:(3.9) 器高:23.0	外)ヘラケズリ 内)ナデ ミガキ	外)ヘラケズリ後 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲 母・赤色粒	外)煤付着	
	20695		8M-9a/ 8L-9j	第9面 338高まり 内	弥生土器 甕	II	器高:(1.8)		外)ハケ 内)ハケ		外)灰白5Y8/1 内)灰白2.5Y8/1	雲母・長石・石英	淀川水系	
	20696		8M-9a/ 8L-9j	第9面 338高まり 内	弥生土器 甕	II	口径:(18.2) 器高:(7.1)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ			外)にぶい黄橙10YR7/3 断)にぶい黄橙2.5Y7/2 内)にぶい黄橙10YR7/2	長石・石英	淀川水系	
	20697		8M-9a/ 8L-9j	第9面 338高まり 内	弥生土器 鉢	II-1~2	口径:(21.6) 器高:(7.3)	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ			外)灰黄褐10YR4/2 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20438と同一	
	20698		8M-9a/ 8L-9j	第9面 338高まり 内	弥生土器 壺	I-3~4	口径:(28.8) 器高:(15.0)	外)ナデ 内)ナデ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	口縁)赤変	
	20699		8M-9a/ 8L-9j	第9面 338高まり 内	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(12.1)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑	
	167	20716	102	9M-2a	第9面 366高まり 内	弥生土器 壺		口径:(6.8) 底径:6.0 器高:20.7	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)ミガキ 内)ナデ	外)にぶい褐7.5YR5/4 断)にぶい黄橙2.5Y7/2 内)にぶい黄橙10YR7/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
		20717	102	9M-2a	第9面 366高まり 内	弥生土器 壺蓋		器高:(1.8)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)黒N/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
20718			9M-2a	第9面 366高まり 内	弥生土器 壺	I-3	器高:(4.4)		外)ナデ 内)ナデ		外)黄灰2.5YR6/1 断)灰白2.5Y7/1 内)黄灰2.5YR6/1	長石・石英・チャート		
20719			9M-2b	第9面 366高まり 内	弥生土器 壺	I後半~ II?	器高:(2.9)		外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR7/3 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)灰5Y5/1	長石・石英	外)赤変 内)赤変	

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(27)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
167	20721	102	9M-2b	第9面 366高まり 内	弥生土器 壺	II	底径:5.5 器高:(26.5)	外)ハケ	外)ハケ	外)ミガキ	外)黄橙10YR7/3	生駒山西麓産	外)赤変 内)赤変
								内)ナデ後ミガキ	内)ナデ	内)ハケ	断)にぶい橙7.5YR7/4 内)にぶい橙7.5YR7/4	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒	
	20722	102	9M-3b	第9面 366高まり 内	弥生土器 高杯	II-3~III -1	口径:[9.4] 器高:(7.6)	外)ナデ	外)板ナデ	外)ナデ	外)暗褐灰7.5YR7/2	長石・石英・赤色粒	外)赤変 内)赤変
								内)ナデ	内)ナデ	内)ナデ	断)灰褐5YR6/2 内)暗褐灰7.5YR7/2		
	20723		9M-3b	第9面 366高まり 内	弥生土器 甕	I末~II	口径:[22.6] 器高:(14.5)	外)ナデ	外)ミガキ	外)黒褐10YR3/1	外)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産	外)黒変
								内)ナデ	内)板ナデ、指 頭圧痕	内)板ナデ、指 頭圧痕	断)黒褐10YR4/1 内)褐灰10YR4/1	角閃石・長石・石英・雲母	
	20724		9M-2a	第9面 366高まり 内	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(2.8)	外)ナデ	外)ナデ	外)にぶい橙7.5YR6/4	外)にぶい橙7.5YR6/4	生駒山西麓産	瀬戸内系
								内)ナデ	内)ナデ	断)灰白10YR8/1 内)にぶい橙7.5YR7/3	角閃石・長石・石英・雲母		
	20725	102	9M-3b	第9面 366高まり 内	土製品 土鏝		長:(4.6) 径:1.9	ナデ	ナデ	外)灰N4/、灰白7.5Y7/1	外)灰白7.5Y7/1	長石・石英・黒色粒	焼成前穿孔
169	20727	103	8L-9i	第9面 334落ち 込み	弥生土器 壺	II	口径:[15.8] 底径:6.4 器高:30.3	外)ナデ	外)ハケ後ミガキ	外)にぶい黄橙10YR6/3	外)にぶい黄橙10YR6/3	長石・石英・チャート	外)煤付着
								内)ナデ、ミガキ	内)ハケ、ナデ、 ミガキ	内)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい黄橙10YR6/4	角閃石・長石・石英・チャート		
	20728		8L-10i	第9面 334落ち 込み	弥生土器 壺	II	器高:(1.7)	外)ナデ	外)ナデ	外)浅黄橙10YR8/3	外)浅黄橙10YR8/3	長石・石英・チャート	
								内)ナデ	内)ナデ	断)浅黄橙10YR8/3 内)浅黄橙10YR8/3			
	20729		8L-10i	第9面 334落ち 込み	弥生土器 壺	II	器高:(13.3)	外)ハケ後ミガキ	外)ハケ後ミガキ	外)にぶい黄橙10YR7/3	外)にぶい黄橙10YR7/3	長石・石英・雲母	
								内)ミガキ	内)ミガキ	断)にぶい黄橙10YR7/2 内)にぶい黄橙10YR7/2			
	20730	103	8L-9i	第9面 334落ち 込み	弥生土器 甕	III初頭	口径:[12.6] 器高:(14.6)	外)ミガキ	外)ミガキ	外)にぶい黄褐10YR5/3	外)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産	外)煤付着
								内)ナデ	内)ミガキ	断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	角閃石・長石・石英・雲母		
	20732	103	9L-1j	第9面 364落ち 込み	弥生土器 鉢	II	口径:18.0 底径:6.4 器高:15.1	外)ナデ後ミガキ	外)ミガキ	外)褐7.5YR4/4	外)褐7.5YR4/4	生駒山西麓産	外)煤付着 内)黒斑
								内)ミガキ	内)ミガキ、指頭 圧痕	断)灰褐7.5YR5/2 内)灰褐7.5YR5/2	角閃石・長石・石英・雲母		
20733	103	9M-1b	第9面 368落ち 込み	弥生土器 甕	II	器高:(6.6)	外)ハケ、ナデ	外)ミガキ	外)にぶい黄橙10YR6/3	外)にぶい黄橙10YR6/3	雲母・長石・石英・角閃石	大和型	
							内)ハケ、ナデ	内)ミガキ	断)褐灰10YR6/1 内)灰黄褐10YR6/2	角閃石・長石・石英・雲母			
20734		8M-1b	第9面 368落ち 込み	弥生土器 甕	II	器高:(3.6)	外)ハケ、ナデ	外)ハケ	外)黒褐10YR3/1	外)黒褐10YR3/1	長石・石英・雲母	外)煤付着 大和型	
							内)ハケ後ナデ	内)ハケ後ナデ	断)灰白5Y7/1 内)灰黄褐10YR4/2	角閃石・長石・石英・雲母			
171	20739		9L-1j	第9面 331高まり 内	弥生土器 壺	II	口径:[7.3] 器高:(6.9)	外)ナデ	外)ナデ	外)灰黄褐10YR5/2	外)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産	外)赤変 内)赤変
								内)ナデ	内)ナデ	断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR6/2	角閃石・長石・石英・雲母		

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(28)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考	
171	20740		8L-10j	第9面 331高まり 内	弥生土器 壺	II	器高:(4.2)	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕			外)灰黄褐10YR5/2 断)にぶい黄橙10YR5/3 内)にぶい黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20898と同一 か	
	20741	104	8L-10j	第9面 331高まり 内	弥生土器 鉢	II?	口径:18.4 底径:5.9 器高:8.3	外)ナデ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ、ハケ	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR5/3 断)にぶい黄橙10YR5/3 内)にぶい黄橙10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20742		9L-2j	第9面 331高まり 内	弥生土器 鉢	II	口径:[19.7] 器高:(10.1)	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)黄灰2.5Y4/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄橙2.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20743		9L-2j	第9面 331高まり 内	弥生土器 蓋		口径:9.2 器高:2.0	外)ナデ 内)ナデ		外)ナデ 内)指頭圧痕、 ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20744		8L-10j	第9面 331高まり 内	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[29.2] 器高:(30.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)暗灰黄2.5Y5/2~ 褐灰10YR4/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着	
	20745	104	8L-8i	第9面 331高まり 内	弥生土器 甕あるい は鉢	I-3~4	器高:(10.5)	外)ナデ 内)ナデ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)煤付着	
	20746	104	8L-9j	第9面 331高まり 内	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(5.5)		外)ナデ 内)ナデ		外)暗褐10YR3/3~ 灰白2.5Y7/1 断)灰黄褐10YR4/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	突帯に異種粘 土	
	20747	104	9L-1j	第9面 331高まり 内	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(3.8)		外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい橙7.5YR6/4 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)褐灰10YR6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20748		9L-1j	第9面 331高まり 内	弥生土器 鉢	I-4	器高:(4.2)	外)ナデ 内)ナデ			外)黒褐10YR3/1 断)灰黄褐2.5Y6/2 内)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	172	20756	104	9L-1i	第9面 363高まり 内	弥生土器 壺	II以降	器高:(4.2)		外)ナデ 内)ナデ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)にぶい黄褐10YR4/3 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒色物質 付着
		20760	105	8M-10b	第9層	弥生土器 壺	III-1	口径:[13.3] 器高:(7.4)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ミガキ			外)灰黄2.5Y6/2 断)灰5Y5/1 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	173	20761		8M-9b	第9層	弥生土器 壺	II末	口径:[11.0] 器高:(8.1)	外)ナデ 内)ミガキ			外)黒5Y2/1 ~ 灰5Y4/1 断)灰5Y4/1 内)黒5Y2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
20762		105	8M-9b	第9層	弥生土器 壺	II-3~III -1	口径:[5.6] 器高:(7.3)	外)ハケ 内)ナデ			外)灰黄褐10Y6/2 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲 母・赤色粒	擦糸文	

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(29)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
173	20763	8M-9b		第9層	弥生土器 甕	III-1	口径:[18.4] 器高:[16.8]	外)ナデ、ミガキ	外)ミガキ		外)灰5Y4/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤・炭化物付着	
								内)ナデ、ミガキ	内)ハケ後ミガキ		外)にぶい黄橙10YR7/2 内)灰白10YR8/2	長石・石英・雲母		
	20764	8M-9b		第9層	弥生土器 鉢	III	器高:[5.2]	外)ナデ				外)にぶい黄橙10YR7/2 内)灰白10YR8/2	長石・石英・雲母	
								内)ハケ後ナデ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変	
	20765	8M-9b		第9層	弥生土器 高杯	III-1	口径:[22.4] 器高:[6.7]	外)ミガキ	外)ミガキ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変	
								内)ナデ	内)ミガキ		外)灰黄2.5Y5/1~黒2.5Y2/1 断)灰N4/ 内)暗灰黄2.5Y5/2~ 黒2.5Y2/1	長石	外)煤付着 内)煤付着 端部)炭化物付着	
	20766	105	8M-9b		第9層	弥生土器 蓋	口径:[11.2] 頂径:3.5 器高:4.8	外)ハケ	外)ハケ			外)灰黄2.5Y5/1~黒2.5Y2/1 断)灰N4/ 内)暗灰黄2.5Y5/2~ 黒2.5Y2/1	長石	外)煤付着 内)煤付着 端部)炭化物付着
								内)ナデ	内)ナデ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰N5/ 内)黄灰2.5Y4/1	雲母・長石・石英・角閃石		
	20767	105	8M-1b		第9層	弥生土器 壺	器高:[20.1]	外)ナデ、ミガキ	外)ナデ、ミガキ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰N5/ 内)黄灰2.5Y4/1	雲母・長石・石英・角閃石	
								内)ミガキ	内)指頭圧痕、 ナデ		外)灰褐5YR5/2 内)褐灰10YR6/1 断)灰褐7.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変、黒斑	
176	20776	8M-9a		第9-2面 488溝	弥生土器 甕	II	器高:[6.5]	外)ハケ	外)ハケ			外)にぶい黄橙10YR7/2~ 橙2.5YR6/6 断)暗灰N3/ 内)にぶい橙7.5YR7/3	長石・雲母・黒色粒	外)赤変 淀川水系 20914と同一 カ
								内)ハケ、ナデ	内)ハケ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR4/2、灰5Y5/1 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20777	8M-9a		第9-2面 487土坑	弥生土器 壺	II	口径:[22.4] 器高:[11.7]	外)ナデ、ミガキ	外)ナデ、ミガキ			外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR4/2、灰5Y5/1 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
								内)ミガキ	内)ミガキ		外)黒褐2.5YR3/1 断)黒褐2.5YR3/1 内)黒褐2.5YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変	
	20778	8M-9a/10b		第9-2面 510土坑	弥生土器 壺	III-2	器高:[1.6]	外)ナデ	外)ナデ			外)黒褐2.5YR3/1 断)黒褐2.5YR3/1 内)黒褐2.5YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
								内)ナデ	内)ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20430と同一	
	20779	8M-10b		第9-2層	弥生土器 鉢	III~IV前 半	口径:[26.2] 器高:[6.7]	外)ナデ	外)ナデ			外)にぶい黄2.5Y6/3 断)褐灰10YR5/1 内)にぶい黄橙10YR6/4	長石・石英・雲母	
								内)ナデ	内)ナデ		外)にぶい黄2.5Y6/3 断)褐灰10YR5/1 内)にぶい黄橙10YR6/4	長石・石英・雲母		
	20780	106	8M-10b		第9-2層	弥生土器 壺	口径:[12.7] 器高:[8.4]	外)ナデ、ミガキ	外)ナデ、ミガキ			外)オリーブ黒5Y3/1 断)灰5Y4/1 内)灰5Y4/1	長石・石英・赤色粒	
								内)ナデ、ミガキ	内)ナデ		外)灰黄褐10YR6/2 断)灰N5/ 内)灰黄褐10YR6/2	雲母・長石・石英・角閃石	外)煤付着	
20781		8M-10b		第9-2層	弥生土器 壺	器高:[4.7]	外)ナデ、ハケ	外)ナデ、ハケ				雲母・長石・石英・角閃石	外)煤付着	
							内)ナデ、ハケ	内)ハケ						
20782		8M-9b		第9-2層	弥生土器 壺	口径:[20.8] 器高:[20.2]	外)ナデ、ハケ	外)ナデ、ハケ				雲母・長石・石英・角閃石	外)煤付着	
							内)ナデ、ハケ	内)ハケ						

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(30)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考
179	20783		8M-10b	第9-2層	弥生土器 壺	II	口径:(21.0) 器高:(10.9)	外)ナデ、ミガキ 内)ハケ後ナデ			外)黄灰2.5Y6/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)黄灰2.5Y6/1	長石・石英・チャート	
	20784	106	8M-9b	第9-2層	弥生土器 蓋		口径:9.3 器高:1.15		外)ナデ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)粉状圧痕 孔4ヶ所
	20785		8M-9b	第9-2層	弥生土器 蓋		口径:9.6 器高:2.4		外)ナデ 内)ナデ		外)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20786		8M-10b	第9-2層	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(4.0)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)褐灰10YR4/1 内)褐灰10YR4/1	長石・石英・雲母	内)黒変
	20787		9M-1b	第9-2層	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(3.8)	外)ナデ 内)ナデ、ハケ			外)黄灰2.5Y5/1 断)灰5Y6/1 内)黒褐2.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒変
	20788	106	9M-1b	第9-2層	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(6.4)	外)ナデ 内)ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	20789		8M-10b	第9-2層	弥生土器 鉢あるい は甕	I-3~4	器高:(4.6)	外)ナデ、ハケ 内)ハケ			外)黒褐2.5Y3/1 断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	瀬戸内系か
	20790		9M-1b	第9-2層	弥生土器 鉢あるい は甕	I-3~4	器高:(6.7)	外)ナデ 内)ナデ			外)黒褐2.5Y3/1 断)灰白2.5Y7/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	雲母・長石・石英	瀬戸内系か
	20791		9M-1b	第9-2層	弥生土器 (底部)	I	底径:4.4 器高:(4.6)			外)ハケ後ミガ キ、ナデ 内)ナデ	外)灰黄2.5Y6/2~黒2.5Y2/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y5/1	長石・石英	
181	20802	107	9M-1a	第10面 446高まり 上	弥生土器 壺	II	口径:15.0 底径:6.9 器高:27.3	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ	外)ケズリ後ミガ キ 内)ナデ	外)指頭圧痕 内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR7/3 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい黄橙10YR7/3	雲母・長石・石英・赤色粒	外)煤付着 撰律系
	20803		8L-8i	第10面 442高まり 上	弥生土器 壺	I-3~4	底径:[7.9] 器高:(17.8)	外)ハケ、ミガキ	外)ハケ、ナデ		外)黄灰2.5Y6/1 断)黒褐10YR3/1 内)灰白2.5Y8/2	長石・石英	
	20804		9M-1a	第10面	弥生土器 壺	I-3	器高:(5.4)	外)ミガキ 内)指頭圧痕			外)黒褐10YR3/1 断)灰白10YR7/1 内)褐灰10YR4/1	長石・石英・チャート	外)黒変
	20805		8M-10a	第10面 446高まり 上	弥生土器 壺	I?	底径:[5.6] 器高:9.4	内)ナデ、ヘラ 調整	内)ナデ		外)灰白2.5Y7/1 断)灰白2.5Y7/1 内)灰白2.5Y7/1	長石・石英・赤色粒	外)黒斑 口縁)打欠き か

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(31)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
183	20806		8L-10i	第10面 441溝	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(6.7)		外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR7/2 断)灰白2.5Y8/1 内)灰白2.5Y8/2	長石・石英・角閃石		
	20810	107 9i	8L-8/ 9i	第10面 443溝	弥生土器 壺	II	底径:10.5 器高:(34.3)	外)ハケ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ、ハケ、 指頭圧痕	外)ナデ	外)赤褐5YR4/6 断)褐灰5YR4/1 内)にぶい赤褐5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変、黒 斑	
	20811		8L-8/ 9i	第10面 443溝	弥生土器 壺	I~II	底径:[7.0] 器高:10.5			内)ナデ	外)灰黄2.5Y6/2 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	20812	107	8L-9i	第10面 443溝	弥生土器 甕	II	口径:[13.6] 底径:[4.8] 器高:16.2	外)ナデ 内)ミガキ	外)ケズリ後ミガ キ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変	
	20813		8L-9i	第10面 443溝	弥生土器 甕	II	口径:[18.5] 器高:17.2	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ハケ	外)灰黄2.5Y6/2 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着	
	20814		8L-9i	第10面 443溝	弥生土器 (底部)	II	底径:[6.1] 器高:(6.4)				外)にぶい黄橙10YR6/3 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	底)纖維状・ 紐状の圧痕あ り	
	184	20815		9M-2a	第10面 445溝	弥生土器 壺	II後半	器高:(2.7)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰黄2.5Y6/3 内)にぶい黄橙10YR6/3	長石・石英・黒色粒	穿孔のある耳 状突起 瀬戸内系
		20816	107	9M-1a	第10面 445溝	弥生土器 鉢	II	口径:18.4 底径:6.4 器高:16.8	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ	外)暗灰黄2.5Y4/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
		20817		9M-3a	第10面 445溝	弥生土器 鉢	II	器高:(4.4)	外)ナデ、ミガキ			外)灰黄褐10Y5/2 断)灰5Y5/1 内)灰黄褐10Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)煤付着
		20818		9M-2a	第10面 445溝	弥生土器 壺	I-4	口径:[25.4] 器高:(12.3)	外)ナデ、ハケ 内)板ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
		20819	107	9M-2a	第10面 445溝	弥生土器 鉢	I	口径:[21.4] 底径:[7.0] 器高:11.3	外)ミガキ 内)ミガキ		外)ナデ	外)暗灰N3/ 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄褐10YR4/2	長石・石英・チャート	
	186	20828		9M-2b	第10面 473溝	弥生土器 壺	II	口径:[20.1] 器高:(4.1)	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガ キ			外)灰5Y4/1 断)黄褐2.5Y5/3 内)灰黄2.5Y6/2	雲母・長石・石英・赤色 粒・角閃石	
		20829		9M-2b	第10面 473溝	弥生土器 壺	II	口径:12.6 器高:(11.2)	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕			外)灰黄2.5Y6/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲 母・赤色粒	内)黒変

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (32)

図番号	遺物番号	写真 図版	グッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
186	20830		9M-2b	第10面 473溝	弥生土器 壺	I-4~II 初頭	器高:(11.2)		外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)黒褐2.5Y3/1 断)灰白10YR8/1 内)灰白10YR7/1	石英・チャート	外)煤付着 内)煤付着
	20832		9M-2b	第10面 473溝	弥生土器 甕	I-4~II 初頭	器高:(4.8)	外)ナデ、ハケ 内)ハケ後ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)にぶい、黄橙10YR7/2 内)黒褐10YR3/1	長石・石英	外)煤付着 内)煤付着	
													187
20834		9M-1b	第10面 542溝	弥生土器 甕	II	口径:[29.4] 器高:20.8	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)黄褐2.5Y5/3 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄褐10YR6/2	雲母・長石・石英・チャート	外)煤付着 20422と同一 淀川水系		
												188	20835
20836		9M-1b	第10面 542溝	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[20.0] 底径:(5.8) 器高:(27.0)	外)ナデ、ハケ 後ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)明褐灰7.5YR7/2 断)にぶい、黄褐7.5Y5/4 内)にぶい、褐7.5YR6/3	雲母・長石・石英・赤色粒	外)黒斑		
												20837	
20838		9M-1b	第10面 542溝	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(11.3)	外)ハケ後ミガキ 内)ミガキ		外)にぶい、黄橙10YR7/3 断)にぶい、黄橙10YR6/4 内)黄灰2.5Y5/1	雲母・長石・石英・チャ ート、角閃石			
												20839	
20840		9M-1b	第10面 542溝	弥生土器 壺	I-2~3	器高:(5.4)		外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ		外)灰褐灰7.5YR4/2 断)にぶい、灰褐7.5Y5/2 内)にぶい、褐7.5YR5/4	雲母・長石・石英・角閃石		
												20841	
20842		9M-1b	第10面 542溝	弥生土器 壺	I	器高:(6.7)	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ		外)褐灰10YR6/1 断)暗灰黄N3/ 内)暗灰黄N3/	長石・石英・雲母	外)赤変 内)煤付着		

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(33)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
188	20843		9M-1b	第10面 542溝	弥生土器 甕	I 末	器高:(6.3)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ			外)黒褐10YR3/1 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着 瀬戸内系か
	20844		9M-1b	第10面 542溝	弥生土器 鉢	I-3~4	底径:[5.9] 器高:(6.4)		外)ハケ 内)指頭圧痕	外)ナデ、指頭 圧痕 内)指頭圧痕	外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
190	20847		8M-10b	第10面 543溝	弥生土器 壺	III-1~2	口径:[14.8] 器高:(7.2)	外)ナデ 内)ナデ、板ナ デ	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰N5/ 内)褐灰10YR6/1	石英・長石・雲母	
	20848		8M- 9b/10b	第10面 543溝	弥生土器 壺	III-1~2	器高:(15.0)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰白10YR8/1 断)褐灰10YR4/1 内)灰白10YR8/1	長石・石英・チャート	河内低地か
	20849		8M- 9b/10b	第10面 543溝	弥生土器 壺	III-1~2	口径:[36.8] 器高:(11.6)	外)指頭圧痕、 ナデ 内)ナデ、ミガキ			外)にぶい黄褐10YR5/4 断)にぶい黄褐10YR5/4 内)にぶい黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	20850		8M- 9b/10b	第10面 543溝	弥生土器 壺	III-1~2	口径:[8.8] 器高:(6.0)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)黒褐2.5Y3/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20851		8M- 9b/10b	第10面 543溝	弥生土器 鉢	III-1~2	口径:[20.6] 器高:(4.0)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲 母・赤色粒	20986と同一
	20852		8M- 9b/10b	第10面 543溝	弥生土器 鉢	III-1~2	口径:[48.2] 器高:(7.3)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ			外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y4/1、灰7.5Y5/1 内)黄灰2.5Y4/1	長石・石英・雲母	
	20853		8M- 9b/10b	第10面 543溝	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[20.5] 器高:(10.2)	外)ナデ、ハケ 後)ミガキ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)黒褐2.5Y3/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	20854		8M-9b	第10面 543溝	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(1.8)	外)ナデ 内)ナデ			外)黒褐2.5Y3/1 断)灰白2.5Y7/1 内)にぶい黄褐10YR5/3	雲母・長石・石英・チャート	
	20855		8M-9b	第10面 543溝	弥生土器 壺	I-4	器高:(7.2)	外)ミガキ 内)ハケ後ミガ キ			外)褐灰7.5YR4/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20856		8M-10b	第10面 543溝	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(8.4)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)灰黄褐10YR6/2 断)灰白褐10YR7/1 内)灰白2.5Y7/1	長石・石英・雲母	
	20857		8M-10b	第10面 543溝	弥生土器 蓋	I-3~4	口径:11.8 器高:(8.6)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR5/2 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)褐灰J10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)煤付着 焼成後穿孔

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (34)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
190	20858		8M-10b	第10面 543溝	弥生土器 蓋	I-3~4	口径:[6.7] 頂径:2.6 器高:3.2	外)ミガキ 内)ミガキ		外)ナデ 内)ナデ	外)灰褐7.5YR5/2 断)灰褐7.5YR5/2 内)灰褐7.5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	紐孔
	20859		8M-9b	第10面 543溝	弥生土器 甕あるい は鉢	I-3~4	器高:(6.8)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ			外)灰黄2.5Y6/2 断)灰5Y6/1 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 20929と同一
	20860		8M-9b/10b	第10面 543溝	弥生土器 把手付鉢	I-3~4	器高:(8.2)	外)ハケ後ナデ、 ハケ 内)ハケ、ナデ			外)灰5Y6/1 断)灰7.5Y6/1 内)灰5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲 母・赤色粒	
	20861		8M-10b	第10面 543溝	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(4.7)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、指頭 圧痕			外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)灰黄2.5Y6/2	雲母・長石・石英	瀬戸内系
192	20862	108	8M-10b	第10面 543溝	弥生土器 甕あるい は鉢	I-3~4	器高:(4.6)	外)ナデ 内)ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y5/1	雲母・長石・石英	瀬戸内系か
	20863		8M-10b	第10面 543溝	弥生土器 把手付鉢	I-3~4	口径:[15.4] 器高:(6.3)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、指頭 圧痕			外)黒N2/ 断)黄灰2.5Y6/1 内)黒2.5Y2/1	石英・長石・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	20864		8M-10b	第10面 543溝	弥生土器 転用紡錘 車		径:5.4 穿孔径:0.8 厚:1.05	外)ミガキ 内)ミガキ			外)灰黄2.5Y6/1 断)灰5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20871	108	8M-9b	第10面 582溝	弥生土器 イイダコ壺		口径:(4.5) 器高:(8.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)指頭圧痕		外)灰白2.5Y8/1 内)黄灰2.5Y5/1	石英・長石	外)黒斑
198	20873		9M-3b	第10面 477土坑	弥生土器 高杯	II~III初 頭	口径:[15.0] 器高:(4.9)	外)ナデ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)黒5Y2/1 断)灰5白Y8/1 内)にぶい黄橙10YR7/2	石英・長石	外)黒変
	20874		9M-2b/3b	第10面 477土坑	弥生土器 甕		器高:(4.4)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ			外)にぶい赤褐2.5YR5/4 断)明赤褐2.5YR5/6~ 黒褐10YR3/1 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 瀬戸内系
	20875		9M-3b	第10面 477土坑	弥生土器 鉢?	I-3~4	底径:[5.7] 器高:(5.0)			外)ハケ、ナデ 内)ナデ	外)灰黄褐10YR6/2 断)灰白N8/ 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	20878		8M-9b	第10面 599土坑	弥生土器 壺	II	口径:[19.1] 器高:(6.1)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ			外)黄灰2.5YR6/1 断)灰5YR4/1 内)黄灰2.5YR6/1	長石・石英・雲母	口縁)煤付着
20879		8M-9b	第10面 657土坑	弥生土器 壺	II	口径:[18.0] 器高:(11.2)	外)ナデ、ハケ 後)ミガキ 内)ナデ、ハケ 後)ナデ			外)黒N2/ 断)灰5Y6/1 内)灰5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変	

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(35)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
198	20880		8M-9b	第10面 657土坑	弥生土器 壺	II末	口径:[21.6] 器高:(7.2)	外)ナデ、ハケ 後板ナデ 内)板ナデ			外)赤褐10YR4/3 断)赤灰2.5YR4/1 内)にぶい、赤褐2.5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	20881		8M-9b	第10面 657土坑	弥生土器 壺	I末	口径:15.8 器高:(6.8)	外)ナデ、ハケ 後ナデ 内)ハケ、板ナデ			外)灰黄褐10YR6/2 断)灰7.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	石英・長石・チャート	口縁)黒変
	20882		8M-9b	第10面 657土坑	弥生土器 甕	I末	口径:[20.2] 器高:(9.8)	外)ハケ後ナデ 内)ハケ、板ナ デ			外)黒N2/ 断)灰5Y6/1 内)オリーブ黒7.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	20885		9M- 1b/1c	第10面 951土坑	弥生土器 壺	III	器高:(2.9)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰N4/ 断)灰白2.5Y7/1 内)にぶい、褐7.5YR6/3	長石・石英・雲母・チャート	
	20886		9M- 1b/1c	第10面 951土坑	弥生土器 壺	III	器高:(8.7)		外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)黄灰2.5Y6/1 断)灰N4/ 内)にぶい、赤褐5YR5/4	長石・石英・雲母・角閃石	内)赤変
	20887		9M- 1b/1c	第10面 951土坑	弥生土器 壺	II末	口径:[16.0] 器高:(7.1)	外)ナデ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ			外)褐灰5YR4/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)灰褐7.5YR6/2	長石・石英・雲母	外)黒変
	20888		9M- 1b/1c	第10面 951土坑	弥生土器 壺	I-3	器高:(5.8)		外)ミガキ 内)ナデ、ナデ、 指頭圧痕		外)灰N6/ 断)灰白5Y8/1 内)灰白N7/	長石・石英・雲母	
	20889		9M- 1b/1c	第10面 951土坑	弥生土器 壺	I-3	器高:(5.3)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)にぶい、橙7.5YR7/3 断)灰白7.5YR8/2 内)明褐灰7.5YR7/2	長石・石英・チャート	
	20890		9M- 1b/1c	第10面 951土坑	弥生土器 甕		器高:(4.2)	外)ハケ、ナデ、 指頭圧痕 内)ナデ、指頭 圧痕			外)灰黄褐10YR5/2~黒N2/ 断)灰白5Y7/1 内)灰5YR6/1	長石・石英・チャート	
	20891		9M- 1b/1c	第10面 951土坑	弥生土器 甕		器高:(7.8)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 内)黒変
204	20892		8M-9b	第10面 580ピット	弥生土器 甕	II?	口径:[6.9] 器高:(8.8)			外)板ナデ、ミガ キ、ケズリ 内)板ナデ、ハ ケ後ミガキ、ナデ	外)黒N2/ 断)褐灰10YR6/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	底部)穿孔
	20893		8M-9b	第10面 661ピット	弥生土器 壺	II	器高:(3.1)		内)ナデ		外)黄灰2.5Y5/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20960と同一
	20894		8M-9b	第10面 661ピット	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(3.3)		外)ナデ 内)ナデ		外)黒褐10YR3/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (36)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
204	20895		8M-9b	第10面 66ピット	弥生土器 甕		器高:(3.2)	外)ナデ 内)ナデ			外)黒N2/ 断)灰10YR7/1 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
	20897		8M-10b	第10面 845ピット	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(6.9)	外)ナデ 内)ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)灰白2.5Y7/1 内)黄灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20888と接合
	20898		8L-9i	第10面 444落ち 込み	弥生土器 壺	II	器高:(9.3)		外)ナデ 内)ナデ、ハケ		外)黄灰2.5Y6/1 断)灰5Y5/1 内)灰オリーブ5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20740と同一 か
205	20901	109	8L-10j	第10面 442高まり 内	弥生土器 壺	II	口径:[8.1] 底径:7.1 器高:19.3	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ、ハ ケ、ケズリ後ミガ キ 内)ナデ、指頭 圧痕、板ナデ後 ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)暗褐10YR3/3 断)暗褐10YR3/3 内)にぶい黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	20902		8L-10j	第10面 442高まり 内	弥生土器 甕	II	器高:(7.1)	外)ナデ 内)ハケ後ナデ			外)にぶい赤褐5YR5/4 断)にぶい赤褐5YR5/4 内)明赤褐5YR5/6	雲母・長石・石英・チャート	外)赤変 内)赤変
	20903	109	8L-9j	第10面 442高まり 内	弥生土器 甕		口径:[22.0] 底径:[8.3] 器高:25.2	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	外)ナデ、ケズリ 内)ナデ	外)灰黄2.5Y6/2~ 灰黄褐10YR4/2 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)灰黄褐10YR5/2	雲母・長石・石英・チャート	外)煤付着 内)煤付着
	20904		9L-1j	第10面 442高まり 内	弥生土器 壺		器高:(10.3)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ		外)灰褐7.5YR4/2 断)暗灰N3/ 内)褐7.5YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	突帯に異種粘 土
	20905		8L-10j	第10面 442高まり 内	弥生土器 壺	I-2	口径:[11.1] 器高:(5.0)	外)ミガキ			外)にぶい橙7.5YR6/4 断)灰白2.5Y7/1~ にぶい褐7.5YR5/3 内)灰5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20906	109	8L-9j	第10面 442高まり 内	弥生土器 壺	I-2	底径:7.7 器高:(27.6)	外)ミガキ 内)ミガキ、ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ、ナデ	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	20907		8L-10i	第10面 442高まり 内	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[27.0] 器高:(3.6)	外)ナデ 内)指頭圧痕			外)にぶい黄褐10Y6/4 断)にぶい黄褐10Y6/4 内)にぶい黄褐10Y6/4	長石・石英・チャート・赤色 粒	
	20908		9L-2j	第10面 442高まり 内	弥生土器 転用紡錘 車		径:3.1 厚:0.55~0.75 穿孔径:0.3	外)ハケ 内)ナデ			外)黒褐10YR3/2 断)灰黄2.5YR7/2 内)灰黄褐10YR6/2	雲母・長石・チャート・赤色 粒	
206	20912		8L-9h	第10面 435高まり 内	弥生土器 壺	I-4~II 初頭	器高:(16.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰褐7.5YR4/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(37)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
206	20913		8M-10a	第10面 446高まり 内	弥生土器 壺	II	底径:[6.6] 器高:(15.1)		外)ハケ後ナデ、 ミガキ 内)ナデ	外)ハケ、ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)灰黄2.5Y6/2 断)灰白2.5Y7/1 内)黄灰2.5Y6/1	長石・雲母・チャート	外)黒斑
	20914		8M-9a/ 8L-9j	第10面 446高まり 内	弥生土器 壺	II	器高:(4.8)	外)ハケ 内)ハケ			外)灰黄褐10YR6/2 断)灰N4/ 内)ぶい黄橙10YR7/2	雲母・長石・石英	20776と同一 か、 淀川水系
207	20915		9M- 2a/2b	第10面 446高まり 内	弥生土器 把手付鉢	II	器高:(6.4)	外)ミガキ、ハケ 後ミガキ 内)ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰白N8/ 内)灰黄10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20916		8M-9a/ 8L-9j	第10面 446高まり 内	弥生土器 壺	I-2?	器高:(4.4)		外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい黄褐10YR5/3 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
207	20918		8M-8a/ 他	第10層	弥生土器 壺	II	口径:[25.0] 器高:(20.2)	外)ナデ、ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)ミガキ 内)ハケ後ミガキ		外)灰黄褐10YR6/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20919		8M- 9b/10b	第10層	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[24.4] 器高:(12.1)	外)ハケ後ミガキ 内)ミガキ			外)灰黄2.5Y4/1 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
207	20920		8M-9b	第10層	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[27.5] 器高:(9.0)	外)ハケ後ミガキ 内)ミガキ			外)灰黄褐10YR4/2 断)褐灰5YR6/1 内)灰褐5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)赤変
	20921		8M- 9b/10b	第10層	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(12.5)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)褐灰10YR4/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変
207	20922		8M-9b	第10層	弥生土器 壺	I-3~4	底径:[7.5] 器高:(17.2)	外)ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)指頭圧痕	外)灰黄2.5Y7/2 断)灰白2.5Y7/1 内)浅黄2.5Y7/3	長石・石英	
	20923	109	8M-10c	第10層	弥生土器 壺	I-3	口径:14.8 底径:7.0 器高:20.0	外)ナデ 内)ミガキ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ	内)ナデ、指頭 圧痕	外)黄灰2.5Y6/1 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・チャート	紐孔
207	20924		8M-9b	第10層	弥生土器 壺	I-3	底径:6.8~7.1 器高:(21.8)		外)ナデ、ハケ、 ミガキ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/3~ 黒褐10YR3/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)にぶい黄橙10YR6/3	長石・石英	外)黒変 穿孔
	20925		8M-10b	第10層	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(5.6)	内)ミガキ			外)黒N1.5/ 断)暗灰N2/ 内)褐灰10YR4/1	長石・石英・チャート	外)煤付着 内)煤付着
207	20926	109	9M-1c	第10層	弥生土器 小形壺	I-3~4	底径:7.2 器高:(10.4)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ	外)灰白2.5Y7/1 断)灰白2.5Y8/1 内)灰白2.5Y7/1	長石・チャート	外)黒斑

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (38)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
207	20927		8M-9b	第10層	弥生土器 小形壺	II 初頭?	口径:[6.8] 器高:[6.8]	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ		外)こぶい褐7.5YR5/3 断)褐灰10YR5/1 内)灰褐7.5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20928		8M-9b	第10層	弥生土器 小形土器		口径:[2.4] 底径:[2.3] 器高:[7.4]	外)指ナデ 内)指ナデ	外)指ナデ 内)指ナデ		外)灰白2.5Y8/2 断)淡黄2.5Y8/3 内)黄灰2.5Y6/1	角閃石・長石・石英	
208	20929		8M-9b/10b	第10層	弥生土器 甕	I -3~4	口径:[27.8] 器高:[15.8]	外)ナデ 内)ナデ	外)板ナデ、ハケ 内)板ナデ、ミガキ		外)暗灰黄2.5Y5/2~暗灰N3/ 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 20859と同一
	20930		8M-9a/9b	第10層	弥生土器 甕	I -3~4	器高:[8.4]		外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
20931	20931		8M-9b	第10層	弥生土器 甕	I -3~4	口径:[20.1] 器高:[10.1]	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)黒褐2.5Y3/1 断)黒褐10YR3/1 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
	20932		8M-9b/10b	第10層	弥生土器 甕	I -3~4	口径:[27.8] 器高:[9.4]	内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)黒褐2.5Y3/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐10YR3/2	雲母・長石・石英	外)煤付着
20933	20933		8M-10b	第10層	弥生土器 甕	I -3~4	口径:[20.5] 器高:[6.8]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ハケ		外)黒褐10YR3/1 断)黒褐10YR3/2 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 瀬戸内系か
	20934		8M-9b/10b	第10層	弥生土器 鉢	I -3~4	口径:[11.4] 底径:[5.2] 器高:[9.2]	外)板ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黄褐2.5Y5/3	雲母・長石・石英・角閃石	
20935	20935		8M-9b	第10層	弥生土器 鉢	I	口径:[11.6] 底径:[6.8] 器高:[6.9]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ハケ	外)ナデ 内)ナデ	外)こぶい赤褐5YR5/4~ こぶい褐7.5YR5/3 断)褐灰10YR6/1 内)こぶい褐7.5YR5/3	長石・石英・雲母・角閃石	底部)黒変
	20936		8M-10b	第10層	弥生土器 鉢	I -3~4	口径:[11.3] 底径:[5.4] 器高:[7.3]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ナデ 内)ナデ後ナデ	外)褐灰10YR5/1 断)こぶい黄2.5Y6/3 内)こぶい黄橙10YR6/4	長石・石英・角閃石・雲母	外)黒斑
20943	20943		8M-8a/9a	第10-2面 1029溝	弥生土器 鉢	I -3~4	口径:[37.4] 器高:[17.7]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ		外)灰黄褐10YR6/2 断)灰褐7.5Y6/2 内)灰褐7.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
	20944		8M-9b/10b	第10-2面 1140溝	弥生土器 甕	I -2	口径:[20.8] 器高:[4.7]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ		外)黒褐2.5Y3/1 断)灰白5Y7/1 内)黄灰2.5Y4/1	長石・石英・チャート	外)煤付着 内)煤付着
20945			8M-10c	第10-2面 1225溝	弥生土器 甕	I -3~4	口径:[18.4] 器高:[11.7]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)指頭圧痕、 板ナデ		外)黒N2/ 断)灰5Y5/1 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(39)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
213	20946		8M-10c	第10-2面 1225溝	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[19.0] 器高:(6.0)	外)ナデ	外)ナデ		外)黒N2/ 断)灰白5Y7/1 内)黄灰2.5Y6/1	雲母・長石・石英	外)煤付着	
								内)ナデ						
215	20947		8M-8a/ 他	第10-2面 1061土坑	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[22.6] 器高:(9.1)	外)ナデ	外)ハケ		外)灰黄褐10YR4/2 断)浅黄2.5Y7/3 内)黄灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着	
								内)ナデ	内)ナデ					
20948			8M-8a/ 他	第10-2面 1061土坑	弥生土器 壺	II	底径:12.2 器高:(15.3)	外)ハケ後ミガキ	外)ハケ後ミガキ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑	
								内)ナデ	内)ナデ					
20949			8M- 10b/9M- 1b	第10-2面 1194土坑	弥生土器 壺	I-2	口径:[17.8] 器高:(5.5)	外)ナデ、ハケ、 板ナデ			外)にぶい黄橙10YR7/2 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)にぶい黄橙10YR7/2	石英・長石		
								後ミガキ						
20950	110		8M-10c	第10-2面 1216土坑	弥生土器 壺	I-3	底径:6.5 器高:(22.8)	外)ハケ、ミガキ	外)ハケ、ミガキ	外)板ナデ、ケ スリ	外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰白2.5Y7/1 内)灰黄褐10YR6/2	長石・石英・チャート	外)黒斑 淀川水系	
								内)ミガキ、ハケ	内)ミガキ					
20951			8M-10c	第10-2面 1216土坑	弥生土器 壺	I-3?	器高:(20.8)	外)ミガキ	外)ミガキ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変	
								内)ナデ、ミガキ	内)ナデ、ミガキ					
20952			8M-10c	第10-2面 1216土坑	弥生土器 転用紡錘 車	II後半	径:4.4~4.9 厚:0.7 穿孔径:0.6	外)ナデ	外)ナデ		外)褐灰7.5YR4/1 断)灰白2.5Y8/1 内)黒7.5YR2/1	長石・石英	内)黒変	
								内)ミガキ	内)ミガキ					
218	20953		9M-1c	第10-2面 1274土坑	弥生土器 壺	II後半	底径:8.5 器高:(33.7)	外)ミガキ	外)ミガキ	外)ミガキ	外)にぶい橙5YR6/4 断)にぶい橙7.5YR7/3 内)浅黄2.5Y7/4	長石・石英・チャート	外)黒斑	
								内)ミガキ、板ナ デ	内)ミガキ					
20954			9M-1c	第10-2面 1274土坑	弥生土器 壺	II~III	底径:7.7 器高:(11.4)	外)ミガキ	外)ミガキ	外)ナデ	外)オリーブ褐2.5Y4/3 断)黄灰2.5Y6/1 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変	
								内)ミガキ	内)ミガキ					
20955			9M-1c	第10-2面 1274土坑	弥生土器 高杯	II未~III 初頭	口径:14.6 器高:(6.3)	内)ナデ	内)ミガキ		外)灰白2.5Y6/2 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい橙7.5YR6/4	長石・石英・チャート	外)赤変 内)赤変 口縁)煤付着	
20956			9M-1c	第10-2面 1274土坑	弥生土器 甕	I-2~3	器高:(5.6)	外)ミガキ後ナ デ、ハケ			外)にぶい黄橙10YR7/3 断)浅黄2.5Y8/3 内)灰黄褐10YR6/2	長石・石英	外)煤付着	
								内)ナデ、ハケ						
220	20958		9M-1a	第10-2面 1282土坑	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(6.5)	外)ナデ	外)ナデ		外)褐灰10YR4/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰白5Y8/1	雲母・長石・石英・チャート	外)煤付着	
								内)ナデ	内)ナデ					
20960			9M-2a	第10-2面 1291土坑	弥生土器 壺	II	器高:(5.5)	内)指頭正痕			外)黄灰2.5Y4/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	20893と同一	

表49 03-1-2 区 土器・土製品観察表 (40)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
220	20962		8M-9b	第10-2面 1097ピット	弥生土器 甕	II	口径:[18.6] 器高:(6.7)	外)ハケ 内)ハケ、指頭 圧痕			外)灰7.5Y4/1 断)灰白5Y7/1 内)黒褐2.5Y3/1	長石・石英・チャート・赤色 粒	外)内)煤付 着 大和型(淀川 水系カ)
223	20965		9M- 3a/3b	第10-2層	弥生土器 壺	I-4	口径:[24.1] 器高:(13.0)	外)ナデ、ハケ 内)板ナデ	外)ハケ、板ナ デ後ミガキ 内)ミガキ		外)灰褐7.5YR4/2 断)灰赤2.5YR5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
20967			8M-8a	第10-2層	弥生土器 壺	I-4	口径:[15.7] 器高:(4.8)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)黄灰2.5Y4/1 断)黒N2/ 内)黒N2/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒変
20969			9M-2a	第10-2層	弥生土器 壺	I-4	器高:(20.5)		外)ハケ後ミガ キ、板ナデ 内)板ナデ、ミガ キ		外)灰白2.5Y8/2 断)灰白2.5Y8/2 内)灰白2.5Y8/2	石英・長石・チャート	外)黒斑
20971			8M-10a	第10-2層	弥生土器 壺	I-4	器高:(5.3)		外)ミガキ、ナデ 内)ミガキ、ナデ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰白2.5Y7/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
20973			8L-9/ 8M-9a	第10-2層	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[20.4] 器高:(18.8)	外)ハケ 内)ナデ、ハケ	外)ハケ 内)ハケ、ナデ		外)暗灰黄2.5Y4/2 断)にぶい、褐7.5YR5/3 内)にぶい、褐7.5YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
20975			8L-9j	第10-2層	弥生土器 甕	I-3~4	器高:(6.1)	外)ナデ 内)ナデ			外)黒褐2.5Y3/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)褐灰7.5YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(41)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
224	20976		9M-2a	第10-2層	弥生土器 甕蓋		口径:[19.8] 頂径:6.0 器高:7.3	外)ミガキ 内)ハケ	外)ハケ、ミガキ 内)ナデ、ハケ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい、橙7.5YR6/4 断)灰黄褐10YR4/2 内)黒褐10YR3/1	雲母	外)煤付着 内)煤付着 焼成後穿孔
	20977		9M-2a	第10-2層	弥生土器 甕蓋		頂径:6.5 器高:(8.9)		外)ハケ後ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)指頭圧痕	外)灰白2.5Y7/1 内)にぶい、黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	20978		8M-10a	第10-2層	弥生土器 壺蓋		口径:[12.0] 器高:(2.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)灰白2.5Y7/1 内)灰白2.5Y7/1	雲母・長石・石英・チャート		
	20979		9M-2a	第10-2層	弥生土器 壺蓋		径:[12.6] 厚:1.2		外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ		裏)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y6/3 表)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒斑
	20980		9M-2a	第10-2層	弥生土器 壺蓋		径:[12.0] 厚:0.9		外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ		断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20981		8L-8/ 8M-8a	第10-2層	弥生土器 壺	I末?	器高:(4.5)	外)ナデ 内)ナデ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	20982		8M-10a	第10-2層	弥生土器 小形壺	I?	底径:5.5 器高:(6.5)		外)ナデ 内)ナデ	外)指頭圧痕 内)ナデ	外)灰黄褐10YR5/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	20983		9M- 3a/3b	第10-2層	弥生土器 小形土器 (高台部)		底径:4.0 器高:(2.2)		外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	225	20986		8M- 10b/10c	第10-2層	弥生土器 鉢	III-1	口径:[20.0] 器高:(4.1)	外)ナデ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)にぶい、黄2.5Y6/3、 黄灰2.5Y4/1 内)にぶい、黄2.5Y6/3 断)にぶい、黄2.5Y6/3	長石・石英	20851と同一
	20987		8M-10c	第10-2層	弥生土器 壺	I-4	底径:9.0 器高:(14.5)		外)ミガキ 内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黄灰2.5Y6/1	長石・石英・チャート	破損部黒変
20988		8M- 10b/10c /他	第10-2層	弥生土器 甕		口径:[32.2] 器高:(14.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)板ナデ		外)黄灰2.5Y4/1 断)灰2.5Y6/1 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 20897と接合	
20989		8M- 8a/8b	第10-2層	弥生土器 鉢	I?	口径:[10.0] 底径:5.6 器高:(8.5)	外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)にぶい、黄2.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
20990		8M- 10b/10c	第10-2層	弥生土器 小形土器		口径:[7.0] 器高:(3.6)	外)指頭圧痕 内)指頭圧痕	外)ミガキ 内)ミガキ		外)灰5Y6/1 断)灰N5/ 内)灰5Y6/1	雲母・長石	手づくね	

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (42)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考
233	20998		9M-2a	第11面 1324土坑	弥生土器 壺	II	口径:[19.1] 器高:(12.5)	外)ナデ、ハケ	外)ハケ		外)灰白2.5Y7/2 断)灰白2.5Y8/2 内)灰白2.5Y8/1	長石・石英・雲母・チャート	外)黒斑
	20999	110	9M-2a	第11面 1324土坑	弥生土器 甕	II	口径:[19.5] 底径:[5.8] 器高:(25.3)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ、ハケ	外)ナデ 内)ナデ	外)黒10YR1.7/ 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)橙7.5YR6/8	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	21000		9M-2a	第11面 1324土坑	弥生土器 甕蓋	II	口径:[18.1] 頂径:[5.7] 器高:(8.6)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ、ミガキ	内)ナデ	外)黒褐10YR3/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐10YR3/2~黒5Y2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)炭化物付着
	21002	110	9M-3b	第11面 1327土坑	弥生土器 鉢	I-3~4	口径:[11.7] 底径:5.8 最大径:12.5 器高:7.5	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ、ミガキ	内)ナデ	外)黄褐2.5Y5/3 断)黄褐2.5Y5/3 内)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 内)黒斑
	21003		9M-1b	第11面 1374土坑	弥生土器 甕		底径:[6.7] 器高:(9.0)		外)ハケ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)黒褐2.5Y3/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	焼成後穿孔
	21004	110	9M-1b	第11面 1374土坑	弥生土器 壺	I-2	口径:[16.4] 底径:[10.2] 最大径:[29.0] 器高:(28.8)	外)ミガキ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)ミガキ、ハケ 後ミガキ 内)ナデ、ハケ、 ミガキ	内)ナデ	外)黒褐2.5Y3/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	21005		8L-8/ 9i	第11面 1040溝状 落ち込み	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[18.0] 器高:(11.8)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰N4/ 内)灰5Y6/1	長石・石英・チャート	
	21006		8L-8/ 9i/8j	第11面 1040溝状 落ち込み	弥生土器 壺	I-3~4	口径:[11.7] 器高:(5.7)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ			外)にぶい橙5YR6/4 断)にぶい橙5YR6/4 内)にぶい橙5YR6/4	長石・石英・チャート・赤色 粒	外)赤変 内)赤変
	21007		8L-8/ 9i	第11面 1040溝状 落ち込み	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(4.6)		内)ナデ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)黄灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	21008	111	8L-8/ 9i	第11面 1040溝状 落ち込み	弥生土器 甕蓋	I-3~4	口径:[23.4] 頂径:[6.35] 器高:(10.1)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい褐7.5YR5/4 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄褐10YR5/3	長石・石英・雲母・チャート	外)煤付着 内)煤付着 瀬戸内系か
21009		8L-8/ 9i/8j	第11面 1040溝状 落ち込み	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[21.8] 最大径:[22.0] 器高:(6.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒2.5Y2/1 断)灰白2.5Y8/1 内)灰白10YR7/1	長石・石英・チャート	外)煤付着 瀬戸内系	
21010		8L-8/ 9i/8j	第11面 1040溝状 落ち込み	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[5.7]	外)ナデ 内)ナデ	内)ナデ		外)黄灰2.5Y5/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒N2/~灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)煤付着	
21011		8L-8/ 9i/8j	第11面 1040溝状 落ち込み	弥生土器 甕?	I-3~4	口径:[5.2]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)暗灰N3/ 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)暗灰N3/~灰黄褐10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(43)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
237	21012	111	8L-10h	第11層 1043溝状 落ち込み	弥生土器 壺	I-3	口径:10.9 底径:6.9 最大径:15.8 器高:17.6	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ	外)ナデ 内)ナデ、指頭 庄痕	外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)灰黄褐10YR5/2	雲母・長石・石英・チャート	外)黒斑、黒変 内)黒変穿孔
240	21014		8L-8/ 9i	第11層 北～中部	弥生土器 壺	I-3～4	口径:7.6 最大径:[22.8] 器高:(26.8)		外)ハケ後ミガキ 内)ナデ、ミガキ、 指頭庄痕	内)ハケ	外)暗灰黄2.5Y4/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
241	21016		9M-2a	第11層 中央部	弥生土器 壺	I-3	器高:(11.1)	外)ミガキ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ		外)黒褐2.5Y3/1、 にぶい橙7.5YR7/3 断)灰N5/ 内)灰黄褐10YR6/2	雲母・長石・石英	外)赤変 内)赤変
	21017		8M-10a	第11層 中央部	弥生土器 壺	I後半	口径:[27.4] 器高:(12.5)	外)ナデ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)黄灰2.5Y4/1 断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰N3/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	21018		8M-10a	第11層 中央部	弥生土器 壺	I-2	口径:[17.4] 器高:(4.2)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ			外)黒2.5Y2/1 断)灰黄2.5Y6/2 内)黒2.5Y2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変 焼成前穿孔
	21019		西側溝	第11層 中央部	弥生土器 壺		口径:[10.4] 器高:(5.1)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)黄灰2.5Y4/1 断)灰白5Y7/1 内)黄灰2.5Y4/1	長石・石英・雲母	
	21020		9M-3a	第11層 中央部	弥生土器 壺	I-1～2	器高:(4.9)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)暗灰N3/ 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰N3/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
242	21021	111	8M-10a	第11層 中央部	弥生土器 壺	I-2	口径:12.0 底径:8.9 最大径:26.2 器高:29.0	外)ナデ、ナデ 後ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	内)ミガキ	外)にぶい黄褐10YR5/4 内)にぶい黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	21022	111	8M-10a	第11層 中央部	弥生土器 壺	I-1～2	口径:[12.9] 底径:7.4 最大径:27.8 器高:25.4	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)褐7.5YR4/3 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)にぶい赤褐5YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑、赤変 内)赤変
	21023		9M-3b	第11層 中央部	弥生土器 壺	I-1～2	口径:7.0 最大径:23.1 器高:(24.2)	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)ミガキ、ハケ 後ミガキ 内)ハケ後ミガ キ、ナデ後ミガキ	内)ナデ	外)黄灰2.5Y5/1 断)オリープ黒5Y3/2 内)オリープ黒5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母 (ただし角閃石目立たない)	外)黒斑
	21024		8M-10a	第11層 中央部	弥生土器 壺	I-1～2	口径:7.7 最大径:25.2 器高:(29.5)	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ	内)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	21025		9M-1a	第11層 中央部	弥生土器 壺	I-1～2	口径:7.7 最大径:22.9 器高:(17.6)		外)ミガキ後ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 口頸)打欠き 焼成後穿孔

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (44)

図番号	遺物番号	写真図版	グッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
243	21026		8M-10a	第11層 中央部	弥生土器 甕	I	口径:[27.0] 最大径:[28.4] 器高:[22.7]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒5Y2/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着	
	21027		9M-2a	第11層 中央部	弥生土器 甕	I 後半	口径:17.6 最大径:17.8 器高:[17.4]	外)ハケ 内)ハケ	外)ナデ、ハケ 内)ミガキ		外)黒褐10YR3/1 断)灰黄褐10YR4/2 内)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
	21028		9M-2a	第11層 中央部	弥生土器 甕	II ?	口径:[7.2] 器高:[5.5]	外)ナデ後ハケ、 ナデ後ミガキ	外)ナデ後ハケ、 ナデ後ミガキ		外)にぶい黄橙10YR6/4 断)赤褐10R5/4 内)褐灰10YR6/1	長石・石英・雲母・角閃石	内)炭化物付 着	
244	21034		8M-10a/10b	第11層 南部	弥生土器 壺	II 後半	口径:[20.6] 器高:[9.3]	外)ナデ、ハケ、 ミガキ	外)ナデ、ハケ、 ミガキ		外)灰7.5Y5/1 断)暗灰N3/ 内)灰N4/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	21035		8M-10a/10b	第11層 南部	弥生土器 壺	II ?	器高:[5.9]	外)ナデ、ハケ 内)ミガキ	外)ナデ、ハケ 内)ミガキ		外)黄灰2.5Y5/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	21036		8M-9b	第11層 南部	弥生土器 壺	I 末	器高:[6.8]	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ 後ナデ	外)ナデ、ハケ 内)ナデ、ハケ 後ナデ		外)にぶい黄橙10YR7/2 断)灰白2.5Y7/1 内)灰白2.5Y7/1	長石・雲母	焼成前穿孔 1400土坑周 辺	
21037	21037		8M-9b	第11層 南部	弥生土器 壺蓋		口径:[10.4] 器高:[3.35]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
	21038		8M-9b	第11層 南部	弥生土器 壺	I 後半	器高:[5.8]	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガ キ、ハケ後ミガキ	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガ キ、ハケ後ミガキ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	1400土坑周 辺	
	21039		8M-9b	第11層 南部	弥生土器 壺	I 後半	器高:[5.6]	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、ナデ 後ミガキ	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、ナデ 後ミガキ		外)にぶい黄2.5Y6/3 断)にぶい黄2.5Y6/3 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	1400土坑周 辺	
21040	21040		8M-9b	第11層 南部	弥生土器 壺	I 2~3	器高:[8.5]	外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ		外)灰黄褐10YR6/2 断)黄灰2.5Y4/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	長石・雲母	1400土坑周 辺	
	21041		8M-10a/10b	第11層 南部	弥生土器 壺	I 2	器高:[5.5]	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰褐7.5YR6/2 内)灰5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	21042		8M-10c	第11層 南部	弥生土器 壺		口径:[19.6] 器高:[9.5]	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、ミガ キ、指頭圧痕	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、ミガ キ、指頭圧痕		外)褐2.5YR4/4、灰7.5Y4/1 断)灰5Y6/1 内)灰7.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	焼成前穿孔	
21043		8M-10c	第11層 南部	弥生土器 壺	I 2	口径:[18.3] 器高:[7.2]	外)ハケ、ミガキ 内)ミガキ	外)ハケ、ミガキ 内)ミガキ		外)黒N2/ 断)黒N2/ 内)黒N2/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変		

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(45)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
244	21044		8M-10c	第11層南部	弥生土器 壺	I-2?	最大径:[26.8] 器高:[15.5]	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)ミガキ、ハケ 後ミガキ 内)ミガキ		外)灰5Y4/1 断)灰白5Y7/1 内)灰5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	21045		9M-1c	第11層南部	弥生土器 壺	I	底径:[12.4] 器高:[5.9]		外)ハケ後ミガキ 内)ミガキ		外)暗灰N3/ 断)褐灰10YR6/1 内)褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
245	21046		8M-10c	第11層南部	弥生土器 甕	I末	口径:[18.0] 器高:[9.1]	外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR4/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒変、赤 変
	21047		8M-9b	第11層南部	弥生土器 甕		器高:[6.3]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)褐灰10YR4/1 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄褐10YR6/2	長石・雲母・チャート	外)煤付着 1400土坑周 辺
248	21048		8M-9b	第11層南部	弥生土器 甕		器高:[12.1]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい、褐7.5YR5/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい、黄褐10YR5/3	長石・雲母・チャート	外)煤付着 内)煤付着 1400土坑周 辺
	21049		8M-9b	第11層南部	弥生土器 甕		器高:[8.9]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒褐2.5Y3/1 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	長石・雲母・チャート	外)煤付着 1400土坑周 辺
248	21050		8M-10c	第11層南部	弥生土器 甕	I-1~2	口径:[16.5] 底径:[6.0] 最大径:[16.8] 器高:[18.0]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ後ミガ キ		外)暗灰N3/ 断)浅黄2.5Y7/3 内)浅黄2.5Y7/3	長石・雲母・チャート	外)煤付着
	21051		8M-9b	第11層南部	弥生土器 甕		口径:[22.8] 最大径:[22.2] 器高:[11.1]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐10YR3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着 1400土坑周 辺
248	21052		8M-9b	第11層南部	弥生土器 甕		器高:[5.1]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 1400土坑周 辺
	21053		8M-9b	第11層南部	弥生土器 甕		器高:[12.2]	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)灰黄褐10YR4/2 断)黄灰2.5Y5/1 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 1400土坑周 辺
248	21054		9M-1c	第11層南部	弥生土器 甕あるい は壺	I-2	口径:[38.5] 器高:[9.0]	外)ナデ、ハケ 後ナデ 内)ハケ	外)ハケ 内)ナデ、ハケ 内)ナデ		外)にぶい、黄橙10YR6/4 断)にぶい、橙5YR6/3 内)にぶい、橙5YR6/3、灰N4/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変、煤 付着
	21056		8L-8j	第11-2面 1398土坑	弥生土器 壺	I	口径:[29.0] 器高:[11.8]	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ		外)橙7.5YR6/6 断)灰白2.5Y8/2 内)にぶい、褐7.5YR5/4	長石・石英・雲母・角閃 石・チャート	外)赤変 内)赤変
248	21057		8L-8j	第11-2面 1398土坑	弥生土器 壺	I-3~4	最大径:[39.0] 器高:[22.0]	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ		外)黒褐10YR3/1 断)にぶい、黄褐10YR5/3 内)暗灰黄2.5Y5/2	長石・石英・チャート	外)黒変

表49 03-1-2 区土器・土製品観察表 (46)

図番号	遺物番号	写真 図版	グッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考
248	21058		8L-8j	第11-2面 1398土坑	弥生土器 壺	I-3~4	最大径:(39.0) 器高:(9.2)		外)ハケ後ミガキ 内)ミガキ		外)黒褐7.5YR3/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	21060	8L-8j	第11-2面 1398土坑	弥生土器 壺	I	底径:12.9 器高:(11.0)		外)ミガキ 内)ナデ	外)黒褐10YR3/1 断)にぶい、黄褐10YR5/4 内)にぶい、黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変		
												21061	8L-8j
	21062	8L-8j	第11-2面 1398土坑	弥生土器 壺	I-4	底径:7.5 器高:(3.9)		外)ミガキ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)暗黄灰2.5Y5/2 断)暗黄灰2.5Y5/2 内)暗黄灰2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑		
												21063	8L-8j
	21064	8L-8j	第11-2面 1398土坑	弥生土器 甕?	I-4	底径:[5.7] 器高:(9.5)		外)ナデ後ミガキ 内)ナデ	外)黒褐2.5Y3/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着		
												21065	8L-8j
	21066	8L-8j	第11-2面 1398土坑	弥生土器 甕?	I-4	底径:[7.4] 器高:(6.7)		外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y4/2 内)黒褐2.5Y3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒	内)煤付着		
												21067	8L-8j
	253	21072		8M-9b	第11-2面 1400土坑	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(6.9)	外)ミガキ 内)ナデ後ミガキ		外)黒2.5Y2/1 断)暗灰黄2.5Y4/2 内)黄灰2.5Y4/1		
												21073	8M-9b
	21074	8M-9b	第11-2面 1400土坑	弥生土器 壺	I-3~4	底径:9.0 器高:(6.7)		外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ、指頭 圧痕	外)黒褐2.5Y3/1~黒2.5Y2/1 断)灰オリーブ5Y6/2 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(47)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	底面・脚部調整	色調	胎土	備考
253	21075		8M-9b	第11-2面 1400土坑	弥生土器 甕?	I-3~4	口径:[34.0] 最大径:[34.6] 器高:[9.8]	外)ナデ、ハケ、 指頭圧痕 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ナデ後ナデ	外)黒2.5Y2/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐2.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	21076	66 113	8M-9b	第11-2面 1400土坑	弥生土器 鉢	I-3~4	口径:[23.0] 底径:6.8 最大径:[23.6] 器高:15.5	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ	内)ナデ後ミガキ、ナデ	外)黒褐2.5Y3/1 断)オリーブ黄5Y6/3 内)黒2.5Y2/1	長石・石英・角閃石・雲母		
	21077	66 113	8M-9b	第11-2面 1400土坑	弥生土器 高杯	I-3~4	口径:19.5 底径:14.6 最大径:19.9 器高:15.0	内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ、ミガキ	内)ナデ、ミガキ	外)黄灰2.5Y4/1 断)灰5Y4/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変	
256	21080		8M-9b/10b	第11-2面 1404土坑	弥生土器 甕	I-2~3	口径:[17.0] 最大径:[17.4] 器高:[6.3]	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ミガキ		外)黒2.5Y2/1 断)にぶい褐7.5YR6/3 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)赤変	
	21081		8M-9b/10b	第11-2面 1404土坑	弥生土器 甕あるい は鉢	I	器高:[9.5]		外)ナデ、ミガキ 内)ナデ、ミガキ		外)黄灰2.5Y5/1 断)灰5Y6/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	21082		8M-9b/10b	第11-2面 1404土坑	弥生土器 甕		底径:[8.0] 器高:[3.9]		外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	断)暗灰N3/ 内)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 底部)粉痕か	
258	21083	113	8M-9b/10b	第11-2面 1404土坑	弥生土器 壺蓋	I	口径:12.4 器高:2.6	外)ミガキ、指頭 圧痕 内)ミガキ、指頭 圧痕	外)ミガキ、指頭 圧痕 内)ミガキ、指頭 圧痕	外)ミガキ、指頭 圧痕 内)ミガキ、指頭 圧痕	外)黒5Y2/1 断)黒褐10YR3/2 内)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変 焼成後穿孔	
	21084		8M-9b/10b	第11-2面 1404土坑	弥生土器 壺蓋	I	口径:13.0 器高:3.5	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)黒N2/ 断)灰7.5Y5/1 内)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	焼成前穿孔	
	21086		8M-10a	第11-2層	弥生土器 甕蓋	I	口径:[24.2] 頂径:6.9 最大径:[24.4] 器高:7.4	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)黒N2/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着	
21087		8M-10a	第11-2層	弥生土器 壺	I-1~2	器高:[10.0]		外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ		外)黒7.5Y2/1 断)灰白2.5Y8/1 内)灰白2.5Y7/1	長石・石英・チャート		
21088		8M-10a	第11-2層	弥生土器 壺	I-2~3	底径:7.6 最大径:24.8 器高:[16.4]		外)ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)にぶい黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 21096と同一	
21089		8M-8a/ 他	第11-2層	弥生土器 壺	I-1	器高:[3.8]		外)ミガキ 内)ミガキ			断)暗灰N3/ 内)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		

表49 03-1-2 区 土器・土製品観察表 (48)

図番号	遺物番号	写真図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
258	21090		8M-8a/ 他	第11-2層	弥生土器 壺	I-1~2	器高:(4.7)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)黒褐10YR3/1 断)灰白10YR8/1 内)にぶい、黄褐10YR4/3	石英・チャート・赤色粒	外)黒変
	21091	113	9M-2a	第11-2層	弥生土器 小形壺	I 前半?	口径:5.8 底径:4.4 最大径:9.1 器高:9.3	外)ミガキ、ナデ 後)ミガキ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ		外)黒褐2.5Y3/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒5Y2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
260	21094		9L-1h	第11-3層	土製品 土玉		径:1.2~1.5 厚:1.2				橙7.5YR6/6	雲母	
263	21096	114	8M-9a/10a	第12面 1406土坑	弥生土器 壺	I-1~2	口径:[13.2] 最大径:[24.2] 器高:(19.5)	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ、ミガキ、指頭圧痕		外)黒褐2.5Y5/3 断)黄灰2.5Y5/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	21088と同一
	21097		8M-9a/10a	第12面 1406土坑	弥生土器 壺	I-1~2	器高:(5.6)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ、ミガキ 内)ナデ		外)黒褐2.5Y3/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐2.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒変
	21098		8M-9a/10a	第12面 1406土坑	弥生土器 壺	I-1~2	底径:5.4 器高:(5.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒2.5Y2/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)黒2.5Y2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	21099		8M-9a/10a	第12面 1406土坑	弥生土器 鉢	I-1~2	器高:(8.2)	外)ナデ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰7.5Y6/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒	
267	21103		9L-1j	第13層	弥生土器 甕	I-2~3	器高:(4.5)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)暗灰N3/ 断)灰白N7/ 内)灰N6/	長石・石英・チャート	外)黒変 内)黒変
268	21105		8M-9a/9b	南側溝 第7~11層	弥生土器 壺	III~IV	器高:(8.6)	外)ナデ、ハケ 内)ナデ	外)ナデ、ハケ 内)ナデ		外)暗灰N3/ 断)にぶい、橙7.5YR7/3 内)にぶい、橙7.5YR7/3	長石・石英・チャート	外)黒変
	21106			東側溝 第3~6層	弥生土器 壺	IV~V	器高:(4.9)	内)ナデ	内)ナデ		外)にぶい、赤褐2.5YR5/3 断)灰白2.5Y7/1 内)褐灰2.5Y6/1	長石・石英・雲母	
	21107		8L-9j	東側溝 第5層以下	弥生土器 壺	III-1	口径:[7.5] 底径:3.2 最大径:12.9 器高:9.2	外)ナデ 内)ナデ	内)ナデ		外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変、煤 付着 内)白色物質 付着
	21108		8M-10b	側溝 第4面176溝か	弥生土器 壺	II後半	底径:4.2 器高:(3.7)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ		外)灰白5Y8/1 断)灰白5Y8/1 内)灰白5Y8/1	長石・石英・雲母・チャート	焼成前穿孔
	21109			南側溝 第6層か	弥生土器 壺	II	器高:(9.8)	外)ミガキ 内)ハケ、指頭 圧痕	外)ミガキ 内)ハケ、指頭 圧痕		外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)灰黄2.5Y6/2 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母・チャート	

表49 03-1-2区土器・土製品観察表(49)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
268	21110			南側溝 第6層か	弥生土器 壺	II	器高:(5.9)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)灰褐7.5YR4/2 断)褐灰10YR6/1 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	21111			南側溝 第6層か	弥生土器 壺	I末~II 初頭	器高:(4.9)		内)ナデ		外)にぶい褐7.5YR5/3 断)灰白10YR8/1 内)灰白10YR8/1	長石・石英・チャート	
	21112		9M-2b	側溝 第7~11 層	弥生土器 甕	II	口径:[31.1] 底径:7.8 最大径:[34.6] 器高:(44.0)	外)ハケ 内)ハケ	外)ナデ、ハケ 内)ハケ	外)ナデ 内)ナデ	外)灰黄褐10YR4/2 断)灰N4/ 内)灰黄褐10YR5/2	長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着 近江~淀川 水系
	21113			東側溝 第3~6層	弥生土器 甕	II~III初 頭	口径:[17.9] 器高:(4.8)	外)ナデ、ハケ 内)ハケ	外)ハケ 内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR7/2 断)灰白10YR8/1 内)灰白10YR8/2	長石・石英	大和型(淀川 水系)
	21114			南側溝 第6層か	弥生土器 甕	I-3~4	口径:[17.3] 最大径:[18.0] 器高:(8.3)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ、ハケ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	21115			南側溝 第6層か	弥生土器 甕あるい は鉢	I-3~4	口径:[14.2] 底径:6.3 器高:13.15	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ		外)にぶい褐7.5YR5/3 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい赤褐5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)内)赤変、 煤付着 把手剥離
	21116		8M-10b	側溝 第4面176 溝か	弥生土器 把手付鉢	IV	口径:10.1 底径:3.2 最大径:10.2 器高:10.0	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ、ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR6/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英	外)黒斑
	21117			東側溝 第3~6層	弥生土器 台付鉢	II?	底径:5.8 器高:(6.8)		外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ	外)橙5YR7/6 断)橙5YR7/8 内)にぶい橙7.5YR7/4	長石・石英・雲母・チャ ート・赤色粒	外)黒変

表50 03-1-3 区土器・土製品観察表(1)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
275	30001		9M-4b/ 4c	第3層	弥生土器 甕	V中葉	口径:(17.0) 器高:(5.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)タタキ後ナデ 内)ナデ		外)明赤褐5YR5/6 断)橙2.5Y6/6 内)褐7.5YR4/3	長石・石英・雲母・角閃石・赤色粒	外)赤変 内)赤変
	30002		9M-4b/ 4c	第3層	弥生土器 甕	V中葉	口径:(17.0) 器高:(6.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR5/2 断)褐灰10YR6/1 内)ぶい、黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
277	30003	124	9M-5b	第4面 1503畦	弥生土器 鉢	V	口径:6.5 器高:(4.0)			外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい、赤褐5YR5/4 断)にぶい、黄橙10YR6/3 内)にぶい、黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	30004	124	9M-5b	第4面 1503畦	弥生土器 高杯	V中葉	口径:(17.0) 器高:(6.8)			外)ミガキ 内)ナデ	外)にぶい、黄橙10YR6/3 断)灰黄2.5Y7/2 内)にぶい、黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30005	124	9M-5b	第4面 1503畦	弥生土器 器台	V中～後 葉	口径:(19.2) 器高:(15.3)			外)ハケ 内)ナデ	外)灰白2.5Y8/2 断)灰白10YR7/1 内)灰白2.5Y8/2	石英・雲母・チャート	
	30006		西側溝	第4層	弥生土器 壺	V前半	口径:(13.7) 器高:(12.9)	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)灰黄2.5Y7/2 断)にぶい、橙7.5YR6/4 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英	外)赤色顔料 付着
	30007		9M-2b/ 2c/3b/ 3c	第4層	弥生土器 高杯	V中葉	器高:(5.0)		外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ		外)灰黄2.5Y7/2 断)灰白2.5Y8/2 内)にぶい、黄橙10YR7/3	石英・雲母・チャート・赤色 粒	
	30008	124	9M-5b/ 5c	第4層	弥生土器 甕	V前半	口径:(15.0) 器高:(9.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)タタキ 内)ナデ		外)にぶい、黄橙10YR6/3 断)灰白10YR8/2、灰N5/1 内)灰白5Y7/1	長石・石英・雲母	外)煤付着
	30009		9M-5b/ 5c	第4層	弥生土器 甕	V前半	口径:15.4 器高:(7.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)タタキ 内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)にぶい、黄橙10YR6/3 内)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	30010		9M-5b/ 5c	第4層	弥生土器 甕	V前半	口径:(15.0) 器高:(9.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)タタキ後ハケ 内)ハケ後ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)にぶい、黄橙10YR6/3 内)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	30011	124	9M-5b/ 5c	第4層	弥生土器 甕	V前半	口径:(16.3) 器高:(9.3)	外)ハケ後ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ		外)にぶい、黄橙10YR7/2 断)にぶい、黄橙10YR7/2 内)灰白2.5Y7/1	長石・雲母	外)煤付着
	30012	124	9M-3b/ 3c/4b/ 4c	第4-2層	弥生土器 壺あるいは 器台?	IV前半	器高:(5.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ		外)灰白10YR8/1 断)灰白10YR8/1 内)灰白10YR8/1	長石・石英	撰津系
	30013		9M-4b/ 4c	第4-2層	弥生土器 壺	III-2	器高:(9.4)		外)ナデ 内)ナデ		外)灰白10YR8/1 断)灰白10YR8/2 内)灰白10YR8/2	長石・チャート・赤色粒	
281	30014	124	9M-3b	第5面 371溝	弥生土器 高杯	V-1～2	口径:(15.7) 口径:(10.0) 器高:11.4	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ハケ後ナデ	外)ハケ、ナデ 内)ハケ後ナデ	外)橙7.5YR6/6 断)橙5YR6/6 内)橙5YR6/6	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	

表50 03-1-3区土器・土製品観察表(2)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
281	30015		9M-3b	第5面 37I溝	弥生土器 高杯	V後半	口径:[20.6] 器高:(4.5)			外)ミガキ 内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR7/3 断)淡黄2.5Y8/3 内)灰黄2.5Y7/2	石英・チャート・赤色粒	
	30016		9M-3b	第5面 37I溝	弥生土器 壺	V前半	口径:4.4 器高:(2.8)			外)ケズリ 内)ハケ	外)灰黄2.5Y6/2 断)黄灰2.5Y7/2 内)黄灰2.5Y6/1	長石・石英・チャート・赤色粒	
	30017		9M-3b	第5面 408土坑	弥生土器 甕	IV-1~2	口径:[14.2] 口径:4.4 最大径:(16.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ、ミガキ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)にぶい褐7.5YR6/3 断)にぶい黄橙10YR7/3 内)にぶい黄橙10YR7/2	長石・チャート・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	30019		9M-3b	第5面 383ピット	弥生土器 器台	III-2	口径:[25.0] 口径:(3.4)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)にぶい橙7.5YR7/3 断)灰白10YR8/2 内)にぶい橙10YR7/4	長石・石英・雲母・チャート・赤色粒	外)黒斑
283	30021	125	9M-4b 北側溝	第6面	弥生土器 壺	II後半	口径:19.0 口径:7.4 器高:34.8	外)ハケ後ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)ハケ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)浅黄橙10YR8/3 断)灰黄2.5Y7/2 内)浅黄橙10YR8/3	長石・石英・雲母・チャート	外)黒斑
	30022		9M-4b/ 4c	第6面 414溝	弥生土器 甕	II	口径:(5.3) 口径:(5.3)	外)ハケ後ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)浅黄橙10YR8/3 断)灰白10YR8/1 内)浅黄橙10YR8/3	長石・石英	
	30023		9M-4b/ 4c/他	第6面 414溝	弥生土器 甕	III前半	口径:5.4 口径:(7.9)		外)ミガキ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30025	125		第6面 418溝	弥生土器 壺	II~III初 頭	器高:(5.1)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい赤褐5YR5/3 断)灰褐7.5YR6/2 内)灰褐7.5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
285	30026			第6面 418溝	弥生土器 壺あらい 鉢	III	口径:4.8 口径:(3.7)		外)ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ 内)ミガキ	外)黒7.5Y2/1 断)灰7.5Y6/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30027			第6面 418溝	弥生土器 壺	I後半	口径:[15.2] 口径:(8.5)	外)ハケ 内)ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)灰5Y6/1 内)灰5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30028			第6面 418溝	弥生土器 甕	I~II初 頭	口径:(5.3)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい黄橙10YR6/3 断)浅黄橙7.5YR8/3 内)にぶい橙7.5YR7/4	長石・石英・赤色粒	
	30029			第6面 418溝	弥生土器 甕蓋		口径:[9.8] 口径:3.4 口径:(3.6)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)灰黄2.5Y6/2 断)黄褐10YR5/6 内)にぶい黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒	紐孔1ヶ所
30030		9M-3c/ 4c	第6面 418溝	弥生土器 甕	III-1	口径:[45.7] 口径:(26.6)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ハケ後ミガキ		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰5Y4/1 内)灰オリーブ5Y6/2	長石・石英・角閃石・雲母		
30031	125	9M-3c/ 4c	第6面 418溝	弥生土器 鉢	IV後半	器高:(4.0)	外)ナデ、ミガキ 内)ナデ			外)褐灰10YR4/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		

表50 03-1-3 区土器・土製品観察表(3)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考
285	30032		9M-3c/ 4c	第6面 418溝	弥生土器 甕蓋		頂径:4.6 器高:(9.9)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ	外)ナデ、指頭 圧痕 内)指頭圧痕	外)黒褐7.5YR3/1 断)灰白10YR8/2 内)灰褐7.5YR4/2	長石・石英・雲母・チャート	外)煤付着 内)煤付着
286	30035			第6面 419溝	弥生土器 壺	Ⅲ	口径:(17.7) 器高:(8.9)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい褐7.5YR5/3 断)にぶい褐7.5YR6/3 内)にぶい橙7.5YR6/4	長石・石英	
	30036		9M-3b/ 3c/4c	第6面 417高まり 内	弥生土器 壺	Ⅱ末~Ⅲ -1	器高:(2.8)	外)ミガキ 内)ナデ			外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰5Y6/1 内)灰褐7.5YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 穿孔
	30037		9M-3b/ 3c/4c	第6面 417高まり 内	弥生土器 高杯	Ⅲ初頭	口径:(13.5) 器高:(3.1)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ		外)黒褐7.5YR3/2 断)にぶい褐5YR5/3 内)にぶい褐7.5YR5/4	長石・石英・雲母	
	30038		9M-3b/ 3c/4c	第6面 417高まり 内	弥生土器 高杯	Ⅱ末~Ⅲ 初頭	口径:(14.0) 器高:(4.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい褐7.5YR6/4 断)にぶい褐7.5YR5/3 内)にぶい褐7.5YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30039		9M-3b/ 3c/4c	第6面 417高まり 内	弥生土器 高杯	Ⅱ	器高:(3.5)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄2.5Y7/2 断)灰白2.5Y8/2 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英・チャート	
	30040		9M-3b/ 3c/4c	第6面 417高まり 内	弥生土器 甕	Ⅱ末~Ⅲ 初頭	底径:(4.8) 器高:(4.0)			外)ケズリ後ミガ キ 内)ナデ、指頭 圧痕	外)黒褐10YR3/1 断)黒10YR2/1 内)黒2.5Y2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
288	30042		北側溝	第7面 1294・ 1298高まり	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(4.1)	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ			外)にぶい褐7.5YR5/3 断)にぶい橙5YR6/4 内)橙5YR6/6	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
290	30044		9M-4b/ 他	第8面 1316溝	弥生土器 壺	Ⅳ前半	口径:(27.4) 器高:(5.7)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)灰黄2.5Y6/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)にぶい黄2.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30045		9M-4b/ 他	第8面 1316溝	弥生土器 壺	Ⅱ-2	口径:(22.1) 器高:(27.2)	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ 圧痕	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)にぶい黄褐10YR6/3 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	30046	126	9M-4b/ 他	第8面 1316溝	弥生土器 甕	Ⅱ	口径:(26.4) 器高:(12.9)	外)ナデ 内)ナデ	外)ケズリ後ナデ 内)ナデ		外)灰黄2.5Y6/2 断)灰白2.5Y7/1 内)灰白10YR8/2	長石・石英・赤色粒	外)黒斑 紀伊系
	30048	126	9M-4b	第8面 1311高ま り内	弥生土器 甕	Ⅰ後半	器高:(4.8)	外)ナデ 内)ナデ			外)黄灰2.5Y4/1 断)にぶい黄2.5Y6/3 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 瀬戸内系か
	30049	126	東側溝	第8層	弥生土器 鉢	Ⅱ	口径:17.8 底径:5.8 器高:12.5	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着

表50 03-1-3 区 土器・土製品観察表 (4)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考	
292	30050	126	9M-3c	第9面 1382溝	弥生土器 壺	Ⅲ-2~Ⅳ -1	器高:(6.7)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)にぶい褐7.5YR6/3 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい、黄橙10YR6/3	雲母・長石・石英・角閃石	外)赤変 内)煤付着	
	30051	126	9M-3b	第9面 1382溝	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:(22.2) 器高:(6.0)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰白7.5YR8/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)灰白10YR8/2	石英・長石	淀川水系	
	30052		9M-3c	第9面 1382溝	弥生土器 壺	Ⅱ-3	口径:4.1 器高:(3.1)			外)ナデ、指頭 圧痕 内)ナデ	外)にぶい黄橙10YR7/2 断)灰白10YR8/2 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英・雲母・チャート		
	30053		9M-3b	第9面 1382溝	弥生土器 甗	Ⅱ	口径:(20.3) 器高:(6.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ			外)褐灰7.5YR4/1 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR4/2	長石・石英・角閃石・雲母	外)煤付着 大和型(淀川 水系か)
	30060		9M-3b	第9面 1397溝	弥生土器 壺	Ⅱ	口径:(21.5) 器高:(8.3)	外)ハケ後ナ デ、ミガキ 内)ハケ後ミガキ			外)オリーブ黒5Y3/1 断)にぶい黄橙10YR6/4 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・雲母	外)黒変	
	30061		9M-3c	第9面 1397溝	弥生土器 壺	Ⅱ-2~3	器高:(5.7)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰オリーブ5Y6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
	30062	127	9M-3c	第9面 1397溝	弥生土器 壺	Ⅱ	器高:(20.0)	外)ハケ後ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)煤付着 器台として再 利用か	
	30063	127	9M-3c	第9面 1397溝	弥生土器 壺	Ⅰ-4~Ⅱ	口径:(34.2) 器高:(4.7)	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ			外)褐灰10YR4/1 断)黄灰2.5Y5/1 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)煤付着	
	30064	127	東側溝	第9面 1397溝	弥生土器 甗	Ⅱ	口径:39.0 器高:(19.3)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰白2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	雲母・長石・石英・角閃石	外)赤変、黒 斑、煤付着 内)赤変
	30065	127	9M-3c	第9面 1397溝	弥生土器 鉢	Ⅱ	口径:(20.9) 器高:(7.7)	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ			外)暗灰黄2.5Y5/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
30066		9M-3c	第9面 1397溝	弥生土器 鉢	Ⅱ	口径:(12.8) 最大径:(14.8) 器高:(8.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ			外)灰オリーブ5Y5/2 断)にぶい黄褐10YR4/3 内)灰オリーブ5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑	
30067		9M-3c	第9面 1397溝	弥生土器 壺	Ⅰ-4	器高:(14.7)	外)ナデ 内)板ナデ後ミ ガキ			外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰黄2.5YR6/2 内)暗灰黄2.5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			
30068		9M-3b	第9面 1397溝	弥生土器 壺	Ⅰ-2	最大径:(32.6) 器高:(9.9)		外)ミガキ 内)ハケ後ミガキ			外)褐灰10YR5/1 断)褐灰10YR5/1 内)暗灰N3/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑	
30069		9M-3b	第9面 1397溝	弥生土器 壺	Ⅰ-2	器高:(4.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ後ミガ キ、指頭圧痕			外)黄灰2.5Y5/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい褐7.5YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		

表50 03-1-3 区土器・土製品観察表(5)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
293	30070		9M-3c	第9面 1397溝	弥生土器 鉢	I-3~II -1	口径:(12.2) 器高:(10.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黄灰2.5Y6/1 断)灰5Y6/1 内)黄灰2.5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	30071	127	9M-3b/2b/2c	第9面 1397溝	弥生土器 鉢		口径:5.4 底径:4.3 器高:5.0	外)ナデ 内)ナデ	外)ケズリ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)暗灰N3/ 断)灰N4/ 内)黄灰2.5Y5/1	長石・石英・チャート	外)煤付着
	30073		9M-5b/5c	第9面 1379落ち 込み	弥生土器 壺	II	口径:(21.0) 器高:(1.8)	外)ナデ 内)ミガキ			外)にぶい赤褐5YR5/3 断)褐灰7.5YR5/1 内)明赤褐2.5YR5/6	長石・石英・雲母・角閃石	外)赤変 内)赤変
294	30074	128	9M-3b	第9面 1381高ま り上半	弥生土器 壺	I 末	口径:(12.9) 器高:(11.2)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ	外)ハケ、ミガキ 内)ナデ		外)灰黄2.5Y7/2 断)黄灰2.5Y5/1 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英・チャート 和泉	
	30078		9M-3c	第9層	弥生土器 甕	I 後半	器高:(5.4)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰黄褐10YR6/2 断)にぶい橙7.5YR6/4 内)灰白2.5Y7/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30079	128	9M-2b/2c	第9層	弥生土器 甕	I 後半	口径:(17.4) 底径:6.6 器高:15.9	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄2.5Y6/3 断)にぶい褐7.5YR5/4 内)黒褐2.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
296	30080		9M-3c	第9層	弥生土器 甕	I 後半	口径:(22.3) 器高:(11.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ後ナデ		外)黄灰2.5Y5/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	30081	128	9M-3c	第9層	弥生土器 甕	I 後半	器高:(8.9)		外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい褐7.5YR5/3 断)褐灰10YR5/1 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒斑
	30082	128	9M-3c	第9層	弥生土器 鉢	I ~ II	口径:10.4 底径:5.3 器高:8.3	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい橙5YR6/4 断)灰白7.5Y7/2 内)にぶい赤褐5YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
298	30083		9M-3c	第9層	弥生土器 転用土製 紡錘車		径:5.4 厚:0.6		外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ		外)黒褐10YR3/2 断)灰白2.5Y7/1 内)灰黄2.5Y7/2	長石・雲母	外)煤付着
	30085	129	9M-5b	第10面 1407溝	弥生土器 鉢	II	器高:(6.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)赤褐2.5Y4/6 内)にぶい褐7.5YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30088	129	9M-4c	第10面 1409溝	弥生土器 壺	II	口径:(19.1) 器高:(11.2)	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ			外)にぶい黄橙10YR7/3 断)黄褐10YR8/4 内)橙7.5YR6/6	長石・石英・赤色粒	瀬戸内系
299	30089	129	9M-4b/ 他	第10面 1409溝	弥生土器 壺	II	口径:(20.0) 器高:(14.1)	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	

表50 03-1-3区土器・土製品観察表(6)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
300	30093		9M-3c/ 他	第10面 1414溝	弥生土器 壺	II	器高:(9.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)黄灰2.5Y6/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
			9M-3c/ 他	第10面 1414溝	弥生土器 壺	II-3	器高:(6.6)	外)ナデ 内)ナデ		外)黄灰2.5Y5/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)黒褐10YR3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒斑	
	30095	130	9M-3b	第10面 1414溝	弥生土器 鉢	II?	器高:(8.1)	外)ハケ 内)ナデ			外)にぶい、橙7.5YR7/3 断)淡赤橙2.5YR7/3 内)明褐灰5YR7/2	長石・石英・赤色粒	内)赤変
	30096	130	9M-3c/ 他	第10面 1414溝	弥生土器 壺	I末~II 初頭	最大径:(18.8) 器高:(18.8)	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕			外)黄灰2.5Y4/1 断)浅黄2.5Y7/3 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・チャート	外)黒変
	30097	130	9M-3c/ 他	第10面 1414溝	弥生土器 壺	I末	器高:(5.3)	外)ナデ 内)ナデ			外)にぶい、黄橙10YR7/2 断)にぶい、黄橙10YR7/2 内)にぶい、黄橙10YR7/2	長石・石英・チャート	
301	30102		9M- 2b/2c/3 c	第10面 1420溝	弥生土器 壺	I末~II 初頭	口径:(17.3) 器高:(13.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR6/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
			9M- 2b/2c/3 c	第10面 1420溝	弥生土器 壺	I-4	最大径:(43.5) 器高:(10.0)	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ナデ		外)灰黄褐10YR6/2 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄2.5Y6/2	長石・チャート・雲母	外)煤付着 焼成後穿孔	
	30104		9M- 2b/2c/3 c	第10面 1420溝	弥生土器 甕	I末~II 初頭	口径:(18.6) 器高:(8.6)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒7.5Y2/1 断)灰N6/0 内)灰白2.5Y7/1	長石・石英・雲母	外)煤付着
	30105		9M- 2b/2c/3 c	第10面 1420溝	弥生土器 甕	I末~II 初頭	口径:(17.0) 器高:(10.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)黒褐10YR3/1 断)にぶい、黄褐10YR5/3 内)暗灰黄2.5Y5/2	長石・石英・雲母	外)煤付着
	30106		9M- 2b/2c/3 c	第10面 1420溝	弥生土器 転用土製 円板		径:5.6~5.9 厚:0.9	外)ハケ 内)ハケ	外)ハケ 内)ハケ		外)褐灰10YR4/1 断)灰黄褐10YR4/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	穿孔途中
303	30107	131	9M-3b/ 他	第10面 1411土坑	弥生土器 壺	I末~II 初頭	口径:10.9 器高:(19.4)	外)ハケ 内)ミガキ	内)指頭圧痕		外)にぶい、黄橙10YR7/2 断)褐灰10YR5/1 内)にぶい、黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
			9M-4b	第10面 1408高ま り内	弥生土器 壺	I末	口径:(28.6) 器高:(6.9)	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい、橙7.5YR6/4 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい、黄橙10YR7/3	長石・石英・チャート・雲母		
306	30110		9M- 3b/4b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 壺	II	口径:(14.4) 器高:(21.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ		外)灰黄褐10YR5/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y5/2~ 黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)黒斑

表50 03-1-3 区土器・土製品観察表(7)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
306	30111	131	9M-3b/4b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 壺	I-4~II -1	口径:[34.5] 器高:(21.8)	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ、 ミガキ			外)灰黄褐10YR6/2 断)にぶい黄橙10YR6/3 内)灰黄2.5Y6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑・煤 付着 内)黒斑
	30112	131	9M-3b/4b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 壺	I-4	口径:13.3 器高:(9.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ		外)灰褐7.5YR4/2 断)褐灰10YR5/1 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30113		9M-3b/4b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 壺	I-2	口径:[17.5] 器高:(7.5)	内)ミガキ			外)黄褐2.5Y5/3 断)暗黄灰2.5Y5/2 内)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30114		9M-3b/4b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 壺	II	口径:6.6 器高:(11.9)		外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR6/2 断)暗黄灰2.5Y5/2 内)灰5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	30115		9M-3b/4b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 壺	I	口径:11.4 器高:(7.8)		外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30116		9M-4b/4c	第10面 1410高ま り内	弥生土器 甕	I後半	口径:[17.5] 口径:5.0 器高:16.9	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)褐灰10YR4/1 断)灰褐7.5YR5/2 内)暗灰黄2.5Y5/5	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変、黒 変
	30117		9M-3b/4b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 鉢	I~II	口径:[16.8] 器高:(8.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ 圧痕		外)灰黄2.5Y6/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)黄灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30118		9M-3b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 鉢	I末?	口径:[36.2] 器高:(19.4)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい黄褐10YR5/3 内)にぶい橙7.5YR6/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑、赤 変 内)黒斑
	30119		9M-4b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 甕蓋	I	口径:6.5 器高:(8.0)	外)ハケ後ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ 圧痕 内)ナデ	外)ナデ、指頭	外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい黄褐10YR7/3 内)にぶい橙7.5YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑、煤 付着 内)赤変
	30120		9M-3b	第10面 1410高ま り内	弥生土器 高杯	I-4	口径:(7.5)		内)ミガキ	外)ナデ 内)ナデ	外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30124		9M-3c	第10面 1418高ま り内	弥生土器 鉢	II	口径:[45.8] 器高:(17.2)	外)ナデ 内)ハケ	外)ハケ 内)ナデ後ミガキ		外)灰黄褐10YR5/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)黄灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	30125		9M-2b/2c	第10面 1418高ま り内	弥生土器 鉢	I末~II 初頭	口径:[16.8] 器高:(11.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ミガキ 内)ミガキ		外)灰黄褐10YR4/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変
	30126		9M-3c	第10面 1418高ま り内	弥生土器 壺	I-4	口径:[11.2] 器高:(5.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ		外)黒褐2.5Y3/1 断)黄灰2.5Y4/1 内)黄灰2.5Y4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
	30127		9M-2b/2c	第10面 1418高ま り内	弥生土器 甕	I-3~4	口径:(8.0)	外)ハケ 内)ナデ	外)ハケ 内)ナデ		外)にぶい橙7.5YR6/4 断)にぶい褐7.5YR6/3 内)にぶい褐7.5YR6/3	長石・石英・雲母	外)煤付着 内)赤変

表50 03-1-3区土器・土製品観察表(8)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
309	30129		北側溝	第10層	弥生土器 壺	II	底径:6.7 器高:(12.7)		外)ナデ 内)ハケ	外)ナデ 内)ハケ後ナデ	外)にぶい黄橙10YR6/3 断)黄褐2.5Y5/3 内)にぶい黄橙10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑
	30130		東側溝	第10層	弥生土器 壺	I-3	口径:(17.6) 器高:(10.9)	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)ミガキ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)灰黄2.5Y6/2 断)灰黄2.5Y6/2 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	30131		東側溝	第10層	弥生土器 甕	I-2?	口径:(21.6) 器高:(7.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)灰黄2.5Y6/2 内)にぶい黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)煤付着
312	30133	132	9M- 3b/3c	第11層	弥生土器 壺	I-4~II -1	口径:(40.5) 器高:(8.4)	外)ナデ 内)ナデ			外)褐灰10YR5/1 断)黄灰2.5Y6/1 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	30134		北側溝	第11層	弥生土器 壺	I-2	口径:(20.6) 器高:(6.6)	外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ			外)黄褐2.5Y5/3 断)にぶい黄2.5Y6/3 内)黄褐2.5Y5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30135	132	9M- 2b/2c	第11層	弥生土器 壺	I-2~3	底径:(18.9) 器高:(5.1)	外)ミガキ 内)ミガキ			外)浅黄2.5Y7/3 断)浅黄2.5Y7/3 内)灰黄2.5Y6/2	長石・石英・雲母・チャート	外)黒斑
30136	30136		東側溝	第11層	弥生土器 壺	I-2~3	最大径:(23.8) 器高:(11.8)		外)ミガキ 内)ナデ後ミガキ		外)褐灰10YR5/1 断)灰黄2.5Y7/2 内)暗灰黄2.5Y4/2	長石・石英・チャート・雲母	外)黒斑
	30137	132	西側溝	第11層	弥生土器 壺	I-3	器高:(4.5)		外)ミガキ 内)ナデ後ミガキ		外)にぶい黄橙10YR6/3 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)にぶい黄橙10YR7/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30138		9M- 5b/5c	第11層	弥生土器 壺	I-2~3	器高:(6.3)	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ			外)灰黄褐10YR5/2 断)暗灰黄10YR5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒変 内)黒変
30139	30139	132	9M- 3b/3c	第11層	弥生土器 壺	I	底径:5.0 器高:(7.3)		外)ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ 内)ナデ	外)灰黄褐10YR5/2 断)黄灰2.5Y6/1 内)黒10YR2/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)黒斑 内)煤付着
	30140	132	東側溝	第11層	弥生土器 甕	I-2	口径:(27.2) 器高:(11.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ、指頭 圧痕		外)黒2.5Y2/1 断)灰黄2.5Y5/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	30141	132	9M- 3b/3c	第11層	弥生土器 甕	I	口径:16.2 器高:(14.2)	外)ナデ 内)ナデ	外)ケズリ 内)ミガキ		外)灰褐7.5Y4/2 断)灰白7.5Y8/2 内)にぶい褐7.5Y5/3	雲母・長石・石英	外)煤付着 突帯文系
30142	30142	132	9M-3b	第11層	弥生土器 鉢	I-3~4	口径:19.9 底径:6.2 器高:12.4	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい褐7.5Y6/3 断)にぶい褐7.5Y5/3 内)にぶい褐7.5Y6/3	生駒山西麓産 角閃石・雲母・長石・石英	外)煤付着
	30143		9M-3b	第11層	弥生土器 鉢	I?	口径:(11.0) 底径:(4.8) 器高:7.9	内)ナデ			外)灰白10YR7/1 断)褐灰10YR6/1 内)灰白10YR7/1	長石・チャート・雲母・石英	

表50 03-1-3 区土器・土製品観察表(9)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
312	30144		9M- 5b/5c	第11層	土製品 土鉢		径:3.9~4.1 長:8.6		摩滅		外) 灰黄2.5Y6/2 断) 黄灰2.5Y6/1 内) 黄灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
318	30147	133	9M-4b	第12層 北側溝	縄文土器 深鉢	縄文時代 後期末	口径:(39.2) 器高:(20.6)	外) 磨滅 内) 条痕	外) 巻目条痕 内) ケズリ、条 痕、一部ミガキ		外) オリーブ黒2.5Y6/2 断) 暗灰黄2.5Y6/2 内) オリーブ灰2.5Y6/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30148	133	9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 深鉢	縄文時代 後期末	口径:(28.7) 器高:(20.8)	外) 磨滅 内) 磨耗	外) 条痕か、 一部ミガキ		外) 暗灰黄2.5Y4/2 断) 黄灰2.5Y6/1 内) ぶい、黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	焼成後穿孔
	30149		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:(34.4) 器高:(14.6)	外) 磨滅 内) ミガキ	外) ケズリか、 条痕後ミガキ 内) 条痕、ミガキ		外) 灰黄褐10YR5/2 断) ぶい、黄褐10YR5/3 内) 灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30150		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:(30.2) 器高:(15.4)	外) 磨滅 内) 条痕	外) 下部ケズリ、 ミガキ		外) 褐7.5YR4/3 断) 褐7.5YR4/3 内) 灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30151	133	9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:(42.8) 器高:(5.6)	外) ミガキか 内) 条痕			外) ぶい、黄褐10YR5/3 断) 明赤褐5YR5/6 内) 赤褐5YR4/6	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内) 赤変
319	30152	133	9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 深鉢	縄文時代 後期末	口径:(29.6) 器高:(19.1)	外) 磨滅 内) 磨滅	外) 条痕か 内) 条痕後ナデ か		外) ぶい、黄褐10YR4/3 断) ぶい、黄褐10YR4/3 内) ぶい、黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変 内) 赤変
	30153		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:(42.6) 器高:(12.1)	外) 磨滅 内) 条痕	外) 一部ミガキ 内) 磨滅、ナデ か		外) 黄灰2.5Y4/1 断) 褐灰10YR5/1 内) 褐灰10YR5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変 内) 赤変
	30154	133	9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:(34.0) 器高:(13.9)	外) 磨滅 内) 磨滅	外) 横方向のミ ガキ 内) 磨滅		外) 明赤褐5YR5/6 断) 褐灰10YR6/1 内) ぶい、赤褐5YR5/4	長石・石英・雲母	外) 赤変 内) 赤変
	30155		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:(33.0) 器高:(5.6)	外) 磨滅 内) 条痕	外) 条痕後ミガキ 内) ナデか		外) 灰黄褐10YR5/2 断) 灰黄褐10YR6/2 内) ぶい、黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30156		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:(38.0) 器高:(17.0)	外) 磨滅 内) 磨滅	外) ケズリ後ミガ キ		外) ぶい、黄褐10YR5/3 断) 灰黄褐10YR6/2 内) 灰黄褐10YR6/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内) 赤変
320	30157		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	器高:(3.7)	外) ミガキ? 内) 条痕			外) 暗灰黄2.5Y5/2 断) 黄灰2.5Y5/1 内) 灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30158		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	器高:(3.5)	外) 磨滅 内) 磨滅			外) ぶい、黄褐10YR5/3 断) 灰黄褐10YR5/2 内) 灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外) 赤変 内) 赤変
	30159		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	器高:(7.6)	外) 条痕 内) 磨滅			外) 灰黄褐10YR5/2 断) ぶい、黄褐10YR5/3 内) 暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	

表50 03-1-3区土器・土製品観察表(10)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
320	30160		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:[39.6] 器高:(16.5)	外)ナデか 内)条痕	外)ケズリ、条 痕、一部ミガキ 内)摩滅		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	30161		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 深鉢	縄文時代 後期末	口径:[36.0] 器高:(12.2)	外)条痕後、ナ デ	外)条痕後、ナ デ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)にぶい、黄褐10YR5/3 内)にぶい、黄褐10YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	30162		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:[32.0] 器高:(20.4)	外)一部ミガキ 内)ナデか	外)一部ミガキ 内)ナデか		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)にぶい、褐7.5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
321	30163	133	9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:[33.4] 器高:(24.1)	外)ナデ、一部ミ ガキ	外)ケズリ後ナ デ、一部ミガキ 内)指頭圧痕		外)黄灰2.5Y5/1 断)にぶい、褐7.5YR5/4 内)にぶい、褐7.5YR6/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	焼成後穿孔
	30164		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:[28.4] 器高:(9.6)	外)ナデか 内)ナデか	外)ケズリ後ミガ キ 内)ナデか		外)にぶい、褐7.5YR5/4 断)にぶい、褐7.5YR6/4 内)にぶい、褐7.5YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	30165		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:[30.1] 器高:(10.5)	外)ナデか 内)条痕	外)ケズリ後条 痕、ミガキ 内)ナデか		外)オリー、褐2.5Y4/4 断)灰黄褐10YR5/2 内)にぶい、黄褐10YR4/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
321	30166	133	9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:[31.2] 器高:(17.9)	外)ケズリ後ミガ キ 内)条痕、ナデ か	外)ケズリ後ミガ キ 内)ナデか		外)灰黄2.5Y6/2 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)橙5YR6/6	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	30167		9M-4b	第13層 北側溝	縄文土器 鉢	縄文時代 後期末	口径:[5.4] 器高:(5.4)	外)摩滅 内)条痕			外)にぶい、黄褐10YR5/3 断)にぶい、黄褐10YR5/3 内)にぶい、黄褐10YR6/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	

表51 05-1-1 区土器・土製品観察表(1)

図番号	遺物番号	写真図版	グリップ	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
329	40001		8M-6a	第6面 2002溝	弥生土器 甕	III	口径:[16.0] 器高:(9.9)	外)ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ハケ 内)ハケ後ナデ		外)黒2.5Y2/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐2.5Y3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着
	40002		8M-6a	第6面 2002溝	弥生土器 甕	III	口径:[5.8] 器高:(14.0)		外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ	外)ハケ 内)ミガキ	外)黒2.5Y2/1 断)暗灰黄2.5Y5/2 内)黒褐2.5Y3/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着
	40003	140	8M-6a	第6面 2002溝	弥生土器 壺	II	器高:(15.0)		外)ミガキ 内)ナデ後ミガキ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 器台として再 利用か
330	40006	140	8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 壺	III-2~IV	口径:[21.0] 器高:(5.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR5/2 断)灰白5Y7/1 内)灰黄2.5Y7/2	長石・石英	外)黒変
	40007		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 壺	III-1	器高:(3.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ		外)灰黄褐10YR6/2 断)灰白5Y7/1 内)灰5Y6/1	長石・石英・雲母	外)赤変 焼成前穿孔 2ヶ所
	40008		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 甕	III-1	口径:44.0 器高:(35.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ハケ後ナデ		外)にぶい黄橙7.5YR6/4 断)黒7.5YR2/1 内)にぶい黄橙7.5YR6/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変、黒 斑
331	40009		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 甕	III-1	口径:[14.0] 器高:(23.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ハケ後ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄褐10YR5/3 断)黒10YR7/1 内)にぶい黄橙10YR6/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	40010		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 甕	III-1	口径:[31.8] 器高:(35.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ		外)褐7.5YR4/4 断)褐7.5YR4/3 内)にぶい褐7.5YR5/4	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)炭化物付 着
	40011		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 甕蓋	III-1	口径:4.8 器高:(7.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ	外)灰黄褐10YR6/2 断)暗灰N3/ 内)暗灰N3/	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	内)煤付着
40012		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 鉢	II~III初 頭	口径:5.1 器高:(5.1)	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ 内)ハケ		外)灰N6/1、灰白5Y7/2 断)灰N4/ 内)にぶい黄2.5Y6/4、 黄灰2.5Y4/1	長石・石英		
40013		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 高杯	III-1	口径:[22.0] 器高:(4.8)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰N4/0 内)暗灰黄2.5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母		
40014		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 高杯	III-1	口径:(3.0) 器高:(3.0)	外)ナデ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ミガキ		外)浅黄2.5Y7/3 断)浅黄2.5Y7/3 内)にぶい黄2.5Y6/3	長石		
40015		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 甕	I-4~II 前半	口径:[19.5] 口径:6.0 器高:21.2	外)ナデ 内)ナデ	外)ハケ後ナデ 内)ハケ後ナデ	外)ミガキ 内)ナデ	外)褐灰10YR4/1 断)褐灰10YR6/1 内)褐灰10YR4/1	雲母・長石・石英・チャー ト	外)煤付着	

表51 05 - 1 - 1 区土器・土製品観察表 (2)

図番号	遺物番号	写真 図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	胎土	備考
331	40016	140	8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 鉢	I-4	器高:(4.5)	外)ナデ 内)ナデ	外)ナデ 内)ナデ後ミガキ		外)黄灰2.5Y5/1 断)灰5Y6/1 内)黄灰2.5Y5/1、 にぶい黄褐10YR4/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲 母・赤色粒	
	40017		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 転用土製 円板		径:5.6 厚:0.5		外)ミガキ 内)ミガキ		外)灰黄褐10YR4/2 断)褐灰10YR4/1 内)褐灰10YR4/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	40018		8M-6a	第6面 2004溝	弥生土器 転用土製 円板		径:4.2 厚:0.5		外)ハケ 内)ナデ		外)灰白7.5Y8/1 断)暗灰N3/ 内)黒N2/	石英・長石	内)煤付着 搬入品?
332	40022		8M-6a	第7面 2007高ま り内	弥生土器 壺	II	口径:[10.0] 器高:(8.1)	外)ナデ 内)ハケ後ミガキ	外)ハケ後ナデ 内)ナデ後ハケ		外)橙2.5YR7/6 断)明褐灰5YR7/1 内)にぶい橙5YR7/4	雲母・長石・石英	
337	40024	141	8M-6a	第9面 2010溝	弥生土器 壺	II前半	口径:20.2 器高:(14.7)	外)ナデ後ミガキ 内)ミガキ			外)灰オリーブ7.5Y5/2、 黒7.5Y2/1 断)灰7.5Y6/1 内)灰オリーブ7.5Y5/2	長石・石英・チャート・雲母	外)黒変、赤 変
	40025		8M-6a	第9面 2010溝	弥生土器 高杯	II～III-1	器高:(9.9)		外)ミガキ 内)ミガキ		外)黒10Y2/1 断)灰オリーブ5Y6/2 内)オリーブ黒7.5Y3/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着 蓋に転用
	40026	141	8M-6a	第9面 2010溝	弥生土器 鉢	II	器高:(4.1)	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ			外)灰黄褐10YR4/2 断)灰N6/ 内)にぶい黄褐10YR5/3	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	40027	141	8M-6a	第9面 2010溝	弥生土器 壺	I-2	口径:[15.0] 器高:(7.1)	外)ナデ後ミガキ 内)ナデ後ミガキ			外)灰オリーブ5Y5/2 断)黒N2/0 内)灰5Y5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
	40028	141	8M-6a	第9面 2010溝	弥生土器 甕	I前半～ II初頭	器高:(4.4)	外)ナデ 内)ナデ			外)赤橙10R6/6 断)にぶい赤褐7.5R5/3 内)赤灰7.5R5/1	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)赤変 内)赤変
	40029	141	8M-6a	第9面 2010溝	弥生土器 甕	I-4～II 初頭	器高:(4.6)	外)ナデ 内)ナデ			外)灰10Y4/1 断)灰N6/0 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	瀬戸内系
	40030		8M-6a	第9面 2010溝	弥生土器 高杯	I-3～4	器高:(3.1)		外)ミガキ 内)ミガキ	外)ナデ	外)灰オリーブ5Y5/2 断)灰オリーブ5Y6/2 内)灰オリーブ5Y5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
338	40031	142	8M-6a	第9面 2011高ま り内	弥生土器 壺	II	口径:[22.6] 器高:(4.8)	外)ハケ後ナデ 内)ナデ後ミガキ			外)にぶい黄橙10YR7/2 断)にぶい黄橙10YR7/2 内)にぶい黄橙10YR7/2	長石・石英・赤色粒・雲母	
	40032		8M-6a	第9面 2011高ま り内	弥生土器 甕	I後半	器高:(7.0)	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ			外)にぶい赤褐5YR5/4 断)にぶい赤褐5YR5/4 内)にぶい赤褐5YR5/4	雲母・長石・石英・赤色粒	外)赤変 内)赤変

表51 05-1-1 区土器・土製品観察表(3)

図番号	遺物番号	写真図版	グリッド	出土遺構・層位	器種	時期	計測値 cm	口頸部調整	体部調整	底部調整	色調	胎土	備考
338	40033	142	8M-6a	第9面 2011高ま り内	弥生土器 壺	I-3~4	器高:(5.4)		外)ミガキ 内)ハケ後ミガキ		外)黒褐7.5YR3/1 断)灰褐7.5YR4/2 内)灰褐7.5YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	
40038	142	8M-6a	第10面 2014高ま り内	弥生土器 壺	I後半~ II-1	口径:[17.0] 器高:(5.0)	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ミガキ		外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR4/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			
												40039	142
40040	142	8M-6a	第10面 2014高ま り内	弥生土器 壺	I-3~II	口径:6.5 器高:(8.9)	外)ハケ後ミガキ 内)ハケ後ナデ、 指頭圧痕	外)ナデ 内)ナデ	外)暗灰黄2.5Y5/2 断)灰黄2.5Y7/2 内)灰黄2.5Y6/2	雲母・長石・石英・チャート	外)黒斑、赤 色顔料付着 再利用		
												40041	
40042		8M-6a	第10面 2014高ま り内	弥生土器 甕	I-3~II	口径:[25.0] 器高:(12.3)	外)ハケ後ナデ 内)ナデ	外)黒10YR2/1 断)灰黄褐10YR5/2 内)灰黄褐10YR4/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母	外)煤付着 内)煤付着			
											340	40043	
40044		8M-6a	第11面	弥生土器 壺	I-4	口径:9.0 器高:(6.7)	外)ハケ後ミガキ 内)ナデ	外)ミガキ 内)ナデ	外)灰7.5Y4/1 断)灰オリーブ5Y4/2 内)灰オリーブ5Y4/2	長石・石英・チャート・雲母			
											40045		8M-6a
40047	142	8M-6a	第11層	弥生土器 壺蓋	I	口径:[10.6] 器高:(2.3)	外)ミガキ 内)ミガキ	外)ミガキ 内)ミガキ	外)灰黄褐10YR4/2 断)灰黄褐10YR6/2 内)灰黄褐10YR5/2	生駒山西麓産 角閃石・長石・石英・雲母			

表52 05 - 1 - 2 区 井戸瓦観察表 (1)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	調整	色調	胎土	備考
346	50001	143	8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.5 幅:26.5 厚:2.8 重さ:3.10kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50002		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.4 幅:26.8 厚:2.8 重さ:3.42kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50003		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.2 幅:26.7 厚:3.6 重さ:4.30kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50004		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.5 幅:26.4 厚:3.0 重さ:3.36kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50005		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:26.0 幅:26.5 厚:3.0 重さ:3.42kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50006		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.6 幅:26.7 厚:2.8 重さ:3.2kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50007		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.5 幅:26.8 厚:2.7 重さ:3.11kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50008		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:26.0 幅:26.6 厚:2.9 重さ:3.39kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50009		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.6 幅:26.8 厚:2.8 重さ:3.53kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)膳灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリローブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	

表52 05 - 1 - 2 区 井戸瓦観察表 (2)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土遺構 ・層位	器種	時期	計測値 cm	調整	色調	胎土	備考
347	50010	143	8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.8 幅:26.7 厚:3.1 重さ:3.53kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)暗灰N3/	長石・石英・雲母	
	50011		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.5 幅:26.7 厚:2.8 重さ:3.06kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリーブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50012		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.6 幅:26.2 厚:2.8 重さ:3.23kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリーブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50013		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.1 幅:26.3 厚:2.8 重さ:3.23kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリーブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50014		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.5 幅:27.0 厚:2.8 重さ:3.24kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリーブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50015		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.4 幅:27.0 厚:2.8 重さ:3.14kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリーブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50016		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:26.1 幅:27.2 厚:2.7 重さ:3.36kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリーブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50017		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.4 幅:27.0 厚:3.1 重さ:3.46kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリーブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	
	50018		8M-7a	第1面 2078井戸	井戸瓦		長:25.5 幅:26.8 厚:3.2 重さ:3.31kg	凸)ナデ 凹)ナデ	凸)暗灰N3/ 断)灰白7.5Y7/1 凹)オリーブ灰2.5GY6/1	長石・石英・雲母	

表53 03 - 1 - 1 区 石器観察表 (1)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			1		第0層		剥片 2点	サヌカイ					
			1		第0層		小礫 2個	安山岩系?					
			6		第0層		剥片	サヌカイ					
5	10002		18		第1層		砥石	砂岩	8.80	5.22	2.5	165.8	被熱痕が残る
			15		第1層		剥片	サヌカイ					
			25~27		第2層		剥片 4点	サヌカイ					
			45	8L-8g/8h	第4層		剥片 2点	サヌカイ					
			75	8L-9h	第5面	25溝	剥片	サヌカイ					
12	10016	8	50	8L-6g/6h	第5層		石錐	サヌカイ	11.67	2.48	0.8	38.4	回転痕残る、尖頭器の未成品を用いる?
			54	8L-9g/9h	第5層		削器	サヌカイ					
	10066		74	8L-8g/8h	第6面	20大溝	石庖丁	緑泥片岩	(11.06)	4.84	0.8	(70.0)	1/4欠損、両穴残る、片刃背潰しが紐穴にまで及ぶ
17	10067	10	72	8L-7g/7h	第6面	20大溝	石庖丁	緑泥片岩	(9.75)	4.20	0.75	(48.8)	1/3欠損、両穴残る、片刃表面に光沢・煤付着 刃部の敲打は石錐に転用したためか
	10068		73-6	8L-8g/8h	第6面	20大溝	砥石	砂岩	(6.15)	(5.28)	(4.2)	(135.8)	底面に筋状の研磨痕残る 全体に被熱 鑄型の可能性あり
			73-1	8L-8g/8h	第6面	20大溝	大形尖頭器	サヌカイ					未成品、原礫面が端部に残る、石剣?
18	10069		73-2	8L-8g/8h	第6面	20大溝	大形尖頭器	サヌカイ	(8.20)	2.90	1.5	(29.2)	未成品 先端部作りだしあり、瘤が取りきれずに放棄? 欠損面を石錐に加工した可能性あり? 産地分析試料(分析番号98499)
	10070	11	73-3	8L-8g/8h	第6面	20大溝	尖頭器	サヌカイ	8.27	3.48	1.2	40.8	未成品、製作を途中放棄したもの?
	10071		71-1	8L-7g/7h	第6面	20大溝	石錐	サヌカイ	8.46	3.62	1.6	41.1	錐部の作り出しは不明瞭、削器の可能性あり
	10072		90	第6面	第6面	20大溝	石錐	サヌカイ	(7.80)	3.80	1.5	(40.3)	涙滴形、錐部欠損
19	10073		71-3	8L-7g/7h	第6面	20大溝	削器	サヌカイ	5.78	5.16	1.1	36.5	刃部・表面に光沢、研磨痕残る
	10074		73-4	8L-8g/8h	第6面	20大溝	削器	サヌカイ	8.47	4.81	1.1	61.8	原礫面大きく残る
			71-2	8L-7g/7h	第6面	20大溝	削器	サヌカイ					打製石斧、石錐の可能性あり
			71-4	8L-7g/7h	第6面	20大溝	削器	サヌカイ					
			73-5	8L-8g/8h	第6面	20大溝	削器	サヌカイ					原礫面大きく残る
			71	8L-7g/7h	第6面	20大溝	剥片 4点	サヌカイ					
			73	8L-8g/8h	第6面	20大溝	剥片 7点	サヌカイ					
			87,89	第6面	第6面	20大溝	剥片 3点	サヌカイ					
			96	8L-8h	第6面	20大溝	剥片	サヌカイ					
			58	8L-6h	第6面	21溝	剥片	サヌカイ					
			59	8L-6h	第6面	22溝	剥片 2点	サヌカイ					
22	10082	11	65	8L-6g	第6層		砥石	片麻岩	(16.60)	(7.70)	7.7	(1774.2)	砥面は2面

表53 03 - 1 - 1 区 石器観察表 (2)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			67	8L-6g/6h	第7層		剥片 2点	サヌカイ					
			78-1・2		第8面	61溝	削器 2点	サヌカイ					
			78		第8面	61溝	剥片	サヌカイ					
			92	8L-6h	第8層		剥片	サヌカイ					
			97	8L-9g/9h	第8層		剥片	サヌカイ					
29	10092		110	8L-8g/8h	第9層		石庖丁	片岩系	(3.81)	(3.62)	0.6	(9.2)	先端部のみ残存、片刃
			110	8L-8g/8h	第9層		剥片	サヌカイ					
			106	8L-6g/6h	第10面	129溝	剥片	サヌカイ					
			120	8L-6h	第10面	127土坑	削器	サヌカイ					
34	10099	13	138	8L-8g/8h	第10層		打製石剣	サヌカイ	(11.83)	4.53	1.8	(117.7)	先端部欠損、原礫面残る 産地分析試料(分析番号98500)
			126,127	8L-8h	第10層		剥片 2点	サヌカイ					
			116	8L-6h	第10層		礫	砂岩					
			142	8L-9g/9h	第11層		剥片	サヌカイ					
			48	北側溝	第5層以下		小礫	不明					
			101	東側溝	第8～13層		剥片	サヌカイ					楔の欠損品? つぶれ痕あり
			102	北側溝	第8～13層		剥片	サヌカイ					登録No.48と接合
			102	北側溝	第8～13層		剥片	サヌカイ					登録No.47と接合

表54 03-1-2区 石器観察表(1)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			11-2	8L-9i	第0層		砥石	不明					接合済み、擦痕・研磨痕残る
45	20007		52-1	9M-2a	第0層		砥石	不明	(7.50)	5.61	1.5	(88.6)	砥面は2面
	20008	72	11-1	8L-9i	第0層		抉り入り石斧	緑泥片岩	8.94	3.19	3.5	148.6	側縁部研磨
			52	9M-2a	第0層		剥片	サヌカイ					
			56	9L-3i	第0層		剥片	サヌカイ					
			58	9M-3a	第0層		剥片	サヌカイ					
			11	8L-9i	第0層		中礫	不明					砥石の可能性あり
			16	8L-10i	第0層		中礫 2個	不明					
			17	8L-10j	第0層		中礫	花崗岩?					棒状の磨石の可能性あり
			67	9L-2i/2j	第1面	89溝	磨石	砂岩					被熱痕残る?
			107	8M-9a	第2層		剥片	サヌカイ					
			128	8M-9a	第3面	132溝状落ち込 み	剥片	サヌカイ					
	20021		147	8M-10a	第3層		砥石	安山岩	(6.28)	(5.94)	(3.7)	(132.3)	磨製石斧の基部片の可能性あり
56	20022		148-2	8M-10b	第3層		砥石	粘板岩	(9.26)	(8.31)	2.7	(304.0)	方形、全面研磨痕
	20023		172	9L-2j	第3層		砥石	砂岩	14.93	(12.05)	5.7	(1974.3)	方形、砥面は2面
			163-1	9M-2a	第3層		砥石	砂岩					砥面の欠片
			136-1	8L-8i	第3層		楔	サヌカイ					
			138-1	8M-8a	第3層		楔	サヌカイ					方形に整形、周辺に敲打痕残る
			166	9M-3a	第3層		楔	サヌカイ					
			142-1	8M-9a	第3層		削器	サヌカイ					
			144-1	8L-10h	第3層		削器	サヌカイ					
			136	8L-8i	第3層		剥片 2点	サヌカイ					
			138	8M-8a	第3層		剥片 3点	サヌカイ					
			144	8L-10h	第3層		剥片	サヌカイ					
			159	9M-1a	第3層		剥片	サヌカイ					
			163	9M-2a	第3層		剥片	サヌカイ					
			148-1	8M-10b	第3層		大礫	軽石					
			289-3	8M-10b	第4面	176溝	石庖丁	緑泥片岩					先端部のみ残存
			289-1	8M-10b	第4面	176溝	石鏃	サヌカイ					未成品?
			289-2	8M-10b	第4面	176溝	叩き石	サヌカイ					磨石にも利用?
			150-1	8L-10i/他	第4面	176溝	削器	サヌカイ					原礫面大きく残る
			150	8L-10i/他	第4面	176溝	剥片 2点	サヌカイ					
			289	8M-10b	第4面	176溝	剥片 4点	サヌカイ					
			346	8M-10a	第4面	176溝	原礫	サヌカイ					棒状の原礫
			207	9M-1a	第4層		磨石	斑レイ岩					円形のもの割れる
			175	8L-8j	第4層		砥石	砂岩					周縁に研磨痕・敲打痕残る
			209-1	9M-1c	第4層		削器	サヌカイ					方形、片面調整
			176	8M-8a	第4層		削器	サヌカイ					円形に整形
			179	8L-9i	第4層		楔	サヌカイ					

表54 03 - 1 - 2 区 石器観察表 (2)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			181	8M-9a	第4層		楔	サヌカイ					石錐の欠損品の可能性あり
			182-1	8M-9b	第4層		楔	サヌカイ					
			182	8M-9b	第4層		剥片	サヌカイ					
			187	8M-10b	第4層		剥片	サヌカイ					
			188	8M-10c	第4層		剥片	サヌカイ					
64	20036	72・74	217	9M-1b	第5面		打製石剣	サヌカイ	15.60	3.24	1.2	75.0	完形、直線的な側縁を持つ握りの調整が見られない
	20039		255	8M-10a	第5層		石庖丁	緑泥片岩	(8.97)	4.19	0.8	(57.0)	両端欠損、片刃、直線刃半月形？
66	20060	75	253-1	8L-10i	第5層		石庖丁	流紋岩	(6.00)	(4.60)	0.9	(38.4)	耳成山産？
	20061		250-2	8M-9a	第5層		石錐	砂岩	(6.99)	2.65	2.3	(64.1)	環状石斧の穿孔具か？
	20062		281	8M-10b	第5層		打製石剣	サヌカイ	11.60	3.54	1.6	56.6	完形、中茎を持つ前期に多いタイプ
			262	9M-1b	第5層		磨製石斧	サヌカイ					体部片、表面に研磨痕残る 登録No.838-3と接合
			246-1	8M-8a	第5層		石鋸	紅麻片岩					刃部一部残る、表面被熱痕残る
			196-1	8L-8j/他	第5層		砥石	花崗岩					
			251-1	8M-9a	第5層		叩き石	サヌカイ					ハンマーもしくは槌の可能性あり
			256-1	8M-10b	第5層		叩き石	玄武岩質安山岩					敲打部分に欠けあり
			266-1	9L-2j	第5層		叩き石	砂岩					凹縁の中心部に敲打痕残る
			271	9M-3a	第5層		叩き石	サヌカイ					楔の可能性あり
			195	8L-10i/他	第5層		削器	サヌカイ					板状、両端が白く潰れる
			249-1・2	8L-9j	第5層		削器 2点	サヌカイ					
			250-1	8M-9a	第5層		削器 2点	サヌカイ					
			254-1	8L-10j	第5層		削器	サヌカイ					
			255-1	8M-10a	第5層		削器	サヌカイ					円形のもの半分欠損？
			256-2	8M-10b	第5層		削器	サヌカイ					直角部分に刃部調整
			259-1	9L-1i	第5層		削器	サヌカイ					
			266-2	9L-2j	第5層		削器	サヌカイ					
			253-2	8L-10i	第5層		楔	サヌカイ					
			255-2	8M-10a	第5層		石核	サヌカイ					
			196	8L-8j/他	第5層		剥片 2点	サヌカイ					
			245	8L-8j	第5層		剥片 2点	サヌカイ					
			249	8L-9j	第5層		剥片	サヌカイ					
			250,251	8M-9a	第5層		剥片 5点	サヌカイ					
			253	8L-10i	第5層		剥片 2点	サヌカイ					
			255	8M-10a	第5層		剥片 2点	サヌカイ					
			256	8M-10b	第5層		剥片 6点	サヌカイ					
			257	8M-10c	第5層		剥片 2点	サヌカイ					
			261,263	9M-1a	第5層		剥片 6点	サヌカイ					
			266	9L-2j	第5層		剥片	サヌカイ					

表54 03 - 1 - 2 区 石器観察表 (3)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			267	9M-2a	第5層		剥片	サヌカイ					
			284	9M-2b	第6面	251高まり上面	大礫	結晶片岩					平面図に位置あり
67	20065		358	8M-9b	第6面		石鏃	サヌカイ	3.18	1.59	0.4	1.5	凹基無茎式、完形
	20098	77	303-4	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	装飾品	緑泥片岩	2.84	1.42	0.2	1.3	三日月形垂飾
	20099		313-3	9M-2b	第6面	252大溝上層	大型石庖丁	緑泥片岩	(6.10)	(4.53)	0.6	(22.5)	先端部のみ残存
	20100		308-3	8M-8a	第6面	252大溝上層	石庖丁	泥岩	(7.70)	3.37	0.6	(25.3)	1/2欠損、直線刃半月形、片刃
73	20101		305-2	8M-9a	第6面	252大溝上層	石庖丁	泥岩	(6.60)	2.96	0.6	(15.2)	再加工途中品?
	20102		303-6	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	石庖丁	緑泥片岩	(14.69)	2.89	0.6	(42.3)	鎌状の平面形、刃部を加工途中? 登録No.305-1と接合
	20103		303-11	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	砥石	花崗岩	(7.05)	(6.32)	4.4	(336.2)	砥面3面残る、被熱痕残る
			303-5	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	砥石	泥岩					砥面欠片、被熱痕残る
			303-7	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	砥石	砂岩					表面荒れる
			303-10	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	砥石	片麻岩					砥面1面残る
			303-12	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	砥石	砂岩					砥面2面
			303-13	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	砥石	花崗岩					砥面1面残る、被熱痕残る
			311-2	9M-1a/1b	第6面	252大溝上層	砥石	砂岩					
			303-14	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	砥石	砂岩					擦痕残る
			305-3	8M-9a	第6面	252大溝上層	磨石	砂岩					叩き痕・擦痕残る、石棒の可能性あり
			303-16	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	叩き石	サヌカイ					
			308-4	8M-8a	第6面	252大溝上層	叩き石	サヌカイ					
			313-4	9M-2b	第6面	252大溝上層	石鏃	サヌカイ					
	20104		303-3	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	打製石剣	サヌカイ	(7.60)	4.57	2.3	(57.8)	動態III-④類 先端部のみ残存、削器の可能性あり 先端部に研磨がみられる、原礫面残る
	20105		313-1	9M-2b	第6面	252大溝上層	打製石剣	サヌカイ	(5.15)	2.07	0.5	(7.7)	小形、先端・基部を欠損
	20106		313-2	9M-2b	第6面	252大溝上層	削器	サヌカイ	7.51	4.20	1.2	39.6	原礫面残る
74	20107		303-1	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	削器	サヌカイ	5.39	5.36	1.4	39.8	原礫面残る、凹形
	20108		308-1	8M-8a	第6面	252大溝上層	削器	サヌカイ	4.57	2.73	0.6	8.0	
	20109		308-2	8M-8a	第6面	252大溝上層	削器	サヌカイ	(4.42)	(2.94)	0.7	(8.7)	
	20110		303-2	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	削器	サヌカイ	4.31	3.00	1.1	13.7	原礫面残る
			303-8・19	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	削器 2点	サヌカイ					登録No.303-8原礫面残る
			308	8M-8a	第6面	252大溝上層	削器 3点	サヌカイ					
			311-1・5~10	9M-1a/1b	第6面	252大溝上層	削器 7点	サヌカイ					登録No.311-6原礫面大きく残る 登録No.311-7條状に周縁敲打して整形 登録No.311-8石鏃状に細長い部分を作り出す
			313-5・6	9M-2b	第6面	252大溝上層	削器 2点	サヌカイ					
			303-9・17・18	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	楔 3点	サヌカイ					
			303	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	剥片 21点	サヌカイ					
			305	8M-9a	第6面	252大溝上層	剥片 6点	サヌカイ					
			308	8M-8a	第6面	252大溝上層	剥片	サヌカイ					
			311,311-3	9M-1a/1b	第6面	252大溝上層	剥片 9点	サヌカイ					登録No.311-3・4と接合、ポッドリッド?

表54 03-1-2区 石器観察表(4)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考	
79			313	9M-2b	第6面	252大溝上層	剥片 3点	サマカノ						
			279	8M-8+9a	第6面	252大溝上層	礫	結晶片岩						平面図に位置あり
			303	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	大礫 3個	不明						
			303	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	中礫 3個	不明						
			303-15	8M-10a/10b	第6面	252大溝上層	小礫	緑泥片岩						欠片
	20159		304-63	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(9.63)	3.92	0.65	(36.2)	1/3欠損、直線刃半月形、片刃	
	20160	79	304-65	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(8.15)	4.18	0.75	(39.1)	1/4欠損、直線刃半月形、片刃	
	20161		304-62	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(6.15)	4.09	0.7	(27.8)	直線刃半月形、片刃、両端を欠損 表面に穿孔痕残る	
	20162		312-19	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石庖丁	泥岩	(6.39)	(4.56)	0.7	(29.7)	1/3欠損、先端欠損、片刃、平面形は不明	
	20163		306-80	8M-9a	第6面	252大溝下層	石庖丁	泥岩	(6.13)	3.69	0.5	(16.6)	体部片	
	20164		312-18	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(6.45)	(3.32)	0.7	(22.5)	1/2欠損、直線刃半月形、片刃	
	20165		304-119	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(4.52)	(3.35)	0.6	(13.0)	先端のみ残存、片刃	
	20166		314-28	9M-2b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(4.41)	(4.15)	0.7	(22.1)	先端部のみ残存、直線刃半月形、片刃	
	20167		312-16	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(4.02)	(3.40)	0.8	(11.6)	先端部のみ残存、欠片	
	20168		310-3	8M-8+9a	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(3.40)	(2.78)	(0.45)	(5.7)	先端欠片	
20169		304-123	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(4.20)	(3.42)	0.55	(8.9)	先端欠片		
20170	79	304-66	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	泥岩	(10.32)	5.53	0.6	(58.2)	表面形は長方形を呈する、両刃 原礫面残る		
20171		304-64	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(8.30)	3.94	0.7	(34.8)	表面形は長方形を呈する、両刃		
20172		306-81	8M-9a	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	8.48	4.43	0.7	(44.0)	背部のみ残存		
20173		304-115	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(5.86)	4.24	0.55	(27.6)	両端欠損、片刃		
20174		304-118	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(6.08)	(5.08)	(0.7)	(31.7)	両端欠損、刃部潰す		
20175		312-20	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(4.55)	(3.36)	0.8	(17.6)	先端部のみ残存、紐孔残る、刃部は潰す 平面形は不明		
20176		304-126	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	泥岩	(3.90)	(3.42)	0.8	(12.8)			
20177		306-69	8M-9a	第6面	252大溝下層	石庖丁	流紋岩	(4.89)	(4.54)	(0.4)	(13.2)	先端部のみ残存、片面剥落 耳成山産? 白色		
20178		304-122	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(4.35)	(2.42)	0.5	(9.3)	背部欠片		
20179	79	304-61	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(9.66)	4.12	0.6	(45.1)	2点の接合資料、穿孔痕あり 再加工途中に欠損して廃棄?		
20180		304-116	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(8.82)	(2.89)	0.7	(28.4)	1/3欠損、刃部・背部潰す		
20181		309-3	8M-8a	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(7.44)	(3.55)	0.65	(23.9)	1/2欠損、刃部を作り直す途中?		
20182		312-17	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石庖丁	泥岩	(4.85)	(3.72)	0.8	(20.1)	紐孔部のみ残存、柱状石斧に再加工?		
20183	76	304-117	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(8.02)	(6.83)	0.8	(69.1)	原礫を整形したもの、1/2欠損		
20184		304-120	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	2.58	(2.31)	0.3	(2.5)	先端欠片、刃部未加工		
20185	79	304-114	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(14.49)	6.62	0.55	(96.0)	体部片、穿孔は見られない、杏仁形? 登録No.243-2と接合。		
20186		306-73	8M-9a	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩	(2.32)	(1.90)	0.5	(3.0)	未成品の欠片		

表54 03 - 1 - 2 区 石器観察表 (5)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			304-59	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩					紐孔部の欠片
			304-60	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩					表面剥落の欠片
			304-121	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩					体部欠片
			304-124	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩					研磨面剥落片
			304-125	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩					研磨面剥落片
			304-127	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	泥岩					体部片
			304-128	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石庖丁	泥岩					石斧の刃部の可能性あり
			309-4	8M-8a	第6面	252大溝下層	石庖丁	緑泥片岩					紐孔部のみ残存
			314-26	9M-2b	第6面	252大溝下層	扁平片刃石斧	泥岩	(3.35)	1.72	0.5	(4.6)	小形品
82	20188	76	314-27	9M-2b	第6面	252大溝下層	柱状蛤刃石斧	斑レイ岩	(3.61)	(1.94)	(3.65)	(21.4)	基部欠片
	20189		306-71	8M-9a	第6面	252大溝下層	柱状蛤刃石斧	サヌカイ石	(3.37)	(2.22)	1.4	(8.9)	基部欠片?
			304	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	打製石斧 2点	サヌカイ石					
			314	9M-2b	第6面	252大溝下層	打製石斧	サヌカイ石					
	20190	79	304-51	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	磨製石鏃	緑泥片岩	3.09	1.52	0.3	1.9	未成品? 平面形は凹基式 周縁部の加工は鈍い
	20191		304-52	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	磨製石剣	サヌカイ石	(3.07)	2.66	(0.4)	(4.1)	欠片
82	20192		306-72	8M-9a	第6面	252大溝下層	不明磨製石器	サヌカイ石	3.98	2.95	0.6	10.9	方形に整形して全体を磨く、石斧か?
	20193		306-74	8M-9a	第6面	252大溝下層	不明磨製石器	サヌカイ石	(3.28)	2.34	0.4	(2.9)	欠片、一部に研磨痕残る
	20194		306-78	8M-9a	第6面	252大溝下層	砥石	砂岩	(6.41)	(6.08)	2.0	(115.0)	砥面は2面、被熱痕残る?
	20195		309-5	8M-8a	第6面	252大溝下層	砥石	砂岩	(6.83)	6.09	2.2	(93.7)	石皿状にくぼむ
	20196		304-74	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	不明磨製石器	砂岩	(6.92)	5.06	3.2	(98.8)	砥石? 円錐状の頭部をもつ、石棒か?
			306-79	8M-9a	第6面	252大溝下層	砥石	花崗岩					被熱痕残る
			312-23	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	砥石	不明					砥面4面、被熱痕残る
			312-30	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	砥石	流紋岩?					白色を呈する
			314-30	9M-2b	第6面	252大溝下層	砥石	砂岩					被熱のため脆くなっている、砥面は1面
			314-31	9M-2b	第6面	252大溝下層	砥石	砂岩					砥面は1面
			314-32	9M-2b	第6面	252大溝下層	砥石	砂岩					砥面は5面
			312-21	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	磨石	砂岩					乳棒状
			312-22	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	磨石	砂岩					石鏃の可能性あり、炭付着
			314-29	9M-2b	第6面	252大溝下層	磨石	砂岩					円礫の欠片
			306-77	8M-9a	第6面	252大溝下層	叩き石	砂岩					叩き痕、擦痕残る、石鏃の可能性あり
	20197		304-37	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカイ石	(8.84)	2.77	1.9	(41.2)	先端部欠損、楔として転用か?
	20198		306-48	8M-9a	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカイ石	(8.42)	3.18	1.2	(35.5)	欠損した先端部を石鏃に転用?
83	20199	80・81	304-50	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカイ石	(3.40)	(3.09)	0.8	(6.7)	先端部のみ残存 不純物をきっかけに割れる
	20200		314-5	9M-2b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカイ石	(3.78)	2.50	0.9	(8.6)	削器の可能性あり
	20201		312-1	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカイ石	12.27	5.50	1.75	147.0	基部欠損、1/2残存、欠損面に調整? 産地分析試料(分析番号98501)
	20202		304-6	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカイ石	(5.57)	3.27	1.0	(19.1)	両端欠損

表54 03 - 1 - 2 区 石器観察表 (6)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリップ	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
83	20203		306-58	8M-9a	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカ石	(3.30)	3.18	1.0	(8.8)	
	20204		306-52	8M-9a	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカ石	(10.57)	4.53	1.0	71.7	先端部欠損、鋸歯縁、 基端に付着物あり(赤外分光分析)
84	20205	80・81	312-2	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカ石	(11.38)	3.80	1.1	(62.3)	先端部欠損、基部は中ほどでくびれる 産地分析試料(分析番号98502)
	20206		304-41	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカ石	(7.25)	2.94	1.0	(31.3)	先端部欠損、基部部に原礫面残る 稜縁が潰れるのは柄を装着したため?
84	20207		304-39	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカ石	8.16	3.36	1.1	37.6	未完成品、研磨面残る
			304-87	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカ石					未完成品
			314-37	9M-2b	第6面	252大溝下層	打製石剣	サヌカ石					
			304-4	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.07	1.24	0.3	0.6	凹基無茎式、完形
	20208		314-24	8M-2b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	1.80	1.50	0.2	0.5	凹基無茎式
	20209		304-10	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.64	1.22	0.4	1.3	凹基無茎式、完形
	20210		309-1	8M-8a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.04	1.42	0.6	1.6	凹基無茎式
	20211	80・81	314-8	9M-2b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.88	1.53	0.5	2.1	凹基無茎式、完形
	20212		304-5	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.58	2.00	0.7	4.8	凹基無茎式、完形
	20213		306-8	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.32	2.26	0.3	2.2	凹基無茎式、完形
	20214		304-29	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.18)	2.17	0.5	(3.0)	凹基無茎式、先端部欠損
	20215		306-14	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.23)	2.12	0.3	(2.0)	凹基無茎式、先端部欠損
	20216		304-17	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.60)	2.12	0.3	(1.5)	凹基無茎式?先端部欠損、鋸歯縁
	20217		304-48	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.11)	(1.92)	0.4	(1.3)	凹基無茎式、先端部欠損、石鏃の可能性あり
	20218		306-30	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.58	2.07	0.5	2.1	凹基無茎式、アメリカ式の可能性あり
	20219		306-25	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.41	1.69	0.25	1.0	アメリカ式
	20220		312-11	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.57)	1.38	0.5	(1.9)	平基式、先端欠損
	20221		304-23	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.50	2.05	0.4	2.0	平基式
	20222	80・81	304-19	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.73)	2.30	0.45	(2.8)	平基式
	20223		304-32	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(4.19)	1.33	0.4	(2.0)	平基式?鋸歯縁
20224		312-10	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	4.89	1.49	0.4	2.6	平基式、鋸歯縁加工あり	
20225		306-16	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.50	1.29	0.3	1.4	凹基式	
20226		306-42	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.21)	1.33	0.3	(1.0)	凹基式	
20227		306-24	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.20	1.73	0.3	2.0	凹基式、完形	
20228	80・81	304-26	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.31)	1.55	0.5	(3.0)	凹基式、先端部欠損	
20229		304-27	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.52	1.64	0.5	2.6	凹基式、完形	
20230	80・81	304-20	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.53)	1.67	0.4	(3.2)	凹基式、先端部欠損、鋸歯縁	
20231		304-11	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.65	1.19	0.4	1.2	凸基無茎式、完形	
20232	80・81	304-9	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.92	1.05	0.3	0.9	凸基無茎式、完形	
20233		304-14	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.94	1.12	0.4	1.2	凸基無茎式、節理面残る	
20234		306-19	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.40)	1.22	0.3	(1.2)	凸基無茎式	
20235		306-29	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.60	1.39	0.4	1.5	凸基無茎式	
20236	80・81												

表54 03-1-2区 石器観察表(7)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
85	20237		304-18	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.77)	1.28	0.4	(1.2)	凸基無茎式
	20238	80・81	306-22	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.87	1.42	0.4	1.3	凸基無茎式
	20239		304-12	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.00)	1.24	0.4	(1.7)	凸基無茎式
	20240		306-21	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.19)	1.55	0.4	(1.8)	凸基無茎式、先端部欠損、石鏃の可能性あり
	20241		304-16	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.51)	1.34	0.4	(1.4)	凸基無茎式、基部欠損
	20242		309-2	8M-8a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.76)	1.42	0.4	(1.5)	凸基無茎式、先端・基部欠損
	20243		304-15	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.83	1.46	0.4	1.6	円基式?
	20244	80・81	306-15	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.10	1.46	0.7	2.6	凸基無茎式、原礫面残る
	20245		306-50	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.89)	1.33	0.4	(1.5)	凸基無茎式、先端・基部欠損
	20246		304-21	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.25	1.41	0.5	2.4	凸基無茎式、完形
	20247	80・81	314-1	9M-2b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.98	1.56	0.6	2.7	凸基無茎式、完形
	20248		306-12	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.19)	1.49	0.4	(2.2)	凸基無茎式、先端部欠損
	20249	80・81	306-41	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.28	1.31	0.3	1.7	凸基無茎式
	20250		306-17	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.38)	1.38	0.4	(2.0)	凸基無茎式、先端部欠損
	20251		304-25	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.49	1.21	0.5	2.0	凸基無茎式
	20252		306-45	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.63	1.35	0.3	1.5	凸基無茎式、完形
	20253		304-35	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.45	1.36	0.5	2.5	凸基無茎式
	20254		304-56	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.42	1.38	0.4	2.3	凸基無茎式、原礫面残る
	20255		304-30	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.65	1.67	0.4	2.0	凸基無茎式、完形
	20256		304-31	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.72)	1.32	0.4	(1.6)	凸基無茎式、基部欠損
	20257	80・81	304-2	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.88)	1.48	0.6	(1.9)	凸基無茎式、先端・基部欠損
	20258		314-3	9M-2b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(4.01)	1.30	0.5	(2.2)	凸基無茎式、先端部欠損
	20259		312-13	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	4.88	1.43	0.4	2.4	凸基無茎式、完形
	20260		304-34	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(4.63)	1.42	0.4	(2.6)	凸基無茎式、先端部欠損、鋸歯縁 研磨あるいは擦痕が残る?
	20261		314-4	9M-2b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	4.04	1.30	0.5	2.2	凸基無茎式、完形
20262		306-1	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(4.03)	1.48	0.4	(2.4)	凸基無茎式、先端・基部欠損、鋸歯縁	
20263		304-22	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.59)	1.72	0.4	(2.5)	凸基無茎式、先端・基部欠損	
20264		306-26	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	4.17	2.00	0.5	3.6	凸基無茎式、完形	
20265		306-44	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.99)	1.44	0.55	(2.2)	凸基無茎式? 石鏃の可能性あり	
20266		314-7	9M-2b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.61)	1.17	0.5	(1.6)	凸基無茎式	
20267		304-28	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.71)	1.29	0.5	(1.2)	凸基有茎式、基部欠損	
20268		306-43	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.59	1.23	0.35	0.9	凸基有茎式、風化?	
20269	80・81	312-14	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.62	1.65	0.45	2.4	凸基有茎式	
20270		304-24	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	4.20	2.04	0.5	3.4	凸基有茎式、完形	
20271		306-37	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.89)	1.48	0.5	(2.6)	凸基有茎式、先端部欠損	
20272		312-15	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.88)	1.33	0.65	(3.6)	凸基有茎式、基部欠損	
20273		304-33	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.79)	1.71	0.45	(2.7)	凸基有茎式? 基部欠損	

表54 03-1-2区石器観察表(8)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
	20274		312-12	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.76)	1.29	0.3	(1.4)	先端・基部欠損、鋸歯縁
	20275		304-8	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.10)	1.14	0.3	(1.1)	先端・基部欠損
	20276		306-27	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.28)	1.29	0.4	(1.4)	先端・基部欠損
	20277		304-13	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.35)	1.28	0.4	(1.5)	基部欠損
	20278		306-20	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.90)	1.42	0.4	(1.8)	凸基無茎式、先端・基部欠損
	20279		304-36	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.47)	1.29	0.3	(1.5)	凸基無茎式？基部欠損
	20280		306-10	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.53	1.54	0.3	1.4	凸基無茎式、周縁部の剥離は未完成？
	20281		306-5	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(3.34)	1.15	0.5	1.9	石鏃の鏃部の可能性あり
	20282		304-58	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.69	1.33	0.5	3.2	棒状石鏃の可能性あり
	20283		306-36	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.78)	1.25	0.5	(1.9)	凸基無茎式、先端部欠損
87	20284		306-38	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.66)	(1.65)	0.4	(1.4)	基部欠損
	20285		306-9	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.89)	1.86	0.6	2.5	基部欠損、原礫面残る、製作途中に廃棄？
	20286		304-57	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.95	1.61	0.7	3.3	未成品、石鏃の可能性あり
	20287		304-49	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.92	1.91	0.7	4.7	未成品、先端部欠損、原礫面残る
	20288		306-28	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.61	2.11	0.9	4.2	楔の可能性あり
	20289		306-46	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.37	1.57	0.35	1.4	剥片の可能性あり、表面摩滅、風化
	20290		306-23	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	(2.20)	(2.23)	0.3	(1.9)	剥片の可能性あり、片面調整
	20291		304-55	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.33	2.05	0.7	4.9	未成品の可能性あり
	20292		304-54	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.27	1.93	0.6	4.2	未成品、削器・石鏃の可能性あり
	20293		306-31	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.59	2.00	0.6	5.5	未成品、楔の可能性あり
	20294		306-54	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.82	2.37	0.8	9.3	削器の可能性あり、原礫面残る
	20295		304-53	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	4.75	2.31	0.7	6.9	未成品、削器の可能性あり
	20296		306-40	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	5.13	2.52	0.6	6.1	平基式、未成品の可能性あり
			304-67	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石					平基式、原礫面が残る、先端部欠損
			304-107	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石					未成品もしくは欠損品、鏃の可能性あり
			304-69・70・72・ 78・93・94・130	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃 7点	サヌカ石					未成品
			306-93	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石					未成品
			309-6	8M-8a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石					未成品の可能性あり
			314	9M-2b	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石					未成品
			312-27,312	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石鏃 2点	サヌカ石					未成品
			304	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石鏃 4点	サヌカ石					未成品2点含む
			306	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃 9点	サヌカ石					未成品4点含む
	20297	82	306-18	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	2.96	1.20	0.5	1.6	凸基無茎式石鏃を転用
	20298		306-34	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.11	1.60	0.7	3.4	動態III-②類
88	20299		306-55	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	3.50	1.82	0.9	4.8	石鏃未成品の可能性あり、原礫面残る
	20300		306-33	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	4.17	1.90	0.5	3.8	動態III-②類
	20301	82	306-32	8M-9a	第6面	252大溝下層	石鏃	サヌカ石	4.65	2.17	0.4	4.8	動態III-②類、回転痕残る

表54 03 - 1 - 2 区 石器観察表 (9)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
88	20302		306-51	8M-9a	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	4.72	2.13	0.5	6.5	動態III-②類 石錐未成品を転用？刃を潰して握りをつくり 先端加工
	20303	82	304-40	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	5.77	2.40	0.9	12.1	
	20304		304-42	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	5.19	2.44	0.9	13.0	打製石剣の先端部を加工、動態III-④類
	20305		312-9	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	4.16	2.30	0.65	5.8	動態III-①類
	20306		304-46	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	4.88	2.53	1.1	14.7	動態III-④類、頂部に原礫面残る
	20307	82	304-45	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	4.68	3.34	0.9	11.8	動態III-④類、頂部に原礫面残る
	20308		306-39	8M-9a	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	3.37	(1.72)	0.5	(2.7)	動態III-①類
	20309		306-2	8M-9a	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	(2.78)	1.92	0.5	(2.4)	動態III-①類、先端部欠損
	20310		312-5	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	(3.20)	1.55	0.7	(3.7)	動態III-①類、錐部欠損
	20311	82	314-25	9M-2b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	(3.50)	1.74	0.6	(2.1)	動態III-①類、錐部欠損
	20312		312-8	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	(4.66)	2.32	1.4	(14.1)	動態III-②類、先端部欠損
	20313		312-6	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	(3.54)	2.88	0.7	(6.5)	動態III-④類
	20314		314-2	9M-2b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	4.03	2.46	1.0	7.8	動態III-④類
	20315	82	304-1	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	4.09	3.89	0.6	6.0	動態III-④類
20316		306-70	8M-9a	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	(3.80)	3.50	0.6	(5.2)	動態III-④類、先端部欠損	
89	20317		312-7	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	6.04	3.00	1.2	19.0	動態III-①類
	20318	82	304-43	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	6.78	2.75	2.3	27.7	動態III-②類、原礫面大きく残る
	20319		306-3	8M-9a	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	3.05	1.13	0.7	1.8	動態III-③類
	20320		304-47	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	4.33	1.05	0.6	3.3	棒状、回転痕残る
	20321	82	304-7	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	3.51	0.90	0.5	1.5	小形の棒状のもの、玉錐？
	20322		306-4	8M-9a	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ	5.63	1.26	0.7	6.1	棒状、回転痕残る
			314-36	9M-2b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ					先端部欠損、平面形は不明
			304	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ					未成品2点含む
			314	9M-2b	第6面	252大溝下層	石錐	サヌカイ					
	20323		306-6	8M-9a	第6面	252大溝下層	石小刀	サヌカイ	4.80	1.36	0.5	4.1	
	20324		314-6	9M-2b	第6面	252大溝下層	石小刀	サヌカイ	(4.79)	1.95	0.4	(5.8)	先端・基部欠損
	20325	82	312-3	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石小刀	サヌカイ	(5.16)	2.03	0.8	(10.9)	先端・基部欠損、わずかに反る
20326		306-7	8M-9a	第6面	252大溝下層	石小刀	サヌカイ	4.00	1.23	0.4	1.8	異型、突起物あり	
20327		310-2	8M-8・9a	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ	4.25	(1.66)	0.4	(3.3)		
20328		312-4	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ	(5.61)	4.10	1.1	(25.9)	原礫面残る	
20329		304-38	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ	5.84	3.02	0.9	22.1		
20330		314-9	9M-2b	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ	6.43	3.32	1.3	32.4	楔の可能性あり、打製石剣の素材を転用？	
20331	82	314-10	9M-2b	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ	(7.79)	2.90	0.9	(22.3)	打製石剣の失敗品を転用？原礫面残る	
20332		307-2	8M-9・10a/他	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ	9.12	4.38	1.0	51.7	楔に転用？歯潰れあり	
20333		306-47	8M-9a	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ	8.41	4.80	1.6	55.4	原礫面残る	
20334		306-49	8M-9a	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ	9.10	4.08	1.6	48.7	原礫面残る	
		306-85・88・ 90,306	8M-9a	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ					登録No.306-90尖頭器未成品か？	
		307-1,307	8M-9・10a/他	第6面	252大溝下層	削器	サヌカイ						

表54 03-1-2区石器観察表(10)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリップ	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			312-26・32～ 35,312	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	削器 6点	サヌカイ					登録No.312-26白色に風化
			314-33・34・38・ 40・44・45,314	9M-2b	第6面	252大溝下層	削器 8点	サヌカイ					登録No.314-33石鱗未成品の可能性あり 登録No.314-45円形削器?
	20335	82	306-62	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.17	2.10	0.8	4.7	
	20336		306-75	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.27	2.12	0.7	4.0	
	20337		314-15	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.15	1.95	0.5	2.5	
	20338		306-63	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.59	2.07	0.7	3.5	
	20339		306-64	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.80	2.08	0.9	5.9	
	20340		306-56	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.85	2.19	0.6	4.7	
	20341		306-60	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.76	(2.69)	1.1	(8.9)	
	20342		314-17	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	3.55	2.75	1.1	10.1	
	20343		306-66	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.76	2.33	0.7	4.4	
91	20344		306-67	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.61	2.47	0.7	5.6	
	20345		306-53	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	3.18	3.10	0.8	10.6	片面調整
	20346	82	314-11	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	4.00	(2.53)	1.2	(16.5)	
	20347		306-65	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	4.01	3.51	1.4	16.2	
	20348		306-59	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	2.93	(2.65)	0.8	(5.4)	
	20349		314-23	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	3.59	2.83	1.0	12.8	
	20350		314-18	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	(3.77)	3.19	0.9	(11.4)	
	20351		306-61	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	(3.51)	(3.31)	1.0	(10.5)	
	20352		314-19	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	3.38	3.30	1.7	24.3	
	20353		314-16	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	5.24	3.28	0.9	17.5	
	20354		314-12	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	5.67	3.00	1.1	23.1	
	20355		314-13	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	6.52	6.17	2.4	93.2	
92	20356		314-20	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	7.26	5.02	2.6	85.3	
	20357	82	314-22	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	7.47	3.61	1.9	52.3	
	20358		314-14	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	8.94	3.81	2.0	64.7	
	20359	82	314-21	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ	8.05	4.85	2.7	104.0	
			304-73・75～ 77・79～83・85・ 86・88・99・102・ 108・131・138・ 139,304	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	楔 36点	サヌカイ					登録No.304-73柱状石斧に加工途中? 登録No.304-76板材素材?
			306-68・82～ 84・94・95・ 100,306	8M-9a	第6面	252大溝下層	楔 12点	サヌカイ					
			309-7	8M-8a	第6面	252大溝下層	楔	サヌカイ					

表54 03-1-2区 石器観察表 (11)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			312-31・38・ 39,312	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	楔 6点	サヌカイ					
			314-39・41~ 43・46,314	9M-2b	第6面	252大溝下層	楔 13点	サヌカイ					登録No.314-39両極に敲打痕あり
			314-48	9M-2b	第6面	252大溝下層	石核	サヌカイ					
			304-77,304	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	石核 5点	サヌカイ					登録No.304-77楔形石核
			306	8M-9a	第6面	252大溝下層	石核	サヌカイ					
			309	8M-8a	第6面	252大溝下層	石核	サヌカイ					
			312-24・29・ 36,312	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	石核 6点	サヌカイ					登録No.312-29原礫素材 登録No.312-36楔形石核
			314-49,314	9M-2b	第6面	252大溝下層	石核 2点	サヌカイ					登録No.314剥片素材
	20360		306-13	8M-9a	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ	3.76	3.02	0.7	6.8	調整剥片、石鏃未成品の可能性あり
	20361		306-105	8M-9a	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ	4.72	2.60	0.6	6.9	尖頭器の調整剥片の可能性あり
	20362		306-35	8M-9a	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ	(3.09)	1.95	0.8	(4.8)	調整剥片、石鏃の可能性あり
	20363		304-44	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ	4.89	3.52	1.0	14.6	調整剥片、判器の可能性あり
93	20364		304-3	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ	(2.98)	2.22	0.4	(6.6)	調整剥片、原礫面残る、楔の可能性あり
	20365		306-57	8M-9a	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ	3.04	2.12	0.7	4.7	調整剥片、楔の可能性あり
	20366		310-1	8M-8・9a	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ	3.93	2.77	0.6	8.2	調整剥片、楔の可能性あり
	20367		306-76	8M-9a	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ	3.79	2.60	0.6	6.6	調整剥片、楔の可能性あり
			304-68・71・97・ 105・110・111・ 113・132・134・ 136・140,304	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	剥片 480点	サヌカイ					熱破砕剥片7点含む 産地分析試料含む(分析番号98450~98477)
			306-86・89・91・ 92・96~99・ 101,306	8M-9a	第6面	252大溝下層	剥片 119点	サヌカイ					熱破砕剥片1点含む 産地分析試料含む(分析番号98478~98485)
			307	8M-9・10a/他	第6面	252大溝下層	剥片 9点	サヌカイ					
			309	8M-8a	第6面	252大溝下層	剥片 24点	サヌカイ					
			310	8M-8・9a	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ					
			312-25・28,312	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	剥片 83点	サヌカイ					登録No.312-28原礫素材 熱破砕剥片3点含む 産地分析試料含む(分析番号98486~98494)
			314-47,314	9M-2b	第6面	252大溝下層	剥片 57点	サヌカイ					熱破砕剥片2点、チップ1点含む 産地分析試料含む(分析番号98495~98498)
			315	8M-8a/他	第6面	252大溝下層	剥片	サヌカイ					
			304-129	8M-10a/10b	第6面	252大溝下層	小礫	緑泥片岩					
			306	8M-9a	第6面	252大溝下層	小礫 6個	砂岩					被熱割れ
			309	8M-8a	第6面	252大溝下層	原礫	サヌカイ					
			312-37	9M-1a/1b	第6面	252大溝下層	原礫	サヌカイ					被熱割れ

表54 03-1-2区石器観察表(12)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考	
95	20376	83	482-2	8M-10a/10b	第6面	252大溝北法面	石庖丁	緑泥片岩	15.80	4.50	0.75	97.0	完形、直線刃半月形、片刃	
	20377	76	489-1	9M-1a	第6面	252大溝北法面	石庖丁	緑泥片岩	(12.06)	(6.41)	0.9	(106.4)	未成品、荒割した原材の表面を部分的に研磨、欠損して途中放棄? 刃部不明	
			488-5	9M-2b	第6面	252大溝北法面	石皿	結晶片岩					石皿状にくぼむ石器の一部? 被熱痕残る	
			488-4	9M-2b	第6面	252大溝北法面	磨石	砂岩					涙滴形の平面形、擦痕残る	
			318	9M-1a	第6面	252大溝北法面	磨石	砂岩					被熱、礫状石斧の可能性	
			488-2	9M-2b	第6面	252大溝北法面	砥石	花崗岩					砥面2面残る	
			488-3	9M-2b	第6面	252大溝北法面	砥石	片麻岩					砥面欠片	
			489-4	9M-1a	第6面	252大溝北法面	砥石	砂岩					被熱、表面は風化激しい	
			489-3	9M-1a	第6面	252大溝北法面	叩き石	サヌカ石					敲打痕残る	
		20378		487	9M-1a/1b	第6面	252大溝北法面	石鏃	サヌカ石	3.96	1.40	0.4	2.1	円基式
96	20379	83	488-1	9M-2b	第6面	252大溝北法面	削器	サヌカ石	5.70	3.73	1.0	19.3		
	20380		489-2	9M-1a	第6面	252大溝北法面	削器	サヌカ石	6.39	5.29	1.5	47.3		
	20381		482-1	8M-10a/10b	第6面	252大溝北法面	削器	サヌカ石	6.58	3.85	0.9	19.7	石錐未成品の可能性あり	
			321	9M-2b	第6面	252大溝北法面	削器	サヌカ石					石錐の可能性あり	
			482	8M-10a/10b	第6面	252大溝北法面	剥片	サヌカ石						
			487	9M-1a/1b	第6面	252大溝北法面	剥片	サヌカ石						
			488	9M-2b	第6面	252大溝北法面	剥片	サヌカ石						
			489,644	9M-1a	第6面	252大溝北法面	剥片	サヌカ石						
		20382	83	283	8M-10b	第6面	252大溝南法面	管玉	碧玉質	1.64	0.38	0.4	0.4	出土位置図面あり
	100	20383		484	8M-8a/8b	第6面	252大溝南法面	石庖丁	緑泥片岩	(11.54)	4.43	(0.5)	(44.0)	再加工途中に欠損
20384			319-1	9M-1b	第6面	252大溝南法面	石鏃	サヌカ石	4.04	1.93	0.5	4.0	凸基有基式、完形	
20385			486	8M-9a/9b	第6面	252大溝南法面	削器	サヌカ石	6.58	3.73	1.0	20.6	楔の可能性あり	
			319,320	9M-1b	第6面	252大溝南法面	剥片	サヌカ石						
			484	8M-8a/8b	第6面	252大溝南法面	剥片	サヌカ石						
			610	9M-1b	第6面	252大溝南法面	剥片	サヌカ石						
		20396		293-1	8L-9・10h/他	第6面	237溝	結晶片岩	(9.85)	(4.50)	0.9	(52.1)	剥落が進む、刃部不明	
		20397	84	293-4	8L-9・10h/他	第6面	237溝	サヌカ石	8.18	2.74	1.2	39.6		
				293-2・3	8L-9・10h/他	第6面	237溝	サヌカ石						
				293	8L-9・10h/他	第6面	237溝	サヌカ石						
102	20416		298-5	8L-8j/他	第6面	247溝	砥石	花崗片麻岩	(6.56)	(5.95)	3.5	(220.6)	磨製石斧体部片の可能性あり	
	20417		298-1	8L-8i/他	第6面	247溝	石鏃	サヌカ石	3.42	1.06	0.4	1.4	凸基無基式	
	20418		298-2	8L-8i/他	第6面	247溝	石鏃	サヌカ石	4.79	2.03	0.6	5.9	凸基無基式	
			298	8L-8j/他	第6面	247溝	剥片	サヌカ石						
			298-3・6	8L-8i/他	第6面	247溝	小礫	紅糜片岩					加工痕は不明	
			298-4	8L-8j/他	第6面	247溝	原礫	サヌカ石						
			614-1	9M-2a	第6面	248溝	石鏃	サヌカ石	3.18	1.57	0.4	1.7	凸基無基式、平面形は菱形	
			613-1	9M-2a	第6面	248溝	削器	サヌカ石						
			614-2	9M-2a	第6面	248溝	楔	サヌカ石					周縁部に敲打痕残る	
			613,614	9M-2a	第6面	248溝	剥片	サヌカ石						

表54 03-1-2区 石器観察表 (13)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			418-1	9M-1c	第6面	255溝	石庖丁	緑泥片岩					先端部欠片
			418-2	9M-1c	第6面	255溝	石庖丁素材	緑泥片岩					板状緑泥片岩を荒割り整形したもの、欠片
			410-2	8M-10b/10c	第6面	255溝	石皿	泥岩					磨り面のかげら、円形に整形?
103	20423		410-1	8M-10b/10c	第6面	255溝	石鏃	サヌカ石	3.03	1.10	0.4	1.4	凸基無茎式
			413-1	9M-1b	第6面	255溝	楔	サヌカ石					
			418-3	9M-1c	第6面	255溝	削器	サヌカ石					
			299	8M-9・10b/他	第6面	255溝	剥片 6点	サヌカ石					
			405	8M-9b	第6面	255溝	剥片 3点	サヌカ石					
			408	8M-10b	第6面	255溝	剥片 4点	サヌカ石					
			410	8M-10b/10c	第6面	255溝	剥片 5点	サヌカ石					
			413	9M-1b	第6面	255溝	剥片 7点	サヌカ石					
			418	9M-1c	第6面	255溝	剥片 5点	サヌカ石					
			607	8L-9b	第6面	255溝	剥片 3点	サヌカ石					
			490-1	9M-2b	第6面	418溝	砥石	花崗岩					
			490-2	9M-2b	第6面	418溝	中礫	花崗岩					
			302	8L-8j/他	第6面	249土坑	石鏃	サヌカ石					
104	20427		417-1	9M-1b/1c	第6面	258土坑	石鏃	サヌカ石	(4.36)	2.23	0.4	(3.6)	凸基有茎式、先端部欠損
			300	9M-1・2b/他	第6面	258土坑	剥片 2点	サヌカ石					
			416,417	9M-1b/1c	第6面	258土坑	剥片 3点	サヌカ石					
105	20429		295-1	8L-9・10i/他	第6面	242落ち込み	石庖丁	泥岩	(3.45)	(3.10)	0.5	(8.2)	刃部欠片、両刃?
			295	8L-9・10i/他	第6面	242落ち込み	剥片 2点	サヌカ石					
106	20431		374-1	9L-1i	第6面	233高まり内	砥石	砂岩	(6.31)	(4.79)	6.0	(148.4)	煤付着、砥面1面残る
			374	9L-1i	第6面	233高まり内	剥片 2点	サヌカ石					
			344-1	8L-10i	第6面	238高まり内	石鏃	砂岩					棒状、くびれあり
			344	8L-10i	第6面	238高まり内	剥片 2点	サヌカ石					
			341	8L-9i	第6面	238高まり内	小礫	砂岩					棒状、敲打による割れあり
			342-1	8L-9j	第6面	239高まり内	楔	サヌカ石					敲打痕残る
			342-2	8L-9j	第6面	239高まり内	剥片	サヌカ石					表面白く風化
106	20434		379-1	9L-1j	第6面	240高まり内	石庖丁	緑泥片岩	(5.83)	5.22	0.6	(29.2)	両端欠損、片刃
			379-2	9L-1j	第6面	240高まり内	楔	サヌカ石					敲打痕残る
			382-1・2	9M-3a	第6面	240高まり内	削器 2点	サヌカ石					
	20439		350-4	8M-9a	第6面	250高まり内	石鏃	サヌカ石	(2.67)	1.67	0.8	3.1	未成品、石鏃の可能性あり
106	20440	85	452-1	8M-1a	第6面	250高まり内	削器	サヌカ石	(4.90)	1.56	0.6	(5.6)	刃部調整に欠けあり、表面の擦痕は新しい 石小刀の可能性あり
	20441		451-1	8M-10a	第6面	250高まり内	削器	サヌカ石	5.66	3.27	0.9	18.4	尖頭器未成品?
			350-2・3	8M-9a	第6面	250高まり内	削器 2点	サヌカ石					
			450-1	8L-9j	第6面	250高まり内	削器	サヌカ石					階段状の剥離あり
			453	8M-10c	第6面	250高まり内	削器	サヌカ石					
			453	8M-10c	第6面	250高まり内	楔	サヌカ石					
			348-1,606,450	8L-9j	第6面	250高まり内	剥片 10点	サヌカ石					

表54 03-1-2区 石器観察表 (14)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			350,451	8M-9a	第6面	250高まわり内	剥片 6点	サヌカイ					
			351-1	8M-10a	第6面	250高まわり内	剥片	サヌカイ					
			449	8M-8a	第6面	250高まわり内	剥片	サヌカイ					
			452	8M-1a	第6面	250高まわり内	剥片 6点	サヌカイ					
			453	8M-10c	第6面	250高まわり内	剥片	サヌカイ					
			351-2	8M-10a	第6面	250高まわり内	中礫	不明					棒状、加工痕は不明
			348-2	8L-9j	第6面	250高まわり内	小礫	不明					被熱痕残る?
			350-1	8M-9a	第6面	250高まわり内	小礫	砂岩					棒状、一端を欠損
			455	9M-3b	第6面	251高まわり内	削器	サヌカイ					
			366-1・2	9M-2b	第6面	251高まわり内	削器 2点	サヌカイ					
			420-1	9M-2b	第6面	251高まわり内	楔	サヌカイ					
			366,420	9M-2b	第6面	251高まわり内	剥片 2点	サヌカイ					
	20446		400-2	8M-8a/8b	第6面	253高まわり内	打製石剣	サヌカイ	(7.36)	2.23	1.1	(20.3)	小形品、直線的な側縁を持つ、基部欠損
107	20447	85	400-1	8M-8a/8b	第6面	253高まわり内	打製石剣	サヌカイ	9.63	2.49	1.5	46.8	直線的な側縁を持つ 先端部欠損、原礫面残る 産地分析試料(分析番号98503)
			361	8M-9b	第6面	253高まわり内	剥片 3点	サヌカイ					
			400	8M-8a/8b	第6面	253高まわり内	剥片 7点	サヌカイ					
			563	8M-8b	第6面	253高まわり内	剥片 7点	サヌカイ					
108	20448	85	412-1	9M-1b	第6面	254高まわり内	扁平形石斧	緑泥片岩	2.51	2.23	0.5	4.8	石庖丁の刃部を利用したため両刃、小形
			412-2	9M-1b	第6面	254高まわり内	削器	サヌカイ					
			412	9M-1b	第6面	254高まわり内	剥片 2点	サヌカイ					
108	20450	85	352	8M-10a/10c	第6面	256高まわり内	石庖丁	泥岩	(12.49)	4.12	0.7	(67.8)	両端欠損、両刃
	20451		554	9M-1c	第6面	256高まわり内	砥石	花崗岩	(19.2)	(12.3)	5.4	(1588.7)	花崗岩もしくは閃緑岩 未成品、石錐の可能性あり 側縁部のみ細部調整
			409-1	8M-10b/10c	第6面	256高まわり内	石鏃	サヌカイ					
			352	8M-10a/10c	第6面	256高まわり内	剥片 2点	サヌカイ					
			409	8M-10b/10c	第6面	256高まわり内	剥片 5点	サヌカイ					
			414	9M-1b/1c	第6面	256高まわり内	剥片 5点	サヌカイ					
			367,419	9M-1c	第6面	256高まわり内	剥片 7点	サヌカイ					
			612	9M-1c	第6面	257高まわり内	剥片 4点	サヌカイ					
	20456		564-6	8M-9b	第6面	253・254・256高 まわり内	扁平形石斧	緑泥片岩	(2.81)	2.73	0.55	(8.7)	石庖丁の刃部を再加工
109	20457	85	564-7	8M-9b	第6面	253・254・256高 まわり内	石棒	石英質	(5.66)	3.48	2.6	(75.3)	棒状に研磨、両端欠損
			564-9	8M-9b	第6面	253・254・256高 まわり内	打製石剣	サヌカイ					両端欠損?
			564-1・2・10	8M-9b	第6面	253・254・256高 まわり内	削器 3点	サヌカイ					
			564-3~5	8M-9b	第6面	253・254・256高 まわり内	楔 3点	サヌカイ					

表54 03-1-2区 石器観察表 (15)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			564	8M-9b	第6面	253・254・256高 まり内	剥片 16点	サヌカイ					
			564-8	8M-9b	第6面	253・254・256高 まり内	小礫	片岩質					板状に剥離、加工痕は不明
			565-1	8M-10b	第6面	254・256高まり内	石庖丁	黒色粘板岩					背部のみの破片
109	20458		565-2	8M-10b	第6面	254・256高まり内	紡錘車	緑泥片岩	(3.18)	(3.09)	0.7	(12.4)	未成品、石庖丁の欠片を転用？
	20459	85	565-3	8M-10b	第6面	254・256高まり内	打製石剣	サヌカイ	(6.98)	2.75	1.0	(15.7)	先端部欠け、基部欠損
			565-4	8M-10b	第6面	254・256高まり内	打製石剣	サヌカイ					基部端面に原礫面残る、先端部欠損 向側縁が平行に伸びる
			566	8M-10b/10c	第6面	254・256高まり内	石鏃	サヌカイ					未成品、石鏃の可能性あり
109	20460		404-1	8M-9b	第6面	254・256高まり内	石小刀	サヌカイ	5.28	1.54	0.5	4.1	完形
	20461	85	407-1	8M-10b	第6面	254・256高まり内	削器	サヌカイ	9.55	3.50	1.4	46.0	三日月形
			565-5,407-2	8M-10b	第6面	254・256高まり内	削器 2点	サヌカイ					
			404-2・3	8M-9b	第6面	254・256高まり内	楔 2点	サヌカイ					敲打痕残る
			407,565	8M-10b	第6面	254・256高まり内	剥片 22点	サヌカイ					
			404	8M-9b	第6面	254・256高まり内	剥片	サヌカイ					
			565	8M-10b	第6面	254・256高まり内	礫	不明					板状
			565	8M-10b	第6面	254・256高まり内	礫	不明					棒状、被熱
			565	8M-10b	第6面	254・256高まり内	礫	片岩質					棒状、剥落が進む
			1381-1	西側溝	第6層	254・256高まり内	石庖丁	緑泥片岩					先端部欠片
			1381-2	西側溝	第6層		剥片	サヌカイ					
	20494		372-7	8M-9・10a/他	第7面	267溝	石庖丁	緑泥片岩	(6.76)	2.97	0.7	(22.0)	1/2欠損 刃部・背部を敲打して石剣に再加工？
114	20495		357-3	8L-8・9j/他	第7面	267溝	大型蛤刃石斧	安山岩	(8.29)	(4.41)	(4.4)	(215.8)	基部のみ残存、刃部欠損
	20496	86	357-2	8L-8・9j/他	第7面	267溝	大型蛤刃石斧	砂岩	(7.20)	6.14	(3.5)	(153.5)	刃部のみ残存
	20497		357-1	8L-8・9j/他	第7面	267溝	叩き石	砂岩	(5.77)	3.83	2.65	(88.6)	棒状、被熱痕・敲打痕・擦痕残る
			372-1	8M-9・10a/他	第7面	267溝	叩き石	不明					敲打痕・被熱痕残る
114	20498		357-11	8L-8・9j/他	第7面	267溝	砥石	砂岩	(6.13)	(4.76)	(1.15)	(45.6)	凹板状に加工？風化激しい
	20499		357-13	8L-8・9j/他	第7面	267溝	砥石	花崗岩	(8.61)	(7.24)	(9.1)	(417.7)	三角錐形を呈する、砥面は不明
			357-9	8L-8・9j/他	第7面	267溝	石鏃	サヌカイ					未成品？
			357-4~8	8L-8・9j/他	第7面	267溝	削器 5点	サヌカイ					登録No.357-6棒状、擦痕残る
			372-3・4	8M-9・10a/他	第7面	267溝	削器 2点	サヌカイ					登録No.372-4楔の可能性あり
			357-10	8L-8・9j/他	第7面	267溝	楔	サヌカイ					
			357	8L-8・9j/他	第7面	267溝	剥片 11点	サヌカイ					
			372-6	8M-9・10a/他	第7面	267溝	剥片	サヌカイ					
			384	9M-1a	第7面	267溝	大礫	不明					使用痕はみられない
			357-12	8L-8・9j/他	第7面	267溝	大礫	不明					石皿状、砥面なし
			372-2	8M-9・10a/他	第7面	267溝	中礫	不明					使用痕はみられない
			372-5	8M-9・10a/他	第7面	267溝	小礫	不明					磨製石器の欠片？

表54 03 - 1 - 2 区 石 器 観 察 表 (16)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			401-1	8L-9i	第7面	266落ち込み	削器	サヌカイ					石鏃未成品の可能性あり
			401	8L-9i	第7面	266落ち込み	剥片	サヌカイ					
115	20503		378-2	9L-2j	第7面	270落ち込み	砥石	砂岩	(7.01)	5.16	2.3	(176.3)	扁平な方形を呈する、砥面は不明瞭 円礫、表面のくぼみにも使用痕あり
			378-1	9L-2j	第7面	270落ち込み	磨石	砂岩					
			378	9L-2j	第7面	270落ち込み	剥片	サヌカイ					
			422	9L-1h	第7面	260高まり内	小礫	緑泥片岩					
			402	8L-9j	第7面	265高まり内	削器	サヌカイ					擦痕・敲打痕残る
			434	8L-8i	第7面	265高まり内	剥片 2点	サヌカイ					
			423-1	9L-2h	第7面	268高まり内	砥石	砂岩					二つに割れる、同一個体
			423-2	9L-2h	第7面	268高まり内	削器	サヌカイ					片面調整
			411-1	9L-1j	第7面	271高まり内	石鏃	サヌカイ					動態III-④類。削器の可能性あり。
			411-2・3,444-1	9L-1j	第7面	271高まり内	削器 3点	サヌカイ					
			411,444	9L-1j	第7面	271高まり内	剥片 3点	サヌカイ					
			403	8L-9j	第7層		剥片	サヌカイ					
			1190	北側溝	第7層		剥片	サヌカイ					
			1190	北側溝	第7層		中礫	砂岩					磨石の可能性あり
			432	9L-2i	第8面	288溝	剥片 2点	サヌカイ					
			446-1	8L-8・9j	第8面	297溝	削器	サヌカイ					
			446-2	8L-8・9j	第8面	297溝	楔	サヌカイ					
			1285	8M-10a	第8面	323木棺	剥片	サヌカイ					棺外で取り上げ
			1283	8M-10a	第8面	323木棺	中礫 3点	不明					棺内で取り上げ
			442-1	8L-10j	第8面	293土坑	削器	サヌカイ					
			442	8L-10j	第8面	293土坑	剥片 2点	サヌカイ					
			457	8M-10b	第8面	302土坑	剥片 4点	サヌカイ					
			465-1	9M-1b	第8面	317土坑	削器	サヌカイ					形状は石鏃に似る、側縁の調整粗い
			465	9M-1b	第8面	317土坑	剥片 2点	サヌカイ					
			466	9M-1・2b	第8面	319土坑	削器	サヌカイ					
			458	9M-1b	第8面	305ピット	剥片 2点	サヌカイ					
124	20525		459-1	9M-1a	第8面	308ピット	石鏃	サヌカイ	4.16	2.14	0.7	5.4	動態III-①類
			459	9M-1a	第8面	308ピット	剥片 2点	サヌカイ					
			462	9M-1b/1c	第8面	311ピット	剥片	サヌカイ					
			463	8M-9a	第8面	314ピット	剥片	サヌカイ					
			427-1	9L-2i	第8面	284落ち込み	削器	サヌカイ					
			425-1・2	9L-3i	第8面	284落ち込み	楔 2点	サヌカイ					
			427	9L-2i	第8面	284落ち込み	剥片 3点	サヌカイ					
			438	8L-10j	第8面	290落ち込み	石廬丁	緑泥片岩					未成品？原礫の荒削、摺り切り痕あり
			443	9L-2・3j/他	第8面	294落ち込み	剥片 3点	サヌカイ					
			615	9M-1h	第8面	281高まり内	剥片	サヌカイ					

表54 03-1-2区 石器観察表 (17)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
126	20539	91	634-1	9L-2i	第8面	287高まり内	打製石剣	サヌカ石	15.40	5.24	1.5	113.2	完形 先端部に向かって幅広くなる基部に原礫面が残る
			634-2	9L-2i	第8面	287高まり内	削器	サヌカ石					尖頭器未成品?
			574	8L-10j	第8面	289高まり内	削器	サヌカ石					
			573-2	8L-9j	第8面	295高まり内	石錐	サヌカ石					未成品?先端部作り出しなし
			600-1	8L-8i	第8面	295高まり内	砥石	不明					砥面は1面
			573-1	8L-9j	第8面	295高まり内	削器	サヌカ石					
			600-2	8L-8i	第8面	295高まり内	削器	サヌカ石					
			573	8L-9j	第8面	295高まり内	剥片 4点	サヌカ石					
			600	8L-8i	第8面	295高まり内	剥片 2点	サヌカ石					原礫に近い
126	20541		626-1	9M-3a	第8面	296高まり内	打製石剣	サヌカ石	4.06	(3.55)	1.5	(24.2)	体部片
			621-1	9L-1j	第8面	296高まり内	削器	サヌカ石					
			622-3	9L-2j	第8面	296高まり内	削器	サヌカ石					菱形の平面形
			445.622-1	9L-2j	第8面	296高まり内	剥片 3点	サヌカ石					
			621	9L-1j	第8面	296高まり内	剥片	サヌカ石					表面白く風化
			623	9L-1・2j	第8面	296高まり内	剥片 3点	サヌカ石					
			625	9L-3j	第8面	296高まり内	剥片	サヌカ石					
			626	9M-3a	第8面	296高まり内	剥片 3点	サヌカ石					
			622-2	9L-2j	第8面	296高まり内	大礫	不明					被熱痕残る
			626	9M-3a	第8面	296高まり内	大礫	不明					使用痕はみられない
			1286-1	8M-10a	第8面	298高まり内	石錐	花崗岩					323木棺周辺で取り上げ、被熱痕残る
			586-2	8M-10a	第8面	298高まり内	石庖丁	緑泥片岩					剥落片
127	20544		1284	8M-10a	第8面	298高まり内	楔	サヌカ石	4.50	3.77	1.4	37.1	323木棺底板の下で取り上げ、石剣を転用?
	20546		585-3	8M-9a	第8面	298高まり内	大形石庖丁	緑泥片岩	(6.31)	(6.10)	0.65	(29.2)	体部片
	20547		585-1	8M-9a	第8面	298高まり内	扁平形石斧	泥岩	6.64	3.27	1.0	(31.4)	刃部一部欠損
	20548		585-2	8M-9a	第8面	298高まり内	砥石	砂岩	(9.35)	4.02	2.45	(154.6)	筋状の研ぎ痕あり
			1286-2	8M-10a	第8面	298高まり内	砥石	砂岩					323木棺周辺で取り上げ、砥面は3面
			1286-3	8M-10a	第8面	298高まり内	砥石	砂岩					323木棺周辺で取り上げ、砥面は3面、方形
			1286-4	8M-10a	第8面	298高まり内	砥石	砂岩					323木棺周辺で取り上げ、凹礫
			584-2	8L-8a	第8面	298高まり内	磨石	砂岩					破損後被熱
			627-1	9M-1a	第8面	298高まり内	叩き石	サヌカ石					敲打痕全面に残る
127	20549	91	609-1	9M-1a	第8面	298高まり内	打製石剣	サヌカ石	(6.65)	2.25	0.7	(11.8)	側縁部鋸歯縁加工、基部欠損
	20550	91	585-4	8M-9a	第8面	298高まり内	打製石剣	サヌカ石	5.39	(4.95)	1.2	40.3	両端欠損、鋸歯縁加工、産地分析試料(分析番号98504)
			452	8M-1a	第8面	298高まり内	打製石剣	サヌカ石					小形品、直線的な側縁を持つ
			609-2	9M-1a	第8面	298高まり内	削器	サヌカ石					
			584-3	8L-8a	第8面	298高まり内	削器	サヌカ石					
			586-1	8M-10a	第8面	298高まり内	削器	サヌカ石					
			627-3	9M-1a	第8面	298高まり内	楔	サヌカ石					
			585-5	8M-9a	第8面	298高まり内	楔	サヌカ石					

表54 03-1-2区石器観察表(18)

図番号	遺物番号	写真図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			627-2・4,627	9M-1a	第8面	298高まり内	剥片 11点	サヌカイ					登録No.627-4片面調整 打製石剣の基部の可能性あり
			583	8L-8j	第8面	298高まり内	剥片	サヌカイ					
			584-1	8L-8a	第8面	298高まり内	剥片	サヌカイ					
			585	8M-9a	第8面	298高まり内	剥片 3点	サヌカイ					
			586	8M-10a	第8面	298高まり内	剥片 11点	サヌカイ					
			609-3,609	9M-1a	第8面	298高まり内	剥片 5点	サヌカイ					登録No.609-3石鏃未成品?
			1284	8M-10a	第8面	298高まり内	剥片	サヌカイ					323木棺底板の下で取り上げ
			1286	8M-10a	第8面	298高まり内	剥片 4点	サヌカイ					323木棺周辺で取り上げ
			1286-5	8M-10a	第8面	298高まり内	中礫	砂岩					323木棺周辺で取り上げ、破熱痕残る
			1286	8M-10a	第8面	298高まり内	中礫	不明					323木棺周辺で取り上げ
			1286	8M-10a	第8面	298高まり内	小礫	不明					323木棺周辺で取り上げ
			609	9M-1a	第8面	298高まり内	礫	不明					砥石の原材? 砥面なし
128	20557		640-1	9M-2a/2b	第8面	299高まり内	石鏃	サヌカイ	2.67	1.20	0.3	1.2	凸基無茎式、つくりは粗い
			637-1・2	9M-1a	第8面	299高まり内	削器 2点	サヌカイ					
			641-1・2	9M-2・3a	第8面	299高まり内	削器 2点	サヌカイ					
			637-3	9M-1a	第8面	299高まり内	楔	サヌカイ					打製石剣の基部の可能性あり、原礫面残る
			637	9M-1a	第8面	299高まり内	剥片 11点	サヌカイ					
			638,639	9M-2b	第8面	299高まり内	剥片 4点	サヌカイ					
			640	9M-2a/2b	第8面	299高まり内	剥片 6点	サヌカイ					
			641	9M-2・3a	第8面	299高まり内	剥片 5点	サヌカイ					
128	20566		1383	西側溝	第8層		紡錘車未成品	緑泥片岩	(5.58)	(4.44)	0.6	(29.6)	石庖丁から転用、加工途中に廃棄?
			1191	北側溝	第8層		剥片 2点	サヌカイ					
131	20571		618	9L-2j	第9面	330溝	打製石剣	サヌカイ	(8.81)	3.15	1.1	(33.3)	基端面に原礫残る、先端部欠損
			619	9L-1・2j	第9面	330溝	剥片	サヌカイ					
			646-1	8L-9i	第9面	337溝	石庖丁	緑泥片岩	(9.43)	4.41	0.8	(60.3)	1/3欠損、平面形は長方形 刃部を再加工途中?
			649-2	8L-10j/他	第9面	337溝	石庖丁	緑泥片岩	(6.60)	(5.47)	0.7	(39.6)	両端欠損、石斧に転用か?
133	20590		648-2	8L-10j	第9面	337溝	石庖丁	緑泥片岩	(7.44)	(4.22)	0.6	(25.3)	3/4欠損、直線刃半月形、両刃?
			20591	8M-9a	第9面	337溝	石庖丁	緑泥片岩	(10.82)	4.99	1.2	(114.7)	未成品、三日月形に荒削した板状の原材
			20592	8L-10j	第9面	337溝	柱状片刃石斧	結晶片岩	(4.48)	3.04	1.55	(26.0)	基部欠損、刃部一部残る
			20593	9M-2a	第9面	337溝	大型蛤刃石斧	緑泥片岩	(11.43)	6.48	4.5	(542.6)	刃部を欠損、叩き石として再利用? 装着痕残る
134	20594		649-3	8L-10j/他	第9面	337溝	石鏃	砂岩	8.82	3.90	1.6	74.8	棒状、紐痕のくびれあり
			651-1	9M-1a	第9面	337溝	磨石	砂岩					丸く研磨、被熱痕残る
134	20595		653-1	9M-3a	第9面	337溝	叩き石	砂岩	8.96	7.05	6.5	566.2	凹礫、敲打痕残る
			650-1	9L-8j/他	第9面	337溝	叩き石	サヌカイ					棒状、敲打痕が周縁に残る
134	20596		649-4	8L-10j/他	第9面	337溝	砥石	砂岩	12.62	(8.35)	1.9	(321.2)	表裏二面に砥面残る
20597			653-2	9M-3a	第9面	337溝	砥石	礫岩	(12.74)	(8.57)	(6.2)	(880.2)	
			654-2	8L-8j	第9面	337溝	砥石	不明					石皿状にくぼむ、砥面なし

表54 03-1-2区 石器観察表 (19)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考	
135	20598	94	658	8L-10j	第9面	337溝	打製石剣	サヌカイ	11.78	3.58	1.4	67.5	完形・基部・先端部に原礫面残る 握り部の刃を潰す	
	20599		657	8L-9j	第9面	337溝	石錐	サヌカイ	6.95	6.13	1.3	51.2	動態Ⅲ-④類、原礫面残る	
	20600		656-1	8L-9j	第9面	337溝	石小刀	サヌカイ	(7.27)	2.79	1.2	(29.6)	先端部欠損、未成品？	
	20601	94	649-1	8L-10j/他	第9面	337溝	打製石包丁	サヌカイ	11.36	4.30	1.1	64.3	削器の可能性あり 表面の稜線が研磨で光る	
			646-3	8L-9i	第9面	337溝	削器	サヌカイ						
			651-2	9M-1a	第9面	337溝	削器	サヌカイ						特殊な形状の割れあり、被熱？ 石剣体部片の可能性あり
			654-1	8L-8j	第9面	337溝	削器	サヌカイ						
			645	8L-8j	第9面	337溝	剥片 3点	サヌカイ						
			646-2	8L-9i	第9面	337溝	剥片	サヌカイ						
			647	8M-9a	第9面	337溝	剥片 2点	サヌカイ						
			648	8L-10j	第9面	337溝	剥片 5点	サヌカイ						
			649	8L-10j/他	第9面	337溝	剥片 9点	サヌカイ						
			650	9L-8j/他	第9面	337溝	剥片 2点	サヌカイ						
		652-2	9M-2a	第9面	337溝	剥片 12点	サヌカイ							
		656-3	8L-9j	第9面	337溝	剥片	サヌカイ							
		656-2	8L-9j	第9面	337溝	中礫	不明							
		652	9M-2a	第9面	337溝	中礫	不明							
136	20605		587	8M-8・9a	第9面	342溝	石庖丁	緑泥片岩	(10.41)	(3.67)	0.65	(34.7)	再加工を意図して背部を潰す？ 新しい欠損あり	
			588	8M-9・10b	第9面	343溝	剥片 3点	サヌカイ						
			1004	9M-2b	第9面	1015溝	剥片	サヌカイ						
141	20633		474-5	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	石庖丁	緑泥片岩	(6.28)	3.72	0.5	(21.9)	両端欠損、直線刃半月形、片刃	
			474-9	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	磨石	砂岩					扁平、研磨痕・被熱痕残る	
141	20634		480-1	9M-2b	第9面	1397溝上半	砥石	砂岩	(10.15)	8.40	6.3	(765.5)	砥面4面残る、被熱痕残る？	
			480-2	9M-2b	第9面	1397溝上半	砥石	花崗岩					砥面2面残る	
			480-3	9M-2b	第9面	1397溝上半	砥石	花崗岩					砥面わずかに残る	
			478-1	9M-1a/1b	第9面	1397溝上半	砥石	砂岩						
			476-6	8M-10a/10b	第9面	1397溝上半	砥石	花崗岩						
			476-7	8M-10a/10b	第9面	1397溝上半	砥石	不明					砥面不明瞭？	
			474-6	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	叩き石	砂岩					周縁部に敲打痕・被熱痕残る	
			474-8	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	叩き石	玄武岩質安 山岩					研磨痕・敲打痕残る	
			480	9M-2b	第9面	1397溝上半	打製石釜	サヌカイ						
	20635		474-2	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	打製石剣	サヌカイ	(5.06)	(2.60)	0.75	(9.0)	先端部のみ残存	
141	20636		472-2	8M-8a/8b	第9面	1397溝上半	石鏃	サヌカイ	4.91	3.59	0.5	9.8	未成品 平面形は凹基無蓋式だが大形である	
			474	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	石鏃	サヌカイ					未成品	

表54 03 - 1 - 2 区 石器観察表 (20)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考	
141	20637		472-1	8M-8a/8b	第9面	1397溝上半	石錐	サヌカイ	(6.01)	2.44	1.5	(22.6)	動態Ⅲ-①類	
	20638		474-1	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	削器	サヌカイ	8.77	6.68	0.8	64.2		
			472	8M-8a/8b	第9面	1397溝上半	削器	サヌカイ						
			478-2・3	9M-1a/1b	第9面	1397溝上半	削器 2点	サヌカイ						
			492	9M-2b	第9面	1397溝上半	削器	サヌカイ						
			476-4・5	8M-10a/10b	第9面	1397溝上半	削器 2点	サヌカイ						
	141	20639		474-3	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	楔	サヌカイ	4.43	2.60	1.0	9.3	原礫面残る
				472-3	8M-8a/8b	第9面	1397溝上半	楔	サヌカイ					登録No.474-7末端は自然面で平坦だが両極 技法の痕跡が伺える
				474-7,474	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	楔 2点	サヌカイ					登録No.476-2打製石斧の可能性あり
				476-2・3	8M-10a/10b	第9面	1397溝上半	楔 2点	サヌカイ					
				480	9M-2b	第9面	1397溝上半	石核	サヌカイ					
				474	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	剥片 5点	サヌカイ					
				476	8M-10a/10b	第9面	1397溝上半	剥片 8点	サヌカイ					
				472-4	8M-8a/8b	第9面	1397溝上半	剥片 2点	サヌカイ					表面被熱痕残る、ポッド・リッド資料
			472	8M-8a/8b	第9面	1397溝上半	剥片 6点	サヌカイ						
			478	9M-1a/1b	第9面	1397溝上半	剥片 16点	サヌカイ						
			480	9M-2b	第9面	1397溝上半	原礫	片岩系						
			474-4	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	原礫	サヌカイ					擦痕・敲打痕残る	
			476-1	8M-10a/10b	第9面	1397溝上半	中礫	不明					良好なポッド・リッド資料、熱破砕礫	
			476	9M-2b	第9面	1397溝上半	中礫	不明					角閃石を多く含む	
		474	8M-9a/9b	第9面	1397溝上半	小礫 3個	不明							
	20668		477-2	8M-10a/10b	第9面	1397溝下半	石庖丁	緑泥片岩	(9.30)	4.89	0.6	(47.4)	1/3欠損、直線刃半月形、片刃	
	20669		479-5	9M-1a/1b	第9面	1397溝下半	石庖丁	緑泥片岩	(6.47)	(3.15)	0.7	(21.4)	3/4欠損、再加工途中に欠損？刃部未加工	
146	20670		479-4	9M-1a/1b	第9面	1397溝下半	石庖丁	泥岩	(7.88)	(5.67)	0.7	(53.8)	未完成品、1/2欠損、研磨面残る	
	20671	97	477-1	8M-10a/10b	第9面	1397溝下半	不明磨製石器	緑泥片岩	(7.33)	5.62	0.55	(27.2)	両面から三角形に磨り切りを施す 接合資料？石庖丁を転用	
	20672		481-1	9M-2b	第9面	1397溝下半	叩き石	砂岩	8.42	6.55	3.3	252.4	敲打による欠けあり、右錘の可能性あり	
			479-6	9M-1a/1b	第9面	1397溝下半	叩き石	サヌカイ					ハンマー、敲打痕残る	
			481-2	9M-2b	第9面	1397溝下半	砥石	斑レイ岩					砥面3面残る	
			477-4	8M-10a/10b	第9面	1397溝下半	砥石	砂岩					砥面2面残る、表面荒れる	
			475-2	8M-9a/9b	第9面	1397溝下半	砥石	花崗岩					砥面わずかに残る、表面荒れる	
			479-3	9M-1a/1b	第9面	1397溝下半	蛤刃形石斧	不明					頂部欠片、敲石として転用？	
	147	20673		473-1	8M-8a/8b	第9面	1397溝下半	石錐	サヌカイ	5.51	2.53	1.0	8.2	動態Ⅲ-①類
		20674		479-1	9M-1a/1b	第9面	1397溝下半	削器	サヌカイ	6.71	4.44	1.0	24.6	
				473	8M-8a/8b	第9面	1397溝下半	削器	サヌカイ					
				475	8M-9a/9b	第9面	1397溝下半	削器	サヌカイ					
				477-3	8M-10a/10b	第9面	1397溝下半	楔	サヌカイ					
				479-2	9M-1a/1b	第9面	1397溝下半	楔	サヌカイ					円形の石核の可能性あり
			481	9M-2b	第9面	1397溝下半	楔 3点	サヌカイ						

表54 03-1-2区 石器観察表 (21)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			475-1,475	8M-9a/9b	第9面	1397溝下半	剥片 2点	サヌカイ					
			477	8M-10a/10b	第9面	1397溝下半	剥片 14点	サヌカイ					
			479	9M-1a/1b	第9面	1397溝下半	剥片 10点	サヌカイ					
			481	9M-2b	第9面	1397溝下半	剥片 11点	サヌカイ					
			475	8M-9a/9b	第9面	1397溝下半	中礫	不明					被熱痕残る
			477	8M-10a/10b	第9面	1397溝下半	中礫	不明					被熱痕残る
			1322	9M-1a	第9面	421木棺	剥片	サヌカイ					掘りかた内で取り上げ
			1325	9M-1a	第9面	422木棺	小礫	不明					棺内で取り上げ
			1298-6	9M-1a	第9面	338高まり内	磨石	砂岩					325木棺周辺で取り上げ、棒状
	20689		1298-3	9M-1a	第9面	338高まり内	石鏃	サヌカイ	(3.23)	1.36	0.5	(2.1)	325木棺周辺で取り上げ、円基式
	20690		1298-1	9M-1a	第9面	338高まり内	石鏃	サヌカイ	(3.55)	1.04	0.5	(1.8)	325木棺周辺で取り上げ、凸基無茎式
157	20691		1296-1	9M-1a	第9面	338高まり内	石鏃	サヌカイ	(3.83)	1.41	0.6	(3.1)	325木棺直近で取り上げ 先端部欠損、逆涙滴形
	20692		1298-5	9M-1a	第9面	338高まり内	石鏃	サヌカイ	(5.04)	1.84	0.7	(5.6)	325木棺周辺で取り上げ、逆涙滴形
			1296,1298-2・4	9M-1a	第9面	338高まり内	楔 3点	サヌカイ					325木棺直近で取り上げ 登録No.1298-2円形
			1296~1298	9M-1a	第9面	338高まり内	剥片 22点	サヌカイ					登録No.1296「325木棺直近」・登録No.1297 「325木棺直下」・登録No.1298「325木棺周辺」 で取り上げ
			1298	9M-1a	第9面	338高まり内	中礫 6個	不明					325木棺周辺で取り上げ、被熱痕残る
			1298	9M-1a	第9面	338高まり内	小礫	白石英					325木棺周辺で取り上げ
			1298	9M-1a	第9面	338高まり内	小礫 9個	不明					325木棺周辺で取り上げ
			1311	8M-10a	第9面	338高まり内	砥石	砂岩					420木棺周辺で取り上げ、砥面は3面
			1323-1~3	9M-1a	第9面	338高まり内	削器 3点	サヌカイ					421木棺べルト内で取り上げ
			1324	9M-1a	第9面	338高まり内	剥片 2点	サヌカイ					421木棺周辺で取り上げ
			1324	9M-1a	第9面	338高まり内	小礫	白石英					421木棺周辺で取り上げ
157	20693		1326-1	9M-1a	第9面	338高まり内	石鏃	サヌカイ	2.20	1.83	0.4	1.3	422木棺周辺で取り上げ、凹基無茎式
			1326	9M-1a	第9面	338高まり内	石核	サヌカイ					422木棺周辺で取り上げ、原礫面なし
			1327	9M-1a	第9面	338高まり内	剥片	サヌカイ					422木棺直下で取り上げ
			775-4	8M-9a/他	第9面	338高まり内	石鏃	砂岩					細痕残る? 投弾の可能性あり
	20700		775-1	8M-9a/他	第9面	338高まり内	石剝丁	緑泥片岩	(8.07)	(3.85)	0.7	(25.5)	背部を欠損、片刃
157	20701		775-2	8M-9a/他	第9面	338高まり内	石鏃	サヌカイ	(4.24)	1.34	0.5	2.2	棒状の中心部が膨らむタイプ、両錐 動態III-③類 頂部に原礫面残る、先端部欠損
	20702		772-1	8M-10a	第9面	338高まり内	石鏃	サヌカイ	(5.51)	2.57	1.1	(12.2)	三角形を呈する、砥面は3面
			772-2	8M-10a	第9面	338高まり内	砥石	流紋岩					
			772-5	8M-10a	第9面	338高まり内	砥石	玄武岩質安 山岩					
			1200-1	南側溝	第9面	338高まり内	砥石	砂岩					被熱痕残る、風化激しい
			1200-2	南側溝	第9面	338高まり内	削器	サヌカイ					
			772-3	8M-10a	第9面	338高まり内	削器	サヌカイ					頂部に原礫面残る

表54 03-1-2区 石器観察表 (22)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			772-4	8M-10a	第9面	338高まり内	削器	サヌカイ					研磨部分あり
			774	8M-8a/他	第9面	338高まり内	削器	サヌカイ					
			772-6	8M-10a	第9面	338高まり内	削器	サヌカイ					原礫面に研磨部分あり
			775-5	8M-9a/他	第9面	338高まり内	削器	サヌカイ					
			776-1	9M-1a	第9面	338高まり内	削器	サヌカイ					
			772,773	8M-10a	第9面	338高まり内	剥片 12点	サヌカイ					登録No.773片面調整
			774	8M-8a/他	第9面	338高まり内	剥片 8点	サヌカイ					
			775	8M-9a/他	第9面	338高まり内	剥片 12点	サヌカイ					
			776,777	9M-1a	第9面	338高まり内	剥片 4点	サヌカイ					
			669	8M-10a	第9面	338高まり内	中礫	不明					
			680	9M-1a	第9面	338高まり内	中礫	不明					平面図に位置あり
			682	9M-1a	第9面	338高まり内	中礫	不明					
			775-3	8M-9a/他	第9面	338高まり内	中礫	軽石					
			1287	9M-2b	第9面	324木棺	剥片	サヌカイ					棺内水洗北西で取り上げ
			1288	9M-2b	第9面	324木棺	剥片 3点	サヌカイ					棺内水洗南東で取り上げ
			1329	9M-2a	第9面	424木棺	剥片	サヌカイ					棺内で取り上げ
			1293	9M-2b	第9面	366高まり内	剥片	サヌカイ					324木棺アゼ崩しで取り上げ 原礫面残る
			1291	9M-2b	第9面	366高まり内	中礫 2個	不明					324木棺の下で取り上げ
			1293	9M-2b	第9面	366高まり内	中礫	不明					324木棺アゼ崩しで取り上げ
			1291	9M-2b	第9面	366高まり内	小礫	砂岩					324木棺の下で取り上げ
			1293	9M-2b	第9面	366高まり内	小礫	不明					324木棺アゼ崩しで取り上げ
			1365-1	9M-2b	第9面	366高まり内	削器	サヌカイ					324・367木棺周辺で取り上げ
			1365-3	9M-2b	第9面	366高まり内	剥片	サヌカイ					324・367木棺周辺で取り上げ
167	20715		1305	9M-2b	第9面	366高まり内	石鏃	サヌカイ	(3.05)	1.53	0.55	(2.3)	367木棺周辺で取り上げ 凸基無茎式?
			1303~1305	9M-2b	第9面	366高まり内	剥片 5点	サヌカイ					登録No.1303「367木棺底板下北西」、 登録No.1304「367木棺底板下南東」、 登録No.1305「367木棺周辺」で取り上げ
			1305	9M-2b	第9面	366高まり内	小礫 3個	不明					367木棺周辺で取り上げ
			1335	9M-2a	第9面	366高まり内	削器 2点	サヌカイ					424木棺周辺で取り上げ 原礫面残る
			1335,1336	9M-2a	第9面	366高まり内	剥片 7点	サヌカイ					登録No.1335「424木棺周辺」、登録No.1336 「424木棺アゼ崩し」で取り上げ
			1344	9M-2b	第9面	366高まり内	礫	サヌカイ					426木棺の下で取り上げ
			1345	9M-2b	第9面	366高まり内	剥片	サヌカイ					427木棺の下で取り上げ
167	20720	102	778	9M-2a	第9面	366高まり内	扁平片刃石斧	緑色凝灰岩	3.13	1.96	0.6	7.5	ほぼ完形、装着痕と思われる擦痕あり
			686	9M-2b	第9面	366高まり内	砥石	花崗岩					砥面わずかに残る
			791-1	9M-3b	第9面	366高まり内	砥石	流紋岩					小礫、被熱痕残る
			790-2	9M-2b	第9面	366高まり内	削器	サヌカイ					

表54 03-1-2区 石器観察表 (23)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			790	9M-2b	第9面	366高まわり内	剥片 6点	サヌカイ					
			791	9M-3b	第9面	366高まわり内	剥片 3点	サヌカイ					
			685	9M-2b	第9面	366高まわり内	大礫	不明					台石の可能性あり?
			692	9M-2b	第9面	366高まわり内	大礫	不明					
			790	9M-2b	第9面	366高まわり内	中礫	砂岩					
			601	8M-9a	第9面	339土坑	剥片	サヌカイ					
			602	8M-9b	第9面	344土坑	剥片	サヌカイ					
169	20726		603	8M-10b/10c	第9面	347土坑	石鏃	サヌカイ	(2.58)	1.07	0.5	(1.2)	凸基無茎式、基部欠損
			580-1	8L-10i	第9面	334落ち込み	削器	サヌカイ					円形削器
			580-2	8L-10i	第9面	334落ち込み	剥片	サヌカイ					原礫面大きく残る
169	20731	103	632	9L-3i	第9面	361落ち込み	打製石剣	サヌカイ	(5.02)	3.12	1.1	(21.4)	両端欠損、鋸齒縁加工、 産地分析試料(分析番号98505)
			611-1	9M-1b	第9面	368落ち込み	削器	サヌカイ					
			611	9M-1b	第9面	368落ち込み	剥片 4点	サヌカイ					
169	20736		643-1	9M-2b	第9面	370落ち込み	石庖丁	泥岩	(5.88)	2.40	0.8	(17.8)	両端欠損、製作途中に放棄したもの?
			643	9M-2b	第9面	370落ち込み	剥片	サヌカイ					
170	20737		734-2	8L-9h	第9面	329高まわり内	不明磨製石器	サヌカイ	(4.36)	(2.87)	(0.65)	(6.7)	剥片の両面を部分的に研磨 細部調整がみられる、石庖丁?
	20738	103	734-1	8L-9h	第9面	329高まわり内	打製石剣	サヌカイ	9.91	3.32	1.05	33.1	完形、節理の強い横長剥片を使用
			735	8L-10i	第9面	329高まわり内	剥片	サヌカイ					
	20751		764	9L-2-3j/他	第9面	331高まわり内	石庖丁	緑色片岩	(6.55)	(5.07)	0.6	(24.3)	青灰白色を呈する 刃部を再加工途中に欠損?
171	20752		756-1	8L-10i	第9面	331高まわり内	柱状片刃石斧	緑色凝灰岩	(6.70)	1.24	1.2	(18.8)	基部欠損
	20753	104	728	8L-9j	第9面	331高まわり内	石鏃	サヌカイ	10.75	5.11	2.6	178.7	側縁・表面に原礫面残る 打製石斧の可能性あり
			761-1	9L-2j	第9面	331高まわり内	削器	サヌカイ					白色を呈する、非二上山?
			765	9L-3j	第9面	331高まわり内	削器	サヌカイ					横長剥片使用、頂部に原礫面残る
			766-1	9M-3a	第9面	331高まわり内	削器	サヌカイ					
			766-2	9M-3a	第9面	331高まわり内	削器	サヌカイ					
			727	8L-8i	第9面	331高まわり内	剥片 2点	サヌカイ					
			756	8L-10i	第9面	331高まわり内	剥片 2点	サヌカイ					
			760	9L-1j	第9面	331高まわり内	剥片 3点	サヌカイ					
			761-2	9L-2j	第9面	331高まわり内	剥片	サヌカイ					
			763	9M-2a	第9面	331高まわり内	剥片	サヌカイ					
			764	9L-2-3j/他	第9面	331高まわり内	剥片 2点	サヌカイ					
			766	9M-3a	第9面	331高まわり内	剥片 3点	サヌカイ					
			755-2	8L-9-10i	第9面	331高まわり内	中礫	片岩質					
			753	8L-8i	第9面	331高まわり内	中礫	片岩質					
			760-1	9L-1j	第9面	331高まわり内	中礫	不明					調整不明、耳成山産?
			755-1	8L-9-10i	第9面	331高まわり内	小礫	片岩質					
			761-3	9L-2j	第9面	331高まわり内	小礫	緑泥片岩					

表54 03-1-2区 石器観察表 (24)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
172	20754		764	9L-2・3/他	第9層	331高まり内	小礫	片岩質					
			736-1	9L-1h	第9層	360高まり内	石庖丁	緑泥片岩	(7.83)	5.35	0.8	(45.3)	未成品、緑泥片岩を荒削、整形途中の欠損品？
172	20755	104	736-2	9L-1h	第9層	360高まり内	打製石剣	サヌカイ石	13.8	4.91	1.7	92.4	未成品、整形途中で破棄基部の作り出しなし
			741	9L-3i	第9層	360高まり内	剥片	サヌカイ石					白く風化
173	20757		738	9L-2h	第9層	360高まり内	中礫	不明					
	20758		742	9L-3j	第9層	363高まり内	石庖丁	流紋岩	(5.26)	(5.25)	0.8	(29.8)	両端欠損、両刃？平面形は不明
173	20759	104	739	9L-2i	第9層	363高まり内	打製石剣	サヌカイ石	13.79	3.81	1.1	68.6	砥面3面残る
	20769	105	816	9M-1b	第9層	363高まり内	打製石剣	サヌカイ石	3.47	2.23	0.6	6.2	完形 鋸歯縁を施す、握り部の刃を磨り潰している
173	20770		698-1	8M-10b	第9層		装飾品	緑泥片岩					
			697-1	8M-9b	第9層		石庖丁	緑泥片岩	3.46	2.96	0.7	(13.5)	三日月形垂飾、中心に穿孔
			697-2	8M-9b	第9層		扁平片刃石斧	サヌカイ石					方形に研磨、刃部欠損
			697-3	8M-9b	第9層		柱状片刃石斧？	緑泥片岩					両側縁を板状に研磨
173	20771		698-2	8M-10b	第9層		石皿	砂岩					両面にくぼみあり、台石？
			698-3	8M-10b	第9層		石棒	砂岩	(6.58)	2.90	2.3	(52.6)	棒状に研磨、被熱痕残る
174	20772		698-4	8M-10b	第9層		叩き石	砂岩	5.57	2.02	0.75	9.5	敲打痕全面に残る、被熱痕残る
	20773	105	698-7	8M-10b	第9層		異型石器	サヌカイ石	5.60	2.45	1.0	12.4	動態Ⅲ-③類 石錐の可能性あり
			697-4	8M-9b	第9層		削器	サヌカイ石					
			698-5・6	8M-10b	第9層		削器 2点	サヌカイ石					
			699-1	9M-1b/1c	第9層		削器	サヌカイ石					平面形は長方形を呈する、敲打痕残る
			696	8M-8b	第9層		剥片	サヌカイ石					
			697	8M-9b	第9層		剥片 20点	サヌカイ石					
			698	8M-10b	第9層		剥片 23点	サヌカイ石					
			699	9M-1b/1c	第9層		剥片 25点	サヌカイ石					
			817	9M-1b	第9層		剥片	サヌカイ石					
			811	8M-9b	第9層		大礫	不明					
			819	9M-1b	第9層		大礫	不明					
			699-2	9M-1b/1c	第9層		礫	不明					
			779-1	9M-2b	第9層		石庖丁	緑泥片岩					方柱状の礫、両端を欠損する
			1384	西側溝	第9層		砥石	砂岩					直線刃半月形、両刃、登録No.398と接合
			1378	東側溝	第9層		剥片	サヌカイ石					砥面が残る？表面風化激しい
			779	9M-2b	第9層		剥片	サヌカイ石					
			1192	北側溝	第9層		剥片	サヌカイ石					
			700	8M-9a	第9-2面	487土坑	剥片 5点	サヌカイ石					
			702	8M-9・10b	第9-2面	508土坑	剥片 19点	サヌカイ石					
			703	8M-9b	第9-2面	509土坑	剥片 3点	サヌカイ石					
			706	8M-10b	第9-2面	513土坑	礫	サヌカイ石					

表54 03-1-2区 石器観察表 (25)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			707	8M-10b	第9-2面	514ピット	剥片	サヌカイ					
			708	8M-10c	第9-2面	515ピット	剥片	サヌカイ					
			709	9M-1b	第9-2面	517ピット	剥片	サヌカイ					
			716	9M-1b	第9-2面	533ピット	剥片	サヌカイ					
			720	9M-1c	第9-2面	539ピット	剥片	サヌカイ					
	20793		829	8M-10b/10c	第9-2層		石廬丁	緑泥片岩	(8.98)	4.15	0.7	(35.1)	1/3欠損、直線刃半月形
	20794		832	9M-1b	第9-2層		石廬丁	緑泥片岩	(6.12)	(3.77)	0.55	(21.2)	両端欠損、片刃
180	20795	106	827-1	8M-10b	第9-2層		石廬丁	緑泥片岩	10.32	2.45	0.7	28.4	刃部を擦り切り、敲打痕残る 装飾品に再加工途中?
	20796		827-2	8M-10b	第9-2層		石矛?	サヌカイ	(4.54)	(4.42)	1.0	(20.7)	体部片、表面を研磨
	20797		828-1	8M-10b	第9-2層		扁平片刃石斧	結晶片岩	4.50	3.33	1.0	32.6	完形、刃部に付着物?
			824-5	8M-9b	第9-2層		砥石	砂岩					砥面3面残る
			830-1	9M-1b	第9-2層		砥石	流紋岩					
			823-6	8M-9b	第9-2層		叩き石	サヌカイ					敲打痕頂部に残る
			823-1	8M-9b	第9-2層		打製石剣	サヌカイ					先端・基部欠損
	20798		823-2	8M-9b	第9-2層		石鏃	サヌカイ	3.35	1.21	0.5	1.9	凸基無茎式
180	20799		824-2	8M-9b	第9-2層		石鏃	サヌカイ	5.13	2.80	1.1	14.2	動態III-①類、頂部に原礫面残る
	20800		824-1	8M-9b	第9-2層		石鏃	サヌカイ	(4.24)	1.79	0.55	(4.0)	動態III-①類、先端部欠損
20801			827-3	8M-10b	第9-2層		石鏃	サヌカイ	5.32	1.35	0.8	4.8	動態III-①重流?使用痕なし
			824-3	8M-9b	第9-2層		石鏃	サヌカイ					棒状、回転痕あり
			827-7,828-3~ 6	8M-10b	第9-2層		削器 5点	サヌカイ					登録No.828-6打製石剣未成品の可能性あり
			823-5	8M-9b	第9-2層		削器	サヌカイ					節理強い
			824-4	8M-9b	第9-2層		削器	サヌカイ					石鏃の可能性あり
			830-2,831-1	9M-1b	第9-2層		削器 2点	サヌカイ					
			823-3	8M-9b	第9-2層		楔	サヌカイ					打製石剣の欠損品を転用?
			827-4~6・ 8,828-2	8M-10b	第9-2層		楔 5点	サヌカイ					登録No.827-5背部に原礫面残る
			823~825	8M-9b	第9-2層		剥片 23点	サヌカイ					
			827,828	8M-10b	第9-2層		剥片 43点	サヌカイ					
			829	8M-10b/10c	第9-2層		剥片 2点	サヌカイ					
			830~832,834	9M-1b	第9-2層		剥片 33点	サヌカイ					
			836	9M-1c	第9-2層		剥片 2点	サヌカイ					
			837	9M-2b	第9-2層		剥片 3点	サヌカイ					
			828	8M-10b	第9-2層		中礫	不明					被熱痕残る
			823-7	8M-9b	第9-2層		小礫	不明					被熱痕残る
			823-8	8M-9b	第9-2層		小礫	砂岩					被熱痕残る
			823-9	8M-9b	第9-2層		小礫	砂岩					被熱痕残る、割れあり、接合可能
			824	8M-9b	第9-2層		小礫	砂岩					被熱による割れ、3片接合可能
			827-9-10	8M-10b	第9-2層		小礫 2個	紅麻片岩					

表54 03-1-2区石器観察表(26)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			668	9M-3a	第10面	442高まり上	剥片	サヌカイ					
			664	8L-9j	第10面	442高まり上	大礫	花崗岩					平面図に位置あり
			671	8M-10a	第10面	446高まり上	中礫	不明					平面図に位置あり
			675	8M-10a	第10面	446高まり上	大礫	不明					平面図に位置あり
			732	8L-10b	第10面	434溝	剥片 2点	サヌカイ					
			733	8L-10h	第10面	434溝	中礫	不明					
183	20807	107	751	8L-10i	第10面	441溝	磨製石斧	サヌカイ	(8.10)	5.64	2.7	(170.1)	刃部欠損、側縁を削潰し、表面を研磨 第9層出土石器と接合？
	20808		1415	9L-2i/2j	第10面	441溝	打製石剣	サヌカイ	7.21	2.57	1.0	26.7	先端部欠損、基端に原礫面残る
			746	9L-1i	第10面	441溝	叩き石	玄武岩質安 山岩					磨製石斧頂部の可能性あり
			746	9L-1i	第10面	441溝	剥片	サヌカイ					白く風化
			748	9L-2j	第10面	441溝	剥片 3点	サヌカイ					
			1415	9L-2i/2j	第10面	441溝	剥片	サヌカイ					
			1421	9L-3j	第10面	441溝	中礫	砥石					被熱痕残る
			1385	西側溝	第10面	441溝	中礫	砂岩？					被熱痕残る
			666-5・6	8L-8・9i	第10面	443溝	中礫 2個	不明					
	20820		1475	9L-1j	第10面	445溝	石庖丁	緑泥片岩	(12.23)	4.30	0.65	(59.8)	1/3欠損、直線刃半月形、片刃
184	20821		1248-3	9M-2a	第10面	445溝	石庖丁	緑泥片岩	(9.05)	4.36	0.6	(43.1)	1/2欠損、直線刃半月形、片刃
	20822		1246-1	8L-10j/他	第10面	445溝	砥石	砂岩	(5.06)	(2.80)	(1.0)	(14.7)	砥面は2面
185	20823		1251-1	9M-1a	第10面	445溝	砥石	輝れい岩	(13.15)	(13.08)	6.1	(1452.5)	砥面は2面
	20824		1243-1	8L-9j	第10面	445溝	砥石	砂岩	(13.18)	(9.33)	(8.7)	(1790.1)	砥面は1面
			1248-4	9M-2a	第10面	445溝	磨石	砂岩					棒状
			1243-2	8L-9j	第10面	445溝	磨石	砂岩					稜縁に使用痕が残る
			1252-3	9M-2a	第10面	445溝	磨石	結晶片岩					紐痕残る？
			1252-4	9M-2a	第10面	445溝	石錘	砂岩					
185	20825		1248-1	9M-2a	第10面	445溝	削器	サヌカイ	5.10	2.83	0.9	15.8	石鏃の可能性あり、原礫面残る
			1245	8M-10a	第10面	445溝	削器	サヌカイ					原礫面残る
			1248-2	9M-2a	第10面	445溝	削器	サヌカイ					原礫面残る
			1252-1・5	9M-2a	第10面	445溝	削器 2点	サヌカイ					原礫面残る
			1246-2	8L-10j/他	第10面	445溝	鞭	サヌカイ					原礫面残る
			1252-2	9M-2a	第10面	445溝	石核	サヌカイ					原礫面残る
			1246	8L-10j/他	第10面	445溝	剥片 3点	サヌカイ					
			1247	9M-1a	第10面	445溝	剥片 2点	サヌカイ					
			1248	9M-2a	第10面	445溝	剥片 4点	サヌカイ					
			1251	9M-1a	第10面	445溝	剥片	サヌカイ					
			1252	9M-2a	第10面	445溝	剥片 2点	サヌカイ					原礫面残る
			1243	8L-9j	第10面	445溝	中礫 2個	不明					
			1251	9M-1a	第10面	445溝	中礫	不明					被熱痕残る
			787	9M-1a	第10面	463溝	剥片	サヌカイ					
			795	9M-2a	第10面	468溝	剥片	サヌカイ					

表54 03-1-2区 石器観察表 (27)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			798	9M-2b	第10面	473溝	剥片 2点	サヌカイ					
			981	9M-2a/2b	第10面	474溝	剥片	サヌカイ					
			838-3	9M-1b	第10面	542溝	磨製石斧	サヌカイ					表面研磨、体部欠片、262と接合か？
188	20845		1204-1	南側溝	第10面	542溝	砥石	花崗岩	(11.75)	(7.96)	(3.1)	(276.5)	砥面は1面、風化が進む
			838-4	9M-1b	第10面	542溝	叩き石	サヌカイ					
188	20846		838-1	9M-1b	第10面	542溝	石錐	サヌカイ	(2.87)	1.35	0.7	(2.5)	動態III-②類 先端部欠損
			839-2	9M-1・2b	第10面	542溝	石錐	サヌカイ					
			1226	8M-9b	第10面	542溝	削器	サヌカイ					
			838-2・5・6	9M-1b	第10面	542溝	削器 3点	サヌカイ					
			839-1	9M-1・2b	第10面	542溝	削器	サヌカイ					
			815,838	9M-1b	第10面	542溝	剥片 24点	サヌカイ					
			839	9M-1・2b	第10面	542溝	剥片 2点	サヌカイ					
			1204	南側溝	第10面	542溝	剥片 4点	サヌカイ					
			20865	842-1	第10面	543溝	石庖丁	緑泥片岩	(5.62)	4.61	0.8	(33.4)	1/2欠損、杏仁形？
			20866	840-2	第10面	543溝	砥石	片岩質	(8.60)	(5.98)	(1.6)	(79.9)	
191	20867		840-1	8M-9b	第10面	543溝	打製石剣	サヌカイ	(5.85)	3.53	1.2	(28.6)	基部のみ残存、握り部の刃潰しあり 産地分析試料(分析番号98506)
			844-1	8M-10b	第10面	543溝	石錐	サヌカイ	3.55	1.81	0.9	4.4	動態III-④類
			20868	844-2	第10面	543溝	石錐	サヌカイ					欠損品、楔の可能性あり
			844-3~5	8M-10b	第10面	543溝	削器 3点	サヌカイ					登録No.844-4背部に原礫面残 登録No.844-5大きな原礫の剥片を使用
			841-1	8M-9b	第10面	543溝	楔	サヌカイ					
			840,841	8M-9b	第10面	543溝	剥片 7点	サヌカイ					
			842-2,842,843	8M-9・10b	第10面	543溝	剥片 8点	サヌカイ					
			844	8M-10b	第10面	543溝	剥片 23点	サヌカイ					登録No.842-2破熟痕残る
192	20869		845-1	9M-1c	第10面	545溝	石錐	サヌカイ	(4.30)	2.36	0.8	(8.8)	凸基有基式
			845-2	9M-1c	第10面	545溝	削器	サヌカイ					
			855	8M-9a/9b	第10面	565溝	削器	サヌカイ					背部に原礫面残る
192	20870		858	8M-9a/9b	第10面	575溝	石庖丁	緑泥片岩	(6.42)	(2.37)	0.7	(17.2)	欠片、背部と紐穴の一部が残る 東海系石錐の材質に似る、流紋岩？
			807	9M-2・3a/他	第10面	1014溝	小礫	不明					
			987	9M-1b	第10面	1430溝	楔	サヌカイ					
			987	9M-1b	第10面	1430溝	剥片	サヌカイ					
			1478	9M-2b	第10面	1430溝	剥片 2点	サヌカイ					
			786	9M-1a	第10面	456土坑	楔	サヌカイ					
198	20876		792-2	9M-2b	第10面	477土坑	石錐	サヌカイ	(4.55)	2.38	1.1	11.7	石核を利用したもの？ 動態III-①類、先端部欠損
			20877	792-1	第10面	477土坑	打製石剣	サヌカイ	(7.58)	3.08	1.3	32.7	先端・基部欠損 先端部欠損、側縁部敲打
			794-2	9M-3b	第10面	477土坑	石錐	サヌカイ					
			794-3	9M-3b	第10面	477土坑	削器	サヌカイ					
			794-1	9M-3b	第10面	477土坑	楔	サヌカイ					

表54 03-1-2区石器観察表(28)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			792,801	9M-2b	第10面	477土坑	剥片 5点	サヌカ石					
			794	9M-3b	第10面	477土坑	剥片 3点	サヌカ石					
			801-1	9M-2b	第10面	477土坑	原礫	サヌカ石					
198	20883		892-1	8M-9b	第10面	657土坑	打製石剣	サヌカ石	(6.94)	2.82	1.1	(27.5)	両端欠損
			892-2	8M-9b	第10面	657土坑	削器	サヌカ石					
			892	8M-9b	第10面	657土坑	剥片 4点	サヌカ石					
			912	8M-10b	第10面	762土坑	剥片	サヌカ石					
198	20884		919	8M-10b	第10面	804土坑	扁平片刃石斧	片岩質	(6.10)	4.24	0.95	(43.2)	刃部欠損
			919	8M-10b	第10面	804土坑	剥片	サヌカ石					
			927	8M-10b	第10面	830土坑	削器	サヌカ石					
			928	8M-10b	第10面	831土坑	削器	サヌカ石					
			928	8M-10b	第10面	831土坑	剥片	サヌカ石					
			950	9M-1b	第10面	920土坑	剥片	サヌカ石					
			954	9M-1b/1c	第10面	951土坑	剥片 4点	サヌカ石					
			988	9M-1a/1b	第10面	951土坑	剥片	サヌカ石					
			972	9M-1a	第10面	459ピット	剥片	サヌカ石					
			985	8M-3b	第10面	485ピット	剥片	サヌカ石					
			865	8M-9b	第10面	589ピット	削器	サヌカ石					稜の可能性あり
			891	8M-9b	第10面	656ピット	剥片	サヌカ石					
			906	8M-10b	第10面	741ピット	剥片	サヌカ石					
			907	8M-10b/10c	第10面	744ピット	剥片	サヌカ石					
204	20896		916	8M-10c	第10面	788ピット	石庖丁	緑泥片岩	(6.01)	(4.12)	0.7	(26.6)	両端欠損、直線刃半月形、片刃
			940	8M-10c	第10面	878ピット	剥片	サヌカ石					
			948	8M-1b	第10面	902ピット	剥片	サヌカ石					
			951	9M-1b/1c	第10面	924ピット	剥片	サヌカ石					
204	20899		769-1	8L-9i	第10面	444落ち込み	石庖丁	緑色凝灰岩	(7.90)	4.00	0.7	(39.7)	1/2欠損、直線刃半月形、両刃 平面形は長方形を呈する 頂部に原礫面残る
			769-2	8L-9i	第10面	444落ち込み	削器	サヌカ石					
			769-4	8L-9i	第10面	444落ち込み	磨石	砂岩					
			769-3	8L-9i	第10面	444落ち込み	叩き石	砂岩					
205	20911		1018	8L-10h	第10面	433高まり内 石鏃	石鏃	サヌカ石	(4.39)	1.55	0.4	(2.8)	棒状、敲打痕残る 凸基無茎式、先端部欠損
			1008-1	8L-9h	第10面	435高まり内	稜	サヌカ石					
			1008	8L-9h	第10面	435高まり内	剥片 3点	サヌカ石					
			1031	9L-2j	第10面	436高まり内	削器	サヌカ石					
			1032	9L-3j	第10面	436高まり内	削器	サヌカ石					
			1031	9L-2j	第10面	436高まり内	剥片	サヌカ石					
			1014	8L-9+10i	第10面	442高まり内	石庖丁	緑泥片岩					両端欠損、刃部敲打
			1053-1	8L-9i	第10面	442高まり内	砥石	砂岩					砥面3面残る
			1053-2	8L-9i	第10面	442高まり内	砥石	花崗岩					砥面1面残る
			1028-1	8M-10j	第10面	442高まり内	叩き石	サヌカ石					

表54 03-1-2区 石器観察表 (29)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
205	20910	109	1021	8L-9・10i	第10面	442高まり内	磨製石鏃	緑泥片岩	7.77	3.36	0.8	37.0	未成品、石鏃の形状に整形 先端を研磨するが途中で破棄？ 楔の可能性あり
			1011-1	8L-9i	第10面	442高まり内	削器	サヌカイ					
			1012	8L-9i	第10面	442高まり内	削器	サヌカイ					
			1036	9L-3j/他	第10面	442高まり内	削器	サヌカイ					
			1022-2	8M-10j	第10面	442高まり内	削器	サヌカイ					
			1011-2	8L-9i	第10面	442高まり内	楔	サヌカイ					
			1017	8L-10h	第10面	442高まり内	楔	サヌカイ					
			1022-1	8M-10j	第10面	442高まり内	楔	サヌカイ					
			1041	9M-3a	第10面	442高まり内	楔	サヌカイ					
			1011	8L-9i	第10面	442高まり内	剥片 4点	サヌカイ					
			1014	8L-9・10i	第10面	442高まり内	剥片	サヌカイ					
			1015	8L-9j	第10面	442高まり内	剥片	サヌカイ					
			1022,1028	8M-10j	第10面	442高まり内	剥片 4点	サヌカイ					
			1027	9L-1i	第10面	442高まり内	剥片 4点	サヌカイ					
			1053-3	8L-9i	第10面	442高まり内	大礫	不明					
			1056	9L-2j	第10面	442高まり内	大礫	花崗岩？					
206	20917		1068-1	9M-1a	第10面	446高まり内	蛤刃形石斧	玄武岩質安 山岩	9.48	6.32	(2.9)	(264.6)	
			1201-1	南側溝	第10面	446高まり内	叩き石	サヌカイ					
			1058-1	8M-8a/他	第10面	446高まり内	楔	サヌカイ					
			1058	8M-8a/他	第10面	446高まり内	剥片	サヌカイ					
			1059	8M-9a/他	第10面	446高まり内	剥片 2点	サヌカイ					
			1061	8M-10a	第10面	446高まり内	剥片	サヌカイ					
			1068	9M-1a	第10面	446高まり内	剥片 3点	サヌカイ					
			1069	9M-2a	第10面	446高まり内	剥片	サヌカイ					
			1070	9M-2a/2b	第10面	446高まり内	剥片 3点	サヌカイ					
			1071	9M-3b	第10面	446高まり内	剥片	サヌカイ					
			1201	南側溝	第10面	446高まり内	剥片	サヌカイ					
			1203-1	南側溝	第10層		石庖丁	緑泥片岩					1/2欠損、曲線刃半月形、両刃
20937			1084-2	8M-9b	第10層		石庖丁	流紋岩(柘榴 石含む)	(8.35)	6.62	1.1	(77.6)	甲成山産？平面形は楕円形 1/2を欠損、穿孔は未通、片刃
208	20938		1084-1	8M-9b	第10層		石斧	流紋岩(柘榴 石含む)	15.15	5.40	1.9	168.5	甲成山産？表面を部分的に研磨 石庖丁未成品？石鏃の可能性あり
	20939		1167-1	8M-9・10b	第10層		砥石	砂岩	(5.83)	(5.42)	1.6	(55.7)	
			1167-2	8M-9・10b	第10層		砥石	砂岩					
			1169-1	9M-1b/他	第10層		砥石	花崗岩					2片に割れる、被熱、鋳型の可能性？
			1087-1	8M-10b/10c	第10層		磨石	砂岩					
			1084-3	8M-9b	第10層		叩き石	サヌカイ					ハンマー？
			1203-2	南側溝	第10層		石鏃	サヌカイ					未成品、石鏃の可能性あり
			1087-2~4	8M-10b/10c	第10層		削器 3点	サヌカイ					

表54 03 - 1 - 2 区 石器観察表 (30)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			1083	8M-8a/8b	第10層		削器	サヌカイ					
			1084-4	8M-9b	第10層		削器	サヌカイ					片面調整？
			1084-6	8M-9b	第10層		削器	サヌカイ					石鏃未成品の可能性あり
			1168	9M-1b/1c	第10層		削器	サヌカイ					
			1084-5	8M-9b	第10層		楔	サヌカイ					
			1085-1	8M-9a/9b	第10層		楔	サヌカイ					
			1087-5	8M-10b/10c	第10層		楔	サヌカイ					
			1084	8M-9b	第10層		剥片 8点	サヌカイ					
			1085	8M-9a/9b	第10層		剥片	サヌカイ					
			1086	8M-10b	第10層		剥片 2点	サヌカイ					
			1087	8M-10b/10c	第10層		剥片 3点	サヌカイ					
			1167	8M-9・10b	第10層		剥片 2点	サヌカイ					
			1168	9M-1b/1c	第10層		剥片	サヌカイ					
			1169	9M-1b/他	第10層		剥片 2点	サヌカイ					
			1196		第10層		剥片	サヌカイ					
			1203	南側溝	第10層		剥片	サヌカイ					
			1168	9M-1b/1c	第10層		小礫	石英					
			1108	8M-9b	第10-2面	1093溝	剥片	サヌカイ					
			1356	8L-9i	第10-2面	1016木棺	剥片	サヌカイ					棺内で取り上げ
			1118	8M-9b	第10-2面	1111土坑	剥片 4点	サヌカイ					
220	20957		1179	9M-1a	第10-2面	1277土坑	砥石	玄武岩	(9.17)	(5.32)	(2.2)	(137.8)	砥面は1面
	20959		1075-2	9M-1a	第10-2面	1282土坑	石鏃	サヌカイ	3.16	2.10	0.8	5.9	動態III-②類、原礫面残る
			1075	9M-1a	第10-2面	1282土坑	剥片 4点	サヌカイ					
			1075-1	9M-1a	第10-2面	1282土坑	原礫	サヌカイ					
220	20961		1081-2	9M-2a	第10-2面	1291土坑	石庖丁	緑泥片岩	(7.16)	(5.45)	1.1	(64.2)	欠損品、研磨面が両面に残る 紡錘車に加工途中？
			1081-1	9M-2a	第10-2面	1291土坑	削器	サヌカイ					石鏃の欠損品の可能性あり
			1081	9M-2a	第10-2面	1291土坑	中礫	不明					
			1103	8M-9b	第10-2面	1085ピット	剥片	サヌカイ					
			1107	8M-9b	第10-2面	1092ピット	剥片	サヌカイ					
			1116	8M-9b	第10-2面	1106ピット	楔	サヌカイ					小形
			1121	8M-9b	第10-2面	1114ピット	剥片 3点	サヌカイ					
			1123	8M-9b	第10-2面	1118ピット	小礫	砂岩					円礫
			1128	8M-9b	第10-2面	1129ピット	石鏃	サヌカイ					先端部欠損、逆涙滴形
			1138	8M-10b	第10-2面	1151ピット	剥片	サヌカイ					
			1172	9M-2b	第10-2面	1239ピット	剥片	サヌカイ					
			1254	8L-8j	第10-2層		石庖丁	緑泥片岩					調査区中央部やや南側
			1265-3	9M-2a/2b	第10-2層		石庖丁	泥岩					調査区中央部やや南側、研磨面の剥落
			1266-1	9M-3a/3b	第10-2層		大型蛤刃石斧	緑泥片岩					調査区中央部やや南側、基部欠片
			1266-2	9M-3a/3b	第10-2層		叩き石	サヌカイ					調査区中央部やや南側 石斧・石鏃の可能性あり

表54 03-1-2区 石器観察表 (31)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			1264	9M-2a	第10-2層		叩き石	サヌカイ					調査区中央部やや南側、半分欠損?
			1255-1	8M-8a	第10-2層		砥石	泥岩					調査区中央部やや南側 欠片、磨製石斧の可能性あり
			1260-1	8M-10a	第10-2層		砥石	砂岩					調査区中央部やや南側、剥落片
			1260-2	8M-10a	第10-2層		磨石	砂岩					調査区中央部やや南側、棒状
			1262-1	9M-2a	第10-2層		磨石	砂岩					調査区中央部やや南側、棒状
			1265-1	9M-2a/2b	第10-2層		打製石剣	サヌカイ					調査区中央部やや南側 先端部欠損、基端に原礫面残る 側面に擦痕残る
224	20984		1256	8L-8j/他	第10-2層		石錐	サヌカイ	(5.43)	1.64	0.9	(8.0)	調査区中央部やや南側、紡錘形
			1265-2	9M-2a/2b	第10-2層		不明磨製石器	不明					調査区中央部やや南側 表面の剥落部のみ、砥石?
			1261	9M-1a	第10-2層		削器 4点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1262	9M-2a	第10-2層		削器 5点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1261-1・2、1261	9M-1a	第10-2層		石核 4点	サヌカイ					調査区中央部やや南側 登録No.1261-1原礫面残る 登録No.1261-2原礫面なし
			1255	8M-8a	第10-2層		剥片 4点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1256	8L-8j/他	第10-2層		剥片	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1257	8L-9j	第10-2層		剥片 2点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1258	8M-9a	第10-2層		剥片 2点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1259	8L-9j/他	第10-2層		剥片 2点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1260	8M-10a	第10-2層		剥片 7点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1261	9M-1a	第10-2層		剥片 38点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1262	9M-2a	第10-2層		剥片 5点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1265	9M-2a/2b	第10-2層		剥片 2点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1266	9M-3a/3b	第10-2層		剥片 3点	サヌカイ					調査区中央部やや南側
			1261	9M-1a	第10-2層		小礫	不明					調査区中央部やや南側
			1259-1	8L-9j/他	第10-2層		原礫	サヌカイ					調査区中央部やや南側
224	20985		1038	9L-3j	第10-2層		石棒	砂岩	(7.56)	3.58	2.6	(101.5)	調査区西部、棒状に丸く研磨
			1218	8M-10b	第10-2層		叩き石	サヌカイ					調査区南部
			1219-1	8M-10b/10c	第10-2層		磨石	砂岩					調査区南部
			1217-2	8M-9b	第10-2層		削器	サヌカイ					調査区南部
			1217	8M-9b	第10-2層		剥片 2点	サヌカイ					調査区南部
			1219	8M-10b/10c	第10-2層		剥片 4点	サヌカイ					調査区南部
			1223	8M-2b	第10-2層		剥片	サヌカイ					調査区南部
			1224	9M-2b	第10-2層		剥片 2点	サヌカイ					調査区南部
225	20991		1217-1	8M-9b	第10-2層		原礫	流紋岩(柘榴 石含む)	14.38	5.64	2.15	184.0	耳成山庭?木葉形に荒削したもの 石庖丁未成品?

表54 03-1-2区石器観察表(32)

図番号	遺物番号	写真図版	登録番号	グリップ	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			1044	8L-10h/他	第11面	1043溝状落ち込み	叩き石	石英質					
239	21013		1045	9L-1i	第11面	1044落ち込み	石庖丁	緑泥片岩	9.24	4.66	1.0	59.5	周縁部に敲打痕・研磨痕・被熱痕残る
			1046-1	9L-2i	第11面	1044落ち込み	楔	サヌカ石					刃部を敲打で潰す、1/2欠損
			1046	9M-2i	第11面	1044落ち込み	剥片 4点	サヌカ石					
			1240	9M-1b	第11面	1374土坑	剥片 2点	サヌカ石					
			1228	8M-9b	第11面	1332ピット	剥片 2点	サヌカ石					
			1396-1	8L-9i	第11層		石錘	花崗岩					調査区北～中部、叩き石の可能性あり
			1396-2	8L-9i	第11層		楔	サヌカ石					調査区北～中部
240	21015		1407	9L-1h	第11層		磨石	砂岩	4.31	3.43	2.4	44.0	調査区北～中部、投弾の可能性あり
			1362	8L-9i	第11層		磨石	砂岩					調査区北～中部、欠損後被熱 中心部がくびれる、石錘の可能性あり
			1393	8L-9・10h	第11層		剥片	サヌカ石					調査区北～中部
			1412	9L-1j	第11層		中礫	砂岩					調査区北～中部
			1412	9L-1j	第11層		中礫	不明					調査区北～中部
243	21033		1432	9M-1a	第11層		石錘	砂岩	4.58	4.73	2.8	69.1	調査区中央部やや南側、投弾の可能性あり
			1428	8M-9a	第11層		剥片 2点	サヌカ石					調査区中央部やや南側
			1432	9M-1a	第11層		剥片 4点	サヌカ石					調査区中央部やや南側
245	21055		1445	8M-9b	第11層		石錘	サヌカ石	(6.62)	1.71	0.6	8.2	調査区南部、棒状石錘？基部に原礫面残る
			1448,1449	8M-10a	第11層		剥片 3点	サヌカ石					調査区南部
			1454	9M-1b	第11層		剥片 3点	サヌカ石					調査区南部
			1438-1	9M-2a/2b	第11-2層		剥片 2点	サヌカ石					
			1402	8L-10i	第11-2層		剥片	サヌカ石					
			1466-1	8L-8j	第11-3層		叩き石	サヌカ石					
			1406	9L-1h	第11-3層		剥片 3点	サヌカ石					
			1394	8L-9h	第11-3層		剥片 5点	サヌカ石					
			1466	8L-8j	第11-3層		剥片 2点	サヌカ石					
			1406	9L-1h	第11-3層		小礫 3個	不明					
265	21102		1467	8L-10j	第12層		大型石庖丁	緑泥片岩	(7.46)	(7.21)	(0.55)	(37.7)	先端部のみ残存
			1468	9L-1j	第12層		剥片	サヌカ石					
			1473	9M-2a	第13層		剥片	サヌカ石					
			3	北側溝	第0層以下		剥片	サヌカ石					
			126-1	北側溝	第3層以下		楔	サヌカ石					
			232	南側溝	第3～5層		石庖丁	サヌカ石					
			230	東側溝	第3～5層		剥片	サヌカ石					
			232	南側溝	第3～5層		剥片	サヌカ石					
			125	南側溝	第3～6層		石庖丁	緑泥片岩	(14.72)	5.76	0.55	(66.7)	1/3欠損
269	21118		134	8L-10i	第3～6層		石庖丁	緑泥片岩	(5.78)	3.70	1.0	(24.5)	先端部のみ残存、片刃
			123-1	西側溝	第3～6層		石庖丁	緑泥片岩	(10.42)	(7.91)	1.0	(131.8)	大形石庖丁？、1/2欠損、両刃？
			123-2	西側溝	第3～6層		不明石製品	花崗岩？					凹礫

表54 03-1-2区 石器観察表 (33)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			121	東側溝	第3~6層		剥片 2点	サヌカイ					
			130	8L-8j	第3~6層		剥片 2点	サヌカイ					
			135	8M-10a	第3~6層		剥片 2点	サヌカイ					
			228-1	北側溝	第4~7層		削器	サヌカイ					三角形に刃部調整
			227	南側溝	第4~7層		剥片 2点	サヌカイ					
			228	北側溝	第4~7層		剥片	サヌカイ					
			239,241	9M-2a	第5層以下		剥片 4点	サヌカイ					被熱割れ?
			241	9M-2a	第5層以下		中礫	不明					
269	21120		243-1	9M-1a/1b	第6~8層		石庖丁	緑泥片岩	(7.08)	(5.30)	0.65	(36.0)	未成品? 未通の穿孔が1孔 曲線刃半月形? 1/2を欠損、 第6面252大溝下層に含まれる?
			335-2	8M-9a	第6~8層		石庖丁	緑泥片岩					体部片
			559-2	8L-9j	第6~8層		石庖丁	緑泥片岩					1/2欠損
			559-1	8L-9j	第6~8層		磨製石斧	片岩					基部のみ残存、刃部欠損
			335-1	8M-9a	第6~8層		砥石	玄武岩質安 山岩					砥面は1面
			339-5	8M-9b	第6~8層		砥石	花崗岩					砥面が残る? 被熱痕残る
			243-3	9M-1a/1b	第6~8層		叩き石	サヌカイ					ハンマー、第6面252大溝下層に含まれる?
			559-4	8L-9j	第6~8層		叩き石	砂岩					
			558	8L-8j	第6~8層		打製石剣	サヌカイ					先端から大きく欠損、使用中の割れか
			559-3	8L-9j	第6~8層		削器	サヌカイ					
			339-1	8M-9b	第6~8層		削器	サヌカイ					打製石剣の体部片の可能性あり
			339-2	8M-9b	第6~8層		削器	サヌカイ					
			243	9M-1a/1b	第6~8層		剥片	サヌカイ					第6面253大溝下層に含まれる?
			336	8M-10a	第6~8層		剥片 2点	サヌカイ					
			339-3	8M-9b	第6~8層		剥片	サヌカイ					
			331	8L-9h/他	第6~8層		剥片 2点	サヌカイ					刃部に沿って付着物あり(赤外分光分析)
			332	8L-10i	第6~8層		剥片	サヌカイ					
			333	8L-8j	第6~8層		剥片	サヌカイ					
			334	8L-8i/8j	第6~8層		剥片	サヌカイ					
			339,360	8M-9b	第6~8層		剥片 4点	サヌカイ					
			339-4	8M-9b	第6~8層		原礫	サヌカイ					
			1195-1		第6~9層		石庖丁	緑泥片岩					1/3欠損、直線刃半月形、片刃
			1195-2	南側溝	第6~9層		叩き石	砂岩					周縁部に敲打痕残る
269	21123		1202-1	南側溝	第6~9層		打製石剣	サヌカイ	(4.48)	(2.29)	0.9	7.9	基部のみ残存
			1202-2	南側溝	第6~9層		石鏃	サヌカイ					未成品、原礫面残る
			1195	南側溝	第6~9層		剥片 6点	サヌカイ					
			1202	南側溝	第6~9層		剥片 10点	サヌカイ					被熱痕残る
			1195-3		第6~9層		大礫	不明					被熱痕残る
			1195		第6~9層		中礫	不明					被熱痕残る
			1195		第6~9層		小礫 2個	不明					

表54 03-1-2区石器観察表(34)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			1202-3・4	南側溝	第6～9層		小礫 2個	紅麻片岩					使用痕はみられない
			329-1	北側溝	第6層以下		石庖丁	緑泥片岩					両端欠損、両端を再加工？
			329-2	北側溝	第6層以下		叩き石	砂岩					頂部に敲打痕、表面を研磨
			324	東側溝	第6層以下		剥片 3点	サヌカイ					
			325	西側溝	第6層以下		剥片 2点	サヌカイ					
			326,328	南側溝	第6層以下		剥片 6点	サヌカイ					
			329	北側溝	第6層以下		剥片 2点	サヌカイ					
			326	南側溝	第6層以下		大礫	不明					柱状に加工しようとした可能性あり
			362	9L-3h	第7層以下		剥片	サヌカイ					
			363-1	9M-2a	第7層以下		剥片	サヌカイ					
			363-2	9M-2a	第7層以下		中礫	不明					使用痕はみられない
			392	8M-10a	第7～10層		剥片 2点	サヌカイ					
			392	8M-10a	第7～10層		小礫	砂岩					使用痕はみられない
			396-2	9L-2j	第7～11層		石庖丁原材	緑泥片岩					板状の原礫を整形、割れて放棄？
			388-2	8L-10h/他	第7～11層		砥石	花崗岩					砥面は3面
			397	9L-2j	第7～11層		砥石	不明					砥面の欠片
			391-1	8L-10j	第7～11層		磨石	砂岩					被熱痕・敲打痕・磨痕残る
			396-1	9L-2j	第7～11層		叩き石	砂岩					敲打痕・被熱痕残る
269	21122		388-1	8L-10h/他	第7～11層		石鏃	サヌカイ	4.31	2.44	1.0	9.7	基部に原礫面が残る
			391-2	8L-10j	第7～11層		削器	サヌカイ					稜線が白く潰れる、1区にも同様の削器あり
			470	8M-9a/9b	第7～11層		削器	サヌカイ					
			396	9L-2j	第7～11層		剥片 4点	サヌカイ					
			399	9M-3a	第7～11層		剥片	サヌカイ					
			469,470	8M-9a/9b	第7～11層		剥片 4点	サヌカイ					
			605	8M-10b/10c	第7～11層		剥片 3点	サヌカイ					
			395	9L-2h	第7～11層		大礫	不明					敲打痕残る？
			364	9M-1c	第8層以下		剥片	サヌカイ					
			999-2	9M-3a/他	第9層以下		削器	サヌカイ					
			999-1	9M-3a/他	第9層以下		楔	サヌカイ					ハンマー
			990	8M-10a	第9層以下		剥片	サヌカイ					
			1000	南側溝	第9層以下		剥片	サヌカイ					
			1387	西側溝	第10～11層		剥片	サヌカイ					
			1242	8M-10a/10b	第11層		剥片	サヌカイ					南北サブトレ

表55 03 - 1 - 3 区 石器観察表 (1)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	機種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			1		第0層		剥片	サヌカイ					
			2		第0層		剥片	サヌカイ					
			36	9M-4b/4c	第4-2層		削器	サヌカイ					表面風化
281	30018	125	64	9M-3b	第5層	408土坑	打製石剣	サヌカイ	(11.15)	2.94	1.7	(74.0)	産地分析試料(分析番号98504)
	30020		124-1	北側溝	第5層		石庖丁	緑泥片岩	(5.98)	(5.87)	0.4	(17.0)	体部片、円板状に再加工途中?
			124	北側溝	第5層		剥片	サヌカイ					
283	30024		69-1		第6層	414溝	石庖丁	緑泥片岩	(4.86)	4.42	0.4	(11.2)	体部片
			69-2-3		第6層	414溝	削器 2点	サヌカイ					
			71		第6層	418溝	剥片	サヌカイ					
285	30033		88-2	9M-3・4c	第6層	418溝下層	砥石	砂岩	10.01	(9.02)	1.8	(220.3)	砥面は5面、石皿状にくぼむ
	30034	125	88-3	9M-3・4c	第6層	418溝下層	打製石剣	サヌカイ	(7.51)	2.89	1.35	(33.7)	
			88-1	9M-3・4c	第6層	418溝下層	削器	サヌカイ					
			88	9M-3・4c	第6層	418溝下層	剥片 2点	サヌカイ					
			126	北側溝	第6層		剥片	サヌカイ					
288	30041		58-1		第7層	1296溝	石庖丁	緑泥片岩	(6.18)	3.29	0.7	(25.1)	1/2を欠損、直線刃半月形、片刃
			58		第7層	1296溝	剥片 2点	サヌカイ					
			127-1	北側溝	第7層	1294・1298高まり 内	砥石	砂岩					砥面は2面
			127-2	北側溝	第7層	1294・1298高まり 内	砥石	砂岩					砥面は2面
288	30043	125	127-3	北側溝	第7層	1294・1298高まり 内	石鏃	サヌカイ	(4.55)	1.30	0.5	(3.2)	凸基無茎式、先端・基部欠損
			127	北側溝	第7層	1294・1298高まり 内	剥片	サヌカイ					
			127	北側溝	第7層	1294・1298高まり 内	小礫	サヌカイ					被熱痕残る
			78		第7層	1297高まり内	叩き石	サヌカイ					敲打痕残る
			80-1		第7層	1297高まり内	削器	サヌカイ					
			73~77,79,80		第7層	1297高まり内	剥片 11点	サヌカイ					
			84	9M-5b	第8層	1310溝	剥片	サヌカイ					
290	30047		89		第8層	1316溝	石庖丁	緑泥片岩	(4.10)	(3.86)	0.6	(12.5)	体部片、平面形は不明、片刃
			86	9M-4b/他	第8層	1316溝	叩き石	サヌカイ					敲打痕残る
			119	9M-5b	第8層	1311高まり内	小礫 3個	不明					
			93-1	9M-3b	第8層	1317高まり内	削器	サヌカイ					
			97-1	9M-4c	第8層	1317高まり内	削器	サヌカイ					
			90,92,93	9M-3b	第8層	1317高まり内	剥片 4点	サヌカイ					
			96	9M-4b/4c	第8層	1317高まり内	剥片	サヌカイ					
			93	9M-3b	第8層	1317高まり内	小礫	サヌカイ					
			94	9M-3・4b	第8層	1317高まり内	小礫	サヌカイ					

表55 03-1-3区 石器観察表(2)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	機種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			97	9M-4c	第8面	1317高まり内	小礫	サヌカイ					
			130,133	東側溝	第8層		剥片 2点	サヌカイ					
	30054		121	9M-3b	第9面	1382溝	石廂丁	緑泥片岩	(6.68)	(6.15)	1.0	(53.0)	体部片、平面形は不明 刃部再調整中に破損? 1/3残存、両端を欠損
	30055	126	122-1	9M-3c	第9面	1382溝	石廂丁	泥岩	(5.42)	(3.72)	0.8	(19.6)	石廂丁を転用?周縁部の研磨は不完全
292	30056		98-1	9M-3b	第9面	1382溝	紡錘車	緑泥片岩	(4.70)	(4.62)	0.8	(27.6)	
	30057		98-2	9M-3b	第9面	1382溝	砥石	砂岩	(8.18)	5.85	2.8	(175.6)	
	30058		99-3	9M-2c	第9面	1382溝	石錘	花崗岩	4.33	4.28	1.6	43.4	
	30059		99-2	9M-2c	第9面	1382溝	石錘	砂岩	4.42	3.06	2.2	39.9	紐痕残る
			99-1	9M-2c	第9面	1382溝	打製石剣	サヌカイ					基部のみ残存
			98	9M-3b	第9面	1382溝	剥片 5点	サヌカイ					
			99	9M-2c	第9面	1382溝	剥片 3点	サヌカイ					
			122	9M-3c	第9面	1382溝	小礫	不明					
			98	9M-3b	第9面	1382溝	小礫 2個	砂岩					
			99	9M-2c	第9面	1382溝	小礫 3個	不明					
			153-5	9M-3c	第9面	1397溝	磨石	砂岩					
293	30072		153-6	9M-3c	第9面	1397溝	砥石	砂岩	8.93	7.47	4.2	(360.8)	砥面は2面
			152-4	9M-3b	第9面	1397溝	叩き石	不明					周縁部に敲打痕残る
			153-2	9M-3c	第9面	1397溝	叩き石	サヌカイ					周縁部に敲打痕残る
			153-3	9M-3c	第9面	1397溝	叩き石	サヌカイ					基部のみ残存、側縁部に潰し痕あり
			152-1	9M-3b	第9面	1397溝	打製石剣	サヌカイ					基部のみ残存、先端部欠損 握り部のエッジを擦り落とす
			153-1	9M-3c	第9面	1397溝	打製石剣	サヌカイ					頂部に原礫面残る
			152-2・3	9M-3b	第9面	1397溝	削器 2点	サヌカイ					原礫面大きく残る、素材剥片
			152	9M-3b	第9面	1397溝	剥片 6点	サヌカイ					片面調整
			153-4	9M-3c	第9面	1397溝	剥片 12点	サヌカイ					被熱割れ
			153,154	9M-3c	第9面	1397溝	剥片	サヌカイ					被熱痕残る
			151	東側溝	第9面	1397溝	剥片	サヌカイ					
			151	東側溝	第9面	1397溝	剥片	サヌカイ					
			186	9M-3b	第9面	1397溝	中礫	不明					
			153	9M-3c	第9面	1397溝	小礫 2個	不明					
			152,186	9M-3b	第9面	1397溝	小礫 2個	不明					
			151	東側溝	第9面	1397溝	小礫	不明					
			120	9M-5b/5c	第9面	1379落ち込み	大礫	花崗岩					処分済
			120	9M-5b/5c	第9面	1379落ち込み	小礫	砂岩					
			156-1~3	9M-5b	第9面	1378高まり内	磨石 3点	砂岩					
			155	9M-4b	第9面	1378高まり内	中礫	不明					
294	30076	128	100-1	9M-3b	第9面	1381高まり上半	大型石廂丁	緑泥片岩	17.80	(8.77)	1.0	(165.1)	巻録No.61-2と接合、1孔の二等辺三角形と 思われる、被熱痕残る

表55 03 - 1 - 3 区 石器観察表 (3)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	機種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			102-1	9M-3b	第9層	1381高まり上半	磨石	砂岩					
294	30077		107-1	9M-4c	第9層	1381高まり上半	砥石	砂岩	(9.90)	(9.32)	2.6	(299.6)	砥面は2面、両面が石皿状にくぼむ
			102-2	9M-3b	第9層	1381高まり上半	削器	サヌカイ					
			100~103	9M-3b	第9層	1381高まり上半	剥片 7点	サヌカイ					
			106	9M-4b/4c	第9層	1381高まり上半	剥片 3点	サヌカイ					
			107	9M-4c	第9層	1381高まり上半	剥片	サヌカイ					円礫
			104	9M-3・4b	第9層	1381高まり上半	小礫 3個	砂岩					
			106	9M-4b/4c	第9層	1381高まり上半	小礫	不明					
			111	9M-3b	第9層	1381高まり下半	砥石	不明					砥面は1面
			110-2	9M-3b	第9層	1381高まり下半	叩き石	サヌカイ					原礫面大きく残る、敲打痕残る
294	30075	128	110-1	9M-3b	第9層	1381高まり下半	打製石剣	サヌカイ	(8.52)	4.15	2.2	(82.2)	石剣基部・先端部欠損
			109-1	9M-3b	第9層	1381高まり下半	削器	サヌカイ					石小刀の可能性あり?
			109,110	9M-3b	第9層	1381高まり下半	削片 13点	サヌカイ					
			115	9M-4c	第9層	1381高まり下半	削片	サヌカイ					
			112	9M-3・4b	第9層	1381高まり下半	削片	サヌカイ					
			113	9M-3b/他	第9層	1381高まり下半	削片	サヌカイ					
			114	9M-3b/4c	第9層	1381高まり下半	削片 2点	サヌカイ					
			110	9M-3b	第9層	1381高まり下半	小礫	軽石					
			141	9M-3b/3c	第9層		砥石	不明					(第9層 1383~1390杭周辺)
			141	9M-3b/3c	第9層		削片 2点	サヌカイ					(第9層 1383~1390杭周辺)
			139	9M-3b	第9層		削片	サヌカイ					(第9層 1383~1390杭周辺)
			139	9M-3b	第9層		小礫	不明					(第9層 1383~1390杭周辺)
296	30084	128	159-2	9M-3c	第9層		柱状片刃石斧	結晶片岩	3.92	2.20	0.7	11.9	ほぼ完形
			159-1	9M-3c	第9層		磨石	砂岩					研磨痕残る
			134	東側溝	第9層		石錐	サヌカイ					
			158-2	9M-2b/2c	第9層		石核	サヌカイ					原礫面残る
			134	東側溝	第9層		削片 3点	サヌカイ					
			158	9M-2b/2c	第9層		削片	サヌカイ					
			159	9M-3c	第9層		削片 6点	緑泥片岩					
			158	9M-2b/2c	第9層		小礫 3個	サヌカイ					
			158-1	9M-2b/2c	第9層		小礫	不明					玉石の可能性あり?
			159	9M-3c	第9層		小礫	砂岩					被熱変色あり
			159	9M-3c	第9層		小礫	緑泥片岩					
			160	9M-5b	第10層	1407溝	小礫	不明					
			162-1	9M-4b	第10層	1409溝	打製石剣	サヌカイ					両端欠損、基部破片
			163	9M-4・5c	第10層	1409溝	叩き石	サヌカイ					周縁に敲打痕残る
			162-2	9M-4b/他	第10層	1409溝	削器	サヌカイ					頂部に原礫面残る
			163	9M-4・5c	第10層	1409溝	削器	サヌカイ					

表55 03 - 1 - 3 区 石器観察表 (4)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	機種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			162-3	9M-4b/他	第10面	1409溝	楔	サヌカイ					敲打痕残る、原礫面大きく残る
			163	9M-4・5c	第10面	1409溝	剥片 2点	サヌカイ					
			162	9M-4b/他	第10面	1409溝	剥片 3点	サヌカイ					
			162	9M-4b/他	第10面	1409溝	小礫 2個	不明					
			164	9M-4b/他	第10面	1409溝(下層)	剥片	サヌカイ					
			203	北側溝	第10面	1409溝(下層)	中礫	不明					
30098			116-6	9M-3b	第10面	1414溝	石庖丁	緑泥片岩	(6.53)	4.18	0.5	(22.1)	1/4残存、直線刃半月形、片刃 両端欠損
30099			116-2	9M-3b	第10面	1414溝	大型蛤刃石斧	斑レイ岩	(3.25)	(0.60)	(2.6)	(6.3)	基部片
30100			116-7	9M-3b	第10面	1414溝	石錘	砂岩	4.13	3.13	1.6	29.4	砥石の破片を転用? 被熱痕残る
30101			116-8	9M-3b	第10面	1414溝	磨石	砂岩	(8.62)	3.61	2.2	(106.1)	棒状の砂岩を研磨
			116-1	9M-3b	第10面	1414溝	砥石	不明					方形の砥石角部
			116-3	9M-3b	第10面	1414溝	叩き石	不明					敲打痕残る
			116-4・5	9M-3b	第10面	1414溝	削器 2点	サヌカイ					
			117-1~4	9M-3C/他	第10面	1414溝	削器 4点	サヌカイ					
			116	9M-3b	第10面	1414溝	剥片 9点	サヌカイ					
			117	9M-3C/他	第10面	1414溝	中礫 2個	サヌカイ					
			116	9M-3b	第10面	1414溝	小礫 9個	不明					
			117	9M-3C/他	第10面	1414溝	小礫	サヌカイ					
			169	9M-3c	第10面	1419溝	剥片	サヌカイ					
			170	9M-2b/2c/3c	第10面	1420溝	剥片	サヌカイ					
			166	9M-3b/他	第10面	1411土坑	剥片	サヌカイ					
			175-1	9M-5b	第10面	1408高まり内	砥石	不明					砥面は2面
305	30109		174	9M-4b/5b	第10面	1408高まり内	石錘	砂岩	7.27	3.46	2.0	52.4	瓢箪形にくぼむ、紐痕残る
			173-1	9M-4b	第10面	1408高まり内	楔	サヌカイ					敲打痕残る
			173	9M-4b	第10面	1408高まり内	剥片	サヌカイ					
			175	9M-5b	第10面	1408高まり内	小礫	不明					
			178-1	9M-3b	第10面	1410高まり内	石庖丁	結晶片岩	(6.85)	5.83	0.9	(47.7)	1/3残存、片刃、全体形は不明 両端欠損、紐穴残る
307	30122		180-1	9M-4b/4c	第10面	1410高まり内	砥石	砂岩	(8.40)	(7.91)	(5.3)	(354.6)	砥面2面残る、被熱により欠損
	30123		179-5	9M-3・4b	第10面	1410高まり内	砥石	砂岩	(9.05)	6.62	3.9	(507.9)	砥面は3面
			180	9M-4b/4c	第10面	1410高まり内	叩き石	サヌカイ					敲打痕残る、破片
			179-1	9M-3・4b	第10面	1410高まり内	打製石剣	サヌカイ					未成品? 基部のみ残存、先端部欠損
			179-2~4	9M-3・4b	第10面	1410高まり内	削器 3点	サヌカイ					
			179	9M-3・4b	第10面	1410高まり内	剥片 2点	サヌカイ					
			178	9M-3b	第10面	1410高まり内	剥片 2点	サヌカイ					
			171	9M-3b	第10面	1410高まり内	中礫	不明					
			178	9M-3b	第10面	1410高まり内	小礫 2個	不明					
308	30128		182	9M-3c	第10面	1418高まり内	打製石斧	サヌカイ	14.45	6.05	2.4	243.5	石鐮の可能性あり

表55 03 - 1 - 3 区 石器観察表 (5)

図 番号	遺物 番号	写真 図版	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	機種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			181	9M-2b/2c	第10面	1418高まり内	削器	サヌカイ					
			182	9M-3c	第10面	1418高まり内	剥片	サヌカイ					
			182	9M-3c	第10面	1418高まり内	中礫	不明					
			207	西側溝	第10層		磨石	砂岩					敲打痕残る、石錐の可能性あり
309	30132	131	204	東側溝	第10層		打製石剣	サヌカイ	(14.12)	5.41	1.4	(146.5)	産地分析試料(分析番号98508)
			204	東側溝	第10層		剥片 5点	サヌカイ					
			206	北側溝	第10層		剥片	サヌカイ					
312	30145	132	194-1	9M-3b/3c	第11層		石剗丁	緑泥片岩	(8.84)	5.19	0.8	(53.8)	1/2欠損、直線刃半月形、片刃
	30146		196	9M-4b/4c	第11層		大型蛤刃石斧	砂岩	(7.01)	(4.43)	4.5	(165.4)	頂部片のみ残存
			194	9M-3b/3c	第11層		剥片	サヌカイ					
			195	9M-3b	第11層		剥片 2点	サヌカイ					
			194	9M-3b/3c	第11層		中礫 4個	不明					
			199	9M-3b	第11-2面	1425ピット	大礫	不明					
			213	北側溝	第12層		剥片	サヌカイ					
			60-1	東側溝	第5層以下		打製石剣	サヌカイ					未成品か？
			61-1	北側溝	第5層以下		削器	サヌカイ					
			60	東側溝	第5層以下		剥片	サヌカイ					
			61	北側溝	第5層以下		剥片 2点	サヌカイ					
			54	東側溝	第6層以下		剥片 2点	サヌカイ					
			59	西側溝	第6層以下		剥片	サヌカイ					

表56 05 - 1 - 1 - 1 区 石器観察表

図 番号	遺物 番号	写真 番号	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			5	8M-6a	第2層		剥片	サヌカイ					
329	40004	140	10-1	8M-6a	第6面	2002溝	石庖丁	緑泥片岩	(9.77)	3.23	0.6	(31.9)	1/2欠損、直線刃半月形、片刃 刃部・背部に敲打痕残る、右踵に転用か？
	40005		19-1	8M-6a	第6面	2002溝	打製石剣	サヌカイ	(3.54)	3.03	0.8	(11.3)	稜の可能性あり
331	40019	140	10,19	8M-6a	第6面	2002溝	剥片 3点	サヌカイ					
			21-1	8M-6a	第6面	2004溝	砥石	紅籬片岩	(7.52)	(3.55)	(1.3)	(55.3)	
332	40020	141	21	8M-6a	第6面	2004溝	剥片 5点	サヌカイ	(5.67)	(5.07)	(0.8)	(30.0)	2/3欠損、杏仁形
	40021		13-1	8M-6a	第6面	2003高まり内	石庖丁	緑泥片岩	(7.99)	(3.91)	0.8	(43.7)	1/2欠損、直線刃半月形、片刃
332			13-2	8M-6a	第6面	2003高まり内	石庖丁	サヌカイ					
			13	8M-6a	第6面	2003高まり内	剥片 2点	サヌカイ					
			49	8M-6a	第6層		剥片	サヌカイ					
332	40023	141	16	8M-6a	第7面	2007高まり内	打製石剣	サヌカイ	(11.08)	2.77	1.4	(61.7)	先端部欠損、基部に原礫面残る 産地分析試料(分析番号98509)
			50	8M-6a	第7層		剥片 2点	サヌカイ					
			17	8M-6a	第8面	2008高まり内	剥片	サヌカイ					
			20	8M-6a	第9面	2010溝	剥片	サヌカイ					
338	40034	142	22-1	8M-6a	第9面	2011高まり内	打製石剣	サヌカイ	14.53	4.45	2.1	137.4	未成品、背面に大きく原礫面残る
	40035		22-2	8M-6a	第9面	2011高まり内	打製石剣	サヌカイ	(5.46)	4.32	1.2	(36.7)	産地分析試料(分析番号98510)
			22	8M-6a	第9面	2011高まり内	剥片 7点	サヌカイ					
			24	8M-6a	第10面	2016溝	剥片	サヌカイ					
			39	8M-6a	第10面	2049ピット	剥片	サヌカイ					
			42	8M-6a	第10面	2014高まり内	剥片 3点	サヌカイ					
			42	8M-6a	第10面	2014高まり内	中礫	不明					被熱痕残る
			7	側溝	第4～5層		剥片	サヌカイ					
			9	側溝	第5～8層		剥片	サヌカイ					
			12	側溝	第6～10層		剥片 2点	サヌカイ					

表57 05 - 1 - 2 区 石器観察表

図 番号	遺物 番号	写真 番号	登録番号	グリッド	出土層位	遺構	器種・分類	原材	長軸 cm	短軸 cm	厚み cm	重さ g	備考
			6		第1層		原礫	滑石					

表58 03-1-1 区 木器観察表

図 番号	遺物 番号	写真 図版	グリッド	出土層位	遺構	品目1	品目2	時期	樹種	樹種鑑 定番号	木取り	長軸 cm	短軸 cm	高さ・厚み cm	備考
9	10009	2	8L-9g	第3層		材	板材		スギ	3	桁目	(9.6/88.0)	15	2.4	2材に分かれる
	10010	2	8L-9g	第3層		材	板材		スギ	1	桁目	(18.6/ 93.6)	16.6	2.6	2材に分かれる
	10011		8L-9g	第3層		農具	田下駄?		スギ	2	桁目	(63.2)	21	2.0	3孔式
12	10015		8L-6g/6h	第5層		材	加工板材		コウヤマキ	4	板目	27.4	1.9	0.4	湾曲した板状で突起あり
	10075		8L-7g/7h	第6面	20大溝	農具?	鋤?	II~III	アカガシ亜属	9	桁目	(24.9)	(12.9)	2.0	
20	10076		8L-7g/7h	第6面	20大溝	農具?	鋤・鉄未成品?	II~III	アカガシ亜属	6	桁目	(20.3)	9.0	1.5	
	10077		8L-7g/7h	第6面	20大溝	材or農具	礎板or鋤・鉄未 成品	II~III	ブナ科	10	板目	41.0	(24.0)	7.6	片面は円形に表面剥離
	10078		8L-7g/7h	第6面	20大溝	用途不明	加工板	II~III	ヒノキ	8	桁目	(76.0)	7.8	2.0	突起あり
21	10079		8L-7g/7h	第6面	20大溝	用途不明	加工棒	II~III	ヒノキ	7	桁目	(87.0)	3.0	2.2	一部に加工痕
	10080	12	8L-6h	第6面	22溝	材	板材		ヒノキ	5	桁目	83.0	45.8	5.6~6.3	年輪年代資料、水生植物の生痕あり
26	10085			第8面	62溝	杭	杭	I~II	ニレ属	11	心持ち	(41.4)	8.9	7.7	ほぼ原木
27	10089		8L-8g/8h	第8層		用途不明	板材	I~II	コウヤマキ	12	桁目	22.3	15.8	1.1	鋤・鉄未成品か?
32	10094		8L-6h	第10面	127土坑	用途不明	木錘or浮子か?		ヒノキ	15	桁目	10.0	5.6	1.8	2辺に紐の圧痕?
	非掲載		8L-8h	第11-2面	171溝状落 ち込み	用途不明	板状	I	不明	16	桁目	7.6	4.6		やや厚めの曲がった板、登録No.143
41	10107		8L-6h	第12層		織機?	経(緯)巻具?		ヒノキ	13	桁目	(48.3)	3.5	2.1	頭部あり
	10108		8L-7g	第12層		材	板材		ヒノキ	14	桁目	(76.4)	10.8	5.0	加工痕明瞭

表59 03-1-2 区 木器観察表 (1)

図 番号	遺物 番号	写真	グリッド	出土層位	遺構	品目1	品目2	時期	樹種	樹種鑑 定番号	木取り	長軸 cm	短軸 cm	高さ・厚み cm	備考
55	20020		8L-10i	第3層	材		織機?		コウヤマキ	17	柃目	(57.0)	7.0	2.0	両端に斜りこみあり
	20096		9M-2b	第6面	杭		杭		ヒノキ	24	心持ち	(53.0)	3.8		短軸は径 樹皮残る
73	20097		8M-10a/10b	第6面	材		板材		ヒノキ	23	柃目	(19.5)	5.9	1.8	板に3.3×2.8cmの方形孔(両側から穿 孔)
	20368	82	9M-1a/1b	第6面	容器		皿		ヤマグワ	19	横	40.8	(6.8)	5.8	涙形
93	20369		9M-1a/1b	第6面	織機?		布(経)巻具か?		コウヤマキ	18	柃目	51.0	4.4	1.4	両端に斜りこみあり
	20386	83	9M-2b	第6面	農具or武 器		剣形or鋏(鋤) 先?		アカガシ亜属	25	板目	(20.8)	3.0	1.0	片刃先端から4.1cmのところから刃が つく
20387				第6面	杭		杭		コナラ亜属		心持ち		11.0		短軸は径 切断痕あり
	20388			第6面	杭		杭		コナラ亜属		心持ち		9.0		短軸は径 切断痕あり
98	20389	83	9M-2b	第6面	杭		杭		サカキ	42	心持ち	(43.0)	2.6		短軸は径 先端カット先端部に臍孔?あり
	20390		9M-2b	第6面	杭		杭		サカキ	43	心持ち	(68.6)	3.0		短軸は径 頭部あり
20391				第6面	杭		杭		ムクノキ	22	心持ち	(30.0)	3.6		短軸は径 樹皮残る
20392				第6面	杭		杭		ヤマグワ	21	心持ち	(49.6)	8.6		短軸は径
103	20424		8M-9b	第6面	材		加工角材	II~III	ケヤキ	33	柃目	(18.4)	3.4	2.7	角材状、一部に斜り
	20463		8L-9・10h/他	第7面	容器?		264溝		ヤマグワ	31	横	(11.6)	(11.2)	0.9	一部炭化、杓子か?
111	20464		8L-9・10h/他	第7面	材		加工板材		スギ	29	柃目	26.2	(9.4)	2.0	中心部に孔あり(穿孔の途中か穿孔時 の下敷き?)
	20465		8L-9・10h/他	第7面	材		板材		ヒノキ	30	柃目	(56.0)	(4.8)	1.3	板状、両端へ薄くなる
122	20523	89	8M-10b	第8面	農具		鋤柄	I~II	アカガシ亜属	74	板目	(57.2)	8.4	2.8	短軸は把手幅、高さ・厚みは径
	20524		8M-10b	第8面	容器		脚付容器(槽)	I~II	ヤマグワ	73	横	(17.1)	(11.1)	6.1	器形は推定、涙形で波状口縁か? 脚残存
126	20536		8L-10h	第8面	材		有孔部材	II	コウヤマキ	44	板目	(14.5)	(3.9)	0.9	板状、0.6×0.4cmの穿孔

表59 03-1-2区 木器観察表(2)

図 番号	遺物 番号	写真	グリッド	出土層位	遺構	品目1	品目2	時期	樹種	樹種鑑 定番号	木取り	長軸 cm	短軸 cm	高さ・厚み cm	備考	
128	20558	92	9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	51		(15.2)	0.7		短軸は径	
	20559		9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	46			(15.5)	0.8		短軸は径、先端欠け
	20560		9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	53			(14.7)	0.8		短軸は径、途中で屈曲
	20561		9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	50			(13.8)	0.7		短軸は径
	20562		9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	49			(13.4)	0.9		短軸は径、断面方形
	20563		9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	47			(11.9)	0.7		短軸は径、先端欠け
非掲載	20564		9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	48		(10.9)	0.7		短軸は径、先端欠け	
	20565		9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	52		(6.2)	0.7		短軸は径	
			9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス未成品?	II	モミ属	54		11.4	0.8		登録No.638-9	
			9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス未成品?	II	モミ属	55		21.4	1.3		登録No.638-10	
			9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス未成品?	II	モミ属	56		17.3	1.0		登録No.638-11	
			9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス未成品?	II	モミ属	57		15.4	1.1		登録No.638-12	
135	20602	94	9M-2b	第8面	299高まり内	漁撈具	ヤス未成品?	II	モミ属	58		20.4	0.8		登録No.638-13	
	20603	92	9L-3j	第9面	330溝	容器	短脚高杯		ヤマグワ	45	横	(27.0)	(6.8)	12.2	長軸は口径、短軸は裾径、一木式	
	20604	94	9M-2a	第9面	337溝	用途不明		I~II	ヤマグワ	62	柾目	(36.0)	8.2	2.5~3.9	端部中央に擦痕 杓子などの未成品か?	
	20640	94	8L-10j/他	第9面	337溝	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	60		(20.6)	0.3~0.7		短軸は径	
	20641	96	9M-1b	第9面	1397溝上半	用途不明	棒状材	I~II	ヒノキ	61	心持ち	(38.5)	1.5~1.9		短軸は径、頭部あり	
	20642	96	8M-8a/8b	第9面	1397溝上半	容器	高杯		ヤマグワ	20, 41	横	29.0	21.0	(21.5)	長軸は口径、短軸は裾径、一木式	
143	20643	96	8M-10a	第9面	1397溝上半	容器	高杯脚部		ヤマグワ	36	横	13.8	(7.0)		長軸は裾径、一体型	
	20644	96	8M-10a	第9面	1397溝上半	容器	脚付鉢(槽)		ヤマグワ	39	横	(30.6)	16.6	(18.6)	短軸は脚台部幅 一体型、残存約1/2? 外面に加工痕残る	
	20645	96	8M-10a	第9面	1397溝上半	材	加工板材		スギ	40	板目	(47.2)	(7.4)	2.4	木材の辺縁部・端辺に焼けた痕跡 長辺に挟り痕	
	20646	96	9M-2b	第9面	1397溝上半	農具or杭	柄or杭	II~III	ヒノキ	37	心持ち	26.55	2.5前後		短軸は径、登録No.480 一端が焦げ、加工のためのものか?	
	20647	96	9M-2b	第9面	1397溝下半	杭?	杭?		ヒノキ	38	心持ち	(19.0)	1.7		短軸は径 ほぼ全面黒変、一部挟りかけ	
	20648	96	9M-2b	第9面	1397溝下半	杭?	杭?		ヒノキ	38	心持ち	(19.0)	1.7		短軸は径 ほぼ全面黒変、一部挟りかけ	

表59 03-1-2区 木器観察表(3)

図 番号	遺物 番号	写真	グリッド	出土層位	遺構	品目1	品目2	時期	樹種	樹種鑑 定番号	木取り	長軸 cm	短軸 cm	高さ・厚み cm	備考
169	20735		9M-1b	第9層	368落ち込 み	材	有孔板材	II	スギ	75	柾目	(39.3)	8.7	0.4~2.0	1.5~2.0cm角の孔
171	20749	92	8L-9i	第9層	331高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	65		(19.8)	0.7		短軸は径、樹皮残る
	20750	92	9L-1j	第9層	331高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	66		(19.3)	0.6		短軸は径、端部欠け
174	20774		9M-1b	第9層		農具	直柄狭鋏		アカガシ亜属	68	柾目	(24.3)	(6.8)	0.2~1.0	柄孔4.8×3.1cm、狭鋏か？
	20775	105	8M-9b	第9層		柱	柱		スギ	63	心持ち	(54.5)	13.2		短軸は径、臍穴あり
183	20809	92	9L-2i	第10層	441溝	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	64		17.7	0.6		短軸は径
	非掲載		9L-2i/2j	第10層	441溝	漁撈具	ヤス	I	モミ属	89		(18.4)	0.7		短軸は径
185	20826		9M-1a	第10層	445溝	農具	直柄狭鋏	I~II	アカガシ亜属	78	柾目	(16.0)	(5.0)	(3.0)	柄孔3.0×2.3~2.6cm
	20827		9M-1a	第10層	445溝	農具	鎌曲柄(鎌台部)	I~II	アカガシ亜属	77	柾目	(6.5)	(2.4)	5.0×2.65	長短軸は台部長 高さ・厚みは握り直径
192	20872	108	9M-2a	第10層	1014溝	農具	直柄鋏未成品		アカガシ亜属	80	板目	38.8	18.6	(1.4~2.6)	横鋏？
	非掲載		9M-1b/1c	第10層	951土坑	漁撈具？	浮子？	I~II	ヒノキ	69	不明				炭化、4片に破損
204	20900		8L-9i	第10層	444落ち込 み	材	有孔板材	II	ヒノキ	67	柾目	(38.3)	5.1~6.7	1.0	0.9×0.7cmの方形孔
	205	20909	92	第10層	442高まり内	漁撈具	ヤス	I~II	モミ属	70		13.7	0.7		短軸は径
209	20940		8M-10b	第10層		農具	直柄平鋏未成品		アカガシ亜属	72	板目	38.6	(18.4)	3.8	A形隆起紡錘形、柄孔なし
	20941		8M-10b	第10層		樹皮	樹皮			71	樹皮	約3.0	1.5	0.1~0.3	長軸は径、短軸は幅 ほぼ2周する
220	20964	110	8M-10b/他	第10-2層	1304ピット	柱	柱(大柱痕)		スギ	76	心持ち	(99.1)	19.0~ 22.3		短軸は径 下端に約10×8.5cmの方形孔
	20992		8L-9i	第11層	1017土坑	材	板材		ヒノキ			(18.8)	2.4	0.9	
230	20993		8L-9i	第11層	1017土坑	材	板材		ヒノキ			(27.0)	2.2	1.6	
	20994		8L-9i	第11層	1017土坑	材	板材		ヒノキ			35.0	3.2	2.3	
20996	20995		8L-9i	第11層	1017土坑	材	板材		ヒノキ			(31.2)	2.3	1.6	
	20997		8L-9i	第11層	1017土坑	材	板材		ヒノキ			(32.8)	2.6	2.6	
233	21001	110	9M-2a	第11層	1324土坑	農具	狭鋏	II	アカガシ亜属	79	板目	(22.5)	7.8	2.6	横鋏？
	21029		8M-10a	第11層	(中央部)	用途不明	板材		アカガシ亜属	84	柾目	20.0	12.4	0.9	鋤形だが溝すぎる
243	21030	111	8M-10a	第11層	(中央部)	容器	高杯脚部		ヤマグワ	81	横	23.9	(8.1)		長軸は径、杯部破損、一木造
	21031		8L-8+9i	第11層	(中央部)	杭？	杭？		スギ	87	柾目	(25.8)	2.0		短軸は径、先端削るがとがらず
21032		8L-8+9i	第11層	(中央部)	材	材	板材		スギ	86	板目	(23.7)	4.7	3.1	杓子未成品？

表59 03-1-2区 木器観察表(4)

図 番号	遺物 番号	写真	グリッド	出土層位	遺構	品目1	品目2	時期	樹種	樹種鑑 定番号	木取り	長軸 cm	短軸 cm	高さ・厚み cm	備考
249	21068	111	8L-8j	第11-2面	1398土坑	工具	斧膝柄未成品	I	サカキ	92	枝幹部	63.3	32.3×9.6	4.0	短軸は斧台長×幅、 高さ・厚みは握り直径、着柄角度 69.5°、斧台下部と握りに樹皮残る
	21069		8L-8j	第11-2面	1398土坑	用途不明	板材(容器?)	I	ケヤキ	94	柁目	(21.1)	(9.8)	約1.0	破片、木目緻密
252	21070		8L-8j	第11-2面	1398土坑	用途不明	板材(農具未成 品?)	I	アカガシ亜属	93	柁目	16.6	16.6	2.0	
	21071	66・112	8M-9b	第11-2面	1400土坑	用途不明	「垂飾」形木製品	I-3~4	広葉樹か?		柁目	6.3	5.6	2.6	漆塗付
253	21078		8M-9b	第11-2面	1400土坑	用途不明	加工棒	I-3~4	コナラ亜属		柁目	(24.6)	(4.7)	3.0	炭化、片側に6段の加工痕
	21079		8M-9b	第11-2面	1400土坑	用途不明	加工棒	I-3~4	不明		心持ち	(40.0)	(4.5)	2.5	一端に加工痕
256	21085	113	8M-9・10b	第11-2面	1404土坑	容器	高杯未成品	I	ヤマグワ	85	横	20.1	18.4~ 18.5	9.9~12.9	長軸は口径、短軸は裾径 外形のみで杯部作らず
	21092		8M-10a	第11-2層		匙	匙	I	ヤマグワ	90	横	(20.9)	(3.0)	7.8	破損、出土位置あり
258	21093		8M-10a	第11-2層		用途不明	農具or容器or杓 子?	I	ヤマグワ	91	柁目	(15.9)	18.0	2.8	
	21095		8L-10h/他	第11-3層		用途不明	有孔板材		ヒノキ	88	板目	11.2	5.6	2.8	楕円形、端部に径1.5cmの孔 浮子か?
260	21100		8M-9a	第12面	1406土坑	農具	鍬未成品	I-1~2	アカガシ亜属	83	柁目	(10.8)	(5.0)	(3.9)	孔なし
	21101	114	8M-9a	第12面	1406土坑	容器?	高杯未成品?	I-1~2	ケヤキ	82	横	33.2	29.0	18.0	長軸は口径、短軸は底径 脚部1/3割れ
267	21104		9M-2a	第13層		杭	杭		カヤ	95	柁目	(31.5)	2.9	1.8~3.4	先端をつくる
	21124		8M-9a/9b	第5層 以下		農具	鍬先		アカガシ亜属	35	柁目	(20.8)	(12.6)	4.4	A型隆起部のみ残存
270	21125		8M-9a/9b	第5層 以下		農具?	農具?(鍬・鋤の 肩部?)		アカガシ亜属	34	柁目	(22.2)	(12.0)	(1.4)	欠損、孔か欠けか不明な部分あり
	21126	114	8L-10i	第6~8層		材	把手?		ヒノキ	28	柁目	56.8	2.7~3.9	1.9~5.0	焦げ痕あり 径5mm・深さ1cmの留め孔×2
21127	21127		9M-2b	第7~11 層		材	板材		スギ	32	柁目	(53.4)	(4.2)	1.6	板状、木釘残存
	21128	92	南側溝	第6層 以下		漁撈具	ヤス		モミ属	27		(12.8)	0.6		短軸は径
21129			西側溝	第6層 以下		用途不明			カヤ	26	心持ち	9.0×7.9		8.3	長軸は径、コマ状

表60 03 - 1 - 3 区 木器観察表

図 番号	遺物 番号	写真	グリッド	出土層位	遺構	品目1	品目2	時期	樹種	樹種鑑 定番号	木取り	長軸 cm	短軸 cm	高さ・厚み cm	備考
298	30086		9M-5b	第10面	1407溝	用途不明	未成品?	I~II	スギ	98	半材	(28.8)	7.2	5.0	原木の木心側に稜痕
	30087		9M-5b	第10面	1407溝	材	加工板材	I~II	スギ	97	桁目	43.4	(5.0)	2.0	両小口に段をつくる
299	30090		9M-4・5c	第10面	1409溝	容器	台付合子身	I~II	ヤマグワ	101	横	(16.5)		12.0	長軸は底径、平面形は楕円
	30091	129	9M-4・5c	第10面	1409溝	容器	高杯杯部	I~II	ヤマグワ	99	横	(21.0)		(5.0)	長軸は口径 水平口縁、組み合わせ式か?
	30092		9M-4・5c	第10面	1409溝	容器	高杯脚部	I~II	ヤマグワ	100	横	(22.4)		(2.4)	長軸は底径、上記と同一個体か?

表61 05 - 1 - 1 区 木器観察表

図 番号	遺物 番号	写真	グリッド	出土層位	遺構	品目1	品目2	時期	樹種	樹種鑑 定番号	木取り	長軸 cm	短軸 cm	高さ・厚み cm	備考
339	40037		8M-6a	第10面	2073ピット	杭	杭		スギ	103	心持ち	(33.4)	12.2		ほぼ原木
340	40046		8M-6a	第11面		用途不明	有孔板材		ヤマグワ	102	桁目	(6.4)	(4.0)	1.6	1.5cm角の孔があく 浮子? 容器の把手?

写 真 图 版

- 写真图版 1～ 7 03 - 1 - 1 区遺構 (1)～(7)
写真图版 8～ 13 03 - 1 - 1 区遺物 (1)～(6)
写真图版 14～ 71 03 - 1 - 2 区遺構 (1)～(58)
写真图版 72～114 03 - 1 - 2 区遺物 (1)～(43)
写真图版115～123 03 - 1 - 3 区遺構 (1)～(9)
写真图版124～133 03 - 1 - 3 区遺物 (1)～(10)
写真图版134～139 05 - 1 - 1 区遺構 (1)～(6)
写真图版140～142 05 - 1 - 1 区遺物 (1)～(3)
写真图版143・144 05 - 1 - 2 区遺構 (1)・(2)



第1面 (西から)



第1面 (東から)



第2面 (西から)



第2面 (東から)



第3面 (西から)



第3面 (東から)



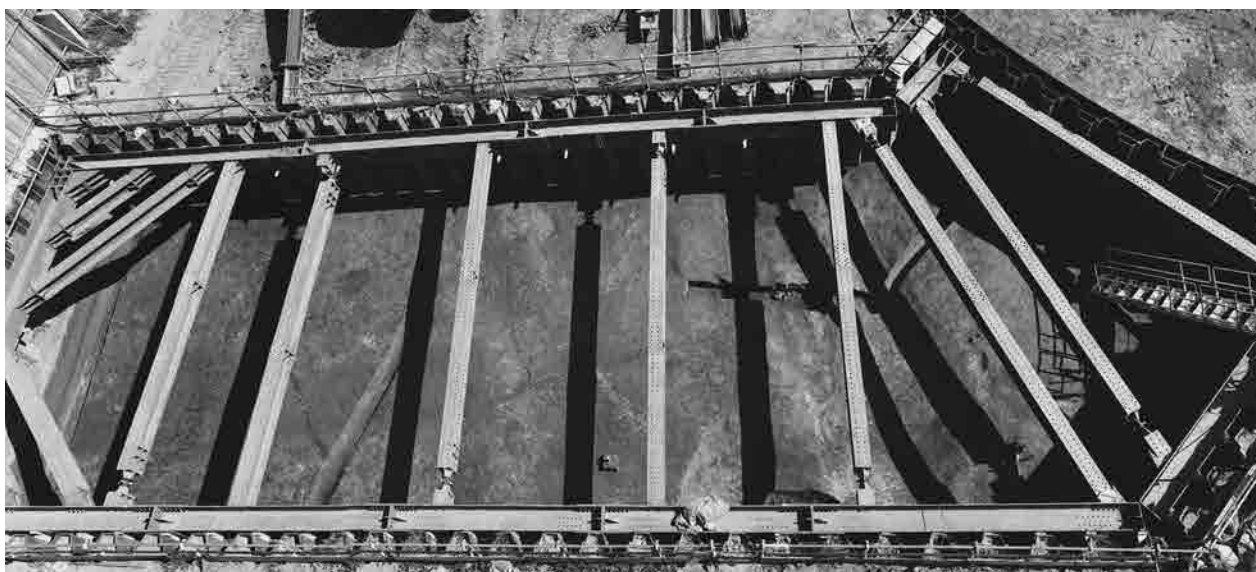
第3層中板材（10009・10010）出土状況（北東上方から）



第3層中板材（10009・10010）出土状況（南東から）



第4面（北から）



第5面（北から）



第6面(北から)



第6面20大溝土器出土状況(南東から)



第6面22溝周辺(北から)



第7面(北から)



第8面 (北から)



第8面土器 (10083) 出土状況 (西から)



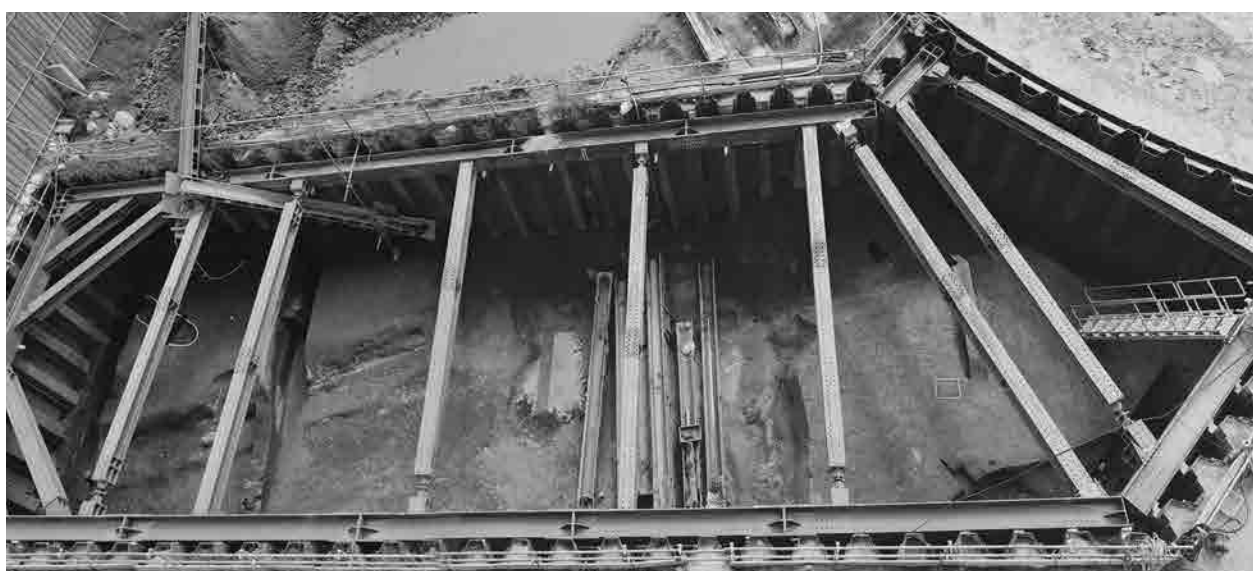
第8面61溝土器 (10084) 出土状況 (北西から)



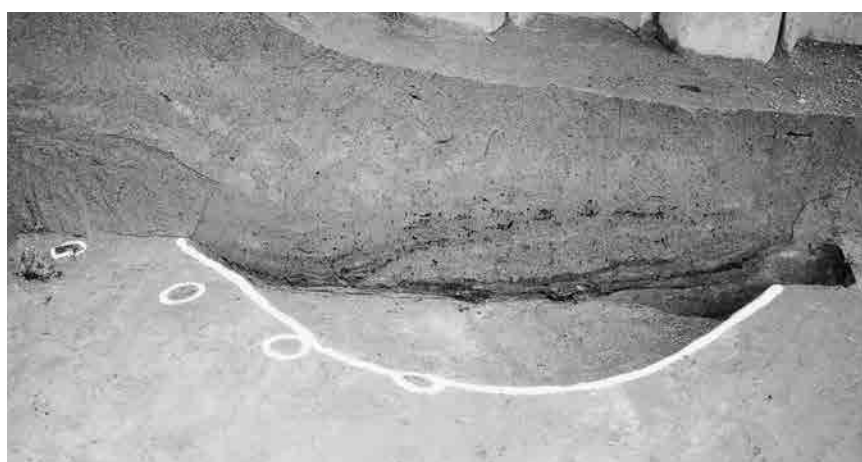
第8面61溝断面 (東北東から)



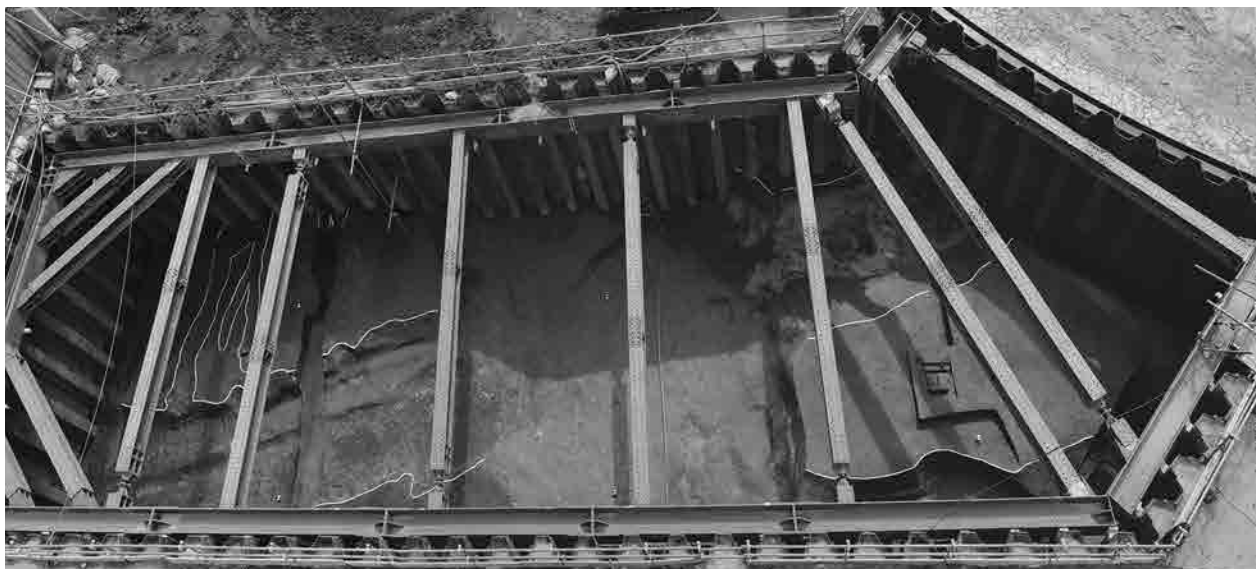
第9面 (北から)



第10面 (北から)



第10面127土坑、1502杭群 (北から)



第11面 (北から)



第11層土器 (10102) 出土状況 (南から)



第11 - 2面171溝状落ち込み土器 (10103) 出土状況 (東から)



第11 - 2面〔西半〕・第12面〔東半〕 (北から)



第11 - 3面〔西半〕・第13面〔東半〕（北から）



西辺第8～11層断面（北東から）



北辺第8～13層断面（南東から）



北辺第8～13層断面（南西から）



東辺第8～13層断面（西から）



10001

第1層出土遺物



10002



10004

第2層出土土器

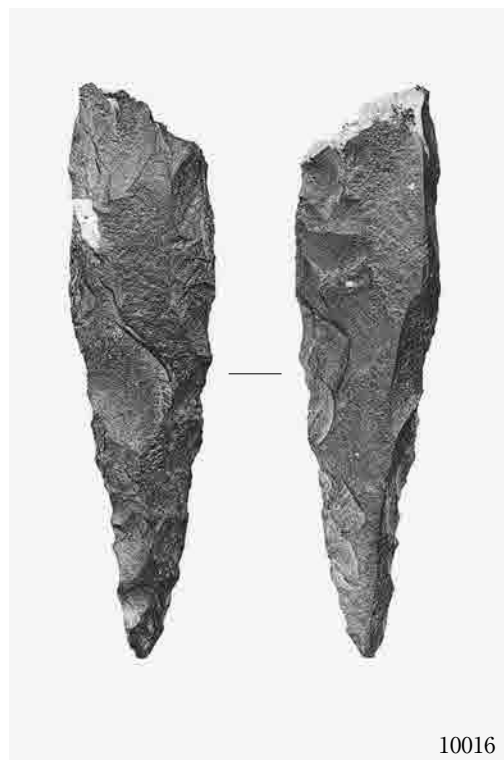


10006

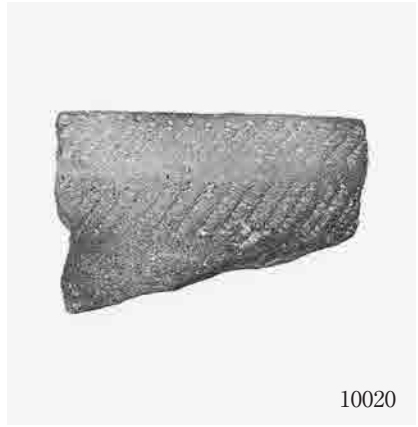
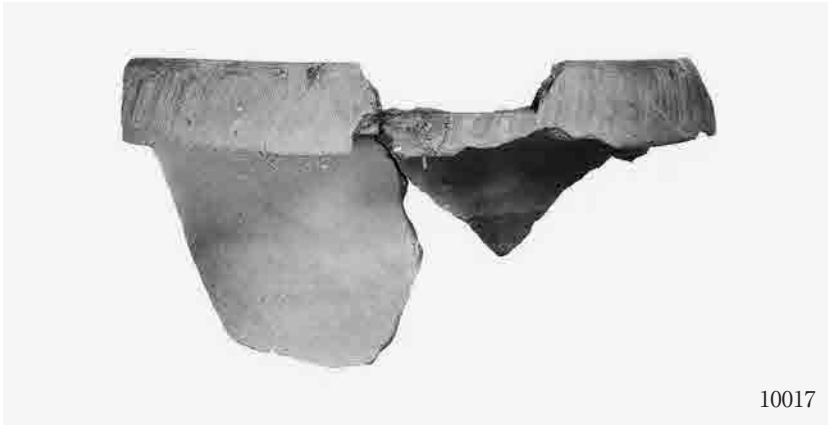


10014

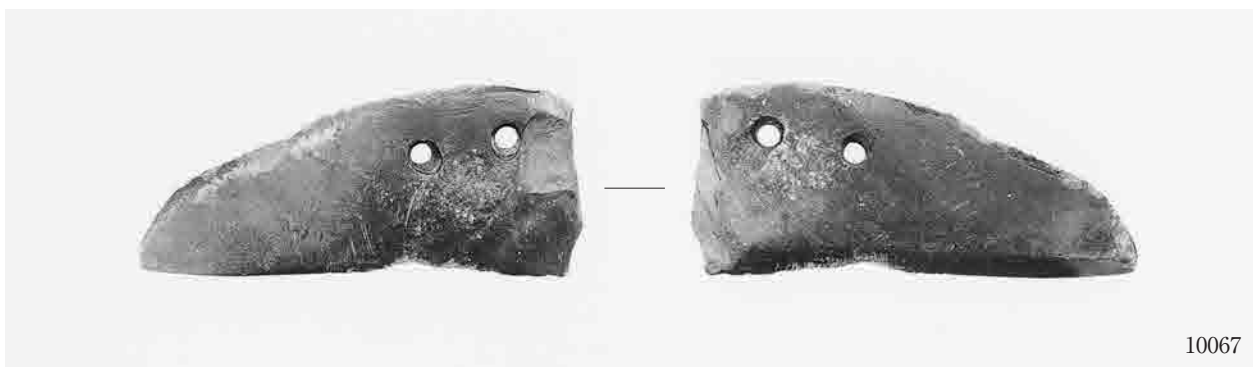
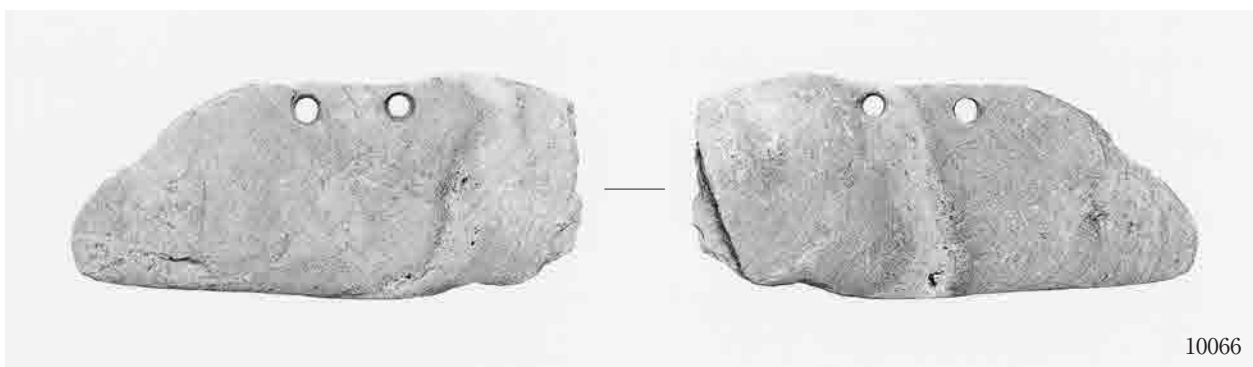
第5層出土遺物



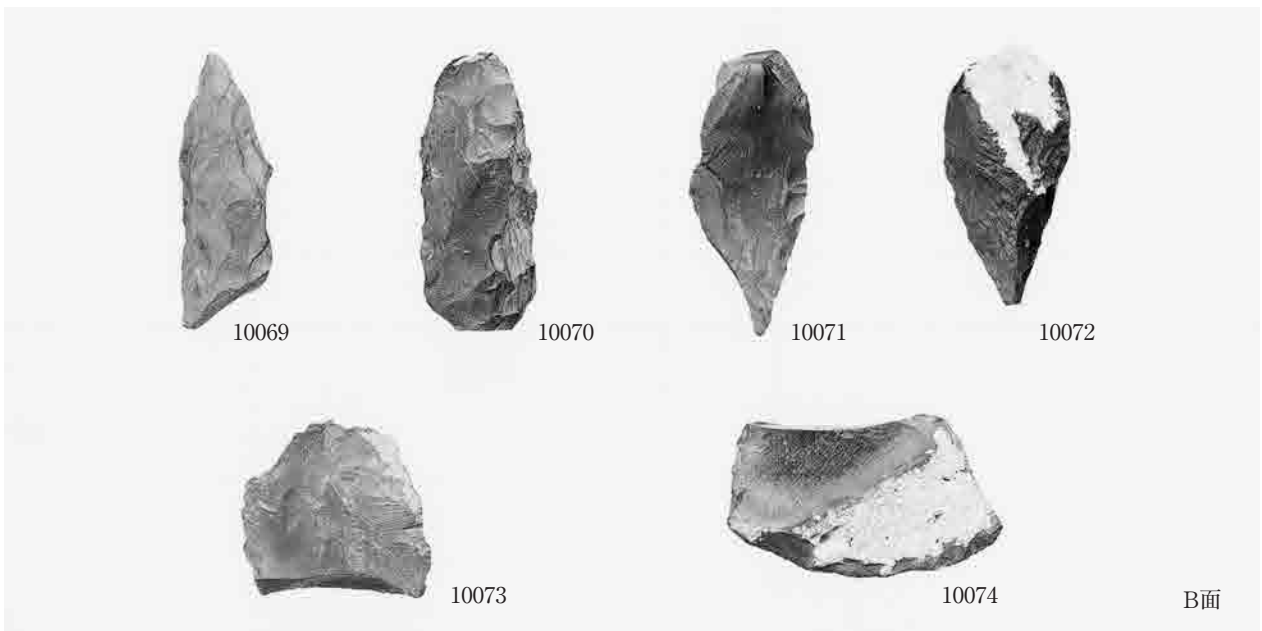
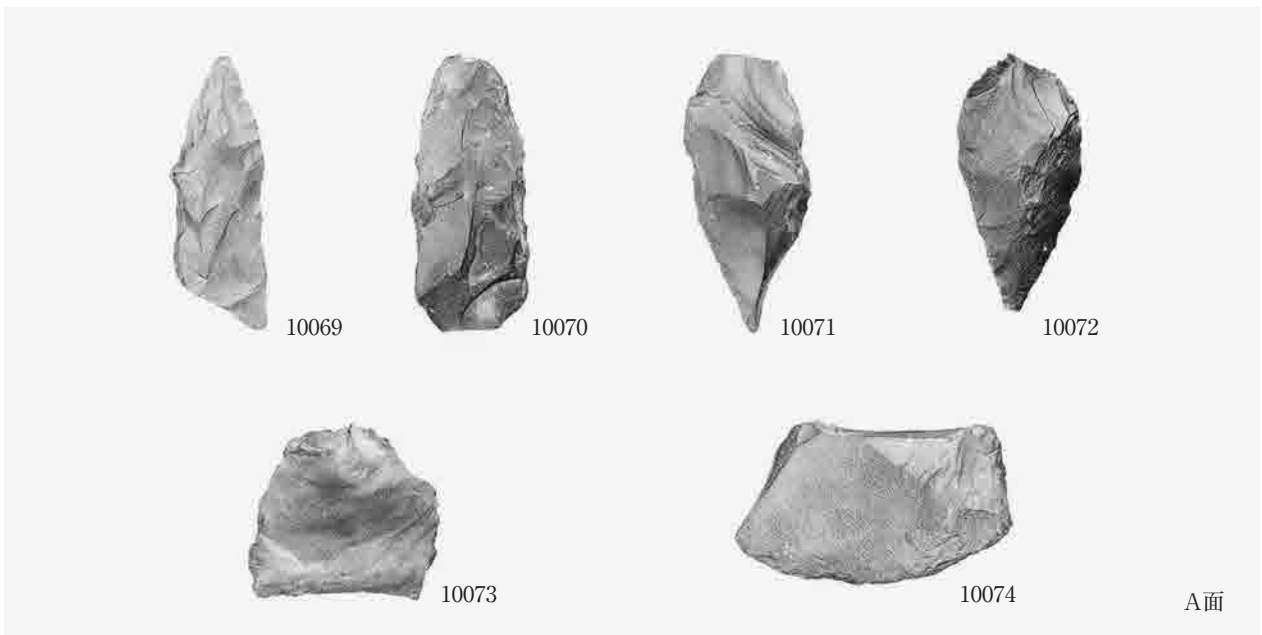
10016



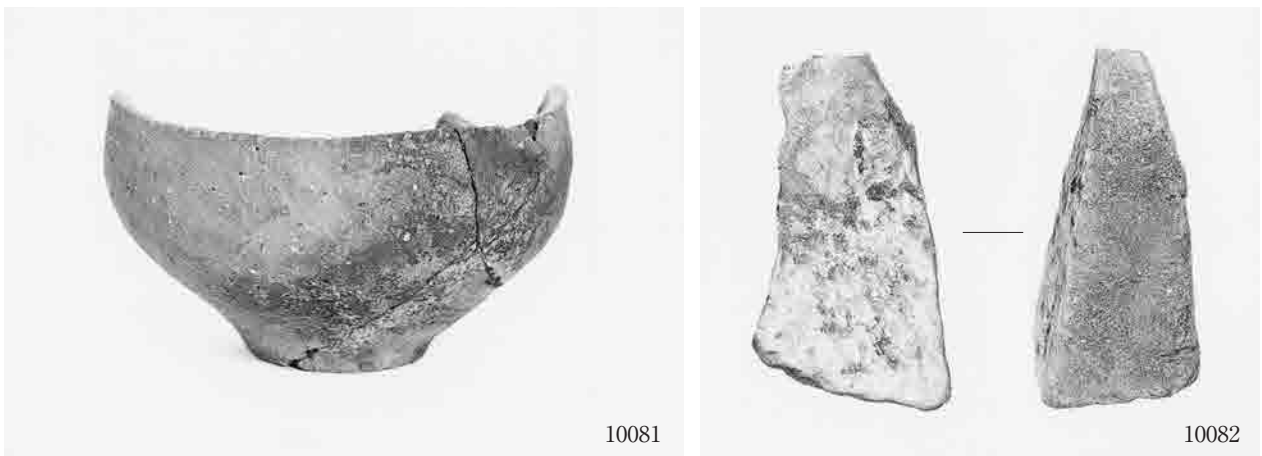
第6面20大溝出土遺物(1)



第6面20大溝出土遺物(2)



第 6 面 20 大溝出土遺物 (3)



第 6 層出土遺物



10080

第6面22溝出土木器



10083

第8面出土土器



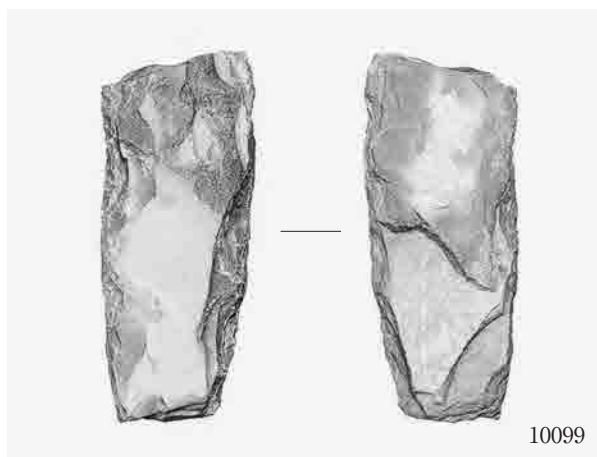
10084

第8面61溝出土土器



10087

第8層出土土器



10099

第10層出土石器



10100

第11面160落ち込み出土土器



10101

第11面165溝状落ち込み出土土器



10102

第11層出土土器



10103

第11 - 2面171溝状落ち込み出土土器



第1面東半（北北東から）



第1面西半（北北西から）



第1面 (北東から)



第1面北部の溝群、石群 (東から)



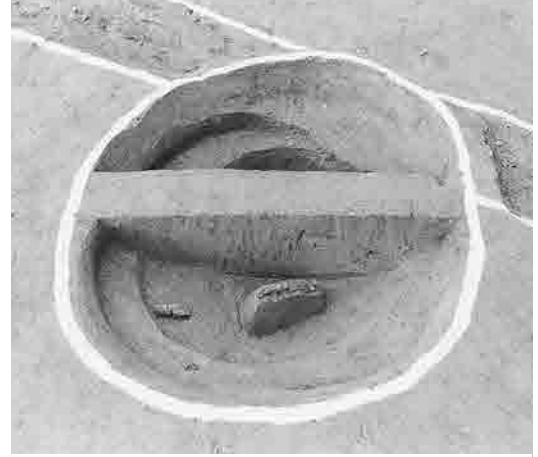
第2面東半（北北東から）



第2面西半（北北西から）



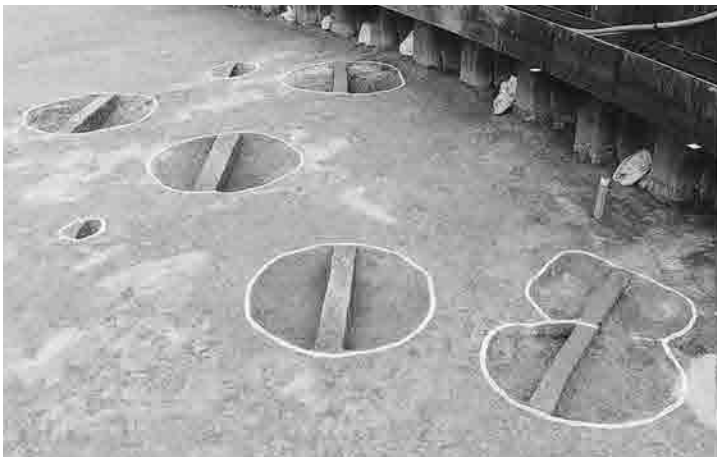
第2面101・102土坑(南から)



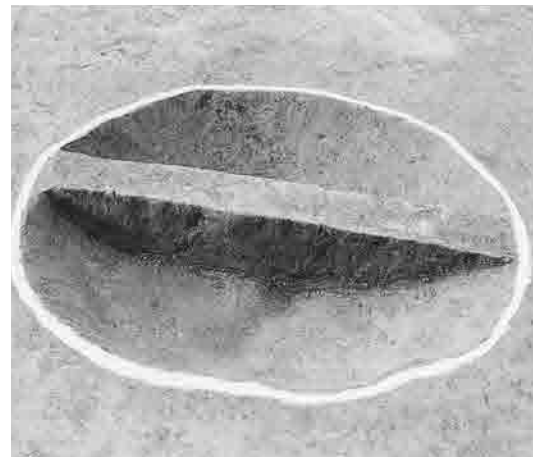
第2面101土坑(南から)



第2面109~115土坑(北から)



第2面109~115土坑(西から)



第2面113土坑(南から)



第3面東半 (北北東から)



第3面西半 (北北西から)



第4面東半（北北東から）



第4面西半（北北西から）



第4面176溝木出土状況 (南から)



第4面176溝断面 (南から)



第4面187溝 (南西から)



第5面東半 (北北東から)



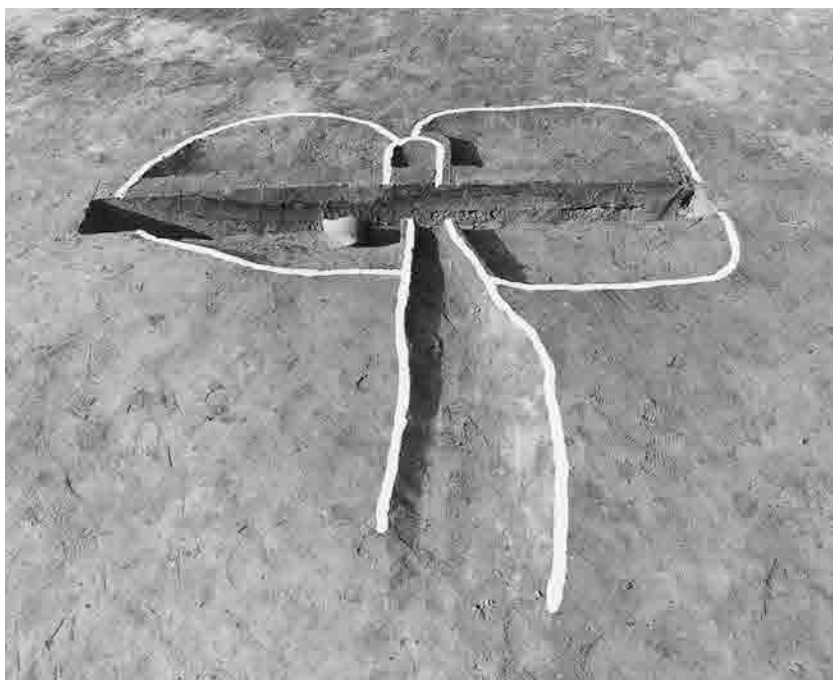
第5面西半 (北北西から)



第5面打製石剣(20036)
出土状況(南から)



第5面223・224溝(北東から)



第5面208溝、209土坑(南南東から)



第6面 (北北東から)



第6面 (北北西から)



第6面252大溝横断面 (東から)



第6面252大溝横断面北部 (西から)



第6面252大溝横断面南部 (西から)



第6面252大溝縦断面西側 (南東から)



第6面252大溝縦断面東側 (南から)



第6面252大溝（東北東から）



第6面252大溝（西南西から）



第6面252大溝西半
(北東から)



第6面252大溝
277・278杭群 (南上方から)



第6面252大溝
277・278杭群 (南東から)



第6面252大溝土器(20073)出土状況(南から)



第6面252大溝土器(20072)出土状況(南から)



第6面252大溝
土器(20375)出土状況(南から)



第6面252大溝
土器(20370)出土状況(南から)



第6面252大溝
土器出土状況(北から)



第6面247溝土器(20406)出土状況(南から)



第5層(第6面418溝)土器(20058)出土状況(南から)



第7面東半（北北東から）



第7面西半（北北西から）



第 8 面 (北北東から)



第 8 面 (北北西から)



第8面全景 (南東から)



第8面全景 (西から)



第 8 面323木棺蓋板検出 (北から)



第 8 面323木棺蓋板検出 (南西から)



第 8 面323木棺蓋板上セクションベルト (南南東から)



第 8 面323木棺蓋板上
セクションベルト (東北東から)



第 8 面323木棺蓋板上
セクションベルトとサブトレンチ (南南東から)



第 8 面323木棺北のサブトレンチ (東北東から)



第8面323木棺蓋板（南南東から）



第8面323木棺蓋板（西南西から）



第8面323木棺蓋板除去（南南東から）



第8面323木棺底板上断ち割り（南南東から）



第8面323木棺底板上断ち割り（東北東から）



第8面323木棺底板 (南南東から)



第8面323木棺底板 (東北東から)



第8面323木棺底板上人骨出土状況 (南南東から)



第8面291土坑 (南から)



第8面300土坑 (南から)



第8面302土坑遺物出土状況 (西から)



第8面302土坑遺物出土状況 (南から)



第8面305ピット半掘 (西から)



第8面306ピット半掘 (西から)



第9面 (北北東から)



第9面 (北北西から)



第9面329高まり上
土器(20569)出土状況(南から)



第9面329高まり上
土器(20567)出土状況(南から)



第9面331高まり上
土器(20568)出土状況(南から)



第9面1397溝(南から)



第9面1397溝骨等出土状況(南から)



第9面1397溝骨等出土状況(西から)



第9面1397溝木製高杯(20640)出土状況(南から)



第9面324木棺検出 (南南東から)



第9面324木棺棺内半掘 (南南西から)



第9面324木棺棺内完掘 (南南西から)



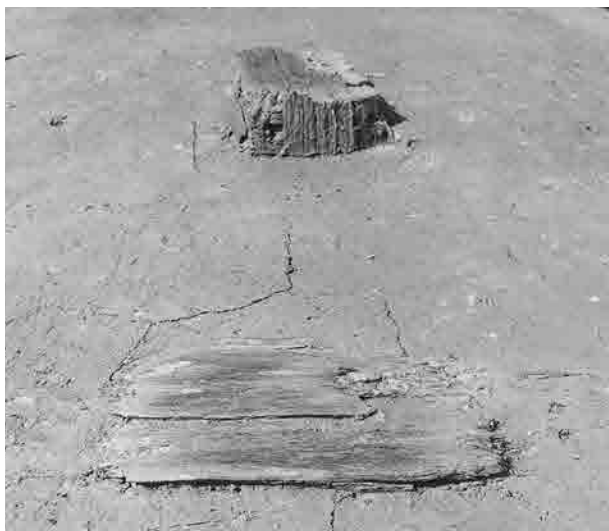
第9面324木棺棺材取り上げ (南南西から)



第9面325木棺棺内、掘りかた半掘 (西から)



第9面325木棺棺内、掘りかた完掘 (南から)



第9面367木棺検出、奥は324木棺（東北東から）



第9面367木棺棺内半掘（南西から）



第9面367木棺棺内完掘（西南西から）



第9面367木棺掘りかた半掘（南東から）



第9面367木棺底板下精査（南東から）



第9層中420木棺検出（東から）



第9層中420木棺棺内、掘りかた半掘（北東から）



第9層中420木棺棺内、掘りかた完掘（西から）



第9層中420木棺完掘（南から）



第9層中420木棺断ち割り（南から）



第9面421木棺検出（北東から）



第9面421木棺検出（東から）



第9面421木棺北東小口板（北北東から）



第9面421木棺南東側板（南東から）



第9面421木棺蓋板除去（東から）



第9面421木棺棺内掘りかた半掘（東から）



第9面421木棺棺内完掘(東から)



第9面421木棺底板除去(東から)



第9面421木棺小口穴検出(東から)



第9面422木棺(東から)



第9層中423木棺検出(北から)



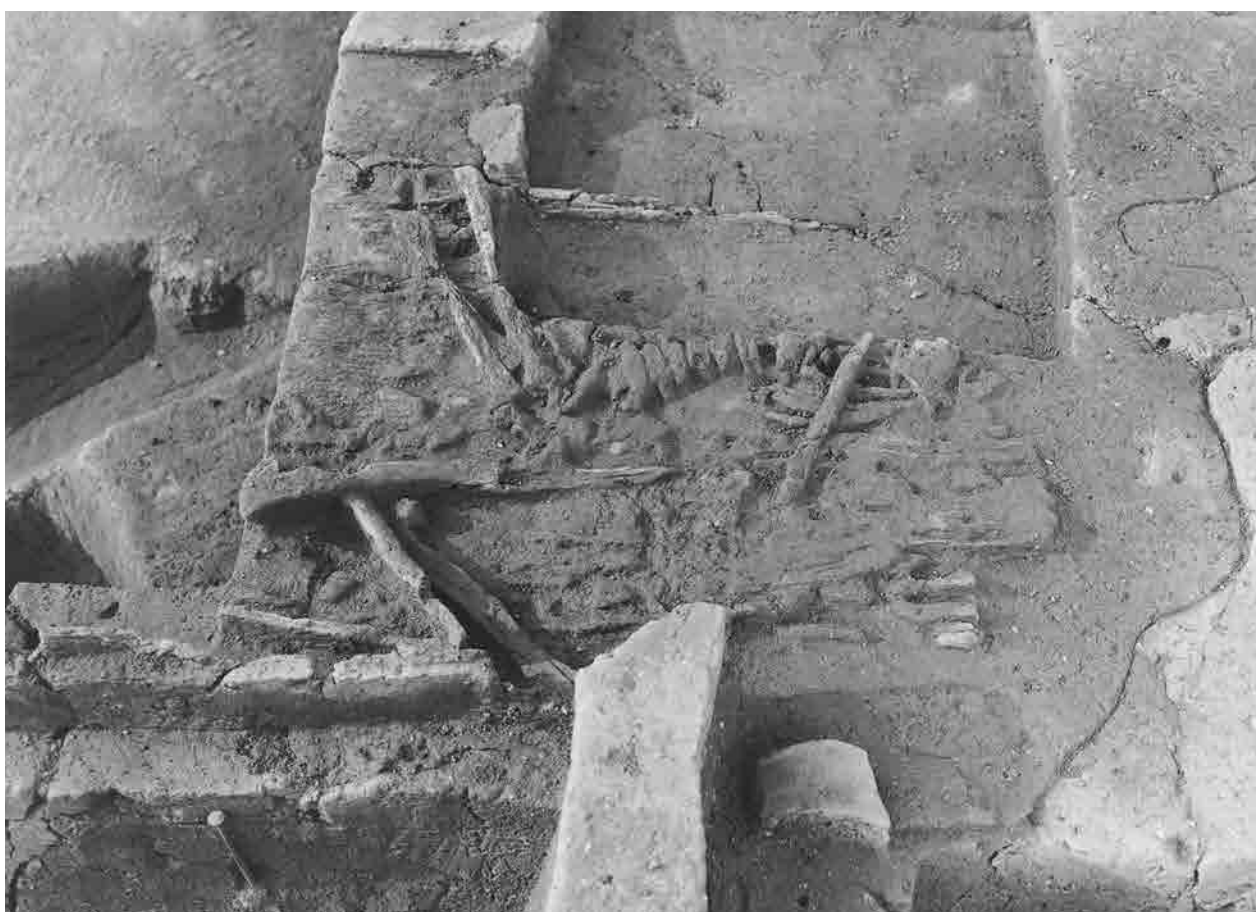
第9層中423木棺掘りかた精査(北から)



第9面424木棺検出 (西から)



第9面424木棺棺内半掘 (北西から)



第9面424木棺人骨出土 (南から)



第9面424木棺人骨出土（北から）



第9面424木棺完掘（北から）



第9層中425木棺検出、上方は第9面424木棺（北から）



第9層中425木棺（北北西から）



第9層中426木棺検出（西南西から）



第9層中426木棺棺内半掘（南西から）



第9層中426木棺棺内・掘りかた完掘（南西から）



第9層中426木棺底板除去・小口穴検出（南西から）



第9層中426木棺底板下断ち割り（南南東から）



第9層中427木棺検出 (西南西から)



第9層中427木棺断ち割り (南南西から)



第9層中428木棺検出 (南から)



第9層中428木棺 (南東から)



第9層中428木棺遺物出土状況 (南東から)



第9層中429木棺検出（西から）



第9層中429木棺棺内半掘、掘りかた断ち割り（西から）



第9層中429木棺棺内、掘りかた完掘（北東から）



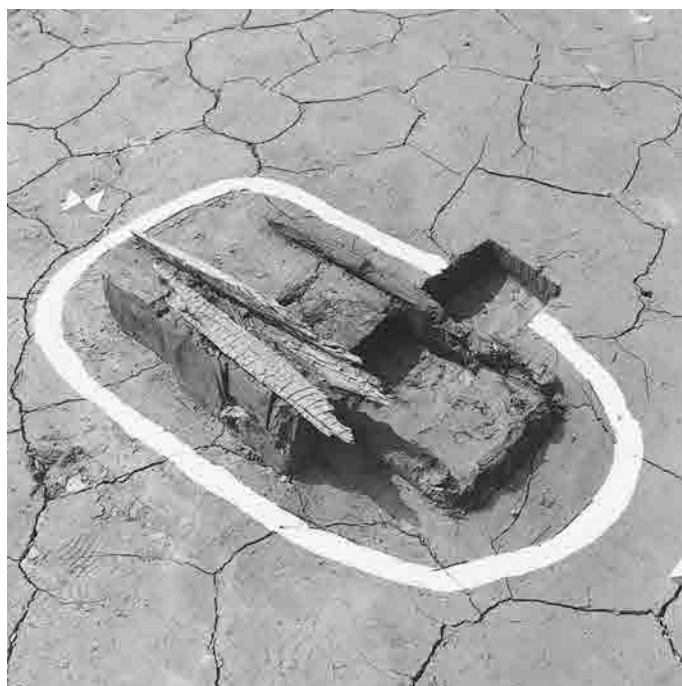
第9層中429木棺底板除去、小口穴検出（北東から）



第9層中429木棺小口板（南西から）



第9層中430木棺検出(北西から)



第9層中430木棺(東から)



第9層中430木棺底板下断ち割り(南から)



第9層中430木棺断ち割り(南東から)



第9面332土坑(西南西から)



第9面334落込み土器(20727)出土状況(南から)



第10面 (北北東から)



第10面 (北北西から)



第10面 (南南西から)



第10面 (西から)



第10面 (西北西から)



第10面446高まり上面 (東北東から)



第10面443溝 (南西から)



第10面443溝 (東から)



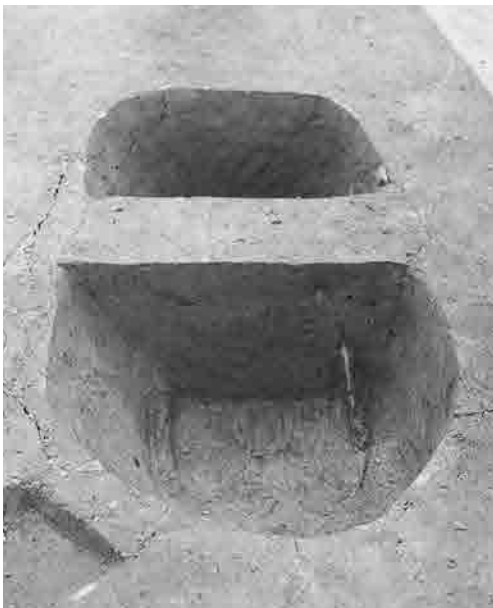
第10面1430溝 (北西から)



第10面1430溝 (北から)



第10面1430溝 (西から)



第10面431木棺断面（北から）



第10面431木棺人骨出土状況（東から）



第10面431木棺棺内完掘（西から）



第10面431木棺完掘（西から）



第10面1051石群（北から）



第10面1051石群（南西から）



第10面456土坑 (西から)



第10面585土坑 (北から)



第10面657土坑 (西から)



第10面762土坑 (西北西から)



第10面831土坑 (南から)



第10面951土坑木上層 (北東から)



第10面951土坑木上層南東部 (北西から)



第10面951土坑木上層西部 (北東から)



第10面951土坑木下層 (東から)



第10面951土坑木上層北部 (北北西から)



第10面951土坑完掘 (東から)



第10-2面南高台 (北東から)



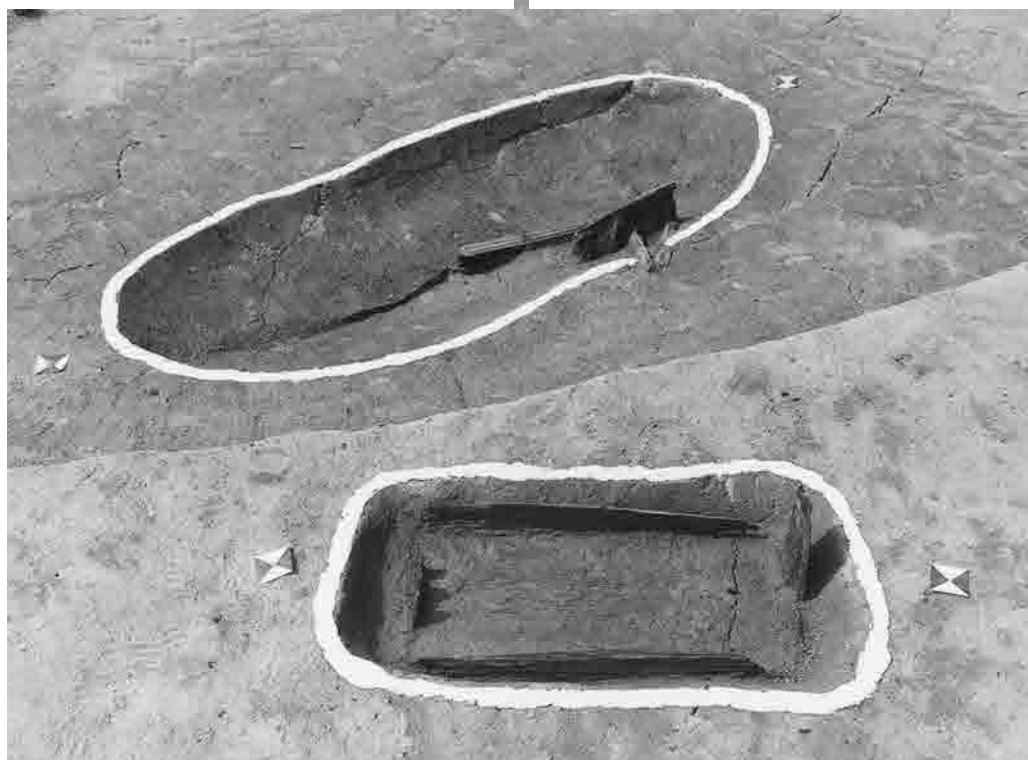
第10-2面南高台 (西南西から)



第10 - 2面1016木棺、
第11面1017土坑検出（南東から）



第10 - 2面1016木棺半掘（南南西から）



第10 - 2面1016木棺棺内完掘、第11面1017土坑（南南東から）



第10 - 2面1016木棺底板取り上げ（南南東から）



第10 - 2面1016木棺完掘（南南東から）



第10-2面1029溝周辺（東北東から）



第10-2面1282土坑周辺（北東から）



第10-2面南東部（南西から）



第10 - 2面1216土坑 (東から)



第10 - 2面1274土坑 (北東から)



第10 - 2面1282土坑半掘 (東から)



第10 - 2面1282土坑完掘 (北から)



第11面北半 (東から)



第11面北半 (西南西から)



第11面南半（東北東から）



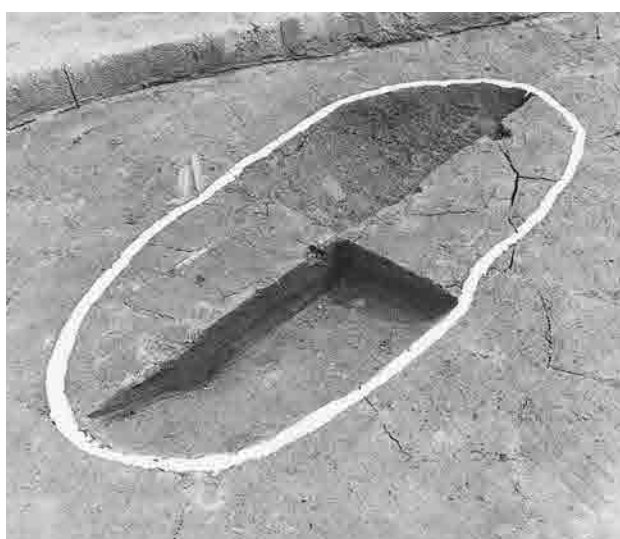
第11面南半（西北西から）



第11面南半 (北北西から)



第11面1018木棺検出状況 (南南東から)



第11面1017土坑半掘 (北から)



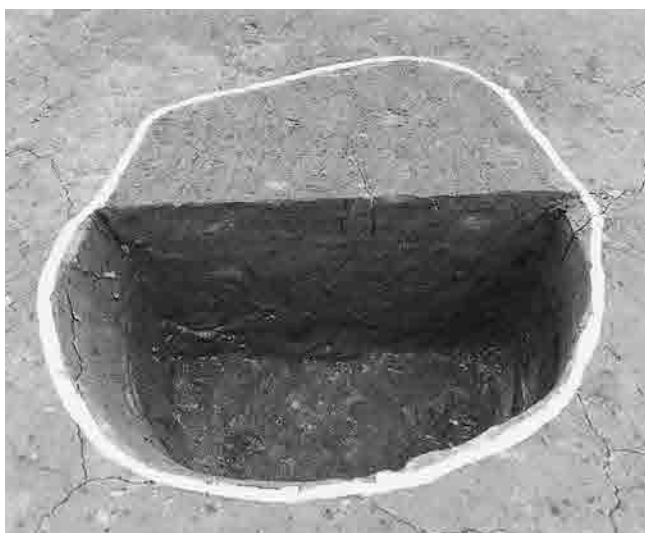
第11面1017土坑 (北から)



第11面1324土坑 (南から)



第11面1324土坑遺物出土状況 (南西から)



第11面1323土坑半掘 (南から)



第11面1326土坑 (南から)



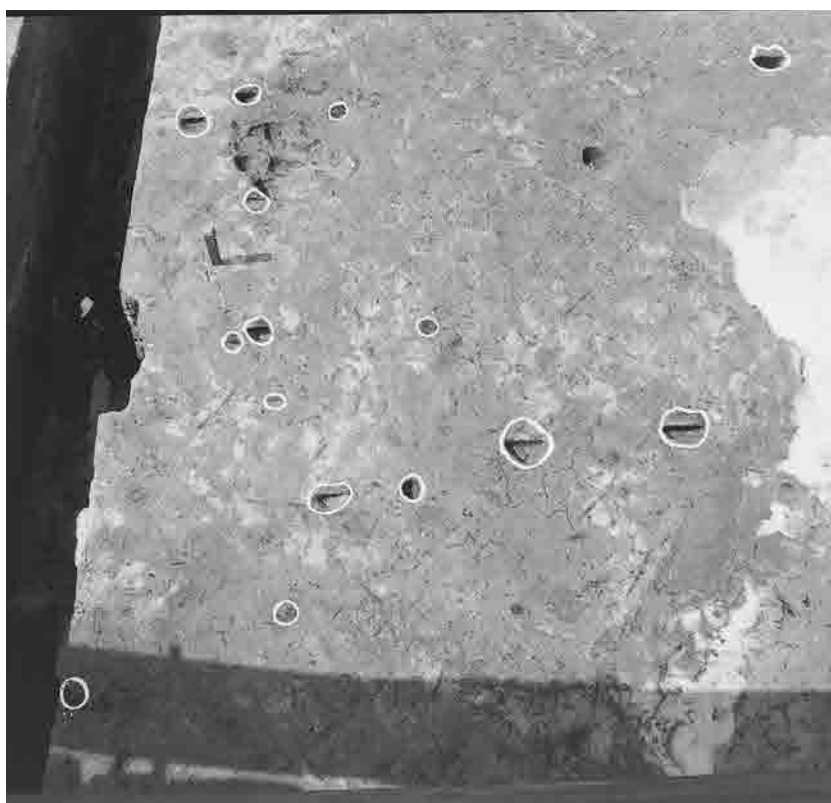
第11面1374土坑 (南西から)



第11面1352ピット (南から)



第11面南東部のピット群 (西から)



第11面1357~1373ピット
(南上方から)



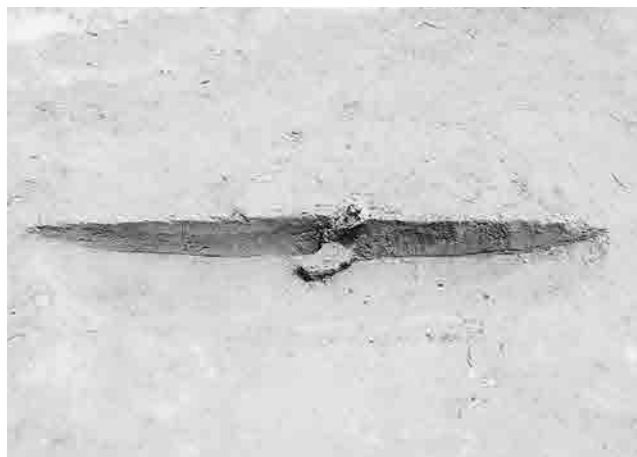
第11-2面北半 (東から)



第11-2面北半 (西から)



第11 - 2面1398土坑遺物出土状況 (南から)



第11 - 2面1399土坑半掘 (南から)



第11 - 2面1400土坑一部掘り下げ (北から)



第11 - 2面1400土坑「垂飾」形木製品出土状況 (北から)



第11 - 2面1400土坑半掘 (東から)



第11 - 2面1400土坑掘り下げ
(北西から)



第11 - 2面1400土坑遺物出土状況 (北から)



第11 - 2面1400土坑完掘 (北から)



第11 - 2面1402土坑半掘 (南南東から)



第11 - 2面1402土坑完掘 (南南東から)



第11 - 2面1404土坑半掘 (南から)



第11 - 2面1404土坑完掘 (南から)



第11 - 2面1405土坑半掘 (南南東から)



第11 - 2面1405土坑完掘 (南南東から)



第11 - 3面北半 (東から)



第11 - 3面北半 (西から)



第12面 (北北東から)



第12面 (北北西から)



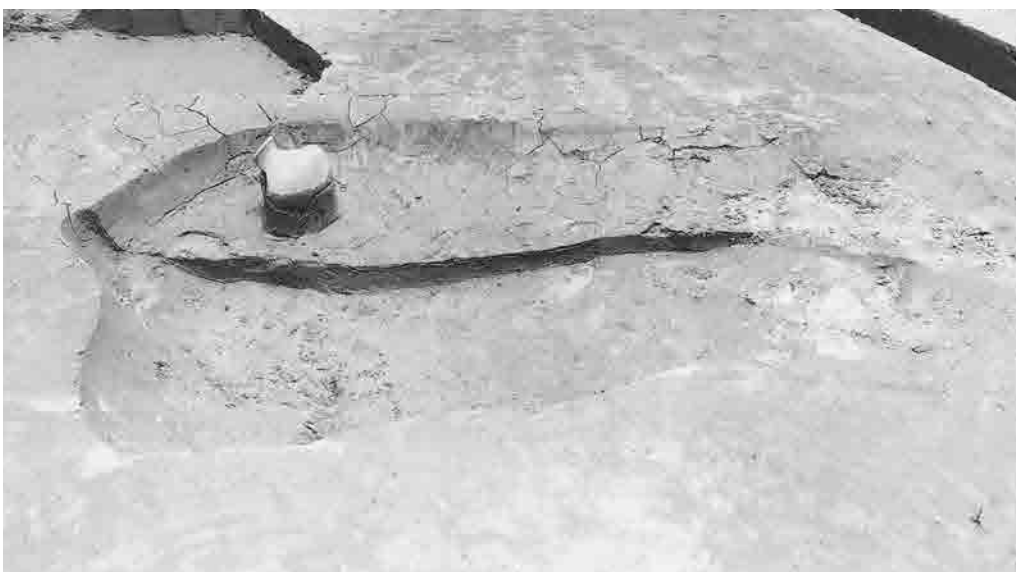
第12面1406土坑検出（南から）



第12面1406土坑遺物出土状況（南から）



第12面1406土坑半掘（南南西から）



第12面1406土坑完掘（南南西から）



第13面 (北北西から)



第13面 (北東から)



20001



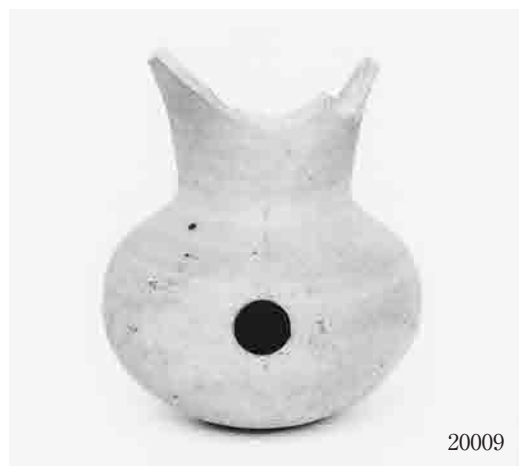
20002



20003



20004



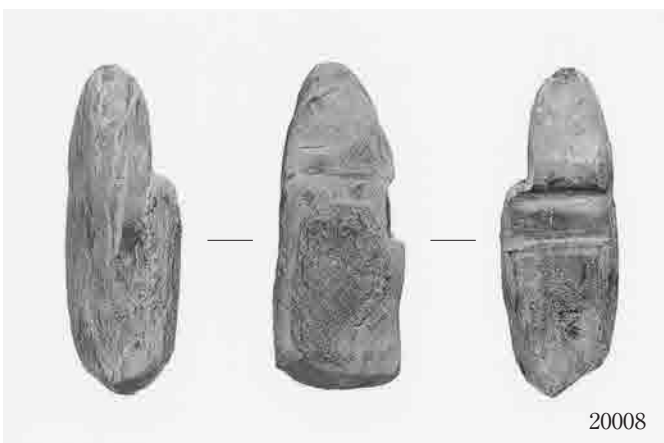
20009



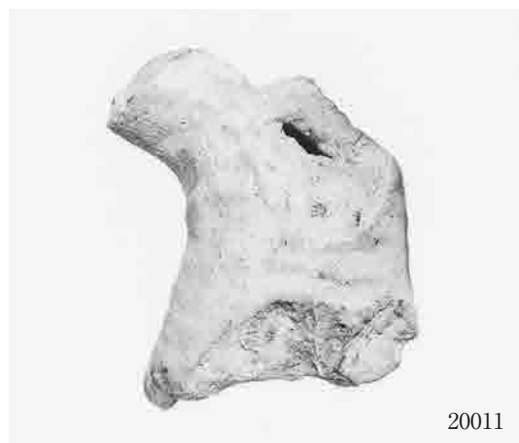
20005



20010



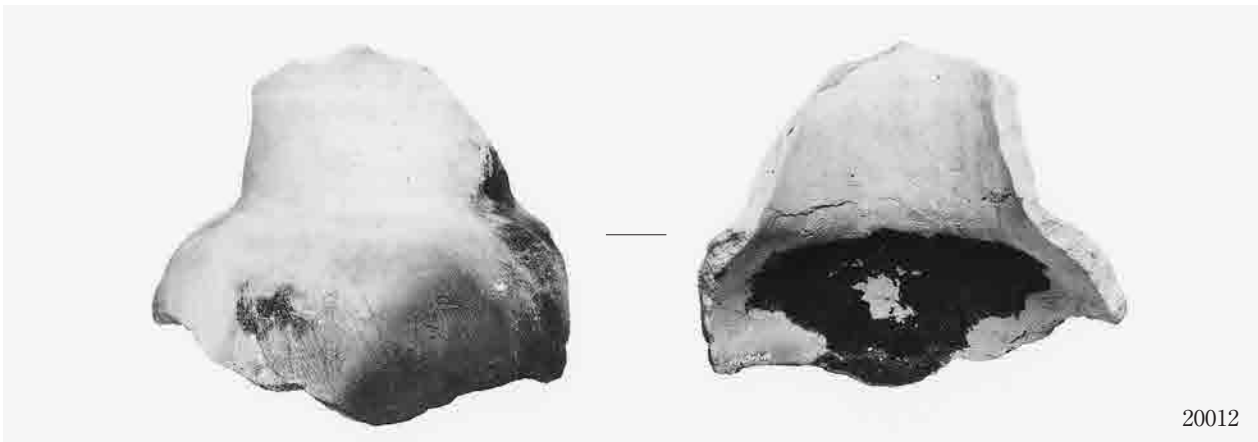
20008



20011

第0層出土遺物

第1層出土土器



20012



20013

第3層出土土器



20024



20031

第4面185溝出土土器



20028

第4面176溝出土土器



20033

第4層出土土器



20035



20036



20037

第5面出土遺物



20046



20049



20047



20056



20054

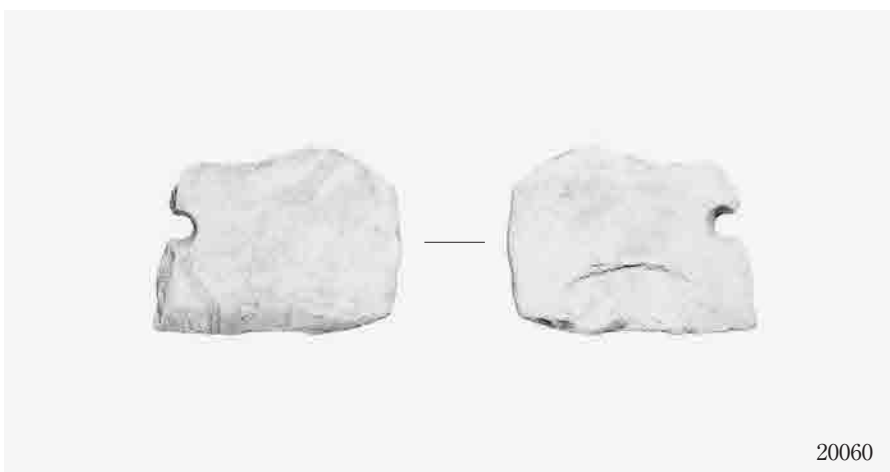
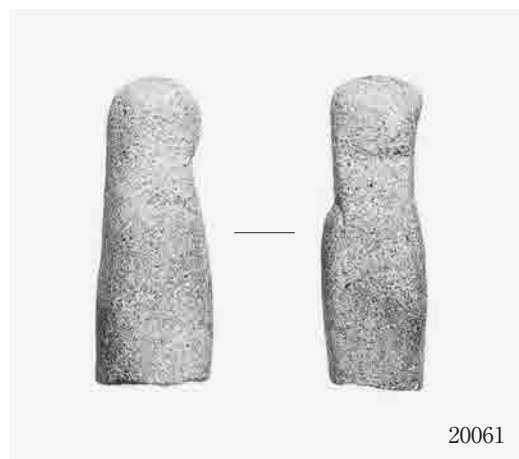


20055

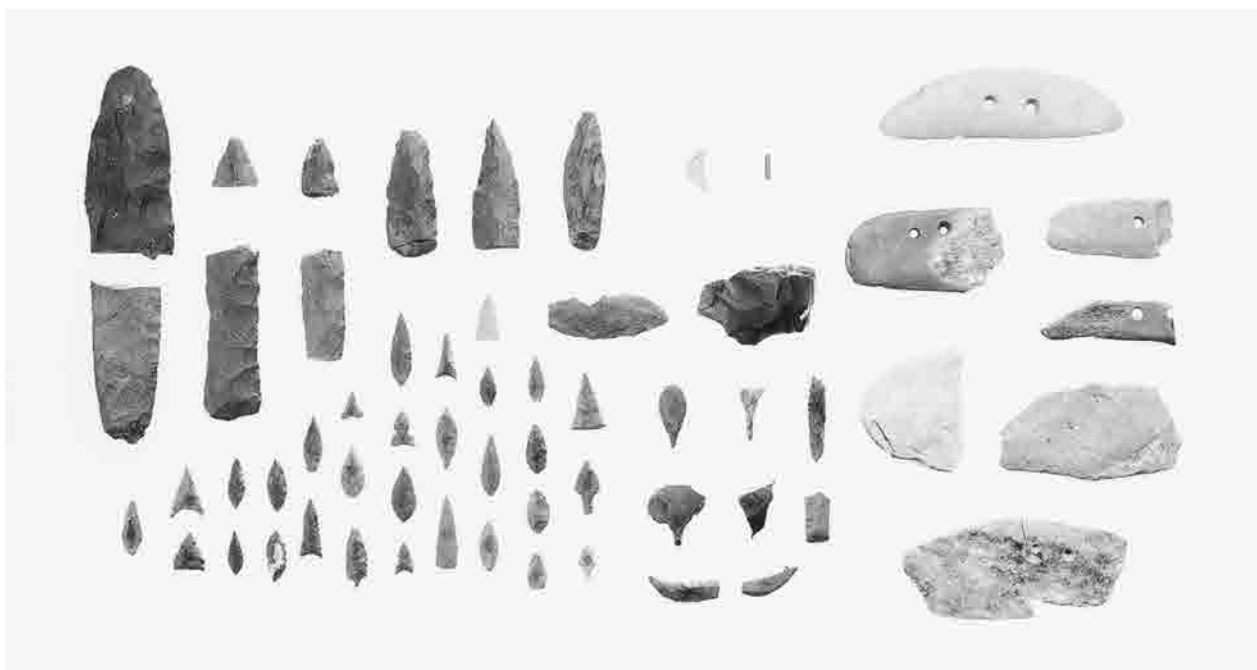


20057

第5層出土遺物 (1)



第5層出土遺物(2)



第 6 面 252 大溝出土遺物



頸部内面

炭化物拡大

20072



20073



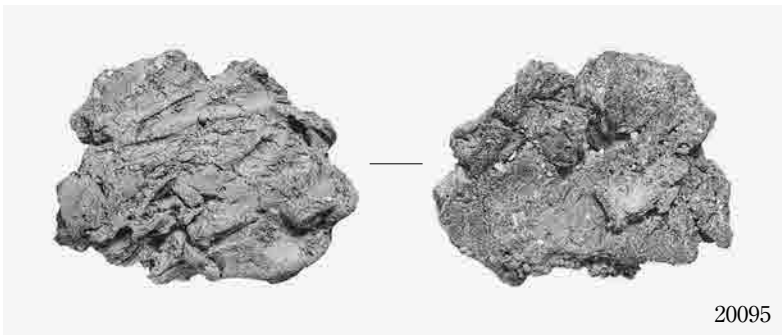
20075



20080



20089



20095

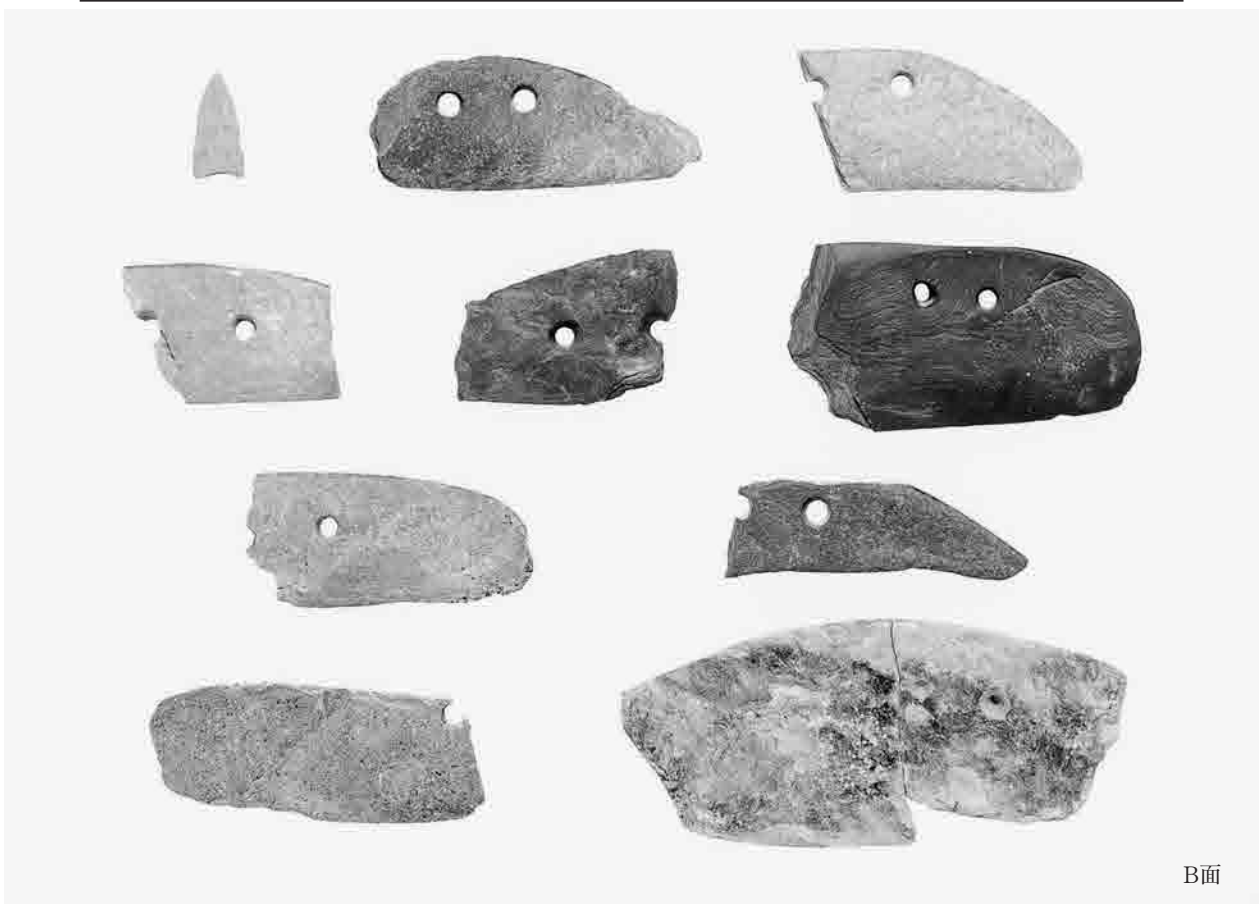
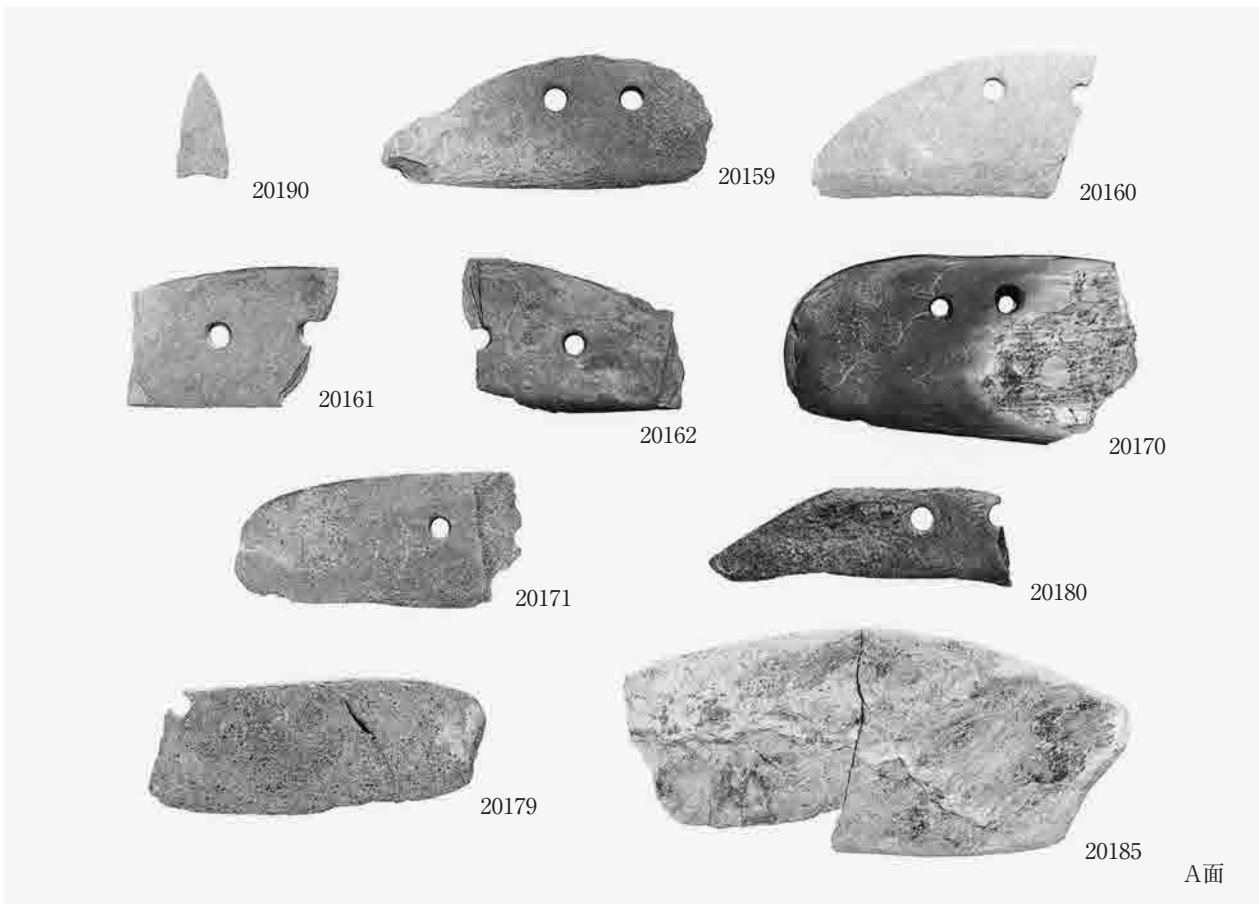


20098

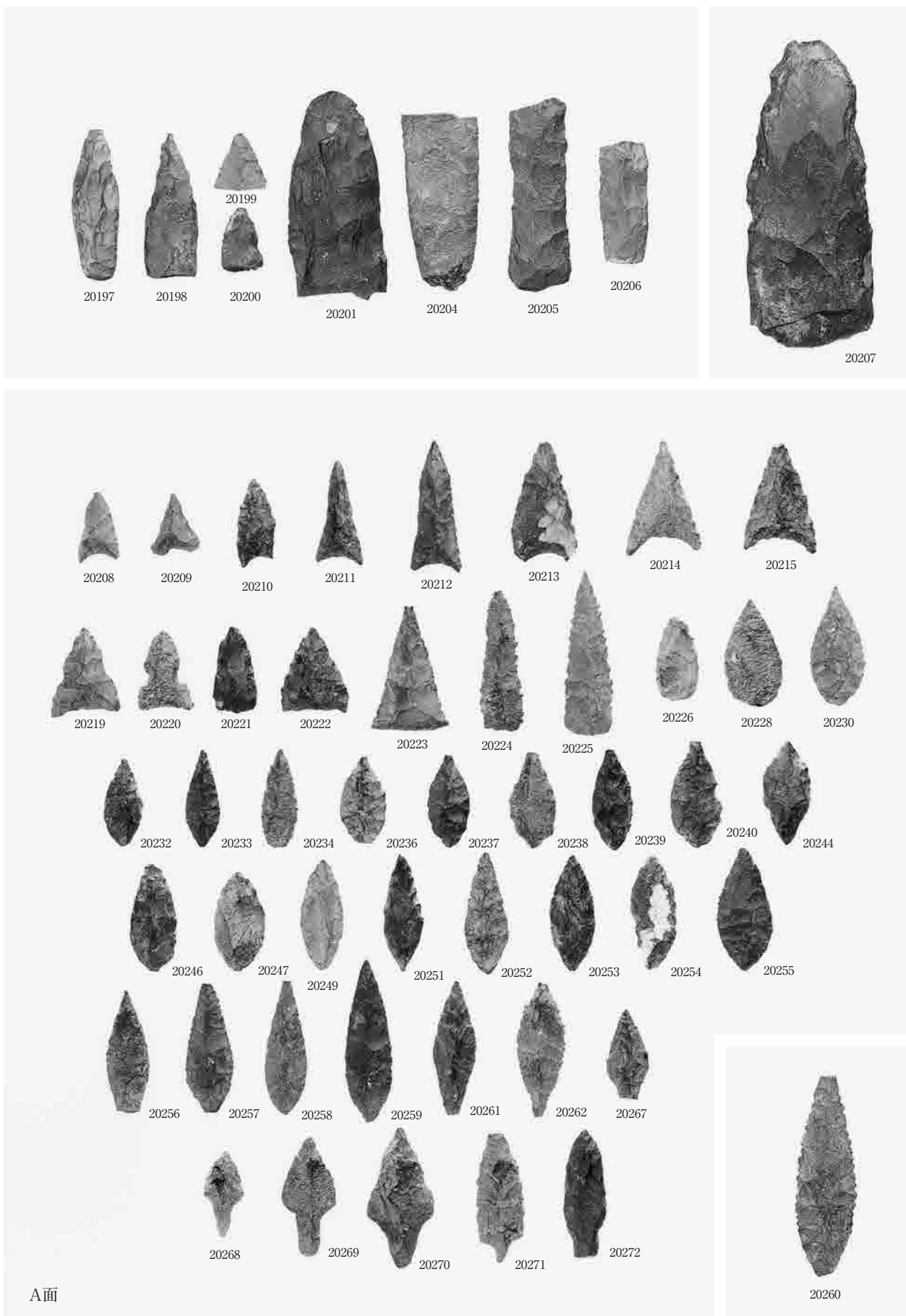
第6面252大溝上層出土遺物



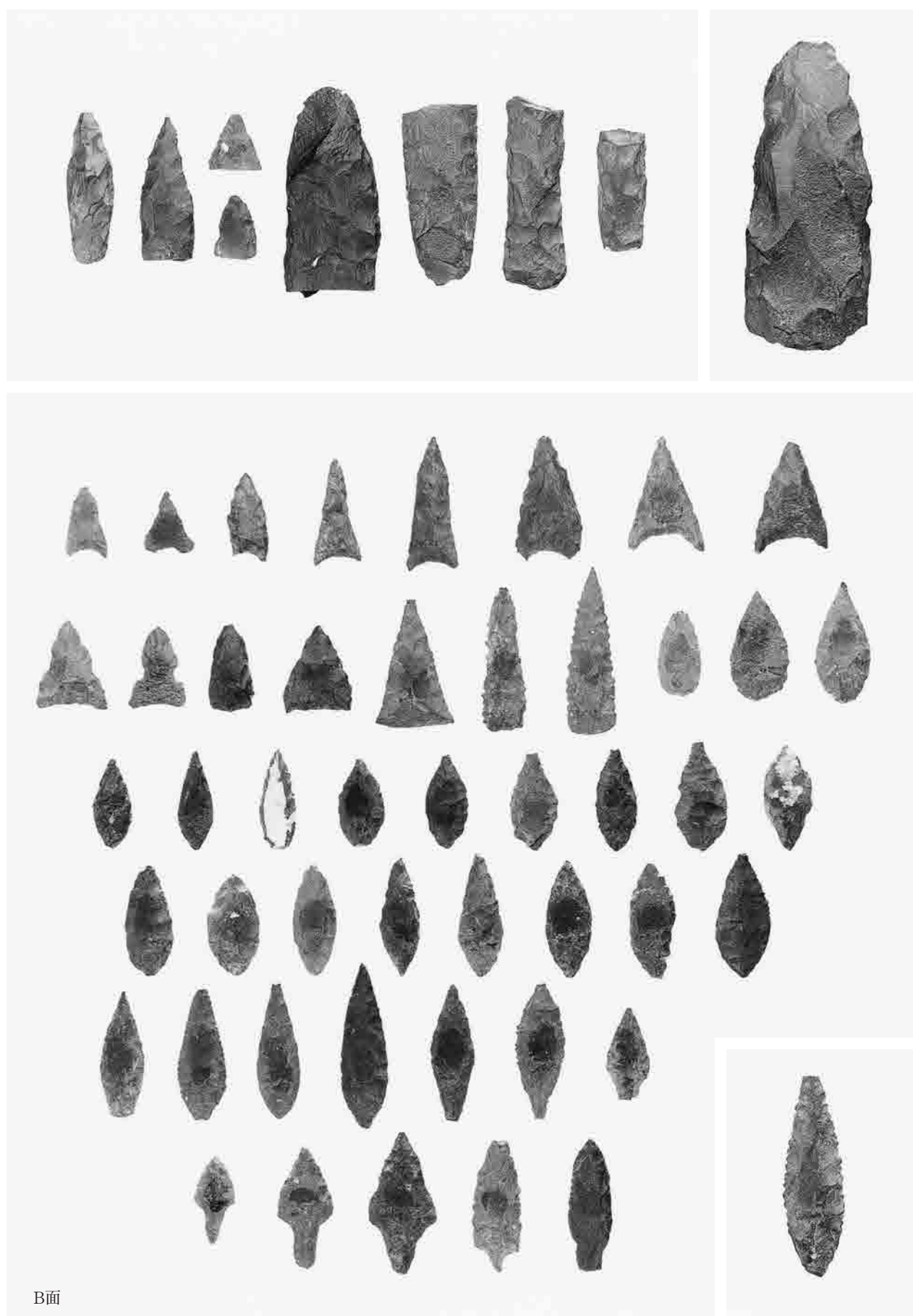
第6面252大溝下層出土遺物(1)



第6面252大溝下層出土遺物(2)

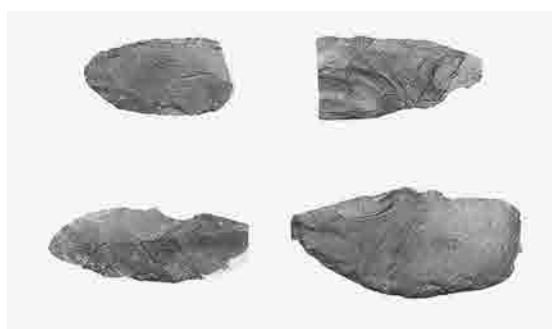
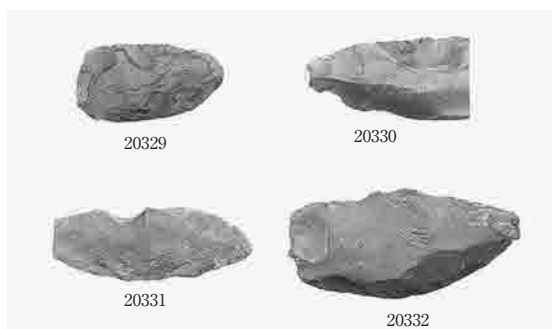
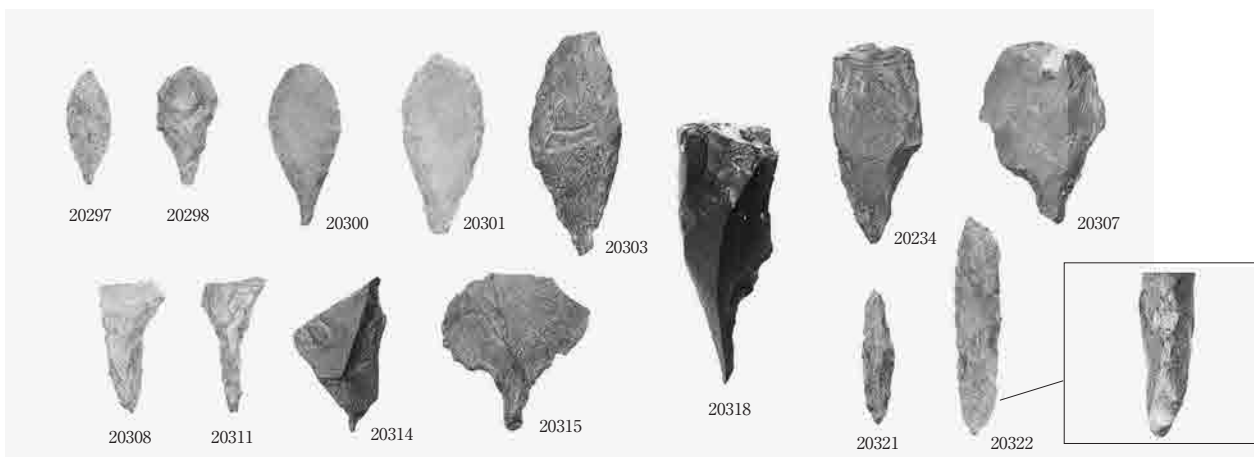


第6面252大溝下層出土遺物 (3)

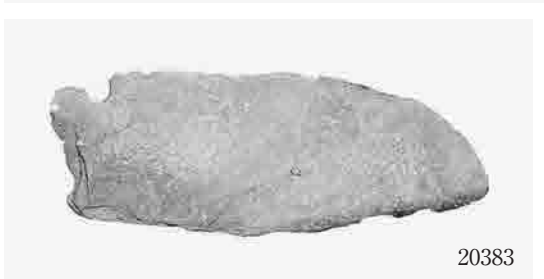
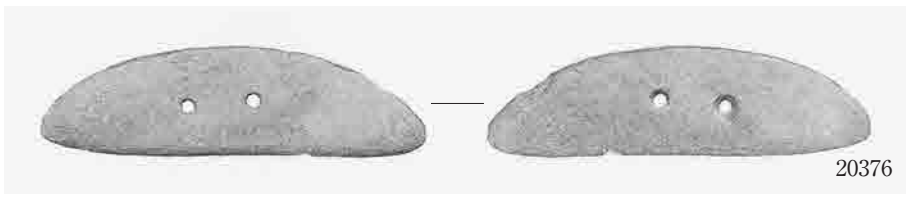
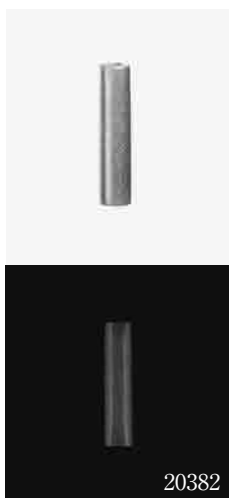


B面

第 6 面 252 大溝下層出土遺物 (4)



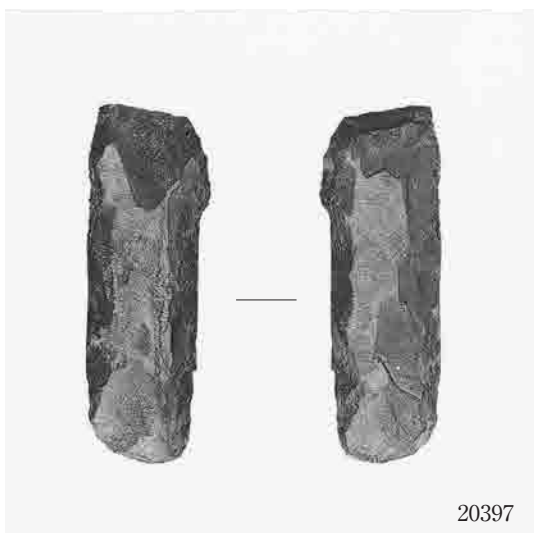
第6面252大溝下層出土遺物 (5)



第6面252大溝北・南法面出土遺物

277木群

278杭群

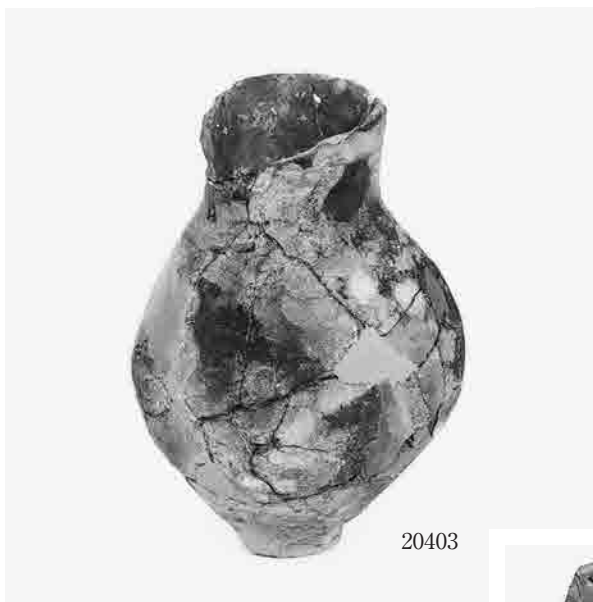


20397

第6面237溝出土石器



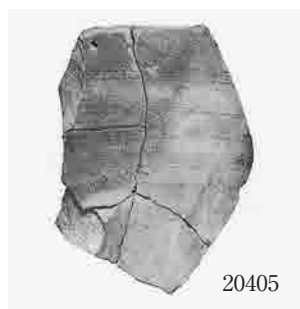
20398



20403



20404



20405



20438



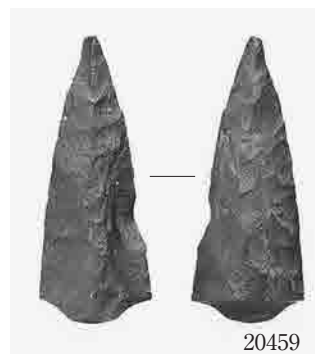
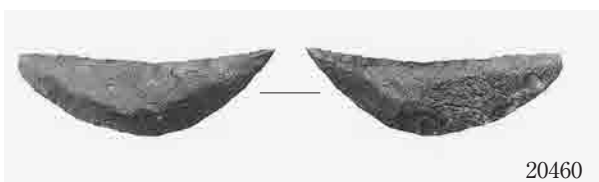
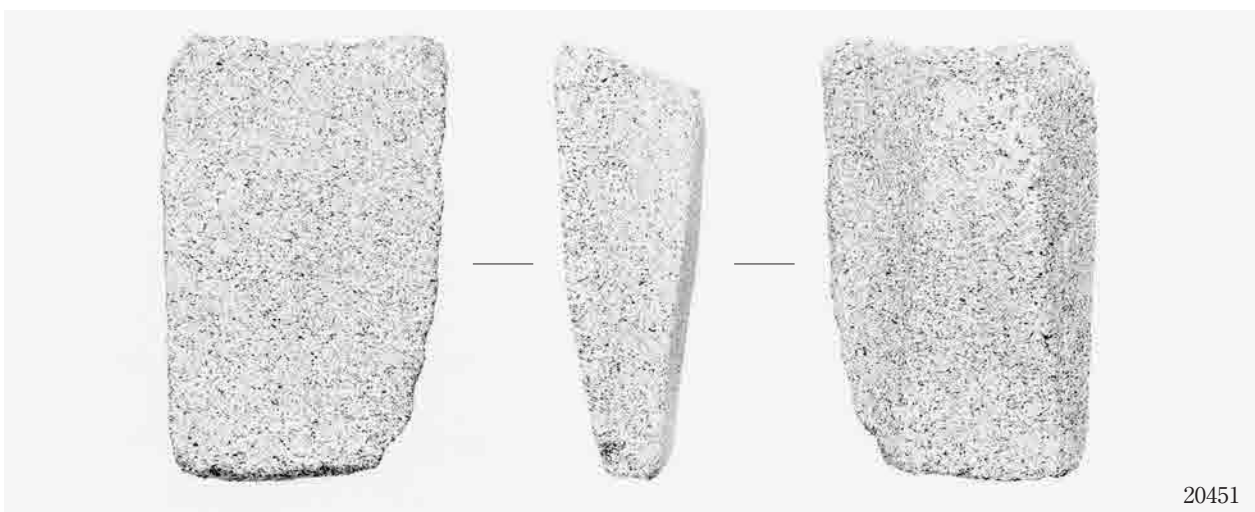
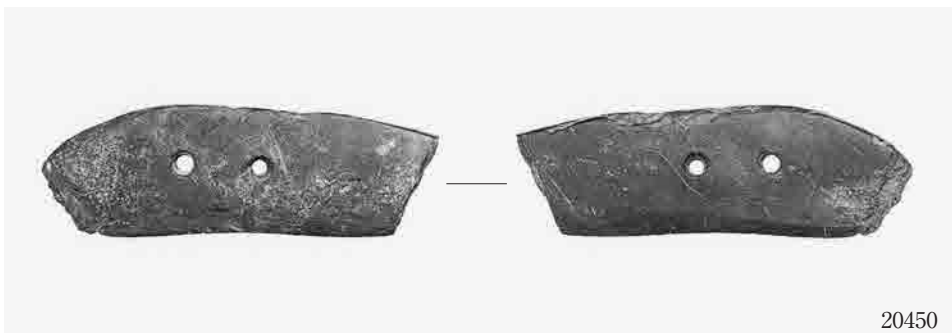
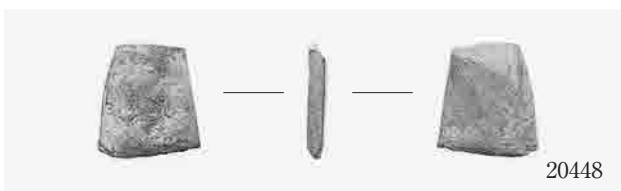
20406

第6面247溝出土土器



20435

第6面250高まり出土土器



第6面高まり出土石器



20471



20462

第7面261溝出土土器



20472



20482



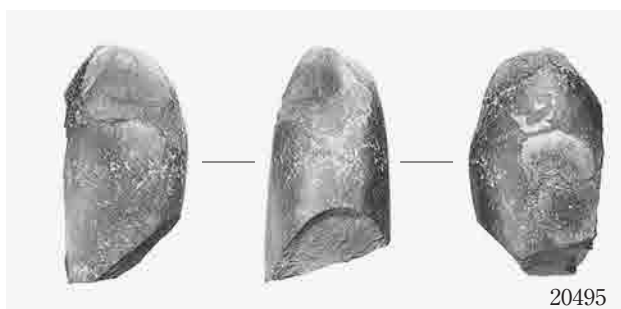
20484



20487



20474



20495



20496

第7面267溝出土遺物



20500



20501



20502

第7面270落ち込み出土土器

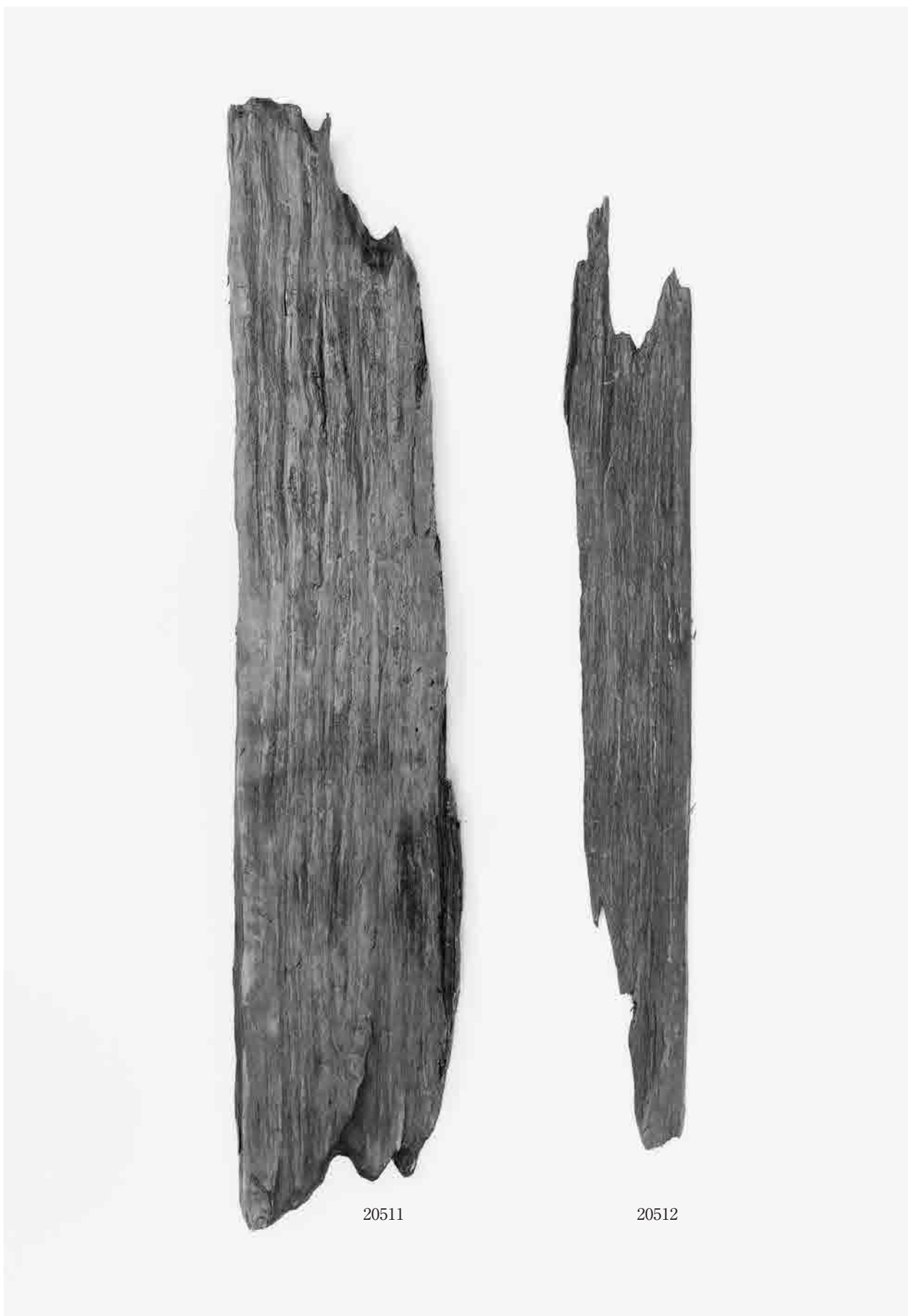


20504



20505

第7面271高まり出土土器



第 8 面323木棺



第 8 面288溝出土土器

20509



第 8 面291土坑出土土器

20513



20516



20520



20523



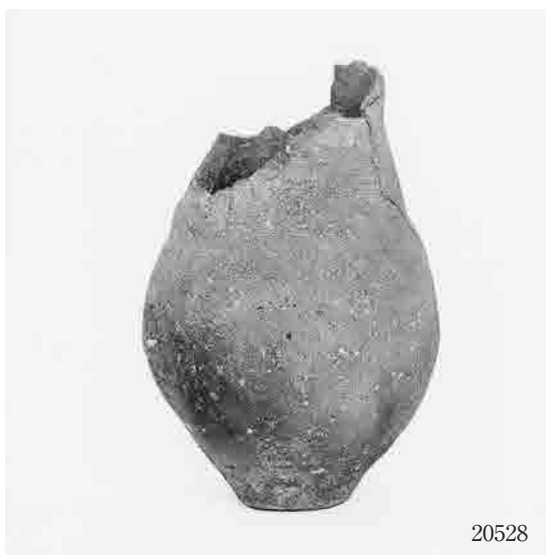
20517

第 8 面300土坑出土土器



20522

第 8 面302土坑出土土器



20528

第 8 面284落ち込み出土土器



20529

第 8 面290落ち込み出土土器



20532



20535



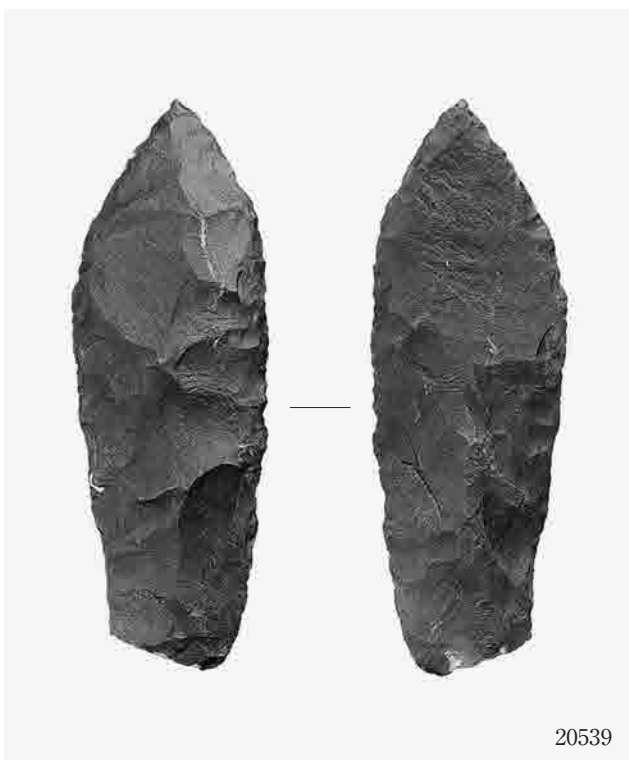
20533

第 8 面294落ち込み出土土器



20538

第 8 面286高まり出土土器



20539

第 8 面 287 高まり出土石器



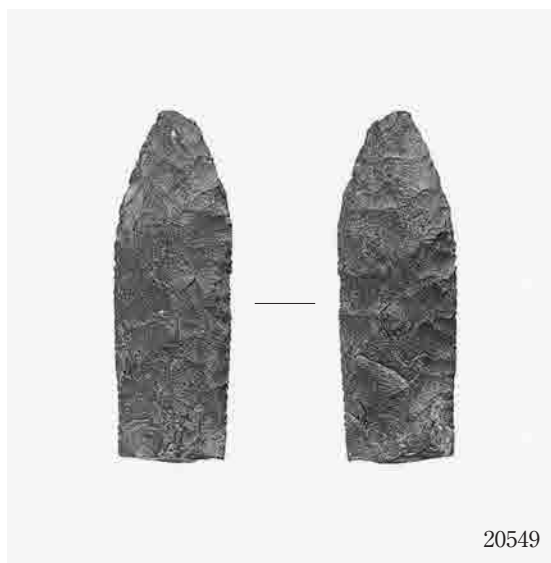
20543



20545



20551



20549



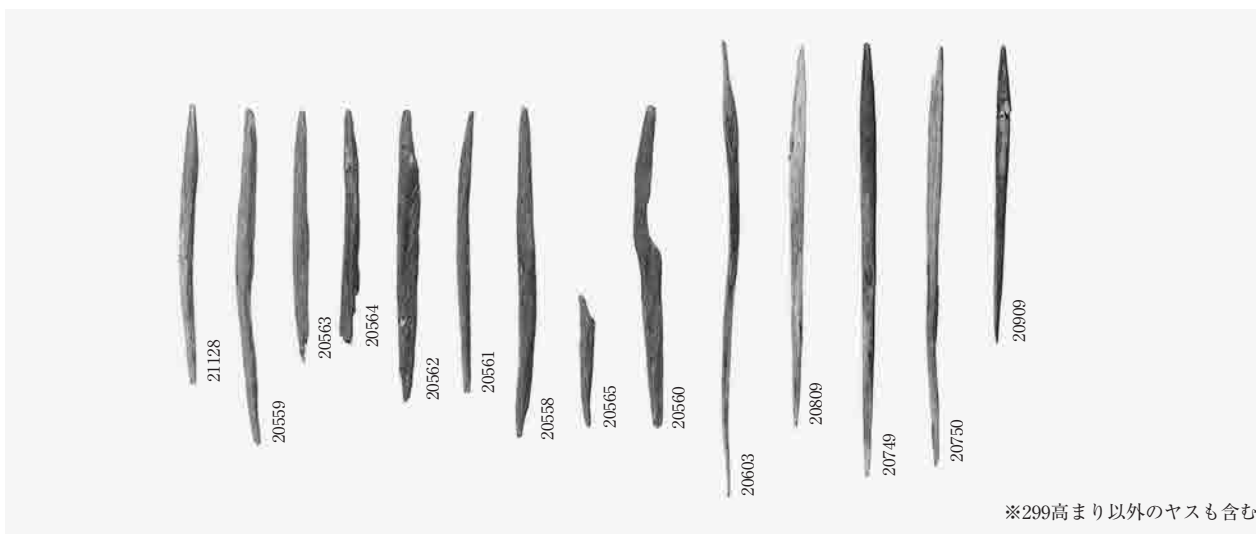
20552

第 8 面 299 高まり出土遺物 (1)



20550

第 8 面 298 高まり出土遺物



※299高まり以外のヤスも含む

第8面299高まり出土遺物 (2)

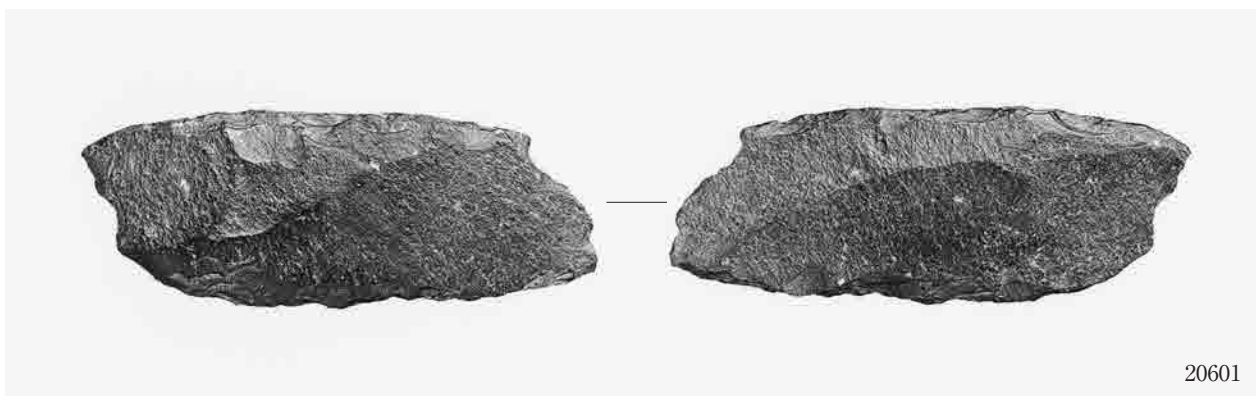
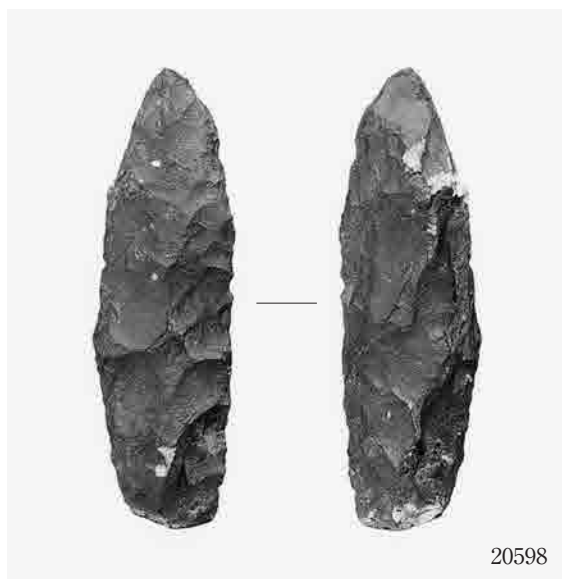
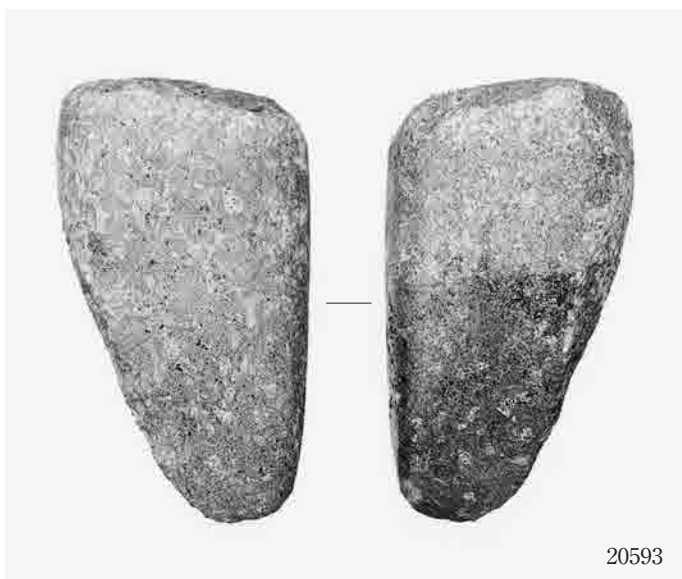


第9面出土土器

第9面330溝出土木器



第9面337溝出土遺物 (1)



第9面337溝出土遺物(2)



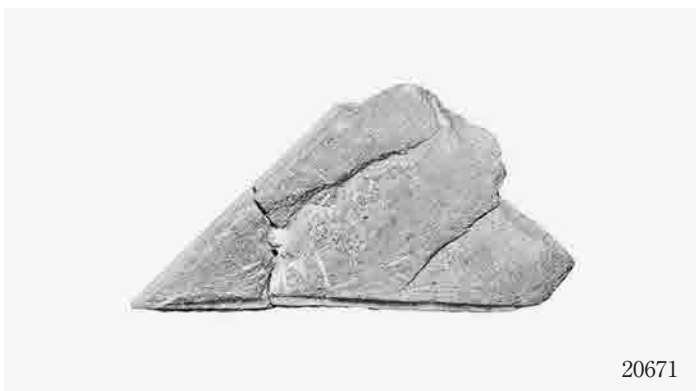
第9面1397溝上半出土遺物(1)



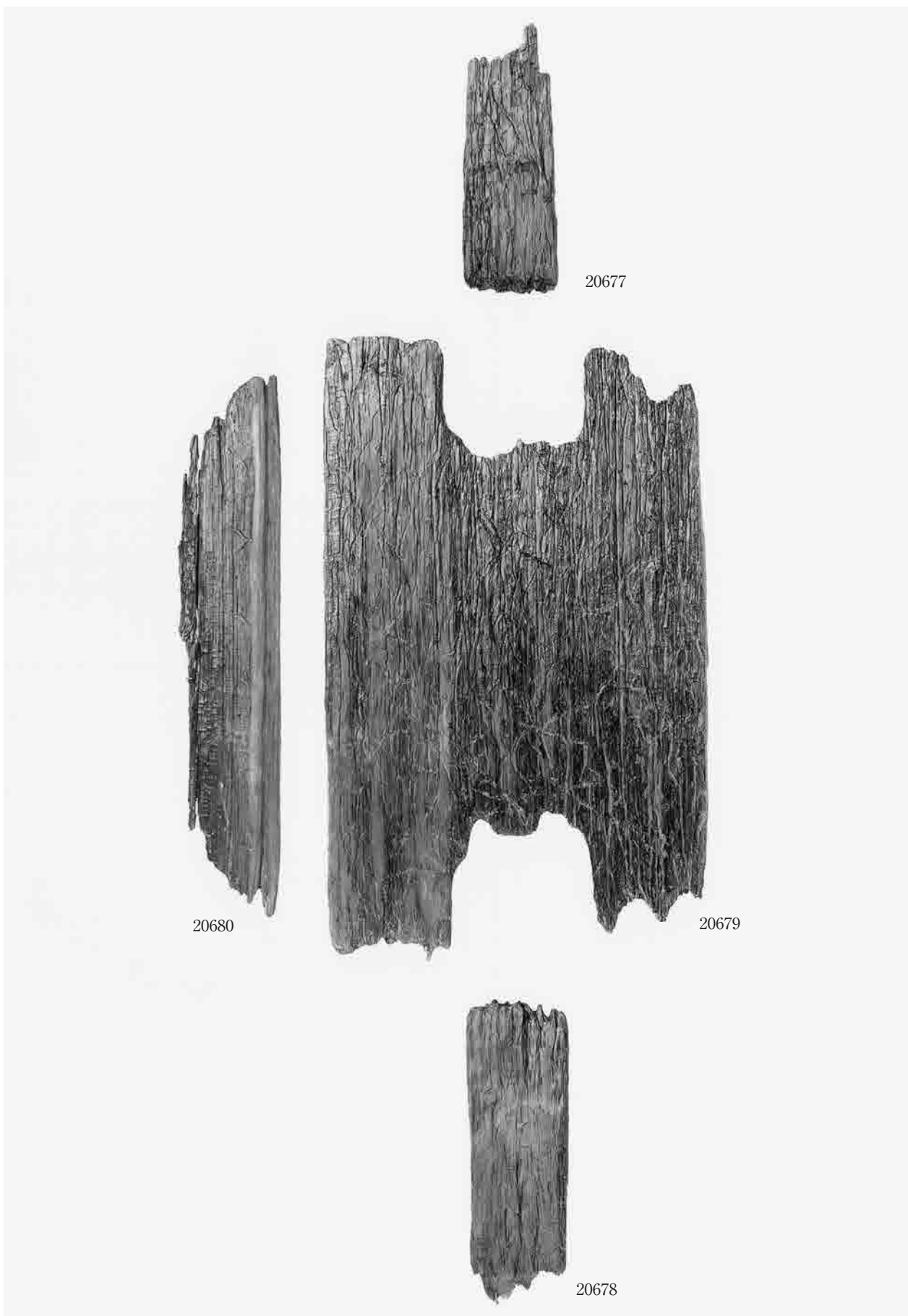
第9面1397溝上半出土遺物(2)



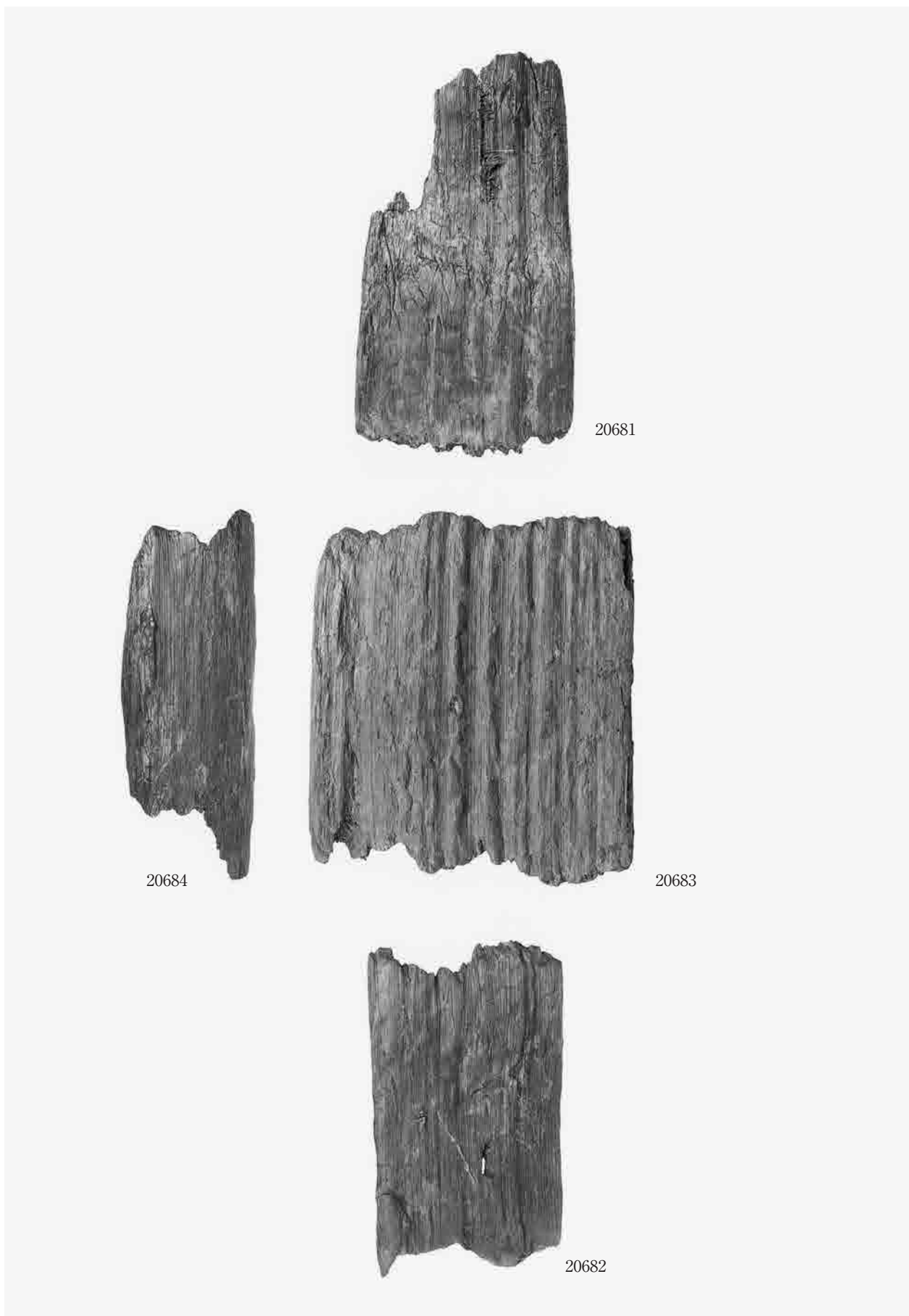
第9面1397溝下半出土遺物(1)



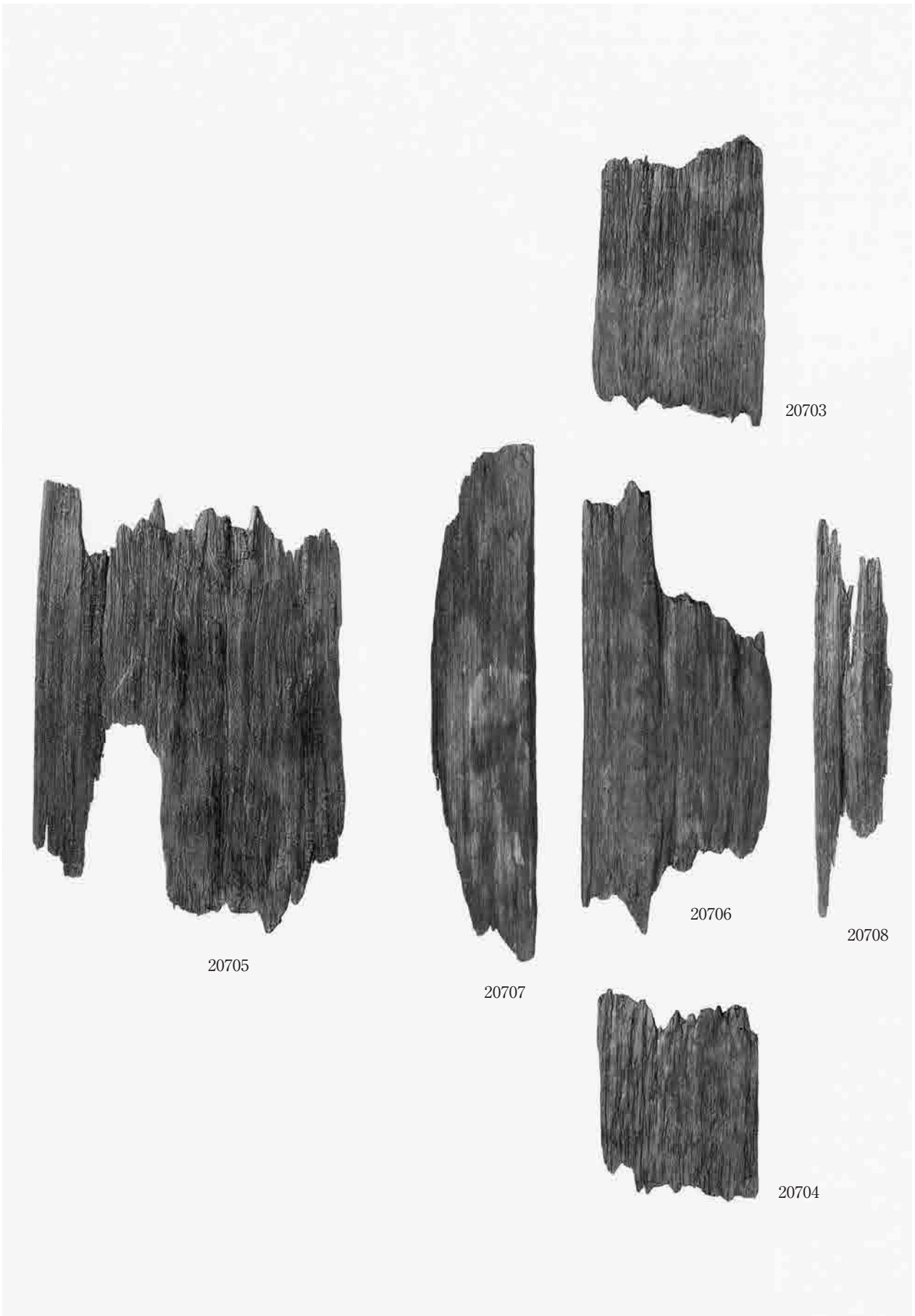
第9面1397溝下半出土遺物(2)



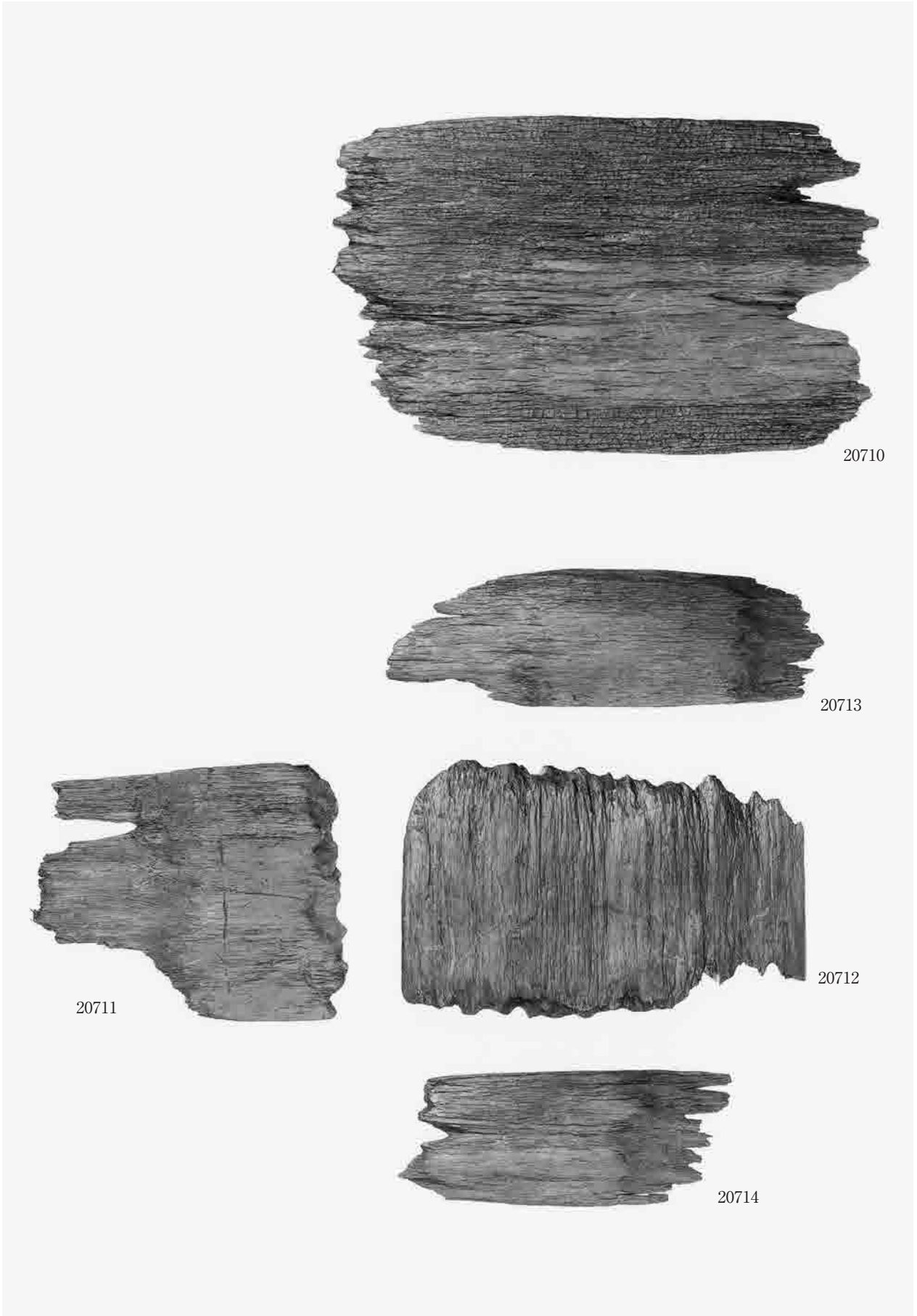
第9面429木棺



第9面421木棺



第9面324木棺



第9面367木棺



20694

第9面338高まり出土土器



20721



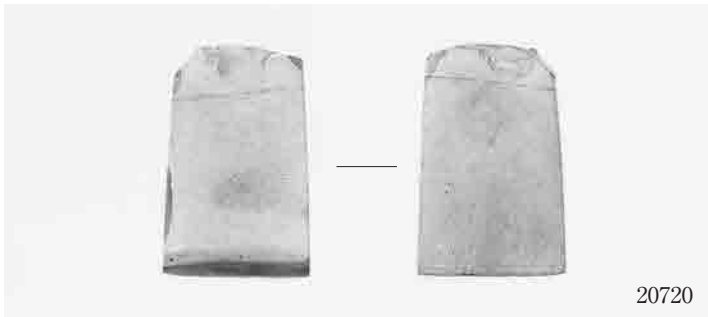
20716



20717



20722



20720



20725

第9面366高まり出土遺物



20727



20731

第9面361落ち込み出土石器



20730

第9面334落ち込み出土土器



20733

第9面368落ち込み出土土器



20732

第9面364落ち込み出土土器

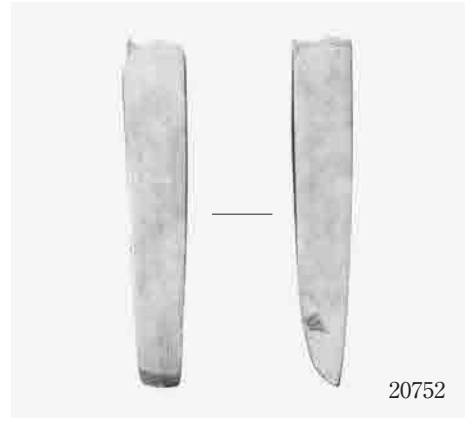


20738

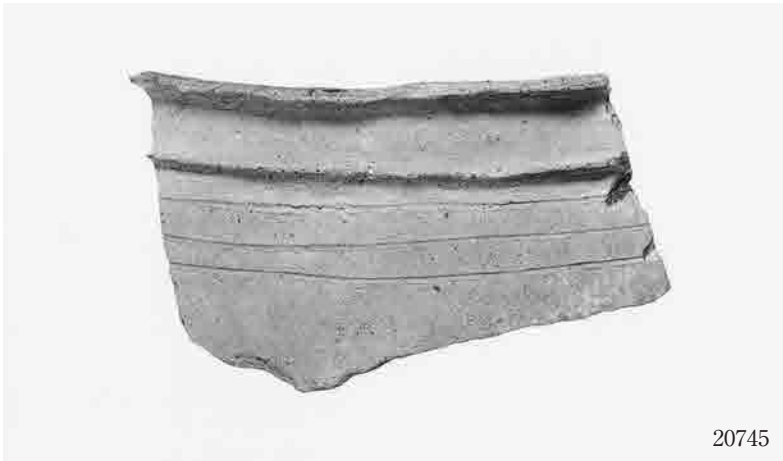
第9面329高まり出土石器



20741



20752



20745



20753



20746

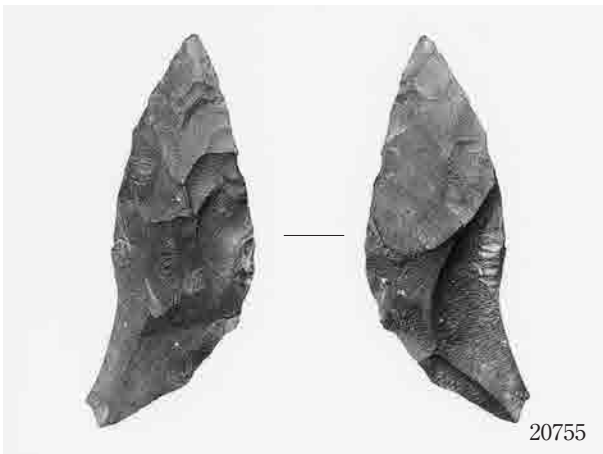


20747

第9面331高まり出土遺物



20756



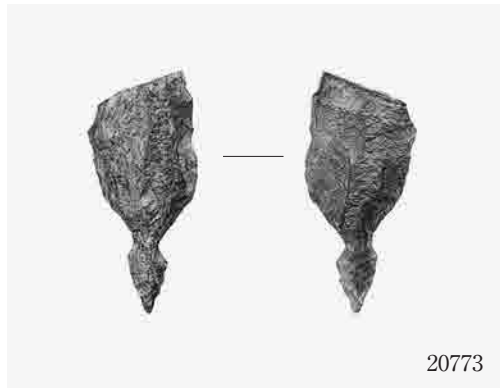
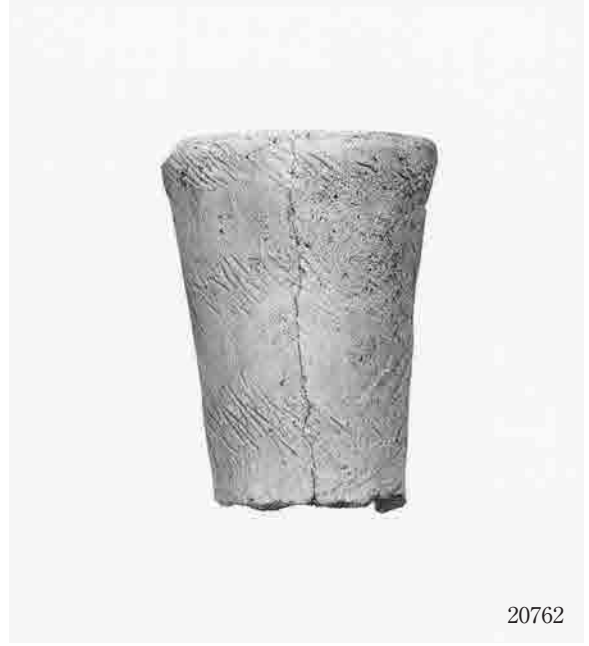
20755

第9面360高まり出土石器

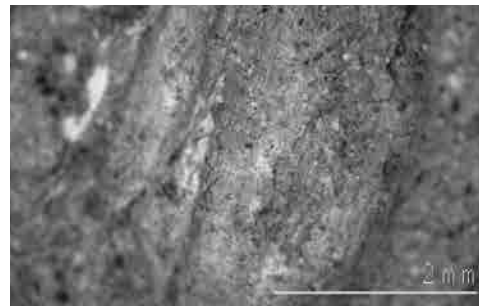
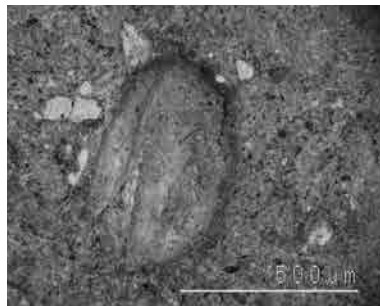
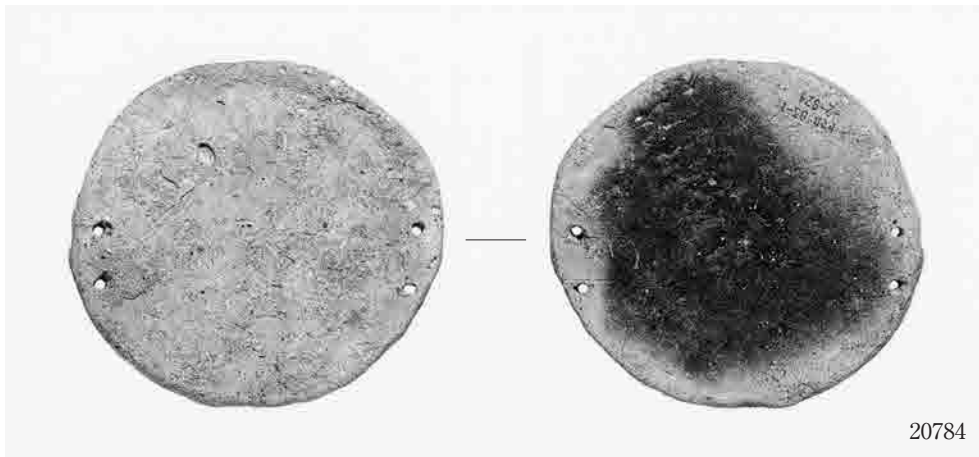


20759

第9面363高まり出土石器



第9層出土遺物



第9 - 2層出土遺物

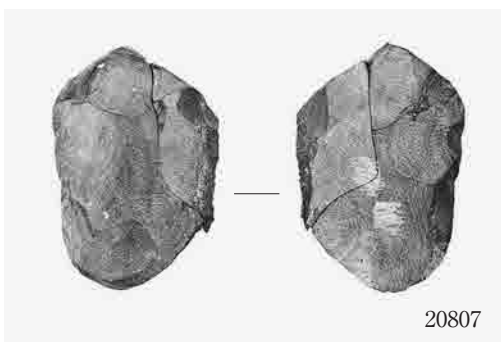


20802

第10面出土土器



20816



20807

第10面441溝出土石器



20819

第10面445溝出土土器



20810



20812

第10面443溝出土土器



20833



20862

第10面543溝出土土器



20836



20871

第10面582溝出土土器



20839

第10面542溝出土土器



20872

第10面1014溝出土木器



20901



20903



20906



20910

第10面442高まり出土遺物



20923



20926

第10層(南)出土土器



20950

第10 - 2面1216土坑出土土器



20968

第10 - 2層出土土器



20964

第10 - 2面1304ピット出土木器



20999

第11面1324土坑出土遺物



21001



21002

第11面1327土坑出土土器



21004

第11面1374土坑出土土器



21008

第11面1040溝状落ち込み出土土器



21012

第11面1043溝状落ち込み出土土器



21021



21030



21022

第11層出土遺物



21068

第11 - 2面1398土坑出土木器



第11 - 2面1400土坑出土遺物 (1)



第11 - 2面1400土坑出土遺物 (2)



第11 - 2面1404土坑出土遺物



第11 - 2層出土遺物



サブトレンチ（6～8層）木器



第12面1406土坑出土遺物



第1面 (西から)



第1面 (東から)



第2面 (西から)



第2面 (東から)



第3面 (西から)



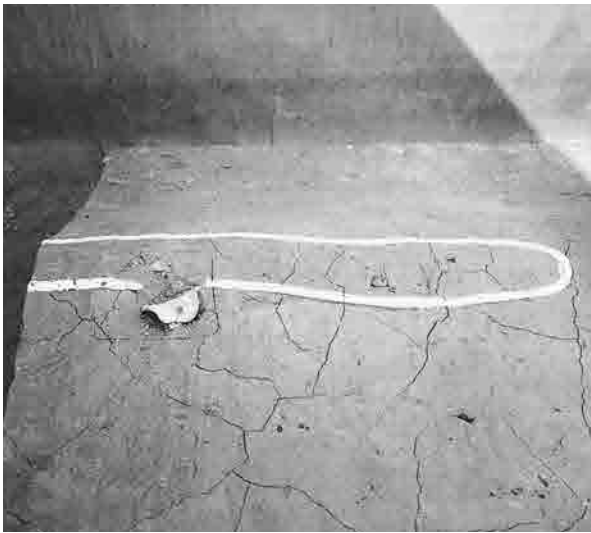
第3面 (東から)



第4面 (西から)



第4面 (東から)



第4面1503畦 (南から)



第4 - 2面350~356畦



第4 - 2面 (西から)



第4 - 2面 (東から)



第5面 (西から)



第5面 (東から)



第5面東部の遺構群 (西南西から)



第5面372溝ほか (北から)



第5面400・401杭 (北西から)



第5面400杭 (北西から)



第5面401杭 (北西から)



第6面（西から）



第6面（東から）



第6面土器（30021）出土状況（南西から）



第6面417高まり掘り下げ（南西から）



第7面（西から）



第7面（東から）



第8面 (西から)



第8面 (東から)



第9面 (西から)



第9面 (東から)



第9面1382溝、1383~1396杭 (北東から)



第9面1383~1390杭 (東北東から)



第9面1391～1396杭（西北西から）



第9面1397溝完掘（北東から）



第9面1383～1385杭（東北東から）



第9面1386杭（南東から）



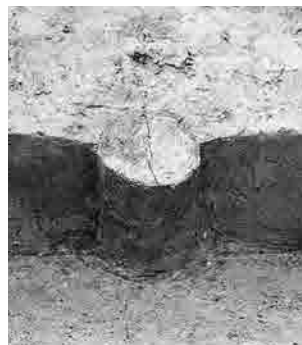
第9面1387杭（南東から）



第9面1388杭（南東から）



第9面1389杭（南東から）



第9面1390杭（南東から）



第9面1392杭（北から）



第9面1393杭（北西から）



第9面1394・1395杭（北西から）



第9面1396杭（北西から）



第10面 (西から)



第10面 (東から)



第11面 (西から)



第11面 (東から)



第11面1421矢板検出 (南西から)



第11面1421矢板断ち割り (東から)



第11面1421矢板断ち割り (南東から)



第11-2面1425ピット (東から)



第12面 (西から)



第12面 (東から)



第13面 (西から)



第13面 (東から)



西辺第0～6層断面（東南東から）



西辺第6～13層断面（南東から）



北辺第6～12層断面（東南東から）



東辺第6～12層断面（南から）



北辺第0～13層断面（南西から）



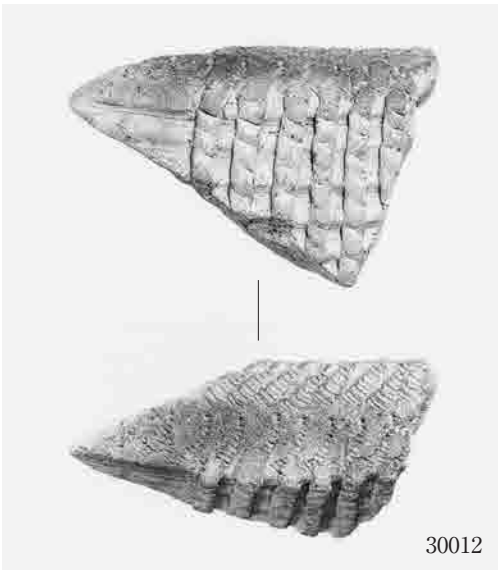
調査終了面（東から）



第4面1503畦出土土器



第4層出土土器



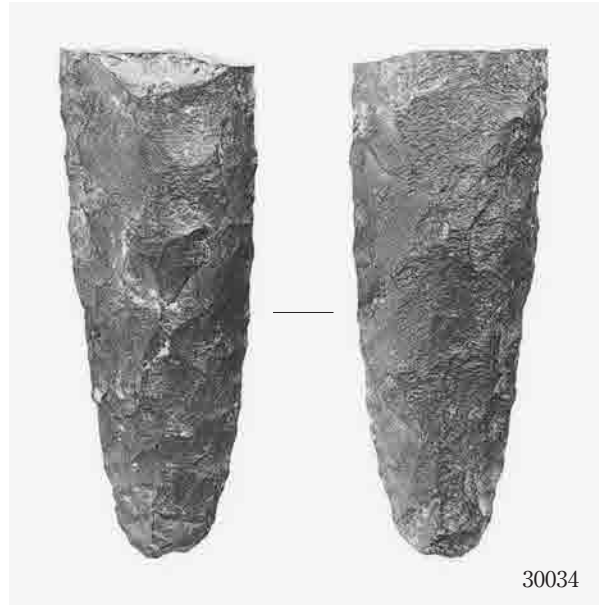
第4-2層出土土器



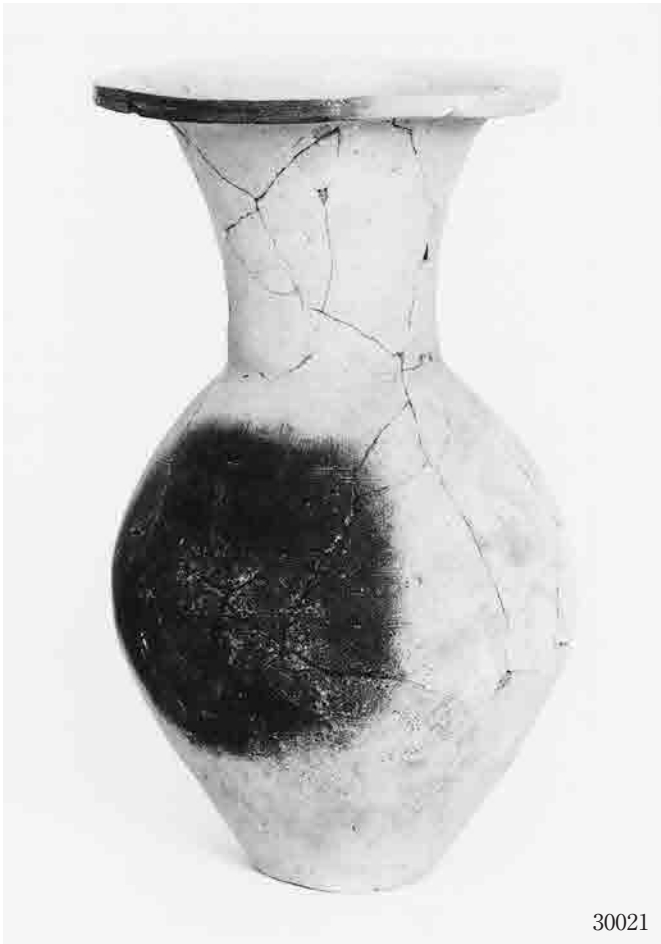
第5面371溝出土土器



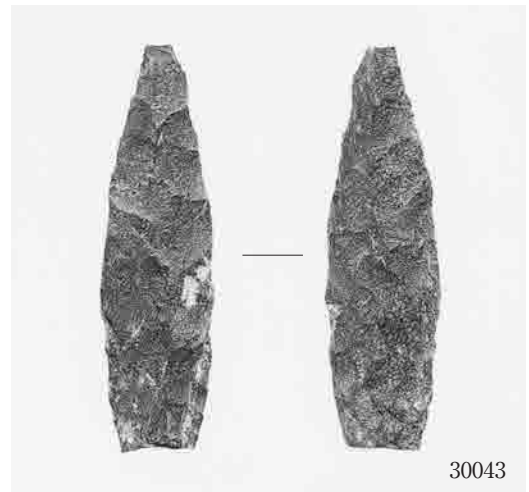
第5面408土坑出土石器



第6面418溝出土遺物



第6面出土土器



第7層出土石器



第8面1316溝出土土器

30046



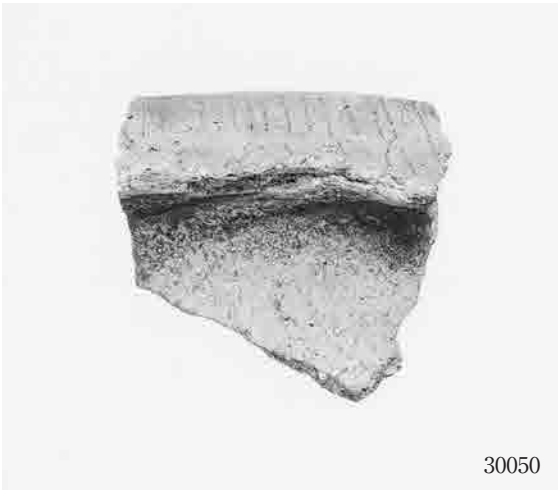
第8面1311高まり出土土器

30048

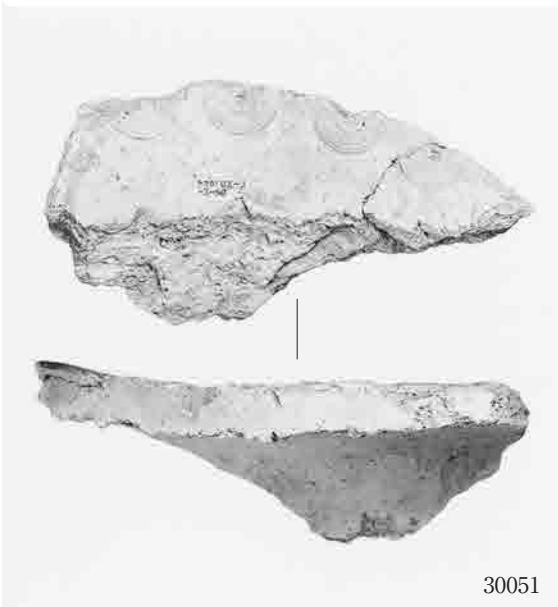


第8層出土土器

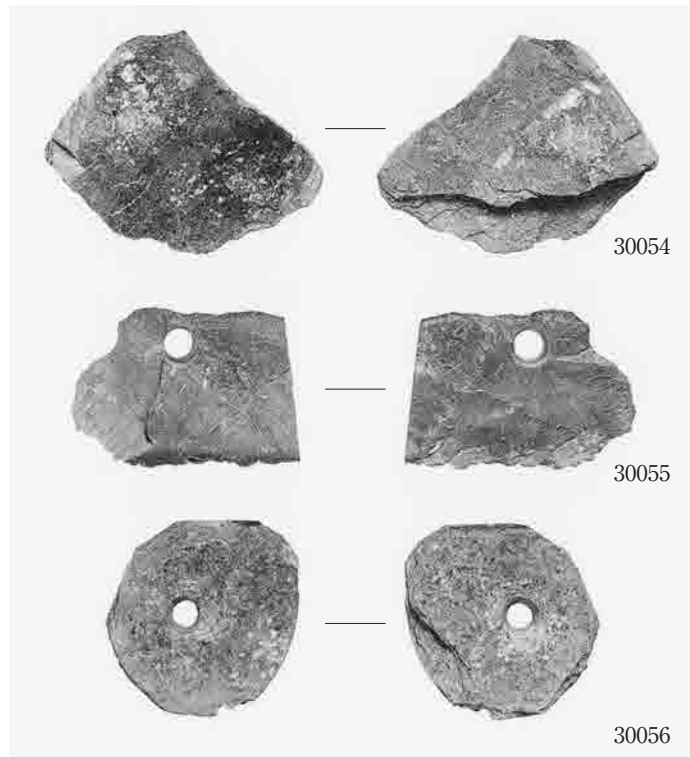
30049



30050



30051



30054

30055

30056

第9面1382溝出土遺物



30062



30063



30064

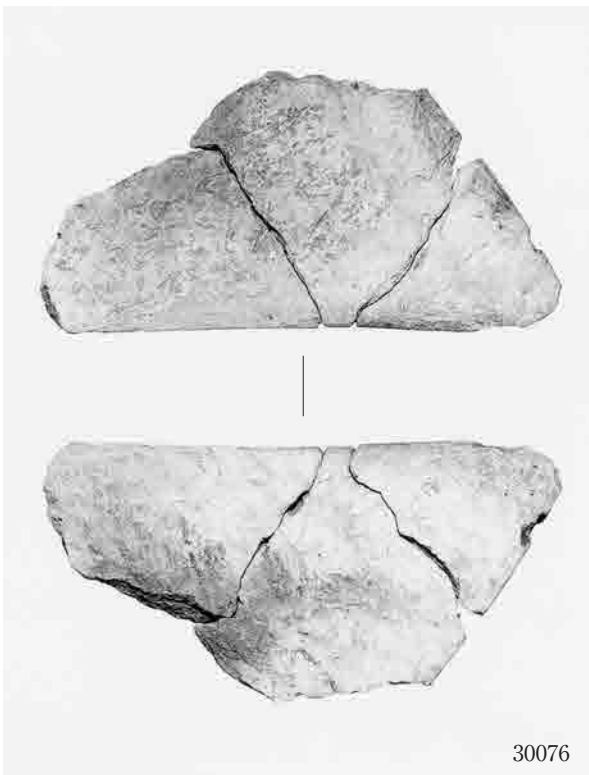
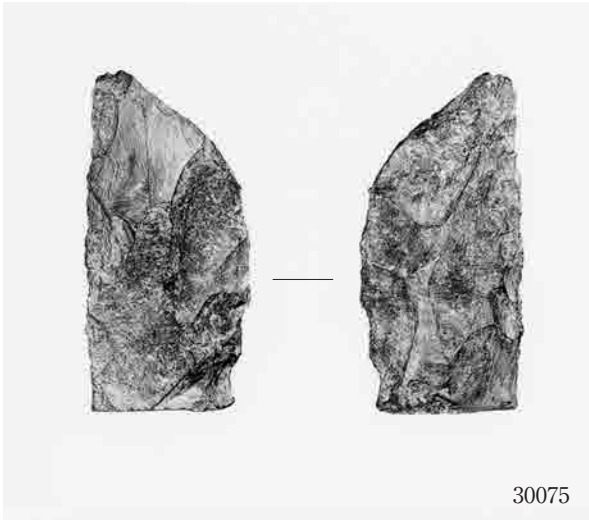


30065



30071

第9面1397溝出土土器



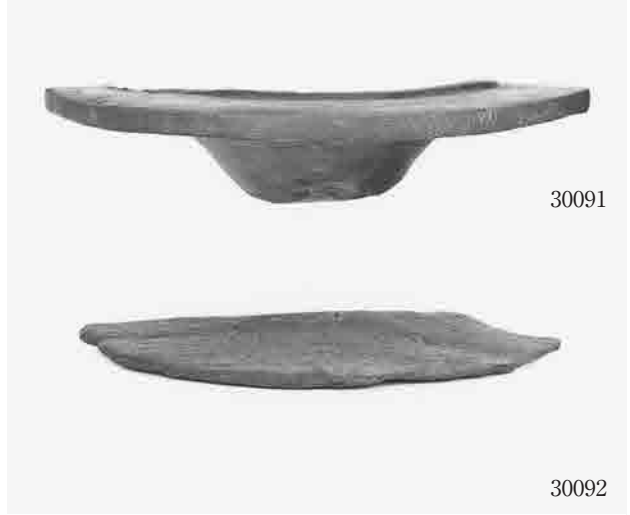
第9面1381高まり出土遺物

第9層出土遺物



30085

第10面1407溝出土土器



30091

30092



30088

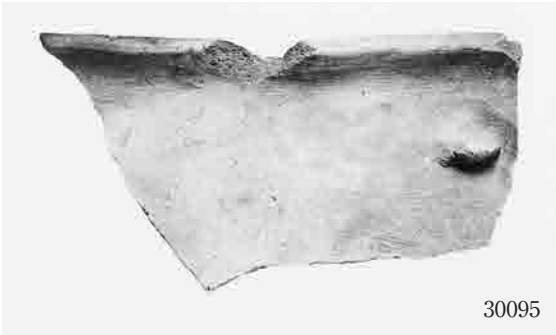


30089



30090

第10面1409溝出土遺物



30095

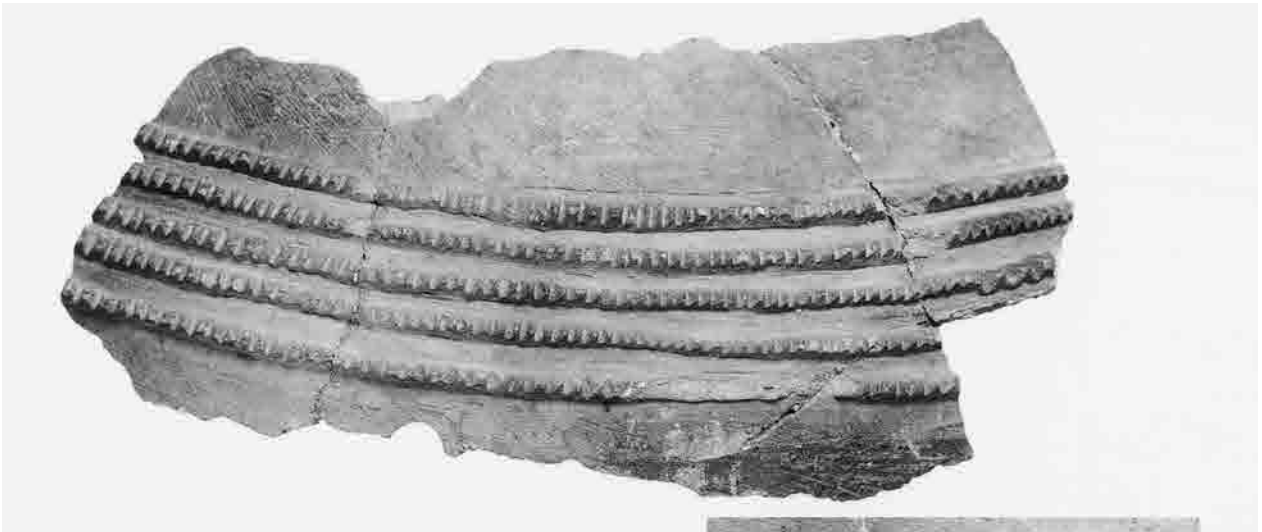


30097

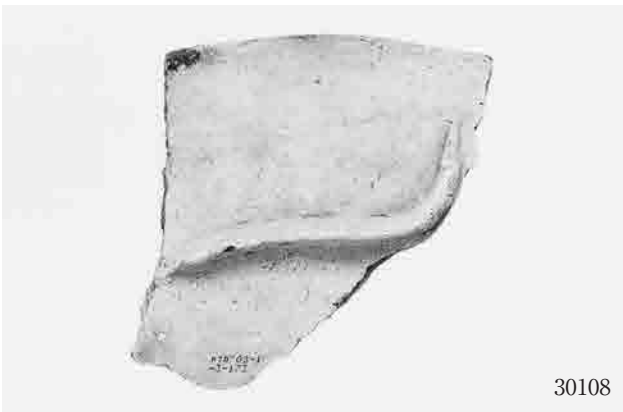


30096

第10面1414溝出土土器



第10面1420溝出土土器



30108



30103

第10面1408高まり出土土器



第10面1411土坑出土土器



第10面1410高まり出土土器



第10層出土石器



30133



30135



30137



30142



30139



30140



30141



30145

第11層出土遺物



30147



30148



30152



30151



30154



30163



30166

第13層出土土器



第1面 (北から)



第1面 (南から)



第2面 (北から)



第2面 (南から)



第3面 (北から)



第3面 (南から)



第4面 (北から)



第4面 (南から)



第5面 (北から)



第5面 (南から)



第6面 (北から)



第6面 (南から)



第7面 (北から)



第7面 (南から)



第8面 (北から)



第8面 (南から)



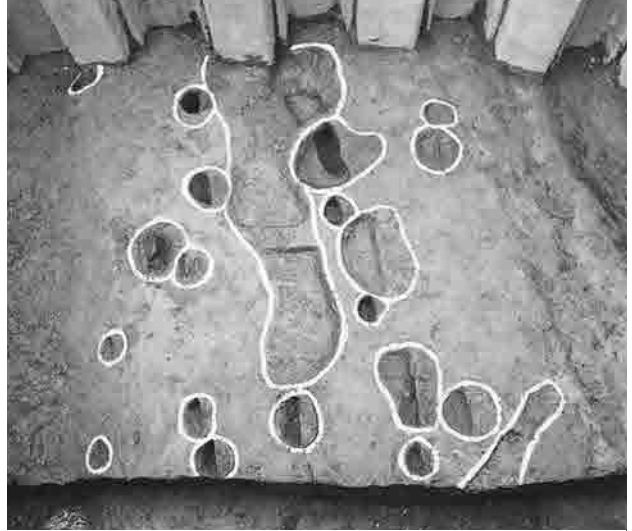
第9面 (北から)



第9面 (南から)



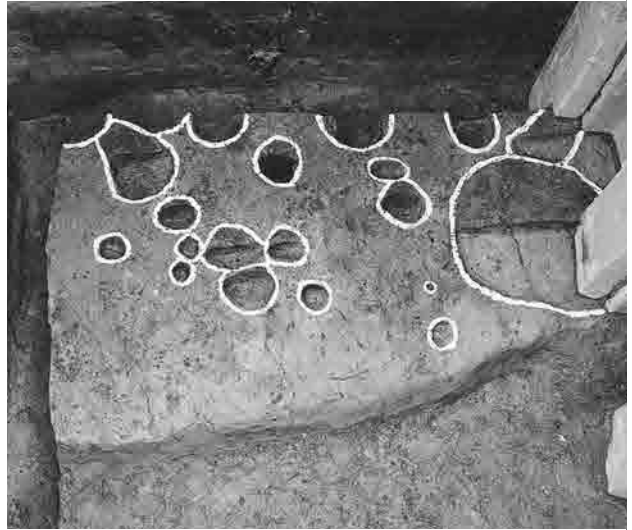
第10面2014高まり上遺構検出（東上方から）



第10面2014高まり上遺構掘削（東上方から）



第10面2015高まり上遺構検出（北上方から）



第10面2015高まり上遺構掘削（北上方から）



第10面（北から）



第10面（南から）



第10面セクションベルト上追加調査（北北西から）



第11面石周辺断ち割り（南から）



第11面（北から）



第11面（南から）



第11-2面（北から）



第11-3面（北から）



東辺第0～4層断面(北西から)



南辺第0～4層断面(北から)



東辺第4～11層断面(北西から)



南辺第4～11層断面(北から)



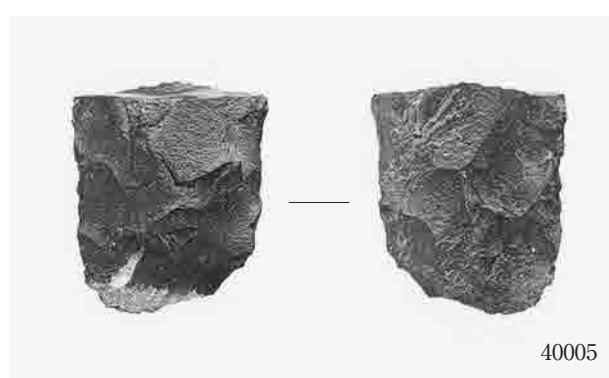
東辺第11～11-3層断面(北西から)



南辺第11～11-3層断面(北から)



40003

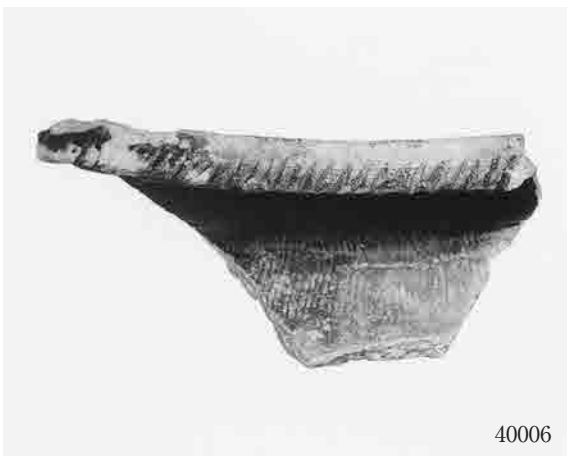


40005



40004

第6面2002溝出土遺物



40006



40016



40019

第6面2004溝出土遺物



40020



40021

第6面2003高まり出土石器



40023

第7面2007高まり出土石器



40026



40027

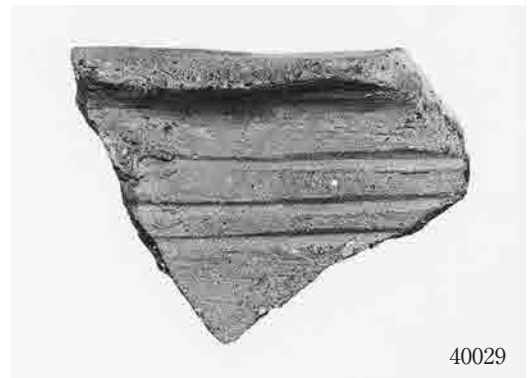


40024

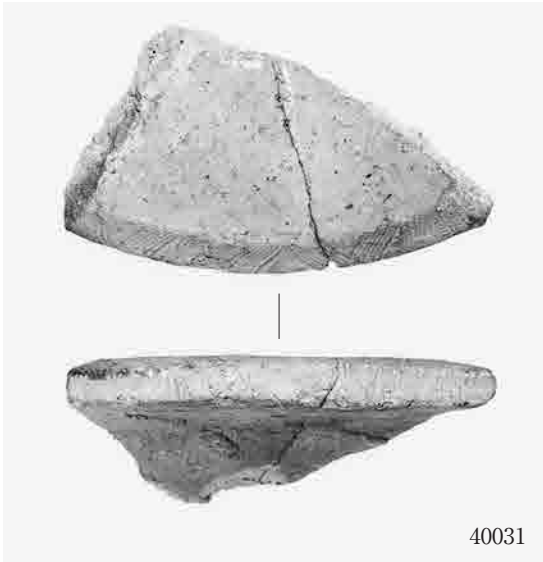
第9面2010溝出土土器



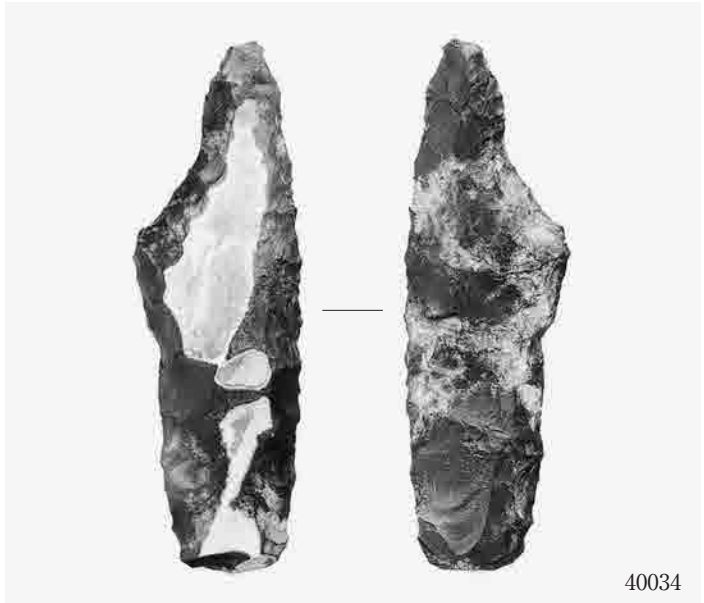
40028



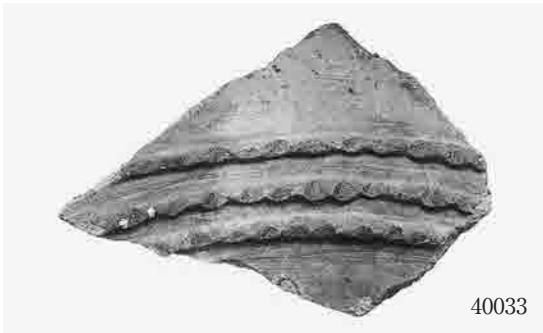
40029



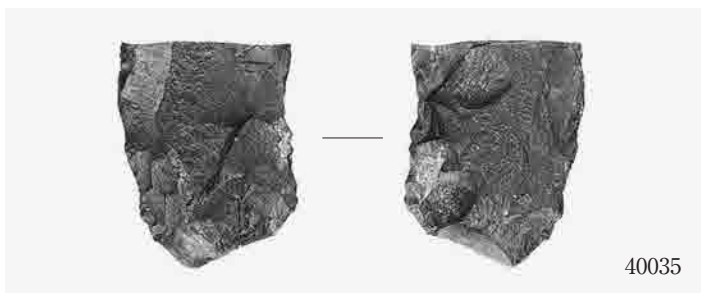
40031



40034

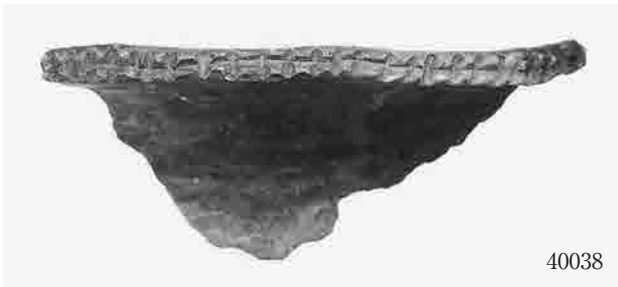


40033



40035

第9面2011高まり出土遺物



40038



40039



40040

第10面2014高まり出土土器



40047

第11層出土土器



第1面 (北西から)



第1面 (南東から)



第1面2078井戸井戸側内半掘 (南から)



第1面2078井戸井戸側外面 (南から)



第1面2078井戸井戸側内完掘 (南から)



50001



50010

第1面2078井戸井戸瓦



第2面 (北西から)



第2面 (南東から)



第2面2080~2083ピット半掘 (南から)



中央部北東辺断面 (南西から)



調査終了面 (北西から)



調査終了面 (南東から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	やまがいせき							
書 名	山賀遺跡							
副 書 名	寝屋川水系改良工事（一級河川寝屋川 新家調節池）に伴う発掘調査報告書							
巻 次								
シリーズ名	（財）大阪府文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第163集							
編著者名	本間元樹 向井妙 パリノ・サーヴェイ 遺物材料研究所 船築紀子 藁科哲男 安部みき子 岩立美香 光谷拓実 山口誠治 森田拓馬							
編集機関	財団法人 大阪府文化財センター							
所在地	〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号 Tel.072(299)8791							
発行年月日	2007年9月28日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
やまがいせき 山賀遺跡	おおさか府 やまし 大阪府八尾市 しんけいちょう5ちようめ 新家町5丁目	27212	32	34° 38' 59"	135° 35' 55"	2004. 1. 30 ～ 2007. 6. 29	2920. 8㎡	寝屋川水系改良 工事（一級河川 寝屋川 新家調 節池）
所 収 遺 跡 名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
山賀遺跡	生産	平安時代	溝	須恵器 土師器		弥生時代前期～中期の溝群 と20基近くの小型木棺墓を検 出 弥生時代前期の類例のない 「垂飾」形木製品が出土		
		古墳時代後期	土坑 溝	須恵器 土師器				
		弥生時代後期	水田	弥生土器				
	集落 墓 生産	弥生時代前期～ 中期	溝 木棺墓 土坑 ピット	弥生土器 石器 木器 骨・歯 植物遺体				
		縄文時代後期		宮滝式土器				
要 約	山賀遺跡		<p>今回の発掘調査では、5つの調査区において、奈良・平安時代（第1面）、古墳時代後期（第2・3面）、弥生時代後期（第4・5面）、弥生時代中期前半～前期後半（第6～10面）、弥生時代前期（第11～13面）、さらに下層の縄文時代後期の遺物包含層まで10数面を調査した。検出遺構数は1520以上、出土遺物は土器、石器、木製品など約700コンテナに及ぶ。</p> <p>盛行期は、弥生時代前期後半～中期初頭で、平行して西南西～東北東にはしる堤を伴う溝群、溝間の堤などに築かれた19基の木棺墓、多くの土坑とピットなどを検出した。</p> <p>遺物では、例のない弥生時代前期後半の「垂飾」形木製品が目される。弥生土器、石器、木器にも優品が多い。</p>					

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第163集

山 賀 遺 跡

—分析・観察表・写真図版編—

寝屋川水系改良工事（一級河川寝屋川 新家調節池）に伴う発掘調査報告書

発行年月日／2007年 9月28日

編集・発行／財団法人 大阪府文化財センター
大阪府堺市南区竹城台 3丁21番 4号

印刷・製本／株式会社 中島弘文堂印刷所
大阪府大阪市東成区深江南 2丁目 6番 8号